

SYLLABUS

シラバス

— 履修の手引 —

2016 (平成28年度)



神戸薬科大学

Kobe Pharmaceutical University

▶ 掲示板について

学生への通知や連絡事項はすべて掲示によって行う

- ◎ 公示、告示、修学上必要な事項（休講・補講・時間割変更・教室変更・連絡事項）の伝達などはすべて所定の掲示板（4号館ピロティ、その他センターからの案内については3号館1階）に掲示する。
- ◎ 学生が掲示を見なかったことによって生じる不利益はすべて学生自身の責任になるので、登下校の際には必ず掲示板を見ることを習慣づけること。

▶ 気象警報・交通機関ストライキの場合の措置について

- JR西日本又は阪急・阪神電鉄のいずれか運休の場合
- 神戸市に特別警報・緊急地震速報（警報）（震度6弱以上）・暴風警報が発令された場合

<措置について>

- ① 午前7時の時点で解除されている場合は、平常どおり授業、試験を実施する。
- ② 午前7時から午前10時までに解除された場合は、3時限から授業を実施する。試験は午後からの試験を実施する。
- ③ 午前10時を過ぎても解除されない場合は、全日休講、試験は中止となる。

▶ 教務課事務取扱受付時間

平 日 / 9:00～17:00（時間外の受付はできません。）

土・日・祝祭日 / 休業（その他、休業の場合は掲示で知らせる。）

神戸薬科大学の理念

社会に大きく開かれた大学であることを意識し、創立以来の伝統である教育と研究の両立を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身につけた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること、さらに地域の医療と環境問題に目を向けて健康の維持・増進にも貢献できる拠点となること

神戸薬科大学の教育目標

1. 社会に貢献できる高度な薬学の知識と技能の修得
2. 医療人としての使命感と倫理観の修得
3. 科学的思考力及び問題の主体的解決能力の修得
4. これからの医療と環境を正しく理解し、健康の増進に貢献できる知識の修得

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

神戸薬科大学の理念を実現し、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識と科学的思考力を身につけ、広く薬学の分野で貢献できる有意な人材を育成するために、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学独自の科目を適切に配置したカリキュラムを編成し、次のように実施します。

1. 教養教育科目、基礎教育科目を充実し、基礎力と幅広い視野の育成を図ります。
2. 教養教育科目の外国語に加え、医療英語、薬学英語に係る科目を充実し、海外研修等を通じて国際化に対応できる人材の養成を図ります。
3. 5年次の病院実習、薬局実習を含めて専門教育科目を充実し、薬の専門家としての基礎力の育成を図ります。
4. 低学年からの実習・演習、卒業研究やスモールグループディスカッション形式の授業を通して、科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力及びコミュニケーションスキルの育成を図ります。
5. ヒューマニズムに関する科目を充実し、近隣大学や地域の医療機関との連携に基づくチーム医療教育を通して、医療人としての倫理観と使命感の育成を図ります。
6. 生涯研修支援事業に参加することによって、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲を醸成します。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

所定の単位を修得し、薬剤師に必要な以下に掲げる知識、技能、態度を備えた学生の卒業を認め、「学士(薬学)」の学位を授与する。

1. 医療を担う薬の専門家として相応しい薬学に関する十分な知識、技能を有すること。
2. 薬学・医療の進歩と改善に貢献できる科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力を有すること。
3. 医療人として相応しい倫理観と使命感を有し、患者や生活者の立場に立って行動できること。
4. 医療人に必要なコミュニケーション力を有すること。
5. 医療人としての活動に必要な英語力を有し、グローバル化に対応した国際感覚を有すること。
6. 地域の医療、環境衛生に貢献できる幅広い知識と見識を有すること。
7. 生涯にわたって自己研鑽をし続ける能力と意欲を有すること。

■ 学生のみなさんへ ■

薬剤師養成のための臨床に係る実践的能力を培うことを主たる目的として薬学教育は平成18年より6年制となりました。学生のみなさんには医療分野の急速な進歩や医薬品の適正使用に対応した幅広い学識と生命に関わる職業人になることを自覚した行動・態度が求められています。そのため本学のカリキュラムでは、高度な知識・技能の修得を目指した薬学専門教育科目はもちろんのこと、国際化に対応した英語力の修得を重視した教育、教養科目やディスカッション能力の向上をめざした少人数グループによる演習科目と盛り沢山の内容となっています。さらに、研究室での卒業研究を通じて問題発見・解決型の薬剤師養成をめざしています。

薬学部のカリキュラムは、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」、「実務実習モデル・コアカリキュラム」に準拠することが6年制スタート時に求められるようになりました。これらは、平成15年に制定されたもので、10年以上経過し、医療現場の進歩などを考慮して見直しがなされました。平成27年4月の入学生からこれらを統合した「改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」に基づいたカリキュラムがスタートしました。低学年のカリキュラムに大きな変更はありませんが、コアがスリム化され、独自科目が増えるとともに、薬剤師としての「A 基本事項」、「B 薬学と社会」の項目の充実が求められています。また、実務実習については大幅な変更が予定されています。

1年次前期では、薬学入門や早期体験学習、基礎生命科学、物理学、数学、基礎化学、情報リテラシーなどの基礎教育科目や英語などの教養教育科目から授業は始まります。続く学年では薬学基礎、衛生薬学、医療薬学、薬学臨床に関する専門科目とともにA、Bの充実に対応した医療コミュニケーションや医療倫理に関する科目も新設されています。

6年制薬学教育では、長期実務実習が必修となりますが、この実習は学内での1か月の実務実習事前教育と各11週間の病院実習、薬局実習から構成されています。病院実習、薬局実習受講前の4年次後半には、全国規模の薬学共用試験(CBT、OSCE)が実施され、病院実習、薬局実習を受講するのにふさわしい知識・技能・態度が備わっているかが試験されます。また、高学年では、全員が研究室に配属され、卒業研究に取り組みます。卒業研究では、自らが目標を設定し、自分自身で考えながら積極的に研究課題に取り組むことで、問題解決能力や研究マインドを身につけていきます。また、将来の進路に関わる事項が、「薬学アドバンスト教育」として選択科目で多数設定されています。

シラバスに記載されています一般目標(GIO:General Instructional Objective)とは、学習することにより得られる成果を総合的に示した大目標であり、到達目標(SBOs:Specific Behavioral Objectives)は、一般目標GIOを達成するために必要な具体的な目標で、個別目標とされています。各科目の内容はGIO、SBOsを達成することを目的に構成されています。このシラバスのGIO、SBOsや学生へのアドバイスをよく読んで、内容を把握して学習にのぞんでください。また、本書の前半には、学則、履修規程、履修要項を収載しています。履修にあたって、見落としはいけない重要な項目が並んでいますので、しっかりと把握しておいてください。新しいカリキュラムでは、専門選択科目が大幅に増加するなど、枠組み等も大幅に変更になっています。各自の履修計画をしっかりと立ててください。

薬剤師国家試験に合格し、卒業後、薬学部卒業生としてふさわしい医療に貢献できる人材となるためには不断の努力が必要です。入学時の決意を胸に、積極的に勉学に取り組んでください。また、大学生活を通じて、多くの知己を得て、人間性豊かな人格を形成することを切望しています。

教務部長 中山 尋量

目 次

学 則	1
履 修 規 程	11
履 修 要 項	17
授業について	19
I. 授業科目の区分	
II. 授業	
III. 履修登録	
IV. 他大学卒業など既修得単位の単位認定	
V. 授業科目配当表「認定科目」について	
試験について	24
I. 試験の種類	
II. 追再試験及び4年次特別臨時試験の受験と放棄手続	
III. 受験の注意事項	
成績について	26
I. 成績評価	
II. 成績発表	
留年学生について	28
I. 科目の履修	
II. 履修登録	
薬学共用試験について	29
薬学教育モデル・コアカリキュラム関連図	31
授業科目及び単位年次配当表 (薬学教育モデル・コアカリキュラム対応表)	35
シラバス (授業計画)	71
一年次生	73
二年次生	153
三年次生	223
四年次生	269
五年次生	305
六年次生	319
モデル・コアカリキュラム	335
薬剤師国家試験出題基準	467

神戸薬科大学 学則

神戸薬科大学学則

第1章 総則

(目的)

第1条 神戸薬科大学（以下「本学」という）は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、高い教養と専門的能力を培うことによって、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身につけた薬剤師並びに教育・研究者を育成すること、さらに医療と薬事衛生の向上に貢献することを目的とする。

(学部・学科及び定員)

第2条 本学に次の学部及び学科を設置し、その定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	収容定員
薬学部・薬学科	270名	1,620名

(修業年限)

第3条 本学の修業年限は、6年とする。

(学位授与)

第4条 本学は、6年以上在学して所定の単位を修得した者に学士（薬学）の学位を授与する。

第2章 職員組織及び教授会

(職員組織)

第5条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他の職員を置く。
2 前項に掲げる職員のほかに、非常勤の教授及び講師を置くことができる。
3 職員の職制及び服務に関する規程は、別に定める。

(教授会)

第6条 本学に教授会を置く。
2 教授会は、学長、副学長、教授、准教授及び講師をもって構成する。ただし、非常勤者を除く。
3 教授会は、学長の求めに応じて、次の事項を審議する。学長は、教授会の意見を聴き決定する。
(1) 学生の入学、卒業に関すること
(2) 学位の授与に関すること
(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
4 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる次に掲げる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。
(1) 教育課程の編成に関すること
(2) 学生の補導厚生に関すること
(3) 重要な施設の設置及び廃止に関すること
(4) 学則その他教育研究に関する重要な規則の制定及び改廃に関すること
(5) 学生の賞罰に関すること
(6) その他教育研究に関すること
5 教授会に関する規程は、別に定める。

第3章 教育課程及び履修方法

(教育課程)

第7条 本学の教育課程は、その授業科目を基礎教育科目、教養教育科目及び専門教育科目に分ける。
2 各授業科目は、必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

(教育内容等の改善)

第7条の2 本学は、教育内容及び教育方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う。

2 前項の研修及び研究に関することは、別に定める。

(授業科目の名称及び履修単位)

第8条 授業科目の名称及び履修単位は、別表第1の授業科目及び単位年次配当表のとおりとする。ただし、教授会の議を経て、学長が一部変更することがある。

(単位計算の基準)

第9条 1単位の授業科目は、原則として45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。各授業科目の単位数は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で、本学が各授業科目について定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で、本学が各授業科目について定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位数を定める。

(授業期間)

第10条 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(履修すべき単位)・・・1～2年次生適用

第11条 学生が全課程を履修するには、次の単位を修得しなければならない。

基礎教育科目	必修	11	単位
教養教育科目	必修	8	単位
	選択	8	単位以上
専門教育科目	必修	146	単位
	選択	13	単位以上 (6年次配当の選択必修2単位以上含む)
総計		186	単位以上

(履修すべき単位)・・・3～5年次生適用

第11条 学生が全課程を履修するには、次の単位を修得しなければならない。

基礎教育科目	必修	11	単位
教養教育科目	必修	8	単位
	選択	8	単位以上
専門教育科目	必修	154	単位
	選択	5	単位以上
総計		186	単位以上

(履修すべき単位)・・・6年次生適用

第11条 学生が全課程を履修するには、次の単位を修得しなければならない。

基礎教育科目	必修	12	単位
教養教育科目	必修	12	単位
	選択	8	単位以上
専門教育科目	必修	148	単位
	選択	6	単位以上
総計		186	単位以上

(履修単位の認定)

- 第12条 履修した授業科目の単位の認定は、試験によって行う。ただし、授業科目によっては、他の方法によることができる。第9条の授業科目のうち、演習、実習及び実技は、学修の成果を評価して認定する。
- 2 試験に関する規程は、別に定める。
 - 3 他の大学又は短期大学を卒業若しくは退学し、本学の第1年次に入学した学生の既修得単位については、基礎教育科目及び教養教育科目の単位について、合計15単位を超えない範囲で認定することができる。ただし、単位認定と関連した修業年限の短縮は行わない。
 - 4 教育上有益と認めるときは、他の大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることがある。ただし、修得した授業科目の単位は、15単位を超えない範囲で本学において修得した単位とみなすことができる。
 - 5 教育上有益と認めるときは、大学教育に相当する水準を有すると認めた学修について、本学の授業科目の履修により修得した単位とみなすことができる。
 - 6 前項により与えることができる単位数は、第3項及び第4項により、本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(成績の評価)

- 第13条 成績は、「秀」、「優」、「良」、「可」、「不可」をもって表示し、「秀」、「優」、「良」、「可」を合格、「不可」を不合格とする。

(卒業)

- 第14条 本学に6年以上在学し、第11条に定める単位を修得した者でなければ卒業できない。

第4章 入学、編入学、転入学、休学、転学、退学及び復学

(入学の時期)

- 第15条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学者の資格)

- 第16条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
- (1) 高等学校を卒業した者
 - (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
 - (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずるもので文部科学大臣の指定した者
 - (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
 - (7) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、3月31日までに18歳に達する者

(入学志願の手続)

- 第17条 入学志願者は、所定の書類に入学検定料を添えて指定の期日までに願出しなければならない。
- 2 入学志願の期日及び入学検定料は、別に定める。

(入学選考)

- 第18条 入学志願者に対しては、学力及び健康等について教授会の議を経て、学長が入学を許可する。
- 2 選考の方法及び期日は、別に定める。

(編入学)

第19条 次の各号の一に該当する者が、本学に編入学を願い出たときは、収容定員の枠内で教授会の議を経て、学長が相当年次に入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者（卒業見込みの者を含む）
 - (2) 学校教育法の規定により短期大学士の学位を授与された者
 - (3) 大学に2年以上在学し、出願時に62単位以上を修得している者
- 2 前項により入学を許可された者については、既に履修した授業科目及び単位数並びに在学年数の一部又は全部を、本学における授業科目及び単位数並びに在学年数として認定する場合がある。
 - 3 編入学の時期は、学年の始めとする。
 - 4 編入学に関する規程は、別に定める。

(転入学)

第20条 他大学から本学へ転入学を願い出る者があるときは、欠員のある場合に限り教授会の議を経て、学長が許可することがある。

- 2 転入学生が他大学において履修した授業科目及び単位数並びに在学年数の一部又は全部を、本学における授業科目及び単位数並びに在学年数として認定する場合がある。

(入学手続)

第21条 入学、編入学及び転入学を許可された者は、指定の期日までに所定の納付金及び次の書類を提出しなければならない。

- (1) 誓約書
 - (2) 入学資格を証明する書類
 - (3) 保証人届
- 2 正当な理由なくしてこの手続を履行しないときは、入学の許可を取消す。

(保証人)

第22条 前条の保証人は、本人の父母等であり、本人在学中一切の責任を負う者でなければならない。

(休学)

第23条 病気その他やむを得ない事由により休学しようとする者は、保証人連署の上、願い出て、学長の許可を受けなければならない。

- 2 休学の始期は、前期又は後期の開始日とし、途中からの休学は認めない。また、第1年次については前期の休学は認めない。ただし、突発的な疾病・事故などにより長期加療を必要とする場合（医師の診断書のあるもの）は、願い出により上記以外の休学を認めることがある。
- 3 休学の期間は、1年を超えることはできない。ただし、特別の事情がある場合は引き続き休学することができるが、通算して3年を超えることはできない。
- 4 特別の事由があると認めた者には、学長が休学を命じることがある。

(転学)

第24条 他大学へ転学しようとする者は、保証人連署の上、あらかじめ願い出て、学長の許可を受けなければならない。

(退学)

第25条 病気その他やむを得ない事由により退学しようとする者は、保証人連署の上、願い出て、学長の許可を受けなければならない。

- 2 次の各号の一に該当する者は、学長が退学の措置をとる。
 - (1) 授業料及びその他の納付金の納入を怠り、督促を受けても納めない者
 - (2) 定められた在学期間を超えた者
 - (3) 死亡その他の事由で成業の見込がないと認めた者

(復学)

第26条 休学又は退学した者が、復学しようとするときは、保証人連署の上、願い出て、教授会の議を経

- て、学長の許可を受けなければならない。
- 2 休学者の復学は、第 29 条第 1 項に定める各期の始めとする。ただし、特別の事由があるときに限り、上記以外の復学を認めることがある。
 - 3 退学者の復学は、退学日当日を含む学年度を第 1 回目として、4 回目の年度の 3 月末日までに許可された者に限る。また、復学の時期は、学年の始めとする。
 - 4 第 25 条第 2 項第 1 号の規定による退学者が復学しようとするときは、未納の授業料及びその他の納付金を納付した上で、第 1 項の手続きをとらなければならない。
 - 5 第 25 条第 2 項第 1 号の規定による退学者の復学は、退学の効力が生じたときから 2 年以内の者に限る。また、復学の時期は、各期の始めとする。ただし、退学手続を行った日から 7 日以内に所定の復学手続を完了した者については、退学日と同日付の復学を認めることがある。
 - 6 第 25 条第 2 項第 2 号及び第 40 条の規定による退学者の復学は、認めない。
 - 7 復学時の学年は、学長が決定する。

(在学期間) …… 1～2 年次生適用

- 第 27 条 学生の在学期間は、第 2 年次の必要課程を修了する時までに 4 年を、第 4 年次の必要課程を修了する時までに 7 年を、第 6 年次の必要課程を修了するまでに 10 年を、それぞれ超えることができない。
- 2 休学中の期間は、在学年数に算入しない。

(在学期間) …… 3～6 年次生適用

- 第 27 条 学生の在学期間は、第 2 年次の必要課程を修了する時までに 3 年を、第 4 年次の必要課程を修了する時までに 7 年を、第 6 年次の必要課程を修了するまでに 10 年を、それぞれ超えることができない。
- 2 休学中の期間は、在学年数に算入しない。

第 5 章 学年、学期及び休講日

(学年)

- 第 28 条 学年は、4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。

(学期)

- 第 29 条 学年を次の 2 期に分ける。

前期 4 月 1 日から 9 月 30 日まで
後期 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

- 2 前期及び後期の授業日数を調整するため、教授会の議を経て、学長が前期の終期及び後期の始期を変更することがある。

(休講日)

- 第 30 条 授業を行わない日を休講日といい、次のとおりとする。ただし、第 4 号の休講日の期間、休講日の変更、臨時休講日の設定及び休講日における授業の実施については、教授会の議を経て、学長が決定する。
- (1) 土曜日、日曜日
 - (2) 国民の休日に関する法律に規定する休日
 - (3) 創立記念日 (4 月 27 日)
 - (4) 春季休講日、夏季休講日及び冬季休講日

第6章 入学検定料、入学金及び学費

(納付金)

- 第31条 納付金は、入学検定料、入学金及び学費（授業料等）とし、その額は別表第2のとおりとする。
- 1 入学検定料は出願時に、入学金は入学手続き時に納付しなければならない。
 - 2 授業料は、下記の期間内にそれぞれ納付しなければならない。ただし、延納が認められたときは、その期日までに納付しなければならない。
前期 4月1日から4月30日まで
後期 10月1日から10月31日まで
 - 3 入学を許可された者は、前期分を入学手続き時に納付しなければならない。

(延納)

- 第32条 前条に定める期間内に授業料及びその他の納付金を経済的事情等やむを得ない事由により納付できない者は、指定の期日までに保証人連署の上、延納願を提出し、学長の許可を受けなければならない。
- 2 許可された者の延納の最終期日は、前期は5月31日、後期は11月30日とする。

(休学者の授業料)

- 第33条 休学者の休学期間中の授業料は、その2分の1の額を月割りで免除する。
- 2 計算の結果生じた100円未満の端数は、四捨五入する。

(納付金の還付)

- 第34条 一旦納付した納付金は、次の各号に定める場合を除き還付しない。
- (1) 推薦入学試験（公募制・併願可）、一般入学試験及び大学入試センター試験利用入学試験において、入学手続き時に授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合は、納付した授業料を還付する。
 - (2) 前条（休学者の授業料）に該当した場合。

第7章 科目等履修生及び研究生

(科目等履修生)

- 第35条 本学の授業科目中、特定の科目について履修を願い出る者があるときは、学長が科目等履修生として学修を許可することがある。
- 2 科目等履修生の履修料は、授業科目1単位につき20,000円とする。
 - 3 科目等履修生に対する単位の認定については、第12条の規定を準用する。

(学則の準用)

- 第36条 科目等履修生は、一般学生とともに授業を受けるものとする。
- 2 科目等履修生には、学則第2条～第4条、第11条、第14条～第26条、第30条～第33条を除いて準用する。

(研究生)

- 第37条 本学に研究を願い出る者があるときは、教授会の議を経て、学長が許可することがある。
- 2 研究生に関する規程は、別に定める。

第8章 公開講座

(公開講座)

- 第38条 本学は、生涯学習の一環として公開講座を開講することができる。

第9章 賞 罰

(表彰)

- 第39条 次の各号の一に該当する団体又は学生がいる場合は、学長が表彰することがある。
- (1) 人物及び学業の優秀な者
 - (2) 課外活動又はその他の活動において優秀な成績や業績を修めた者
 - (3) 地域社会又は国際交流の発展などにおいて社会的貢献を行った者

(懲戒)

- 第40条 本学の学則、諸規程及び命令を守らず学生の本分に反する行為のあった者は、その軽重に従い、教授会の議を経て、学長がこれを懲戒する。
- 1 訓戒 2 謹慎 3 停学 4 退学
 - 2 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行うことができる。
 - (1) 性行不良であって成業の見込がないと認めた者
 - (2) 学業を怠り成業の見込がないと認めた者
 - (3) 正当な理由がなくて出席の常でない者
 - (4) 大学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者
 - 3 懲戒に関し、必要な事項は、「神戸薬科大学の学生の懲戒に関する細則」に定める。
 - 4 停学の期間は、在学期間を含め、修業年限に含まないものとする。ただし、3か月を超えない場合には、修業年限に含めることができる。

第10章 学生心得

(学生心得)

- 第41条 本学の学生は、次に掲げる事項を守らなければならない。
- (1) 学生は、人格の本義を認め信念を涵養し、知徳を練磨し人格の完成を期すること
 - (2) 学生は、敬けんな態度をもって身を処し、人類の福祉に貢献すること
 - (3) 学生は、自由、自治の本領に立って協力一致して本学学風の振興に努めること
 - (4) 学生は、諸規則及び命令を守り秩序と静粛とを保つこと
- 2 学生心得に関する細則は、別に定める。

第11章 附属施設

(図書館、薬用植物園及び学生寮)

- 第42条 本学に図書館、薬用植物園及び学生寮を附設する。
- 2 図書館、薬用植物園及び学生寮に関する規程は、別に定める。

第12章 自己点検・評価及び情報開示

(自己点検・評価)

- 第43条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、第1条の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

(情報開示)

- 第44条 本学は、学校教育法施行規則（第172条の2）に基づき、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報開示するものとする。

第13章 学則の改正

(学則の改正)

- 第45条 この学則の改正は、教授会の議を経て、理事会が決定する。

附則

この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

平成 19 年 4 月 1 日改正

平成 20 年 4 月 1 日改正

平成 20 年 5 月 21 日改正

平成 21 年 4 月 1 日改正

平成 21 年 4 月 20 日改正

平成 22 年 4 月 1 日改正

平成 23 年 4 月 1 日改正

平成 24 年 4 月 1 日改正

平成 25 年 4 月 1 日改正

平成 26 年 4 月 1 日改正

平成 27 年 4 月 1 日改正

平成 28 年 4 月 1 日改正

(別表第 1、第 2 及び第 6 条第 3 項第 3 号の学長が定める事項は省略)

神戸薬科大学 履修規程

神戸薬科大学 履修規程

(課程の履修)

第1条 学生は、学則に定めるもののほか、この規程によって課程を履修しなければならない。

(授業科目の受講)

第2条 学生は、授業科目が配当されている学年次に進級しなければ、その授業科目を受講することはできない。

2 病院実習、薬局実習は、薬学共用試験に合格した者でなければ受講できない。

(履修の登録)

第3条 学生は、履修しようとする選択科目について所定の期日までに履修登録を行わなければならない。ただし、必修科目及び選択必修科目については、履修登録の必要はない。

2 履修登録期間に正当な理由なく登録をしない者は、当該年次の選択科目を履修することができない。

(単位の修得)

第4条 各授業科目の単位は、所定の試験に合格して修得するものとする。ただし、授業科目によっては、他の方法によることがある。授業科目及び単位は、「授業科目及び単位年次配当表」による。

(試験の種類)

第5条 試験の種類は、定期試験、追試験、再試験、4年次特別臨時試験及び臨時試験とする。

(成績の表示)

第6条 成績は、学則第13条の定めにより秀、優、良、可、不可をもって表示する。成績は、試験及び学習成果を総合的に評価して認定する。秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)を合格、不可(59～0点)を不合格とする。

2 2期にわたって配当されている授業科目の成績については、最終期に判定する。

(定期試験)

第7条 定期試験とは、各期の授業終了後に行う試験をいう。

2 定期試験を受験する者は、所定の期日までに授業料を納入しなければならない。

3 科目によっては、定期試験を行わないことがある。

(追試験)

第8条 追試験とは、定期試験を次の各号の一に該当する理由により欠席した者に対して行う試験をいう。

(1) 傷病(医師の診断書のあるもの)

(2) 2親等までの親族又は親権者の死亡

①父母の場合 7日以内

②祖父母・兄弟姉妹の場合 3日以内

③親権者の場合 7日以内

(3) その他やむを得ない理由

2 定期試験を前項の理由で受験できなかった者のうち追試験を希望する者は、追試験願を提出しなければならない。この場合、教務委員会において内容を審議の上、受験を許可する。

3 追試験願の提出期限は、当該試験期間の最終日から5日以内とする。

4 追試験を受験する者は、所定の期日までに追試験受験登録を行わなければならない。

5 追試験は、原則として前期授業科目については前期に、後期授業科目については後期に行う。ただし、第4～6年次の追試験の時期は、その都度決める。

6 追試験の成績は、優、良、可、不可をもって表示する。

7 科目によっては、追試験を行わないことがある。

(再試験)

- 第9条 再試験とは、定期試験において不合格となった者及び定期試験を欠席した者のうち、第8条第1項に該当しない者に対して行う試験をいう。再試験を受験する者は、所定の期日までに再試験受験登録を行わなければならない。
- 2 再試験は、原則として前期授業科目については前期に、後期授業科目又は最終期が後期に配当された授業科目については後期に行う。ただし、第4～6年次の再試験の時期は、その都度決める。
 - 3 再試験に合格した者の成績は、すべて可をもって表示する。
 - 4 科目によっては、再試験を行わないことがある。

(4年次特別臨時試験)

- 第10条 4年次特別臨時試験とは、4年次に配当する必修科目において追試験、再試験を不合格となった者及び欠席した者に対して行う試験をいう。ただし、定期試験又は追試験、再試験を第8条第1項に該当しない理由で欠席した者は、4年次特別臨時試験を受験することはできない。4年次特別臨時試験を受験する者は、所定の期日までに4年次特別臨時試験受験登録を行わなければならない。
- 2 4年次特別臨時試験の受験科目数は2科目以下とする。必修科目が3科目以上未修得の場合は、全ての4年次特別臨時試験を受験することができない。
 - 3 4年次特別臨時試験の実施時期は、その都度決める。
 - 4 4年次特別臨時試験に合格した者の成績は、全て可をもって表示する。
 - 5 科目によっては、4年次特別臨時試験を行わないことがある。

(臨時試験)

- 第11条 臨時試験とは、自然災害などやむを得ない事由により通常の試験が実施できなかった時に行う試験をいう。

(薬学共用試験)

- 第12条 4年次の所定の期間に、薬学共用試験 (CBT、OSCE)を行う。
- 2 病気などやむを得ない理由により、薬学共用試験の本試験を受験できなかった者に対して所定の期日に追試験を行う。
 - 3 薬学共用試験の本試験の結果、不合格になった者に対して、所定の期日に再試験を行う。

(進級基準)・・・1～2年次生適用

- 第13条 進級が認められる者は、本条各項に示す条件を満たした者でなければならない。
- 2 第1年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第2年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 1年次において、必修科目の実習、演習の単位をすべて修得した者
 - (2) 1年次において、必修講義科目の未修得単位数が4単位以下の者
 - 3 第2年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第3年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 2年次において、必修科目の実習、演習の単位をすべて修得した者
 - (2) 2年次終了時まで、教養教育科目の選択科目合計8単位以上を修得した者
 - (3) 2年次において、必修講義科目の未修得単位数が4単位以下の者
 - (4) 1年次の単位未修得の必修講義科目を再履修し、すべて修得した者
 - 4 第3年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第4年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 3年次において、必修科目の実習、演習の単位をすべて修得した者
 - (2) 3年次において、必修講義科目の未修得単位数が4単位以下の者
 - (3) 2年次の単位未修得の必修講義科目を再履修し、すべて修得した者
 - 5 第4年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第5年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 4年次において、必修科目の単位をすべて修得した者
 - (2) 3年次の単位未修得の必修講義科目を再履修し、すべて修得した者
 - 6 第5年次で次に示す条件を満たした者でなければ、第6年次の課程を履修することはできない。

- (1) 5年次において、必修科目の単位をすべて修得した者
- (2) 前号(1)に対して、成績評価について特別事情を認めた者

(進級基準)・・・・・・・・3～5年次生適用

第13条 進級が認められる者は、本条各項に示す条件を満たした者でなければならない。

- 2 第1年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第2年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 1年次において、必修科目の実習、演習の単位をすべて修得した者
 - (2) 1年次において、必修講義科目の未修得単位数が3単位以下の者
- 3 第2年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第3年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 2年次において、必修科目の実習、演習の単位をすべて修得した者
 - (2) 2年次終了時まで、教養教育科目の選択科目合計8単位以上を修得した者
 - (3) 2年次において、必修講義科目の未修得単位数が3単位以下の者
 - (4) 1年次の単位未修得の必修講義科目を再履修し、すべて修得した者
- 4 第3年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第4年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 3年次において、必修科目の実習、演習の単位をすべて修得した者
 - (2) 3年次において、必修講義科目の未修得単位数が3単位以下の者
 - (3) 2年次の単位未修得の必修講義科目を再履修し、すべて修得した者
- 5 第4年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第5年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 4年次において、必修科目の単位をすべて修得した者
 - (2) 3年次の単位未修得の必修講義科目を再履修し、すべて修得した者
- 6 第5年次で次に示す条件を満たした者でなければ、第6年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 5年次において、必修科目の単位をすべて修得した者
 - (2) 前号(1)に対して、成績評価について特別事情を認めた者

(進級基準)・・・・・・・・6年次生適用

第13条 進級が認められる者は、本条各項に示す条件を満たした者でなければならない。

- 2 第1年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第2年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 1年次において、必修科目の実習、演習の単位をすべて修得した者
 - (2) 1年次において、必修講義科目の未修得単位数が3単位以下の者
- 3 第2年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第3年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 2年次において、必修科目の実習、演習の単位をすべて修得した者
 - (2) 2年次終了時まで、教養教育科目の選択科目合計8単位以上を修得した者
 - (3) 2年次において、必修講義科目の未修得単位数が3単位以下の者
 - (4) 1年次の単位未修得の必修講義科目を再履修し、すべて修得した者
- 4 第3年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第4年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 3年次において、必修科目の実習、演習の単位をすべて修得した者
 - (2) 3年次において、必修講義科目の未修得単位数が2単位以下の者
 - (3) 2年次の単位未修得の必修講義科目を再履修し、すべて修得した者
- 5 第4年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ、第5年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 4年次において、必修科目の単位をすべて修得した者
 - (2) 3年次の単位未修得の必修講義科目を再履修し、すべて修得した者
- 6 第5年次で次に示す条件を満たした者でなければ、第6年次の課程を履修することはできない。
 - (1) 5年次において、必修科目の単位をすべて修得した者
 - (2) 前号(1)に対して、成績評価について特別事情を認めた者

(留年学生)

第14条 第13条に抵触する学生を留年学生と称する。

- 2 留年学生の既修得単位は、原則として認める。
- 3 留年学生の未修得単位に係る授業科目については、原則として再履修し、当該授業科目の定期試験を受験しなければならない。その成績は、第6条を適用する。
- 4 留年学生については、審議の上、第2条第1項の規定にかかわらず翌年次科目の履修を認めることがある。

(試験日程)

第15条 各試験の日程は、事前に教務課から発表する。
ただし、臨時試験はこの限りではない。

(追試験、再試験及び4年次特別臨時試験受験料)

- 第16条 追試験の受験料は無料とする。再試験及び4年次特別臨時試験を受験する者は、所定の期日までに受験料を経理課に納入しなければならない。受験料が未納の者は、これを受験することができない。
- 2 再試験及び4年次特別臨時試験の受験料は、1科目につき2,000円とする。

(不正行為)

第17条 受験に際し不正行為があった場合は、定期試験、追試験、再試験、4年次特別臨時試験及び臨時試験にかかわらず、当該学期の既受験科目の成績は全て不可とし、それ以降の当該学期の全ての試験を受験停止とする。不正行為を行った者に対しては、学則に従い懲戒を行う。

(受験心得)

第18条 各試験を受験するときは、必ず机の上に学生証又は仮学生証を提示しなければならない。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

- 平成21年4月 1日改正
- 平成22年4月 1日改正
- 平成22年6月28日改正
- 平成23年4月 1日改正
- 平成24年4月 1日改正
- 平成26年4月 1日改正
- 平成27年4月 1日改正
- 平成28年4月 1日改正

履修要項

履 修 要 項

授業科目の履修に関して、学則及び履修規程に明示されていない細目はこの履修要項に定めるところによります。

履修について理解できない事項がありましたら、クラス担任や教務課（学生支援センター）に相談してください。

授業について

I. 授業科目の区分

1. 開設する科目は、次のとおり3つに大きく区分されています。
「基礎教育科目」、「教養教育科目」、「専門教育科目」

2. 授業科目は、次のように分類されています。
必修科目：必ず履修しなければならない科目
選択科目：各自で選択して履修できる科目

II. 授 業

1. 授業を受ける心構え

大学での修学は、学生個人がそれぞれ勉学の目標を定め、単に授業に出席するだけでなく、予習、復習等各自が自主的な勉学を行うことが大切です。授業については、積極的姿勢で受講してください。

2. 授業時間（1時限 75分）

平常の授業は、授業時間割表に従って実施します。

1時限	9:00～10:15	4時限	14:15～15:30
2時限	10:30～11:45	5時限	15:45～17:00
3時限	12:00～13:15※	6時限	17:15～18:30
3時限	12:45～14:00※		

※3時限の開始時間は学年により異なります。時間割表で確認をしてください。

3. 休講・補講・時間割変更・講義室変更

すべての事項について掲示板（4号館1階ピロティ）に掲示で知らせます。登校したら掲示板を必ず見るようにしてください。掲示板は学年ごとに区分されていますが、自分の学年と併せて「全学年」の掲示板も必ず見るようにしてください。

（1）休講

①急な休講以外は、1週間前に掲示をします。

②休講の掲示がなく担当者が来ない場合は、講義室内のインターホン又は電話で教務課（学生支援センター）に確認してください。

（2）補講

①休講となった場合、その他補充講義が必要な場合に行います。

②実施日時、講義室などに注意してください。

（3）時間割変更・講義室変更

①時間割、講義室などの変更がある場合は、掲示します。

②各学期の全期間にわたって変更する場合の掲示期間は、原則2週間です。

各自の授業時間割表を訂正してください。

※これらの内容は掲示板で知らせますが、1週間以内の変更についてはWeb掲示板でも同じ内容を配信します。

4. 出欠席

- (1) 授業に欠席、遅刻しないようにしてください。
- (2) 欠席が多い場合は単位認定ができません。
- (3) ガイダンス等の学校行事に欠席しないようにしてください。
- (4) 欠席の届出については次のとおり対応してください。
 - ① 1週間未満の欠席
 - ・授業担当者へなるべく事前に届け出てください。
 - ・急用（急病）などやむを得ない突発的な欠席は、電話連絡をし、事後速やかに授業担当者へ届け出てください。
(授業担当者から指示がある場合は、指示に従うこと。)
 - ・その他、提出物があるときは、その関係部署まで必ず連絡してください。
 - ② 1週間以上の長期欠席
 - ・クラス担任に申し出て、教務課（学生支援センター）で所定の欠席届用紙を受領してください。
 - ・欠席届は必要事項を記入の上（医師の診断書など添付）、本人と保護者が署名捺印してクラス担任へ提出してください。
※医師の診断書を提出する場合は、必ず加療期間を明記してもらうようにしてください。
 - ③ その他
 - ・大学で協議した結果、やむを得ないと認められた長期欠席については、クラス担任の指示に従い届け出てください。

III. 履修登録

1. 履修上の注意

- (1) 各自で履修計画を立てることが肝心です。
 - ① 授業科目の履修は、学則第11条に示された単位数を学則第8条に定められた単位年次配当表に従い、履修しなければなりません。
 - ② 特に選択科目については、進級要件や卒業要件を充足するよう授業科目の内容をシラバス（授業計画）で確認し、各自でよく考え履修計画を立ててください。
- (2) 一度履修登録した科目は変更できません。
- (3) クラス指定された授業科目は、必ず指定された時間に履修しなければなりません。
- (4) 特定の授業科目（選択科目）の中には、履修人数を制限する場合があります。
履修方法・履修登録の手続きに十分注意してください。
- (5) 同一時限に2科目を重複して履修することはできません。
- (6) 各学年次に配当された授業科目は、配当学年次で履修しなければなりません。
- (7) 各年次とも留年学生以外は上位学年次の配当科目を履修することはできません。
- (8) 履修指定をする授業科目は次のとおりです。履修指定された科目又はクラスで履修してください。
 - ① 習熟度別クラスでの履修
基礎教育科目：「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」
「物理学」
 - ・年度当初に小テストを実施します。その結果により履修クラスを決定し、掲示で指示します。
 - ・前期試験の結果により、後期から履修クラスの変更もあります。
変更がある場合は、担当者から掲示で指示します。
 - ② 教養教育科目（選択科目）の履修について
 - ・1、2年次同時並列開講科目の履修は定員制のため、履修希望調査を行います。
 - ・2年次終了時には、教養教育科目の選択科目合計8単位以上を修得しなければ3年次へ進級することができません。
 - ・履修科目の決定は、掲示で指示します。
 - ③ 専門教育科目（選択科目）の履修について
「初期体験臨床実習」、「アクティブラボ」、「実用薬学英語」、「実用医療英語」、

「海外薬学研修」、「インターンシップ」、「キャリアデザイン講座」、「IPW演習」は選考の上、受講者を決定します。詳細については、掲示で指示します。

④専門教育科目（選択科目）の単位認定科目について

- ・「健康食品」、「実践薬学」は、本学エクステンションセンター主催の生涯研修プログラムに参加し、必要条件を満たせば単位認定を行います。
- ・「Student CASPワークショップ」は本学主催のStudent CASPワークショップに参加し、必要条件を満たせば単位認定を行います。
- ・「語学検定」は本学入学後に受験したTOEICまたはカレッジTOEICの成績が、必要条件を満たせば単位認定を行います。

(9) 進級後の再履修科目について

単位未修得の必修講義科目は、再履修しなければなりません。
翌年次に必ず履修登録をしてください。

2. 履修登録の手続き方法

前期・後期に履修する授業科目を、各自 Web システムを利用して登録しなければなりません。授業科目の登録は、次の要領に従って年度当初に指定された期間内に行ってください。

この登録を怠ると、その年度の授業及び試験を受けることができませんので、十分注意してください。(P.22【通告】を参照)

(1) 必修科目について

全員が必ず履修しなければならない科目であるため、自動的に登録されます。履修登録の手続きは不要です。

【進級後の再履修科目について】

必修科目であっても必ず履修登録の手続きが必要です。

(2) 選択科目について

履修計画により適宜選択して履修ができる科目であるため、単位を修得するためには、必ず履修登録の手続きが必要です。

(3) 履修登録科目の確認について

履修登録科目の確認期間中に、各自Webシステムを利用して確認すること。登録内容に誤りがある場合は、この期間にWebシステムを利用して修正の登録をしてください。確認期間後の訂正はできません。

(4) 履修登録科目の取り消しについて

一度受講登録された科目であっても、授業内容が勉強したいものと違っていた、あるいは履修科目数を減らしたい等の理由により、別に定める履修取り消し期間に、受講の取り消し手続きを行うことができます。

将来の履修計画を立てたうえで、各自履修取り消し手続きを行ってください。ただし、取り消し手続きができるのは選択科目に限ります。履修取り消し期間内に手続きを行わなかった場合、以降の申請は受け付けられません。

*なお、「初期体験臨床実習」「インターンシップ」「IPW演習」「実用英語」「実用薬学英語」「実用医療英語」「海外薬学研修」の履修取り消しはできません。

(5) 履修登録科目の受験について

履修登録された科目は定期試験を受けることができます。(科目によっては定期試験を行わないことがあります。)

ただし、定期試験の結果において不可となった科目については、指定された期間内に再試験の受験又は放棄の手続きを行ってください。手続きを怠った場合や期間後の訂正はできません。

「履修登録」及び「受験申請」の手続きについて

【 通 告 】

- 【1】「履修登録」「受験申請」の手続き日は、行事予定表の中であらかじめ通知している。また、手続方法等については掲示で知らせている。掲示内容は変更されることがあるので、毎日登校時と下校時の2回必ず確認すること。
- 【2】期限（日時）を厳守すること。期限を過ぎても手続きをしていない場合は、手続きを放棄したものと判断し、以後は一切受理しない。
なお、この場合の呼び出し又は個人的連絡は一切行わない。
- 【3】やむを得ない理由があつて期日までに手続きできない場合は、事前に必ず教務課（学生支援センター）へ届けること（電話も可）。
- 【4】一旦受理された「履修登録」、「受験申請」の変更又は取り消しは認めない。

以上、履修登録に限らず、期日指定の提出物についても十分に注意すること。

IV. 他大学卒業など既修得単位の単位認定

他の大学又は短期大学を卒業あるいは退学し、本学に入学した学生の既修得単位の取扱いについては下記のとおりです（学則第12条第3項）。

1. 単位認定対象科目

対象となるのは1～3年次に配当されている基礎教育科目及び教養教育科目で、合計15単位を超えない範囲で認定されることがあります。

2. 修業年限について

単位認定と関連して修業年限の短縮は行いません。

3. 申請時期

入学時の1年次4月とします。

4. 申請方法

以下のものを持って教務課（学生支援センター）に提出し、申し出てください。

(1) 単位認定願（下記の様式例を参考に、各自で作成してください）

注）単位認定を希望する科目を全て記入する。（例：1、2、3年科目）

(2) 成績証明書

(3) 単位認定を申請する科目のシラバス（履修の手引）

* 詳細については、個別に対応します。

〔様式例〕

平成 年 月 日	
神戸薬科大学学長殿	1年1クラス10番 神 葉 花 子 (学籍番号 160001)
単 位 認 定 願	
_____大学に於いて修得いたしました下記の単位につきまして、	
単位認定していただきたくよろしくお願いたします。	
記	
既修得科目（単位数）	単位認定を申請する本学の科目（単位数）
_____（ ）	⇔ _____（ ）
_____（ ）	⇔ _____（ ）
_____（ ）	⇔ _____（ ）
_____（ ）	⇔ _____（ ）
_____（ ）	⇔ _____（ ）
_____（ ）	⇔ _____（ ）
_____（ ）	⇔ _____（ ）
合格単位数 _____ 単位	
以 上	

V. 授業科目配当表「認定科目」について

教育上有益と認められ、大学教育に相当する水準を有すると認められた学修について、本学における授業科目の履修とみなし、卒業要件の単位として取り扱われます。認定対象となる科目は次のとおりです。

1. 成績評価を行う科目

「語学検定」1単位（選択）専門教育科目

2. 成績評価を行わない科目

「Student CASP ワークショップ」1単位（選択）専門教育科目

「健康食品」1単位（選択）専門教育科目

「実践薬学」1単位（選択）専門教育科目

試験について

1. 試験の種別

履修規程第5条のとおり試験は定期試験、追試験、再試験、4年次特別臨時試験並びに臨時試験があります。試験については履修規程第7～11条を熟読し、周到な準備と厳正な態度で臨むことが肝要です。

各試験の日程表は、教務課（学生支援センター）で全員に配布します。

配布期間については掲示で発表します。ただし、発表後に日程変更があれば、掲示で知らせます。

1. 定期試験（履修規程第7条）

前期（7月）と後期（1月）に、年2回実施します。なお、実施期間については、各学期行事予定表で通知します。

* 平常点、授業中等に行う試験、小テスト、又は試験の代わりにレポート提出を求められる場合もありますので、日頃から授業中での指示及び掲示に十分注意してください。科目によっては、定期試験を行わないことがあります。シラバス（授業計画）に記載している成績評価方法を熟知しておいてください。

2. 追試験（履修規程第8条）

追試験とは傷病（医師の診断書のあるもの）、2親等までの親族又は親権者の死亡（父母の場合7日以内、祖父母・兄弟姉妹の場合3日以内、親権者の場合7日以内）、その他やむを得ない理由で定期試験を受験できなかった者に対して行う試験です。

実施期間については、各学期行事予定表で通知します（追試験と再試験は同時に実施します）。科目によっては、追試験を行わないことがあります。シラバス（授業計画）に記載している成績評価方法を熟知しておいてください。

《追試験願の申請について》

* 教務課（学生支援センター）で追試験願を受領する。

* 所定の欄へ記入後、欠席の理由（医師の診断書等）を添えてクラス担任に提出する。

* クラス担任に押印してもらった後、当該試験期間の最終日から5日以内に教務課（学生支援センター）へ提出する。

* 追試験願提出後、受験許可された者は公示されるので、確認すること。

* 医師の診断書を提出する場合は、必ず加療期間を明記しておくこと。

3. 再試験（履修規程第9条）

定期試験において不合格となった者及び定期試験を欠席した者のうち追試験（履修規程第8条）に該当しない者に対して行う試験です。実施期間については、各学期行事予定表で通知します。科目によっては、再試験を行わないことがあります。シラバス（授業計画）に記載している成績評価方法を熟知しておいてください。

4. 4年次特別臨時試験（履修規定第10条）

4年次に配当する必修科目において追試験、再試験を不合格となった者及び欠席した者に対して行う試験です。受験科目数は2科目以下とし、必修科目が3科目以上未修得の場合は、全ての4

年次特別臨時試験を受験することができません。実施時期は、担当者及び教務課（学生支援センター）から伝達及び掲示で知らせます。科目によっては、4年次特別臨時試験を行わないことがあります。

5. 臨時試験（履修規程第11条）

自然災害などやむを得ない事由により通常の試験が実施できなかった時は臨時試験を実施します。その時は担当者及び教務課（学生支援センター）から伝達及び掲示で知らせます。

II. 追再試験及び4年次特別臨時試験の受験と放棄手続

1. 追試験の受験手続

受験を許可された者は、公示します。WEBシステムを利用して、受験手続きをしてください。手続の日程については、各学期行事予定表で通知します。

2. 再試験の受験と放棄手続

- (1) 定期試験結果発表後、WEBシステムを利用して受験手続きをしてください。
- (2) 受験を放棄する場合は、WEBシステムを利用して放棄の手続きをしてください。
- (3) 一旦申請した受験又は放棄の手続きの変更や取り消しは認められません。
- (4) 手続の日程については、各学期行事予定表で通知します。
- (5) 受験申請後、所定の期日に経理課へ受験料（1科目2,000円）を納入してください。

3. 4年次特別臨時試験の受験

再試験に準じて手続きをしてください。

*受験の手続きについてはP.22【通告】のとおりですので、各自が責任をもって手続きを怠らないようにしてください。

III. 受験の注意事項

1. 試験の受験資格

- (1) 受験できる科目は、「履修規程」による定められた手続きを行った科目に限ります。
- (2) 「学生証」を提示しない者は受験できません。「学生証」を忘れた場合は、学生就職課（学生支援センター）が発行した仮学生証を携帯して受験してください（履修規程第18条）。
- (3) 定期試験は、授業料が未納の者は受験できません（履修規程第7条第2項）。
- (4) 再試験及び4年次特別臨時試験は、受験料が未納の者は受験できません（履修規程第16条第1項）。

2. 受験に関する注意事項

- (1) 試験時間は、原則60分である。
- (2) 指定された試験室で受験すること。
- (3) 座席は「座席表」にて指定している。監督者の指示に従い着席すること。
- (4) 「学生証」は、机の上に提示すること。
試験開始後の「学生証」不携帯は、受験が無効となる場合があるので試験終了後、直ちに教務課（学生支援センター）まで出頭すること。
- (5) 体調不良等で途中退席が予想される場合やハンカチ又はティッシュ等を使用する場合は、できるだけ事前に教務課（学生支援センター）に申し出ておくこと。後は監督者の指示に従うこと。
- (6) 医務室受験はできない。
- (7) 試験の欠席は、必ず事前に教務課（学生支援センター）へ連絡すること。
- (8) 試験開始10分経過後は受験できない。
- (9) 試験終了時間まで退場は一切認めない。ただし、科目によっては試験開始25分経過後から試験終了時間10分前までに限り、退場を認める場合がある。（一旦退場した者は再入場できない）
- (10) 筆記用具（鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、定規類）以外のものは、各自の足元に置くこと。

また、試験開始後は筆記用具の貸借はしてはならない。

- (11) 事前に「持ち込み許可」の掲示が出された科目のみ、許可された物を机の上に置くことができる。ただし、試験開始後は持ち込みを許可されたものの貸借はしてはならない。
- (12) 英和訳、記憶装置等の特別な機能付きの計算機や時計等は持ち込むことができない。
- (13) 携帯電話の電源は、必ず切っておくこと。

3. 試験問題等に関する注意事項

- (1) 配付される試験用紙は、1種1枚ずつしか取ってはいけない。
- (2) 答案には直ちに、「学籍番号」「学年」「クラス」「出席番号」「氏名」を必ず記入すること。未記入の場合及び記入間違いがあった場合は、科目によっては減点や無効となることがある。十分注意し、必ず再確認をすること。
- (3) 試験科目によって問題形式が多様なため、試験開始前の監督者による注意事項を必ず確認すること。
- (4) 答案の提出は監督者の指示に従い、所定の場所に提出すること。一度提出した答案は加筆訂正できない。
- (5) 答案を試験室外に持ち出してはいけない。一度持ち出したものは当該科目の受験が無効となる。
- (6) マークカード方式の試験科目があるため、全科目、HBの鉛筆とプラスチック消しゴムを持参すること。
- (7) マークカード方式の試験で、学籍番号のマーク記入間違い及び未記入は、氏名の未記入として取り扱う。科目によっては減点や無効となることがある。十分注意し、必ず再確認をすること。
- (8) 試験問題における誤字、誤植に関する質問・確認は試験時間中に行うこと。試験時間終了後の誤字、誤植に関する問合せには一切応じない。

4. 不正行為

- (1) 不正行為とは
 - ①持ち込みを許可されていないものを持ち込んで使用すること。
 - ②持ち込み許可の物や筆記用具を貸借すること。
 - ③カンニングペーパーなどを用意すること。
 - ④他人の答案をのぞき見て写しとったり、写させたりすること。
 - ⑤試験内容について私語をすること。
 - ⑥配付されたもの以外の机上や手などへの書き込みや、疑われるような行動をすること。
 - ⑦試験中や試験終了後から答案回収までの間に、携帯電話、スマートフォンを扱うこと。
 - ⑧答案の未提出や、答案を試験室外に持ち出しすること。※「以上に類する行為をすること」、「監督者の指示に従わない行為をすること」なども不正行為に該当するとみなされますので、注意してください。
- (2) 不正行為に対する処置（履修規程第17条）
 - ①監督者が不正行為と判断したときは、直ちにその学生に試験の停止を命じる。
 - ②不正行為をした場合は、試験の種別にかかわらず、当該学期の既受験科目の成績はすべて不可とし、それ以降の当該学期のすべての試験を受験停止とする。
 - ③不正行為を行った者に対しては、学則に従い懲戒を行う。

成績について

1. 成績評価

定められた授業の講義、演習、実習、実技等に出席し、試験及びレポート等の提出により学習成果を総合的に評価し単位の認定をします。

1. 成績の表示（学則第13条）

成績は秀、優、良、可、不可をもって表示し、「秀」、「優」、「良」、「可」を合格、「不可」を不合格とします。

また、本学の成績はGPA（Grade Point Average）制度を導入し、成績評価を行っています。

所定の試験を受験しなかったり、授業に出席しなかったときなどは、評価の対象にならない場

合があります。

2. GPA (Grade Point Average) 制度

GPA 制度とは、各授業科目の成績を5段階（秀、優、良、可、不可）で評価し、各成績評価段階に4.0～0.0の評点（グレード・ポイント）を付与して、1単位あたりの評点平均値（グレード・ポイント・アベレージ）を算出する制度です。

GPA 制度は単位数という学修の「量」だけでなく、成績評価に基づく「質」を問うものです。GPAにより、学期毎の学修の成果がより明確となり、自らの履修管理に責任を持ち、履修する科目を自主的に、意欲的に学修することを目的としています。更に、各自の努力目標が具体的になることなどを狙いとしています。

なお、GPAは学習指導に用いられる他、ゼミ配属や奨学金などの様々な選考基準として採用しています。GPAは成績表及び保護者宛の成績通知書に記載します。

GPAの算出方法は次のとおりです。

区 分	評 価	成績評価基準	GPA	
			GP	
合格	秀	100～90点	4.0	総履修登録単位数を、分母として計算します。
	優	89～80点	3.0	
	良	79～70点	2.0	
	可	69～60点	1.0	
不合格	不可	59～0点	0.0	
評価不能	欠席等	試験未受験等により評価できないもの		
受験放棄	放棄	追再試験の受験届において放棄の手続きをしたもの	GPA計算対象外	
単位認定	認定	転編入学や他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したもの		

(注1) 追試験の評価は優、良、可、不可をもって表示する。

(注2) 再試験の評価は可、不可をもって表示する。

【GPA 算出方法】

$$\text{GPA} = \frac{4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数(不可・欠席等の単位数を含む.)}}$$

(注1) 「放棄」、「認定」の科目は、計算式に含みません。また、薬学共用試験など卒業所要単位に算入しない科目は、GPAの算出の対象としません。

(注2) GPAは、追再試験終了後の最終評価を用いて算出します。

(注3) GPAは、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で算出します。

II. 成績発表（「学生の手引」学生心得細則第10条参照）

1. 発表方法について

(1) 試験ごとにWebシステムにより発表します。発表日については行事予定表及び掲示で知らせます。

(2) 各期の追再試験成績発表後、保護者宛に「成績通知書」を送付します。

2. 成績結果の問い合わせについて

成績発表日から、10日以内まで授業科目担当者に成績を問い合わせることが可能です。ただし、担当者が非常勤講師の場合は、問い合わせはできません。

留年学生について

履修規程第13条に規定する学年ごとの進級要件を充足しなかった場合は留年となります。

I. 科目の履修

留年学生の履修は、履修規程第14条の規定を適用します。

1. 留年した学年次における未修得科目の履修について

- (1) 未修得科目が必修科目の場合は、必ずその科目を再履修しなければなりません。すなわち、その科目の授業に再び出席し、定期試験から受験しなければなりません。
- (2) 未修得科目が選択科目の場合は、必ずしもその科目を再履修する必要はありません。ただし、進級要件又は卒業要件単位数不足の場合は、再履修するか、新たな選択科目を履修しなければなりません。

2. 留年した学年次における翌年次科目の履修について

(1) 履修許可条件及び単位認定について

①下記5項目に基づき、審議の上、履修を認めることがあります

- ・履修にあたっては、上記1で再履修又は新規履修科目が決定した後、時間割上で重複しない科目に限る。
- ・当該クラスで受講できる科目であること。
- ・履修を希望する科目担当者の許可が得られた科目であること。
- ・許可科目数は年間5科目を上限とする。
- ・実習（実務実習事前教育を含む）、演習、卒業研究、総合薬学講座は除く。

②単位は、単位修得時に認定します。ただし、翌年次への進級要件には単位加算はしません。

③単位修得科目は、再履修も可能です。再履修の結果によっては、成績評価の高い方を最終成績とします。

④単位を修得できなかった場合は、その学年次進級後に改めて履修しなければなりません。

(2) 科目履修願の手續について

①留年学生の履修ガイダンスにおいて、翌年次科目の履修について説明します。

②「科目履修願」を所定の期日までに、教務課（学生支援センター）へ提出しなければなりません。

③審議の上、履修許可された科目については、履修登録をしなければなりません。

II. 履修登録

1. 必修科目について

未修得科目はすべて履修登録の手続きをしなければなりません。

2. 選択科目について

単位を修得するためには、必ず履修登録の手続きが必要です。

3. 上位学年の科目について

履修許可された科目についてのみ、履修登録することができます。

4. 履修登録科目の確認について

(1) 履修登録科目の確認期間を設けるので、Webで登録確認を行ってください。

(2) 登録内容に誤りがある場合は、この期間に申し出てください。

(3) 確認期間後の訂正はできません。

5. 履修登録科目の受験について

- (1) 履修登録された科目は定期試験を受けることができます。
- (2) 定期試験で、不可となった科目については、所定の期間内に再試験の受験又は放棄の手続きを行ってください。
- (3) 手続きを怠った場合や期間後の訂正はできません。

薬学共用試験について（履修規程第 12 条）

薬学共用試験とは、長期実務実習（5 年次通年「病院実習（11 週間）」、「薬局実習（11 週間）」を履修するために必要な知識、技能及び態度が備わっているかを評価する試験です。この試験に合格しなければ、長期実務実習（病院実習・薬局実習）に行くことができません。

また、薬学共用試験には、CBT（Computer Based Testing）と OSCE（Objective Structured Clinical Examination）という 2 種類の試験があります。

「CBT」とはコンピュータを使用して知識を評価します。具体的にはコンピュータによりランダムに出題される問題を解答します。全員が同じ問題を解くわけではありません。

「OSCE」とは技能、態度を評価する客観的臨床能力試験です。本学の薬学臨床教育センターにおいて、模擬薬局、調剤室、演習室、講義室等を利用し、「患者応対、薬剤の調製（1）、薬剤の調製（2）、調剤鑑査、無菌操作の実践、情報の提供」の 6 つのステーションを順次巡回する形式で臨床能力を評価する試験を行う予定です。各ステーションで 1 人 1 人の学生に対して「試験」が行われます。

（薬学共用試験の実施時期）

薬学共用試験（CBT、OSCE）は、4 年次後期に行います。

試験の実施時期は、次のとおり予定しています。

- ・薬学共用試験（CBT）：本試験（1 月）、追再試験（2 月）
- ・薬学共用試験（OSCE）：本試験（12 月）、追再試験（2 月）

（薬学共用試験に不合格となった場合）

薬学共用試験「CBT」と「OSCE」の 2 種類の試験に合格しなければ、5 年次「病院実習」、「薬局実習」を履修できません。薬学共用試験合格の有効期限は 1 年間ですので、翌年度にあらためて「CBT」と「OSCE」の両方を再受験しなければなりません。

薬学教育モデル・ コアカリキュラム関連図

授業科目及び 単位年次配当表

1年次生適用

授業科目及び単位年次配当表

授業科目名		単位	開講年次および単位数												備 考				
			1年		2年		3年		4年		5年		6年						
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
基礎 教育 科目	必修	数学Ⅰ	1	1															
		数学Ⅱ	1		1														
		統計学Ⅰ	1			1													
		統計学Ⅱ	1				1												
		物理学	1	1															
		基礎化学	1	1															
		基礎生命科学	1	1															
		情報リテラシー	1	1														演習科目	
		教養リテラシー	1	1														演習科目	
		薬学英语入門Ⅰ	1					1											
		薬学英语入門Ⅱ	1						1										
		小 計	11	6	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
教養 教育 科目	必修	英語Ⅰ	1	1															
		英語Ⅱ	1	1															
		英語Ⅲ	1		1														
		英語Ⅳ	1		1														
		英語Ⅴ	1			1													
		英語Ⅵ	1				1												
		総合文化演習	2			2													演習科目
		小 計	8	2	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	選 択	ドイツ語Ⅰ	1	1															
		ドイツ語Ⅱ	1		1														
		中国語Ⅰ	1	1															
		中国語Ⅱ	1		1														
		韓国語Ⅰ	1	1															
		韓国語Ⅱ	1		1														
		実用英語	1			1													
		数学の情緒	1		1														
		線形代数	1	1		1													1～2年共通科目
		グラフ理論	1		1														
		アメリカ文化論	1	1		1													1～2年共通科目
		アジア文化論	1	1		1													1～2年共通科目
		日本文化論	1	1		1													1～2年共通科目
		異文化理解	1		1														
		英語の歴史	1	1		1													1～2年共通科目
		現代の音楽	1		1														
		医療と人間	1		1														
コミュニケーション論		1		1															
社会心理学	1	1		1													1～2年共通科目		
現代社会論	1	1		1													1～2年共通科目		
消費者行動論	1		1																
薬局経営論	1		1																
医薬品企業論	1	1		1													1～2年共通科目		
医薬経済学	1	1		1													1～2年共通科目		
生活情報論	1	1		1													1～2年共通科目		
	小 計	25	13	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考			
		1年		2年		3年		4年		5年		6年					
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
薬学入門	1	1															
社会薬学	1	1															
人の行動と心理	1		1														
医療コミュニケーション	1			1													
医療倫理学	1					1											
薬事関係法規・薬事制度	1							1									
医薬品開発 I	1							1									
社会保障制度と薬剤経済	1							1									
地域医療・プライマリケア論	1							1									
物理化学 I	1		1														
物理化学 II	1			1													
物理化学 III	1				1												
放射化学	1				1												
分析化学 I	1		1														
分析化学 II	1			1													
分析化学 III	1						1										
無機・錯体化学	1		1														
有機化学 I	1	1															
有機化学 II	1		1														
有機化学 III	1			1													
有機化学 IV	1				1												
構造解析学 I	1				1												
医薬品化学	1					1											
合成化学 I	1						1										
有機化学演習	1					1											
生薬学	1		1														
生薬化学	1			1													
生化学 I	1	1															
生化学 II	1		1														
生化学 III	1				1												
分子生物学 I	1			1													
分子生物学 II	1						1										
機能形態学	1		1														
微生物学 I	1		1														
微生物学 II	1			1													
免疫学	1				1												
衛生薬学 I	1				1												
衛生薬学 II	1					1											
衛生薬学 III	1						1										
環境衛生学	1				1												
薬理学 I	1			1													
薬理学 II	1				1												
薬理学 III	1					1											
医薬品毒性学	1							1									

専門教育科目（講義）

必修

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考				
		1年		2年		3年		4年		5年		6年						
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
必修	臨床生化学	1					1											
	内分泌学	1					1											
	感染制御学Ⅰ	1			1													
	薬物治療学Ⅰ	1				1												
	薬物治療学Ⅱ	1					1											
	薬物治療学Ⅲ	1					1											
	薬物治療学Ⅳ	1						1										
	薬物治療演習	1							1									
	漢方医学	1							1									
	医薬品情報学	1							1									
	医療統計学Ⅰ	1					1											
	臨床薬剤学Ⅰ	1							1									
	薬物動態学Ⅰ	1					1											
	薬物動態学Ⅱ	1						1										
	創薬物理薬剤学	1					1											
	薬剤設計学	1						1										
	調剤学Ⅰ	1					1											
	調剤学Ⅱ	1						1										
	安全管理医療	1							1									
	OTCヘルスクエ論	1							1									
先端医療論	1													1				
小 計	65	4	9	8	10	12	9	12	0	0	0	0	1	0				
選択	医薬品構造学	1			1													
	薬用資源学	1				1												
	生物物理化学	1				1												
	放射線管理学	1				1												
	医療統計学Ⅱ	1					1											
	アイトソープ演習	1				1		1										
	実用薬学英語	2							2									
	実用医療英語	2							2									
	臨床栄養学	1							1									
	化粧品学	1							1									
	キャリアデザイン講座	1							1									
	合成化学Ⅱ	1								1								集中授業
	構造解析学Ⅱ	1								1								集中授業
	在宅医療	1								1								
	高齢者医療	1								1								
	研究リテラシー	1								1								
	臨床薬剤学Ⅱ	1												1				
	補完代替医療	1												1				選択必修科目
	医薬品開発Ⅱ	1												1				6年次開講科目のうち、2単位以上修得すること
	がん化学療法論	1												1				
感染制御学Ⅱ	1												1					
レギュレーターサイエンス	1												1					
小 計	24	0	0	0	1	4	1	4	9	0	0	0	6	0				

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考		
		1年		2年		3年		4年		5年		6年				
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
早期体験学習	2	2														
基礎化学実習	1		1													
医療コミュニケーション演習	1			1												
医療倫理学演習	1					1										
物理化学実習	1			1												
分析化学実習	1			1												
有機化学実習	1			1												
機器分析学実習	1					1										
医薬品化学実習	1						1									
生薬学実習	1				1											
微生物学実習	1				1											
生化学実習	1					1										
衛生薬学実習	1					1										
薬理学実習	1						1									
臨床生化学実習	1						1									
薬剤学・製剤学実習	1						1									
実務実習事前教育	4							4								
病院実習	10									10						
薬局実習	10									10						
基礎薬学演習	3								3							
処方解析	4											4				
総合薬学講座	10													10		
卒業研究A	23									23						選択必修科目
卒業研究B	18									18						卒業研究A or 卒業研究B+薬学演習
薬学演習	5											5				
小 計	104	0	3	2	4	3	5	0	7	0	20	50	10			
選 択	初期体験臨床実習	1	1													神戸大学連携科目
	海外薬学研修	1						1		1						4～5年共通科目
	インターンシップ	1							1		1					4～5年共通科目
	IPW演習	1									1					神戸大学連携科目
	在宅医療演習	1									1					
	健康食品	1							1		1					認定科目
	語学検定	1							1		1		1			認定科目
	実践薬学	1							1		1		1			認定科目
	Student CASP ワークショップ	1							1		1		1			認定科目
	アクティブ・ラボ	1		1	1	1	1	1								1～3年共通科目
小 計	10	0	2	1	1	1	1	1	5	1	7	0	3			

卒 業 要 件

	必修科目	選択科目	計
基礎教育科目	11	0	11
教養教育科目	8	8	16
専門教育科目	146	13 ※	159
計	165	21	186

※ 選択必修科目2単位を含む

授業科目及び 単位年次配当表

2年次生適用

授業科目及び単位年次配当表

授業科目名		単位	開講年次および単位数												備 考			
			1年		2年		3年		4年		5年		6年					
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
基礎 教育 科目	必 修	数学Ⅰ	1	1														
		数学Ⅱ	1		1													
		統計学Ⅰ	1			1												
		統計学Ⅱ	1				1											
		物理学	1	1														
		基礎化学	1	1														
		基礎生命科学	1	1														
		情報リテラシー	1	1														演習科目
		教養リテラシー	1	1														演習科目
		薬学英語入門Ⅰ	1					1										
		薬学英語入門Ⅱ	1						1									
小 計		11	6	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0			
教養 教育 科目	必 修	英語Ⅰ	1	1														
		英語Ⅱ	1	1														
		英語Ⅲ	1		1													
		英語Ⅳ	1		1													
		英語Ⅴ	1			1												
		英語Ⅵ	1				1											
		総合文化演習	2				2										演習科目	
	小 計		8	2	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	選 択	ドイツ語Ⅰ	1	1														
		ドイツ語Ⅱ	1		1													
		中国語Ⅰ	1	1														
		中国語Ⅱ	1		1													
		韓国語Ⅰ	1	1														
		韓国語Ⅱ	1		1													
		実用英語	1			1												
		数学の情緒	1		1													
		線形代数	1	1		1											1～2年共通科目	
		グラフ理論	1		1													
		アメリカ文化論	1	1		1											1～2年共通科目	
		アジア文化論	1	1		1											1～2年共通科目	
		日本文化論	1	1		1											1～2年共通科目	
		異文化理解	1		1													
		英語の歴史	1	1		1											1～2年共通科目	
		現代の音楽	1		1													
		医療と人間	1		1													
コミュニケーション論		1		1														
社会心理学	1	1		1											1～2年共通科目			
現代社会論	1	1		1											1～2年共通科目			
消費者行動論	1		1															
薬局経営論	1		1															
医薬品企業論	1	1		1											1～2年共通科目			
医薬経済学	1	1		1											1～2年共通科目			
生活情報論	1	1		1											1～2年共通科目			
小 計		25	13	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考			
		1年		2年		3年		4年		5年		6年					
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
薬学入門	1	1															
社会薬学	1	1															
人の行動と心理	1		1														
医療コミュニケーション	1			1													
医療倫理学	1					1											
薬事関係法規・薬事制度	1							1									
医薬品開発 I	1							1									
社会保障制度と薬剤経済	1							1									
地域医療・プライマリケア論	1							1									
物理化学 I	1		1														
物理化学 II	1			1													
物理化学 III	1				1												
放射化学	1				1												
分析化学 I	1		1														
分析化学 II	1			1													
分析化学 III	1						1										
無機・錯体化学	1		1														
有機化学 I	1	1															
有機化学 II	1		1														
有機化学 III	1			1													
有機化学 IV	1				1												
構造解析学 I	1				1												
医薬品化学	1					1											
合成化学 I	1						1										
有機化学演習	1					1											
生薬学	1		1														
生薬化学	1			1													
生化学 I	1	1															
生化学 II	1		1														
生化学 III	1				1												
分子生物学 I	1			1													
分子生物学 II	1						1										
機能形態学	1		1														
微生物学 I	1		1														
微生物学 II	1			1													
免疫学	1				1												
衛生薬学 I	1				1												
衛生薬学 II	1					1											
衛生薬学 III	1						1										
環境衛生学	1				1												
薬理学 I	1			1													
薬理学 II	1				1												
薬理学 III	1					1											
医薬品毒性学	1							1									

専門教育科目（講義）
必修

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考				
		1年		2年		3年		4年		5年		6年						
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
必修	臨床生化学	1					1											
	内分泌学	1					1											
	感染制御学Ⅰ	1			1													
	薬物治療学Ⅰ	1				1												
	薬物治療学Ⅱ	1					1											
	薬物治療学Ⅲ	1					1											
	薬物治療学Ⅳ	1						1										
	薬物治療演習	1							1									
	漢方医学	1							1									
	医薬品情報学	1							1									
	医療統計学Ⅰ	1					1											
	臨床薬剤学Ⅰ	1							1									
	薬物動態学Ⅰ	1					1											
	薬物動態学Ⅱ	1						1										
	創薬物理薬剤学	1					1											
	薬剤設計学	1						1										
	調剤学Ⅰ	1					1											
	調剤学Ⅱ	1						1										
	安全管理医療	1							1									
	OTCヘルスクエ論	1							1									
先端医療論	1													1				
小 計	65	4	9	8	10	12	9	12	0	0	0	1	0					
選択	医薬品構造学	1			1													
	薬用資源学	1				1												
	生物物理化学	1				1												
	放射線管理学	1				1												
	医療統計学Ⅱ	1					1											
	アイトソープ演習	1				1		1										
	実用薬学英語	2							2									
	実用医療英語	2							2									
	臨床栄養学	1							1									
	化粧品学	1							1									
	キャリアデザイン講座	1							1									
	合成化学Ⅱ	1								1								集中授業
	構造解析学Ⅱ	1								1								集中授業
	在宅医療	1								1								
	高齢者医療	1								1								
	研究リテラシー	1								1								
	臨床薬剤学Ⅱ	1												1				
	補完代替医療	1												1				選択必修科目
	医薬品開発Ⅱ	1												1				6年次開講科目のうち、2単位以上修得すること
	がん化学療法論	1												1				
感染制御学Ⅱ	1												1					
レギュラトリーサイエンス	1												1					
小 計	24	0	0	0	1	4	1	4	9	0	0	6	0					

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考		
		1年		2年		3年		4年		5年		6年				
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
早期体験学習	2	2														
基礎化学実習	1		1													
医療コミュニケーション演習	1				1											
医療倫理学演習	1						1									
物理化学実習	1				1											
分析化学実習	1				1											
有機化学実習	1				1											
機器分析学実習	1						1									
医薬品化学実習	1							1								
生薬学実習	1					1										
微生物学実習	1					1										
生化学実習	1						1									
衛生薬学実習	1						1									
薬理学実習	1							1								
臨床生化学実習	1							1								
薬剤学・製剤学実習	1							1								
実務実習事前教育	4								4							
病院実習	10										10					
薬局実習	10										10					
基礎薬学演習	3									3						
処方解析	4												4			
総合薬学講座	10													10		
卒業研究A	23										23					選択必修科目
卒業研究B	18										18					卒業研究A or 卒業研究B+薬学演習
薬学演習	5												5			
小 計	104	0	3	2	4	3	5	0	7	0	20	50	10			
選 択	初期体験臨床実習	1	1													神戸大学連携科目
	海外薬学研修	1						1		1						4～5年共通科目
	インターンシップ	1							1		1					4～5年共通科目
	IPW演習	1									1					神戸大学連携科目
	在宅医療演習	1									1					
	健康食品	1							1		1					認定科目
	語学検定	1							1		1		1			認定科目
	実践薬学	1							1		1		1			認定科目
	Student CASP ワークショップ	1							1		1		1			認定科目
	アクティブ・ラボ	1		1	1	1	1	1								1～3年共通科目
小 計	10	0	2	1	1	1	1	1	5	1	7	0	3			

卒 業 要 件

	必修科目	選択科目	計
基礎教育科目	11	0	11
教養教育科目	8	8	16
専門教育科目	146	13 ※	159
計	165	21	186

※ 選択必修科目2単位を含む

授業科目及び 単位年次配当表

3年次生適用

授業科目及び単位年次配当表
(薬学教育モデル・コアカリキュラム対応表)

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考	コアカリキュラム対応欄				
		1年		2年		3年		4年		5年		6年							
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後						
基礎 教育 科目	数 学 I	1	1														F6		
	数 学 II	1		1													F6		
	統計学 I	1			1												F6		
	統計学 II	1				1											F6		
	物理学	1	1														F3		
	基礎化学	1	1														F4,C1-1		
	生命科学入門	1	1														F5,C8-2		
	情報リテラシー	1	1														演習科目	F7	
	教養リテラシー	1	1															演習科目	F8
	薬学英語入門 I	1					1											F2	
	薬学英語入門 II	1						1										F2	
小 計	11	6	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0				
教養 教育 科目	英語 I	1	1															F1	
	英語 II	1	1															F1	
	英語 III	1		1														F1	
	英語 IV	1		1														F1	
	英語 V	1			1													F1	
	英語 VI	1				1												F1	
	総合文化演習	2				2												演習科目	F1
	小 計	8	2	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	ドイツ語 I	1	1																F1
	ドイツ語 II	1		1															F1
	中国語 I	1	1																F1
	中国語 II	1		1															F1
	韓国語 I	1	1																F1
	韓国語 II	1		1															F1
	実用英語	1			1														F1
	数学の情緒A	1	1																F1
	数学の情緒B	1		1															F1
	線形代数	1	1		1													1～2年共通科目	F1
	グラフ理論	1		1															F1
	アメリカ文化論	1	1		1													1～2年共通科目	F1
	アジア文化論	1	1		1													1～2年共通科目	F1
日本文化論	1	1		1													1～2年共通科目	F1	
異文化理解	1		1															F1	
言語と文化	1	1																F1	
英語の歴史	1	1		1													1～2年共通科目	F1	
現代の音楽	1		1															F1	
医療と人間	1		1															F1	
コミュニケーション論	1		1															F1	
社会心理学	1	1		1													1～2年共通科目	F1	
現代社会論	1	1		1													1～2年共通科目	F1	
消費者行動論	1		1															F1	
薬局経営論	1		1															F1	
生活情報論	1	1		1													1～2年共通科目	F1	
医薬品企業論	1	1		1													1～2年共通科目	F1	
医薬経済学	1			1														F1	
小 計	27	14	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備考	コアカリキュラム対応欄		
		1年		2年		3年		4年		5年		6年					
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
社会薬学Ⅰ	1	1															C17-1,C18-1,3,B1
社会薬学Ⅱ	1		1														A1,A2,C18-1
生命倫理学	1					1											A1,A2
医療倫理学	1						1										A1
臨床心理学	1							1									A3
薬学入門	1	1															B1
物理化学Ⅰ	1		1														C1-4
物理化学Ⅱ	1			1													C1-2
物理化学Ⅲ	1				1												C1-3
物理化学Ⅳ	1					1											C1-3,C3-2
放射化学	1				1												C1-1,C2-3,C12-1,2
分析化学Ⅰ	1		1														C2-1
分析化学Ⅱ	1			1													C2-2,C3-1
分析化学Ⅲ	1				1												C2-2,3,C3-1
無機・錯体化学	1		1														C4-1
有機化学Ⅰ	1	1															C4-1,2
有機化学Ⅱ	1		1														C4-2,3
有機化学Ⅲ	1		1														C4-3
有機化学Ⅳ	1			1													C4-3,C5-1,2
構造解析学	1			1													C3-1,C4-4
生物有機化学	1				1												C6-1
医薬品化学	1					1											C6-2
精密有機合成化学	1							1									C5-2
有機化学演習	1				1												C4-1~3,C5-2
薬用資源学	1	1															C7-1
生薬学	1		1														C7-1,2
生薬化学	1				1												C7-1,2
漢方医学	1							1									C7-3
機能形態学	1			1													C8-1~3
生化学Ⅰ	1		1														C9-1
生化学Ⅱ	1			1													C9-3,5
生化学Ⅲ	1				1												C9-4
分子生物学Ⅰ	1			1													C9-2
分子生物学Ⅱ	1						1										C9-6,C17-3
微生物学Ⅰ	1			1													C8-4
微生物学Ⅱ	1				1												C10-3
免疫学	1					1											C10-1,2
衛生薬学Ⅰ	1				1												C11-1
衛生薬学Ⅱ	1					1											C11-2,3
衛生薬学Ⅲ	1						1										C12-1
環境衛生学	1				1												C12-1,2
薬理学Ⅰ	1				1												C13-1,2
薬理学Ⅱ	1					1											C13-2,3
薬理学Ⅲ	1						1										C13-2,3
医薬品毒性学	1					1											C13-1
薬物動態学Ⅰ	1					1											C13-4
薬物動態学Ⅱ	1						1										C13-5
臨床薬物動態学	1							1									C13-5,C15-3
臨床検査学Ⅰ	1					1											C2-3,C14-1
臨床検査学Ⅱ	1						1										C14-1
内分泌学	1						1										C9-5,C13-3,C14-3

専門教育科目（講義）
 必修

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備考	コアカリキュラム対応欄				
		1年		2年		3年		4年		5年		6年							
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後						
専門教育科目（講義）	必修	感染制御学	1					1										C10-3,C14-5	
		薬物治療学Ⅰ	1					1										C14-1	
		薬物治療学Ⅱ	1					1										C14-2,4,5	
		薬物治療学Ⅲ	1					1										C14-1~4	
		薬物治療学Ⅳ	1						1									C14-2,4,5	
		薬物治療学Ⅴ	1						1									C14-1~4	
		医薬品情報学	1						1									C15-1~3	
		安全管理医療	1						1									D1	
		調剤学Ⅰ	1					1										D1	
		調剤学Ⅱ	1						1									A3,D1	
	創薬物理薬剤学	1				1											C16-1		
	薬剤設計学Ⅰ	1					1										C16-2		
	薬剤設計学Ⅱ	1						1									C16-3,C17-1		
	医薬品開発Ⅰ	1						1									C17-1,4		
	医薬品開発Ⅱ	1						1									C17-2		
	先端医療論	1											1				C17-3		
	医療統計学Ⅰ	1					1										C11-2,C17-5		
	薬事関係法規・薬事制度	1						1									C18-1		
	社会保障制度と薬剤経済	1						1									C18-2		
	OTCヘルスクエア論	1						1									A2,A3,C18-3		
小計	71	4	8	8	12	12	12	14	0	0	0	1	0						
選択	実用薬学英語	2							2								G1		
	実用医療英語	2							2								G1		
	放射線管理学	1					1										C1-1,C2-3,C12-1		
	創薬化学	1										1					C17-2		
	臨床栄養学	1						1									C11-1,C15-3		
	化粧品学	1						1											
	キャリアデザイン講座	1						1											
	テーラーメイド医療	1											1				C15-3		
	補完代替医療	1											1				A3,C18-3		
	医療統計学Ⅱ	1						1									C17-5		
小計	12	0	0	0	0	1	1	3	4	0	0	3	0						
専門教育科目（実習等）	必修	早期体験学習	2	2														B2	
		基礎化学実習	1		1													F4,C2-1	
		物理化学系実習	1				1											C1-1~4,C3-1,2	
		分析化学系実習	1			1												F4,C2-2	
		有機化学系Ⅰ実習	1		1													C2-2,C4-3,C5-1,2	
		有機化学系Ⅱ実習	1				1											C4-3,C5-1,2	
		有機化学系Ⅲ実習	1					1										C4-4	
		生薬化学実習	1			1												C7-1,2,3	
		生物学系Ⅰ実習	1					1										C9-1,3,6	
		生物学系Ⅱ実習	1						1									C8-4	
		衛生薬学系実習	1					1										C11-1~3,C12-1,2	
		薬理学実習	1						1									C13-1,2	
		臨床検査実習	1						1									C14-1	
		薬剤学・製剤学実習	1						1									C13-4,5,C16-1,2	
		実務実習事前教育	4							4									D1
		病院実習	10									10							D2
薬局実習	10									10							D2		

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備考	コアカリキュラム対応欄		
		1年		2年		3年		4年		5年		6年					
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
必修	基礎薬学演習	3							3								
	処方解析学	1											1				E2
	処方解析演習	4												4			E2
	総合薬学講座	10													10		
	卒業研究Ⅰ	6							6								E1
	卒業研究Ⅱ	12									12						E1
	卒業研究ⅢA	8												8		選択必修科目	E1
	卒業研究ⅢB	3												3		卒業研究ⅢA or 卒業研究ⅢB+薬学演習	E1
	薬学演習	5												5			
小計	91	0	4	2	2	3	4	0	13	0	32	21	10				
選択	初期体験臨床実習	1	1														神戸大学連携科目
	海外薬学研修	1						1		1							4～5年共通科目 G2
	インターンシップ	1							1	1							4～5年共通科目 G7
	IPW演習	1									1						神戸大学連携科目
	語学検定	1				1		1		1		1					認定科目
	健康食品	1						1		1							認定科目
	実践薬学	1						1		1		1					認定科目
	Student CASP ワークショップ	1									1		1				認定科目
小計	8	0	1	0	0	0	1	1	4	1	6	0	3				

卒業要件

	必修科目	選択科目	計
基礎教育科目	11	0	11
教養教育科目	8	8	16
専門教育科目	154	5	159
計	173	13	186

授業科目及び 単位年次配当表

4年次生適用

授業科目及び単位年次配当表

(薬学教育モデル・コアカリキュラム対応表)

授業科目名		単位	開講年次および単位数												備考	コアカリキュラム対応欄	
			1年		2年		3年		4年		5年		6年				
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎 教育 科目	数 学 I	1	1														F6
	数 学 II	1		1													F6
	統計学 I	1			1												F6
	統計学 II	1				1											F6
	物理学	1	1														F3
	基礎化学	1	1														F4,C1-1
	生命科学入門	1	1														F5,C8-2
	情報リテラシー	1	1													演習科目	F7
	教養リテラシー	1	1													演習科目	F8
	薬学英語入門 I	1					1										F2
	薬学英語入門 II	1						1									F2
小 計	11	6	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
必 修	英語 I	1	1														F1
	英語 II	1	1														F1
	英語 III	1		1													F1
	英語 IV	1		1													F1
	英語 V	1			1												F1
	英語 VI	1				1											F1
	総合文化演習	2			2											演習科目	F1
小 計	8	2	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
教 養 教育 科目	ドイツ語 I	1	1														F1
	ドイツ語 II	1		1													F1
	中国語 I	1	1														F1
	中国語 II	1		1													F1
	韓国語 I	1	1														F1
	韓国語 II	1		1													F1
	実用英語	1			1												F1
	数学の情緒A	1	1		1										1～2年共通科目		F1
	数学の情緒B	1		1													F1
	線形代数	1	1		1										1～2年共通科目		F1
	グラフ理論	1		1													F1
	アメリカ文化論	1	1		1										1～2年共通科目		F1
	アジア文化論	1	1		1										1～2年共通科目		F1
	日本文化論	1	1		1										1～2年共通科目		F1
	異文化理解	1		1													F1
	言語と文化	1	1		1										1～2年共通科目		F1
	英語の歴史	1	1		1										1～2年共通科目		F1
	現代の音楽	1		1													F1
	医療と人間	1		1													F1
	ヒューマンケア論入門	1	1														F1
	コミュニケーション論	1		1													F1
	社会心理学	1	1		1										1～2年共通科目		F1
	現代社会論	1	1		1										1～2年共通科目		F1
	現代広告論	1	1														F1
	消費者行動論	1		1													F1
	薬局経営論	1		1													F1
	生活情報論	1			1												F1
	医薬品企業論	1			1												F1
小 計	28	14	11	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備考	コアキョラム対応欄		
		1年		2年		3年		4年		5年		6年					
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
社会薬学Ⅰ	1	1															C17-1,C18-1,3,B1
社会薬学Ⅱ	1		1														A1,A2,C18-1
生命倫理学	1					1											A1,A2
医療倫理学	1						1										A1
臨床心理学	1							1									A3
薬学入門	1	1															B1
物理化学Ⅰ	1		1														C1-4
物理化学Ⅱ	1			1													C1-2
物理化学Ⅲ	1				1												C1-3
物理化学Ⅳ	1					1											C1-3,C3-2
放射化学	1				1												C1-1,C2-3,C12-1,2
分析化学Ⅰ	1		1														C2-1
分析化学Ⅱ	1			1													C2-2,C3-1
分析化学Ⅲ	1				1												C2-2,3,C3-1
無機・錯体化学	1		1														C4-1
有機化学Ⅰ	1	1															C4-1,2
有機化学Ⅱ	1		1														C4-2,3
有機化学Ⅲ	1		1														C4-3
有機化学Ⅳ	1			1													C4-3,C5-1,2
構造解析学	1			1													C3-1,C4-4
生物有機化学	1				1												C6-1
医薬品化学	1					1											C6-2
精密有機合成化学	1						1										C5-2
有機化学演習	1				1												C4-1~3,C5-2
薬用資源学	1	1															C7-1
生薬学	1		1														C7-1,2
生薬化学	1				1												C7-1,2
漢方医学	1							1									C7-3
機能形態生理学	1			1													C8-1~3
生化学Ⅰ	1		1														C9-1
生化学Ⅱ	1			1													C9-3,5
生化学Ⅲ	1				1												C9-4
分子生物学Ⅰ	1			1													C9-2
分子生物学Ⅱ	1					1											C9-6,C17-3
微生物学Ⅰ	1			1													C8-4
微生物学Ⅱ	1				1												C10-3
免疫学	1					1											C10-1,2
衛生薬学Ⅰ	1				1												C11-1
衛生薬学Ⅱ	1					1											C11-2,3
衛生薬学Ⅲ	1						1										C12-1
環境衛生学	1				1												C12-1,2
薬理学Ⅰ	1				1												C13-1,2
薬理学Ⅱ	1					1											C13-2,3
薬理学Ⅲ	1						1										C13-2,3
医薬品毒性学	1					1											C13-1
薬物動態学Ⅰ	1					1											C13-4
薬物動態学Ⅱ	1						1										C13-5
臨床薬物動態学	1							1									C13-5,C15-3
臨床検査学Ⅰ	1					1											C2-3,C14-1

専門教育科目（講義）
必修

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考	コアキョラム対応欄			
		1年		2年		3年		4年		5年		6年						
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
専門教育科目（講義）	臨床検査学Ⅱ	1					1											C14-1
	内分泌学	1					1											C9-5,C13-3,C14-3
	感染制御学	1					1											C10-3,C14-5
	薬物治療学Ⅰ	1					1											C14-1
	薬物治療学Ⅱ	1					1											C14-2,4,5
	薬物治療学Ⅲ	1					1											C14-1~4
	薬物治療学Ⅳ	1						1										C14-2,4,5
	薬物治療学Ⅴ	1						1										C14-1~4
	医薬品情報学	1						1										C15-1~3
	安全管理医療	1						1										D1
	調剤学Ⅰ	1					1											D1
	調剤学Ⅱ	1					1											A3,D1
	創薬物理薬剤学	1				1												C16-1
	薬剤設計学Ⅰ	1					1											C16-2
	薬剤設計学Ⅱ	1						1										C16-3,C17-1
	医薬品開発Ⅰ	1						1										C17-1,4
	医薬品開発Ⅱ	1						1										C17-2
	先端医療論	1											1					C17-3
	医療統計学Ⅰ	1					1											C11-2,C17-5
	薬事関係法規・薬事制度	1						1										C18-1
	社会保障制度と薬剤経済	1						1										C18-2
	OTCヘルスクエア論	1						1										A2,A3,C18-3
	小 計	71	4	8	8	12	12	12	14	0	0	0	1	0				
	専門教育科目（講義）	実用薬学英语	2							2								
実用医療英語		2							2									G1
放射線管理学		1					1											C1-1,C2-3,C12-1
創薬化学		1										1						C17-2
臨床栄養学		1						1										C11-1,C15-3
化粧品学		1						1										
キャリアデザイン講座		1						1										
テーラーメイド医療		1											1					C15-3
補完代替医療		1											1					A3,C18-3
医療統計学Ⅱ		1						1										C17-5
小 計	12	0	0	0	0	1	1	3	4	0	0	3	0					
専門教育科目（実習等）	早期体験学習	2	2															B2
	基礎化学実習	1		1														F4,C2-1
	物理化学系実習	1				1												C1-1~4,C3-1,2
	分析化学系実習	1			1													F4,C2-2
	有機化学系Ⅰ実習	1		1														C2-2,C4-3,C5-1,2
	有機化学系Ⅱ実習	1				1												C4-3,C5-1,2
	有機化学系Ⅲ実習	1				1												C4-4
	生薬化学実習	1			1													C7-1,2,3
	生物学系Ⅰ実習	1				1												C9-1,3,6
	生物学系Ⅱ実習	1					1											C8-4
	衛生薬学系実習	1					1											C11-1~3,C12-1,2
	薬理学実習	1						1										C13-1,2
	臨床検査実習	1						1										C14-1
	薬剤学・製剤学実習	1						1										C13-4,5,C16-1,2
	実務実習事前教育	4							4									D1

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備考	コアカリキュラム対応欄		
		1年		2年		3年		4年		5年		6年					
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
必修 専門教育科目 (実習等)	病院実習	10											10				D2
	薬局実習	10											10				D2
	基礎薬学演習	3							3								
	処方解析学	1												1			E2
	処方解析演習	4												4			E2
	総合薬学講座	10													10		
	卒業研究Ⅰ	6							6								E1
	卒業研究Ⅱ	12								12							E1
	卒業研究ⅢA	8												8		選択必修科目	E1
	卒業研究ⅢB	3												3		卒業研究ⅢA or 卒業研究ⅢB+薬学演習	E1
	薬学演習	5												5			
小計	91	0	4	2	2	3	4	0	13	0	32	21	10				
選択	初期体験臨床実習	1		1												神戸大学連携科目	
	海外薬学研修	1							1		1					4～5年共通科目	G2
	インターンシップ	1							1		1					4～5年共通科目	G7
	IPW演習	1										1			神戸大学連携科目		
	語学検定	1					1		1		1		1			認定科目	
	健康食品	1							1		1					認定科目	
	実践薬学	1							1		1		1			認定科目	
	Student CASP ワークショップ	1										1		1		認定科目	
小計	8	0	1	0	0	0	1	1	4	1	6	0	3				

卒業要件

	必修科目	選択科目	計
基礎教育科目	11	0	11
教養教育科目	8	8	16
専門教育科目	154	5	159
計	173	13	186

授業科目及び 単位年次配当表

5年次生適用

授業科目及び単位年次配当表

(薬学教育モデル・コアカリキュラム対応表)

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考	コアカリキュラム対応欄				
		1年		2年		3年		4年		5年		6年							
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後						
基礎 教育 科目	数 学 I	1	1														F6		
	数 学 II	1		1													F6		
	統計学 I	1			1												F6		
	統計学 II	1				1											F6		
	物理学	1	1														F3		
	基礎化学	1	1														F4,C1-1		
	生命科学入門	1	1														F5,C8-2		
	情報リテラシー	1	1														演習科目	F7	
	教養リテラシー	1	1														演習科目	F8	
	薬学英語入門 I	1					1											F2	
	薬学英語入門 II	1						1										F2	
小 計	11	6	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0				
教養 教育 科目	英語 I	1	1															F1	
	英語 II	1	1															F1	
	英語 III	1		1														F1	
	英語 IV	1		1														F1	
	英語 V	1			1													F1	
	英語 VI	1				1												F1	
	総合文化演習	2				2												演習科目	F1
	小 計	8	2	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	ドイツ語 I	1	1																F1
	ドイツ語 II	1		1															F1
	中国語 I	1	1																F1
	中国語 II	1		1															F1
	韓国語 I	1	1																F1
	韓国語 II	1		1															F1
	実用英語	1			1														F1
	数学の情緒A	1			1														F1
	線形代数	1			1														F1
	アメリカ文化論	1	1		1													1～2年共通科目	F1
	アジア文化論	1	1		1													1～2年共通科目	F1
	日本文化論	1	1		1													1～2年共通科目	F1
	異文化理解	1		1															F1
	言語と文化	1	1		1													1～2年共通科目	F1
	英語の歴史	1	1		1													1～2年共通科目	F1
	現代の音楽	1		1															F1
	医療と人間	1		1															F1
	ヒューマンケア論入門	1	1		1													1～2年共通科目	F1
	コミュニケーション論	1		1															F1
社会心理学	1	1		1													1～2年共通科目	F1	
現代社会論	1	1		1													1～2年共通科目	F1	
現代広告論	1	1		1													1～2年共通科目	F1	
消費者行動論	1		1															F1	
薬局経営論	1		1															F1	
小 計	24	12	9	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考	コアカリキュラム対応欄		
		1年		2年		3年		4年		5年		6年					
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
社会薬学Ⅰ	1	1															C17-1,C18-1,3,B1
社会薬学Ⅱ	1		1														A1,A2,C18-1
生命倫理学	1					1											A1,A2
医療倫理学	1						1										A1
臨床心理学	1							1									A3
薬学入門	1	1															B1
物理化学Ⅰ	1		1														C1-4
物理化学Ⅱ	1			1													C1-2
物理化学Ⅲ	1				1												C1-3
物理化学Ⅳ	1					1											C1-3,C3-2
放射化学	1				1												C1-1,C2-3,C12-1,2
分析化学Ⅰ	1		1														C2-1
分析化学Ⅱ	1			1													C2-2,C3-1
分析化学Ⅲ	1				1												C2-2,3,C3-1
無機・錯体化学	1		1														C4-1
有機化学Ⅰ	1	1															C4-1,2
有機化学Ⅱ	1	1															C4-2,3
有機化学Ⅲ	1		1														C4-3
有機化学Ⅳ	1			1													C4-3,C5-1,2
構造解析学	1			1													C3-1,C4-4
生物有機化学	1				1												C6-1
医薬品化学	1						1										C6-2
精密有機合成化学	1							1									C5-2
有機化学演習	1				1												C4-1~3,C5-2
薬用資源学	1	1															C7-1
生薬学	1		1														C7-1,2
生薬化学	1				1												C7-1,2
漢方医学	1							1									C7-3
機能形態生理学	1				1												C8-1~3
生化学Ⅰ	1		1														C9-1
生化学Ⅱ	1				1												C9-3,5
生化学Ⅲ	1					1											C9-4
分子生物学Ⅰ	1				1												C9-2
分子生物学Ⅱ	1						1										C9-6,C17-3
微生物学Ⅰ	1				1												C8-4
微生物学Ⅱ	1					1											C10-3
免疫学	1						1										C10-1,2
衛生薬学Ⅰ	1					1											C11-1
衛生薬学Ⅱ	1						1										C11-2,3
衛生薬学Ⅲ	1							1									C12-1
環境衛生学	1					1											C12-1,2
薬理学Ⅰ	1					1											C13-1,2
薬理学Ⅱ	1						1										C13-2,3
薬理学Ⅲ	1							1									C13-2,3
医薬品毒性学	1						1										C13-1
薬物動態学Ⅰ	1						1										C13-4
薬物動態学Ⅱ	1							1									C13-5
臨床薬物動態学	1								1								C13-5,C15-3
臨床検査学Ⅰ	1						1										C2-3,C14-1
臨床検査学Ⅱ	1						1										C14-1
内分泌学	1							1									C9-5,C13-3,C14-3

専門教育科目（講義）

必修

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考	コアカリキュラム対応欄			
		1年		2年		3年		4年		5年		6年						
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
専門教育科目（講義）	必修	感染制御学	1					1										C10-3,C14-5
	薬物治療学Ⅰ	1					1											C14-1
	薬物治療学Ⅱ	1					1											C14-2,4,5
	薬物治療学Ⅲ	1					1											C14-1~4
	薬物治療学Ⅳ	1						1										C14-2,4,5
	薬物治療学Ⅴ	1						1										C14-1~4
	医薬品情報学	1							1									C15-1~3
	安全管理医療	1							1									D1
	調剤学Ⅰ	1					1											D1
	調剤学Ⅱ	1						1										A3,D1
	創薬物理薬剤学	1				1												C16-1
	薬剤設計学Ⅰ	1					1											C16-2
	薬剤設計学Ⅱ	1							1									C16-3,C17-1
	医薬品開発Ⅰ	1							1									C17-1,4
	医薬品開発Ⅱ	1							1									C17-2
	先端医療論	1											1					C17-3
	医療統計学Ⅰ	1					1											C11-2,C17-5
	薬事関係法規・薬事制度	1							1									C18-1
	社会保障制度と薬剤経済	1							1									C18-2
	OTCヘルスケア論	1							1									A2,A3,C18-3
小 計	71	5	7	8	12	12	12	14	0	0	0	1	0					
専門教育科目（講義）	選択	実用薬学英語	2						2									G1
	実用医療英語	2							2									G1
	放射線管理学	1					1											C1-1,C2-3,C12-1
	創薬化学	1										1						C17-2
	臨床栄養学	1							1									C11-1,C15-3
	化粧品学	1							1									
	キャリアデザイン講座	1							1									
	テーラーメイド医療	1											1					C15-3
	補完代替医療	1												1				A3,C18-3
	医療統計学Ⅱ	1						1										C17-5
小 計	12	0	0	0	0	1	1	3	4	0	0	3	0					
専門教育科目（実習等）	必修	早期体験学習	2	2														B2
	基礎化学実習	1		1														F4,C2-1
	物理化学系実習	1				1												C1-1~4,C3-1,2
	分析化学系実習	1			1													F4,C2-2
	有機化学系Ⅰ実習	1		1														C2-2,C4-3,C5-1,2
	有機化学系Ⅱ実習	1				1												C4-3,C5-1,2
	有機化学系Ⅲ実習	1					1											C4-4
	生薬化学実習	1			1													C7-1,2,3
	生物学系Ⅰ実習	1					1											C9-1,3,6
	生物学系Ⅱ実習	1						1										C8-4
	衛生薬学系実習	1					1											C11-1~3,C12-1,2
	薬理学実習	1						1										C13-1,2
	臨床検査実習	1						1										C14-1
	薬剤学・製剤学実習	1						1										C13-4,5,C16-1,2
	実務実習事前教育	4							4									D1
	病院実習	10									10							D2
薬局実習	10									10							D2	

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考	コアカリキュラム対応欄		
		1年		2年		3年		4年		5年		6年					
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
必修	基礎薬学演習	3							3								
	処方解析学	1											1				E2
	処方解析演習	4											4				E2
	総合薬学講座	10												10			
	卒業研究Ⅰ	6							6								E1
	卒業研究Ⅱ	12									12						E1
	卒業研究ⅢA	8											8		選択必修科目	E1	
	卒業研究ⅢB	3											3		卒業研究ⅢA or 卒業研究ⅢB+薬学演習	E1	
	薬学演習	5											5				
小 計	91	0	4	2	2	3	4	0	13	0	32	21	10				
選択	初期体験臨床実習	1	1														神戸大学連携科目
	海外薬学研修	1							1		1						4～5年共通科目 G2
	インターンシップ	1							1		1						4～5年共通科目 G7
	IPW演習	1										1					神戸大学連携科目
	語学検定	1					1		1		1		1				認定科目
	健康食品	1							1		1						認定科目
	実践薬学	1							1		1		1				認定科目
	Student CASP ワークショップ	1									1		1				認定科目
	小 計	8	0	1	0	0	0	1	1	4	1	6	0	3			

卒 業 要 件

	必修科目	選択科目	計
基礎教育科目	11	0	11
教養教育科目	8	8	16
専門教育科目	154	5	159
計	173	13	186

授業科目及び 単位年次配当表

6年次生適用

授業科目及び単位年次配当表
(薬学教育モデル・コアカリキュラム対応表)

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考	コアカリキュラム対応欄			
		1年		2年		3年		4年		5年		6年						
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
基礎 教育 科目	数 学 I	1	1														F6	
	数 学 II	1		1													F6	
	統計学 I	1			1												F6	
	統計学 II	1				1											F6	
	生物学 I	1	1														F5	
	生物学 II	1		1													F5	
	物理学 I	1	1														F3	
	物理学 II	1	1														F3	
	基礎化学	1	1														F4,C1-1	
	基礎有機化学	1	1														C4-1	
	情報リテラシー	1	1														演習科目	F7
	教養リテラシーA	1	1														演習科目	F8
	教養リテラシーB	1		1													(AorBを選択)	F8
小 計	13	8	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
必 修	英語 I	1	1														F1	
	英語 II	1	1														F1	
	英語 III	1		1													F1	
	英語 IV	1		1													F1	
	英語 V	1			1												F1	
	英語 VI	1			1												F1	
	英語 VII	1				1											F1	
	英語 VIII	1				1											F1	
	総合文化演習 I	2				2											演習科目	F1
	総合文化演習 II	2					2										演習科目	F1
小 計	12	2	2	2	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0			
教 養 教 育 科 目	ドイツ語 I	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	ドイツ語 II	1		1		1											1～2年共通科目	F1
	中国語 I	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	中国語 II	1		1		1											1～2年共通科目	F1
	韓国語 I	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	韓国語 II	1		1		1											1～2年共通科目	F1
	アメリカ文化論	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	アジア文化論	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	日本文化論	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	現代の音楽	1		1		1											1～2年共通科目	F1
	異文化理解	1		1		1											1～2年共通科目	F1
	言語と文化	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	英語の歴史	1			1												1～2年共通科目	F1
	コミュニケーション論	1		1		1											1～2年共通科目	F1
	社会心理学	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	現代社会論	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	現代広告論	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	消費者行動論	1		1		1											1～2年共通科目	F1
	薬局経営論	1		1		1											1～2年共通科目	F1
	企業社会と法律	1		1													1～2年共通科目	F1
	医療と薬学の歴史	1	1														1～2年共通科目	F1
	医療と人間	1		1		1											1～2年共通科目	F1
	ヒューマンケア論入門	1	1		1												1～2年共通科目	F1
	スポーツ I	0.5	0.5															
スポーツ II	0.5		0.5															
小 計	24	12.5	10.5	12	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考	コアカリキュラム対応欄		
		1年		2年		3年		4年		5年		6年					
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
社会薬学Ⅰ	1	1															A2,C18-3
社会薬学Ⅱ	1		1														A2,C18-1
社会薬学Ⅲ	1			1													A2
生命倫理学	1					1											A1,A2
医療倫理学	1						1										A1
臨床心理学	1							1									A3
薬学入門	1	1															B1
物理化学Ⅰ	1		1														C1-1
物理化学Ⅱ	1			1													C1-2
物理化学Ⅲ	1			1													C1-4
物理化学Ⅳ	1				1												C1-3
分析化学Ⅰ	1		1														C2-1
分析化学Ⅱ	1			1													C2-2
分析化学Ⅲ	1					1											C2-2,3,C3-1
生物物理学	1						1										C3-2
無機・錯体化学	1		1														C4-1
有機化学Ⅰ	1		1														C4-1
有機化学Ⅱ	1		1														C4-2
有機化学Ⅲ	1			1													C4-3
有機化学Ⅳ	1				1												C5-1,2
有機化学Ⅴ	1					1											C4-4
有機化学Ⅵ	1						1										C6-2
有機化学Ⅶ	1							1									C4-3,4,C5-1,2
生物有機化学	1				1												C6-1
薬用資源学	1	1															C7-1
生薬学Ⅰ	1			1													C7-1,2
生薬学Ⅱ	1						1										C7-1,2
漢方医学	1							1									C7-3
機能形態学	1		1														C8-1
生理学	1						1										C8-3
生化学Ⅰ	1		1														C9-1
生化学Ⅱ	1			1													C9-3
生化学Ⅲ	1				1												C9-4
分子生物学Ⅰ	1			1													C9-2
分子生物学Ⅱ	1						1										C9-6
微生物学Ⅰ	1			1													C8-4
微生物学Ⅱ	1				1												C10-3
免疫学Ⅰ	1					1											C10-1
免疫学Ⅱ	1						1										C10-2
衛生薬学Ⅰ	1				1												C11-2
衛生薬学Ⅱ	1					1											C11-1
衛生薬学Ⅲ	1					1											C11-3
衛生薬学Ⅳ	1						1										C12-1
環境衛生学	1						1										C12-2
薬理学Ⅰ	1				1												C13-1
薬理学Ⅱ	1					1											C13-2,3
薬理学Ⅲ	1						1										C13-2,3
薬物動態学Ⅰ	1							1									C13-5
薬物動態学Ⅱ	1							1									C13-4
臨床検査学Ⅰ	1					1											C14-1
臨床検査学Ⅱ	1							1									C2-3,C14-1

専門教育科目（講義）
 必修

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考	コアカリキュラム対応欄			
		1年		2年		3年		4年		5年		6年						
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
必修	薬物治療学Ⅰ	1					1										C14-2,3	
	薬物治療学Ⅱ	1						1									C14-2,4	
	薬物治療学Ⅲ	1						1									C14-1~4	
	内分泌学	1					1										C9-5,C13-3,C14-3	
	抗生物質学	1				1											C14-5	
	医薬品情報学	1						1									C15-1~3	
	臨床薬物動態学	1						1									C13-5,C15-3	
	創薬物理薬剤学	1					1										C16-1	
	薬剤設計学	1					1										C16-2	
	機能性製剤学	1						1									C16-3	
	医薬品開発Ⅰ	1										1					C17-1	
	医薬品開発Ⅱ	1										1					C17-2	
	医薬品開発Ⅲ	1										1					C17-3	
	治験	1							1									C17-4
	生物統計学	1					1											C17-5
	薬事関係法規・薬事制度	1							1									C18-1
	社会保障制度と薬剤経済	1								1								C18-2
	薬学英語入門Ⅰ	1					1											F2
	薬学英語入門Ⅱ	1						1										F2
	小 計	70	3	8	9	7	13	13	13	1	0	0	3	0				
選択	実用薬学英語Ⅰ	1						1										G1
	実用医療英語Ⅰ	1						1										G1
	実用薬学英語Ⅱ	1							1									G1
	実用医療英語Ⅱ	1							1									G1
	医薬品物語	1				1												
	放射線管理学	1							1									C1-1,C2-3,C12-1
	精密有機合成化学	1										1						C5-2
	臨床栄養学	1								1								C11-1,C15-3
	臨床検査医学	1								1								C14-1
	化粧品学	1											1					
	安全管理医療	1								1								C18-1
	医薬品臨床開発各論	1											1			閉講		C17-1
	薬局ヘルスケア論	1								1								C18-3
小 計	13	0	0	0	1	0	0	4	5	0	0	3	0					
必修	早期体験学習	1	1															B2
	基礎化学実習	1		1														F4,C2-1
	物理化学系実習	1				1												C1-1~4,C3-1,2
	分析化学系実習	1				1												F4,C2-2
	有機化学系Ⅰ実習	1			1													C2-2,C4-3,C5-1,2
	有機化学系Ⅱ実習	1					1											C4-3,C5-1,2
	有機化学系Ⅲ実習	1						1										C3-1,C4-1,3,4
	生薬化学実習	1				1												C7-1,2,3
	生物学系Ⅰ実習	1			1													
	生物学系Ⅱ実習	1					1											C9-1,3,6
	生物学系Ⅲ実習	1						1										C8-4
	衛生薬学系Ⅰ実習	1						1										C11-1~3,C12-1,2
	衛生薬学系Ⅱ実習	1							1									C12-2
	薬理学実習	1								1								C13-1,2
	臨床検査実習	1								1								C14-1
	実務実習事前教育	4								4								D1,C13,C16
	病院実習	10										10						D2
	薬局実習	10										10						D2
基礎薬学演習	1								1									

授業科目名	単位	開講年次および単位数												備 考	コアカリキュラム対応欄		
		1年		2年		3年		4年		5年		6年					
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
必修	処方解析学	1												1			E2
	処方解析演習	5												5			E2
	総合薬学講座	10													10		
	卒業研究Ⅰ	12										12					E1
	卒業研究ⅡA	10												10		選択必修科目	E1
	卒業研究ⅡB	4												4		卒業研究ⅡA or 卒業研究ⅡB+薬学演習	E1
	薬学演習	6												6			
小 計	88	0	2	2	3	3	3	2	5	0	32	26	10				
選択	初期体験臨床実習	1	1														神戸大学連携科目
	化学系基礎演習Ⅰ	1		1													
	化学系基礎演習Ⅱ	1			1												
	海外薬学研修	1						1		1						4～5年共通科目	G2
	インターンシップ	1							1		1					4～5年共通科目	G7
	IPW演習	1										1					神戸大学連携科目
	健康食品	1							1		1						認定科目
	実践薬学	1							1		1		1				認定科目
	Student CASP ワークショップ ^o	1									1		1				認定科目
小 計	9	0	1	1	1	0	0	1	3	1	5	0	2				

卒 業 要 件

	必修科目	選択科目	計
基礎教育科目	12	0	12
教養教育科目	12	8	20
専門教育科目	148	6	154
計	172	14	186

SYLLABUS

(授業計画)

一年次生

数学ⅠA	75	数学の情緒	112
数学ⅠB	76	線形代数	113
数学ⅠC	77	グラフ理論	114
数学ⅡA	78	アメリカ文化論	115
数学ⅡB	79	アジア文化論	116
数学ⅡC	80	日本文化論	117
物理学A	81	異文化理解	118
物理学B	83	英語の歴史	119
基礎化学	85	現代の音楽	120
基礎生命科学	86	医療と人間	121
情報リテラシー	87	社会心理学	122
教養リテラシー	89	現代社会論	123
英語ⅠA	91	消費者行動論	124
英語ⅠB	92	薬局経営論	126
英語ⅠC	93	生活情報論	127
英語ⅡA	94	医薬品企業論	129
英語ⅡB	95	社会薬学	130
英語ⅡC	96	薬学入門	131
英語ⅡD	97	人の行動と心理	132
英語ⅢA	98	物理化学Ⅰ	133
英語ⅢB	99	分析化学Ⅰ	134
英語ⅢC	100	無機・錯体化学	135
英語ⅣA	101	有機化学Ⅰ	136
英語ⅣB	102	有機化学Ⅱ	137
英語ⅣC	103	生薬学	139
英語ⅣD	104	機能形態学	141
ドイツ語Ⅰ	105	生化学Ⅰ	143
ドイツ語Ⅱ	106	生化学Ⅱ	144
中国語Ⅰ	107	微生物学Ⅰ	145
中国語Ⅱ	108	早期体験学習	146
韓国語Ⅰ	109	基礎化学実習	147
韓国語Ⅱ	110	初期体験臨床実習	148
医薬経済学	111	アクティブ・ラボ	149

数学 I A

1 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 高田 一郎

一般目標(GIO)

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を修得し、それらを薬学領域などで応用するための基本的技能を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 関数の概念を理解する。
2. 指数関数、対数関数の概念を理解し、それを用いた計算ができる。
3. 三角関数、逆三角関数の概念を理解し、それを用いた計算ができる。
4. 関数の連続性を理解し、主な関数についてそれを確かめることができる。
5. 極限値の考え方を理解し、計算によってそれを求めることができる。
6. 微分法の考え方を理解し、導関数の計算ができる。
7. 導関数を用いて、関数の極値・増減を調べることができる。
8. 偏微分を理解する。

準備学習(予習・復習等)

平日頃から、授業の進行に対応して、教科書にある問題を自分で解いてみる。解答の暗記が一番ダメな勉強方法である。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	高田 一郎	集合と写像	集合と写像の定義・数学の準備	
第2回	高田 一郎	関数の概念	関数、合成関数、逆関数の定義	
第3回	高田 一郎	指数関数と対数関数	指数・対数関数	
第4回	高田 一郎	三角関数	三角関数・逆三角関数	
第5回	高田 一郎	関数の極限値1・連続関数	極限値の考え方・計算、関数の連続性、中間値の定理	
第6回	高田 一郎	導関数	微分の考え方、導関数の定義と例	
第7回	高田 一郎	導関数の計算1	導関数の計算	
第8回	高田 一郎	導関数の計算2	合成関数・逆関数の微分法・基本的な関数の導関数	
第9回	高田 一郎	関数の増減	関数の極値と増減、不等式への応用	
第10回	高田 一郎	関数の極限値2	ロピタルの定理とその応用	
第11回	高田 一郎	高次導関数・関数の展開式	高次導関数の求め方・マクローリン展開、関数の近似式	
第12回	高田 一郎	2変数関数と偏微分	偏微分と前期のまとめ	

成績評価方法

- ・定期試験(100点)
 - ・平常点(15点) 配点内訳: 小テスト、課題レポート、受講態度で評価する。
- ただし、100点を超える場合には100点とする。

教科書

ムイスリ出版「基礎からの微分積分」内田吉昭著

指定参考書

1. やさしく学べる微分積分 石村園子著 共立出版
2. わかりやすい薬学系の数学入門 都築稔編 講談社
3. 薬学生のための基礎シリーズ2 微分積分 本間浩編 培風館

オフィスアワー

A・B・Cクラスとも担当教員と内田が担当します。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

数学 I B

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 渋谷 哲夫

基礎
教育

教育
養

専門
教育

一般目標 (GIO)

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を修得し、それらを薬学領域などで応用するための基本的技能を身につける。

到達目標 (SBOs)

1. 関数の概念を理解する。
2. 指数関数、対数関数の概念を理解し、それを用いた計算ができる。
3. 三角関数、逆三角関数の概念を理解し、それを用いた計算ができる。
4. 関数の連続性を理解し、主な関数についてそれを確かめることができる。
5. 極限値の考え方を理解し、計算によってそれを求めることができる。
6. 微分法の考え方を理解し、導関数の計算ができる。
7. 導関数を用いて、関数の極値・増減を調べることができる。
8. 偏微分を理解する。

準備学習 (予習・復習等)

平日頃から、授業の進行に対応して、教科書にある問題を自分で解いてみる。解答の暗記が一番ダメな勉強方法である。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	渋谷 哲夫	集合と写像	集合と写像の定義・数学の準備	
第2回	渋谷 哲夫	関数の概念	関数、合成関数、逆関数の定義	
第3回	渋谷 哲夫	指数関数と対数関数	指数・対数関数	
第4回	渋谷 哲夫	三角関数	三角関数・逆三角関数	
第5回	渋谷 哲夫	関数の極限値 1・連続関数	極限値の考え方・計算、関数の連続性、中間値の定理	
第6回	渋谷 哲夫	導関数	微分の考え方、導関数の定義と例	
第7回	渋谷 哲夫	導関数の計算 1	導関数の計算	
第8回	渋谷 哲夫	導関数の計算 2	合成関数・逆関数の微分法・基本的な関数の導関数	
第9回	渋谷 哲夫	関数の増減	関数の極値と増減、不等式への応用	
第10回	渋谷 哲夫	関数の極限値 2	ロピタルの定理とその応用	
第11回	渋谷 哲夫	高次導関数・関数の展開式	高次導関数の求め方・マクローリン展開、関数の近似式	
第12回	渋谷 哲夫	2変数関数と偏微分	偏微分と前期のまとめ	

成績評価方法

- ・定期試験 (100 点)
- ・平常点 (15 点) 配点内訳: 小テスト、課題レポート、受講態度で評価する。
ただし、100 点を超える場合には 100 点とする。

教科書

ムイスリ出版「基礎からの微分積分」内田吉昭著

指定参考書

1. やさしく学べる微分積分 石村園子著 共立出版
2. わかりやすい薬学系の数学入門 都築稔編 講談社
3. 薬学生のための基礎シリーズ 2 微分積分 本間浩編 培風館

オフィスアワー

A・B・C クラスとも担当教員と内田が担当します。

数学 I C

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 教授

内田 吉昭

一般目標 (GIO)

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を修得し、それらを薬学領域などで応用するための基本的技能を身につける。

到達目標 (SBOs)

1. 関数の概念を理解する。
2. 指数関数、対数関数の概念を理解し、それを用いた計算ができる。
3. 三角関数、逆三角関数の概念を理解し、それを用いた計算ができる。
4. 関数の連続性を理解し、主な関数についてそれを確かめることができる。
5. 極限値の考え方を理解し、計算によってそれを求めることができる。
6. 微分法の考え方を理解し、導関数の計算ができる。
7. 導関数を用いて、関数の極値・増減を調べることができる。
8. 偏微分を理解する。

準備学習 (予習・復習等)

平日頃から、授業の進行に対応して、教科書にある問題を自分で解いてみる。解答の暗記が一番ダメな勉強方法である。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	内田 吉昭	集合と写像	集合と写像の定義・数学の準備	
第2回	内田 吉昭	関数の概念	関数、合成関数、逆関数の定義	
第3回	内田 吉昭	指数関数と対数関数	指数・対数関数	
第4回	内田 吉昭	三角関数	三角関数・逆三角関数	
第5回	内田 吉昭	関数の極限値 1・連続関数	極限値の考え方・計算、関数の連続性、中間値の定理	
第6回	内田 吉昭	導関数	微分の考え方、導関数の定義と例	
第7回	内田 吉昭	導関数の計算 1	導関数の計算	
第8回	内田 吉昭	導関数の計算 2	合成関数・逆関数の微分法・基本的な関数の導関数	
第9回	内田 吉昭	関数の増減	関数の極値と増減、不等式への応用	
第10回	内田 吉昭	関数の極限値 2	ロピタルの定理とその応用	
第11回	内田 吉昭	高次導関数・関数の展開式	高次導関数の求め方・マクローリン展開、関数の近似式	
第12回	内田 吉昭	2変数関数と偏微分	偏微分と前期のまとめ	

成績評価方法

- ・定期試験 (100 点)
- ・平常点 (15 点) 配点内訳: 小テスト、課題レポート、受講態度で評価する。
ただし、100 点を超える場合には 100 点とする。

教科書

ムイスリ出版「基礎からの微分積分」内田吉昭著

指定参考書

1. やさしく学べる微分積分 石村園子著 共立出版
2. わかりやすい薬学系の数学入門 都築稔編 講談社
3. 薬学生のための基礎シリーズ 2 微分積分 本間浩編 培風館

オフィスアワー

A・B・C クラスとも担当教員と内田が担当します。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

数学ⅡA

1 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 高田 一郎

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を修得し、それらを薬学領域などで応用するための基本的技能を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 不定積分の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
2. 定積分の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
3. 広義積分の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
4. 微分方程式の基本概念を理解し、簡単な場合に解くことができる。
5. 微分方程式を用いて反応速度など薬学で必要な式を理解できる。

準備学習(予習・復習等)

平日頃から、授業の進行に対応して、教科書にある問題を自分で解いてみること。
復習は宿題等を行う。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	高田 一郎	不定積分	原始関数と不定積分の定義・基本的な関数の不定積分 1	
第2回	高田 一郎	基本的な関数の不定積分	基本的な関数の不定積分 2・置換積分法・部分積分法 1	
第3回	高田 一郎	不定積分の計算法 1	基本的な関数の不定積分 3・置換積分法・部分積分法 2	
第4回	高田 一郎	不定積分の計算法 2	置換積分法・部分積分法 3・色々な積分	
第5回	高田 一郎	定積分	定積分の定義と計算	
第6回	高田 一郎	定積分の計算 1	置換積分法・部分積分法など	
第7回	高田 一郎	定積分の計算 2	置換積分・部分積分・面積・体積の計算など	
第8回	高田 一郎	定積分の近似計算	面積・体積の計算、台形公式・シンプソンの公式	
第9回	高田 一郎	広義積分	広義積分の考え方と計算	
第10回	高田 一郎	広義積分と微分方程式 1	ガンマ関数・ベータ関数と微分方程式の紹介	
第11回	高田 一郎	微分方程式 2	微分方程式の解法 1	
第12回	高田 一郎	微分方程式 3	微分方程式の解法 2、後期のまとめ	

成績評価方法

- ・定期試験 (100 点)
- ・平常点 (15 点) 配点内訳：小テスト、課題レポート、受講態度で評価する。
ただし、100 点を超える場合には 100 点とする。

教科書

ムイスリ出版「基礎からの微分積分」内田吉昭著

指定参考書

1. やさしく学べる微分積分 石村園子著 共立出版
2. わかりやすい薬学系の数学入門 都築総編 講談社
3. 薬学生のための基礎シリーズ 2 微分積分 本間浩編 培風館

オフィスアワー

A・B・C クラスとも担当教員と内田が担当します。

数学ⅡB

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 渋谷 哲夫

一般目標(GIO)

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を修得し、それらを薬学領域などで応用するための基本的技能を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 不定積分の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
2. 定積分の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
3. 広義積分の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
4. 微分方程式の基本概念を理解し、簡単な場合に解くことができる。
5. 微分方程式を用いて反応速度など薬学で必要な式を理解できる。

準備学習(予習・復習等)

常日頃から、授業の進行に対応して、教科書にある問題を自分で解いてみること。
復習は宿題等を行う。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	渋谷 哲夫	不定積分	原始関数と不定積分の定義・基本的な関数の不定積分 1	
第2回	渋谷 哲夫	基本的な関数の不定積分	基本的な関数の不定積分 2・置換積分法・部分積分法 1	
第3回	渋谷 哲夫	不定積分の計算法 1	基本的な関数の不定積分 3・置換積分法・部分積分法 2	
第4回	渋谷 哲夫	不定積分の計算法 2	置換積分法・部分積分法 3・色々な積分	
第5回	渋谷 哲夫	定積分	定積分の定義と計算	
第6回	渋谷 哲夫	定積分の計算 1	置換積分法・部分積分法など	
第7回	渋谷 哲夫	定積分の計算 2	置換積分・部分積分・面積・体積の計算など	
第8回	渋谷 哲夫	定積分の近似計算	面積・体積の計算、台形公式・シンプソンの公式	
第9回	渋谷 哲夫	広義積分	広義積分の考え方と計算	
第10回	渋谷 哲夫	広義積分と微分方程式 1	ガンマ関数・ベータ関数と微分方程式の紹介	
第11回	渋谷 哲夫	微分方程式 2	微分方程式の解法 1	
第12回	渋谷 哲夫	微分方程式 3	微分方程式の解法 2、後期のまとめ	

成績評価方法

- ・定期試験 (100 点)
- ・平常点 (15 点) 配点内訳: 小テスト、課題レポート、受講態度で評価する。
ただし、100 点を超える場合には 100 点とする。

教科書

ムイスリ出版「基礎からの微分積分」内田吉昭著

指定参考書

1. やさしく学べる微分積分 石村園子著 共立出版
2. わかりやすい薬学系の数学入門 都築総編 講談社
3. 薬学生のための基礎シリーズ 2 微分積分 本間浩編 培風館

オフィスアワー

A・B・C クラスとも担当教員と内田が担当します。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

数学ⅡC

1 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授 内田 吉昭

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

薬学を学ぶ上で基礎となる数学に関する基本的知識を修得し、それらを薬学領域などで応用するための基本的技能を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 不定積分の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
2. 定積分の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
3. 広義積分の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
4. 微分方程式の基本概念を理解し、簡単な場合に解くことができる。
5. 微分方程式を用いて反応速度など薬学で必要な式を理解できる。

準備学習(予習・復習等)

平日頃から、授業の進行に対応して、教科書にある問題を自分で解いてみる。
復習は宿題等を行う。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	内田 吉昭	不定積分	原始関数と不定積分の定義・基本的な関数の不定積分 1	
第2回	内田 吉昭	基本的な関数の不定積分	基本的な関数の不定積分 2・置換積分法・部分積分法 1	
第3回	内田 吉昭	不定積分の計算法 1	基本的な関数の不定積分 3・置換積分法・部分積分法 2	
第4回	内田 吉昭	不定積分の計算法 2	置換積分法・部分積分法 3・色々な積分	
第5回	内田 吉昭	定積分	定積分の定義と計算	
第6回	内田 吉昭	定積分の計算 1	置換積分法・部分積分法など	
第7回	内田 吉昭	定積分の計算 2	置換積分・部分積分・面積・体積の計算など	
第8回	内田 吉昭	定積分の近似計算	面積・体積の計算、台形公式・シンプソンの公式	
第9回	内田 吉昭	広義積分	広義積分の考え方と計算	
第10回	内田 吉昭	広義積分と微分方程式 1	ガンマ関数・ベータ関数と微分方程式の紹介	
第11回	内田 吉昭	微分方程式 2	微分方程式の解法 1	
第12回	内田 吉昭	微分方程式 3	微分方程式の解法 2、後期のまとめ	

成績評価方法

- ・定期試験 (100 点)
- ・平常点 (15 点) 配点内訳: 小テスト、課題レポート、受講態度で評価する。
ただし、100 点を超える場合には 100 点とする。

教科書

ムイスリ出版「基礎からの微分積分」内田吉昭著

指定参考書

1. やさしく学べる微分積分 石村園子著 共立出版
2. わかりやすい薬学系の数学入門 都築総編 講談社
3. 薬学生のための基礎シリーズ 2 微分積分 本間浩編 培風館

オフィスアワー

A・B・C クラスとも担当教員と内田が担当します。

物理学 A

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 田中 義人

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

一般目標 (GIO)

薬学を学ぶ上で必要な物理学の基礎力を身につけるために、
物質は単純な法則で運動し、物質が集まれば質的に変化すること、
物質が存在する空間を特徴づける場の考え方、物質と場の関連性 など
物質および物体間の相互作用に関する基本的知識を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 有効数字の概念を説明できる。
2. 物理量の基本単位の定義と組立単位を説明できる。
3. 物理量にはスカラー量とベクトル量があることを説明できる。
4. 運動の法則について理解し、質量、加速度、力、仕事、エネルギーなどの相互関係を説明できる。
5. 直線運動、円運動、単振動などの運動を、数式を用いて説明できる。
6. 運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー、熱エネルギー、化学エネルギーなどの相互変化について例をあげて説明できる。
7. 光、音、電磁波などの波の性質を理解し、反射、屈折、干渉などの特性を説明できる。
8. 電荷、電流、電圧、電力、オームの法則、コンデンサーなどを説明できる。
9. 電場、磁場、これらの相互関係、電場や磁場の中における荷電粒子の運動を説明できる。

準備学習 (予習・復習等)

物理の基本概念を易しく解説していきますが、講義時間が絶対的に不足するので、
自学自習の心構えで臨んでほしい。
まず、授業に際しテキストの該当部分を読んで予習し、
受講後 配布したプリントも含めて必ず復習すること
そして、イメージをつかみ、自分で考えることで初めて記憶から理解へつながると思っ
て、与えられた課題を自力で解いてみることに、自分で論理的に考え貫く姿勢で学
ぶことが大切です。
興味があれば、指定参考書を読んで理解を深めて下さい
課題やレポートは、指定された日時に必ず提出すること (厳守)
なお、提出する課題やレポートの裏側にもクラス、番号、氏名を書いて下さい。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田中 義人	物理学とは	自然に向き合う物理学の姿勢、物理量の特徴、物理量の単位、運動物体の注目すべき点、運動を解析する V-t グラフ、等加速度直線運動	
第2回	田中 義人	力学	運動の法則、力の扱い方、力のつり合い、身近な力	
第3回	田中 義人	力学	円運動と単振動、正弦波	
第4回	田中 義人	力学	運動量とその保存則、反発係数、衝突などへの応用	
第5回	田中 義人	力学	仕事、エネルギーの原理、保存力とポテンシャルエネルギー、力学的エネルギー保存則	
第6回	田中 義人	熱力学	熱と仕事、気体の法則 気体分子運動論と気体の内部エネルギー	
第7回	田中 義人	熱力学	熱力学第一法則、エネルギー保存則、熱エネルギーの特殊性、熱力学第二法則	
第8回	田中 義人	波動	波とは、波を表現する量 (振幅、波長、速さ、振動数、周期)、反射、屈折、干渉などの波の特性の説明	
第9回	田中 義人	電磁気学	電荷と電流、クーロン法則、帯電体と物質の相互作用、電荷のある空間を表現する電気力線と電場	
第10回	田中 義人	電磁気学	ガウスの定理、帯電体の作る電場、電位、電気容量	
第11回	田中 義人	電磁気学	磁場、電流の作る磁場、アンペールの法則、外部磁場から電流の受ける力、ローレンツ力	
第12回	田中 義人	電磁気学	電磁誘導、電場と磁場は相対的な量、変位電流、マクスウェル方程式、電磁波	

成績評価方法

定期試験 (60 点)、課題・レポート (30 点)、平常点 (出席状況、受講態度; 10 点)

教科書

薬学の基礎としての物理 (大林康二、廣岡秀明、崔 東学、古川裕之、吉村玲子 共著) 学術図書出版社

指定参考書

動画だからわかる物理 DVD付

力学・波動編（鈴木久男 / 山田邦雅 / 前田展希 / 徳永正晴 著）丸善株式会社

動画だからわかる物理 DVD付

熱力学・電磁気学編（鈴木久男 / 山田邦雅 / 前田展希 / 徳永正晴 著）丸善株式会社

オフィスアワー

非常勤ゆえ、質問は講義終了後と指定した日時に行うオフィスアワーで対応します。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

物理学 B

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 森本 雄一

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

一般目標(GIO)

薬学を学ぶ上で必要な物理学の基礎力を身につけるために、
物質は単純な法則で運動し、物質が集まれば質的に変化すること、
物質が存在する空間を特徴づける場の考え方、物質と場の関連性 など
物質および物体間の相互作用に関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 有効数字の概念を説明できる。
2. 物理量の基本単位の定義と組立単位を説明できる。
3. 物理量にはスカラー量とベクトル量があることを説明できる。
4. 運動の法則について理解し、質量、加速度、力、仕事、エネルギーなどの相互関係を説明できる。
5. 直線運動、円運動、単振動などの運動を、数式を用いて説明できる。
6. 運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー、熱エネルギー、化学エネルギーなどの相互変化について例をあげて説明できる。
7. 光、音、電磁波などの波の性質を理解し、反射、屈折、干渉などの特性を説明できる。
8. 電荷、電流、電圧、電力、オームの法則、コンデンサーなどを説明できる。
9. 電場、磁場、これらの相互関係、電場や磁場の中における荷電粒子の運動を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

物理の基本概念を易しく解説していきますが、講義時間が絶対的に不足するので、
自学自習の心構えで臨んでほしい。
まず、授業に際しテキストの該当部分を読んで予習し、
受講後 配布したプリントも含めて必ず復習すること
そして、イメージをつかみ、自分で考えることで初めて記憶から理解へつながると思っ
て、与えられた課題を自力で解いてみることに、自分で論理的に考え貫く姿勢で学
ぶことが大切です。
興味があれば、指定参考書を読んで理解を深めて下さい
課題やレポートは、指定された日時に必ず提出すること(厳守)
なお、提出する課題やレポートの裏側にもクラス、番号、氏名を書いて下さい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	森本 雄一	物理学とは	自然に向き合う物理学の姿勢、物理量の特徴、物理量の単位、運動物体の注目すべき点、運動を解析する V-t グラフ、等加速度直線運動	
第2回	森本 雄一	力学	運動の法則、力の扱い方、力のつり合い、身近な力	
第3回	森本 雄一	力学	円運動と単振動、正弦波	
第4回	森本 雄一	力学	運動量とその保存則、反発係数、衝突などへの応用	
第5回	森本 雄一	力学	仕事、エネルギーの原理、保存力とポテンシャルエネルギー、力学的エネルギー保存則	
第6回	森本 雄一	熱力学	熱と仕事、気体の法則 気体分子運動論と気体の内部エネルギー	
第7回	森本 雄一	熱力学	熱力学第一法則、エネルギー保存則、熱エネルギーの特殊性、熱力学第二法則	
第8回	森本 雄一	波動	波とは、波を表現する量(振幅、波長、速さ、振動数、周期)、反射、屈折、干渉などの波の特性の説明	
第9回	森本 雄一	電磁気学	電荷と電流、クーロン法則、帯電体と物質の相互作用、電荷のある空間を表現する電気力線と電場	
第10回	森本 雄一	電磁気学	ガウスの定理、帯電体の作る電場、電位、電気容量	
第11回	森本 雄一	電磁気学	磁場、電流の作る磁場、アンペールの法則、外部磁場から電流の受ける力、ローレンツ力	
第12回	森本 雄一	電磁気学	電磁誘導、電場と磁場は相対的な量、変位電流、マクスウェル方程式、電磁波	

成績評価方法

定期試験(60点)、課題・レポート(30点)、平常点(出席状況、受講態度;10点)

教科書

薬学の基礎としての物理 (大林康二、廣岡秀明、崔 東学、古川裕之、吉村玲子 共著) 学術図書出版社

指定参考書

動画だからわかる物理 DVD 付

力学・波動編（鈴木久男 / 山田邦雅 / 前田展希 / 徳永正晴 著）丸善株式会社

動画だからわかる物理 DVD 付

熱力学・電磁気学編（鈴木久男 / 山田邦雅 / 前田展希 / 徳永正晴 著）丸善株式会社

オフィスアワー

非常勤ゆえ、質問は講義終了後と指定した日時に行うオフィスアワーで対応します。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

基礎化学

1 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 中山 尋量
教授 小山 淳子

一般目標(GIO)

薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎学力を身につけるために、原子の構成から分子の成り立ちなどに関する基本的知識と技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 物質の基本的概念について説明できる。
2. 分子の基本的性質について説明できる。
3. 化学反応を定量的に探ることができる。
4. 化学結合の成り立ちについて説明できる。
5. 分子間相互作用について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

復習として練習問題プリントの配布と答え合わせを行う。

- ①原子の電子配置 ②周期性関連問題 ③濃度計算問題 ④酸塩基計算問題
⑤電子式 ⑥混成軌道と分子の形 ⑦結合に関する正誤問題 ⑧分子間相互作用に関する正誤問題
各プリントの所要時間は 30 ~ 60 分と考える。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小山 淳子	物質の基本概念	原子のなりたち 原子の電子配置	(5)薬学の基礎としての 化学-①-1,2,3
第2回	小山 淳子	物質の基本概念	原子軌道	(5)薬学の基礎としての 化学-①-2,3
第3回	小山 淳子	物質の基本概念	周期表に基づく原子の諸性質 (イオン化エネルギー、電子親和力、 電気陰性度など) 同素体と同位体	(5)薬学の基礎としての 化学-①-4,5
第4回	中山 尋量	化学結合	化学結合の成り立ちについて、軌道の混成 イオン結合、共有結合、配位結合	C1-(1)-①-1 (5)薬学の基礎としての 化学-②-1
第5回	中山 尋量	化学結合	分子軌道の基本的概念	C1-(1)-①-2
第6回	中山 尋量	化学結合	共役や共鳴の概念	C1-(1)-①-3
第7回	中山 尋量	化学結合と分子	分子の分極および双極子モーメント 分子間およびイオン間相互作用と沸点、融点 代表的な結晶構造	(5)薬学の基礎としての 化学-②-2 (5)薬学の基礎としての 化学-②-3 (5)薬学の基礎としての 化学-②-4
第8回	中山 尋量	分子間相互作用	静電相互作用とファンデルワールス力 (双極子間相互作用と分散力)	C1-(1)-②-1,2,3,4
第9回	中山 尋量	分子間相互作用	水素結合、電荷移動と疎水性相互作用	C1-(1)-②-5,6,7
第10回	小山 淳子	化学反応を定量的に捉える	溶液の濃度計算 質量保存の法則	(5)薬学の基礎としての 化学-③-1,2
第11回	小山 淳子	化学反応を定量的に捉える	代表的な化学反応の化学量論的な計算	(5)薬学の基礎としての 化学-③-3
第12回	小山 淳子	化学反応を定量的に捉える	酸と塩基の基本的な性質および強弱の指標 酸化と還元における電子の授受	(5)薬学の基礎としての 化学-③-4,5

成績評価方法

出席および試験によって総合的に評価する。

教科書

薬学生のための基礎化学 (中山、岩木編) 廣川書店

指定参考書

プライマリー薬学シリーズ (日本薬学会編) 第3巻 「薬学の基礎としての化学 I 定量的取扱い」 東京化学同人
スタンダード薬学シリーズ II (日本薬学会編) 第2巻 「物理系薬学 I 物質の物理的性質」 東京化学同人
「薬学用語辞典」 (日本薬学会編) 東京化学同人
「溶液の化学と濃度計算」 (立屋敷 哲著) 丸善
「物理化学演習」 (三輪、青木著) 京都廣川書店

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

教育
基礎

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

基礎生命科学

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 講師

児玉 典子

一般目標(GIO)

ヒトの病気の成り立ちからその予防および治療についての理解を深めるために、生命体としてのヒトの成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するとともに、生命の活動単位としての細胞の進化の過程、誕生から老化をへて死に至る過程に関する基礎的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 細胞膜の構造と性質について説明できる。
2. 細胞内小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）やリボソームの構造と機能を説明できる。
3. 細胞骨格の構造と機能を説明できる。
4. 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。
5. 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。
6. 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。
7. 体細胞と生殖細胞の細胞分裂を説明できる。
8. 細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。
9. 個体発生、細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について説明できる。
10. エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。

準備学習(予習・復習等)

1. 予習（授業をうける前に教科書や配布資料などから重要箇所を抜き出してまとめておくこと。）
2. 復習（自分のノートを作成し、修得した知識を日常生活に活用させること。）
3. 自主学习（基本的な重要単語及びその内容について、教科書及び配布資料などを読んで理解しておくこと。）

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	児玉 典子	生命の起源と進化	分子から多細胞真核生物への進化の過程	C7-(1)②-1,2
第2回	児玉 典子	細胞の構成	細胞の基本構造、細胞小器官、細胞質基質	
第3回	児玉 典子	細胞小器官	核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソーム、リボソームの構造と機能	C6-(1)②-1
第4回	児玉 典子	細胞小器官	核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソーム、リボソームの構造と機能	C6-(1)②-1
第5回	児玉 典子	細胞膜	細胞膜の構造、透過性、細胞膜間の融合	C6-(1)①-1, C6-(1)①-2
第6回	児玉 典子	細胞骨格	細胞骨格の構造と機能	C6-(1)③-1
第7回	児玉 典子	細胞間コミュニケーション	細胞間の接着構造、細胞間接着分子の種類と特徴	C6-(6)①-1 C6-(6)③-1
第8回	児玉 典子	細胞間コミュニケーション	細胞外マトリックス分子の種類と特徴	C6-(6)①-1 C6-(6)③-2
第9回	児玉 典子	細胞分裂	細胞周期、体細胞と生殖細胞の細胞分裂	C6-(7)①-2 C7-(1)②-1,2
第10回	児玉 典子	細胞死	アポトーシスとネクローシス	C6-(7)②-1
第11回	児玉 典子	まとめ	協調学習	
第12回	児玉 典子	まとめ	協調学習	

成績評価方法

定期試験 100%

教科書

基礎生命科学 竹島 廣編（京都廣川書店）
生物総合資料 長野敬監修（実教出版）
必要に応じてプリントの配布、スライドを用いた授業を行う。

指定参考書

New 生化学 第2版（廣川書店）

オフィスアワー

オフィスアワーは必要に応じて行う。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

情報リテラシー

1 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 准教授 寺岡 麗子
講師 土生 康司
講師 前田 秀子
助教 増田 有紀

一般目標(GIO)

情報伝達技術 (ICT) の発展に合わせた効果的なコンピュータの利用法とセキュリティーの知識を身につけ、必要な情報を活用する能力を取得する。

到達目標(SBOs)

1. セキュリティーの知識を身につけ、ネットワーク使用上のマナーを遵守する。
2. インターネット、イントラネットの仕組みを概説できる。
3. ワードプロソフト、表計算ソフト、グラフィックソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。
4. ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。
5. 電子メールの送信、受信、転送などができる。
6. インターネットのブラウザ検索ソフトを用いて、ホームページを閲覧できる。
7. 与えられた課題に関する情報を、コンピュータを用いて収集、加工、発表することができる。

準備学習(予習・復習等)

演習時間以外にも機会をとらえて、コンピュータを利用し各ソフトに慣れること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	コンピュータの基本操作 オペレーティングシステム 情報システムの種類	コンピュータの基礎・基本操作 オペレーティングシステムの種類・役割 Web 掲示板、学生イントラネット、e-ラーニング	薬学準備教育ガイドライン(8)-①
第2回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	情報倫理	ネットワーク使用上のマナーとインターネットセキュリティー 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて ネットワークにおける個人情報の取り扱いについて	A(5)-①-5 薬学準備教育ガイドライン(8)-③
第3回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	インターネットの基礎 ブラウザ検索ソフト 電子メール	ネットワークの概念・仕組み ホームページから必要な情報の収集 電子メールの送信、受信、転送など	薬学準備教育ガイドライン(8)-①
第4回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	ソフトウェア プレゼンテーションソフト	ソフトウェアの特徴・使用上のルール、マナー プレゼンテーションソフトの基本、簡単な操作	薬学準備教育ガイドライン(8)-②
第5回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	プレゼンテーションソフトの応用 と情報発信	与えられた課題に関する情報の発信	薬学準備教育ガイドライン(8)-②
第6回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	ワードプロソフトの基礎	ワードプロソフトの基本的な仕組み、簡単な文書の作成	薬学準備教育ガイドライン(8)-②
第7回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	ワードプロソフトの応用	図、表を含む文書の作成	薬学準備教育ガイドライン(8)-②
第8回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	確認テスト	ワードプロソフトを用いて与えられた課題に関する文書を作成	薬学準備教育ガイドライン(8)-②
第9回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	グラフィックソフト	簡単な化学構造式の作成	薬学準備教育ガイドライン(8)-②
第10回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	グラフィックソフト	簡単な化学構造式の作成	薬学準備教育ガイドライン(8)-②
第11回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	表計算ソフトの基礎と応用	表計算ソフトの基本的な仕組み、操作、簡単な計算への応用、グラフの作成など	薬学準備教育ガイドライン(8)-②

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

第12回	寺岡 麗子 土生 康司 前田 秀子 増田 有紀	確認テスト	表計算ソフトを用いて与えられた課題に関する文書を作成	薬学準備教育ガイドライン(8)-②
------	----------------------------------	-------	----------------------------	-------------------

成績評価方法

- ・課題・小テスト (50点) : 他人のファイルを用いた場合は単位を認定しない場合がある。
- ・平常点 (50点) : 出席 (無断欠席、無断遅刻は厳禁) と受講態度で評価する。

教科書

Windows 7 によるコ・メディカルのための情報リテラシー (佐藤憲一ほか 共立出版)

指定参考書

学生・研究者のための使える!PowerPoint スライドデザイン: 伝わるプレゼン1つの原理と3つの技術 (宮野公樹ほか 化学同人)
 情報活用力: 考える伝える分かちあう (noa 出版)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

教養リテラシー

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 准教授

松家 次朗

一般目標(GIO)

1. 大学において、薬学領域および他の諸科学分野の幅広い知識を獲得し、他者とのコミュニケーションを通じてその能力を発展させるための基礎として、日本語運用能力、とりわけ読解力、表現力、文章力の涵養を目指す。
2. またそれと合わせて、必要な情報、意思の伝達を行い、集団の意見を整理して発表できるようになるために、プレゼンテーションの基本的知識、技能、態度を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 他者に自分の意見を的確に伝え、他者の考えを正確に聞き取り、理解することができる。
2. まとまった内容の文章を読み、その主題を的確に把握し、要約することができる。
3. 自分の考えを適切な日本語の文章で書き表すことができる。
4. グループディスカッションで得られた意見を統合して発表できる。
5. 質問に対する的確な対応ができる。
6. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点、改善点を指摘できる。

準備学習(予習・復習等)

グループごとの活動と評価になるので、グループ内での積極的な貢献が求められます。電子辞書の使用は可能とするが、時間的制約があるため、あらかじめの下調べは必須である。発表班、発表者は発表当日担当者の方で指名するので、すべての人が下調べを行うことが最低限必要である。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	松家 次朗	授業の進め方のガイダンス	スケジュールと授業の進め方の説明と班分け。 教材のまとめ方、運営方法の説明。(前半 20 分は発表準備。 二つの班の発表 20 分×2 = 40 分(質疑応答を含む)。一つの班による評価とそれに対する発表班の応答 25 分。)キーワードの下調べと教材の下読みは必須。	
第2回	松家 次朗	社会的ジレンマ その1	教材『社会的ジレンマ』第1章「インソップのねずみと環境破壊」の前半(1)を使用しての実践指導。二つの班による発表と一つの班による批評。	
第3回	松家 次朗	社会的ジレンマ その2	教材『社会的ジレンマ』第1章の後半(2)を使って、二つの班の発表と一つの班によるそれに対する批評。	
第4回	松家 次朗	社会的ジレンマ その3	『社会的ジレンマ』第2章の前半(1)を使用。二つの班の発表と一つの班の批評。	
第5回	松家 次朗	社会的ジレンマ その4	『社会的ジレンマ』第2章の後半(2)を使用。後は上に同じ。	
第6回	松家 次朗	社会的ジレンマ その5	『社会的ジレンマ』第3章の前半(1)を使用。後は上に同じ。	
第7回	松家 次朗	社会的ジレンマ その6	『社会的ジレンマ』第3章の後半(2)を使用。以下上に同じ。	
第8回	松家 次朗	社会的ジレンマ その7	『社会的ジレンマ』第4章の前半(1)を使用。以下上に同じ。	
第9回	松家 次朗	社会的ジレンマ その8	『社会的ジレンマ』第4章の後半(2)を使用。以下上に同じ。	
第10回	松家 次朗	社会的ジレンマ その9	『社会的ジレンマ』第5章の前半(1)を使用。以下上に同じ。	
第11回	松家 次朗	社会的ジレンマ その10	『社会的ジレンマ』第5章の後半(2)を使用。以下上に同じ。	
第12回	松家 次朗	社会的ジレンマ まとめ	『社会的ジレンマ』第6章「社会的ジレンマの「解決」を求めて」を使ったまとめのレポートを書く。800字前後。	

成績評価方法

出席 20 点
発表 40 点
プレゼンの準備、発表時の態度
平常点 40 点
授業への参加度、様々な提出物

教科書

山岸俊男著『社会的ジレンマ』(PHP 新書)

指定参考書

特になし。

オフィスアワー

必要に応じて対応する。

基礎
教育

教育
養

教
育
専
門

基礎
教育

教育
養

教
育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

専
門
教育

教養リテラシー

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 教授

畑 公也

一般目標(GIO)

大学において、薬学領域および他の諸科学分野の幅広い知識を獲得し、他者とのコミュニケーションを通じてその能力を発展させるための基礎として、日本語運用能力、とりわけ読解力、表現力、文章力の涵養を目指す。また、それと合わせて、必要な情報、意思の伝達を行い、集団の意見を整理して発表できるようになるために、プレゼンテーションの基本的知識、技能、態度を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 他者に自分の意見を的確に伝え、他者の考えを正確に聞き取り、理解することができる。
2. まとまった内容の文章を読み、その主題を的確に把握し、要約することができる。
3. 自分の考えを適切な日本語の文章で書き表すことができる。
4. 正確に漢字の読み書きができる。
5. 課題にたいする自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。
6. グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。
7. 質問に対して的確な応答ができる。
8. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。
9. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

準備学習(予習・復習等)

前半は日本語能力の向上を目指して様々な訓練を行う。

後半は演習形式の授業の入門として、グループ発表を行う。テーマは「異文化理解」とする。今日、グローバル化の流れの中で、異文化理解の重要性は、ますます高まっている。グループごとに関心を持ってそうなテーマを選び、この問題について考える。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	畑 公也	ガイダンス	授業の内容とスケジュールの説明 キーコンセプト「考えることについて」 調査テーマ「異文化理解」の説明 班分けとテーマえらび	
第2回	畑 公也	テキスト読解と分析	簡単なテキストを用いて、いかに深く読み解くことができるか、自分の頭を使って、読解の可能性を考える	
第3回	畑 公也	文章作成法 講義ノートの取り方	文章作成の基本と要領よく講義ノートを作成する訓練	
第4回	畑 公也	短文要約	『バカの壁』第1章を要約	
第5回	畑 公也	短文要約講評	前回に提出した要約文の講評と内容討議	
第6回	畑 公也	外部講師による特別講義(1)	大学生のための「言語活動入門」	
第7回	畑 公也	外部講師による特別講義(2)	//	
第8回	畑 公也	発表(1)	班毎に発表(1回2班)20分の発表、その後、質疑討論	
第9回	畑 公也	発表(2)	//	
第10回	畑 公也	発表(3)	//	
第11回	畑 公也	発表(4)	//	
第12回	畑 公也	発表(5)	//	

成績評価方法

出席(20点)、発表(40点) 平常の授業への参加度(40点)

教科書

特になし

指定参考書

特になし

オフィスアワー

在室時には常に質問や相談を随時受け付けます。4号館2Fの人文研究室へ。

メールも可:k-hata@kobepharmaceutical-u.ac.jp

英語 I A

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 相本 資子

一般目標(GIO)

厳選された基本的で重要な文法項目の復習を通して、英語の「文構造」(文型と構文)の総合的理解を強化し、上級学年の英語や薬学英語を学習するための基本的な言語知識と技能の確実な習得を目指す。

到達目標(SBOs)

1. 5 文型を正確に識別し、その特徴を文法的に説明できる。
2. 文中における各品詞の文法的役割を説明できる。
3. 様々な構文を文法的に正しく分析し、その意味を説明できる。
4. 学習した「文構造」を応用して、日本文を文法にかなった英文に直すことができる。
5. 日本語には存在しない品詞(前置詞や冠詞など)の意味と用法を説明できる。
6. 英語独自の文法範疇(仮定法など)に含まれる形式を識別し、その表現意図(意味)を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

予習・復習をしっかり行い、出席を継続すること。質問は講義時間の前後で対応する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	相本 資子	英文の基本構造	主部と述部、句と節、文の分類	
第2回	相本 資子	基本文型(I)	第1文型~第5文型の特徴	
第3回	相本 資子	基本文型(II)	//	
第4回	相本 資子	時間表現(I)	時間関係を表現するための時制とその種類	
第5回	相本 資子	時間表現(II)	動作の未完了、完了を表現するための形式:進行形と完了形	
第6回	相本 資子	能動・受動表現(I)	能動表現、受動表現の形式と用法	
第7回	相本 資子	能動・受動表現(II)	//	
第8回	相本 資子	名詞表現	文中における名詞の役割と冠詞の用法	
第9回	相本 資子	準動詞の形式(I)	不定詞の用法	
第10回	相本 資子	準動詞の形式(II)	分詞の用法	
第11回	相本 資子	準動詞の形式(III)	動名詞の用法	
第12回	相本 資子	修飾表現(I)	形容詞の用法	

成績評価方法

1. 定期試験(80点)
2. 平常点(20点) 配点内訳:出席、中間テスト、受講態度

教科書

Learn More Grammar(三修社)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は講義の前後にて対応、あるいは予約にて対応する。

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

専
門
教育

英語 I B

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 准教授

赤井 朋子

一般目標(GIO)

厳選された基本的で重要な文法項目の復習を通して、英語の「文構造」(文型と構文)の総合的理解を強化し、上級学年の英語や薬学英語を学習するための基本的な言語知識と技能の確実な習得を目指す。

到達目標(SBOs)

1. 5 文型を正確に識別し、その特徴を文法的に説明できる。
2. 文中における各品詞の文法的役割を説明できる。
3. 様々な構文を文法的に正しく分析し、その意味を説明できる。
4. 学習した「文構造」を応用して、日本語を文法にかなった英文に直すことができる。
5. 日本語には存在しない品詞(前置詞や冠詞など)の意味と用法を説明できる。
6. 英語独自の文法範疇(仮定法など)に含まれる形式を識別し、その表現意図(意味)を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

予習・復習をしっかり行い、出席を継続すること。質問は講義時間の前後で対応する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	赤井 朋子	英文の基本構造	主部と述部、句と節、文の分類	
第2回	赤井 朋子	基本文型(I)	第1文型~第5文型の特徴	
第3回	赤井 朋子	基本文型(II)	//	
第4回	赤井 朋子	時間表現(I)	時間関係を表現するための時制とその種類	
第5回	赤井 朋子	時間表現(II)	動作の未完了、完了を表現するための形式:進行形と完了形	
第6回	赤井 朋子	能動・受動表現(I)	能動表現、受動表現の形式と用法	
第7回	赤井 朋子	能動・受動表現(II)	//	
第8回	赤井 朋子	名詞表現	文中における名詞の役割と冠詞の用法	
第9回	赤井 朋子	準動詞の形式(I)	不定詞の用法	
第10回	赤井 朋子	準動詞の形式(II)	分詞の用法	
第11回	赤井 朋子	準動詞の形式(III)	動名詞の用法	
第12回	赤井 朋子	修飾表現(I)	形容詞の用法	

成績評価方法

1. 定期試験(80点)
2. 平常点(20点) 配点内訳:出席、小テスト、受講態度

教科書

Learn More Grammar(三修社)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

水曜日 4 時限

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

英語 I C

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 准教授

玉巻 欣子

一般目標(GIO)

厳選された基本的で重要な文法項目の復習を通して、英語の「文構造」(文型と構文)の総合的理解を強化し、上級学年の英語や薬学英語を学習するための基本的な言語知識と技能の確実な習得を目指す。

到達目標(SBOs)

1. 5 文型を正確に識別し、その特徴を文法的に説明できる。
2. 文中における各品詞の文法的役割を説明できる。
3. 様々な構文を文法的に正しく分析し、その意味を説明できる。
4. 学習した「文構造」を応用して、日本文を文法にかなった英文に直すことができる。
5. 日本語には存在しない品詞(前置詞や冠詞など)の意味と用法を説明できる。
6. 英語独自の文法範疇(仮定法など)に含まれる形式を識別し、その表現意図(意味)を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

予習・復習をしっかり行い、出席を継続すること。質問は講義時間の前後で対応する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	玉巻 欣子	英文の基本構造	主部と述部、句と節、文の分類	
第2回	玉巻 欣子	基本文型(I)	第1文型~第5文型の特徴	
第3回	玉巻 欣子	基本文型(II)	//	
第4回	玉巻 欣子	時間表現(I)	時間関係を表現するための時制とその種類	
第5回	玉巻 欣子	時間表現(II)	動作の未完了、完了を表現するための形式:進行形と完了形	
第6回	玉巻 欣子	能動・受動表現(I)	能動表現、受動表現の形式と用法	
第7回	玉巻 欣子	能動・受動表現(II)	//	
第8回	玉巻 欣子	名詞表現	文中における名詞の役割と冠詞の用法	
第9回	玉巻 欣子	準動詞の形式(I)	不定詞の用法	
第10回	玉巻 欣子	準動詞の形式(II)	分詞の用法	
第11回	玉巻 欣子	準動詞の形式(III)	動名詞の用法	
第12回	玉巻 欣子	修飾表現(I)	形容詞の用法	

成績評価方法

1. 定期試験(80点)
2. 平常点(20点) 配点内訳:出席、小テスト、受講態度

教科書

Learn More Grammar(三修社)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

水曜日 4 時限

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

英語ⅡA

1年次

前期 必修 1単位

担当教員名 非常勤講師 高木 一幸

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

様々なジャンルの長い英文を読むには、読解の技術(リーディングスキル)が不可欠である。英文の理解において、まず必要なのは「文構造」の正確な把握であり、次に豊富な「語彙力」である。さらに、まとまった文章表現の理解には「パラグラフ」の論理的展開を効果的に読み取る力が重要である。様々な種類とレベルの長い英文を確実に読み、内容を把握するための総合的読解スキルを修得する。

到達目標(SBOs)

1. 読解の対象となる英文全体の大意を把握し、それを口頭で説明したり、文章で表現できる。
2. パラグラフ中の各英文を正確に読解し、その意味内容を説明できる。
3. パラグラフごとに、その主題(main idea)や大意、主張点を説明できる。
4. 複数にわたるパラグラフ間の連関性や展開を説明できる。
5. 読解の対象となる英文中の重要な語句(キーワード)の意味と用法を説明することができる。

準備学習(予習・復習等)

始業時間厳守。携帯電話等の電源は必ず切って授業に臨むというマナーが求められる。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	高木 一幸	オリエンテーション Chapter 1 (1)	授業の進め方・評価方法などの説明 Personality	
第2回	高木 一幸	Chapter 1 (2)	Personality	
第3回	高木 一幸	Chapter 1 (3)	Personality	
第4回	高木 一幸	Chapter 1 (4)	Personality	
第5回	高木 一幸	Chapter 2 (1)	Punishment	
第6回	高木 一幸	Chapter 2 (2)	Punishment	
第7回	高木 一幸	Chapter 2 (3)	Punishment	
第8回	高木 一幸	Chapter 3 (1)	Extensive reading	
第9回	高木 一幸	Chapter 3 (2)	Extensive reading	
第10回	高木 一幸	Chapter 3 (3)	Extensive reading	
第11回	高木 一幸	Chapter 4 (1)	Money	
第12回	高木 一幸	Chapter 4 (2)	Money	

成績評価方法

定期試験(60%)と平常点(40%)により総合的に評価する。

教科書

Essential Reading 3 (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。

英語ⅡB

1 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 大深 悦子

一般目標(GIO)

様々なジャンルの英文を読むためには、読解の技術(リーディングスキル)が不可欠である。英文の理解において、まず必要なのは「文構造」の正確な把握であり、次に豊富な「語彙力」である。さらに、まとまった文章表現の理解には「パラグラフ」の論理的展開を効果的に読み取る力が重要である。様々な種類とレベルの、長い英文を確実に読み、語彙力をつけるための総合的読解スキルを習得する。

到達目標(SBOs)

1. 読解の対象となる英文全体を把握し、それを口頭で説明したり、文章で表現できる。
2. パラグラフ中の各英文を正確に読解し、その意味内容を説明できる。
3. パラグラフごとに、その主題(main idea)や大意、主張点を説明できる。
4. 複数にわたるパラグラフ間の関連性や展開を説明できる。
5. 読解の対象となる英文中の重要な語句(キーワード)の意味と用法を説明することができる。

準備学習(予習・復習等)

- ・辞書で単語を調べる際、発音やアクセント位置も調べる。また、できるだけ例文にも目を通すこと。
- ・英文のテキストを音読してみる。
- ・日本語に訳そうとせず、英語文の順序で理解しようとする。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	大深 悦子	オリエンテーション(+ Chapter 1)	授業内容・評価方法などの説明	
第2回	大深 悦子	Chapter 1 (1)	Personality	
第3回	大深 悦子	Chapter 1 (2)	読解、練習問題	
第4回	大深 悦子	Chapter 3 (1)	Extensive reading	
第5回	大深 悦子	Chapter 3 (2)	読解、練習問題	
第6回	大深 悦子	Chapter 4 (1)	Money	
第7回	大深 悦子	Chapter 4 (2)	読解、練習問題	
第8回	大深 悦子	Chapter 5 (1)	Love	
第9回	大深 悦子	Chapter 5 (2)	読解、練習問題	
第10回	大深 悦子	Chapter 6 (1)	The Internet	
第11回	大深 悦子	Chapter 6 (2)	読解、練習問題	
第12回	大深 悦子	前期のまとめ		

成績評価方法

- ・定期試験 (60%)
- ・平常点 (40%)
配点内訳: [小テスト (20%)、提出物 (15%)、学習態度 (5%)]

教科書

Essential Reading 3 (Macmillan)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

非常勤のため、質問は、E-mailで行うか、講義時間の前後、あるいは予約にて対応する。

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

英語ⅡC

1年次

前期 必修 1単位

担当教員名 非常勤講師 相本 資子

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

一般目標(GIO)

様々なジャンルの英文を読むためには、読解の技術(リーディングスキル)が不可欠である。英文の理解において、まず必要なのは「文構造」の正確な把握であり、次に豊富な「語彙力」である。さらに、まとまった文章表現の理解には「パラグラフ」の論理的展開を効果的に読み取る力が重要である。様々な種類とレベルの、長い英文を確実に読み、内容を把握するための総合的読解スキルを習得する。

到達目標(SBOs)

1. 英文構造を正確に把握する。
2. 語彙力を増強する。
3. パラグラフ中の各英文を正確に読解し、その意味内容を説明できる。
4. パラグラフごとに、その主題(main idea)や大意、主張点を説明できる。
5. 読解の対象となる英文中の重要な語句(キーワード)の意味と用法を説明することができる。

準備学習(予習・復習等)

授業中の作業が大切になるので、予習、出席はもちろんのこと、傾聴し真剣に問題に取り組むこと。できるだけ多く英語に触れてほしい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	相本 資子	導入	授業内容や評価方法の説明	
第2回	相本 資子	Unit 1	Culture shock	
第3回	相本 資子	Unit 1	Culture shock	
第4回	相本 資子	Unit 2	Gum: something to chew on	
第5回	相本 資子	Unit 2	Gum: something to chew on	
第6回	相本 資子	Unit 3	Today's technology	
第7回	相本 資子	Unit 3	Today's technology	
第8回	相本 資子	Unit 4	Urban life	
第9回	相本 資子	Unit 4	Urban life	
第10回	相本 資子	Unit 5	The body beautiful	
第11回	相本 資子	Unit 5	The body beautiful	
第12回	相本 資子	Unit 6	The piracy business	

成績評価方法

1. 定期試験(80点)
2. 平常点(20点) 配点内訳: 出席、受講態度、小テスト

教科書

Essential Reading 2
(Macmillan Languagehouse)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は講義の前後で対応する。

英語ⅡD

1年次

前期 必修 1単位

担当教員名 准教授

赤井 朋子

一般目標(GIO)

様々なジャンルの英文を読むためには、読解の技術(リーディング・スキル)が不可欠である。英文の理解において、まず必要なのは「文構造」の正確な把握であり、次に豊富な「語彙力」である。さらに、まとまった文章表現の理解には「パラグラフ」の論理的展開を効果的に読み取る力が重要である。様々な種類とレベルの、長い英文を確実に読み、内容を把握するための総合的読解スキルを習得する。

到達目標(SBOs)

1. 英文構造を正確に把握する。
2. 語彙力を増強する。
3. パラグラフ中の各英文を正確に読解し、その意味内容を説明できる。
4. パラグラフごとに、その主題(main idea)や大意、主張点を説明できる。
5. 読解の対象となる英文中の重要な語句(キーワード)の意味と用法を説明することができる。

準備学習(予習・復習等)

速読のスキルを易しいものから複雑なものへと順を追って学習できるようになっている教科書を使用します。毎回出席し、集中して授業を受け、板書とともに説明された重要項目についてはノートを取ってしっかり復習をしてください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	赤井 朋子	ガイダンス Chapter 1	授業の進め方や評価方法についての説明 Culture shock	
第2回	赤井 朋子	Chapter 1	Culture shock	
第3回	赤井 朋子	Chapter 2	Gum: something to chew on	
第4回	赤井 朋子	Chapter 2	Gum: something to chew on	
第5回	赤井 朋子	Chapter 3	Today's technology	
第6回	赤井 朋子	Chapter 3	Today's technology	
第7回	赤井 朋子	Chapter 4	Urban life	
第8回	赤井 朋子	Chapter 4	Urban life	
第9回	赤井 朋子	Chapter 5	The body beautiful	
第10回	赤井 朋子	Chapter 5	The body beautiful	
第11回	赤井 朋子	Chapter 6	The piracy business	
第12回	赤井 朋子	Chapter 6	The piracy business	

成績評価方法

- ・定期試験(80点)
- ・平常点(20点) 配点内訳:出席と受講態度で評価する

教科書

Essential Reading 2 (Macmillan)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

英語ⅢA

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 相本 資子

一般目標(GIO)

厳選された基本的で重要な文法項目の復習を通して、英語の「文構造」(文型と構文)の総合的理解を強化し、上級学年の英語や、薬学英语を学習するための基本的な言語知識と技能の確実な習得を目指す。

到達目標(SBOs)

1. 5 文型を正確に識別し、その特徴を文法的に説明できる。
2. 文中における各品詞の文法的役割を説明できる。
3. 様々な構文を文法的に正しく分析し、その意味を説明できる。
4. 学習した「文構造」を応用して、日本文を文法にかなった英文に直すことができる。
5. 日本語には存在しない英語の品詞(前置詞や冠詞など)の意味と用法を説明できる。
6. 英語独自の文法範疇(仮定法など)に含まれる形式を識別し、その表現意図(意味)を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

予習・復習をしっかり行い、出席を継続すること。質問は講義時間の前後で対応する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	相本 資子	修飾表現(Ⅱ)	副詞の用法	
第2回	相本 資子	修飾表現(Ⅲ)	関係詞の基本的用法	
第3回	相本 資子	修飾表現(Ⅳ)	//	
第4回	相本 資子	修飾表現(Ⅴ)	関係詞の注意すべき用法	
第5回	相本 資子	程度の表現(Ⅰ)	形容詞、副詞による比較表現とその用法	
第6回	相本 資子	程度の表現(Ⅱ)	//	
第7回	相本 資子	主観を反映する表現(Ⅰ)	法助動詞の用法	
第8回	相本 資子	主観を反映する表現(Ⅱ)	仮定法の用法	
第9回	相本 資子	主観を反映する表現(Ⅲ)	//	
第10回	相本 資子	空間と時間を表す前置詞	場所と時間の前置詞の用法	
第11回	相本 資子	様々な関係を表す前置詞	原因、理由、目的、手段などを表す前置詞の用法	
第12回	相本 資子	文の連結と接続詞	等位接続詞と従位接続詞の用法	

成績評価方法

1. 定期試験(80点) 2. 平常点(20点) 配点内訳:出席、小テスト、受講態度

教科書

Learn More Grammar(三修社)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は講義の前後にて対応、あるいは予約にて対応する。

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

英語ⅢB

1 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 准教授 赤井 朋子

一般目標(GIO)

厳選された基本的で重要な文法項目の復習を通して、英語の「文構造」(文型と構文)の総合的理解を強化し、上級学年の英語や、薬学英语を学習するための基本的な言語知識と技能の確実な習得を目指す。

到達目標(SBOs)

1. 5 文型を正確に識別し、その特徴を文法的に説明できる。
2. 文中における各品詞の文法的役割を説明できる。
3. 様々な構文を文法的に正しく分析し、その意味を説明できる。
4. 学習した「文構造」を応用して、日本文を文法にかなった英文に直すことができる。
5. 日本語には存在しない英語の品詞(前置詞や冠詞など)の意味と用法を説明できる。
6. 英語独自の文法範疇(仮定法など)に含まれる形式を識別し、その表現意図(意味)を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

予習・復習をしっかり行い、出席を継続すること。質問は講義時間の前後で対応する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	赤井 朋子	修飾表現(Ⅱ)	副詞の用法	
第2回	赤井 朋子	修飾表現(Ⅲ)	関係詞の基本的用法	
第3回	赤井 朋子	修飾表現(Ⅳ)	//	
第4回	赤井 朋子	修飾表現(Ⅴ)	関係詞の注意すべき用法	
第5回	赤井 朋子	程度の表現(Ⅰ)	形容詞、副詞による比較表現とその用法	
第6回	赤井 朋子	程度の表現(Ⅱ)	//	
第7回	赤井 朋子	主観を反映する表現(Ⅰ)	法助動詞の用法	
第8回	赤井 朋子	主観を反映する表現(Ⅱ)	仮定法の用法	
第9回	赤井 朋子	主観を反映する表現(Ⅲ)	//	
第10回	赤井 朋子	空間と時間を表す前置詞	場所と時間の前置詞の用法	
第11回	赤井 朋子	様々な関係を表す前置詞	原因、理由、目的、手段などを表す前置詞の用法	
第12回	赤井 朋子	文の連結と接続詞	等位接続詞と従位接続詞の用法	

成績評価方法

1. 定期試験(80点)
2. 平常点(20点) 配点内訳:出席、小テスト、受講態度

教科書

Learn More Grammar(三修社)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

水曜日 4 時限

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

英語ⅢC

1 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 准教授 玉巻 欣子

一般目標(GIO)

厳選された基本的で重要な文法項目の復習を通して、英語の「文構造」(文型と構文)の総合的理解を強化し、上級学年の英語や、薬学英语を学習するための基本的な言語知識と技能の確実な習得を目指す。

到達目標(SBOs)

1. 5 文型を正確に識別し、その特徴を文法的に説明できる。
2. 文中における各品詞の文法的役割を説明できる。
3. 様々な構文を文法的に正しく分析し、その意味を説明できる。
4. 学習した「文構造」を応用して、日本文を文法にかなった英文に直すことができる。
5. 日本語には存在しない英語の品詞(前置詞や冠詞など)の意味と用法を説明できる。
6. 英語独自の文法範疇(仮定法など)に含まれる形式を識別し、その表現意図(意味)を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

予習・復習をしっかり行い、出席を継続すること。質問は講義時間の前後で対応する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	玉巻 欣子	修飾表現(Ⅱ)	副詞の用法	
第2回	玉巻 欣子	修飾表現(Ⅲ)	関係詞の基本的用法	
第3回	玉巻 欣子	修飾表現(Ⅳ)	//	
第4回	玉巻 欣子	修飾表現(Ⅴ)	関係詞の注意すべき用法	
第5回	玉巻 欣子	程度の表現(Ⅰ)	形容詞、副詞による比較表現とその用法	
第6回	玉巻 欣子	程度の表現(Ⅱ)	//	
第7回	玉巻 欣子	主観を反映する表現(Ⅰ)	法助動詞の用法	
第8回	玉巻 欣子	主観を反映する表現(Ⅱ)	仮定法の用法	
第9回	玉巻 欣子	主観を反映する表現(Ⅲ)	//	
第10回	玉巻 欣子	空間と時間を表す前置詞	場所と時間の前置詞の用法	
第11回	玉巻 欣子	様々な関係を表す前置詞	原因、理由、目的、手段などを表す前置詞の用法	
第12回	玉巻 欣子	文の連結と接続詞	等位接続詞と従位接続詞の用法	

成績評価方法

1. 定期試験(80点) 2. 平常点(20点) 配点内訳: 出席、小テスト、受講態度

教科書

Learn More Grammar(三修社)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

水曜日 4 時限

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

英語ⅣA

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 高木 一幸

一般目標(GIO)

様々なジャンルの長い英文を読むには、読解の技術(リーディングスキル)が不可欠である。英文の理解において、まず必要なのは「文構造」の正確な把握であり、次に豊富な「語彙力」である。さらに、まとまった文章表現の理解には「パラグラフ」の論理的展開を効果的に読み取る力が重要である。様々な種類とレベルの長い英文を確実に読み、内容を把握するための総合的読解スキルを修得する。

到達目標(SBOs)

1. 読解の対象となる英文全体の大意を把握し、それを口頭で説明したり、文章で表現できる。
2. パラグラフ中の各英文を正確に読解し、その意味内容を説明できる。
3. パラグラフごとに、その主題(main idea)や大意、主張点を説明できる。
4. 複数にわたるパラグラフ間の連関性や展開を説明できる。
5. 読解の対象となる英文中の重要な語句(キーワード)の意味と用法を説明することができる。

準備学習(予習・復習等)

始業時間厳守。携帯電話等の電源は必ず切って授業に臨むというマナーが求められる。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	高木 一幸	Chapter 5 (1)	Love	
第2回	高木 一幸	Chapter 5 (2)	Love	
第3回	高木 一幸	Chapter 5 (3)	Love	
第4回	高木 一幸	Chapter 6 (1)	The Internet	
第5回	高木 一幸	Chapter 6 (2)	The Internet	
第6回	高木 一幸	Chapter 6 (3)	The Internet	
第7回	高木 一幸	Chapter 7 (1)	Language	
第8回	高木 一幸	Chapter 7 (2)	Language	
第9回	高木 一幸	Chapter 7 (3)	Language	
第10回	高木 一幸	Chapter 8 (1)	Population in peril	
第11回	高木 一幸	Chapter 8 (2)	Population in peril	
第12回	高木 一幸	Chapter 8 (3)	Population in peril	

成績評価方法

定期試験(60%)と平常点(40%)により総合的に評価する。

教科書

Essential Reading 3 (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

英語ⅣB

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 大深 悦子

一般目標(GIO)

様々なジャンルの英文を読むためには、読解の技術(リーディングスキル)が不可欠である。英文の理解において、まず必要なのは「文構造」の正確な把握であり、次に豊富な「語彙力」である。さらに、まとまった文章表現の理解には「パラグラフ」の論理的展開を効果的に読み取る力が重要である。様々な種類とレベルの、長い英文を確実に読み、語彙力をつけるための総合的読解スキルを習得する。

到達目標(SBOs)

1. 読解の対象となる英文全体を把握し、それを口頭で説明したり、文章で表現できる。
2. パラグラフ中の各英文を正確に読解し、その意味内容を説明できる。
3. パラグラフごとに、その主題(main idea)や大意、主張点を説明できる。
4. 複数にわたるパラグラフ間の関連性や展開を説明できる。
5. 読解の対象となる英文中の重要な語句(キーワード)の意味と用法を説明することができる。

準備学習(予習・復習等)

- ・辞書で単語を調べる際、発音やアクセント位置も調べる。また、できるだけ例文にも目を通すこと。
- ・英文のテキストを音読してみる。
- ・日本語に訳そうとせず、英語文の順序で理解しようとする。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	大深 悦子	後期授業の説明 + Chapter 7 (0)	Language	
第2回	大深 悦子	Chapter 7 (1)	読解、練習問題	
第3回	大深 悦子	Chapter 7 (2)	読解、練習問題	
第4回	大深 悦子	Chapter 8 (1)	Populations in peril	
第5回	大深 悦子	Chapter 8 (2)	読解、練習問題	
第6回	大深 悦子	Chapter 9 (1)	Sports	
第7回	大深 悦子	Chapter 9 (2)	読解、練習問題	
第8回	大深 悦子	Chapter 10 (1)	West meets East	
第9回	大深 悦子	Chapter 10 (2)	読解、練習問題	
第10回	大深 悦子	Chapter 12 (1)	Success	
第11回	大深 悦子	Chapter 12 (2)	読解、練習問題	
第12回	大深 悦子	後期授業のまとめ		

成績評価方法

- ・定期試験 (60%)
- ・平常点 (40%)
配点内訳: [小テスト (20%)、提出物 (15%)、学習態度 (5%)]

教科書

Essential Reading 3 (Macmillan)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

非常勤のため、質問は、E-mailで行うか、講義時間の前後、あるいは予約にて対応する。

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

英語ⅣC

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 相本 資子

教
育
基
礎

教
育
専
門

教
育
専
門

教
育
基
礎

教
育
専
門

教
育
専
門

基
礎
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

一般目標(GIO)

様々なジャンルの英文を読むためには、読解の技術(リーディングスキル)が不可欠である。英文の理解において、まず必要なのは「文構造」の正確な把握であり、次に豊富な「語彙力」である。さらに、まとまった文章表現の理解には「パラグラフ」の論理的展開を効果的に読み取る力が重要である。様々な種類とレベルの、長い英文を確実に読み、内容を把握するための総合的読解スキルを習得する。

到達目標(SBOs)

1. 英文構造を正確に把握する。
2. 語彙力を増強する。
3. パラグラフ中の各英文を正確に読解し、その意味内容を説明できる。
4. パラグラフごとに、その主題(main idea)や大意、主張点を説明できる。
5. 読解の対象となる英文中の重要な語句(キーワード)の意味と用法を説明することができる。

準備学習(予習・復習等)

授業中の作業が大切になるので、予習、出席はもちろんのこと、傾聴し真剣に問題に取り組むこと。できるだけ多く英語に触れてほしい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	相本 資子	Unit 7	Accessories of life	
第2回	相本 資子	Unit 7	Accessories of life	
第3回	相本 資子	Unit 8	Fashion	
第4回	相本 資子	Unit 8	Fashion	
第5回	相本 資子	Unit 9	Cybernauts	
第6回	相本 資子	Unit 9	Cybernauts	
第7回	相本 資子	Unit 10	Skincare	
第8回	相本 資子	Unit 10	Skincare	
第9回	相本 資子	Unit 11	Sports: past and present	
第10回	相本 資子	Unit 11	Sports: past and present	
第11回	相本 資子	Unit 12	From cover to cover	
第12回	相本 資子	Unit 12	From cover to cover	

成績評価方法

1. 定期試験(80点)
2. 平常点(20点) 配点内訳:出席、受講態度、小テスト

教科書

Essential Reading 2
(Macmillan Languagehouse)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は講義の前後で対応する。

英語ⅣD

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 准教授

赤井 朋子

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

一般目標 (GIO)

様々なジャンルの英文を読むためには、読解の技術(リーディング・スキル)が不可欠である。英文の理解において、まず必要なのは「文構造」の正確な把握であり、次に豊富な「語彙力」である。さらに、まとまった文章表現の理解には「パラグラフ」の論理的展開を効果的に読み取る力が重要である。様々な種類とレベルの、長い英文を確実に読み、内容を把握するための総合的読解スキルを習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 英文構造を正確に把握する。
2. 語彙力を増強する。
3. パラグラフ中の各英文を正確に読解し、その意味内容を説明できる。
4. パラグラフごとに、その主題 (main idea) や大意、主張点を説明できる。
5. 読解の対象となる英文中の重要な語句 (キーワード) の意味と用法を説明することができる。

準備学習 (予習・復習等)

速読のスキルを易しいものから複雑なものへと順を追って学習できるようになっている教科書を使用します。毎回出席し、集中して授業を受け、板書とともに説明された重要項目についてはノートを取ってしっかり復習をしてください。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	赤井 朋子	Chapter 7	Accessories of life	
第2回	赤井 朋子	Chapter 7	Accessories of life	
第3回	赤井 朋子	Chapter 8	Fashion	
第4回	赤井 朋子	Chapter 8	Fashion	
第5回	赤井 朋子	Chapter 9	Cybernauts	
第6回	赤井 朋子	Chapter 9	Cybernauts	
第7回	赤井 朋子	Chapter 10	Skincare	
第8回	赤井 朋子	Chapter 10	Skincare	
第9回	赤井 朋子	Chapter 11	Sports: past and present	
第10回	赤井 朋子	Chapter 11	Sports: past and present	
第11回	赤井 朋子	Chapter 12	From cover to cover	
第12回	赤井 朋子	Chapter 12	From cover to cover	

成績評価方法

- ・定期試験 (80 点)
- ・平常点 (20 点) 配点内訳: 出席と受講態度で評価する

教科書

Essential Reading 2 (Macmillan)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

ドイツ語 I

1 年次

前期 選択 1 単位

担当教員名 教授

畑 公也

一般目標 (GIO)

ドイツ語の基本的な運用能力を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. ドイツ語を通して、ドイツ文化およびヨーロッパの文化に対する関心を深める。
2. ドイツ語の単語を正しく発音できる。
3. ドイツ語文法の概要を把握する。
4. 辞書を引いて、平易なドイツ語の文章を読むことができる。
5. ドイツ語で簡単な日常会話ができる。
6. ドイツ語で簡単な文章を書くことができる。

準備学習 (予習・復習等)

到達目標は、ドイツ語 I、II で、共通ですが、I では、基礎の中の基礎を学びます。基礎とは、名詞系の変化と動詞系の変化、及びドイツ語の文で最も重要な動詞の位置です。この三つのポイントに常に注目しながら、ドイツ語に慣れていってください。言葉は文化です。言葉の中に文化と歴史が凝縮されています。ドイツ語と英語は近い親戚ですが、異なった歴史を歩んできました。それゆえ二つの言葉には、似たところと異なったところがあります。そこが最初は難しいように思えますが、だんだんと慣れてくれば味わい深いところでもあります。ドイツ語の面白さを一緒に味わいましょう。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	畑 公也	導入説明と発音	ヨーロッパの中のドイツ、日本とドイツの関係について概説 アルファベットの読み方を説明	
第2回	畑 公也	動詞の現在人称変化・定動詞の位置		
第3回	畑 公也	//		
第4回	畑 公也	//		
第5回	畑 公也	//		
第6回	畑 公也	//		
第7回	畑 公也	冠詞と名詞の格変化・代名詞 I		
第8回	畑 公也	//		
第9回	畑 公也	//		
第10回	畑 公也	不規則動詞		
第11回	畑 公也	//		
第12回	畑 公也	ドイツ語 I のまとめ		

成績評価方法

期末テスト (80%)、平常点 (小テストを含む: 20%)

教科書

『300 語で話すドイツ語』
入谷幸江他著 三修社

指定参考書

特になし

オフィスアワー

在室時は質問や相談を随時受け付けます。4号館2Fの人文研究室へ。
メールも可: k-hata@kobepharmaceutical-u.ac.jp

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

専
門
教育

ドイツ語Ⅱ

1 年次

後期 選択 1 単位

担当教員名 教授

畑 公也

一般目標 (GIO)

ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の基本的な運用能力を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. ドイツ語を通して、ドイツ文化およびヨーロッパの文化に対する関心を深める。
2. ドイツ語の単語を正しく発音できる。
3. ドイツ語文法の概要を把握する。
4. 辞書を引いて、平易なドイツ語の文章を読むことができる。
5. ドイツ語で簡単な日常会話ができる。
6. ドイツ語で簡単な文章を書くことができる。

準備学習 (予習・復習等)

この授業は、前期のドイツ語Ⅰの内容を引き継ぐものである。したがってドイツ語Ⅰを受講したものが受講できる。ここでは、楽しみながら、初修の外国語であるドイツ語に慣れ親しんで欲しい。そして、ドイツ語を知ることによって、ヨーロッパ、つまりまだよく知らない世界に向かって新しい窓をひとつ開いて欲しい。世界は、日本とアメリカだけで成り立っているのではないのだから。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	畑 公也	冠詞と名詞の格変化・代名詞Ⅱ		
第2回	畑 公也	//		
第3回	畑 公也	//		
第4回	畑 公也	定冠詞類・指示代名詞		
第5回	畑 公也	//		
第6回	畑 公也	//		
第7回	畑 公也	分離動詞		
第8回	畑 公也	//		
第9回	畑 公也	話法の助動詞		
第10回	畑 公也	//		
第11回	畑 公也	//		
第12回	畑 公也	まとめ		

成績評価方法

期末テスト (80%)、平常点 (小テストを含む: 20%)

教科書

ドイツ語Ⅰで用いたテキストを継続使用する
『300語で話すドイツ語』
入谷幸江他著 三修社

指定参考書

特になし

オフィスアワー

在室時は質問や相談を随時受け付けます。4号館2Fの人文研究室へお越しください。
メールも可: k-hata@kobepharma-u.ac.jp

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

中国語 I

1 年次

前期 選択 1 単位

担当教員名 非常勤講師 レイハン パタール

一般目標 (GIO)

中国語の基礎力を身につける。

到達目標 (SBOs)

1. 中国語の特徴を理解する。
2. ピンインを習得する。
3. 基本単語を把握する。
4. 簡単な自己紹介ができる。
5. 基本文法を習得する。
6. 簡単な日常会話ができる。

準備学習 (予習・復習等)

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	レイハン パタール	中国語とは 短母音、子音、四声	a,o,e,...	
第2回	レイハン パタール	子音	g,k,h,...	
第3回	レイハン パタール	複母音	ai,ei,ao,...	
第4回	レイハン パタール	複母音	ua,uo,ui,...	
第5回	レイハン パタール	複母音	an,en,in,...	
第6回	レイハン パタール	第一課	人称代名詞、“是”の文	
第7回	レイハン パタール	第二課	指示代名詞、疑問詞疑問文、“的”の用法、副詞	
第8回	レイハン パタール	第三課	動詞の文 「所有」を表す“有”	
第9回	レイハン パタール	第四課	形容詞の文 量詞	
第10回	レイハン パタール	第四課	形容詞の文 量詞	
第11回	レイハン パタール	第五課	「動作の時点」を言う表現	
第12回	レイハン パタール	第五課	「動作の時点」を言う表現	

成績評価方法

試験 (80%) 及び平常点 (受講態度、宿題など、20%) で評価を行う。

教科書

竹島金吾監修 「中国語はじめの一歩」白水社

指定参考書

塚本慶一監修 「一年生のコミュニケーション中国語」白水社
関中研著 「中国語キャンパス」基礎編 朝日出版社
本間史、孟広学著 「中国語ポイント 42」白水社

オフィスアワー

質問は授業の前後で対応する。

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

中国語Ⅱ

1 年次

後期 選択 1 単位

担当教員名 非常勤講師 レイハン パタール

一般目標(GIO)

中国語の基礎力を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 基本単語を増やす。
2. 基礎文法を身につける。
3. 自己紹介ができる。
4. 日常会話ができる。
5. 辞書を引いて簡単な文書を読むことができる。
6. 中国文化についての理解を深める。

準備学習(予習・復習等)

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	レイハン パタール	第六課	「完了」を表す“了”	
第2回	レイハン パタール	第六課	「所在」を表す“在”	
第3回	レイハン パタール	第七課	「存在」を表す“有”	
第4回	レイハン パタール	第七課	反復疑問文	
第5回	レイハン パタール	第八課	「時間量」を表す語	
第6回	レイハン パタール	第八課	“得～”、“从～”	
第7回	レイハン パタール	第九課	「過去の経験」を表す“过”	
第8回	レイハン パタール	第九課	“是～的”の文	
第9回	レイハン パタール	第十課	“能～”、“会～”	
第10回	レイハン パタール	第十課	「動作の様態」を言う表現	
第11回	レイハン パタール	第十一課	「動作の進行」を表す	
第12回	レイハン パタール	第十一課	「～しに行く/来る」を表す 比較の表現	

成績評価方法

試験(80%)及び平常点(受講態度、宿題など、20%)で評価を行う。

教科書

竹島金吾監修「中国語ははじめの一歩」白水社

指定参考書

塚本慶一監修「一年生のコミュニケーション中国語」白水社

関中研著「中国語キャンパス」基礎編 朝日出版社

本間史、孟広学著「中国語ポイント42」白水社

オフィスアワー

質問は授業の前後で対応する。

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

韓国語 I

1 年次

前期 選択 1 単位

担当教員名 非常勤講師 金 錦花

一般目標(GIO)

韓国語の文字－ハングルについて習得し、視聴覚資料を用いて韓国の事情・文化について関心と理解を深める。

到達目標(SBOs)

1. 韓国語で日常あいさつができる。
2. ハングル文字が読める・書ける。
3. 初歩的な文法を身に付ける。
4. 韓国の事情・文化に関心と理解を深める。

準備学習(予習・復習等)

一つの言葉を知ると、その言葉を通じて更に一つの世界が広がっていく。従って人生も豊かになり、どんどん自分の可能性を開花していくことができるだろう。大学での限られた学びの時間をよりよく生かすためには、主体性を発揮し、積極的に授業に臨むこと。予習・復習をすることで学んだ一つの単語・一つの文法が生かされて言葉につながっていくだろう。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	金 錦花	イントロダクション	・朝鮮(韓国)語・ハングルについて ・単母音 ・あいさつ 1－안녕하십니까?	
第2回	金 錦花	第1課 文字と発音	・単母音 ・ヤ行系の重母音 ・あいさつ 2－감사합니다.	
第3回	金 錦花	第1～2課 文字と発音	・子音－平音 ・あいさつ 3－미안합니다.	
第4回	金 錦花	第2課 文字と発音	・発音規則 1－有声音化 ・子音－激音 ・あいさつ 4－안녕히 가세요.	
第5回	金 錦花	第2課 文字と発音	・子音－濃音 ・あいさつ 5－만나서 반갑습니다.	
第6回	金 錦花	第2課 文字と発音	・ワ行系重母音	
第7回	金 錦花	第3課 文字と発音	・パッチム(終声)	
第8回	金 錦花	第3課 文字と発音	・発音規則 2- 連音化 ・ハングルで名前を書く	
第9回	金 錦花	第4課 中田です。	・発音規則 3- 鼻音化 ・名詞文の丁寧表現 ・あいさつ 6－잘 부탁드립니다	
第10回	金 錦花	第4課 中田です。	・助詞「－은 / 는」(～は) ・総合練習	
第11回	金 錦花	第5課 どこにありますか。	・指示詞 ・存在文の丁寧表現	
第12回	金 錦花	第5課 どこにありますか。	・助詞「－가 / 이」(～が)等 ・総合練習	

成績評価方法

定期試験の成績は60%、平常点(小テスト・宿題など)は40%の割合で総合して評価する。

教科書

『ことばの架け橋』生越直樹・曹喜澈 著(白帝社) *改訂版

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は、講義終了時に受け付ける。

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

韓国語Ⅱ

1 年次

後期 選択 1 単位

担当教員名 非常勤講師 金 錦花

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

韓国語Ⅰで学んだ基礎知識をしっかりと踏まえながら、初級レベルの文法・文型をしっかりと身に付け、日韓対訳の練習を通してその運用能力を高める。それに伴って、「聞く・書く・読む・話す」との四つの総合能力を向上させることを目標とする。

到達目標(SBOs)

1. 丁寧形の二つ体⇒ 합니다体・해요体ができる。
2. 否定形⇒ 前置否定・後置否定ができる。
3. 尊敬形⇒ 一般尊敬・特殊尊敬ができる。
4. 1～3の文法知識を用いて、正しく日韓対訳ができる。
5. 漢数詞と固有数詞を学び、物の値段の表現や時間の表現、そして自分の年齢の表現ができる。
6. 初級レベルの単語を身に付ける。
7. 韓国の事情・文化に理解を深める。

準備学習(予習・復習等)

この段階では、ハングル文字に慣れてきて、徐々に韓国語で文が書けるようになってくるはず。ゆえに、「語学の本当の楽しさ」を味わえる時期でもある。しかし、その反面難しさも伴ってくるので、根気よく学ぶことが望まれる。“努力は決して無駄にならない”ので、主体性・積極性を発揮して授業に臨むこと。

予習・復習は必須。習った文法は常に表を用いて整理が必要。一回ごとに習った内容は、その都度覚えてしまうのがベターである。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	金 錦花	第6課 レポートはいつ出しますか。	・丁寧形－합니다体 ・助詞「-을/를」(～を)等	
第2回	金 錦花	第6課 レポートはいつ出しますか。	・漢数詞 ・総合練習	
第3回	金 錦花	第7課 そんなに高くありません。	・発音規則4-激音化 ・用言文の否定形(前置否定)	
第4回	金 錦花	第7課 そんなに高くありません。	・名詞文の否定形 ・固有数詞	
第5回	金 錦花	第7課 そんなに高くありません。	・総合練習	
第6回	金 錦花	第8課 お母さんも一緒に来られますか。	・発音規則5-口蓋音化 ・用言文の尊敬形	
第7回	金 錦花	第8課 お母さんも一緒に来られますか。	・名詞文の尊敬形 ・特殊な尊敬形	
第8回	金 錦花	第8課 お母さんも一緒に来られますか。	・助詞「-부터-까지」(～から～まで)等 ・総合練習	
第9回	金 錦花	第9～10課 学校に何時に行きますか。	・発音規則6-ㅎの無音化 ・丁寧形－해요体	
第10回	金 錦花	第9～10課 学校に何時に行きますか。	・해요体の縮約形 ・名詞文の해요体	
第11回	金 錦花	第9～10課 学校に何時に行きますか。	・否定形－後置否定 ・助詞「-와/과」(～と)等	
第12回	金 錦花	第9～10課 学校に何時に行きますか。	・総合練習 ・第6課～第10課の知識のまとめ	

成績評価方法

定期試験の成績は60%、平常点(小テスト・宿題など)は40%の割合で総合して評価する。

教科書

『ことばの架け橋』生越直樹・曹喜澈 著(白帝社) *改訂版

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は、講義終了時に受け付ける。

医薬経済学

1～2年次

前期 選択 1単位

担当教員名 講師

森脇 健介

一般目標(GIO)

医薬品の費用対効果の考え方を理解し、文献などを批判的に吟味する能力を身につける。医療経済の視点から医薬品の価値を考えることを通じて、将来の薬剤師としての見識を深める。

到達目標(SBOs)

1. 費用対効果の考え方を理解し、医療経済評価の基本的手法を説明することが出来る
2. 効果の考え方を理解し、質調整生存年数の特徴を説明できる
3. 費用推定の考え方を理解し、代表的な費用項目を挙げて説明できる
4. モデル分析で用いられる代表的な手法を説明できる
5. 結果がもつ不確実性の影響を評価する方法を説明できる
6. 費用対効果データの活用の可能性を説明できる

準備学習(予習・復習等)

教科書の該当箇所を読み予習をすること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	森脇 健介	医薬品の価値をどう考えるのか	医療技術評価とは、なぜ医薬品の費用対効果を考えるのか、費用対効果のデータをどう活用するのか	
第2回	森脇 健介	医療経済評価の手法	費用効果(効用)分析、費用最小化分析、費用便益分析	
第3回	森脇 健介	薬物治療の効果①	EBM(科学的根拠に基づく医療)、臨床研究のデザイン、有効性と効果の違い	
第4回	森脇 健介	薬物治療の効果②	QALY(質調整生存年数)、QOL値の評価	
第5回	森脇 健介	薬物治療のコスト	分析の視点と費用の種類、費用データの補正	
第6回	森脇 健介	モデル分析①	決定樹モデル、急性疾患の分析事例	
第7回	森脇 健介	モデル分析②	マルコフモデル、慢性疾患の分析事例	
第8回	森脇 健介	感度分析①	決定論的感度分析	
第9回	森脇 健介	感度分析②	確率論的感度分析	
第10回	森脇 健介	事例①	抗がん剤治療の医療経済評価(予定)	
第11回	森脇 健介	事例②	骨粗鬆症治療の医療経済評価(予定)	
第12回	森脇 健介	まとめ	諸外国の活用状況、日本の動向、薬剤師と医療経済評価の関わり	

成績評価方法

課題・レポートにより評価する

教科書

- ・薬剤経済わかりません!!(東京図書)
- ・講義スライド資料

指定参考書

- ・やさしく学ぶ薬剤経済学(じほう)
- ・詳説 薬剤経済学(京都廣川書店)
- ・薬学と社会(東京化学同人)

オフィスアワー

質問等があれば研究室に来て下さい。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

数学の情緒

1 年次

後期 選択 1 単位

担当教員名 教授

内田 吉昭

一般目標 (GIO)

初等幾何学や数学パズルを通して、考える力をつける。

到達目標 (SBOs)

薬学に必要な数学の力を学生自身でつけることができるようになる。

準備学習 (予習・復習等)

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第2回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第3回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第4回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第5回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第6回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第7回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第8回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第9回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第10回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第11回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	
第12回	内田 吉昭	数学パズル	カックロ・数独等のパズルを通して考える	

成績評価方法

授業課題の成績による (レポートでの評価に変更する可能性あり)。
受講態度等も評価します。

教科書

プリント配布

指定参考書

日常にひそむ数理曲線 佐藤雅彦 + ユーフラテス 小学館

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
専

門
教育

線形代数

1～2年次
前期 選択 1単位

担当教員名 教授 内田 吉昭

一般目標(GIO)

高校数学Cを履修していなくても業学を勉強する上で必要なレベルの線形代数(行列・1次変換)が理解できるようになる。

到達目標(SBOs)

行列の定義がわかる。
行列の四則演算がわかる。
行列式がわかる。
固有値がわかる。
一次変換がわかる。

準備学習(予習・復習等)

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	内田 吉昭	ガイダンス	ガイダンス	
第2回	内田 吉昭	ベクトル	平面ベクトルと空間ベクトル	
第3回	内田 吉昭	行列	行列の定義	
第4回	内田 吉昭	行列	演算	
第5回	内田 吉昭	連立一次方程式	解法	
第6回	内田 吉昭	行列式	行列の基本変形	
第7回	内田 吉昭	行列式	行列式の定義	
第8回	内田 吉昭	固有値	固有値	
第9回	内田 吉昭	固有値	一次変換	
第10回	内田 吉昭	固有値	求め方	
第11回	内田 吉昭	ベクトル空間	ベクトル空間	
第12回	内田 吉昭	まとめ	まとめ	

成績評価方法

受講態度・定期試験の結果で評価します。
レポート点を考慮する可能性あり。

教科書

線形代数 例とポイント 三宅敏恒著 培風館

指定参考書

大学新入生のための線形代数入門 石村園子著 共立出版

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

グラフ理論

1 年次

後期 選択 1 単位

担当教員名 教授

内田 吉昭

一般目標 (GIO)

点と線からなる図形をグラフといいます。グラフを利用して色々なものの性質を調べていきます。例えば、一筆書きの図もグラフとみなすことができます。一筆書きができる条件などをグラフの言葉で表していきます。

到達目標 (SBOs)

グラフを通して数学の考え方に馴染んでもらう。具体的な到達内容を書いても（ハミルトングラフを理解するなど）グラフ理論を知らない学生には意味がわからないので、一筆書きができるようになったり、どんな塗り絵でも 5 色で塗ることができることを理解する程度が目標です。

準備学習 (予習・復習等)

予習は必要ありません。
レポートを解いてください。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第 1 回	内田 吉昭	はじめに	ガイダンス	
第 2 回	内田 吉昭	グラフの定義と応用		
第 3 回	内田 吉昭	一筆書き		
第 4 回	内田 吉昭	畳を敷きましょう		
第 5 回	内田 吉昭	論理を学ぼう		
第 6 回	内田 吉昭	彩色グラフ		
第 7 回	内田 吉昭	貨車の入れ替え		
第 8 回	内田 吉昭	グラフの基本概念		
第 9 回	内田 吉昭	三色のグラフ		
第 10 回	内田 吉昭	赤い三角形・青い三角形		
第 11 回	内田 吉昭	マッチング		
第 12 回	内田 吉昭	あみだくじ		

成績評価方法

レポートと定期試験で評価します。
レポート点はだいたい 10 点ぐらい（学生の様子を見て考えます）です。
授業態度等も評価する場合があります。

教科書

プリントを配布します。昨年度の資料をホームページに掲載しています。

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

アメリカ文化論

1～2年次

前期 選択 1単位

担当教員名 非常勤講師 相本 資子

一般目標(GIO)

アメリカは「自由と民主主義」を標榜してきた世界一の大国でありながら、人種問題、貧困問題、銃問題、環境問題などを内に抱えている。この複雑なアメリカに対する理解を深めることによって、視野を広げ、グローバル化された社会に参加するための基本的態度を養う。

到達目標(SBOs)

1. アメリカが独立したときの基本的理念を概説できる。
2. アメリカの民族的多様性を概説できる。
3. アメリカにおける少数民族の立場を概説できる。
4. アメリカの宗教観を概説できる。
5. アメリカの外交的態度を概説できる。
6. アメリカの文化的多様性を概説できる。
7. 映画、ファンタジー、音楽などの大衆文化から見えるアメリカ文化を概説できる。

準備学習(予習・復習等)

新聞、ニュース、映画などを通して、できるだけアメリカに興味を持ってほしい。
講義は連続性があるため、毎回出席して傾聴すること。講義中は私語を慎むこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	相本 資子	アメリカ文化論を学ぶ意味	アメリカとはどういう国か	
第2回	相本 資子	アメリカの理念と矛盾 1	「共和国と帝国」	
第3回	相本 資子	アメリカの理念と矛盾 2 映画から見る「共和国と帝国」	「共和国と帝国」 『インディペンデンス・デイ』『スター・ウォーズ』	
第4回	相本 資子	人種問題における帝国主義	移民の流れ	
第5回	相本 資子	先住アメリカ人	歴史と文化―涙の旅路まで	
第6回	相本 資子	先住アメリカ人	歴史と文化―ふたつのイメージ 『駅馬車』『ダンス・ウィズ・ウルヴズ』	
第7回	相本 資子	先住アメリカ人	歴史と文化―現在のネイティブ・アメリカン	
第8回	相本 資子	アフリカ系アメリカ人	歴史と文化―南北戦争まで	
第9回	相本 資子	アフリカ系アメリカ人	歴史と文化―ジム・クロウ法から公民権運動まで キング牧師 マルコムX	
第10回	相本 資子	アフリカ系アメリカ人	歴史と文化―公民権運動以後 モハメド・アリ マイケル・ジャクソン	
第11回	相本 資子	領土拡張における帝国主義	明白なる運命	
第12回	相本 資子	ポピュラー・カルチャーと帝国主義	児童文学・ディズニーの世界	

成績評価方法

定期試験(70点) 平常点(30点) 配点内訳:出席、コメント、小レポート

教科書

トピックごとにそのつどプリントを用意する。

指定参考書

小田隆裕他編 『事典現代のアメリカ』 大修館書店
高村宏子他編 『アメリカ合衆国とは何か』 雄山閣出版

オフィスアワー

質問は講義の前後で対応、または予約にて対応する。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

アジア文化論

1～2年次

前期 選択 1単位

担当教員名 非常勤講師 レイハン パタール

一般目標(GIO)

本講義は、中国新疆ウイグル自治区（以下新疆とする）を中心に話を展開します。新疆は中国の一部ですが、中央アジアの一部でもあり、シルクロードの要衝でもあります。本講義を通じて、新疆の、そして中央アジアの文化、さらにシルクロードの文化について理解を深めることを目標にします。

到達目標(SBOs)

1. 新疆の地理的位置について概説できる。
2. 新疆の自然環境の特徴と気候の特徴について概説できる。
3. 多文化社会としての新疆について概説できる。
4. 新疆の主な生活様式について概説できる。
5. 「ウイグル」の由来と「トルコ化」について概説できる。
6. ウイグルの信仰の変遷と「イスラーム化」について概説できる。
7. 日本との繋がりについて概説できる

準備学習(予習・復習等)

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	レイハン パタール	オリエンテーション	授業の内容、方式、評価の方法などの説明	
第2回	レイハン パタール	新疆の地理的位置	新疆の地理的位置について	
第3回	レイハン パタール	新疆の自然環境	新疆の自然環境の特徴と気候の特徴について	
第4回	レイハン パタール	新疆の生活様式	オアシス農耕	
第5回	レイハン パタール	新疆の生活様式	移動牧畜などについて	
第6回	レイハン パタール	新疆の人々	新疆で暮らす各民族の言語、宗教、生活様式	
第7回	レイハン パタール	新疆の人々	新疆で暮らす各民族の言語、宗教、生活様式	
第8回	レイハン パタール	ウイグル文字とウイグル語	ウイグル文字について、ウイグル語の特徴	
第9回	レイハン パタール	ウイグルとは	「ウイグル」の意味、由来と「トルコ化」	
第10回	レイハン パタール	ウイグルの信仰	ウイグルの信仰の変遷と「イスラーム化」	
第11回	レイハン パタール	ウイグルの生活習慣	衣、食、子育てなど	
第12回	レイハン パタール	新疆と日本	日本との繋がりについて概説する	

成績評価方法

試験(70%)及び平常点(出席状況、受講態度、宿題など、30%)で評価を行う。

教科書

適宜プリントを配布する。

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は授業の後で対応する

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

日本文化論

1～2年次

前期 選択 1単位

担当教員名 非常勤講師 佐藤 真知子

一般目標(GIO)

日本文化的教養を身につけるために、特に日本独自の文学形式である俳句を中心とし、作品を丁寧に解釈することを通して、その史的発展を理解する。古典を学び、今を生きる自分を見つめ直す。

到達目標(SBOs)

1. 日本の伝統文化を概説できる。
2. 俳諧の誕生とその変遷について詳説できる。
3. 芭蕉について人物像を構築する。
4. 芭蕉の作品について解釈し、論述できる。
5. 連句を通してコミュニケーションの楽しさを知る。
6. 芭蕉と同時代の作品を知る。
7. 文化的教養を身につけて俳句を創作する。
8. 伝統的な価値観と近代以後の価値観の相違を理解する。

準備学習(予習・復習等)

(予習) 第2回以降、授業の前に、前回の配付プリントを再読して、当該講義に備える。

(復習) 受講後、講義内容の要点をまとめる。

(その他) 平常点は、出席するのみならず、授業の内容を理解して、ともに学ぶという態度を示し、授業に寄与しているか否かを評価します。

授業中に課された提出物は、形式と内容を整えて、その授業の終わりに提出しなさい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	佐藤 真知子	はじめに／日本の詩歌	和歌と連歌と俳諧	
第2回	佐藤 真知子	俳諧の歴史	俳諧の字義および誕生 俳諧の確立と諸流派	
第3回	佐藤 真知子	俳句創作	作品理解の一段階としての創作	
第4回	佐藤 真知子	芭蕉	伝記的事項と人物像の把握	
第5回	佐藤 真知子	芭蕉	俳諧作品を読む～作品とのコミュニケーション～	
第6回	佐藤 真知子	座の文芸	連句入門～仲間とのコミュニケーション～	
第7回	佐藤 真知子	芭蕉の紀行文	旅人の自覚『野ざらし紀行』	
第8回	佐藤 真知子	芭蕉の紀行文	『奥の細道』の成立	
第9回	佐藤 真知子	芭蕉と同時代の作品(演劇)	曾根崎心中(1)	
第10回	佐藤 真知子	芭蕉と同時代の作品(演劇)	曾根崎心中(2)	
第11回	佐藤 真知子	芭蕉と同時代の作品(散文)	井原西鶴	
第12回	佐藤 真知子	想像力を喚起する／おわりに	作品に触れて感じたことを考える	

成績評価方法

レポート(65点)

平常点(35点) 配点内訳: 出席と授業に対する積極的な取組意欲・態度、授業中の課題レポートを総合的に評価する。

教科書

プリントを配付する。

指定参考書

新編日本古典文学全集 70『松尾芭蕉集①』(1995年) 小学館

新編日本古典文学全集 71『松尾芭蕉集②』(1997年) 小学館

オフィスアワー

講義時間の前後とする。

基礎
教育

教育
教養

専門
教育

基礎
教育

教育
教養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

異文化理解

1 年次

後期 選択 1 単位

担当教員名 非常勤講師 相本 資子

一般目標(GIO)

グローバル人材が必要とされる現代社会において、異文化を理解することによって、ダイバーシティ（多様性）の習得を目指す。アメリカ文化と日本文化を比較検討し、それぞれの文化の独自性を理解することによって、比較文化論的視点を獲得し、国際社会に参加するための基本的態度を養う。グローバルな文脈の中で日米関係を捉え直すことによって、現代日本がかかえる問題を解明する1つの手がかりとする。

到達目標(SBOs)

1. 異文化を理解することの意味を明らかにすることができる。
2. 異文化を知ることによって自国の文化を新たな視点で見直すことができる。
3. アメリカ文化と日本文化を比較することで両者の相違点を概説できる。
4. アメリカ文化と日本文化を比較することで両者の共通点を概説できる。
5. 映画、文学作品、アニメ、スポーツなどの媒介を通して、アメリカ人と日本人の発想、視点、思想の違いを概説できる。
6. 人文科学、社会科学の思考方法を習得することができる。
7. グローバル人材に必要な多様性を習得することができる。

準備学習(予習・復習等)

新聞、ニュース、映画、大衆小説などを通して、できるだけアメリカと日本の関係に興味を持ってほしい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	相本 資子	導入	異文化理解の意味	
第2回	相本 資子	日本から見たアメリカ	拌米と排米	
第3回	相本 資子	アメリカのジャポニズム	歴史的背景 博覧会 『キング・コング』	
第4回	相本 資子	アメリカのジャポニズム	『蝶々夫人』	
第5回	相本 資子	日本文化の発信	岡倉天心 『茶の本』 『日本の目覚め』 新渡戸稲造 『武士道』	
第6回	相本 資子	戦時中のアメリカから見た日本	日系アメリカ人 強制収容所 写真花嫁	
第7回	相本 資子	戦後のアメリカから見た日本	アメリカ映画に現れた日本のイメージ 『SAYONARA』	
第8回	相本 資子	高度成長期の日本とアメリカ	アメリカ映画に現れた日本のイメージ 『GUNG HO』	
第9回	相本 資子	アメリカ文化と日本文化	アメリカのアニメーションと日本のアニメ アメリカのスーパーヒーロー	
第10回	相本 資子	アメリカ文化と日本文化	アメリカのアニメーションと日本のアニメ アメリカのスーパーヒーロー	
第11回	相本 資子	アメリカ文化と日本文化	アメリカのアニメーションと日本のアニメ 手塚治虫の世界	
第12回	相本 資子	アメリカ文化と日本文化	アメリカのアニメーションと日本のアニメ まとめ	

成績評価方法

定期試験 (70%) 平常点 (30%) 配点内訳：出席、受講態度、コメント、レポートで評価する。

教科書

トピックごとにそのつどプリントを用意する。

指定参考書

小田隆裕他編 『事典現代のアメリカ』 大修館書店
新渡戸 稲造 『武士道』 PHP 文庫
岡倉 天心 『茶の本—英文収録』 講談社学術文庫
『東洋の理想』 講談社学術文庫

オフィスアワー

質問は講義の前後で対応、または予約にて対応する。

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

英語の歴史

1～2年次

前期 選択 1単位

担当教員名 特別教授 田中 研治

一般目標(GIO)

英語を学ぶ人にとって、国際語、地球語 (Global Language) として確固たる地位を占める現代英語がどのような歴史的経緯を辿ってきたかを理解することは重要である。約 1500 年前、北ドイツのゲルマン部族の方言を端を発し、ブリテン島での言語的成長と体系化を経て、全世界へと広がった英語の変化、発達、普及の過程を概観する。年代的には、特に古い時代の言語形態を重点的に紹介し、シェークスピアの誕生直前までの英語史を学習する。

到達目標(SBOs)

1. 国際語としての現代英語の特徴を概説できる。
2. 英語史の時代区分と特徴を、「400年サイクル説」によって概説できる。
3. 英語の起源について概説できる。
4. 英語の語彙に見られる「借用関係」を例をあげて説明できる。

準備学習(予習・復習等)

前の時間に説明された内容や、術語、人名、などを配布プリントで再確認したうえで次の授業に臨むと理解の程度が違います。また、疑問を抱いた言語現象や英語の事実を自分の辞書などで自分なりに調査することなども有益で楽しいでしょう。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田中 研治	国際語としての英語とその多様性 (1)	今日、世界各地で特有の発達を示す英語は、The English Languages とか、The new Englishes と呼ばれる。これらの変種英語の多様性と特徴について略述する。「400年サイクル説」の紹介。	
第2回	田中 研治	// (2)	//	
第3回	田中 研治	// (3)	//	
第4回	田中 研治	英語の起源 (1)	印欧語祖語からゲルマン語派へ、更にはゲルマン基語から古英語への言語的分岐や歴史的背景などを略述する。基本的な英語史の時代区分について概観する。	
第5回	田中 研治	// (2)	//	
第6回	田中 研治	// (3)	//	
第7回	田中 研治	英語の創成期 (1)	8世紀ごろから11世紀末の英語。古英語 (Old English) の言語的特徴や、語彙の性格、現代英語との関連性、当時の時代背景などを略述する。古英語の代表的韻文作品「ベーオウルフ」の原文を紹介し、音読する練習なども行う。	
第8回	田中 研治	// (2)	//	
第9回	田中 研治	// (3)	//	
第10回	田中 研治	英語の成長期 (1)	12世紀ごろから15世紀末の英語。中英語 (Middle English) の言語的特徴や、ノルマン・フレンチとの言語接触、当時の時代背景などを略述する。時間があれば、英語の成熟期 (16世紀以降の近代英語) にも言及する。	
第11回	田中 研治	// (2)	//	
第12回	田中 研治	// (3)	// (できればシェークスピアに関する「不思議発見」DVDを鑑賞する予定)	

成績評価方法

筆記試験 (定期試験 100点)。

教科書

なし

指定参考書

なし

オフィスアワー

毎週火曜日、木曜日昼休み

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

専
門
教育

現代の音楽

1 年次

後期 選択 1 単位

担当教員名 教授

畑 公也

一般目標(GIO)

薬学領域の学習と併行して、人文科学、社会科学などを広く学び、知識を獲得し、さまざまな考え方、感じ方に触れ、物事を多角的にみる能力を養う。そして見識ある人間としての基礎を築くために、自分自身の洞察を深め、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 文化・芸術に幅広く興味を持ち、その価値について討議する。
2. 有史以前から現在にいたるまでの音楽の発展過程を理解する。
3. 現代社会において音楽の果たしている役割を理解する。
4. 音楽のありようを通して「現代とはどのような時代か」という問いに対して自分なりに考え、答えを模索する。

準備学習(予習・復習等)

耳掃除 ear-cleaning の時間と考えてください。雑音を出さずに、「聴くこと」に集中する訓練を(私語厳禁)。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	畑 公也	ガイダンス	これは何でしょう？(様々な音源を聴いて)	
第2回	畑 公也	音楽とは何か	音楽の発生と本質を考える	
第3回	畑 公也	現代の音楽的状況	200年前と比較して	
第4回	畑 公也	ジャンルとは何か	音楽におけるジャンル分けの意義	
第5回	畑 公也	西洋音楽の歴史	調性って何？	
第6回	畑 公也	現代の音楽Ⅰ	ロック論Ⅰ：ロックのルーツとしてのブルース	
第7回	畑 公也	現代の音楽Ⅱ	ロック論Ⅱ：ロックの原初型としてのロックン・ロール	
第8回	畑 公也	現代の音楽Ⅲ	ロック論Ⅲ：ロックの多様性	
第9回	畑 公也	西洋音楽の歴史Ⅱ	ベートーベンとは何者か？	
第10回	畑 公也	西洋音楽の歴史Ⅲ	オペラを見てみよう	
第11回	畑 公也	現代の音楽Ⅳ	音楽のメッセージ性 - フォークとロック	
第12回	畑 公也	現代の音楽Ⅴ	「泣ける音楽・泣かせる音楽」はあるか？	

成績評価方法

期末試験 80 点・平常点 20 点

教科書

特になし

指定参考書

特になし

オフィスアワー

在室時は随時相談、質問に応じます。

メールも可：k-hata@kobepharma-u.ac.jp

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

医療と人間

1 年次

後期 選択 1 単位

担当教員名 准教授

松家 次朗

一般目標(GIO)

現代の医学・医療および医療技術の発展が社会に与える種々様々な影響を、できる限り深く、多面的に理解する。医療倫理の代表的なトピックスを取り上げて、現代の医療に関連する様々な側面の理解を深める。

到達目標(SBOs)

1. 医療の倫理の特徴について理解する。
2. 生命倫理の歴史について学ぶ。
3. 生物・医学的知識と医療技術の発展が医療に与える影響について学ぶ。
4. 医療の場における生と死の問題を学ぶ。

準備学習(予習・復習等)

具体的な事例や事件を使った授業をします。受講生には問いかけを行います。その意味で、授業への積極的な参加が求められます。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	松家 次朗	授業のためのガイダンス	新しい倫理学としての医療 (生命) 倫理学の特徴を説明する。	A-(2)-①-4
第2回	松家 次朗	医療倫理の歴史 その1	具体的な事件を通して、アメリカにおいてどのように医療倫理という学問分野が確立していったかを説明する。	同上
第3回	松家 次朗	医療倫理の歴史 その2	同上	同上
第4回	松家 次朗	医療倫理の歴史 その3	同上	同上
第5回	松家 次朗	医療技術の発展と医療の在り方の変化 その1	医療技術の発展が医療の在り方にどう影響するのかについて、具象的な事例を用いて考える。	A-(2)-②-3
第6回	松家 次朗	医療技術の発展と医療の在り方の変化 その2	同上	同上
第7回	松家 次朗	医療技術の発展と医療の在り方の変化 その3	同上	同上
第8回	松家 次朗	生と死をめぐるドラマ その1	現代医療における生と死をめぐる問題を様々な事例・事件を通して学ぶ。	A-(2)-①-3
第9回	松家 次朗	生と死をめぐるドラマ その2	同上	同上
第10回	松家 次朗	生と死をめぐるドラマ その3	同上	同上
第11回	松家 次朗	生と死をめぐるドラマ その4	同上	同上
第12回	松家 次朗	まとめ	授業内容の振り返りを行う。	

成績評価方法

出席、授業への参加度、提出物等を総合的に評価する。

教科書

使用しない。

指定参考書

1. トニー・ホープ『医療倫理』(岩波書店)、2. ピーター・シンガー『生と死の倫理』(昭和堂)、3. 香川知晶『生命倫理の成立』(勁草書房)

オフィスアワー

必要に応じて対応する。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

社会心理学

1～2年次

前期 選択 1単位

担当教員名 講師

中島 園美

一般目標(GIO)

人間の社会場面での行動、認知、態度を決定する心理的メカニズムを理解する。

到達目標(SBOs)

1. 日常生活で体験している事象を心理学の視点から捉えなおす。
2. 自己への洞察を深める。
3. 他者への理解を深める。
4. 良好な対人関係を築くために心理学的な知識を活用する。
5. 自分の感情の役割を知り自己表現の大切さを確認する。

準備学習(予習・復習等)

自分を理解しさらに他者を理解して、自分の感情を調整したり、自己表現できることは、様々な問題に対処する能力にむすびつくものです。心理学から解明されている人間の考えや行動のメカニズムを知り、自己や他者をよりよく理解し、よりよく生きるために利用してもらいたいと思います。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	中島 園美	心理学入門(1)	心理学のトピックスや理論の紹介	
第2回	中島 園美	心理学入門(2)	心理学のトピックスや理論の紹介	
第3回	中島 園美	自己イメージ	自己イメージや自己表現のスタイルを知る	
第4回	中島 園美	本当の自分とみせたい自分	自分をどのように他者にみせるか	
第5回	中島 園美	周囲から影響を受ける自己	周りにいる人によって左右される私たちの行動や態度	
第6回	中島 園美	他者のイメージ	私たちはどのように他者を判断しているか	
第7回	中島 園美	他者に感じる魅力(1)	なぜある人に魅力を感じるか	
第8回	中島 園美	他者に感じる魅力(2)	状況によって変化する私たちの気持ち	
第9回	中島 園美	対人関係の形成	対人関係を発展させるには何が必要か	
第10回	中島 園美	自己と他者の感情	共感力や感情制御を促進させるもの	
第11回	中島 園美	態度の形成と変化	私たちの態度はどのように形成されるか、またどのようにときに態度を変化させるか	
第12回	中島 園美	まとめ	まとめ	

成績評価方法

1. レポート(50点)
2. 平常点(50点) 配点内訳: 出席、授業中の小レポート

教科書

適宜、資料を配布する。

指定参考書

特になし。

オフィスアワー

講義終了後に個別質問を受け付けます。

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

現代社会論

1～2年次

前期 選択 1単位

担当教員名 准教授

松家 次朗

一般目標(GIO)

現代の日本社会が抱える様々な問題に触れ、その背景と原因を考察することで、自分の力で現代の社会問題を評価し、検討する力を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 現代社会の特徴を知る。
2. 超高齢化と超少子化が与えている社会的インパクトについて理解する。
3. 資本主義経済と社会との関係を理解する。
4. 格差の問題が社会にどう影響するのかを理解する。
5. 日本社会の特徴と将来の可能性についての理解を深める。

準備学習(予習・復習等)

現代の日本の現状を扱うので、様々な情報源を使って、講義のテーマについて関心を広げる必要があります。また、講義に出席し、わからないところは質問するという姿勢が必要です。質問は授業中であってもかまいません。授業中にこちらから質問したり、意見を求めたりすることがあります。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	松家 次朗	現代社会の特徴 その1	第1回は、講義の入門です。第1回から第3回まで、主に、見田宗助の『現代社会の理論』を基に、現代社会をグローバルな視点から概観します。また、本講義全体の見取り図も簡単に提示します。	
第2回	松家 次朗	現代社会の特徴 その2	現代社会の特徴と課題について考えます。	
第3回	松家 次朗	現代社会の特徴 その3	日本社会の抱えている問題を概観します。	
第4回	松家 次朗	人口の高齢化と社会の関係 その1	第4回から第6回までは、主に、岡本祐三の『高齢者医療と福祉』を参考に、高齢化の現状について考えます。	
第5回	松家 次朗	人口の高齢化と社会の関係 その2	第5回と第6回では、特に、人口の高齢化の医療や福祉への影響について考えます。	
第6回	松家 次朗	人口の高齢化と社会の関係 その3	同上	
第7回	松家 次朗	経済と格差の問題 その1	第7回から第9回までは、資本主義経済と社会との関係、特に格差の問題について考えます。	
第8回	松家 次朗	経済と格差の問題 その2	資本主義経済と民主主義の関係について考えます。	
第9回	松家 次朗	経済と格差の問題 その3	格差の背景とその社会的影響について考えます。	
第10回	松家 次朗	日本社会の特質と将来 その1	第10回から第11回では、日本社会の特質とその将来について考えます。	
第11回	松家 次朗	日本社会の特質と将来 その2	ルース・ベネディクトの『菊と刀』や中根千枝の『タテ社会の人間関係』を基に日本社会の特質とその今後について考えます。	
第12回	松家 次朗	まとめ	講義についての簡単なレポートを書いてもらいます。	

成績評価方法

集積と授業態度と最終レポートを総合的に評価します。

教科書

特になし。

指定参考書

1、見田宗介『現代社会の理論』、2、岡本祐三『高齢者医療と福祉』、3、ルース・ベネディクト『菊と刀』、4、中根千枝『タテ社会の人間関係』

オフィスアワー

必要に応じて対応する。

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

専
門
教育

消費者行動論

1 年次

後期 選択 1 単位

担当教員名 非常勤講師 西村 順二

一般目標(GIO)

社会科学における広義の経営学、その中の商学に属する消費者行動研究を学ぶことを通じて、経済社会の諸関係、特に組織間・組織と個人間、個人間の取引関係を認識・考察・分析する能力を養うことを目指す。

到達目標(SBOs)

- (1) マーケティング論に関する基礎知識の修得
- (2) 消費者行動と企業の戦略天下印相互作用に関する理解を進める
- (3) 上記相互作用の活性化のための製品戦略の理解を促す
- (4) 上記相互作用の活性化のためのコミュニケーション戦略の理解を促す
- (5) 上記相互作用の活性化のための流通戦略の理解を促す
- (6) 上記相互作用の活性化のための価格戦略の理解を促す
- (7) 上記マーケティング・ミックスの展開、消費者行動分析視点、そのツールの修得を目指す

準備学習(予習・復習等)

日常生活シーンにおいて、我々は常に購買・消費に関する意思決定に直面している。本講義を受講する学生諸君は、「何故、この製品を購入するのか」、「何故、このお店は来店客が多いのか」、「このCMは何を意味しているのか」等について、関心を持つようにしてほしい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	西村 順二	イントロダクション	講義の目標・評価方法・運営方式も確認と講義全体の概要説明	
第2回	西村 順二	社会科学の中の消費者行動論	社会科学における下位研究領域としての消費者行動論の学問的特徴の説明、そして消費者行動論の研究対象の特徴について説明	
第3回	西村 順二	マーケティングと消費者行動	マーケティングの基礎概念についての説明、生産と消費の懸隔に対する架橋概念の議論についての理解	
第4回	西村 順二	消費者ニーズ概念	消費者ニーズの本質について説明：ニーズ、ウォンツ、デマンド 欲求創造の意味について考える	
第5回	西村 順二	マーケティング・ミックス編成について (1) 製品戦略 (2) 流通戦略	マーケティング・ミックスにおける製品戦略についての説明：「製品は属性の束である」 マーケティング・ミックスにおける流通戦略についての説明：「流通と商業の相違」	
第6回	西村 順二	マーケティング・ミックス編成について (3) 販売促進戦略 (4) 価格戦略	マーケティング・ミックスにおける販売促進戦略についての説明：「消費者と企業のコミュニケーションの困難性」 マーケティング・ミックスにおける価格戦略の説明：「4Pにおける市場浸透と上層吸収」	
第7回	西村 順二	消費と購買、そして消費者の動態	消費行動の基本類型(AIDMA、AISAS)の理解と、STP分析(セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング)の実際	
第8回	西村 順二	供給サイドと需要サイドのマッチング	流通懸隔と流通フロー、それらを統制する流通機能についての概要説明	
第9回	西村 順二	販売・顧客適応と仕入れ・生産適応	取引連動性に基づく流通の動態を顧客適応と生産適応の視点から説明	
第10回	西村 順二	流通業態の変化	取引連動性から見る流通の小売業態・卸売業態の変化に関する理論モデル説明	
第11回	西村 順二	標的市場の設定に基づく消費者分析	STP分析に基づく標的市場設定の事例研究	
第12回	西村 順二	マーケティング事象の実際 まとめ	グループディスカッションによる現実のマーケティング問題への課題分析 講義全体の総括と近年の消費者行動についての動向説明	

成績評価方法

- 学期末試験 70%
- レポート 15%
- 授業へのコミットメント 15%
- 上記に基づき、総合的な評価を行う

教科書

西村順二著(2009)『卸売流通動態論—中間流通における仕入れと販売の取引連動性』千倉書房。

指定参考書

特になし

オフィスアワー

講義時間帯の前後

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

薬局経営論

1 年次
後期 選択 1 単位

担当教員名 非常勤講師 辻 峰男

一般目標 (GIO)

社会科学における経営学、その中の経営論を学ぶことを通して、経済社会の認識・考察・分析力を養うことを目指す。

到達目標 (SBOs)

薬局経営の組織を考える上で必要と思われる、コーポレート・ガバナンスに関する基礎知識の習得後、薬局の経営に関する分析視点の習得を目指す。

準備学習 (予習・復習等)

授業時間の中で社会科学のひとつの見方を楽しみ、日常生活の中で、将来の方向性を考えるひとつの材料としてください。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	辻 峰男	オリエンテーション	授業の進め方等を説明する。	
第2回	辻 峰男	経営学の基礎知識	薬局を含む経営一般に関する学術的な基礎知識を説明する。 (教科書資料)	
第3回	辻 峰男	会計学の基礎知識	財務諸表の読み方を概説する。	
第4回	辻 峰男	コーポレート・ガバナンスの事例	大手ドラッグストアにおける事例を紹介、分析する。 (教科書序章)	
第5回	辻 峰男	企業価値の分析	企業価値の観点から経営組織を考え、薬局経営を説明する。 (教科書第1章)	
第6回	辻 峰男	生産性の分析	ステークホルダーとの関係から組織を考え、薬局経営を説明する。 (教科書第2章)	
第7回	辻 峰男	株主との関係に関する分析	株主との関係から組織を考え、薬局経営を説明する。 (教科書第3章)	
第8回	辻 峰男	統合報告の分析	統合報告に関する新しい動向を考え、薬局経営を説明する。 (教科書第4章)	
第9回	辻 峰男	事例分析	メーカー、卸、薬局 (小売) という各レベルでの経営を、これまで学んだ知識から分析する。	
第10回	辻 峰男	事例分析	同上。	
第11回	辻 峰男	時事問題	話題となった経営に関するトピックを取り上げ、分析する。	
第12回	辻 峰男	総合分析	これまでの知識を総合的に応用する。	

成績評価方法

定期試験 (80%)、授業内課題 (20%) を予定。

教科書

武井一浩『コーポレートガバナンス・コードの実践』(日経 BP 社)

指定参考書

武井一浩『会社法を活かす経営』(日本経済新聞社)
伊丹敬之『ゼミナール経営学入門』(日本経済新聞社)
新田忠誓『全商 会計実務検定試験テキスト 財務諸表分析』(実教出版)

オフィスアワー

非常勤講師のため、質問等は授業の前後に講師控室または教室で受け付けます。

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

生活情報論

1～2年次
前期 選択 1単位

担当教員名 非常勤講師 滋野 英憲

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

生活の中で必要な情報を選択できるための基本的な知識を身に付けることを目標とする。選択するためには、大きな柱が3つある。

1つ目は情報を正確に理解する力である。詳細は各授業内で講義をするが、まずは情報の意味するところを理解できなければ、自己との関わりを判断することができない。2つ目は情報が必要か否かを判断する力である。生活の中で、あるいは将来の生活を考えた上で、ある情報が自分にとって必要であるのか、不要であるのかを判断できなければならない。そうでなければ情報に振りまわされることになる。限られた人生の時間の中で徒労に終わるような判断ミスは避けるべきである。3つ目は情報をいかに活用するのかを知ることである。自分にとって有益な情報であったとしても、それを活用しなければ宝の持ち腐れである。どのように活用すべきかを工夫することも生活の中では必要である。

これらの3つの柱はそれぞれ連動しているので、現実的な生活の中で切り離して考えられるものではない。よって多くの事例から講義内で説明をしていく。成果としては情報を正しく理解し、選択でき、そして活用できるようになる素地をつくれることである。

到達目標(SBOs)

上記に示した一般目標の3つの柱のそれぞれをどの程度理解できたのかを到達目標とする。1から3までの柱のいずれも7割は理解して到達すべき目標である。具体的には以下の7つのことができることが目安となる。

1. 情報から発信源と商品名が記憶できる
2. 空間の中で、情報源を5つ以上見つけることができる
3. 対人した場合に、その人についての特徴を5つ以上記憶できる。
4. 生活場面で、過去との相違を述べる知識がある。
5. 生活情報の変遷が理解できる。
6. 必要な情報を活用するためのツールを選択できる。
7. 情報の受信あるいは発信のための最適な条件を判断できる。

準備学習(予習・復習等)

予習としては主に経済に関するニュースやトピックスについては注意を払い、その情報がどこから発信されたのか、どのように取り上げられているのかを覚えておくことである。そのためにニュースなどは1日に15分程度はふれるように心がけてほしい。インターネットのツイッターやブログを使用している人はそこの話題も心にとめておく。

復習としては、授業で取り上げた例が本当に街中でも話題になっているのか否かを注意すること。また配布したプリントを再読すること。次の講義までには20分程度目をとってもらいたい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	滋野 英憲	概要説明：イントロダクション	授業の進め方、教材、評価、注意事項などの授業に関する説明と、科目である生活情報とは何を示すのかという領域の説明をおこなう。具体的には、授業の進め方については、特に評価と連動しているので、しっかりと理解してもらうために丁寧に説明をする。生活情報についてはテレビや新聞、インターネットなどを通して配信される情報を想起しがちであるが、それだけではなく普段になげなく接している日常空間などからも情報を得るので、その学問領域の説明をおこなう	
第2回	滋野 英憲	生活者としての情報接触態度と行動の理解	生活環境の中からどのように必要な情報を得るのかということとを理論的に学ぶ。ここではアイドマの法則を中心に、態度と行動との関係を説明する。これらの2つの理論は、マーケティング論の分野でもよく利用されている。	
第3回	滋野 英憲	法律にもとづく生活情報の例示1	たとえば、食品衛生法では食品全般についての開示についての規則がある。これは安全を確保する目的で施行されている。製造業者氏名、住所、製造年月日、成分、重量、添加物などが袋や缶に記載されている。食品だけではなく、家電でも電気用品取締法によって安全のために法律がある。このような安全のための開示も生活の中では重要な情報のひとつである。最近、産地の記載に消費者は敏感だといわれている。このように身近な商品からの情報について学ぶと共に、風評被害とは何か、その恐ろしさについても事例を交えて説明をする。薬事法において薬も内容量、有効期間、製造番号などは開示されなければならない。それらの情報をどのようにしたら正確に消費者に届けることができるのか、記載だけでは不十分であるといわれる原因なども説明をする	
第4回	滋野 英憲	法律にもとづく生活情報の例示2	たとえば、食品衛生法では食品全般についての開示についての規則がある。これは安全を確保する目的で施行されている。製造業者氏名、住所、製造年月日、成分、重量、添加物などが袋や缶に記載されている。食品だけではなく、家電でも電気用品取締法によって安全のために法律がある。このような安全のための開示も生活の中では重要な情報のひとつである。	

第5回	滋野 英憲	消費者問題への対処法を考える	消費者と事業者間には情報格差があり、事業者には消費者に対するより詳細かつ容易な情報提供が義務づけられている。しかし、現実には食品偽装や詐欺行為に近いような商品販売など消費者が遭遇する問題は数多く存在する。このような消費者の被害を未然に防ぐ対処法を考えていく。
第6回	滋野 英憲	サービスに関する情報と課題	生活をする上で様々なサービスを利用することは快適に生活するためのツールである。サービスといっても行政サービス、金融サービス、教育サービスなど内容は豊富である。もちろん医療サービスは現在、もっとも消費者のニーズが高い分野である。医療サービスは受け手は患者であったが、今後は、患者とは限らない場合も想定される。高齢化社会における医療サービスの課題についてもここでは取り上げる。
第7回	滋野 英憲	個別の生活情報とライフスタイル	生活を外と内に分類し、それぞれの場面での情報接触と収集について具体的に考えてみる。例えば、街中は外の世界である。そこにある看板、表示、音楽、商品は多種多様である。その中から個人はそのライフスタイルによって、情報を選択し、商品を選択、購入していくのである。それらのプロセスを解明する。商品やサービスへの関心度の高い人と低い人との基本属性を比較しながら、情報をいかに生活に我々は取り入れて、活用しているのかを学ぶ。
第8回	滋野 英憲	広告効果評価と購買行動との関係を考える	日常生活で接触頻度の高い広告は私たちの生活にどのように影響し、私たちに購買行動にどのように影響しているのかを具体的な広告を取りあげて考える。
第9回	滋野 英憲	生活情報の伝播とこだわり	情報の伝播にはいくつかのパターンが存在する。ここではそのパターンについて学ぶ。中心から徐々に周囲にひろがる波紋型、上から下へ階層を流れるように移動する情報、この逆に下から上への階層に浸透する音楽や風習などを例示しながら、情報の伝播について考える。また、こだわり商品、たとえば趣味のものなどがいかに仲間的な社会の中でひろがるのかも例示する。生活情報は必需品のみならず嗜好品のようなものも対象となる
第10回	滋野 英憲	環境配慮行動を促すために必要な情報提示とは何かについて学ぶ	生活者の消費活動は、地球環境を考慮して行わなければならないが、個人消費を見る限り自己の欲求を満たすことを優先し、環境など配慮していないような行動も散見される。生活者が無理なく積極的に環境配慮行動を実践するためにはどのような情報提示が望ましいのかを実際の調査データをもとに学ぶ。
第11回	滋野 英憲	生活者のリスク認知と行動の変容について学ぶ	生活者はどのような状況でリスクを感じ、どのような行動を取るのかについて、具体的な商品を対象として行われた調査実験データに基づいて、生活者のリスク回避行動を情報との関係を明にする。
第12回	滋野 英憲	情報の本質と変化	価値観からこだわりが生じてきているのだが、それらの概念を形成する多くの情報は、どのように選択されるのかということそしてそれらの本質について考える。本質の中には、真実とありのままの姿という他に、本来的にそれが役にたつのかということがある。生活の変化の中でその基準が過去とは異なる場合、それらをいかに正しく提示していくのか、正しく受け止める力を養うのかということが必要になってくる。

成績評価方法

日常点（1と2）と期末確認テスト点（3）の2つで評価をする。

1. 毎回の授業内（2回目～11回目の10回）で問題を出すので、それを授業時間内に解答し、提出する。10回分とし最高30点となる。
2. 毎回の授業内（2回目～12回目の11回）で授業テーマにそって、質問をするので挙手で解答できた場合など解答点を与える。これは簡単な問かけの場合は2点、非常に高度な質問に対する解答については5点とし、こちらからの質問のたびに点数は明示する。これを発言点とし、上記1に加算する（20点）。
3. 12回目の授業内で確認テストを実施する。配点は50点とする。
上記1から3の合計で100点とする

教科書

授業内で配布するプリントが教科書となる。

指定参考書

なし

オフィスアワー

随時

医薬品企業論

1～2年次
前期 選択 1単位

担当教員名 非常勤講師 辻 峰男

一般目標(GIO)

社会科学における経営学、その中の企業論を学ぶことを通して、経済社会の認識・考察・分析力を養うことを目指す。

到達目標(SBOs)

会計・経営分析に関する基礎知識の習得後、医薬品企業の経営に関する分析視点の習得を目指す。

準備学習(予習・復習等)

授業時間の中で社会科学のひとつの見方を楽しみ、日常生活の中で、将来の方向性を考えるひとつの材料としてください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	辻 峰男	オリエンテーション		
第2回	辻 峰男	財務諸表の仕組みと役割	企業活動との関係で、財務諸表の存在とその役割を説明する。	
第3回	辻 峰男	貸借対照表の見方	貸借対照表の構造、資産の主要項目に関する説明。 (教科書第2章)	
第4回	辻 峰男	貸借対諸表の見方	貸借対照表の構造、負債及び純資産の主要項目に関する説明。 (教科書第2章)	
第5回	辻 峰男	貸借対照表の見方	事例研究及び時事問題。特許権と医薬品企業。(教科書第5章)	
第6回	辻 峰男	損益計算書の見方	損益計算書の構造、本業からの利益計算に関する説明。	
第7回	辻 峰男	安全性の分析	安全性に関する指標の学習。(教科書第5章)	
第8回	辻 峰男	安全性の分析	安全性に関する指標の学習。(教科書第5章及び第7章)	
第9回	辻 峰男	収益性の分析	収益性に関する指標の学習。(教科書第4章)	
第10回	辻 峰男	収益性の分析	収益性に関する指標の学習。(教科書第4章及び第7章)	
第11回	辻 峰男	事例研究	総合的な企業間比較分析。(教科書第6章～第8章)	
第12回	辻 峰男	事例研究	医薬品企業の国際化とM&A。	

成績評価方法

期末筆記試験 80%、授業内確認テスト 20% を予定。

教科書

新田忠誓『実践財務諸表分析』(中央経済社)

指定参考書

TAC株式会社『合格テキスト日商簿記3級商業簿記』(TAC株式会社)

伊丹ほか『ゼミナール経営学入門』(日本経済新聞出版社)

オフィスアワー

授業の前後

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

教育
専
門

教育
専
門

基礎
教育

基礎
教育

専
門
教育

社会薬学

1 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 田内 義彦
特任教授 中江 裕子

一般目標(GIO)

社会において薬剤師が果たすべき役割、責任、義務等を正しく理解できるようになるため、薬学と薬剤師の歴史や社会情勢、関連する法律・制度、薬剤師の業務に関する基礎的知識を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。
2. 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。
3. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。
4. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。
5. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷について説明できる。
6. 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について説明できる。
7. 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。
8. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。
9. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。
10. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。
11. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。
12. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。
13. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。
14. 後発医薬品とその役割について説明できる。
15. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。
16. 薬局における薬学的管理の意義について説明できる。
17. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

普段より薬学や薬剤師に関する報道等に留意し、社会情勢を把握しておくことが大切である。講義後の即時の復習が重要であり、疑問を感じた点については質問するなど、速やかに解決し理解度を深めることが大切である。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田内 義彦	薬と社会Ⅰ	薬学教育 6 年制と新しい薬剤師像 社会薬学の意義	A-(5)-②-1 A-(5)-③-1
第2回	田内 義彦	薬と社会Ⅱ	社会における医薬品 薬局の機能と薬剤師の役割	B-(4)-①-1 B-(4)-①-2 B-(4)-①-3
第3回	田内 義彦	薬と社会Ⅲ	くすりと薬学の歴史と社会における役割 薬剤師の役割の変遷	A-(1)-④-1 A-(1)-④-2 A-(1)-④-3
第4回	田内 義彦	薬と社会Ⅳ	医薬分業の歴史と意義	A-(1)-④-1 A-(1)-④-3
第5回	田内 義彦	日本薬局方について	日本薬局方の意義と構成	B-(2)-②-8
第6回	田内 義彦	医薬品医療機器等法について	医薬品医療機器等法の概要と医薬品等の規定	B-(2)-①-1
第7回	中江 裕子	社会における薬剤師	薬剤師の活動分野と社会における役割	A-(1)-②-2
第8回	中江 裕子	法律と制度	薬剤師に関わる法令とその構成	B-(2)-①-1
第9回	中江 裕子	法律と制度	薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定	B-(2)-①-2 B-(2)-①-3
第10回	中江 裕子	医薬品の創製	医薬品の創製における薬剤師の役割	A-(1)-②-5
第11回	中江 裕子	薬害	薬害の歴史と内容	A-(1)-③-6
第12回	中江 裕子	医薬品の経済性	医薬品の市場の特徴と流通の仕組み 後発医薬品とその役割	B-(3)-②-1 B-(3)-②-3

成績評価方法

試験または試験とレポートの合計点により行う。

教科書

「薬剤師になる人のための生命倫理と社会薬学」(法律文化社)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

薬学入門

1 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 北河 修治 講師 土生 康司
准教授 池田 宏二 講師 中山 喜明
講師 上田 久美子 講師 武田 紀彦
講師 八巻 耕也

一般目標(GIO)

アスピリンを中心としていくつかの非ステロイド性抗炎症剤 (NSAIDs) をモデル薬物としてとりあげ、これらの薬物はどのようにして体内で作用を発現するか、また臨床現場で適正に使用するための問題点を学ぶ。これらのことを理解するために、薬学の各専門科目の学修がどのように関わっているかを把握し、今後の薬学の各専門科目の学修目的と科目間の連関を学ぶ。

到達目標(SBOs)

1. アスピリン及び関連する薬物がどのようにして作用するかを説明できる。
2. アスピリン及び関連する薬物を適正に使用するための問題点を説明できる。
3. アスピリン及び関連する薬物の理解に多数の専門科目が関わっていることを説明できる。
4. 薬学の各科目間の繋がりを説明できる。

準備学習(予習・復習等)

医療、医薬品を理解するためには、どのような学問を学ぶべきかを考えて、予習・復習をしてください。また、スモールグループディスカッションでの課題では、各自責任を持って考察し、考えをまとめてからスモールグループディスカッションに臨んでください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	北河 修治	くすりの歴史	講義の概要と目的、アスピリンを初めとするくすりの歴史	A(1)-④-2
第2回	北河 修治	物理系薬学の観点から	アスピリン及び関連薬物の安定性、溶解性	C1(3)-①-1 C2(2)-①-2 E5(5)-①-4
第3回	武田 紀彦	化学系薬学の観点から	アスピリン及び関連薬物の合成、反応、官能基の役割	C3(3)-①-1
第4回	中山 喜明	生物系薬学の観点から	アスピリン及び関連薬物とつながる生命現象	C6(4)-①-1 C7(4)-①-2
第5回	八巻 耕也	薬理学の観点から	アスピリン及び関連薬物の薬理作用	E2(2)-①-1 E2(2)-①-2 E2(2)-④-1
第6回	上田 久美子	薬物動態学の観点から	アスピリン及び関連薬物の薬物動態学	E1(1)-①-6
第7回	池田 宏二	薬物治療学の観点から	アスピリン及び関連薬物による薬物治療	E2(3)-①-3 E2(3)-②-2
第8回		特別講義 アッセンハイマー慶子 先生 (ドイツより来日)	演題 「生涯にわたって役立つオールラウンド学問、薬学」	A(5)-②-2
第9回	土生 康司	臨床現場の観点から 1	アスピリン及び関連薬物の臨床での適正使用 1	B(2)-①-3 B(2)-②-10 B(4)-①-3
第10回	土生 康司	臨床現場の観点から 2	アスピリン及び関連薬物の臨床での適正使用 2	E3(1)-②-4 E3(1)-②-5 F3(1)-③-2
第11回	池田 宏二 上田 久美子	まとめ 1	スモールグループディスカッション 1	上記の全てのコアカリ No
第12回	八巻 耕也 土生 康司	まとめ 2	スモールグループディスカッション 2	上記の全てのコアカリ No
第13回	中山 喜明 武田 紀彦	まとめ 3	スモールグループディスカッション内容の発表及び討論	上記の全てのコアカリ No

成績評価方法

定期試験 (70 点)、特別講義およびスモールグループディスカッションに関するレポートおよび出席点 (30 点) の合計で評価する。追再試験受験者の評価は、追再試験のみで行う。

教科書

パワーポイントおよびプリント使用

指定参考書

治療薬マニュアル 2014 (高久史磨・矢崎義雄 監修、医学書院)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

人の行動と心理

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 講師

中島 園美

一般目標 (GIO)

人の行動、認知、態度とそれに関連する心理的メカニズムの基本的な知識と考え方を修得する。
アサーション・トレーニングによって、自己表現を磨く。

到達目標 (SBOs)

1. 人の行動とその背景について理解する。
2. 人の動機づけについて理解する。
3. ストレスに関する知識を深める。
4. こころの発達に関する知識を得る。
5. パーソナリティーに関する知識を得る。
6. 対人関係に関する知識を得る。

準備学習 (予習・復習等)

自分や他者の行動や考え方とそのメカニズムを理解することは、社会の中でよりよく生きるための知識になり、さらに将来の医療従事者として他者を適切にサポートすることに活用できます。受け身にならず講義内容をしっかり自分にひきつけて学んで下さい。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	中島 園美	パーソナリティー	パーソナリティーの形成について	
第2回	中島 園美	自分を知る	自分が作りあげた自己イメージによって左右される自分の行動や考え方を知る、交流分析 (ワーク)	
第3回	中島 園美	学習	どのように私たちの行動はパターン化されるのか アサーション・ワーク	
第4回	中島 園美	動機づけ	自己や他者のモチベーションを左右するもの アサーション・ワーク	
第5回	中島 園美	記憶	記憶のしくみ、偽りの記憶 アサーション・ワーク	
第6回	中島 園美	感情	感情の機能、脳と感情との関係 アサーション・ワーク	
第7回	中島 園美	ストレス	ストレスマネジメント アサーション・ワーク	
第8回	中島 園美	乳幼児期の特徴	乳幼児の認知と思考 アサーション・ワーク	
第9回	中島 園美	虐待	医療現場と虐待 アサーション・ワーク	
第10回	中島 園美	青年期の心理的特徴	発達課題と心理的危機、アイデンティティーの獲得 アサーション・ワーク	
第11回	中島 園美	高齢者の心理的特徴	老年期の心理的危機、関わり方 アサーション・ワーク	
第12回	中島 園美	社会・集団	チーム医療におけるリーダーシップ アサーション・ワーク	

成績評価方法

1. レポート (50 点)
2. 平常点 (50 点) 配点内訳：出席、アサーション・ワーク

教科書

特になし
適宜、資料を配布します。

指定参考書

特になし。

オフィスアワー

講義終了後に個別質問を受け付けます。

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

物理化学 I

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 教授

中山 尋量

一般目標 (GIO)

物質の変換過程を理解するために、化学反応速度論、および反応速度に影響を与える諸因子に関する基本的知識と技能を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 反応次数と速度定数について説明できる。
2. 代表的な反応次数の決定法を列挙し、その特徴を説明できる。
3. 反応速度と温度との関係を説明できる。

準備学習 (予習・復習等)

予習として指数、対数計算、簡単な微分積分の復習をしておいて下さい。

復習では配布する計算問題プリントの問題を十分に活用すること。

①指数と対数計算 ②一次反応 ③基本反応 (1) ④基本反応 (2) ⑤複合反応、温度の効果

各プリントの所要時間は 60 ~ 120 分

テスト直前だけの勉強では対応できません。

物理や数学 (微分・積分) への苦手意識のある人にはハードルが高いかもしれません。数学で簡単な微分、積分ができるようにしておいて下さい。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	中山 尋量	1. 反応速度	反応次数と速度定数	C1-(3)-①-1
第2回	中山 尋量	2. 反応速度	速度式の変換	C1-(3)-①-2
第3回	中山 尋量	3. 反応速度	代表的な反応次数の反応の特徴	C1-(3)-①-3
第4回	中山 尋量	4. 反応速度	代表的な反応次数の決定法	C1-(3)-①-3
第5回	中山 尋量	5. 反応速度	(擬) 一次反応速度と反応速度定数	C1-(3)-①-4
第6回	中山 尋量	6. 反応速度	代表的な触媒反応	C1-(3)-①-7
第7回	中山 尋量	7. 反応速度	反応速度と温度との関係	C1-(3)-①-6
第8回	中山 尋量	8. 反応速度	代表的な複合反応	C1-(3)-①-5
第9回	中山 尋量	9. 反応速度	代表的な複合反応	C1-(3)-①-5
第10回	中山 尋量	10. 反応速度	酵素反応	C1-(3)-①-7
第11回	中山 尋量	11. 反応速度	衝突理論 遷移状態理論	C1-(3)-①-1
第12回	中山 尋量	12. 反応速度	総合演習	C1-(3)-①-1~7

成績評価方法

出席および試験によって総合的に評価する。

教科書

スタンダード薬学シリーズ II (日本薬学会編) 第2巻「物理系薬学 I 物質の物理的性質」東京化学同人

指定参考書

「物理化学演習」(三輪、青木著) 京都廣川書店

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

分析化学 I

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 教授

小林 典裕

一般目標 (GIO)

医薬品の化学分析において、溶液中の酸塩基反応、沈殿生成反応、錯体生成反応、酸化還元反応が重要な役割を果たしている。本講義では、これら化学反応の定量的な理解に必須となる化学平衡と、その定量分析への応用について論じる。

到達目標 (SBOs)

1. 酸・塩基の定義と酸塩基平衡について説明できる。
2. 各種水溶液の水素イオン濃度 pH を計算することができる。
3. 酸塩基滴定の原理を説明し、滴定曲線を作成することができる。
4. 沈殿平衡について説明できる。
5. 沈殿滴定の原理を説明し、滴定曲線を作成することができる。
6. 錯体、キレート の定義と錯体生成平衡について説明できる。
7. キレート滴定の原理を説明し、滴定曲線を作成することができる。
8. 酸化・還元 の定義と酸化還元平衡について説明できる。
9. 酸化還元滴定の原理を説明し、滴定曲線を作成することができる。
10. 分配平衡とイオン交換平衡について説明できる。

準備学習 (予習・復習等)

化学平衡に関する基本的な計算問題を解けることが求められます。
復習が必須。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小林 典裕	分析化学概論	薬学領域における分析化学の役割と方法論	
第2回	小林 典裕	酸塩基平衡 (1)	酸・塩基の定義、共役酸塩基対、酸塩基平衡と電離定数、弱酸・弱塩基の分子形 / イオン形存在比の pH による変化	C2(2)-①-1
第3回	小林 典裕	酸塩基平衡 (2)	各種の酸、塩基及び塩の水溶液の pH 計算法	C2(1)-①-2 C2(2)-①-4
第4回	小林 典裕	酸塩基平衡 (3)	各種の酸、塩基及び塩の水溶液の pH 計算法	C2(1)-①-2
第5回	小林 典裕	酸塩基滴定の基礎	酸塩基滴定の理論、滴定曲線の作成と当量点の決定法	C2(3)-②-1
第6回	小林 典裕	沈殿平衡	難溶性塩の沈殿平衡と溶解度積	C2(2)-②-2
第7回	小林 典裕	沈殿滴定の基礎	沈殿滴定の理論、滴定曲線の作成と当量点の決定法	C2(3)-②-3
第8回	小林 典裕	錯体生成平衡	金属錯体の種類、錯体生成平衡と安定度定数	C2(2)-②-1
第9回	小林 典裕	キレート滴定の基礎	キレート滴定の理論、滴定曲線の作成と当量点の決定法	C2(3)-②-2
第10回	小林 典裕	酸化還元平衡	酸化・還元 の定義、共役酸化還元対、酸化還元電位、酸化還元平衡と平衡定数	C2(2)-②-3
第11回	小林 典裕	酸化還元滴定の基礎	酸化還元滴定の理論、滴定曲線の作成と当量点の決定法	C2(3)-②-4
第12回	小林 典裕	分配平衡とイオン交換平衡	分配平衡と溶媒抽出への応用、およびイオン交換反応の化学平衡と物質の分離・精製への応用	C2(2)-②-4 C2(2)-②-5

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

『NEW 薬品分析化学』(第2版) (小林典裕、藤井洋一編、廣川書店)

指定参考書

1. 『よくある質問 分析化学の基礎』(澤田 清、山田真吉著、講談社)
2. 『化学サポートシリーズ 酸と塩基』(水町邦彦著、裳華房)
3. 『コアカリ対応分析化学』(前田昌子ら編、丸善)

オフィスアワー

質問は随時受け付けます。

無機・錯体化学

1 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授
講師

中山 尋量
前田 秀子

一般目標(GIO)

基本的な無機化合物の構造、物性、反応性を理解するために、電子配置、電子密度、化学結合の性質などに関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。
2. 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。
3. 代表的な無機医薬品を列挙できる。
4. 代表的な錯体の名称、立体構造、基本的性質を説明できる。
5. 錯体の安定性、反応性について説明できる。
6. 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。

準備学習(予習・復習等)

各項目について事前に高校の教科書を読んで予習をしておくこと
授業の内容(ノート)を十分に復習しておくこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	中山 尋量	1. 無機化合物	元素と周期表	(5)薬学の基礎としての化学-①-4
第2回	中山 尋量	2. 無機化合物	元素の諸性質	(5)薬学の基礎としての化学-①-4
第3回	前田 秀子	3. 無機化合物	代表的な典型元素とその特徴 窒素酸化物の名称、構造、性質	C3-(5)-①-1 C3-(5)-①-3 C4-(1)-②-3
第4回	前田 秀子	4. 無機化合物	イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物	C3-(5)-①-2 C4-(2)-①-1,2
第5回	前田 秀子	5. 無機化合物	活性酸素の構造、電子配置と性質	C3-(5)-①-3 C4-(1)-②-3
第6回	前田 秀子	6. 無機化合物	亜酸化窒素・一酸化窒素の電子配置と性質	C3-(5)-①-3 C4-(1)-②-3
第7回	中山 尋量	7. 無機化合物	代表的な無機医薬品 生体必須元素と生理作用	C3-(5)-①-5
第8回	中山 尋量	8. 無機化合物	代表的な遷移元素とその特徴	C3-(5)-①-1
第9回	中山 尋量	9. 錯体	代表的な錯体の名称、立体構造、基本的性質	C3-(5)-①-4
第10回	中山 尋量	10. 錯体	配位結合	C3-(5)-①-4
第11回	中山 尋量	11. 錯体	代表的な配位子、配位基、キレート試薬 錯体の安定度定数と配位子のキレート効果 錯体の反応性	C3-(5)-①-4 アドバンスト C3-⑩-1 アドバンスト C3-⑩-2
第12回	中山 尋量	12. 錯体	医薬品として用いられる代表的な錯体 生体内に存在する代表的な金属イオンと錯体の機能	C3-(5)-①-5 C4-(1)-②-4

成績評価方法

出席および試験によって総合的に評価する。

教科書

薬学のための無機化学(桜井 弘編著)化学同人

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専
門
教育

基礎
教育

教育
養

専
門
教育

基礎
教育

専
門
教育

有機化学 I

1 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 奥田 健介
准教授 竹仲 由希子

一般目標(GIO)

基本的な有機化合物の構造、物性、反応性を理解するために、有機化合物の命名法、電子配置、立体化学に関する基本的知識を修得する。また、官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的な事項を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。
2. 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。
3. 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。
4. ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。
5. 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル）の構造と性質を説明できる。
6. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)
7. 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。
8. キラリティーと光学活性の関係を概説できる。
9. エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。
10. ラセミ体とメソ体について説明できる。
11. 絶対配置の表示法を説明し、キラリ化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)
12. フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)
13. エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。
14. アルカンの基本的な性質について説明できる。
15. アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)
16. シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。
17. シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。(技能)
18. 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

この科目の範囲内に限定せず、関連の化学系科目の内容も参照しながら、教科書や参考書をよく読みこむことが重要です。練習問題を解くことで、理解度を認識し、日々復習に努めて下さい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	竹仲 由希子	有機分子の構造と結合 1	イオン結合、共有結合、極性共有結合、構造の表示 (Lewis 構造、Kekulé 構造)	C3-(1)-①-3
第2回	竹仲 由希子	有機分子の構造と結合 2	共鳴構造と曲がった矢印の使用法	C3-(1)-①-4
第3回	竹仲 由希子	有機分子の構造と結合 3	混成軌道と構造の表記法	C1-(1)-①-2
第4回	竹仲 由希子	構造と反応性	酸と塩基、求電子剤と求核剤	C3-(1)-①-5
第5回	竹仲 由希子	有機化合物の基礎 1	アルカンの命名と物理的性質および立体配座と安定性	C3-(1)-①-1,2
第6回	竹仲 由希子	有機化合物の基礎 2	シクロアルカンの命名と物理的性質および立体配座と安定性	C3-(1)-②-8
第7回	奥田 健介	アルカンの反応 1	ラジカル構造と安定性	C3-(2)-①-1,2
第8回	奥田 健介	アルカンの反応 2	ラジカル置換反応	C3-(2)-①-3,4,5
第9回	奥田 健介	立体化学 1	キラリ中心と立体配置の R,S 表記 (キラリ分子とアキラリ分子)	C3-(1)-②-1,2,5
第10回	奥田 健介	立体化学 2	複数の不斉炭素を持つ異性体 (エナンチオマー、ジアステレオマー)	C3-(1)-②-3,5,7
第11回	奥田 健介	立体化学 3	複数の不斉炭素を持つ異性体 (メソ化合物)	C3-(1)-②-4
第12回	奥田 健介	立体化学 4	化学反応における立体化学	C3-(1)-②-5,7

成績評価方法

定期試験 90 点、小テスト 10 点

教科書

ボルハルト・ショアー 現代有機化学 (第6版) 上・下 (古賀憲司ら監訳) 化学同人

指定参考書

ブルース有機化学 (第7版) 上・下 (大船泰史ら監訳) 化学同人
スタンダード薬学シリーズ 化学系薬学 I,II,III (日本薬学会編) 東京化学同人
ソロモンの新有機化学 (第9版) 上・下 (花房昭静ら訳) 廣川書店

オフィスアワー

随時

有機化学Ⅱ

1 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授
講師

和田 昭盛
沖津 貴志

一般目標(GIO)

化学物質を理解できるようになるために、代表的な有機化合物の構造、性質、反応に関する基本的事項を修得する。基本的な有機化合物の命名法、電子配置、反応、立体構造などに関する基本的事項を修得する。官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。
2. 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。
3. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。
4. 基本的な有機反応（置換、付加、脱離）の特徴を理解し、分類できる。
5. 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル）の構造と性質を説明できる。
6. 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。
7. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)
8. 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
9. 求核置換反応の特徴について説明できる。
10. 脱離反応の特徴について説明できる。
11. アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
12. エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
13. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
14. アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。

準備学習(予習・復習等)

講義の前に教科書を読み予習しておくこと。講義後は章末問題を解いて復習すること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	和田 昭盛	構造と反応性	構造と反応性	C3-(1)-①-6,9
第2回	和田 昭盛	ハロアルカンの反応 1	ハロアルカンの性質と二分子求核置換反応 (SN2 反応)	C3-(1)-①-8,9 C3-(3)-②-1,2
第3回	和田 昭盛	ハロアルカンの反応 2	一分子求核置換反応 (SN1 反応)	C3-(1)-①-7,8,9 C3-(3)-②-1,2
第4回	和田 昭盛	ハロアルカンの反応 3	一分子脱離反応 (E1 反応) と二分子脱離反応 (E2 反応)	C3-(1)-①-7,8,9 C3-(3)-②-3
第5回	和田 昭盛	ハロアルカンの反応 4	ハロアルカンの性質についてのまとめ (置換反応と脱離反応の競争)	C3-(1)-①-7,8,9 C3-(3)-②-1,2,3
第6回	和田 昭盛	アルケンの命名、性質、および合成法	アルケンの命名と物理的性質、アルケンの合成法	C3-(1)-①-1,2 C3-(3)-②-3
第7回	沖津 貴志	アルコールの命名と性質、およびアルコールの酸化	アルコールの命名、アルコールの物理的性質、アルコールの酸化	C3-(1)-①-1,2,9 C3-(3)-③-1 C3-(3)-⑦-1
第8回	沖津 貴志	アルコールの合成	求核置換反応によるアルコールの合成、カルボニル基のヒドリド還元、カルボニル基と Grignard 反応剤との反応	C3-(1)-①-9 C3-(3)-③-1 C3-(3)-④-1
第9回	沖津 貴志	アルコールの反応	アルコールの置換反応と脱離反応、ヒドロキシ基から脱離基への変換	C3-(1)-①-9 C3-(3)-③-1
第10回	沖津 貴志	エーテルの命名と性質、および合成法	エーテルの名称と物理的性質、Williamson エーテル合成法、アルコールと無機酸によるエーテル合成法	C3-(1)-①-1,2,9 C3-(3)-③-2
第11回	沖津 貴志	エーテルの反応	エーテルの反応、オキサシクロプロパン (エポキシド) の反応	C3-(1)-①-9 C3-(3)-③-2
第12回	沖津 貴志	有機硫黄化合物	アルコールおよびエーテルの硫黄類縁体の名称と物理的性質および反応	C3-(1)-①-1,2,9 C3-(3)-③-2

成績評価方法

定期試験 100 点

教科書

ボルハルト・ショアー現代有機化学 (第 6 版) 上 (古賀憲司ら監訳) 化学同人
パザパ薬学演習シリーズ 4 「有機化学演習」 (上西潤一、和田昭盛) 京都廣川書店

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

指定参考書

ブルース有機化学（第7版）上（大船泰史ら監訳）化学同人
スタンダード薬学シリーズ3 「化学系薬学Ⅰ．化学物質の性質と反応」（日本薬学会編）東京化学同人
ソロモンの新有機化学（第9版）上（花房昭静ら訳）廣川書店

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

生薬学

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 講師

西山 由美

一般目標(GIO)

自然界に存在する物質を医薬品として利用できるように、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質などに関する基本的事項を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 多成分系の医薬品としての生薬を説明できる。
2. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。
3. 代表的な薬用植物の外部形態、植物の主な内部形態について説明できる。
4. 法律によって取り扱いが規制されている植物の特徴を説明できる。
5. 日本薬局方収載の代表的な生薬を列挙し、基原、薬用部位、薬効、成分、用途などを説明できる。
6. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。
7. 生薬の同定と品質評価について概説できる。

準備学習(予習・復習等)

この科目では覚えることがたくさんあり、また幅広い知識が要求されます。学習内容を自分なりに「まとめる」ことを勧めます。特に覚える内容を整理して、分類したり表にしたりすることで、ただ単に暗記するのではなく、いろいろな事に関連づけて覚える事が大切です。また、専門的な用語も出てきますが、指定参考書などを利用して、用語の意味などを理解する事も大切です。講義では、生薬の標本を回覧します。生薬に触れて身近に感じて欲しいと思います。本学薬用植物園では実際の植物を見ることが出来ます。生きた植物に触れてその魅力も感じて下さい。植物によって観察に適した時期が違ってくるので、年間を通して植物園に行く事を勧めます。興味や関心を持って勉強する事が、暗記できる一番の近道だと思います。そして、わからないことがあるときは、そのままにせず調べたり質問したりして解消することを心がけて下さい。質問はいつでも受け付けています。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	西山 由美	総論	生薬と生薬学、生薬の歴史、生産と流通について	C5(1)
第2回	西山 由美	生薬の基原植物の形態と分類	植物の外部形態・内部形態、植物の分類について	C5(1)-①-1,2,3
第3回	西山 由美	生薬の品質評価	生薬と含有成分、品質評価について	C5(1)-④-1,2,4,5
第4回	西山 由美	生薬の特徴と漢方薬	医薬品としての生薬の特徴、漢方薬と民間薬、健康食品とサプリメント、有効成分原料としての生薬について	C5(1)-①-1 C5(1)-③-1 C5(1)-④-3
第5回	西山 由美	各論1：双子葉植物綱 離弁花植物由来の生薬(1)	各生薬について、生薬名、基原植物、科名、薬用部位、成分、薬効/用途などを学ぶ。 双子葉植物綱 離弁花植物由来の生薬	C5(1)-①-1,4 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1,2 C5(1)-④-3
第6回	西山 由美	各論2：双子葉植物綱 離弁花植物由来の生薬(2)	各生薬について、生薬名、基原植物、科名、薬用部位、成分、薬効/用途などを学ぶ。 双子葉植物綱 離弁花植物由来の生薬	C5(1)-①-1,4 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1,2 C5(1)-④-3
第7回	西山 由美	各論3：双子葉植物綱 離弁花植物由来の生薬(3)	各生薬について、生薬名、基原植物、科名、薬用部位、成分、薬効/用途などを学ぶ。 双子葉植物綱 離弁花植物由来の生薬	C5(1)-①-1,4 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1,2 C5(1)-④-3
第8回	西山 由美	各論4：双子葉植物綱 合弁花植物由来の生薬(1)	各生薬について、生薬名、基原植物、科名、薬用部位、成分、薬効/用途などを学ぶ。 双子葉植物綱 合弁花植物由来の生薬	C5(1)-①-1,4 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1,2 C5(1)-④-3
第9回	西山 由美	各論5：双子葉植物綱 合弁花植物由来の生薬(2)	各生薬について、生薬名、基原植物、科名、薬用部位、成分、薬効/用途などを学ぶ。 双子葉植物綱 合弁花植物由来の生薬	C5(1)-①-1,4 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1,2 C5(1)-④-3
第10回	西山 由美	各論6：単子葉植物綱由来の生薬	各生薬について、生薬名、基原植物、科名、薬用部位、成分、薬効/用途などを学ぶ。 単子葉植物綱由来の生薬	C5(1)-①-1,4 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1,2 C5(1)-④-3
第11回	西山 由美	各論7：裸子植物、藻類、菌類由来の生薬 各論8：動物、鉱物由来の生薬	各生薬について、生薬名、基原植物、科名、薬用部位、成分、薬効/用途などを学ぶ。 裸子植物、藻類、菌類由来の生薬 動物、鉱物由来の生薬	C5(1)-①-1,4 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1,2 C5(1)-④-3

基礎教育

教育養

専門

基礎教育

教育養

専門

基礎教育

専門教育

専門教育

専門教育

専門教育

第12回	西山 由美	代表的な生薬の分類	これまで学んだ生薬について、主に薬効により分類し各生薬について知識を深め定着させる。	C5(1)-①-1,4 C5(1)-②-1 C5(1)-③-1,2 C5(1)-④-3
------	-------	-----------	--	--

成績評価方法

定期試験 (90 %)、授業中の課題レポート (10 %)

教科書

パートナー生薬学 改訂第2版 (南江堂)、プリント冊子

指定参考書

生薬単 (NTS)、カラーグラフィックス 薬用植物 第4版 (廣川書店)
第十六改正日本薬局方解説書 (廣川書店)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

機能形態学

1 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授 江本 憲昭
准教授 波多江 崇

一般目標(GIO)

人体の基本構造を理解するために、各器官系の構造と機能に関する基本的知識を修得し、また、恒常性の維持機構を個体レベルで理解するために、生体の調節機構に関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。
2. 中枢神経系について概説できる。
3. 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。
4. 骨、筋肉について概説できる。
5. 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。
6. 皮膚について概説できる。
7. 心臓について概説できる。
8. 血管系について概説できる。
9. リンパ管系について概説できる。
10. 肺、気管支について概説できる。
11. 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。
12. 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。
13. 泌尿器系について概説できる。
14. 生殖器系について概説できる。
15. 内分泌系について概説できる。
16. 感覚器系について概説できる。
17. 血液・造血器系について概説できる。
18. 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。
19. 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。
20. 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。
21. 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。
22. 血圧の調節機構について概説できる。
23. 血糖の調節機構について概説できる。
24. 体液の調節機構について概説できる。
25. 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。
26. 性周期の調節機構について概説できる。

準備学習(予習・復習等)

高校卒業までに学習した「生物」の知識は必須です。
特に受験で「生物」を選択しなかった学生は、「生物」を十分に学習してから講義に臨んでください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	波多江 崇	解剖学総論	人体の区分、各臓器の名称・形態・位置の概説	C7-(1)-③-1 C7-(1)-③-2~4
第2回	波多江 崇	組織学総論 内分泌系・体液の恒常性	人体構成組織の構造と機能 内分泌系の構造と機能および体液調節機構	C7-(1)-③-1 C7-(1)-⑫-1 C7-(2)-②-1 C7-(2)-⑧-1
第3回	波多江 崇	神経系・骨格系・筋肉系(1)	中枢神経系および末梢神経系の構造と機能	C7-(1)-④-1 C7-(1)-④-2 C7-(2)-①-1 C7-(2)-①-4 C7-(2)-③-1 C7-(2)-④-1
第4回	波多江 崇	神経系・骨格系・筋肉系(2)	骨・関節・筋肉の構造と機能	C7-(1)-④-2 C7-(1)-⑤-1 C7-(1)-⑤-2 C7-(2)-①-1 C7-(2)-①-2
第5回	江本 憲昭	循環器系(1)	心臓の構造と機能	C7-(1)-⑦-1
第6回	江本 憲昭	循環器系(2)	血管系・リンパ系の構造と機能 血液・造血器系臓器について機能と構造	C7-(1)-⑦-2 C7-(1)-⑦-3 C7-(1)-⑭-1 C7-(2)-⑨-1

基礎
教育

教育
養

専
門

基礎
教育

教育
養

専
門

基礎
教育

専
門

教育

第7回	江本 憲昭	循環器系 (3)	血圧の調節機構	C7-(2)-⑤-1
第8回	波多江 崇	呼吸器系	呼吸器の構造と機能 肺および組織におけるガス交換	C7-(1)-⑧-1
第9回	波多江 崇	消化器系	消化器系の構造と機能	C7-(1)-⑨-1 C7-(1)-⑨-2 C7-(2)-⑥-1
第10回	波多江 崇	泌尿器系	泌尿器系の構造と機能	C7-(1)-⑩-1 C7-(2)-⑦-1 C7-(2)-⑦-2
第11回	波多江 崇	皮膚・感覚器系	皮膚および感覚器の構造と機能	C7-(1)-⑥-1 C7-(1)-⑬-1 C7-(2)-①-3
第12回	波多江 崇	生殖器系	生殖器系の構造と機能	C7-(1)-⑪-1 C7-(2)-⑩-1

成績評価方法

定期試験 (100点)

教科書

得意になる解剖生理 (照林社) 美田誠二
プリント

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

生化学 I

1 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 講師
講師

児玉 典子
多河 典子

一般目標(GIO)

生命の活動単位としての細胞の成り立ちを分子レベルで理解するために、その構成分子の構造、合成、性状、機能に関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。
2. 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。
3. 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。
4. 細胞膜を構成する代表的な脂質、その機能を分子レベルで説明できる。
5. 脂肪酸の合成と β 参加について説明できる。
6. コレステロールの合成と代謝を説明できる。
7. 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。
8. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。
9. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

授業時間を厳守し、私語を慎むこと。
予習を必ず行ってから授業を受けること。
自分のノートを作成し、活用すること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	多河 典子	アミノ酸の種類、構造、性質	アミノ酸の種類と構造および性質 ペプチド結合	C6-(2)-③-1
第2回	多河 典子	脂質の種類、構造、機能	脂肪酸、中性脂肪、ステロールの種類と構造および機能 ステロイドの種類と構造および機能	C6-(2)-①-1
第3回	児玉 典子	糖質	代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割	C6-(2)-②-2
第4回	児玉 典子	糖質	代表的な多糖の種類、構造、性質、役割	C6-(2)-②-2
第5回	多河 典子	複合脂質の種類	複合脂質の構造と機能、生理活性脂質	C6-(2)-①-1
第6回	多河 典子	脂質と生体膜	生体膜の構造と性質および機能	C6-(1)-①-1,2 C6-(3)-④-1
第7回	多河 典子	脂質代謝	脂肪の吸収、脂肪酸の β 酸化	C6-(5)-③-1
第8回	多河 典子	脂質代謝	脂肪酸の合成、ケトン体の生成	C6-(5)-③-1 C6-(5)-④-1
第9回	多河 典子	脂質代謝	リポタンパク質の代謝 コレステロールの合成と代謝 ステロイドホルモンの合成	C6-(3)-④-2 C6-(5)-③-2
第10回	多河 典子	アミノ酸代謝	タンパク質の消化、吸収 アミノ酸の同化と異化	C6-(5)-⑤-1
第11回	多河 典子	アミノ酸代謝	アミノ酸の同化と異化	C6-(5)-⑤-1
第12回	多河 典子	アミノ酸代謝	アンモニアの代謝と尿素サイクル 先天性代謝異常症	C6-(5)-⑤-1

成績評価方法

定期試験 (100%)

教科書

New 生化学 (豊田基郎 他編) 広川書店

指定参考書

特になし

オフィスアワー

オフィスアワーは必要に応じて行う。

基礎
教育

教育
養

専
門
教育

基礎
教育

教育
養

専
門
教育

基礎
教育

基礎
教育

専
門
教育

生化学Ⅱ

1 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 講師 三上 雅久

一般目標(GIO)

生命活動を担うタンパク質の構造、性質、機能、代謝に関する基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。
2. タンパク質の翻訳後の成熟過程や細胞内での分解について説明できる。
3. 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。
4. 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。
5. 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。
6. 膜輸送体や血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。
7. 代表的な細胞内情報伝達について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

教科書を使用した復習が大前提である。講義中に強調した用語や、教科書で青字になっている用語を中心にまとめること（30分程度）。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	三上 雅久	タンパク質の機能と構造	タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質	C6-(2)-④-1
第2回	三上 雅久	タンパク質の機能と構造	多彩な機能をもつタンパク質	C6-(3)-①-1
第3回	三上 雅久	タンパク質の機能と構造 タンパク質代謝	タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾） タンパク質の細胞内での分解	C6-(3)-②-1 C6-(3)-②-2
第4回	三上 雅久	酵素の一般的性質 酵素反応速度論	酵素反応の特性と反応速度論①	C6-(3)-③-1
第5回	三上 雅久	酵素の一般的性質 酵素反応速度論	酵素反応の特性と反応速度論② 酵素反応における補酵素、微量金属の役割	C6-(3)-③-1 C6-(3)-③-2
第6回	三上 雅久	酵素の活性調節	代表的な酵素活性調節機構	C6-(3)-③-3 C6-(3)-③-4
第7回	三上 雅久	酵素以外のタンパク質	膜輸送体の種類、構造、機能 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能	C6-(3)-④-1 C6-(3)-④-2
第8回	三上 雅久	細胞内情報伝達	細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達	C6-(6)-①-1 C6-(6)-②-1
第9回	三上 雅久	細胞内情報伝達	細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達	C6-(6)-②-2
第10回	三上 雅久	細胞内情報伝達	細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達	C6-(6)-②-3
第11回	三上 雅久	細胞内情報伝達	細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャー	C6-(6)-②-4
第12回	三上 雅久	細胞内情報伝達	細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達	C6-(6)-②-5

成績評価方法

定期試験（100点）

教科書

NEW 生化学 第2版（廣川書店）

指定参考書

スタンダード薬学シリーズⅡ 4 生物系薬学 I. 生命現象の基礎（東京化学同人）
ヴォートの生化学（東京化学同人）
ビジュアルワイド図説生物（東京書籍）

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。

微生物学 I

1 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 教授

小西 守周

一般目標(GIO)

感染症に対し、適切な治療を行うためには、微生物の種類と、各微生物の増殖能や特有の構造を理解する必要がある。微生物学 I では、微生物を大きく細菌、真菌、原虫、ウイルスに分け、それぞれの特徴を理解することを目標とする。

到達目標(SBOs)

1. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。
2. 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。
3. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。
4. 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。
5. ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。
6. 真菌の性状を概説できる。
7. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。
8. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。
9. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。
10. 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。
11. 日和見感染と院内感染について説明できる。
12. 原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）について概説できる。

準備学習(予習・復習等)

微生物は、疾病の原因として重要な位置をしめるのみならず、生態系の維持やヒトの生命活動にも深く関わる。このように重要な役割を担う微生物を理解するためには、生物学、生化学、分子生物学など多岐にわたる知識が必要とされる。微生物学を受講する前に、上記の科目について既に学んだことを、もう一度復習してから、講義に臨むことを希望する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小西 守周	微生物とは その1	生態系の中での微生物の役割について	C8-(3)-①-1
第2回	小西 守周	微生物とは その2	腸内細菌、常在菌の役割について	C8-(4)-①-1,2
第3回	小西 守周	原核生物と真核生物	生物の分類および原核生物と真核生物の違いについて	C8-(3)-①-1
第4回	小西 守周	細菌の構造 その1	細菌の構造（全体像および細胞膜、細胞壁など）	C8-(3)-②-2
第5回	小西 守周	細菌の構造 その2	細胞壁におけるペプチドグリカンについて	C8-(3)-②-2
第6回	小西 守周	細菌の構造 その3	グラム陽性菌と陰性菌の細胞壁の構造について	C8-(3)-②-2
第7回	小西 守周	細菌の構造 その4	細菌の構造（莢膜、べん毛や芽胞形成に関して）	C8-(3)-②-2 C8-(3)-⑤-1,2
第8回	小西 守周	細菌の増殖、エネルギー代謝	細菌の増殖機構と、それに影響を及ぼす因子 発酵、呼吸によるエネルギー産生に関して	C8-(3)-②-2,3
第9回	小西 守周	真菌、原虫について その1	真菌、原虫の特徴、分類について	C8-(3)-④-1,2
第10回	小西 守周	真菌、原虫について その2	原虫の生活環と代表的な病原性原虫について	C8-(3)-④-1,2 C8-(4)-②-9
第11回	小西 守周	ウイルス総論 その1	ウイルスの構造と、それをもとした分類について	C8-(3)-③-1
第12回	小西 守周	ウイルス総論 その2	ウイルスの増殖機構とファージに関して	C8-(3)-③-1

成績評価方法

定期試験（100点）

教科書

薬学領域の微生物学・免疫学第2版（廣川書店）

指定参考書

ポイントがわかる薬科微生物学第2版（京都廣川書店）

オフィスアワー

必要に応じて開催する可能性がある。質問は2号館3階微生物化学研究室にて対応する。

基礎
教育

教育
養

専
門

基礎
教育

教育
養

専
門

基礎
教育

専
門

教育

専
門

専
門

専
門

早期体験学習

1 年次
通年 必修 2 単位

担当教員名	教授	中山 尋量	教授	向 高弘	准教授	波多江 崇
	教授	杉山 正敏	教授	力武 良行	准教授	玉巻 欣子
	教授	内田 吉昭	特別教授	田中 研治	准教授	上田 昌史
	教授	畑 公也	臨床特命教授	韓 秀妃	講師	中島 園美
	教授	濱口 常男	准教授	松家 次朗	講師	河内 正二
	教授	沼田 千賀子	准教授	赤井 朋子		

一般目標 (GIO)

医療・福祉の現状と薬剤師を取り巻く環境を理解し、薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために、創薬・医薬品供給・医療・福祉の現場などを体験し、将来医療の担い手となる自覚を持つ。

到達目標 (SBOs)

1. 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。
2. 薬局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。

準備学習 (予習・復習等)

積極的なグループ学習への参加を求めます。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回		ガイダンス	早期体験学習の概要	F-(1)-①-1～3
第2回		導入講義	ハンディキャップ体験	F-(1)-①-1～3
第3回		導入講義	救命救急訓練	F-(1)-①-1～3
第4回		導入講義	マナー講座	F-(1)-①-1～3
第5回		導入講義	施設からの提言	F-(1)-①-1～3
第6回		訪問準備	訪問施設の事前調査 プロトコルの作成	F-(1)-①-1～3
第7回		施設訪問 1	病院、薬局を訪問	F-(1)-①-1～3
第8回		施設訪問 2	製薬企業、公的機関、福祉施設などを訪問	F-(1)-①-1～3
第9回		訪問報告	プロトコルの完成 訪問報告書の作成	F-(1)-①-1～3
第10回		SGD	体験した内容について、グループに分かれてスモールグループディスカッションを行う	F-(1)-①-1～3
第11回		発表会準備	発表スライド・ポスターの作成	F-(1)-①-1～3
第12回		発表会 1	クラス内発表会	F-(1)-①-1～3
第13回		発表会 2	全体発表会	F-(1)-①-1～3

成績評価方法

出席、レポート、発表を総合的に判断して、評価する。

教科書

特になし

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

基礎化学実習

1 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授 中山 尋量
講師 前田 秀子
助教 林 亜紀

一般目標(GIO)

実験器具の正確な名称とその正しい使い方、実験装置の正しい組み立て方とその操作法など化学実験の基本を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 化学実験を行うに際しての注意点を説明できる。
2. 簡単なガラス細工を修得する。
3. 実験器具の正しい名称と使い方を修得する。
4. 昇華、再結晶、蒸留などの基本的な精製法を修得する。
5. 簡単な無機医薬品を合成する。
6. 溶液の水素イオン濃度 (pH) を測定できる。
7. 目的の濃度の溶液を調製できる。

準備学習(予習・復習等)

無断欠席、遅刻厳禁です。実習内容をよく頭に入れて実習すること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	中山 尋量 前田 秀子 林 亜紀	1. 化学実験の注意点 2. 昇華法による固体の精製	化学実験における事故防止のための注意 昇華法による固体の精製	
第2回	中山 尋量 前田 秀子 林 亜紀	3. ガラス細工	ガラス細工の基本と簡単なガラス器具の製作	
第3回	中山 尋量 前田 秀子 林 亜紀	4. ホウ酸の合成と精製	ホウ酸の合成と再結晶による精製	
第4回	中山 尋量 前田 秀子 林 亜紀	5. アセトアニリドの合成	アセトアニリドの合成と再結晶による精製	
第5回	中山 尋量 前田 秀子 林 亜紀	6. 蒸留による液体の精製	酢酸エチルの蒸留	
第6回	中山 尋量 前田 秀子 林 亜紀	7. 中和滴定	溶液の調製、pH 測定による滴定曲線の作製と緩衝液の理解	C2-(2)-①-3

成績評価方法

レポートなど提出物 (50 点) 配点内容: 課題等提出物、最終レポート
平常点 (50 点) 配点内容: 出席、受講 (実習) 態度

教科書

基礎化学実習書 (機能性分子化学研究室編)
わかりやすい化学実験 (津波古、内藤他) 廣川書店

指定参考書

薬学大辞典 廣川書店
日本薬局方解説書 廣川書店

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

初期体験臨床実習

1 年次
通年 選択 1 単位

担当教員名	教授	中山 尋量	臨床特命教授	渡 雅克
	教授	小林 典裕	准教授	松家 次朗
	教授	杉山 正敏	准教授	山野 由美子
	教授	江本 憲昭	講師	猪野 彩
	教授	力武 良行		

一般目標 (GIO)

神戸大学医学部との連携により医学科学生、保健学科学生と混成チームを構成して、保健医療の実践現場を訪問し患者、医師、薬剤師、看護師など様々な人に接することにより、チーム医療の実際を知ることで、多職種間医療人協働（インタープロフェSSIONアルワーク：IPW）の重要性を認識する。

到達目標 (SBOs)

1. 患者中心の医療において、各専門職の役割や協働の重要性について述べるができる。
2. 病院での患者や実習指導者などと意見交換を行うことで、薬剤師の専門職としての社会的使命を把握する。

準備学習 (予習・復習等)

神戸大学医学部学生とのグループ学習に積極的に参加してください。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回		オリエンテーション		A(4)1～5
第2回		グループ学習		A(4)1～5
第3回		患者代表者による講義		A(4)1～5
第4回		チーム医療の実際（医学部医学科学生、保健学科学生との混成チームによる施設見学）		A(4)1～5
第5回		見学成果のまとめ		A(4)1～5
第6回		グループ別討論		A(4)1～5
第7回		合同発表会		A(4)1～5

成績評価方法

出席調査書、レポート、発表を総合的に判断して評価する。

教科書

特になし

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

アクティブ・ラボ

1 年次後期、2 年次前期・後期
選択 1 単位

担当教員名 (150・151 ページ参照)

一般目標(GIO)

薬学には様々な研究領域があることを理解してもらうため、学年から研究室に所属し、研究活動をとおりて研究マインドの醸成と薬学に対するモチベーション向上を目的とする。
薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける修練をする。

到達目標(SBOs)

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。
2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。
3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)
5. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。
6. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。
7. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)

準備学習(予習・復習等)

研究室ごとに指示する。

授業内容(項目・内容)

研究室ごとのテーマ

成績評価方法

日誌や実験レポートなどの活動履歴を成果として評価する。

教科書

特になし

指定参考書

特になし

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

研究室名	担当教員名	題目
機能性分子化学	教授 中山 尋量	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい薬物 carrier を目指した機能性材料の開発 ・リン酸塩の特性を利用した機能性化合物の合成 ・層状化合物を利用した脱臭剤の開発
	講師 前田 秀子	
	助教 林 亜紀	
薬化学	教授 奥田 健介	<ul style="list-style-type: none"> ・病態・生命機能解明および創薬を志向する機能性分子の創製 ・生物活性を持つ天然物有機化合物の構造、合成および生合成に関する研究
	准教授 竹仲 由希子	
	講師 西村 克己	
薬品化学	准教授 上田 昌史	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい「くすり」を創る。 (医薬品合成のための新規反応の開発) (医薬品開発を目指した新規化合物の合成研究)
	講師 武田 紀彦	
生命分析化学	教授 小林 典裕	<ul style="list-style-type: none"> ・抗体のバイオテクノロジーと分析化学への応用
	助教 大山 浩之	
生薬化学	准教授 土反 伸和	<ul style="list-style-type: none"> ・薬用植物における二次代謝産物の生合成と輸送機構に関する研究 ・生薬、漢方薬および植物含有成分の構造解析と生物活性に関する研究
	講師 西山 由美	
薬品物理化学	教授 向 高弘	<ul style="list-style-type: none"> ・生命・自然現象の解明と疾患の診断や治療を目指した物理化学的研究
	講師 田中 将史	
生命有機化学	教授 和田 昭盛	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化学合成を目指した基礎的な実験手法の修得と反応の理解
	准教授 山野 由美子	
	講師 沖津 貴志	
薬剤学	教授 岩川 精吾	<ul style="list-style-type: none"> ・トランスポーターやレセプターを利用した新規薬物療法の開発ならびに薬物の体内動態制御
	講師 上田 久美子	
	助教 細川 美香	
製剤学	教授 坂根 稔康	<ul style="list-style-type: none"> ・難水溶性薬物の分散・溶解と生体膜透過性 ・医薬品の安定性評価とフェンタニル貼布剤および抗 HIV 薬の適正使用に関する研究 ・ポリフェノールの経皮吸収製剤の開発研究および軟膏剤の混合性評価に関する研究
	准教授 寺岡 麗子	
	助教 湯谷 玲子	
微生物化学	教授 小西 守周	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫、炎症などにおける細胞外分泌因子のシグナルの解明 ・真菌由来多糖体の生理活性とそのメカニズムの解明
	講師 中山 喜明	
	助教 増田 有紀	
薬理学	教授 吉野 伸	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーおよび自己免疫疾患の発症機序の解明と免疫薬理学的制御
	准教授 水谷 暢明	
	講師 八巻 耕也	
生化学	教授 北川 裕之	糖鎖は生物の機能をどう決めているのか？
	講師 三上 雅久	
	講師 灘中 里美	
病態生化学	教授 加藤 郁夫	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食関連疾患の病態解析および治療薬の開発 ・内分泌・代謝系に関わる生理活性物質の基礎的、臨床的研究 ・健康食品や天然物の効能評価
	講師 多河 典子	
	講師 藤波 綾	

基礎教育

教育養

専門教育

基礎教育

教育養

専門教育

基礎教育

専門教育

研究室名	担当教員名	題目
衛生化学	教授 長谷川 潤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神経系の障害と修復を制御する情報伝達メカニズムの研究 ・ 脂溶性ビタミンの機能解析と疾患予防を目指した応用研究
	准教授 中川 公恵	
臨床薬学	教授 江本 憲昭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 循環器疾患の病態解明と治療法開発のための基礎臨床研究
	准教授 池田 宏二	
	講師 八木 敬子	
医療薬学	教授 力武 良行	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症、消化器疾患およびがんの病態解明と治療法開発
	助教 堀部 紗世	
薬学臨床教育センター	教授 濱口 常男	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民に対する薬剤師の活動に参加することで、薬剤師に必要なスキルとは何かを理解する。 ・ アンケート等を用いた調査研究に触れ、調査研究のデザインから解析までの流れを体験する。
	教授 杉山 正敏	
	教授 沼田 千賀子	
	教授 田内 義彦	
	准教授 波多江 崇	
	講師 辰見 明俊	
	講師 猪野 彩	
	講師 河内 正二	
講師 竹下 治範		
中央分析	准教授 竹内 敦子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質量分析による生理活性物質の分析
	講師 都出 千里	<ul style="list-style-type: none"> ・ NMR の新しい利用方法の開発

基礎
教育

教育
養

専
門

基礎
教育

教育
養

専
門

基礎
教育

専
門

専
門

専
門

専
門

二年次生

統計学Ⅰ	155	有機化学Ⅲ	194
統計学Ⅱ	157	有機化学Ⅳ	196
英語Ⅴ	159	構造解析学Ⅰ	198
英語Ⅵ	166	生薬化学	199
総合文化演習	174	生化学Ⅲ	201
実用英語	188	分子生物学Ⅰ	202
医薬経済学	111	微生物学Ⅱ	203
線形代数	113	免疫学	204
アメリカ文化論	115	衛生薬学Ⅰ	206
アジア文化論	116	環境衛生学	208
日本文化論	117	薬理学Ⅰ	210
英語の歴史	119	薬理学Ⅱ	212
社会心理学	122	感染制御学Ⅰ	213
現代社会論	123	医薬品構造学	215
生活情報論	127	医療コミュニケーション演習	216
医薬品企業論	129	物理化学実習	218
医療コミュニケーション	189	分析化学実習	219
物理化学Ⅱ	190	有機化学実習	220
物理化学Ⅲ	191	生薬学実習	221
放射化学	192	微生物学実習	222
分析化学Ⅱ	193	アクティブ・ラボ	149

統計学 I

2 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 教授

内田 吉昭

一般目標(GIO)

統計学は今日、医薬品の品質管理や薬効評価を含めて広く活用されており、薬学の分野でその統計的技術はますます重要視されている。この講義では薬学においてよく使われる統計学の基礎を習得し、それらを応用するための基本的技能を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 確率の概念を理解する。
2. 確率変数と確率分布の概念を理解し、それをを用いた計算ができる。
3. 母集団と標本の概念を理解する。
4. 統計量の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
5. 離散的な確率分布(2項分布、ポアソン分布)の概念を理解し、計算ができる。
6. 正規分布の概念を理解し、分布表を用いて計算ができる。
7. 正規分布を用いて、推定ができる。
8. 検定の概念を理解し、帰無仮説・対立仮説の意味を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

授業に出席し、説明を聞き、理解に努めること。後刻、教科書を読み、復習すること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	内田 吉昭	確率	確率に関する基本的概念、確率の計算	E3(1)⑤ 1~7
第2回	内田 吉昭	母集団と標本	母集団と標本の概念、標本データの整理、標本統計量	E3(1)⑤ 1~7
第3回	内田 吉昭	確率分布	確率変数と確率分布、平均と分散、標準偏差、2項分布	E3(1)⑤ 1~7
第4回	内田 吉昭	ポアソン分布	ポアソン分布の考え方と計算	E3(1)⑤ 1~7
第5回	内田 吉昭	正規分布	連続的確率変数と密度関数、正規分布の考え方と計算、正規分布表	E3(1)⑤ 1~7
第6回	内田 吉昭	中心極限定理	中心極限定理の解説	E3(1)⑤ 1~7
第7回	内田 吉昭	推定	区間推定と信頼水準、母平均の推定とその計算	E3(1)⑤ 1~7
第8回	内田 吉昭	検定	検定の考え方	E3(1)⑤ 1~7
第9回	内田 吉昭	仮説	帰無仮説と対立仮説、過誤、有意水準	E3(1)⑤ 1~7
第10回	内田 吉昭	t検定	自由度、平均値の検定	E3(1)⑤ 1~7
第11回	内田 吉昭	t検定	2群の平均値の比較検定	E3(1)⑤ 1~7
第12回	内田 吉昭	検出力	標本数と検出力	E3(1)⑤ 1~7

成績評価方法

- ・定期試験(100点)
 - ・平常点(10点) 配点内訳:小テスト、課題レポート、受講態度で評価する。
- ただし、100点を超える場合には100点とする。

教科書

医学・薬学系のための生物統計学入門[第3版] 今野秀二/味村良雄 共著 ムイスリ出版

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問のある学生は研究室に来てください。

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

基礎教育

専門教育

統計学 I

2 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 講師

森脇 健介

一般目標(GIO)

統計学は今日、医薬品の品質管理や薬効評価を含めて広く活用されており、薬学の分野でその統計的技術はますます重要視されている。この講義では薬学においてよく使われる統計学の基礎を習得し、それらを応用するための基本的技能を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 確率の概念を理解する。
2. 確率変数と確率分布の概念を理解し、それを用いた計算ができる。
3. 母集団と標本の概念を理解する。
4. 統計量の概念を理解し、計算によってそれを求めることができる。
5. 離散的な確率分布(2項分布、ポアソン分布)の概念を理解し、計算ができる。
6. 正規分布の概念を理解し、分布表を用いて計算ができる。
7. 正規分布を用いて、推定ができる。
8. 検定の概念を理解し、帰無仮説・対立仮説の意味を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

授業に出席し、説明を聞き、理解に努めること。後刻、教科書を読み、復習すること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	森脇 健介	確率	確率に関する基本的概念、確率の計算	E3(1)⑤ 1~7
第2回	森脇 健介	母集団と標本	母集団と標本の概念、標本データの整理、標本統計量	E3(1)⑤ 1~7
第3回	森脇 健介	確率分布	確率変数と確率分布、平均と分散、標準偏差、2項分布	E3(1)⑤ 1~7
第4回	森脇 健介	ポアソン分布	ポアソン分布の考え方と計算	E3(1)⑤ 1~7
第5回	森脇 健介	正規分布	連続的確率変数と密度関数、正規分布の考え方と計算、正規分布表	E3(1)⑤ 1~7
第6回	森脇 健介	中心極限定理	中心極限定理の解説	E3(1)⑤ 1~7
第7回	森脇 健介	推定	区間推定と信頼水準、母平均の推定とその計算	E3(1)⑤ 1~7
第8回	森脇 健介	検定	検定の考え方	E3(1)⑤ 1~7
第9回	森脇 健介	仮説	帰無仮説と対立仮説、過誤、有意水準	E3(1)⑤ 1~7
第10回	森脇 健介	t 検定	自由度、平均値の検定	E3(1)⑤ 1~7
第11回	森脇 健介	t 検定	2群の平均値の比較検定	E3(1)⑤ 1~7
第12回	森脇 健介	検出力	標本数と検出力	E3(1)⑤ 1~7

成績評価方法

- ・定期試験(80点)
- ・提出課題(20点)

教科書

1. 医学・薬学系のための生物統計学入門[第3版] 今野秀二/味村良雄 共著 ムイスリ出版
2. 講義スライド資料

指定参考書

「医療統計」わかりません!!(五十嵐中、佐條麻里 著) 東京図書

オフィスアワー

質問のある学生は研究室に来てください。

統計学Ⅱ

2 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 講師

森脇 健介

一般目標(GIO)

統計学は今日、医薬品の品質管理や薬効評価を含めて広く活用されており、薬学分野でその統計的技術はますます重要視されている。この講義では薬学においてよく使われる統計学の基礎を習得し、それらを応用するための基本的技能を身につける。

到達目標(SBOs)

1. カイ2乗検定の意味を理解し、計算によって検定ができる。
2. 分散分析の概念を理解し、計算によって検定ができる。
3. 最小2乗法・回帰直線の概念を理解し、推定や検定ができる。
4. 相関分析の概念を理解し、相関係数を計算によって求めることができる。
5. いくつかのノンパラメトリックな検定を理解する。
6. 生存時間、生存率の推定ができる。

準備学習(予習・復習等)

授業に出席し、説明を聞き、理解に努めること。後刻、教科書を読み、復習すること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	森脇 健介	カイ2乗検定	母分散の推定と検定、分割表	E3(1)⑤ 1~7
第2回	森脇 健介	カイ2乗検定	独立性の検定、フィッシャーの直接確率法	E3(1)⑤ 1~7
第3回	森脇 健介	F検定	母分散の比較、実験計画と無作為化	E3(1)⑤ 1~7
第4回	森脇 健介	分散分析	1因子分散分析	E3(1)⑤ 1~7
第5回	森脇 健介	分散分析	2因子分散分析(その1)	E3(1)⑤ 1~7
第6回	森脇 健介	回帰直線	回帰直線	E3(1)⑤ 1~7
第7回	森脇 健介	回帰直線	回帰直線(最小2乗法)	E3(1)⑤ 1~7
第8回	森脇 健介	相関分析	相関係数	E3(1)⑤ 1~7
第9回	森脇 健介	相関分析	順位相関	E3(1)⑤ 1~7
第10回	森脇 健介	符号検定	ノンパラメトリック検定	E3(1)⑤ 1~7
第11回	森脇 健介	符号検定	ウィルコクソン検定	E3(1)⑤ 1~7
第12回	森脇 健介	生存時間	Kaplan-Meierの方法	E3(1)⑤ 1~7

成績評価方法

- ・定期試験(80点)
- ・平常点(20点)

教科書

1. 医学・薬学系のための生物統計学入門[第3版] 今野秀二/味村良雄 共著 ムイスリ出版
2. 講義スライド資料

指定参考書

「医療統計」わかりません!! (五十嵐中、佐條麻里 著) 東京図書

オフィスアワー

質問のある学生は研究室に来てください。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

統計学Ⅱ

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 教授

内田 吉昭

一般目標(GIO)

統計学は今日、医薬品の品質管理や薬効評価を含めて広く活用されており、薬学の分野でその統計的技術はますます重要視されている。この講義では薬学においてよく使われる統計学の基礎を習得し、それらを応用するための基本的技能を身につける。

到達目標(SBOs)

1. カイ2乗検定の意味を理解し、計算によって検定ができる。
2. 分散分析の概念を理解し、計算によって検定ができる。
3. 最小2乗法・回帰直線の概念を理解し、推定や検定ができる。
4. 相関分析の概念を理解し、相関係数を計算によって求めることができる。
5. いくつかのノンパラメトリックな検定を理解する。
6. 生存時間、生存率の推定ができる。

準備学習(予習・復習等)

授業に出席し、説明を聞き、理解に努めること。後刻、教科書を読み、復習すること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	内田 吉昭	カイ2乗検定	母分散の推定と検定、分割表	E3(1)⑤ 1~7
第2回	内田 吉昭	カイ2乗検定	独立性の検定、フィッシャーの直接確率法	E3(1)⑤ 1~7
第3回	内田 吉昭	F検定	母分散の比較、実験計画と無作為化	E3(1)⑤ 1~7
第4回	内田 吉昭	分散分析	1因子分散分析	E3(1)⑤ 1~7
第5回	内田 吉昭	分散分析	2因子分散分析(その1)	E3(1)⑤ 1~7
第6回	内田 吉昭	回帰直線	回帰直線	E3(1)⑤ 1~7
第7回	内田 吉昭	回帰直線	回帰直線(最小2乗法)	E3(1)⑤ 1~7
第8回	内田 吉昭	相関分析	相関係数	E3(1)⑤ 1~7
第9回	内田 吉昭	相関分析	順位相関	E3(1)⑤ 1~7
第10回	内田 吉昭	符号検定	ノンパラメトリック検定	E3(1)⑤ 1~7
第11回	内田 吉昭	符号検定	ウィルコクソン検定	E3(1)⑤ 1~7
第12回	内田 吉昭	生存時間	Kaplan-Meierの方法	E3(1)⑤ 1~7

成績評価方法

- ・定期試験(100点)
 - ・平常点(10点) 配点内訳:小テスト、課題レポート、受講態度で評価する。
- ただし、100点を超える場合には100点とする。

教科書

医学・薬学系のための生物統計学入門[第3版] 今野秀二/味村良雄 共著 ムイスリ出版

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問のある学生は研究室に来てください。

英語 V

2 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 特別教授 田中 研治

一般目標(GIO)

まとまった英文の読解力養成（徹底した論理的深読み訓練）と同時に、企業紹介とビジネス分野の英語に頻出する構文、表現、語彙の理解、増強を目指す。英文構造の総合的理解を向上させる目的で、英文から日本語への洗練された翻訳文作成訓練も行う。

到達目標(SBOs)

1. 初歩的な企業・ビジネス英語の表現や構文の特徴を理解し、その用法を説明できる。
2. 日常的に使用される単語が、企業・ビジネス英語の文章ではどのような独自の意味内容で使用されているかを説明できる。
3. 具体的文脈（コンテキスト）における重要構文や定型表現を、論文や英文レポート作成などの情報発信に応用できる。
4. 英語表現を意味的、構造的に（そして文法的にも）正しく理解し、それらを正確に日本語に翻訳できる。

準備学習(予習・復習等)

地道に辞書を参照しながら、具体的な文脈の中で、語句や表現の意味内容を確認してほしい。そのうえで、英文の構造をよく考えながら、明快な日本語の翻訳文を作成してほしい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田中 研治	Unit 1: 美の世界基準めざして～花王	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第2回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	
第3回	田中 研治	Unit 2: 世界制覇を目指したブランド統一～パナソニック	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第4回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	
第5回	田中 研治	Unit 3: 自動車工場と自然環境の調和～トヨタ	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第6回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	
第7回	田中 研治	Unit 4: 創業 100 周年にむけたビジョン構築～三菱電機	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第8回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	
第9回	田中 研治	Unit 5: 本業を活かした国際貢献～コマツ	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第10回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	
第11回	田中 研治	Unit 6: フリート戦略；アジア No.1 の航空会社にむけて～ANA	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第12回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	

成績評価方法

1. 定期試験 (70 点)
2. 平常点 (30 点：提出物、小テスト結果、出席、受講態度)

教科書

Styling Corporate Messages (「世界で活躍する日本の企業」) 成美堂

指定参考書

特になし

オフィスアワー

毎週火曜日、木曜日昼休み

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

英語 V

2 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 准教授

赤井 朋子

一般目標 (GIO)

これからの医療について、英語で読み、考え、話すことができるようになるための基礎力を養成する。

到達目標 (SBOs)

1. 英語で書かれた医療に関する著述の内容を正確に説明できる。
2. 医療に関する英語の単語や熟語のうち代表的なものについてその意味を説明できる。
3. 英語による日常会話（特に医療機関における会話）での簡単な質疑応答ができる。
4. 英語で論文やレポートを書くために必要な基本構文を使用できる。

準備学習 (予習・復習等)

教科書については、予習プリントをあらかじめ配りますので、そのプリントを利用しながら必ず予習をしてください。会話については予習の必要はありません。その都度プリントを配布し、その場で練習（ペアワークやグループワークを含む）を行います。教科書やプリントに出てくる医療関係の表現や語彙については、特に発音、意味、綴りなどをよく復習してください。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	赤井 朋子	ガイダンス Part I. Chapter 1.	授業の進め方や評価方法等についての説明 A Holistic View of Humans	
第2回	赤井 朋子	Part I. Chapter 1.	A Holistic View of Humans	
第3回	赤井 朋子	Part I. Chapter 1.	A Holistic View of Humans	
第4回	赤井 朋子	Part I. Chapter 2.	Homeostasis, Stress, and Adaptation	
第5回	赤井 朋子	Part I. Chapter 2.	Homeostasis, Stress, and Adaptation	
第6回	赤井 朋子	Part I. Chapter 2.	Homeostasis, Stress, and Adaptation	
第7回	赤井 朋子	Part III. Chapter 1.	The Health Care Team	
第8回	赤井 朋子	Part III. Chapter 1.	The Health Care Team	
第9回	赤井 朋子	Part III. Chapter 1.	The Health Care Team	
第10回	赤井 朋子	Part III. Chapter 2.	Communication Skills	
第11回	赤井 朋子	Part III. Chapter 2.	Communication Skills	
第12回	赤井 朋子	Part III. Chapter 2.	Communication Skills	

成績評価方法

- ・定期試験 (70 点)
- ・平常点 (30 点) 配点内訳：出席、小テスト、受講態度

教科書

Health Care Today (Asahi Press)
適宜プリントを使用

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
専
門

基礎
教育

英語V

2年次

前期 必修 1単位

担当教員名 准教授

玉巻 欣子

一般目標(GIO)

医療系英文の速読力、読解力、リスニング力、医学英語語彙力の向上を目指す。
音読を重視し、スピーキング力の向上も目指す。

到達目標(SBOs)

1. 基本的な医学英語語彙の意味・語源を学び、聞き取ることができる。
2. 医療系英文を速読・大意把握できる。
3. 医療系英文を音読できる。
4. 自分の考えを英語で伝えることができる。

準備学習(予習・復習等)

e-ラーニング教材を使った自己学習と教員による対面授業をブレンドした医学英語の授業です。週1回の授業だけでは英語力はつきません。毎回簡単なミニテストをしますのでe-ラーニングで復習して授業に臨みましょう。きっと力がつきます。出席重視します。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	玉巻 欣子	講義概要 語彙 Unit 1(Human Body) リーディング Unit11: Attacking Asthma(1)	授業の目標、授業の進め方、ALCNetAcademy2の学習方法について e-ラーニング教材自己学習の後、教員による講義 医学英語語彙はプリントも利用する。	
第2回	玉巻 欣子	語彙 Unit 2 リーディング Unit12	Human Body Attacking Asthma(2)	
第3回	玉巻 欣子	語彙 Unit 3 リーディング	Human Body Further Reading (発展教材プリント) Asthma	
第4回	玉巻 欣子	語彙 Unit 4 リーディング Unit13	Nervous System & Sensory System Extinct Animal May Get Second Chance (1)	
第5回	玉巻 欣子	語彙 Unit 5 リーディング Unit14	Circulatory System Extinct Animal May Get Second Chance (2)	
第6回	玉巻 欣子	語彙 Unit リーディング Unit15	Respiratory System & Endocrine System Scientists Map Genetic Code For Humans (1)	
第7回	玉巻 欣子	語彙 Unit 7 リーディング Unit16	Digestive System Scientists Map Genetic Code for Humans (2)	
第8回	玉巻 欣子	語彙 Unit 8 リーディング Unit17	Urinary System & Reproductive System Trouble on the Table (1)	
第9回	玉巻 欣子	語彙 Unit 9 リーディング Unit18	Musculoskeletal System) Trouble on the Table (2)	
第10回	玉巻 欣子	語彙 Unit 10 リーディング Unit19	Body Fluid Trouble on the Table (3)	
第11回	玉巻 欣子	語彙 Unit29 リーディング Unit20	Symptoms & Diseases Trouble on the Table (4)	
第12回	玉巻 欣子	語彙 Unit30 リーディング	Symptoms & Diseases Further Reading (発展教材プリント) 前期のまとめ	

成績評価方法

定期試験 (70%)
平常点 (内訳: 出席、ミニテスト、授業態度等) (30%)
出席重視。

教科書

e-ラーニング学習システム ALCNetAcademy2 医学英語<基礎>コース
(書籍ではないので購入の必要はありません)
適宜プリント教材も使用します。

指定参考書

メジカルビュー社「第3版これだけは知っておきたい医学英語の基本用語と表現」

オフィスアワー

在室時はいつでも質問 OK です。
4号館2階206

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

英語 V

2 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 ジョン ギャラス

一般目標 (GIO)

This course is designed to help students increase their speed, accuracy, and enjoyment when speaking English. Each class highlights one or two basic grammar points for students to use with partners to create original English dialogues based on their own hobbies, interests, and experiences. All students receive detailed feedback from the teacher about their work in every class. During the course, students will progress from using simple set phrases and short utterances to fuller, more creative self-expression in English. By the end of the course, students will be more confident English speakers and more independent English learners.

到達目標 (SBOs)

1. To increase oral fluency
2. To improve accuracy
3. To build confidence
4. To develop learner autonomy

準備学習 (予習・復習等)

In class, please focus on learning to speak English quickly, clearly, and smoothly. It's time to find your English voice. Let's go!

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	ジョン ギャラス	Course overview	Simple self-introductions in English / Units 1 & 2	
第2回	ジョン ギャラス	Lesson 1	Units 3 & 4: present continuous.	
第3回	ジョン ギャラス	Lesson 2	Units 5 & 6: simple present.	
第4回	ジョン ギャラス	Lesson 3	Units 7 & 8: simple present questions and simple present vs. present continuous.	
第5回	ジョン ギャラス	Lesson 4	Units 9 & 10: I have...and I've got...; was/were.	
第6回	ジョン ギャラス	Lesson 5	Units 11 & 12: simple past.	
第7回	ジョン ギャラス	Lesson 6	Units 12 & 13: simple past (questions) and past continuous.	
第8回	ジョン ギャラス	Lesson 7	Units 14 & 15: simple past vs. past continuous and I used to...	
第9回	ジョン ギャラス	Lesson 8	Units 16 & 17: present perfect.	
第10回	ジョン ギャラス	Lesson 9	Units 18 & 19: for/since/ago and present perfect vs. simple past.	
第11回	ジョン ギャラス	Lesson 10	Units 20 & 21: present perfect vs. simple past.	
第12回	ジョン ギャラス	Lesson 11 / Review	Units 24 & 25: be/do/have in present and past tenses and regular and irregular verbs.	

成績評価方法

Daily classwork (original dialogues, participation, attitude) : 30%
Quizzes and final test: 70%

教科書

マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編) [単行本] Basic Grammar in Use (Cambridge University Press, 2011)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

英語 V

2 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 非常勤講師 ジェイムズ ハジュンズ

一般目標 (GIO)

This course is designed to help upper intermediate level students further increase their general oral fluency. The textbook, videos and supplemental materials will include a wide variety of topics including history, social issues, interpersonal relationships and humor. Class work will include listening, writing, reading and speaking. In addition, there will be a final group project based on our class work.

到達目標 (SBOs)

1. To increase oral fluency.
2. To expand English discussion skills with an emphasis on expressing opinions in a confident and creative manner.
3. To improve reading and listening skills.
4. To learn and use English terms related to a wide variety of social situations.

準備学習 (予習・復習等)

Some of the movies that are included in the course are Roman Holiday, Wall Street, A Night at the Museum and Groundhog Day. Previewing any or all of these movies would be a great help in preparing for class.

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	ジェイムズ ハジュンズ	Vocabulary and Phrases		
第2回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 1	Listening & Speaking	
第3回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 2	Listening & Speaking	
第4回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 3	Listening & Speaking	
第5回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 4	Listening & Speaking	
第6回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 5	Listening & Speaking	
第7回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 6	Listening & Speaking	
第8回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 7	Listening & Speaking	
第9回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 8	Listening & Speaking	
第10回	ジェイムズ ハジュンズ	Group Project Preparation		
第11回	ジェイムズ ハジュンズ	Presentations		
第12回	ジェイムズ ハジュンズ	Study Guide/ Test Review		

成績評価方法

Attendance & Participation 30%
Quizzes, Tests & Group Presentation 70%

教科書

Golden Age of Hollywood (Macmillan Languagehouse)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

英語V

2年次

前期 必修 1単位

担当教員名 非常勤講師 高木 一幸

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

海外旅行の出発から帰国までの場面を扱った総合教材を用いて、海外滞在中に円滑にコミュニケーションができる英語力の習得を目指す。

到達目標(SBOs)

1. 語彙力・リスニング力を強化し、海外滞在中に経験するさまざまな場面の英語を正確に理解できる。
2. リスニング・リーディングでインプットした表現を応用し、ライティング・スピーキングで置かれた状況に見合うアウトプットができる。
3. 路線図やメニューなど、海外滞在中に目にする図表データから必要な情報を入手できる。
4. 入国カードから被害届まで、海外滞在中に記入を求められる書式類に対応できる。

準備学習(予習・復習等)

始業時間厳守。携帯電話等の電源は必ず切って授業に臨むというマナーが求められる。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	高木 一幸	オリエンテーション	Arrival/Departure Record	
第2回	高木 一幸	Chapter 1	On an Airplane	
第3回	高木 一幸	Chapter 2	At Immigration and Customs	
第4回	高木 一幸	Chapter 3	Getting to a Hotel	
第5回	高木 一幸	Chapter 4	Checking Into a Hotel	
第6回	高木 一幸	Chapter 5	At a Restaurant	
第7回	高木 一幸	Chapter 6	Taking a Subway	
第8回	高木 一幸	Chapter 7	Asking for Directions	
第9回	高木 一幸	Chapter 8	Fast-Food Restaurant & Snack Bar	
第10回	高木 一幸	Chapter 9	At a Bank	
第11回	高木 一幸	Chapter 10	Hotel Services	
第12回	高木 一幸	Chapter 11	Placing a Phone Call	

成績評価方法

定期試験 (70点) + 平常点 (30点)

教科書

Travel English at Your Fingertips (成美堂)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。

英語V

2年次

前期 必修 1単位

担当教員名 非常勤講師 大深 悦子

一般目標(GIO)

聞き取り能力、発話能力や表現能力などの英語運用能力、および、音声の基礎的知識を習得する。

到達目標(SBOs)

1. リスニングの技術・訓練方法を学ぶ。
2. 音声的な面における、英語と日本語の違いを学ぶ。
3. TOEIC形式に慣れる。
4. 英語で簡単なプレゼンテーションができる。

準備学習(予習・復習等)

- ・辞書で単語を調べる際、発音やアクセント位置も調べる。また、できるだけ例文にも目を通すこと。
- ・英語をできるだけ声に出して試みる。
- ・日本語に訳そうとせず、英語文の順序で理解しようとする。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	大深 悦子	オリエンテーション	授業内容・評価方法などの説明	
第2回	大深 悦子	Unit 1	Entertainment	
第3回	大深 悦子	Unit 2	Transportation / Airport	
第4回	大深 悦子	Unit 3	Technology / Office Supplies	
第5回	大深 悦子	Listening Quiz (1) + 口頭発表準備	Listening Quiz (1) の範囲: Units 1-3	
第6回	大深 悦子	Unit 5	Sightseeing / Guided Tour	
第7回	大深 悦子	Unit 6	Eating Out / Restaurant	
第8回	大深 悦子	Unit 7	Hospital / Health	
第9回	大深 悦子	Listening Quiz (2) + 口頭発表準備	Listening Quiz (2) の範囲: Units 5-7	
第10回	大深 悦子	Oral Presentations (1)	英語での簡単な口頭発表 (1)	
第11回	大深 悦子	Oral Presentations (2)	英語での簡単な口頭発表 (2)	
第12回	大深 悦子	前期授業のまとめ	プレゼンテーションに対する講評および反省会 今期の授業で行ったことのまとめ	

成績評価方法

- ・定期試験 + listening quizzes (70%)
- ・平常点 (30%)

教科書

The Ultimate Approach for the TOEIC® Test (SEIBIDO)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

非常勤のため、質問は、E-mail で行うか、講義時間の前後、あるいは予約にて対応する。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

英語VI

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 特別教授 田中 研治

基礎教育

教育

専門

基礎教育

教育

専門

基礎教育

専門

基礎教育

専門

基礎教育

専門

基礎教育

専門

基礎教育

専門

基礎教育

専門

一般目標(GIO)

まとまった英文の読解力養成(徹底した論理的深読み訓練)と同時に、企業紹介とビジネス分野の英語に頻出する構文、表現、語彙の理解、増強を目指す。英文構造の総合的理解を向上させる目的で、英文から日本語への洗練された翻訳文作成訓練も行う。

到達目標(SBOs)

1. 初歩的な企業・ビジネス英語の表現や構文の特徴を理解し、その用法を説明できる。
2. 日常的に使用される単語が、企業・ビジネス英語の文章ではどのような独自の意味内容で使用されているかを説明できる。
3. 具体的文脈(コンテキスト)における重要構文や定型表現を、論文や英文レポート作成などの情報発信に応用できる。
4. 英語表現を意味的、構造的に(そして文法的にも)正しく理解し、それを正確に日本語に翻訳できる。

準備学習(予習・復習等)

地道に辞書を参照しながら、具体的な文脈の中で、語句や表現の意味内容を確認してほしい。そのうえで、英文の構造をよく考えながら、明快な日本語の翻訳文を作成してほしい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田中 研治	Unit 10: 統合による相乗効果を求めて～J. フロントリテイリング	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第2回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	
第3回	田中 研治	Unit 11: 地球温暖化への挑戦～東京海上グループ	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第4回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	
第5回	田中 研治	Unit 12: 日本の空から世界の空へ～三菱重工業・三菱航空機	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第6回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	
第7回	田中 研治	Unit 13: 買収による活動基盤の拡充～京セラ	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第8回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	
第9回	田中 研治	Unit 14: TOPVALU; 顧客の声から生まれたブランド～イオン	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第10回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	
第11回	田中 研治	Unit 15: 先端的研究開発で業界をリードする～参天製薬	重要語句、背景知識、企業紹介英文読解	
第12回	田中 研治	同上	企業紹介英文に関連した確認・練習問題	

成績評価方法

1. 定期試験(70点)
2. 平常点(30点: 提出物、小テスト結果、出席、受講態度)

教科書

Styling Corporate Messages (「世界で活躍する日本の企業」) 成美堂

指定参考書

特になし

オフィスアワー

毎週火曜日、木曜日昼休み

英語VI

2 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 准教授

赤井 朋子

一般目標 (GIO)

これからの医療について、英語で読み、考え、話すことができるようになるための基礎力を養成する。

到達目標 (SBOs)

1. 英語で書かれた医療に関する著述の内容を正確に説明できる。
2. 医療に関する英語の単語や熟語のうち代表的なものについてその意味を説明できる。
3. 英語による日常会話（特に医療機関における会話）での簡単な質疑応答ができる。
4. 英語で論文やレポートを書くために必要な基本構文を使用できる。

準備学習 (予習・復習等)

教科書については、予習プリントをあらかじめ配りますので、そのプリントを利用しながら必ず予習をしてください。会話については予習の必要はありません。その都度プリントを配布し、その場で練習（ペアワークやグループワークを含む）を行います。教科書やプリントに出てくる医療関係の表現や語彙については、特に発音、意味、綴りなどをよく復習してください。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	赤井 朋子	Part IV. Chapter 1.	Rest and Sleep	
第2回	赤井 朋子	Part IV. Chapter 1.	Rest and Sleep	
第3回	赤井 朋子	Part IV. Chapter 1.	Rest and Sleep	
第4回	赤井 朋子	Part IV. Chapter 4.	In-hospital Infections	
第5回	赤井 朋子	Part IV. Chapter 4.	In-hospital Infections	
第6回	赤井 朋子	Part IV. Chapter 4.	In-hospital Infections	
第7回	赤井 朋子	Part V. Chapter 2.	Medication	
第8回	赤井 朋子	Part V. Chapter 2.	Medication	
第9回	赤井 朋子	Part V. Chapter 2.	Medication	
第10回	赤井 朋子	Part V. Chapter 3.	Cancer Therapy	
第11回	赤井 朋子	Part V. Chapter 3.	Cancer Therapy	
第12回	赤井 朋子	Part V. Chapter 3.	Cancer Therapy	

成績評価方法

- ・定期試験 (70 点)
- ・平常点 (30 点) 配点内訳：出席、小テスト、受講態度

教科書

Health Care Today (Asahi Press)
適宜プリントを使用

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

英語VI

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 准教授

玉巻 欣子

一般目標(GIO)

医療トピックスについての英文を読み、速読力や要旨を読み取る力を養う。リスニング力、医学英語語彙力の向上も目指す。授業で扱ったトピックについて自分の意見を英語で述べる力も養う。

到達目標(SBOs)

1. 基本的な医学英語語彙の意味・語源を学び、聞き取ることができる。
2. 医療系対話文の聞き取りができる。
3. 医療系対話文を使って会話ができる。
4. 医療系英文を速読・大意把握できる。

準備学習(予習・復習等)

e-ラーニング教材を使った自己学習と教員による対面授業をブレンドした医学英語の授業です。週1回の授業だけでは英語力はつきません。毎回簡単なミニテストをしますのでe-ラーニングで復習して授業に臨みましょう。きっと力がつきます。出席重視します。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	玉巻 欣子	講義概要 語彙 13 リスニング Unit1	e-ラーニング自己学習の後、教員による講義、スピーキング練習 語彙：Circulatory Internal Medicine リスニング：Angina(1)	
第2回	玉巻 欣子	語彙 20 リスニング Unit 2 Further Reading	語彙：Ophthalmology Angina(2) Heart Diseases	
第3回	玉巻 欣子	語彙 11 リスニング Unit 3	語彙：Respiratory Internal Medicine & Otolaryngology(1) Common Cold(1)	
第4回	玉巻 欣子	語彙 12 リスニング Unit 4	語彙：Respiratory Internal Medicine & Otolaryngology(2) Common Cold(2)	
第5回	玉巻 欣子	語彙 21 リスニング Unit 5 Further Reading	語彙：Pediatrics Common Cold(3) Respiratory Diseases	
第6回	玉巻 欣子	語彙 14 リスニング Unit 6	語彙：Digestive Internal Medicine(1) Acute Gastritis(1)	
第7回	玉巻 欣子	語彙 15 リスニング Unit 7	語彙：Digestive Internal Medicine(2) Acute Gastritis(2)	
第8回	玉巻 欣子	語彙 16 リスニング Unit 8 Further Reading	語彙：Digestive Internal Medicine(3) Acute Gastritis(3) Digestive Diseases	
第9回	玉巻 欣子	語彙 24 リスニング Unit 9	語彙：Surgery & Orthopedics(1) Fracture(1)	
第10回	玉巻 欣子	語彙 25 リスニング Unit 10 Further Reading	語彙：Surgery & Orthopedics(2) Fracture(2) Various Medical Problems	
第11回	玉巻 欣子	語彙 18 リスニング Unit 11	語彙：Obstetrics/Gynecology(1) Pregnancy(1)	
第12回	玉巻 欣子	語彙 19 リスニング Unit 12 後期のまとめと確認	語彙：Obstetrics/Gynecology(2) Pregnancy(2) 後期のまとめと確認	

成績評価方法

定期試験(70%)
平常点(30%)(内訳：出席、小テスト、授業態度など)
出席重視。

教科書

e-ラーニング学習システム ALCNetAcademy2 医学英語<基礎>コース
(書籍ではないので購入の必要はありません)
プリントによる教材

指定参考書

メジカルビュー社「第3版これだけは知っておきたい医学英語の基本用語と表現」

オフィスアワー

在室時はいつでも質問OKです。
4号館2階206

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

英語VI

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 非常勤講師 ジョン ギャラス

一般目標(GIO)

This course is designed to help students increase their speed, accuracy, and enjoyment when speaking English. Each class highlights one or two basic grammar points for students to use with partners to create original English dialogues based on their own hobbies, interests, and experiences. All students receive detailed feedback from the teacher about their work in every class. During the course, students will progress from using simple set phrases and short utterances to fuller, more creative self-expression in English. By the end of the course, students will be more confident English speakers and more independent English learners.

到達目標(SBOs)

1. To increase oral fluency
2. To improve accuracy
3. To build confidence
4. To develop learner autonomy

準備学習(予習・復習等)

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	ジョン ギャラス	Summer vacation stories (past tense review)	Unit 26: future tense	
第2回	ジョン ギャラス	Lesson 11	Units 27 & 28: future with "going to" and "will"	
第3回	ジョン ギャラス	Lesson 12	Units 29 & 30: future with "will" and "might"	
第4回	ジョン ギャラス	Lesson 13	Units 31 & 32: can/could/must	
第5回	ジョン ギャラス	Lesson 14	Units 33 & 34: should/have to	
第6回	ジョン ギャラス	Lesson 15	Units 35 & 36: Would you like...?	
第7回	ジョン ギャラス	Lesson 16	Units 37 & 38: Imperatives and There is/are...	
第8回	ジョン ギャラス	Lesson 17	Units 39 & 40: There was/were/has been/have been/will be... and It...	
第9回	ジョン ギャラス	Lesson 18	Units 41 & 42: Auxiliary verbs (1)	
第10回	ジョン ギャラス	Lesson 19	Units 43 & 44: Auxiliary verbs (2)	
第11回	ジョン ギャラス	Lesson 20	Units 45 & 46: Questions (1) and (2)	
第12回	ジョン ギャラス	Lesson 21	Units 47 & 48: Questions (3) & (4) / Review	

成績評価方法

Daily classwork (original dialogues, participation, attitude) : 30%
Quizzes and final test: 70%

教科書

マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編) [単行本] Basic Grammar in Use (Cambridge University Press, 2011)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

英語VI

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 非常勤講師 ジェイムズ ハジュンズ

一般目標(GIO)

This course is designed to help upper intermediate level students further increase their general oral fluency. The textbook, videos and supplemental materials will include a wide variety of topics including history, social issues, interpersonal relationships and humor. Class work will include listening, writing, reading and speaking. In addition, there will be a final group project based on our class work.

到達目標(SBOs)

1. To increase oral fluency.
2. To expand English discussion skills with an emphasis on expressing opinions in a confident and creative manner.
3. To improve reading and listening skills.
4. To learn and use English terms related to a wide variety of social situations.

準備学習(予習・復習等)

Some of the movies that are included in the course are Roman Holiday, Wall Street, A Night at the Museum and Groundhog Day. Previewing any or all of these movies would be a great help in preparing for class.

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 7	Listening & Speaking	
第2回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 8	Listening & Speaking	
第3回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 9	Listening & Speaking	
第4回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 10	Listening & Speaking	
第5回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 11	Listening & Speaking	
第6回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 12	Listening & Speaking	
第7回	ジェイムズ ハジュンズ	Text: Unit 12	Listening & Speaking	
第8回	ジェイムズ ハジュンズ	Review		
第9回	ジェイムズ ハジュンズ	Group Preparation		
第10回	ジェイムズ ハジュンズ	Group Preparation and Practice		
第11回	ジェイムズ ハジュンズ	Group Presentation		
第12回	ジェイムズ ハジュンズ	Study Guide/ Test Review		

成績評価方法

Attendance & Participation 30%
Quizzes, Tests & Group Presentation 70%

教科書

Golden Age of Hollywood (Macmillan Languagehouse)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専
門

基礎
教育

教育
養

専
門

基礎
教育

専
門

教育

英語VI

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 非常勤講師 高木 一幸

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

海外旅行の出発から帰国までの場面を扱った総合教材を用いて、海外滞在中に円滑にコミュニケーションができる英語力の習得を目指す。

到達目標(SBOs)

1. 語彙力・リスニング力を強化し、海外滞在中に経験するさまざまな場面の英語を正確に理解できる。
2. リスニング・リーディングでインプットした表現を応用し、ライティング・スピーキングで置かれた状況に見合うアウトプットができる。
3. 路線図やメニューなど、海外滞在中に目にする図表データから必要な情報を入手できる。
4. 入国カードから被害届まで、海外滞在中に記入を求められる書式類に対応できる。

準備学習(予習・復習等)

始業時間厳守。携帯電話等の電源は必ず切って授業に臨むというマナーが求められる。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	高木 一幸	Chapter 12	Visiting a Campus(Asking and Thanking)	
第2回	高木 一幸	Chapter 13	At a Pharmacy	
第3回	高木 一幸	Chapter 14	Renting a Car	
第4回	高木 一幸	Chapter 15	At a Gas Station	
第5回	高木 一幸	Chapter 16	Making Hotel Reservations	
第6回	高木 一幸	Chapter 17	At a Post Office	
第7回	高木 一幸	Chapter 18	At a Gift Shop--Buying Souvenirs	
第8回	高木 一幸	Chapter 19	Checking Out	
第9回	高木 一幸	Chapter 20	Making Complaints	
第10回	高木 一幸	Chapter 21	Dealing with Problems	
第11回	高木 一幸	Chapter 22	At the Airport	
第12回	高木 一幸	プリント使用	Dealing with Problems (II)	

成績評価方法

定期試験 (70点) + 平常点 (30点)

教科書

Travel English at Your Fingertips (成美堂)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。

英語VI

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 非常勤講師 大深 悦子

一般目標(GIO)

聞き取り能力、発話能力や表現能力などの英語運用能力、および、音声の基礎的知識を習得する。

到達目標(SBOs)

1. リスニングの技術・訓練方法を学ぶ。
2. 音声的な面における、英語と日本語の違いを学ぶ。
3. TOEIC形式に慣れる。
4. 英語で簡単なプレゼンテーションができる。

準備学習(予習・復習等)

- ・辞書で単語を調べる際、発音やアクセント位置も調べる。また、できるだけ例文にも目を通すこと。
- ・英語をできるだけ声に出して試みる。
- ・日本語に訳そうとせず、英語文の順序で理解しようとする。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	大深 悦子	授業内容・評価方法などの説明	前期のプレゼンテーションの改善点、 今期のプレゼンテーションの説明などを行う。	
第2回	大深 悦子	Unit 8	Finance / Budget / Salary	
第3回	大深 悦子	Unit 9	Hobby / Sports / Art	
第4回	大深 悦子	Unit 10	Education / Schools	
第5回	大深 悦子	Listening Quiz (1) + 口頭発表準備	Listening Quiz (1)の範囲: Units 8-10	
第6回	大深 悦子	Unit 11	Hotel / Service	
第7回	大深 悦子	Unit 12	Shopping / Purchases	
第8回	大深 悦子	Unit 14	Employment / Job Hunting	
第9回	大深 悦子	Listening Quiz (2) + 口頭発表準備	Listening Quiz (2)の範囲: Units 11, 12, and 14	
第10回	大深 悦子	Oral Presentations (1)	英語での簡単な口頭発表 (1)	
第11回	大深 悦子	Oral Presentations (2)	英語での簡単な口頭発表 (2)	
第12回	大深 悦子	まとめ	プレゼンテーションに対する講評および反省会 後期のまとめ	

成績評価方法

- ・定期試験 + listening quizzes (70%)
- ・平常点 (30%)

教科書

The Ultimate Approach for the TOEIC® Test (SEIBIDO)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

非常勤のため、質問は、E-mailで行うか、講義時間の前後、あるいは予約にて対応する。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

総合文化演習

2年次

通年 必修 2単位

担当教員名 特別教授 田中 研治

一般目標(GIO)

1. ヨーロッパの歴史、文化、言葉にみられる様々な特質を理解する。
2. 自らの問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考案する。
3. 自らの考え・主張を論理的にかつ証拠にもとづいて展開する能力を磨く。
4. 他者との討論・議論を通して、他者の考え・主張をより深く理解する。

到達目標(SBOs)

1. テーマを適切に選び、研究目標を明快に設定することができる。
2. テーマにふさわしい資料を探し、それを分かりやすく要約・紹介することができる。
3. 調査結果を分かりやすく報告し、聞き手と討論することができる。
4. 自分の考えを適切な日本語で正確に表現することができる。
5. ヨーロッパの文化、歴史、言語の特質を調べ、自分の言葉で説明できる。

準備学習(予習・復習等)

できるだけ多くのテーマ文献を探して、それらを丹念に読み込み、著者の意見を鵜呑みにせず、自分なりの考え方を確立することが大切。人前で発表するときは、明確な発表意識と意欲を示すことが大切。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田中 研治	前期ゼミガイダンス(1)	ゼミの進め方や、レジュメの作り方、評価などについてプリントで説明。	
第2回	田中 研治	前期ゼミガイダンス(2)	グループ分け、関連文献の要約発表順などの決定。	
第3回 ～ 第7回	田中 研治	要約発表・討論	グループ(または個人)ごとに関連文献を要約したり、DVDの映像資料を紹介する。内容について全員で討論する。	
第8回	田中 研治	要約発表のまとめと講評、反省	発表内容に対する講評と全体討論。予備発表への取り組みと説明。	
第9回 ～ 第11回	田中 研治	予備発表・討論	グループ(または個人)で発表・全体討論。	
第12回	田中 研治	前期の要約発表、予備発表についてのまとめ	前期の発表全体に関する講評、反省、討論、後期へ向けての準備と予告。	
第13回	田中 研治	後期ゼミガイダンス	後期に行う本発表の説明と順番の決定。	
第14回 ～ 第23回	田中 研治	口頭発表(本発表)・討論	グループ(または個人)ごとに選定したテーマについての口頭発表(本発表)と全体討論を行う。	
第24回	田中 研治	後期のまとめ、反省、レポート指導	全部の本発表についてのコメントを全員で出しあい、討論する。学期末に提出するレポートの書き方を指導する。1年間のゼミ活動に関する講評と感想の交換と成果の確認。	

成績評価方法

1. 演習点(60点) 配点内訳: レポート、口頭発表、レジュメ作成
2. 平常点(40点) 配点内訳: 出席、授業への積極的な参加、態度

教科書

なし

指定参考書

なし

オフィスアワー

毎週火曜日、木曜日の昼休み

総合文化演習

2 年次
通年 必修 2 単位

担当教員名 准教授 赤井 朋子

一般目標(GIO)

テーマ：「映画演劇論」

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考察する。
2. 自らの考え、主張を論理的にかつ証拠にもとづいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通して、他者の考え、主張をより深く理解する。

到達目標(SBOs)

1. テーマを適切に選び、研究目標を明確に設定することができる。
2. テーマにふさわしい資料を探し、それをわかりやすく要約紹介することができる。
3. 調査結果をわかりやすく報告し、討論することができる。
4. 自分の考えを適切な日本語で表現することができる。
5. 文化・芸術に幅広く興味を持ち、その価値について話し合うことができる。

準備学習(予習・復習等)

発表の準備には、できるだけ早くとりかかってください。
また、気軽に質問や相談をしてください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	赤井 朋子	ガイダンス	授業の概要とゼミのテーマ(映画演劇論)についての説明。	
第2回	赤井 朋子	自己紹介	各自、鑑賞経験のある映画や演劇作品について紹介する。	
第3回	赤井 朋子	//	//	
第4回	赤井 朋子	作品鑑賞の前に	授業で鑑賞する作品についての予備的な講義。	
第5回	赤井 朋子	作品鑑賞	DVDを使用して作品を鑑賞する。	
第6回	赤井 朋子	//	//	
第7回	赤井 朋子	作品分析	小グループに分かれて作品を分析し、報告する。	
第8回	赤井 朋子	//	//	
第9回	赤井 朋子	批評の講読	作品に関する批評を読む。	
第10回	赤井 朋子	テーマの立て方	鑑賞した作品を例に、発表テーマやアウトラインを仮に考えてみる。	
第11回	赤井 朋子	文献検索	資料の探し方を学ぶ。	
第12回	赤井 朋子	口頭発表の準備	1人または2、3人のグループに分かれ、後期の発表計画を立て、報告する。	
第13回	赤井 朋子	後期のガイダンス	後期の口頭発表とレポートについての説明。	
第14回 ～ 第23回	赤井 朋子	口頭発表	映画や演劇に関する口頭発表を行う。(テーマは自由。1回の授業につき1グループの発表、及び、その発表に関する質疑応答を行う。	
第24回	赤井 朋子	まとめ	1年間のまとめ	

成績評価方法

1. 演習点(60点) 配点内訳: レポート、口頭発表、レジュメ作成
2. 平常点(40点) 配点内訳: 出席、授業への積極的な参加、態度

教科書

特になし

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

総合文化演習

2年次

通年 必修 2単位

担当教員名 教授

畑 公也

一般目標(GIO)

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考案する。
2. 自らの考え主張を論理的にかつ証拠にもとづいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通して、他者の考え、主張をより深く理解する。
4. 「現代の音楽」とは何かという問題について、自分なりに答えを模索することによって、現代という時代そのものについても考える習慣を身に付ける。

到達目標(SBOs)

1. テーマを適切に選び、研究目標を明確に設定することができる。
2. テーマにふさわしい資料を探し、それをわかりやすく要約紹介することができる。
3. 調査結果をわかりやすく報告し、討論することができる。
4. 自分の考えを適切な日本語で表現することができる。
5. 人類が始まって以来、音楽がどのように発展してきたかを理解する。
6. 現代社会において音楽が果たしている役割りについて考える。
7. 「現代の音楽とは何か」、「現代とはどのような時代か」という問いに対して自分の意見を持ち、人と議論することができる。

準備学習(予習・復習等)

テーマは音楽に関連するものなら、何でも良い。自由に選んでください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	畑 公也	ガイダンス		
第2回	畑 公也	音楽付き自己紹介	自分が普段聴いている音楽を紹介しながら、自己アピール	
第3回	畑 公也	討論	テーマ「音楽とは何か」	
第4回 ～ 第11回	畑 公也	発表(1)	個人またはグループで発表	
第12回	畑 公也	前期反省会	前期発表について反省し、後期発表の抱負を語る	
第13回 ～ 第23回	畑 公也	発表(2)	前期の発表を踏まえ、テーマを更に発展させ、まとまりのある発表を行う	
第24回	畑 公也	反省会	前後期の発表について、反省し、成果を検討	

成績評価方法

1. 演習点(60点) 配点内訳: レポート、口頭発表、レジュメ作成
2. 平常点(40点) 配点内訳: 出席、授業への積極的な参加、態度

教科書

特になし

指定参考書

特になし

オフィスアワー

月、水の昼休み。それ以外でも在室時はいつでも相談、質問に応じます。メールも可: k-hata@kobepharmaceutical.ac.jp

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

総合文化演習

2年次

通年 必修 2単位

担当教員名 非常勤講師 佐藤 真知子

一般目標(GIO)

ゼミのテーマ「日本文化を考える」

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考案する。
2. 自らの考え、主張を論理的にかつ証拠に基づいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通じて、他者の考え、主張をより深く理解する。
4. 日本文学作品を解釈して、その問題点を考察しつつ、作品の背景にある日本文化についての理解を深める。

到達目標(SBOs)

1. テーマを適切に選び、研究目標を明確に設定することができる。
2. テーマにふさわしい資料を探し、それを分かりやすく要約紹介することができる。
3. 調査結果を分かりやすく報告し、討論することができる。
4. 自分の考えを適切な日本語で表現することができる。
5. 他者の発表を聞いて理解し、それに対してその改善点並びに自分の意見を述べるすることができる。
6. 文化の時空(歴史と地理)について理解する。
7. 問題を多角的に把握する。
8. 日本語の美しさを理解して、語彙を豊かにする。

準備学習(予習・復習等)

(予習) 必須の事前学習として、自己のテーマを決定し、口頭発表に必要なレジュメ、スライド等を作成し、レポートを完成させる。

(復習) 演習後に、その演習内容の要点をまとめる(グループディスカッションを含む)。

第2回以降、返却された自己の提出物を再読し、その改善点について点検する。

(その他) 演習形式なので、テーマについて発表者と聞き手が協力して、ともに理解を深めていきましょう。

演習内容に沿って、合理的に計画を立てること、そして形式と内容ともに備わったレポートを提出することを望みます。提出物は提出期限を厳守して下さい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	佐藤 真知子	はじめに	ガイダンスおよびテーマ選定に向けての解説	
第2回	佐藤 真知子	文献探索法	資料の取り扱い・データベースの活用など	
第3回	佐藤 真知子	ディベート	意見発表・討論の能力をさらに高めるための解説	
第4回	佐藤 真知子	「利他」について	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』	
第5回	佐藤 真知子	「利他」について	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』	
第6回	佐藤 真知子	ディベート演習	原稿作成およびグループディスカッション	
第7回	佐藤 真知子	ディベート演習	原稿作成およびグループディスカッション	
第8回 ～ 第11回	佐藤 真知子	学生による発表	口頭発表と質疑応答を行う。	
第12回	佐藤 真知子	レポート指導	夏休みの課題(レポート完成に向けて)について説明する。	
第13回 ～ 第23回	佐藤 真知子	後期 学生による発表	口頭発表と質疑応答を行う。	
第24回	佐藤 真知子	学生による発表 まとめ	口頭発表と質疑応答を行う。 全体の講評をする。	

成績評価方法

1. 演習点(60点) 配点内訳: レポート、口頭発表、レジュメ作成
2. 平常点(40点) 配点内訳: 出席、授業への積極的な参加、態度

教科書

特になし。

指定参考書

特に指定しない。

オフィスアワー

演習時間の前後とする。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

総合文化演習

2年次

通年 必修 2単位

担当教員名 准教授

玉巻 欣子

一般目標(GIO)

テーマ「患者体験記・闘病記から医療を考える」

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考察する。
2. 自らの考え・主張を論理的にかつ証拠にもとづいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通して、他者の考え・主張をより深く理解する。
4. 論理的で明快な文章表現力、プレゼンテーションの力を養う。

到達目標(SBOs)

1. 闘病記を読み、病気や障害の病態、治療の現状と問題点、医療者と患者の関係、患者と家族の関係、患者の心理、経済的問題、医療制度、国際的な比較など、患者さんを取り巻く問題について考える。
2. 様々な視点からテーマを見つけ、探求・考察できる。
3. 資料から必要な情報を読み取り、それを分かりやすく要約紹介できる。
4. 論理的で明快な文章でレポートを作成できる。
5. グループ討論で意見交換ができる。
6. 分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。

準備学習(予習・復習等)

ゼミではグループワークを多く取り入れています。各自の分担箇所は責任を持って取り組んで下さい。発表の準備は早めに取り組みましょう。他の人の発表も真剣に聞くように心がけて下さい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	玉巻 欣子	ゼミ概要	ゼミのテーマ、ゼミの進め方についてガイダンス ゼミメンバーの自己紹介 各自、自分が読む闘病記を探して読み始めておく。	
第2回	玉巻 欣子	ゼミテーマの決め方について(1)	全員で1つの闘病記の要約に目を通し、どのようなテーマで掘り下げられるかをグループに分かれて話し合う。	
第3回	玉巻 欣子	ゼミテーマの決め方について(2) 資料収集・整理法、レジюме・レポート作成法について(1)	前回グループで話し合った内容を全体に発表する。 資料収集・整理法、レジюме・レポートの作成法について学ぶ。	
第4回	玉巻 欣子	資料収集・整理法、レジюме・レポート作成法について(2)	資料収集・整理法、レジюме、レポートの作成法について学ぶ。	
第5回	玉巻 欣子	文献検索法	文献検索法、データベースの活用法を学ぶ。	
第6回	玉巻 欣子	グループ内発表・討論準備	各自が読んだ闘病記についてグループ内で発表するためのレジюме作成。	
第7回	玉巻 欣子	グループ内発表・討論	各自が読んだ闘病記についてレジюмеを使ってグループ内で発表・討論。	
第8回	玉巻 欣子	同上	同上	
第9回	玉巻 欣子	グループ内発表についての全体討論	各グループで話し合った内容を全体で発表し、意見交換する。	
第10回	玉巻 欣子	レポート作成・提出	各自が取り組んだ闘病記についてレポートにまとめて提出する。	
第11回	玉巻 欣子	後期の本発表に向けての準備	グループ決定 各グループ毎に、取り組む闘病記、発表テーマ、分担を決定する。	
第12回	玉巻 欣子	後期の本発表に向けての準備 前期のまとめ	各グループ毎に本発表の準備を行い、発表計画を提出する。 ゼミ全体で前期のゼミの感想や反省を話し合う。	
第13回	玉巻 欣子	後期の発表についてのガイダンス	後期の発表についてのガイダンス	
第14回	玉巻 欣子	グループによる口頭発表と質疑応答	各グループ毎にパワーポイントを使って口頭発表と質疑応答を行う。	
第15回 ～ 第23回	玉巻 欣子	同上	同上	
第24回	玉巻 欣子	まとめ	発表内容をレポートにまとめて提出する。 1年間のゼミの感想や反省を話し合う。	

成績評価方法

平常点(内訳:出席、授業参加態度など) 40点

演習点(内訳:レポート、レジюме、口頭発表など) 60点

教科書

各自が選んだ患者体験記・闘病記

指定参考書

特になし

オフィスアワー

在室時はいつでもOK
4号館2階206

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

専門教育

専門教育

専門教育

総合文化演習

2年次

通年 必修 2単位

担当教員名 准教授

松家 次朗

一般目標(GIO)

少人数のゼミ形式により、読解力、文章表現力、意見発表・討論の能力を養う。

到達目標(SBOs)

1. 現代社会と現代医療におけるキーワード「ケア」の意味について考えます。
2. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考案する。
3. 自らの考え・主張を論理的に、かつ証拠に基づいて展開する能力を磨く。
4. 他者との討論・議論を通して、他者の考え・主張をより深く理解する。

準備学習(予習・復習等)

ゼミ形式の授業は参加者の授業への積極的なかわりが大切です。相互に刺激を与えるよう努力することが求められます。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	松家 次朗	ガイダンス	演習の目標と内容、および一年間のスケジュールについて説明する。	
第2回	松家 次朗	1. 『ケアを問いなおす』を読む。その1	教科書『ケアを問いなおす』の第1章を読む。	
第3回	松家 次朗	2. 『ケアを問いなおす』を読む。その2	第2章の1を読む。	
第4回	松家 次朗	3. 『ケアを問いなおす』を読む。その3	第2章の2を読む。	
第5回	松家 次朗	4. 『ケアを問いなおす』を読む。その4	第2章の3を読む。	
第6回	松家 次朗	5. 『ケアを問いなおす』を読む。その5	第2章の3を読む。	
第7回	松家 次朗	6. 『ケアを問いなおす』を読む。その6	第3章の1を読む。	
第8回	松家 次朗	7. 『ケアを問いなおす』を読む。その7	第3章の2を読む。	
第9回	松家 次朗	8. 『ケアを問いなおす』を読む。その8	第3章の3を読む。	
第10回	松家 次朗	9. 『ケアを問いなおす』を読む。その9	第4章を読む。	
第11回	松家 次朗	10. 『ケアを問いなおす』を読む。その10	第5章の1を読む。後期の自主発表のための準備。その1	
第12回	松家 次朗	11. 『ケアを問いなおす』を読む。その11	第5章の2を読む。後期の自主発表のための準備。その2	
第13回	松家 次朗	12. 後期の本格的発表に向けて。その1	後期の発表要旨の報告。その1	
第14回	松家 次朗	13. 後期の本格的発表に向けて。その2	後期の発表要旨の報告。その2	
第15回	松家 次朗	14. 発表とレポート作成 その1	グループ発表開始。	
第16回	松家 次朗	15. 発表とレポート作成 その2	グループ発表。	
第17回	松家 次朗	16. 発表とレポート作成 その3	グループ発表。	
第18回	松家 次朗	17. 発表とレポート作成 その4	グループ発表。	
第19回	松家 次朗	18. 発表とレポート作成 その5	グループ発表。	
第20回	松家 次朗	19. 発表とレポート作成 その6	グループ発表。	
第21回	松家 次朗	20. 発表とレポート作成 その7	グループ発表。	
第22回	松家 次朗	21. 発表とレポート作成 その8	グループ発表。	
第23回	松家 次朗	22. レポートの紹介 その1	作成したレポートの紹介。	
第24回	松家 次朗	23. レポートの紹介 その2 まとめの授業	作成したレポートの紹介。	

成績評価方法

出席はもちろんのこと、授業への積極的な参加、一定水準のレポートの所定の期日までの提出、授業に対する寄与度の3点を総合的に判断する。

教科書

広井良典『ケアを問いなおす』(ちくま新書)

指定参考書

特になし。

オフィスアワー

必要に応じて対応する。

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

総合文化演習

2年次
通年 必修 2単位

担当教員名 非常勤講師 辻 峰男

一般目標(GIO)

1. 新聞の経済欄等から製薬会社の経営状態や今後の見通しを立てるための基礎能力を身につけます。企業の経営状況を分析評価し、社会に対する自己判断力を養います。
2. 少人数のゼミ形式により、人文科学、社会科学、自然科学系諸学の基礎的観点や思考方法を学ぶことを通じて、読解力、文章表現力、意見発表・討論の能力を養います。

到達目標(SBOs)

前半 オリエンテーション及び簿記会計学の基礎

日商簿記3級の教材を用いて財務諸表の作成方法を学習します。11月の日商簿記検定試験の受験を視野に入れた講義を行います。簿記とは、お金の流れを示す書類を作成する技術です。この技術を習得することで、卒業後の生活に役立てようとするものです。また検定試験対策を行います。講義中、例題・問題演習などに取り組みます。

後半 財務諸表分析の基礎

自発的な雰囲気の中、少人数グループによる企業研究と発表を行います。

準備学習(予習・復習等)

早めの着席。説明のスピードが速いため検定試験を受ける場合は個人的な努力を要します。後期は、前期の学習成果を活かし、学術的・実務的な企業研究と発表を楽しんでください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	辻 峰男	オリエンテーション	演習の進め方	
第2回	辻 峰男	簿記の全体像の理解		
第3回 ～ 第10回	辻 峰男	商業簿記の講義と演習		
第11回	辻 峰男	総合問題演習		
第12回	辻 峰男	総合問題演習		
第13回	辻 峰男	企業分析の基礎		
第14回	辻 峰男	プレゼンテーション演習		
第15回	辻 峰男	企業研究の実施		
第16回	辻 峰男	企業研究の実施		
第17回	辻 峰男	研究の中間報告		
第18回	辻 峰男	研究の中間報告		
第19回	辻 峰男	企業研究の実施		
第20回	辻 峰男	企業研究の実施		
第21回	辻 峰男	研究の中間報告		
第22回	辻 峰男	研究の最終報告		
第23回	辻 峰男	研究の最終報告		
第24回	辻 峰男	全体の統括		

成績評価方法

- ①演習点 (60点) ②平常点 (40点)
- ③別途、日商簿記検定合格者には考慮

教科書

前期 『TAC合格テキスト3級商業簿記』(TAC出版)、『TAC合格トレーニング3級商業簿記』(TAC出版)
後期 新田忠誓ほか『実践財務諸表分析』(中央経済社)(必要な方のみ)

指定参考書

井手正介『ビジネスゼミナール経営財務入門』(日本経済新聞出版社)
伊丹ほか『ゼミナール経営学入門』(同上)
桜井久勝『財務会計講義』(中央経済社)

オフィスアワー

非常勤講師のため、授業の前後に講師控室または教室で受け付けます。

教基
基礎

教育
教育養

教専
専門

教基
基礎

教育
教育養

教専
専門

基礎
基礎教育

専門
専門教育

総合文化演習

2年次

通年 必修 2単位

担当教員名 非常勤講師 大前 玲子

一般目標(GIO)

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考案する。
2. 自らの考え主張を論理的かつ証拠にもとづいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通じて、他者の考え、主張をより深く理解する。
4. 人間の「心」とはいかなるものか、について考えることを通して臨床心理学的な考え方にふれる。

到達目標(SBOs)

1. テーマを適切に選び、研究目標を明快に設定することができる。
2. テーマにふさわしい資料を探し、それを分かりやすく要約紹介することができる。
3. 調査結果を分かりやすく報告し、討論することができる。
4. 自分の考えを適切な日本語で表現することができる。
5. 人間の「心」の幅広さ、奥深さについて実感することができる。
6. 人間の「心」について考える際に生じる不可知性、曖昧さととどまることができる。
7. 日常生活における何気ない疑問や気づきを演習のテーマに沿った問題へと彫琢することができる。
8. 自らの研究成果を4000字相当のレポートとしてまとめることができる。

準備学習(予習・復習等)

発表方法、レポートの書き方について、適宜講義を行うため、基本的にすべての回に出席することを義務づけます。授業は講師と受講者の双方によって作られるものです。演習形式の授業であれば、そのような性質はより、色濃くなります。互いに協力しあって意義のある演習にしましょう。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	大前 玲子	オリエンテーション	演習の進め方に関する説明	
第2回	大前 玲子	偏愛マップ交換	自分の好きなものを述べあい自己紹介する	
第3回 ～ 第9回	大前 玲子	前期発表	自分の興味のある素材の魅力について口頭発表し、討論する	
第10回 ～ 第12回	大前 玲子	研究テーマを考える	前期発表から、人間の心について考えるテーマを探す	
第13回 ～ 第18回	大前 玲子	後期発表	素材を用いて「人間の心とは？」について口頭発表と討論	
第19回 ～ 第22回	大前 玲子	よりよいレポートを目指して	読み手を意識したレポートの書き方について	
第23回	大前 玲子	最終レポート提出	後期発表の内容を最終レポートにまとめる	
第24回	大前 玲子	まとめ	1年間の授業を通してみえてきた「人間の心」について考える	

成績評価方法

1. 演習点 (60点) 配点内訳：レポート、口頭発表、レジュメ作成
2. 平常点 (40点) 配点内訳：出席、授業への積極的参加、態度

教科書

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』日本放送出版協会 2012年

指定参考書

山形大学基盤教育院『スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る!』山形大学出版会 2010年

オフィスアワー

随時

総合文化演習

2年次

通年 必修 2単位

担当教員名 非常勤講師 松本 拓真

一般目標(GIO)

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考案する。
2. 自らの考え主張を論理的にかつ証拠にもとづいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通じて、他者の考え、主張をより深く理解する。
4. 対人関係に影響する心理学の理論を理解し、それを日常的に活用できるようにする。

到達目標(SBOs)

1. テーマを適切に選び、研究目標を明快に設定することができる。
2. テーマにふさわしい資料を探し、それを分かりやすく要約紹介することができる。
3. 調査結果を分かりやすく報告し、討論することができる。
4. 自分の考えを適切な日本語で表現することができる。
5. 心の無意識の理論である精神分析の考え方を知る。
6. 「聞く」ことの力、「話す」ことの意味について理解する。
7. ディスカッションで、対人関係の理論の理解を実感する。

準備学習(予習・復習等)

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	松本 拓真	メンバーの自己紹介とオリエンテーション	一年間の流れを説明し、受講生の自己紹介と各自の関心について発表してもらう。	
第2回 ～ 第10回	松本 拓真	対人関係の心理学理論と映画・小説などの心理学的考察の講義		
第11回	松本 拓真	前期のまとめ		
第12回	松本 拓真	テーマの選択とレポートの書き方の説明		
第13回 ～ 第23回	松本 拓真	学生による発表	各自が選んだテーマにもとづいて、個人単位での発表をする。また、交代で司会も一人一回担当する。	
第24回	松本 拓真	まとめ		

成績評価方法

1. 演習点 (60点) : 配点内訳 : レポート、口頭発表、レジュメ作成
2. 平常点 (40点) : 配点内訳 : 出席、授業への積極的な参加、態度

教科書

その都度、指定する

指定参考書

- 『臨床現場に生かすクライン派精神分析—精神分析における洞察と関係性』(平井正三・武藤誠監訳、岩崎学術出版社)
『対象関係論を学ぶ』(松本邦裕、岩崎学術出版社)
『こどもの精神分析—クライン派・対象関係論からのアプローチ』(木部則雄、岩崎学術出版社)

オフィスアワー

質問は講義前後に受け付けます。

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

総合文化演習

2年次

通年 必修 2単位

担当教員名 講師

中島 園美

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考察する。
2. 自らの考え・主張を論理的にかつ証拠にもとづいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通して、他者の考え・主張をより深く理解する。
4. 生命について考えを深め、将来医療に携わる職業人としての意識を高める。

到達目標(SBOs)

1. テーマを適切に選び、目標を明快に設定することができる。
2. テーマにふさわしい資料を探し、それをわかりやすく要約、紹介することができる。
3. 調査内容をわかりやすく報告し、聞き手と討論することができる。
4. 自分の考えを適切な日本語で正確に表現することができる。
5. コラージュを製作し、自分の作品(イメージ)について語ることで、自己表現力を磨く。
6. イメージ(作品)に関して物語を語ることで自己理解、イメージ(作品)を共有することでの他者理解の能力を養う。

準備学習(予習・復習等)

本演習は、制作したコラージュ作品をもとにディスカッションするため、自分の作品を他のゼミ生に見せ、イメージを語ることに抵抗感のないことが必要となる。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	中島 園美	ガイダンス		
第2回 ～ 第14回	中島 園美	コラージュ制作やテーマに関する 映画のグループ発表	コラージュ制作とその作品をもとにワークシートを用いて認知物語を作成。それらをグループで発表。 コラージュ制作日以外は、テーマに関する映画のグループ発表とグループ・ディスカッション。	
第15回	中島 園美	パワーポイントを用いたプレゼン テーションの準備		
第16回	中島 園美	//		
第17回 ～ 第23回	中島 園美	パワーポイントを用いたプレゼン テーション		
第24回	中島 園美	1年間の総まとめ		

成績評価方法

1. 演習点(60点) 配点内訳: レポート・口頭発表・レジюме作成
2. 平常点(40点) 配点内訳: 出席、授業への積極的な参加、態度

教科書

特になし

指定参考書

特になし。適宜プリント類を配布

オフィスアワー

講義時間の前後で質問を受け付ける。

総合文化演習

2 年次

通年 必修 2 単位

担当教員名 講師

森脇 健介

一般目標(GIO)

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考案する。
2. 自らの考え・主張を論理的に、かつ証拠に基づいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通して、他者の考え・主張をより深く理解する。
4. 医療データの加工・解析を通して、将来医療に関わる者としての見識を深める。

到達目標(SBOs)

1. テーマを適切に選び、研究目標を明快に設定することができる。
2. テーマに相応しい資料を探し、それを分かりやすく要約紹介することができる。
3. 調査結果を分かりやすく報告し、討論することができる。
4. 自分の考えを適切な日本語で表現することができる。
5. 医療データの特徴を理解し、簡単なデータ解析を実施できる。

準備学習(予習・復習等)

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	森脇 健介	ガイダンス	前期・後期の進め方の確認	
第2回	森脇 健介	データの種類	医療におけるデータとその分類	
第3回	森脇 健介	データの要約①	視覚的な要約の演習	
第4回	森脇 健介	データの要約②	視覚的な要約の演習	
第5回	森脇 健介	データの要約③	数値的な要約の演習	
第6回	森脇 健介	データの要約④	数値的な要約の演習	
第7回	森脇 健介	統計学的推定①	信頼区間の考え方	
第8回	森脇 健介	統計学的推定②	信頼区間の計算の演習	
第9回	森脇 健介	統計学的仮説検定①	仮説検定の考え方	
第10回	森脇 健介	統計学的仮説検定②	Student の t 検定の演習	
第11回	森脇 健介	統計学的仮説検定③	対応のある t 検定の演習	
第12回	森脇 健介	前期まとめ	課題に基づく演習	
第13回	森脇 健介	質的データの解析	カイ2乗検定の演習	
第14回	森脇 健介	相関	相関分析の演習	
第15回	森脇 健介	回帰	回帰分析の演習	
第16回	森脇 健介	ノンパラメトリック検定①	Wilcoxon 順位和検定の演習	
第17回	森脇 健介	ノンパラメトリック検定②	Wilcoxon 符号付順位和検定の演習	
第18回	森脇 健介	分散分析①	1way ANOVA の演習	
第19回	森脇 健介	分散分析②	多重比較法の演習	
第20回	森脇 健介	生存時間解析①	生存曲線の演習	
第21回	森脇 健介	生存時間解析②	生存曲線の比較検定の演習	
第22回	森脇 健介	総合演習①	課題データに基づく演習	
第23回	森脇 健介	総合演習②	課題データに基づく演習	
第24回	森脇 健介	総合演習③	課題データに基づく演習	

成績評価方法

1. 演習点 (60 点) 配点内訳: レポート、口頭発表、レジュメ作成
2. 平常点 (40 点) 配点内訳: 出席、授業への積極的な参加、態度

教科書

配布資料

指定参考書

オフィスアワー

質問等があれば研究室に来て下さい。

基礎
教育

教育
基礎

専門
教育

基礎
教育

教育
基礎

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

総合文化演習

2年次

通年 必修 2単位

担当教員名 特別教授 棚橋 孝雄

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

テーマ：「自然が与えてくれた医薬資源について考える」

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考案する。
2. 自らの考え・主張を論理的に、かつ証拠に基づいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通して、他者の考え・主張をより深く理解する。

到達目標(SBOs)

1. テーマを適切に選び、研究目標を明快に設定することができる。
2. テーマに相応しい資料を探し、それを分かりやすく要約紹介することができる。
3. 調査結果を分かりやすく報告し、討論することができる。
4. 自分の考えを適切な日本語で表現することができる。
5. 医療や医薬品開発における天然薬用資源の役割と問題点について説明し、議論できる。

準備学習(予習・復習等)

人間の健康や医療には、植物、動物、微生物など生物の生産する化合物が深く関わっています。3つの観点「伝統医療の歴史と今日的意義」、「医薬品開発における天然資源の重要性」、「健康食品・ハーブ類の功罪」から天然薬用資源と健康の関わりについて考え、関心のある内容から自由にテーマを設定して下さい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	棚橋 孝雄	ガイダンス	授業の概要とゼミのテーマについての説明	A-(1)-④-1~4
第2回	棚橋 孝雄	自己紹介	自己紹介と関心を持ったテーマについてコメント	A-(1)-④-1~4
第3回	棚橋 孝雄	自己紹介	自己紹介と関心を持ったテーマについてコメントとグループ分け	A-(1)-④-1~4
第4回	棚橋 孝雄	グループ討論	各テーマごとにグループで討論し、方針を決定する。	A-(1)-④-1~4, A-(5)-①-1~5
第5回	棚橋 孝雄	グループ討論	各テーマごとにグループで討論し、方針を決定する。	A-(1)-④-1~4, A-(5)-①-1~5
第6回 ~ 第11回	棚橋 孝雄	個人発表	個人の発表と質疑応答を行う。	A-(1)-④-1~4, A-(5)-①-1~5
第12回	棚橋 孝雄	前期反省会	グループで討論。後期に向けて、前期の個人発表において抽出した問題点、課題について議論する。	A-(1)-④-1~4, A-(5)-①-1~5
第13回 ~ 第15回	棚橋 孝雄	グループ討論	課題について調査した結果を報告し、議論する。	A-(1)-④-1~4, A-(5)-①-1~5
第16回 ~ 第23回	棚橋 孝雄	グループ発表	テーマごとにグループで発表し、質疑応答を行う。レポートを作成する。	A-(1)-④-1~4, A-(5)-①-1~5
第24回	棚橋 孝雄	まとめ	ゼミの感想と反省を述べる。レポート提出。	A-(1)-④-1~4, A-(5)-①-1~5

成績評価方法

1. 演習点 (60点) 配点内訳：レポート、口頭発表、レジュメ作成
2. 平常点 (40点) 配点内訳：出席、授業への積極的な参加、態度

教科書

特になし。

指定参考書

特に指定しない。

オフィスアワー

演習時間の前後。それ以外でも在室時は対応しますが、不在の時もあるので事前の予約が望ましい。

総合文化演習

2 年次

通年 必修 2 単位

担当教員名 教授

小山 淳子

一般目標(GIO)

1. 自ら問題を設定し、その問題を解決するための手段・方法を考案する。
2. 自らの考え・主張を論理的に、かつ証拠に基づいて展開する能力を磨く。
3. 他者との討論・議論を通して、他者の考え・主張をより深く理解する。
4. 「薬」と「健康」に関するテーマを設定し、展開できる。

到達目標(SBOs)

1. テーマを適切に選び、研究目標を明快に設定することができる。
2. テーマに相応しい資料を探し、それを分かりやすく要約紹介することができる。
3. 調査結果を分かりやすく報告し、討論することができる。
4. 自分の考えを適切な日本語で表現することができる。
5. 「薬」と「健康」に関するテーマから薬学教育科目との関連性をみつけだす。
6. 薬学教育におけるすべての科目が何らかの形で「薬」と結びついていることを理解する。

準備学習(予習・復習等)

グループで行う発表のために協力して文献探索などの資料探索を行い、早めに必要なレジュメやパワーポイントを作成する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小山 淳子	前期ガイダンス	ゼミの進め方やレジュメの作り方などの説明を行う。 現在大学で習っている教科と関連付けて一つの薬をとりあげる。	
第2回	小山 淳子	講義	化学と関連のある事柄について	
第3回	小山 淳子	課題探索と調査	資料収集と整理、グループディスカッション、パワーポイント作成	
第4回	小山 淳子	課題探索と調査	資料収集と整理、グループディスカッション、パワーポイント作成	
第5回	小山 淳子	課題探索と調査	資料収集と整理、グループディスカッション、パワーポイント作成	
第6回 ～ 第11回	小山 淳子	学生による発表	個々のテーマについてのグループ発表と相互討論	
第12回	小山 淳子	前期のまとめ	発表テーマのレポート作成と感想や反省	
第13回	小山 淳子	後期ガイダンス	前期テーマに関連した治療薬や予防薬、サプリメントなど、 健康と薬を結び付けたテーマをとりあげる。	
第14回	小山 淳子	講義	薬と健康に関して、例をとって講義	
第15回	小山 淳子	課題探索と調査	資料収集と整理、グループディスカッション、パワーポイント作成	
第16回	小山 淳子	課題探索と調査	資料収集と整理、グループディスカッション、パワーポイント作成	
第17回	小山 淳子	課題探索と調査	資料収集と整理、グループディスカッション、パワーポイント作成	
第18回 ～ 第23回	小山 淳子	学生による発表	個々のテーマについてのグループ発表と相互討論	
第24回	小山 淳子	まとめ	グループ発表テーマのレポート作成 1年間の感想や反省	

成績評価方法

1. 演習点 (60 点) 配点内訳：レポート、口頭発表、レジュメ作成
2. 平常点 (40 点) 配点内訳：出席、授業への積極的参加、態度

教科書

なし

指定参考書

なし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教専
門

基礎
教育

教育
養

教専
門

基礎
教育

基礎
教育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

実用英語

2年次

前期 選択 1単位

担当教員名 准教授

玉巻 欣子

一般目標(GIO)

TOEICなどの英語語学試験に向けて、英語の語彙力、速読力、文法力、リスニング力の向上を目指す。

到達目標(SBOs)

1. 英文を聞き取り、意味を理解し発音できる。
2. 英文を速読し大意を把握できる。
3. TOEICの語法・文法問題を解ける。
4. TOEICの出題形式に慣れる。

準備学習(予習・復習等)

この授業では、英語 e-ラーニング学習システム ALC NetAcademy2 による自己学習と教員による授業によって、TOEIC 受験に必要な英語力アップを目指します。

週1回の授業だけでは英語力はつきません。自宅でも e-ラーニングを使って速読練習、リスニング練習を継続して行いましょう。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	玉巻 欣子	講義概要 レベル診断テスト	本コースの目的と授業の進め方、e-ラーニング教材の学習方法について説明。 レベル診断テストを行い、各自の学習レベルを確認する。	
第2回	玉巻 欣子	リスニング(1)、リーディング(1)	e-ラーニング自己学習 教員による文法問題と解説	
第3回	玉巻 欣子	リスニング(2)、リーディング(2)	e-ラーニング自己学習 教員による文法問題と解説	
第4回	玉巻 欣子	リスニング(3)、リーディング(3)	e-ラーニング自己学習 教員による文法問題と解説	
第5回	玉巻 欣子	リスニング(4)、リーディング(4)	e-ラーニング自己学習 教員による文法問題と解説	
第6回	玉巻 欣子	TOEIC 演習(1)	TOEIC 模擬試験、教員による解説	
第7回	玉巻 欣子	リスニング(5)、リーディング(5)	e-ラーニング自己学習 教員による文法問題と解説	
第8回	玉巻 欣子	リスニング(6)、リーディング(6)	e-ラーニング自己学習 教員による文法問題と解説	
第9回	玉巻 欣子	リスニング(7)、リーディング(7)	e-ラーニング自己学習 教員による文法問題と解説	
第10回	玉巻 欣子	リスニング(8)、リーディング(8)	e-ラーニング自己学習 教員による文法問題と解説	
第11回	玉巻 欣子	TOEIC 演習(2)	TOEIC 模擬試験、教員による解説	
第12回	玉巻 欣子	レベル診断テスト(終了テスト)	各自、終了テストを行い、スコアの変化を確認する。 TOEIC 受験に向けての今後の対策を考える。	

成績評価方法

定期試験(50%)、平常点(出席、e-ラーニング学習履歴、小テストなど)(50%)
出席重視します。

教科書

e-ラーニング学習システム(ALCNetAcademy2)
(書籍ではありませんので購入の必要はありません)
プリントによる問題

指定参考書

特になし

オフィスアワー

在室中はいつでも質問OKです。
4号館2階2-206

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

医療コミュニケーション

2年次

前期 必修 1単位

担当教員名 講師

中島 園美

一般目標(GIO)

将来の医療従事者として、患者やその家族との信頼関係を形成し援助的な関わりができるように、医療現場における臨床心理学的視点を習得することを目標とする。さらに、地域社会、そしてチーム医療において他のメンバーとの協働関係を築けるようにコミュニケーションスキルを学習する。

到達目標(SBOs)

1. 医療現場における良好なコミュニケーションについて理解する。
2. 患者の心理的特徴を理解する。
4. チーム医療に必要な態度を獲得する。
5. 他者援助の方法を知る
6. 在宅医療での患者や家族へのサポートに必要な態度を獲得する。

準備学習(予習・復習等)

医療従事者が直面する問題に対応できるように医療現場に関する臨床心理学を中心に講義を行っていきます。日頃から新聞や映画などで疾患を抱えた方たちがどんなふうにいるか、どのような体験をしているか等関心をもって知ることが将来の医療従事者の態度形成に役に立つと思います。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	中島 園美	患者の心理的特徴	疾患に関する患者の反応(不安・ストレス)と家族の反応	A(3)①3~9 ②1,2
第2回	中島 園美	小児患者の心理的問題	入院児の心理的特徴、母子関係のアセスメント	A(3)①3~9 ②1,2
第3回	中島 園美	母性愛の剥奪	アタッチメント理論	A(3)①3,4,5 ②1,2
第4回	中島 園美	発達障害	心理的特徴と関わり方	A(3)①3,4,5 ②1,2
第5回	中島 園美	高齢者の心理的問題	在宅ケアに必要な認知症患者への関わり方と疾患特徴	A(3)①3~9 ②1,2
第6回	中島 園美	疾患別心理的問題(1)	がん患者と家族への関わり方	A(3)①3~9 ②1,2
第7回	中島 園美	疾患別心理的問題(2)	精神科領域の患者と家族への関わり方	A(3)①3~9 ②1,2
第8回	中島 園美	疾患別心理的問題(3)	うつ病について	A(3)①3~9 ②1,2
第9回	中島 園美	疾患別心理的問題(4)	妊産婦や不妊治療患者への関わり方	A(3)①3~9 ②1,2
第10回	中島 園美	心理療法の活用	行動療法・認知行動療法	A(3)①3~9 ②1,2
第11回	中島 園美	医療コミュニケーションスキル	チーム医療・在宅医療において必要な態度・情報収集について	A(3)①1~9 ②1,2
第12回	中島 園美	まとめ	まとめ	A(3)①1~9 ②1,2

成績評価方法

定期試験(80%)

平常点(20%) 配点内訳:出席、受講態度、小レポートなど

教科書

特になし

適宜、資料を配布します。

指定参考書

特になし。

オフィスアワー

講義終了後に個別質問を受け付けます。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

物理化学Ⅱ

2年次

前期 必修 1単位

担当教員名 教授

向 高弘

一般目標(GIO)

物質の状態を理解するために、熱力学に関する基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs)

1. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。
2. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。
3. エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。
4. 熱力学における系、外界、境界について説明できる。
5. 熱力学第一法則を説明できる。
6. 状態関数と経路関数の違いを説明できる。
7. 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。
8. 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。
9. エンタルピーについて説明できる。
10. 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。
11. エントロピーについて説明できる。
12. 熱力学第二法則について説明できる。
13. 熱力学第三法則について説明できる。
14. ギブズエネルギーについて説明できる。
15. 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。
16. ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。
17. ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。
18. 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

問題演習による前の授業の復習と教科書の予習により次回の授業に備える。

予習：教科書に目を通す(30分)。今週の講義内容、理解し難い点を把握する程度で良い。

復習：参考書などを利用し、授業で行った範囲の問題を解く(1時間)。

簡単な微分と積分を復習しておくこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	向 高弘	総論 気体の微視的状态と巨視的状态	物理化学に必要な数学、状態方程式	C1(2)-①-1
第2回	向 高弘	気体の微視的状态と巨視的状态	気体分子の運動とエネルギー	C1(2)-①-2
第3回	向 高弘	気体の微視的状态と巨視的状态	エネルギーの量子化とボルツマン分布	C1(2)-①-3
第4回	向 高弘	エネルギー	熱および仕事の概念、状態関数	C1(2)-②-1,3
第5回	向 高弘	エネルギー	熱力学第一法則(エネルギー保存則)、熱容量	C1(2)-②-2,4,5
第6回	向 高弘	エネルギー	エンタルピーと反応熱	C1(2)-②-5,6
第7回	向 高弘	エネルギー	物理変化・化学変化に伴うエンタルピー変化	C1(2)-②-6,7
第8回	向 高弘	自発的な変化	エントロピー	C1(2)-③-1
第9回	向 高弘	自発的な変化	熱力学第二法則	C1(2)-③-2
第10回	向 高弘	自発的な変化	物理変化・化学変化に伴うエントロピー変化、熱力学第三法則	C1(2)-③-3
第11回	向 高弘	自発的な変化 化学平衡の原理	自由エネルギーと化学ポテンシャル	C1(2)-③-4,5 C1(2)-④-1
第12回	向 高弘	化学平衡の原理	自由エネルギーと平衡定数の温度依存性	C1(2)-④-2,3,4

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

スタンダード薬学シリーズⅡ 2 物理系薬学Ⅰ 物質の物理的性質(日本薬学会編) 東京化学同人

指定参考書

絶対わかる化学熱力学(齋藤勝裕ら著) 講談社サイエンティフィク

薬剤師国家試験のための熱力学(石田壽昌著) 東京図書出版

パザバ薬学演習シリーズ2 物理化学演習(三輪嘉尚ら著) 京都廣川書店

オフィスアワー

随時

物理化学Ⅲ

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 講師

田中 将史

一般目標(GIO)

複雑な系における物質の状態および相互変換過程を熱力学に基づき解析できるようになるために、溶液および電気化学に関する基本的知識と技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 相変化に伴う熱の移動、相平衡と相律について説明できる。
2. 状態図について説明できる。
3. 希薄溶液の束一的性質について説明できる。
4. 活量と活量係数について説明できる。
5. 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。
6. イオン強度について説明できる。
7. 起電力とギブズエネルギーの関係、電極電位（酸化還元電位）について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

予習として教科書に目を通す。復習として講義の後に、その回の内容を読み、講義ノートを整理する。また、指定参考書などを利用し、問題演習を解く。本講義は物理化学Ⅱと関連が深いので、しっかり復習をしておくこと。質問は随時受け付ける。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田中 将史	相平衡	相変化に伴う熱の移動とクラウジウス-クラペイロンの式	C1(2)-⑤-1
第2回	田中 将史	相平衡	相平衡と相律	C1(2)-⑤-2
第3回	田中 将史	相平衡	状態図(1)	C1(2)-⑤-3
第4回	田中 将史	相平衡	状態図(2)	C1(2)-⑤-3
第5回	田中 将史	溶液の性質	希薄溶液の束一的性質	C1(2)-⑥-1
第6回	田中 将史	溶液の性質	電解質溶液の束一的性質、束一的性質の応用	C1(2)-⑥-1
第7回	田中 将史	溶液の性質	活量と活量係数	C1(2)-⑥-2
第8回	田中 将史	溶液の性質	平衡と化学ポテンシャル	C1(2)-⑥-2
第9回	田中 将史	溶液の性質	電解質溶液の電気伝導性	C1(2)-⑥-3
第10回	田中 将史	溶液の性質	電解質溶液の活量係数とイオン強度	C1(2)-⑥-4
第11回	田中 将史	電気化学	化学電池の種類と構成	C1(2)-⑦-1
第12回	田中 将史	電気化学	起電力と標準電位、ネルンストの式と濃淡電池	C1(2)-⑦-1,2

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

スタンダード薬学シリーズⅡ 2 物理系薬学Ⅰ. 物質の物理的性質(日本薬学会編) 東京化学同人

指定参考書

薬学物理化学演習 第3版(小野行雄編) 廣川書店
ライフサイエンスの物理化学演習(中村和郎著) 三共出版
パザパ薬学演習シリーズ2 物理化学演習(三輪嘉尚ら著) 京都廣川書店

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

放射化学

2年次
後期 必修 1単位

担当教員名 教授
講師

向 高弘
安岡 由美

一般目標(GIO)

放射線の種類や放射性同位元素の基本的な物理的性質が十分理解でき、放射線の物質に与える影響、放射化学の原理などを説明できる。さらに放射性医薬品の性質とその医療利用、放射性同位元素の薬学領域における活用についての理解を深める。

到達目標(SBOs)

1. 原子の構造と放射壊変について説明できる。
2. 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。
3. 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。
4. 核反応および放射平衡について説明できる。
5. 放射線測定の方法と利用について概説できる。
6. 核医学検査について概説できる。
7. 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

予習:教科書を読むこと(1時間)。復習:各章の問題を解くこと(1時間)。放射性同位元素を構成元素として含む放射性医薬品は、核医学の分野で広く利用され、医療に大いに貢献している。したがって、放射線、放射性同位元素に関する正しい知識と認識を持つておくことは、科学に携わるものとしては勿論、薬剤師として活動する上においても、最も重要な知識の一つである。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	安岡 由美	放射線と放射線測定	放射壊変と放射線測定について概説できる	C1-(1)-④-1,5
第2回	安岡 由美	原子と原子核	原子の構造と放射壊変について説明できる。	C1-(1)-④-1
第3回	安岡 由美	放射線と物質との相互作用 1	電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。	C1-(1)-④-2
第4回	安岡 由美	放射線と物質との相互作用 2	電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。	C1-(1)-④-2
第5回	安岡 由美	放射平衡と比放射能	放射平衡と比放射能について説明できる。	C1-(1)-④-4
第6回	安岡 由美	天然放射性核種と核反応 放射性同位元素の製造	自然に存在する放射性同位元素と人工的原子核反応について説明できる。 放射性同位元素の製造について説明できる。	C1-(1)-④-4 D2-(1)-④-2
第7回	向 高弘	薬学領域における放射性同位元素の利用 1	代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。	C1-(1)-④-3
第8回	向 高弘	薬学領域における放射性同位元素の利用 2	代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。	C1-(1)-④-3
第9回	向 高弘	放射性医薬品 1	代表的な放射性医薬品について説明できる。	C1-(1)-④-3 C2-(6)-②-5 F-(2)-⑤-5
第10回	向 高弘	放射性医薬品 2	代表的な放射性医薬品について説明できる。	C1-(1)-④-3 C2-(6)-②-5 F-(2)-⑤-5
第11回	向 高弘	放射性医薬品 3	代表的な放射性医薬品について説明できる。	C1-(1)-④-3 C2-(6)-②-5 F-(2)-⑤-5
第12回	向 高弘	放射性医薬品 4	代表的な放射性医薬品について説明できる。	C1-(1)-④-3 C2-(6)-②-5 F-(2)-⑤-5

成績評価方法

定期試験(100%)

教科書

「New 放射化学・放射薬品学(第2版)」廣川書店

指定参考書

「新放射化学・放射性医薬品学(改訂第3版)」南江堂
「核医学ノート(第5版)」金原出版
「放射線を科学的に理解する」丸善出版

オフィスアワー

授業に関する質問には、随時対応します。

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

分析化学Ⅱ

2 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 教授

小林 典裕

一般目標(GIO)

医薬品の品質を確保するために、主成分および混入が想定される物質の定性分析・定量分析が行われる。本講義では、こうした医薬品分析に用いられる代表的な分析法について解説する。

到達目標(SBOs)

1. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。
2. 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。
3. 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。
4. 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。
5. キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。
6. 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。
7. 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

容量分析は、キーになる化学反応の当量関係を把握することが重要。
吸光度測定法では分析機器のしくみを把握することも必要。復習が必須。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小林 典裕	定性反応	医薬品の定性反応と確認試験・純度試験への応用	C2(3)-①-1,2 C2(3)-②-6
第2回	小林 典裕	重量分析	重量分析の原理と医薬品定量への応用	C2(3)-②-7
第3回	小林 典裕	容量分析総論	標準液の調製と標定、定量計算の方法	C2(3)-②-5
第4回	小林 典裕	酸塩基滴定(1)	医薬品定量への応用	C2(3)-②-1
第5回	小林 典裕	酸塩基滴定(2)	医薬品定量への応用	C2(3)-②-1
第6回	小林 典裕	非水滴定	原理と医薬品定量への応用	C2(3)-②-1
第7回	小林 典裕	沈殿滴定	医薬品定量への応用	C2(3)-②-3
第8回	小林 典裕	キレート滴定	医薬品定量への応用	C2(3)-②-2
第9回	小林 典裕	酸化還元滴定(1)	医薬品定量への応用	C2(3)-②-4
第10回	小林 典裕	酸化還元滴定(2)	医薬品定量への応用	C2(3)-②-4
第11回	小林 典裕	紫外可視吸光度測定法	原理と医薬品定量への応用	C2(4)-①-1
第12回	小林 典裕	蛍光光度法	原理と医薬品定量への応用	C2(4)-①-2

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

『NEW 薬品分析化学』(第2版)(小林典裕、藤井洋一編、廣川書店)

指定参考書

1. 『分析化学(第3版)』(前田昌子、今井一洋編、丸善)
2. 『ベーシック薬学教科書シリーズ2 分析化学』(萩中 淳編、化学同人)
3. 『スタンダード薬学シリーズ2. 物理系薬学Ⅱ. 化学物質の分析』(日本薬学会編、東京化学同人)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

有機化学Ⅲ

2年次
前期 必修 1単位

担当教員名 教授
講師

奥田 健介
西村 克己

一般目標(GIO)

芳香族炭化水素およびカルボニル化合物の性質と反応を理解するために、それぞれの基本構造、物理的性質、反応性に関する基本的知識を修得する。また、官能基が有機化合物に与える効果を理解するために、官能基を有する化合物について、反応性およびその他の性質に関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 代表的な化合物をIUPAC規則に基づいて命名することができる。
2. 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。
3. 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。
4. 炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル)の構造と性質を説明できる。
5. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。
6. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。
7. 芳香族性の概念を説明できる。
8. 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。
9. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
10. 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。

準備学習(予習・復習等)

この科目の範囲内に限定せず、関連の有機化学系科目の内容も参照しながら、教科書や参考書をよく読みこむことが重要です。また、教科書の練習問題や章末の問題を自分で解きながら復習してください。この講義では、ボルハルト・ショアーの教科書の15章から18章について解説します。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	西村 克己	ベンゼンの性質	ベンゼンの命名 ベンゼンの構造と共鳴エネルギー(芳香族性)	C3-(1)-①-1,2,4 C3-(2)-③-1,2
第2回	西村 克己	芳香族化合物の性質	芳香族性(Hückel則) 環状ポリエン(芳香族、反芳香族と非芳香族)	C3-(3)-③-1,2
第3回	西村 克己	ベンゼンの反応	芳香族求電子置換反応(ベンゼンのハロゲン化、ニトロ化、スルホン化、ならびにFriedel-Craftsアルキル化およびアシル化)	C3-(1)-①-7,9 C3-(2)-③-1
第4回	西村 克己	置換ベンゼンの性質と反応1	ベンゼン環上の置換基による活性化と不活性化	C3-(2)-③-4 C3-(3)-⑥-1
第5回	西村 克己	置換ベンゼンの性質と反応2	芳香族求電子置換反応の反応性と配向性	C3-(1)-①-7,9 C3-(2)-③-3,5 C3-(3)-⑥-1
第6回	西村 克己	芳香族化合物の性質と反応	置換ベンゼンの合成 多環ベンゼン系炭化水素の反応性	C3-(1)-①-7,9 C3-(2)-③-1,4 C3-(3)-⑥-1
第7回	奥田 健介	アルデヒドおよびケトンの性質および反応性	アルデヒドおよびケトンの命名 カルボニル基の構造 アルデヒドおよびケトンの合成 カルボニル基の反応性:付加反応の機構	C3-(1)-①-1,9 C3-(3)-④-1
第8回	奥田 健介	アルデヒドおよびケトンの反応(カルボニル炭素の反応)1	水の付加による水和物の生成 アルコールの付加によるヘミアセタールおよびアセタールの生成 保護基としてのアセタール	C3-(1)-①-9 C3-(3)-④-1
第9回	奥田 健介	アルデヒドおよびケトンの反応(カルボニル炭素の反応)2	アンモニアおよびその誘導体の求核付加反応 カルボニル基の脱酸素反応 シアン化水素の付加によるシアノヒドリンの生成 リンイリドの付加:Wittig反応 ペルオキシカルボン酸による酸化:Baeyer-Villiger酸化	C3-(1)-①-9 C3-(3)-④-1
第10回	奥田 健介	アルデヒドおよびケトンの反応(α 位の反応)1	アルデヒドおよびケトンの酸性度:エノラートイオン ケト-エノール平衡 アルデヒドおよびケトンのハロゲン化 アルデヒドおよびケトンのアルキル化	C3-(1)-①-9 C3-(3)-④-1
第11回	奥田 健介	アルデヒドおよびケトンの反応(α 位の反応)2	エノラートによるカルボニル基への攻撃:アルドール縮合 交差アルドール縮合 分子内アルドール縮合	C3-(1)-①-9 C3-(3)-④-1

第12回	奥田 健介	α 、 β -不飽和アルデヒドおよびケトンの化学	α 、 β -不飽和アルデヒドおよびケトンの性質 α 、 β -不飽和アルデヒドおよびケトンへの共役付加反応 有機金属反応剤の1,2-付加および1,4-付加 エノラートイオンの共役付加反応：Michael 反応および Robinson 環化	C3-(1)-①-9 C3-(3)-④-1
------	-------	---------------------------------------	--	--------------------------

成績評価方法

定期試験（95点）、平常点（5点）

教科書

ボルハルト・ショアー 現代有機化学（第6版）下（古賀憲司ら監訳）化学同人

指定参考書

ブルース 有機化学（第7版）上・下（大船泰史ら監訳）化学同人
スタンダード薬学シリーズ（日本薬学会編）『化学系薬学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ』東京化学同人
ソロモンの新有機化学（第9版）上・下（花房昭静ら監訳）廣川書店

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。また、薬学基礎教育センターでのオフィスアワーを予定している。

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

有機化学Ⅳ

2 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 准教授 山野 由美子
准教授 上田 昌史

一般目標(GIO)

官能基が有機化合物に与える効果を理解するために、官能基を有する化合物の合成と反応に関する基本的知識を修得する。
個々の官能基を導入、変換するために、それらに関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。
2. 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。
3. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。
4. 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。
5. 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。
6. 脱離反応の特徴について説明できる。
7. アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
8. エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
9. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
10. カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。
11. カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。
12. アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。
13. アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。
14. 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。

準備学習(予習・復習等)

復習が大切です。教科書やノートを見ているだけでなく、自分で構造式や反応式を書いて理解を深めて下さい。
教科書に沢山書かれている反応式の、生成物の構造式や原料の一部の構造式、あるいは試薬の構造式を紙で隠して、その構造式を紙に書く練習から始めて下さい。
同時に、反応機構を曲がった矢印で書く練習をして下さい。
また、章内に記載されている練習問題は、基本的な問題が多いので、理解度を確認するために利用して下さい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	上田 昌史	カルボン酸の性質	カルボン酸の命名と性質 (酸性、塩基性など) カルボキシ官能基の導入法	C3-(1)-①-1 C3-(1)-①-2 C3-(3)-④-2
第2回	上田 昌史	カルボン酸の反応1	カルボキシ炭素における置換反応: 付加脱離機構 カルボン酸誘導体: ハロゲン化アシルおよび酸無水物	C3-(1)-①-7 C3-(1)-①-9 C3-(3)-④-3
第3回	上田 昌史	カルボン酸の反応2	カルボン酸誘導体: エステルおよびアミド カルボン酸の還元	C3-(1)-①-9 C3-(3)-④-3
第4回	上田 昌史	カルボン酸誘導体の性質	カルボン酸誘導体の相対的反応性 ハロゲン化アシルの化学	C3-(1)-①-9 C3-(3)-④-3
第5回	上田 昌史	カルボン酸誘導体の反応1	カルボン酸無水物の化学 エステルの化学	C3-(1)-①-9 C3-(3)-④-3
第6回	上田 昌史	カルボン酸誘導体の反応2	アミドの化学 アルカンニトリルの化学	C3-(1)-①-9 C3-(3)-④-3
第7回	山野 由美子	アミンの命名、性質、構造および塩基性度	アミンの命名、アミンの構造と物理的性質 アミンの酸性度と塩基性度	C3-(1)-①-1 C3-(1)-①-2 C3-(3)-⑤-1 C3-(3)-⑦-2
第8回	山野 由美子	アミンの合成	間接的アルキル化による第一級アミンの合成 還元アミノ化によるアミンの合成 カルボン酸アミドからのアミンの合成	C3-(3)-⑤-1
第9回	山野 由美子	アミンの反応	脱離反応の復習と Hoffmann 脱離、Mannich 反応、亜硝酸との反応 (ジアゾ化とニトロソ化)	C3-(3)-②-3 C3-(3)-⑤-1 C3-(3)-④-1
第10回	山野 由美子	フェニルメチル炭素の反応性およびフェノールの命名と性質	ベンジル型ラジカル、カチオンおよびアニオンの性質と反応 ベンジル位の酸化と還元、 フェノールの命名、フェノールの酸性度	C3-(1)-①-1 C3-(1)-①-2 C3-(1)-①-7 C3-(3)-⑦-1
第11回	山野 由美子	フェノールの合成1 フェノールの反応1	芳香族求核置換反応 フェノールのアルコールとしての化学的挙動 芳香族求電子置換反応の復習とフェノールの求電子置換反応	C3-(2)-③-3 C3-(3)-③-1
第12回	山野 由美子	フェノールの合成2 フェノールの反応2 電子環状反応	Claisen 転位と Cope 転位 アレーンジアソニウム塩の合成と反応	C3-(3)-③-1

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

ボルハルト・ショアー 現代有機化学 (第 6 版) 上・下 (古賀憲司ら監訳) 化学同人

指定参考書

スタンダード薬学シリーズⅡ 3 (日本薬学会編) 「化学系薬学 I. 化学物質の性質と反応」東京化学同人

ブルース 有機化学 (第 7 版) 上・下 (大船泰史ら監訳) 化学同人

ソロモンの新有機化学 (第 11 版) 上・下 (池田正澄ら監訳) 廣川書店

オフィスアワー

質問は随時受け付けます。

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

構造解析学 I

2 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授 和田 昭盛
准教授 竹内 敦子
講師 都出 千里

一般目標(GIO)

代表的な機器分析としての核磁気共鳴 (NMR)、赤外吸収 (IR)、質量分析による構造決定法の基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 質量分析法の原理および応用例を説明できる。
2. マススペクトルより得られる情報を概説できる。
3. 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)
4. ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。
5. 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)
6. 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。
7. IR スペクトルより得られる情報を概説できる。
8. IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)
9. 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。
10. 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。
11. ^1H および ^{13}C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。
12. 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。
13. ^1H NMR の積分値の意味を説明できる。
14. ^1H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。
15. 代表的化合物の部分構造を ^1H NMR から決定できる。(技能)
16. 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)

準備学習(予習・復習等)

実際の各種スペクトルを見ながら構造解析をやってみることが肝要である。
質問は 1 号館 5 階生命有機化学研究室または、10 号館 2 階中央分析室。
随時受け付ける。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	竹内 敦子	質量分析 1	質量分析法の原理及びイオン化法	C2(4)-③-1 C3(4)-③-2
第2回	竹内 敦子	質量分析 2	マススペクトルの概要と解析法	C3(4)-③-1,3,4
第3回	竹内 敦子	質量分析 3	質量分析法を用いる応用例	C2(4)-③-1
第4回	都出 千里	磁気共鳴スペクトル 1	^1H NMR スペクトルの解析法 1	C3(4)-①-1 ~ 5
第5回	都出 千里	磁気共鳴スペクトル 2	NMR および ESR スペクトル測定法の原理と得られるパラメータ	C1(1)-③-3 C2(4)-②-1 C3(4)-①-1
第6回	都出 千里	磁気共鳴スペクトル 3	NMR 化学シフトと結合定数	C3(4)-①-2,3,4
第7回	都出 千里	磁気共鳴スペクトル 4	NMR 緩和時間と NOE および生体分子解析への応用	C3(4)-①-1
第8回	都出 千里	磁気共鳴スペクトル 5	^1H NMR スペクトルの解析法 2 および ^{13}C NMR スペクトルの解析法	C2(4)-②-1 C3(4)-①-5
第9回	和田 昭盛	IR スペクトル	IR スペクトルの原理と概要および解析法	C2(4)-①-3 C3(4)-②-1,2
第10回	和田 昭盛	総合演習 1	各種スペクトルからの構造解析 1	C3(4)-④-1
第11回	和田 昭盛	総合演習 2	各種スペクトルからの構造解析 2	C3(4)-④-1
第12回	和田 昭盛	総合演習 3	各種スペクトルからの構造解析 3	C3(4)-④-1

成績評価方法

定期試験およびレポートによって総合的に評価する。

教科書

薬学機器分析 (和田昭盛ら著) 廣川書店
基礎から学ぶスペクトル解析 (和田昭盛) 廣川書店

指定参考書

スタンダード薬学シリーズ2 (日本薬学会編)
[物理系薬学 III. 生体分子・化学物質の構造決定]
有機化合物のスペクトルによる同定法 (第7版) (荒木峻ら訳) 東京化学同人
ポルハルト・ショアー現代有機化学 (第6版) 上・下 (古賀憲司ら監訳) 化学同人

オフィスアワー

随時

生薬化学

2 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 准教授 土反 伸和
講師 西山 由美

一般目標(GIO)

自然界に存在する物質を医薬品として利用するために、代表的な天然物質の基原、特色、臨床応用、また生薬などに含有される成分の単離、構造、物性、作用、生合成系等についての基本的知識と、それらを活用するための基本的技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。
2. 代表的な生薬の確認試験、純度試験を説明できる。
3. 代表的な生薬成分を化学構造から分類できる。
4. 代表的な生薬成分の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。
5. 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。
6. 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。
7. 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法、天然有機化合物の構造決定法について概説できる。
8. 微生物由来の医薬品について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

天然物化学は、有機、分析、生化学、薬理学などを基盤にした総合科学である。従って、講義した化合物については、上記科目とリンクさせて覚えて欲しい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	土反 伸和	天然物と医薬品開発、その生合成について 日本薬局方の生薬総則、生薬試験法 生薬の確認試験、純度試験	医薬品として使われている天然有機化合物、及びそれらの生合成経路を学ぶ 日本薬局方の生薬総則、生薬試験法について学ぶ 代表的な生薬の確認試験、純度試験について学ぶ	C5(1)-①-1 C5(1)-④-1 C5(1)-④-2 C5(1)-④-4 C5(1)-④-5 C5(2)-①-1 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2
第2回	土反 伸和	脂肪酸とポリケチド	代表的なポリケチド化合物の構造と生合成経路、その基原植物を学ぶ	C5(1)-①-1 C5(2)-①-2 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2
第3回	土反 伸和	芳香族化合物 1	代表的なフェニルプロパノイド化合物の構造と生合成経路、その基原植物を学ぶ	C5(1)-①-1 C5(2)-①-3 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2
第4回	土反 伸和	芳香族化合物 2	代表的なフラボノイド化合物の構造と生合成経路、その基原植物を学ぶ	C5(1)-①-1 C5(2)-①-3 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2
第5回	土反 伸和	テルペノイドとステロイド 1	代表的なテルペノイド化合物の構造と生合成経路を学ぶ	C5(1)-①-1 C5(2)-①-4 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2
第6回	土反 伸和	テルペノイドとステロイド 2	モノテルペンやジテルペンなどの生合成と基原植物を学ぶ	C5(1)-①-1 C5(2)-①-4 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2
第7回	西山 由美	アルカロイド化合物 1	代表的なアルカロイド化合物の構造と生合成経路、その基原植物を学ぶ (アルカロイドについて、脂肪酸アミノ酸由来のアルカロイド)	C5(1)-①-1 C5(2)-①-5 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2
第8回	西山 由美	アルカロイド化合物 2	代表的なアルカロイド化合物の構造と生合成経路、その基原植物を学ぶ (チロシン由来のアルカロイド、トリプトファン由来のアルカロイド)	C5(1)-①-1 C5(2)-①-5 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2
第9回	西山 由美	アルカロイド化合物 3	代表的なアルカロイド化合物の構造と生合成経路、その基原植物を学ぶ (その他のアルカロイド、ペプチド、アミノ酸およびアミノ酸誘導体)	C5(1)-①-1 C5(2)-①-5 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2

基礎
教育

教育
養

教専
門

基礎
教育

教育
養

教専
門

基礎
教育

専
門
教育

第10回	西山 由美	天然物由来の医薬品等 1	天然の農薬・化粧品・色素、微生物由来の抗生物質等を学ぶ	C5(1)-①-1 C5(2)-②-1 C5(2)-②-2 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2 C5(2)-④-3
第11回	西山 由美	天然物由来の医薬品等 2	医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体の薬理作用とその用途について	C5(1)-①-1 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2
第12回	西山 由美	天然物質の取り扱い	天然物質の代表的な抽出法、分離精製法、構造決定法について学ぶ	C5(1)-①-1 C5(2)-③-1 C5(2)-④-1 C5(2)-④-2

成績評価方法

定期試験 (90 %)、小テスト・レポート (10 %)

教科書

パートナー天然物化学 改訂第2版 (南江堂)

指定参考書

パートナー生薬学 改訂第2版 (南江堂)、カラーグラフィックス 薬用植物 第4版 (廣川書店)
生薬単 (NTS)、第十六改正日本薬局方解説書 (廣川書店)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専
門
育

基礎
教育

教育
養

専
門
育

基礎
教育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

生化学Ⅲ

2 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授
講師

北川 裕之
三上 雅久

一般目標(GIO)

生体エネルギーの産生、貯蔵、利用、およびこれらを担う糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝に関する基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs)

1. エネルギー代謝の概要を説明できる。
2. 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。
3. クエン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。
4. 電子伝達系 (酸化リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。
5. グリコーゲンの代謝について説明できる。
6. 糖新生について説明できる。
7. 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。
8. 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。
9. ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。
10. ペントースリン酸回路について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

教科書を中心とした講義を行うので、授業中に重要と言った部分に線を引き、その部分を必ず復習すること (30 分程度)。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	三上 雅久	エネルギー代謝の概要	エネルギーの産生 ATP の産生	C6(5)-①-1
第2回	三上 雅久	糖質代謝	解糖系および乳酸の生成①	C6(5)-②-1
第3回	三上 雅久	糖質代謝	解糖系および乳酸の生成②	C6(5)-②-1
第4回	三上 雅久	糖質代謝	クエン酸サイクル	C6(5)-②-2
第5回	三上 雅久	糖質代謝	電子伝達系 (酸化リン酸化) ATP 合成酵素	C6(5)-②-3
第6回	三上 雅久	糖質代謝	ペントースリン酸回路	C6(5)-⑤-3
第7回	北川 裕之	糖質代謝	グリコーゲンの合成と分解①	C6(5)-②-4
第8回	北川 裕之	糖質代謝	グリコーゲンの合成と分解② 糖新生①	C6(5)-②-4 C6(5)-②-5
第9回	北川 裕之	糖質代謝	糖新生②	C6(5)-②-5
第10回	北川 裕之	糖質代謝	飢餓状態のエネルギー代謝	C6(5)-④-1
第11回	北川 裕之	糖質代謝	血糖変動とホルモン調節	C6(5)-④-2
第12回	北川 裕之	その他の代謝系	ヌクレオチドの生合成と分解	C6(5)-⑤-2

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

NEW 生化学 第2版 (廣川書店)

指定参考書

スタンダード薬学シリーズⅡ 4 生物系薬学Ⅰ. 生命現象の基礎 (東京化学同人)
ヴォートの生化学 (東京化学同人)
ビジュアルワイド図説生物 (東京書籍)

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

分子生物学 I

2 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 教授

北川 裕之

一般目標(GIO)

生命情報を担う遺伝子の構造、性質、複製、発現と、それらの制御に関する基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs)

1. ヌクレオチドと核酸 (DNA、RNA) の種類、構造、性質を説明できる。
2. 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。
3. 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。
4. 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる
5. RNA の種類 (hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。
6. DNA から RNA への転写の過程について説明できる。
7. RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。
8. DNA の複製の過程と修復について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

教科書を中心とした講義を行うので、授業中に重要と言った部分に線を引き、その部分を必ず復習すること (30 分程度)。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	北川 裕之	核酸とその構成成分	核酸の構成成分とヌクレオチド関連化合物	C6(2)-⑤-1
第2回	北川 裕之	核酸とその構成成分	DNA の構造	C6(2)-⑤-1
第3回	北川 裕之	核酸とその構成成分	RNA の構造と種類	C6(2)-⑤-1 C6(4)-②-3
第4回	北川 裕之	核酸とその構成成分	核酸の性質と構造変化	C6(2)-⑤-1
第5回	北川 裕之	遺伝子と染色体	遺伝子の本体、遺伝情報の流れ	C6(4)-①-1 C6(4)-①-2 C7(1)-①-1
第6回	北川 裕之	遺伝子と染色体	DNA の超らせん化、染色体とクロマチン	C6(4)-②-1 C6(4)-④-2
第7回	北川 裕之	遺伝子と染色体	ゲノムの構造	C6(4)-②-1 C6(4)-②-2
第8回	北川 裕之	DNA の代謝	DNA 複製 (半保存的複製、複製フォーク)	C6(4)-③-1
第9回	北川 裕之	DNA の代謝	DNA 複製の開始、伸長、終結、および細胞周期	C6(4)-③-1 C6(7)-①-1
第10回	北川 裕之	DNA の代謝	DNA 修復と DNA 組換え	C6(4)-⑤-1
第11回	北川 裕之	遺伝子発現	DNA から RNA への転写	C6(4)-④-1 C6(4)-④-2 C6(4)-④-3
第12回	北川 裕之	遺伝子発現	転写の調節と RNA プロセッシング RNA からタンパク質への翻訳	C6(4)-④-4 C6(4)-④-5

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

NEW 生化学 第2版 (廣川書店)

指定参考書

スタンダード薬学シリーズ 4 生物系薬学 II (東京化学同人)
Essential 細胞生物学 (南江堂)
ビジュアルワイド図説生物 (東京書籍)

オフィスアワー

質問は随時受け付けます。

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

微生物学Ⅱ

2年次

前期 必修 1単位

担当教員名 教授

小西 守周

一般目標(GIO)

病原微生物に対しては、適切かつ効率的な治療法の開発、選択が必要とされる。微生物学Ⅱでは、微生物学Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、細菌の持つ毒素、細菌の多様性を生む遺伝子伝達や、個々の微生物の特徴、関連する疾患について理解することを目標とする。

到達目標(SBOs)

1. 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。
2. 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。
3. 代表的な細菌毒素について説明できる。
4. DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど）について概説できる。
5. RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。
6. グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など）について概説できる。
7. グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。
8. グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。
9. 抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。
10. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。
11. 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。

準備学習(予習・復習等)

微生物が起こす疾病を理解するためには、各微生物に対する知識が必要となる。その知識が治療法の選択、開発へと繋がる。微生物学Ⅱは最終的に治療へと結びつく重要な講義であることを理解し、毎回、30分程度であっても、復習することにより確実に知識を習得していくことが望まれる。

短い時間であるため、各微生物における重要な項目を選択して講義する。したがって、講義で触れられなかった部分に関しては、自ら知識を拡充していくことを推奨する。

質問は2号館3階の微生物化学研究室まで。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小西 守周	細菌毒素	代表的な細菌毒素の作用	C8-(3)-②-6
第2回	小西 守周	細菌の遺伝子伝達と薬剤耐性機構 その1	接合、形質転換、形質導入(1)と薬剤耐性機構	C8-(3)-②-4,5
第3回	小西 守周	細菌の遺伝子伝達と薬剤耐性機構 その2	接合、形質転換、形質導入(2)と薬剤耐性機構	C8-(3)-②-4,5
第4回	小西 守周	グラム陽性菌 その1	グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)	C8-(4)-②-3
第5回	小西 守周	グラム陽性菌 その2	有芽胞グラム陽性桿菌(破傷風菌、ボツリヌス菌など)	C8-(4)-②-3
第6回	小西 守周	グラム陽性菌 その3	グラム陽性桿菌(ジフテリア菌、結核菌など)、抗酸菌	C8-(4)-②-3,6
第7回	小西 守周	グラム陰性菌 その1	グラム陰性球菌(淋菌)グラム陰性桿菌(緑膿菌、大腸菌など)	C8-(4)-②-4
第8回	小西 守周	グラム陰性菌 その2	グラム陰性桿菌(コレラ菌など)とグラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ菌など)	C8-(4)-②-4,5
第9回	小西 守周	スピロヘータなど	スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、プリオンなど	C8-(4)-②-5,7
第10回	小西 守周	真菌による感染症	病原性真菌の各論	C8-(4)-②-8
第11回	小西 守周	DNA ウイルス各論	単純ヘルペスウイルスとB型肝炎ウイルスなど	C8-(4)-②-1
第12回	小西 守周	RNA ウイルス各論	C型肝炎ウイルスとインフルエンザウイルスなど	C8-(4)-②-2

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

薬学領域の微生物学・免疫学第2版(廣川書店)

指定参考書

ポイントがわかる薬科微生物学第2版(京都廣川書店)

オフィスアワー

必要に応じて開催する可能性がある。質問は2号館3階微生物化学研究室にて対応する。

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

免疫学

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 教授

小西 守周

一般目標(GIO)

感染性の疾病などの予防および治療に関しては、免疫による生体防御機構が重要な役割を果たす。さらには、免疫異常による疾患の理解や、生体移植といった治療法にも、免疫の基礎が必須となる。そこで、免疫学では、免疫に関する基礎的な知識の習得を目標とする。また、この免疫のシステムが破綻したときに起こる病態について理解することを目標とする。

到達目標(SBOs)

1. 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。
2. 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。
3. 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。
4. 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。
5. 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。
6. 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。
7. 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。
8. 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。
9. MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。
10. T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。
11. 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。
12. 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。
13. 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。
14. アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。
15. 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。
16. 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。
17. 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。
18. 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

近年医学薬学領域において、免疫学の重要性が高まってきている。この免疫学を理解するためには、生物学、生化学、分子生物学、微生物学の知識が必要である。したがって、以上の講義内容について充分理解してから免疫学の講義に臨むこと。毎回の免疫学の講義では、個体で起こる免疫反応の一部を説明することになる。新しく習得した知識と、それまでに習っていた知識との繋がりを意識しながら復習すると理解がしやすくなると思われる。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小西 守周	免疫学の概論	異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーと自然免疫と獲得免疫の特徴とその違い	C8-(1)-①-1,2,3 C8-(1)-③-1
第2回	小西 守周	免疫担当細胞と組織について	免疫に関与する組織と細胞	C8-(1)-②-1,2
第3回	小西 守周	免疫のしくみ その1	体液性免疫と細胞性免疫の比較	C8-(1)-①-4 C8-(1)-②-2
第4回	小西 守周	免疫のしくみ その2	食細胞が免疫機構で果たす役割	C8-(1)-①-3 C8-(1)-②-2
第5回	小西 守周	免疫のしくみ その3	抗体分子の種類、構造、役割、その多様性を生み出す機構	C8-(1)-③-3,4
第6回	小西 守周	免疫のしくみ その4	補体について、その活性化経路と機能	C8-(1)-①-1 C8-(2)-②-1,2,3
第7回	小西 守周	免疫における細胞間の相互作用	免疫反応におけるおもな細胞間ネットワークとその情報伝達のメカニズムについて	C8-(1)-②-3 C8-(1)-③-5
第8回	小西 守周	アレルギー	アレルギーにおける担当細胞および反応機構	C8-(2)-①-2
第9回	小西 守周	自己免疫疾患と免疫不全症候群	代表的な自己免疫疾患と免疫不全症候群の特徴と成因について	C8-(2)-①-3 C8-(4)-②-2
第10回	小西 守周	炎症	炎症の一般的性状、担当細胞および反応機構について	C8-(2)-①-1
第11回	小西 守周	移植、感染と免疫	臓器移植と免疫反応のかかわり（拒絶反応、免疫抑制薬など）、あるいは感染症と免疫の関わり	C8-(2)-①-4,5 C8-(2)-③-2
第12回	小西 守周	腫瘍と免疫	腫瘍排除に関与する免疫反応	C8-(2)-①-6

成績評価方法

定期試験 (100点)

教科書

講義にはプリントを使用。

指定参考書

日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズ 生物系薬学 Ⅲ. 生体防御 (東京化学同人)
薬学領域の微生物学・免疫学第2版 (廣川書店)

オフィスアワー

必要に応じて開催する可能性がある。質問は2号館3階微生物化学研究室にて対応する。

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

衛生薬学 I

2 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 教授

長谷川 潤

一般目標(GIO)

食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs)

【栄養】

1. 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。
2. 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。
3. 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。
4. 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。
5. エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。
6. 日本人の食事摂取基準について説明できる。
7. 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。
8. 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。

【食品機能と食品衛生】

1. 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。
2. 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）
3. 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。
4. 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。
5. 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。
6. 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。
7. 食品衛生に関する法的規制について説明できる

【食中毒と食品汚染】

1. 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。
2. 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。
3. 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

講義前に講義予定範囲の教科書を一通り読み、講義日には配布プリントを活用しながら復習ノートを作成しましょう（30分）。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	長谷川 潤	栄養素とは	栄養素の役割と消化・吸収機構	D1-(3)-①-1,2
第2回	長谷川 潤	糖質、脂質の栄養学的意義	糖質および脂質の代謝と栄養学的意義。血漿リポタンパク質の種類と役割。	C6-(2)-⑧-1 D1-(3)-①-1,2,3
第3回	長谷川 潤	タンパク質の栄養学的意義と栄養価の評価	タンパク質の代謝と栄養学的意義。食品中タンパク質の栄養価（生物価、アミノ酸スコア）の評価。	C6-(2)-⑧-1 D1-(3)-①-1,2,3
第4回	長谷川 潤	ミネラル・食物繊維	ミネラルと食物繊維の生体内での役割	C6-(2)-⑦-1 D1-(3)-①-1,2,4
第5回	長谷川 潤	脂溶性ビタミン	脂溶性ビタミンの生体内での役割と作用機構	C6-(2)-⑥-1 D1-(3)-①-1,2
第6回	長谷川 潤	水溶性ビタミン	水溶性ビタミンの生体内での役割と作用機構	C6-(2)-⑥-1 D1-(3)-①-1,2
第7回	長谷川 潤	エネルギー代謝	栄養素のエネルギー、呼吸商、エネルギー測定法、基礎代謝量	D1-(3)-①-5
第8回	長谷川 潤	食事摂取基準、栄養と疾病	エネルギーおよび栄養素の摂取基準。日本における栄養摂取の現状と問題点。栄養と疾病の関連	D1-(3)-①-6,7,8
第9回	長谷川 潤	食品の腐敗と保存	食品の腐敗によって生成する成分。油脂の変敗機構とその指標。食品の保存方法	D1-(3)-②-1,2,3,4
第10回	長谷川 潤	食品添加物、食品衛生	食品添加物。保健機能食品、特別用途食品。食品衛生に関する法的規制	D1-(3)-②-4,5,6,7
第11回	長谷川 潤	細菌性・ウイルス性食中毒	細菌性・ウイルス性食中毒の原因となる微生物の性質、症状、原因食品	D1-(3)-③-1,3
第12回	長谷川 潤	自然毒食中毒	自然毒食中毒の原因物質や作用機構と症状 化学物質による食品汚染例と健康への影響	D1-(3)-③-2,3

成績評価方法

定期試験（100点）

教科書

New 衛生薬学 (岡野登志夫、山崎裕康編、廣川書店)
衛生薬学サブノート (岡野登志夫他、廣川書店)

指定参考書

スタンダード薬学シリーズ (日本薬学会編) 第5巻「健康と環境」東京化学同人、
国民衛生の動向 2014/2015 (厚生統計協会)、
国民健康・栄養の現状 平成22年厚生労働省国民健康・栄養調査結果 (第一出版)

オフィスアワー

随時

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

環境衛生学

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 特別教授 岡野 登志夫

一般目標(GIO)

生態系や生活環境を保全、維持するために、それらに影響を及ぼす自然現象、人為的活動を理解し、環境汚染物質などの成因、人体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的知識と技能を習得し、環境の改善に向かって努力する態度を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 地球環境の成り立ち、生態系の構成と特徴、化学物質の環境内動態について概説できる。
2. 水の浄化と消毒、水道水の水質試験法と水質基準について説明できる。
3. 下水処理および水質汚濁物質の測定法と環境基準・排水基準について説明できる。
4. 主な大気汚染物質の成因、測定法、健康影響と環境基準・排出基準について説明できる。
5. 電離放射線と非電離放射線の種類と特徴、生体への影響について説明できる。
6. 室内環境および室内汚染物質の測定法と健康影響について説明できる。
7. 廃棄物の処理法、地球環境破壊、環境保全対策と法的規制について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

環境衛生学は、生態系を構成する生物集団(生物圏)と地圏・水圏・気圏からなる非生物環境(非生物圏)との相互作用と保全に関わる学問である。その領域は多岐にわたり、かつ時代とともに拡大し複雑化していくため、教科書に書かれていることがすべてではないことに留意すべきである。講義予定範囲の項目と内容について予習(30分程度)し、講義に臨むことを推奨する。講義終了後は配布プリントを活用し、講義内容を体系的に纏めながら復習(30分程度)することを希望する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	岡野 登志夫	地球環境と生態系	地球環境の成り立ち、生態系の構成員(独立栄養生物・従属栄養生物)、炭素・窒素循環、生分解	D2-(2)-①-1,2
第2回	岡野 登志夫	化学物質の環境内動態	食物連鎖と生物濃縮、化学物質の環境内動態、残留性有機汚染物質(POPs)、非意図的生成物、化審法、ダイオキシン類対策特別措置法、農薬取締法、環境基本法	D2-(2)-①-3~5 D2-(2)-②-1~3
第3回	岡野 登志夫	水環境Ⅰ. 水の衛生	水道事業、水道原水の種類と特徴、水の浄化法と消毒法、消毒基準、塩素処理の問題点	D2-(2)-③-1,2
第4回	岡野 登志夫	水環境Ⅱ. 水道水の水質基準と試験法	水道水の水質試験法、水質基準項目と水質管理目標設定項目	D2-(2)-③-3
第5回	岡野 登志夫	水環境Ⅲ. 下水処理と排水処理	下水処理、浮遊生物法と生物膜法、活性汚泥法、オキシデーションディッチ法、散水ろ床法、接触曝気法、汚泥消化法、脱窒・脱リン、産業・実験室排水の処理法	D2-(2)-③-4
第6回	岡野 登志夫	水環境Ⅳ. 水質汚濁と富栄養化	主な水質汚濁指標(溶存酸素、生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量など)の測定法と環境基準・排水基準、富栄養化の原因・問題点と防止対策	D2-(2)-③-5,6
第7回	岡野 登志夫	大気環境Ⅰ. 大気汚染物質と健康影響	大気の組成、主な大気汚染物質の種類と特徴、発生源、健康影響、気象要因(逆転層)	D2-(2)-④-1,3
第8回	岡野 登志夫	大気環境Ⅱ. 大気汚染物質の測定法と大気汚染防止対策	主な大気汚染物質(硫黄酸化物、窒素酸化物、オキシダント、浮遊粒子状物質など)の測定法、環境基準、排出基準と総量規制、排煙処理法、常時監視と緊急時の措置	D2-(2)-④-2
第9回	岡野 登志夫	室内環境	室内環境の主な評価基準項目(感覚温度、炭酸ガス濃度、じんあい濃度など)の測定法、必要換気量と換気回数、化学物質の室内濃度指標値、シックハウス症候群	D2-(2)-⑤-1,2
第10回	岡野 登志夫	廃棄物	廃棄物の種類と処理法、不法投棄、最終処分場、マニフェスト制度、PRTR法(化管法)、PRTR制度とSDS制度、リサイクル関連法規、現状と問題点	D2-(2)-⑤-1,2 D2-(2)-⑥-1~3
第11回	岡野 登志夫	環境保全と法的規制	環境基本法の理念と環境基準、典型七公害、四大公害事例、オゾン層破壊、酸性雨、地球温暖化、海洋汚染、地球環境保全に関する国際的取り組み	D2-(2)-①-1,4,5
第12回	岡野 登志夫	電離放射線と非電離放射線	非電離放射線の種類、性質および生体影響、電離放射線の種類、性質、生体影響、防御方法および医療への応用	D2-(1)-④-1~4

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

New 衛生薬学(岡野登志夫、山崎裕康編、廣川書店)、衛生薬学サブノート(岡野登志夫他、廣川書店)

指定参考書

衛生試験法・注解 2015
衛生試験法・要説 2005
国民衛生の動向 2015/2016 (厚生労働統計協会)
スタンダード薬学シリーズII -5『健康と環境』(日本薬学会編) 東京化学同人

オフィスアワー

質問は随時受け付けます。

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

教基
育礎

教教
育養

**教專
育門**

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

薬理学 I

2年次

前期 必修 1単位

担当教員名 講師

八巻 耕也

一般目標(GIO)

薬物が生体に与える効果について、理論的に考察できるようになるために、体内で薬物と生体内分子がどのように関わりあい、作用を示すのか学ぶ。

到達目標(SBOs)

1. 薬物の用量と作用の関係、主作用、副作用、有害作用、毒性について説明できる。
2. アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。
3. 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、およびチャネルを例に挙げて説明できる。
4. 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。
5. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。
6. 薬効に個人差が生じる理由、薬物相互作用、薬物依存性について説明できる。
7. 自律神経系、運動神経系、神経節に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。
8. 局所麻酔薬について説明できる。
9. 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

予習よりも復習を勧めます。

薬理学 I は、教科書 最新薬理学の1から134ページまでの講義です。

予習するのであれば、その内容を予習してください。

復習についてですが、授業では、主にプリントを使います。

プリントで受けた講義内容を、教科書 最新薬理学を使って復習してください。

薬がなぜ効くのか理解するために必要な基礎的知識を習得する科目です。

他の科目の内容を理解する上でも必要な知識ですので、2年次の間に内容を理解してください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	八巻 耕也	薬理学総論 I	受容体と細胞内情報伝達、薬物の用量と作用	E1(1)-①-1 E1(1)-①-2 E1(1)-①-3 E1(1)-①-4 E1(1)-①-5
第2回	八巻 耕也	薬理学総論 II	薬効に関与する因子	E1(1)-①-6 E1(1)-①-7 E1(1)-①-8 E1(1)-①-9
第3回	八巻 耕也	神経伝達	神経の一般的伝達機構とその機能	E2(1)-①-1 E2(1)-①-2 E2(1)-①-3 E2(1)-②-1 E2(1)-②-2 E2(1)-②-4
第4回	八巻 耕也	生理活性物質 I	アセチルコリン	E2(1)-①-1 E2(1)-①-2 E2(1)-①-3 E2(1)-②-1 E2(1)-②-2 E2(1)-②-4
第5回	八巻 耕也	生理活性物質 II	カテコールアミン	E2(1)-①-1 E2(1)-①-2 E2(1)-①-3 E2(1)-②-1 E2(1)-②-2 E2(1)-②-4
第6回	八巻 耕也	生理活性物質 III	その他の生理活性物質	E2(1)-①-1 E2(1)-①-2 E2(1)-①-3 E2(1)-②-1 E2(1)-②-2 E2(1)-②-4
第7回	八巻 耕也	アドレナリン α 、 β 受容体作動薬	アドレナリン α および β 受容体作動薬の薬理作用、作用機序、副作用	E2(1)-①-1

第8回	八巻 耕也	アドレナリン α 、 β 受容体遮断薬 アドレナリン作動性神経遮断薬	アドレナリン α および β 受容体遮断薬の薬理作用、作用機序、副作用 アドレナリン作動性神経遮断薬の薬理作用、作用機序、副作用	E2(1)-①-1
第9回	八巻 耕也	コリン作動薬 抗コリン薬	コリン作動薬の薬理作用、作用機序、副作用 抗コリン薬の薬理作用、作用機序、副作用	E2(1)-①-2
第10回	八巻 耕也	自律神経節に作用する薬物	自律神経節に作用する薬物の薬理作用、作用機序、副作用	E2(1)-①-3
第11回	八巻 耕也	神経筋接合部に作用する薬物	神経筋接合部に作用する薬物の薬理作用、作用機序、副作用	E2(1)-②-2
第12回	八巻 耕也	局所麻酔薬 日本薬局方収載の生物学的定量法	局所麻酔薬の薬理作用、作用機序、副作用 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴	E2(1)-②-1 E1(1)-③-1

成績評価方法

定期試験 100点

教科書

最新薬理学 (廣川書店)

指定参考書

グッドマン・ギルマン 薬理書 (廣川書店)
NEW薬理学 (南江堂)

オフィスアワー

年1回、質問を受け付けるオフィスアワーを設けます。

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

専門教育

専門教育

専門教育

薬理学Ⅱ

2年次

後期 必修 1単位

担当教員名 准教授

水谷 暢明

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

一般目標(GIO)

中枢神経系、循環器系、泌尿器・生殖器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する

到達目標(SBOs)

1. 中枢神経系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
2. 循環器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
3. 血液・造血器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
4. 泌尿器系、生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

シラバスを読み、予め講義の内容を教科書や配布プリントなどで確認しておくこと。復習は、正誤問題および記述問題をやって理解を深めておくこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	水谷 暢明	統合失調症に用いる薬物	統合失調症治療薬の薬理作用、機序、副作用	E2(1)-③-4
第2回	水谷 暢明	うつ病、躁うつ病、不安神経症に用いる薬物	うつ病、躁うつ病、不安神経症治療薬の薬理作用、機序、副作用	E2(1)-③-5,6
第3回	水谷 暢明	てんかん、脳血管疾患、パーキンソン病、アルツハイマー病、片頭痛に用いる薬物	てんかん、脳血管疾患、パーキンソン病、アルツハイマー病、片頭痛治療薬の薬理作用、機序、副作用	E2(1)-③-3,7,8,9,10,11
第4回	水谷 暢明	催眠・麻酔に用いる薬物	催眠薬・全身麻酔薬の薬理作用、機序、副作用	E2(1)-③-1
第5回	水谷 暢明	疼痛に用いる薬物	麻薬性鎮痛薬の薬理作用、機序、副作用	E2(1)-③-2
第6回	水谷 暢明	不整脈に用いる薬物	抗不整脈薬の薬理作用、機序、副作用	E2(3)-①-1 E2(3)-④-1
第7回	水谷 暢明	心不全に用いる薬物	心不全治療薬の薬理作用、機序、副作用	E2(3)-①-2 E2(3)-④-1
第8回	水谷 暢明	虚血性心疾患に用いる薬物	狭心症治療薬の薬理作用、機序、副作用	E2(3)-①-3 E2(3)-④-1
第9回	水谷 暢明	高血圧症に用いる薬物	高血圧症治療薬の薬理作用、機序、副作用	E2(3)-①-4 E2(3)-④-1
第10回	水谷 暢明	血栓症に用いる薬物	血栓症治療薬の薬理作用、機序、副作用	E2(3)-②-1,2
第11回	水谷 暢明	貧血に用いる薬物	貧血治療薬の薬理作用、機序、副作用	E2(3)-②-3,4,5
第12回	水谷 暢明	泌尿器系、生殖器系に作用する薬物	利尿薬、子宮筋に作用する薬物の薬理作用、機序、副作用	E2(3)-③-1,2,3,4,5,6,7 E2(3)-④-1

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

最新薬理学 廣川書店

指定参考書

グッドマン・ギルマン薬理書、高折、福田、藤原、大森、高木、上條 監訳、廣川書店

オフィスアワー

随時

感染制御学 I

2 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 講師

児玉 典子

一般目標(GIO)

病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫・寄生虫）に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析及び医薬品の適正使用に関する基本事項を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 病原微生物に対する化学療法薬（抗生物質や生物学的製剤等）の基本概念について説明できる。
2. 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
3. 代表的な抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適応を説明できる。
4. 主な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。
5. 代表的な薬剤耐性菌による院内感染について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
6. 代表的な細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
7. 代表的なウイルス感染症について、治療薬の薬理、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
8. 代表的な真菌感染症について、治療薬の薬理、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
9. 代表的な原虫・寄生虫感染症について、治療薬の薬理、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

- ・予習（授業をうける前に教科書や配布資料を読んで、わからないところや重要箇所を抜き出しておくこと。既修得科目である微生物学の内容を復習しておくこと。）
- ・復習（教科書や配布プリントの内容を理解し、表や図を含む自分のノートを作成しておくこと。）
- ・自主学習（基本的な重要単語及びその内容について、教科書及び配布資料などを読んで理解しておくこと。）

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	児玉 典子	微生物感染症に関する臨床検査 細菌感染症の薬	微生物検査（培養検査、遺伝子検査、血清検査等） 抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用	E1(2)-②-7 E2(7)-①-1
第2回	児玉 典子	細菌感染症の薬 生物学的製剤	抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用 代表的な生物学的製剤（ワクチン等）と作用機序	E2(7)-①-1 E2(7)-①-2
第3回	児玉 典子	抗菌薬の耐性	主要な耐性獲得機構および耐性菌出現への対応 薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態および薬物治療	E2(7)-②-1 E2(7)-③-9
第4回	児玉 典子	細菌感染症の病態、予防方法、薬物治療	呼吸器感染症、消化器感染症、感覚器感染症、尿路感染症、性感染症、脳炎、髄膜炎、皮膚細菌感染症、感染性心内膜炎、胸膜炎	E2(7)-③-1～8
第5回	児玉 典子	細菌感染症の病態、予防方法、薬物治療	呼吸器感染症、消化器感染症、感覚器感染症、尿路感染症、性感染症、脳炎、髄膜炎、皮膚細菌感染症、感染性心内膜炎、胸膜炎	E2(7)-③-1～8
第6回	児玉 典子	細菌感染症の病態、予防方法、薬物治療	呼吸器感染症、消化器感染症、感覚器感染症、尿路感染症、性感染症、脳炎、髄膜炎、皮膚細菌感染症、感染性心内膜炎、胸膜炎	E2(7)-③-1～8
第7回	児玉 典子	細菌感染症の病態、予防方法、薬物治療	全身性細菌感染症	E2(7)-③-10
第8回	児玉 典子	ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、予防方法、薬物治療	ヘルペスウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、インフルエンザ、ウイルス性肝炎、後天性免疫不全症候群(AIDS)、その他の感染症（プリオン病を含む）	E2(7)-④-1～6
第9回	児玉 典子	ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、予防方法、薬物治療	ヘルペスウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、インフルエンザ、ウイルス性肝炎、後天性免疫不全症候群(AIDS)、その他の感染症（プリオン病を含む）	E2(7)-④-1～6
第10回	児玉 典子	真菌感染症の薬	抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適応	E2(7)-⑤-1
第11回	児玉 典子	真菌感染症の病態、予防方法、薬物治療	皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコッカス症、その他の感染症	E2(7)-⑤-2
第12回	児玉 典子	原虫・寄生虫薬の薬 原虫・寄生虫感染症の病態、薬物治療	抗原虫・寄生虫薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適応 マラリア、トリコモナス症、回虫症、アニサキス症、その他の感染症	E2(7)-⑥-1 E2(7)-⑥-2

成績評価方法

定期試験（100%）

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

専門教育

専門教育

専門教育

教科書

- ・感染制御学授業テキスト（京都廣川書店）
- ・必要に応じてプリントの配布、スライドを用いた講義を行う。

指定参考書

- ・化学療法学、医療のあるべき姿を見据えて、—抗生物質最前線— 山口 明人著（京都廣川書店）
- ・スタンダード薬学シリーズ6 薬と疾病 III. 薬物治療（2）および薬物治療に役立つ情報（東京化学同人）

オフィスアワー

オフィスアワーは必要に応じて行う。

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

医薬品構造学

2 年次
後期 選択 1 単位

担当教員名 特別教授 宮田 興子
准教授 水谷 暢明

一般目標(GIO)

有機化学と薬理学の統合的な教育を目的に、中枢神経系疾患に使用される医薬品の構造から薬理作用を理解することを目標とする。

到達目標(SBOs)

1. 医薬品の構造からその物理的性質を説明できる。
2. 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。
3. 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。
4. 中枢神経系疾患治療薬の構造について説明できる。
5. 中枢神経系疾患治療薬の構造から薬理作用について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

医薬品の構造から薬理作用を理解するため、有機化学、薬理学の知識が必要である。
従って、有機化学、医薬品化学、薬理学もその都度復習しながら講義を聞くと理解しやすい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	宮田 興子	医薬品に含まれる官能基と複素環の性質について	医薬品に含まれている官能基のうち、酸性官能基、塩基性官能基について説明する。さらに、個々の複素環の化学的特徴を概説する。	C4-(3)-②-1; C4-(3)-③-3
第2回	宮田 興子	医薬品のファーマコフォア、バイオアイソスター、プロドラッグについて	ファーマコフォア、バイオアイソスター、プロドラッグについて説明する。	C4-(3)-②-2; C4-(3)-③-1; C4-(3)-③-2
第3回	水谷 暢明	精神疾患(統合失調症)について	統合失調症について、病態(病態生理、症状等)および治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)を説明する。	E2-(1)-③-4
第4回	水谷 暢明	精神疾患(うつ病)について	うつ病について、病態(病態生理、症状等)および治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)を説明する。	E2-(1)-③-5
第5回	水谷 暢明	精神疾患(不安神経症)について	不安神経症について、病態(病態生理、症状等)および治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)を説明する。	E2-(1)-③-6
第6回	宮田 興子	精神疾患治療薬の化学構造と性質について-1	精神疾患治療薬のうち、統合失調症の治療薬の構造的特徴を説明する。	E2-(1)-④-1
第7回	宮田 興子	精神疾患治療薬の化学構造と性質について-2	精神疾患治療薬のうち、うつ病の治療薬の構造的特徴を説明する。	E2-(1)-④-1
第8回	宮田 興子	精神疾患治療薬の化学構造と性質について-3	精神疾患治療薬のうち、不安神経症の治療薬の構造的特徴を説明する。	E2-(1)-④-1
第9回	水谷 暢明	パーキンソン病について-1	パーキンソン病について、病態(病態生理、症状等)を説明する。	E2-(1)-③-9
第10回	水谷 暢明	パーキンソン病について-2	パーキンソン病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)を説明する。	E2-(1)-③-9
第11回	宮田 興子	パーキンソン病治療薬の化学構造と性質について-1	パーキンソン病治療薬のうち、レボドパを中心とした治療薬の構造的特徴を説明する。	C4-(3)-⑤-1
第12回	宮田 興子	パーキンソン病治療薬の化学構造と性質について-2	パーキンソン病治療薬のうち、ドパミン受容体アゴニストとコリン作動性神経の活動抑制薬の構造的特徴を説明する。	E2-(1)-④-1

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

最新薬理学 廣川書店、
化学構造と薬理作用(第2版)(柴崎正勝ら監修) 廣川書店

指定参考書

グッドマン・ギルマン薬理学 廣川書店、
パートナー医薬品化学(改訂第2版)(佐野武弘ら編集) 南江堂
ポルハルト・ショアー現代有機化学(第6版) 上下(古賀憲司ら監訳) 化学同人
ブルース有機化学(第7版)(大船泰史ら監訳) 化学同人

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。

基
礎
教
育

教
育
養

教
専
門

基
礎
教
育

教
育
養

教
専
門

基
礎
教
育

基
礎
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

医療コミュニケーション演習

2年次
後期 必修 1単位

担当教員名 教授
准教授
講師

力武 良行
松家 次朗
中島 園美

一般目標(GIO)

将来の医療従事者として、患者及び患者の家族に対する援助的な態度を獲得するとともに、チーム医療において他の医療従事者と情報交換しながら協働関係を形成できる。

到達目標(SBOs)

1. 患者の心理的特徴に配慮した関わりができる。
2. 患者の家族に対してサポートティブな関わりができる。
3. 患者や他の医療従事者に対して専門的な内容をわかりやすい言葉で伝えることができる。
4. チーム医療において他の医療従事者の立場を理解しながら情報収集や情報を伝えることができる。
5. グループディスカッションにおいて、主体的かつ相手の状況、立場を考慮しながら自分の意見を伝えることができる。

準備学習(予習・復習等)

予習として、次回の授業の事例について自分の意見をまとめておく。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	ガイダンス	グループディスカッションについて	A-(1)-②-1 ④-4
第2回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	生活習慣病の事例によるグループディスカッション	グループディスカッションとグループでまとめた意見を発表	A-(1)-②-1.8 ③-7 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5
第3回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	小児患者の事例によるグループディスカッション	グループディスカッションとグループでまとめた意見を発表	A-(1)-②-1.8 ③-7 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5
第4回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	高齢者の事例によるグループディスカッション	グループディスカッションとグループでまとめた意見を発表	A-(1)-②-1.8 ③-7 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5
第5回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	精神疾患患者の事例によるグループディスカッション	グループディスカッションとグループでまとめた意見を発表	A-(1)-②-1.8 ③-7 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5
第6回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	妊婦授乳婦の事例によるグループディスカッション	グループディスカッションとグループでまとめた意見を発表	A-(1)-②-1.8 ③-7 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5
第7回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	がん患者の事例によるグループディスカッション	グループディスカッションとグループでまとめた意見を発表	A-(1)-②-1 ③-7 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5
第8回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	在宅患者の事例によるグループディスカッション	グループディスカッションとグループでまとめた意見を発表	A-(1)-②-1.8 ③-7 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5
第9回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	禁煙支援の事例によるグループディスカッション	グループディスカッションとグループでまとめた意見を発表	A-(1)-②-1.8 ③-7 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5
第10回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	うつの病の事例によるグループディスカッション	グループディスカッションとグループでまとめた意見を発表	A-(1)-②-1.8 ③-7 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5
第11回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	医療チームに関するグループディスカッション	グループディスカッションとグループでまとめた意見を発表	A-(1)-②-1.8 ③-7 ④-4 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5
第12回	力武 良行 松家 次朗 中島 園美	まとめ	まとめ	A-(1)-②-1.8 ③-7 ④-4 A-(5)-②-2 B-(1)-1～5

成績評価方法

態度及びレポートによって評価を行う。

態度についてはルーブリック型評価を行う

(態度)

- ・グループディスカッションで積極的に発言している
- ・グループディスカッションでの協調的な態度を取ることができている
- ・グループディスカッションに集中している
- ・グループディスカッションで他のメンバーの意見をしっかりと聞く態度を取ることができている
- ・他のメンバーの発言を引き出ししたり、求めたりしている
- ・他のメンバーで公平に接することができている
- ・リーダーシップ力（グループディスカッションの意見をまとめる力）を発揮できている（レポート）
- ・他のメンバーの意見を踏まえて、深く考察できている
- ・論理構成と書き方が適切（減点：誤字脱字、字が読みづらい、論旨が不明確、レポート量が少ない）
- ・毎回提出できている

教科書

必要に応じてプリント配布

指定参考書

特になし

オフィスアワー

演習の前後、または随時対応します。

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

物理化学実習

2 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授
講師

向 高弘
田中 将史

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標 (GIO)

生体分子や医薬品、放射性物質の物理化学的性質を調べる実験を通して、薬学における物理化学的思考や基本的実験手法を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 旋光度測定法や導電率測定法などの日本薬局方に記載されている物理化学的試験法について説明できる。
2. 表面張力、活性化エネルギーなどの測定原理や方法について説明できる。
3. 生体分子の立体構造や安定性、医薬品との相互作用について具体例を挙げて説明できる。
4. 放射線測定の原理と利用について概説できる。
5. 電離放射線を防御する方法について概説できる。

準備学習 (予習・復習等)

出席と実習態度を重要視しますので、無断欠席やふまじめな態度は厳禁です。
予習も大切ですので、実習テキストを前もって読んでくること。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	向 高弘 田中 将史	旋光度	旋光度測定によるショ糖加水分解反応の追跡	C1(3)-①-6
第2回	向 高弘 田中 将史	表面張力	SDS 水溶液の表面張力および導電率測定	C1(2)-⑥-3
第3回	向 高弘 田中 将史	薬物の膜結合性 1	生体膜モデル粒子 (リポソーム) の調製と濃度決定	C1(1)-②-7
第4回	向 高弘 田中 将史	薬物の膜結合性 2	生体膜モデル粒子 (リポソーム) への薬物の分配係数の決定	C1(2)-④-2
第5回	向 高弘 田中 将史	放射線の測定	GM 計数管による β 線の測定、計数の統計的変動の理解	C1-(1)-④-5
第6回	向 高弘 田中 将史	放射線防護	サーベイメータによる空間線量測定と汚染検査	C1-(1)-④-5 D2-(1)-④-3

成績評価方法

- ・レポート (50%)
- ・平常点 (50%) 配点内訳: 出席と受講 (実習) 態度で評価する。

教科書

物理化学実習テキスト (薬品物理化学研究室編)

指定参考書

- 製剤への物理化学 第2版 (廣川書店)
- 生体膜の動的構造 第2版 (東京大学出版会)
- 図解 放射性同位元素等取扱者必携 (オーム社)

オフィスアワー

随時

分析化学実習

2 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 小林 典裕
助教 大山 浩之

一般目標 (GIO)

医薬品の化学的および物理的定量分析に必要な基本的知識を修得し、試薬の取扱いや装置・器具の的確な操作法を身につける。

到達目標 (SBOs)

1. 酸塩基滴定の原理、操作法を修得する。
2. 酸化還元滴定の原理、操作法を修得する。
3. 代表的な日本薬局方収載医薬品の容量分析について説明できる。
4. 実験値を用いた計算および簡単な統計処理ができる。
5. 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、測定操作ができる。
6. 液体クロマトグラフィーの分離機構を説明し、化学物質の分離分析ができる。
7. 分析試料の適切な取り扱いと目的に即した前処理ができる。
8. 標準物質を用いた定量ができる。

準備学習 (予習・復習等)

安全が第一。必ず保護眼鏡を使用し慎重な動作を。説明に従った実験を機械的に行うにとどまらず、学習した理論の実践・検証の場であることが望まれます。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小林 典裕 大山 浩之	酸塩基滴定 1	塩酸標準液の調製と標定	C2(3)-②-1,5 C2(1)-①-1,2
第2回	小林 典裕 大山 浩之	酸塩基滴定 2	塩酸標準液による局方医薬品の定量	C2(3)-②-1,5 C2(1)-①-1,2
第3回	小林 典裕 大山 浩之	酸化還元滴定 1	チオ硫酸ナトリウム標準液の調製と標定	C2(3)-②-4,5 C2(1)-①-1,2
第4回	小林 典裕 大山 浩之	酸化還元滴定 2	チオ硫酸ナトリウム標準液による局方医薬品の定量	C2(3)-②-4,5 C2(1)-①-1,2
第5回	小林 典裕 大山 浩之	紫外可視吸光度測定法	局方医薬品の定量	C2(4)-①-1,6 C2(1)-①-1,2
第6回	小林 典裕 大山 浩之	液体クロマトグラフィー キレート滴定	分析試料の前処理と局方医薬品の定量 エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム標準液による局方医薬品の定量	C2(5)-①-5 C2(3)-②-2,5 C2(1)-①-1,2

成績評価方法

- ・レポート (40 点)
- ・平常点 (60 点) 配点内訳：出席と実習態度

教科書

分析化学実習書 (神戸薬科大学生命分析化学研究室編)

指定参考書

NEW 薬品分析化学 (小林典裕、藤井洋一編著、廣川書店)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

有機化学実習

2年次
前期 必修 1単位

担当教員名 教授 奥田 健介
准教授 竹仲 由希子
講師 西村 克己

基礎
教育

一般目標 (GIO)

簡単な有機化合物の合成、分離、精製、および同定法を修得する。

教育
養

到達目標 (SBOs)

1. 簡単なガラス細工を修得する。
2. 薄層クロマトグラフにより化合物を分析し、Rf 値の違いを試料の吸着力および移動層の溶離力より説明できる。
3. カラムクロマトグラフィーにより化合物を分離、精製できる。
4. 分液ロートを正しく使用できる。
5. 簡単な有機化合物を合成できる。
6. 吸引ろ過、自然ろ過法を修得する。
7. 融点の測定ができる。

専門
教育

基礎
教育

教育
養

準備学習 (予習・復習等)

「わかりやすい化学実験」などの参考書で、基本操作法を予習しておくとともに、有機化学の教科書で、反応機構なども予習、復習しておくこと。

専門
教育

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	奥田 健介 竹仲 由希子 西村 克己	ガラス細工 薄層クロマトグラフィー	実験に使用する簡単なガラス器具の製作 官能基の異なる芳香族化合物の分析	C3-(3)-①-2
第2回	奥田 健介 竹仲 由希子 西村 克己	フルオレノールの合成	フルオレノンからフルオレノールへの還元	C3-(3)-④-1
第3回	奥田 健介 竹仲 由希子 西村 克己	カラムクロマトグラフィー	フルオレノンとフルオレノールの分離	C2-(5)-①-5
第4回	奥田 健介 竹仲 由希子 西村 克己	安息香酸メチルの合成	安息香酸のメチル化	C3-(3)-④-2
第5回	奥田 健介 竹仲 由希子 西村 克己	3-ニトロ安息香酸メチルの合成	安息香酸メチルのニトロ化	C3-(2)-③-3
第6回	奥田 健介 竹仲 由希子 西村 克己	ジベンザルアセトンの合成	ベンズアルデヒドとアセトンのアルドール縮合	C3-(3)-④-1

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

成績評価方法

出席点 (60点)
平常点 (40点) 配点内訳: 課題プリント、レポート、実習態度など。

教科書

有機化学系I実習書 (薬化学研究室編)

指定参考書

「わかりやすい化学実験」(津波古充朝 他著) 廣川書店

オフィスアワー

随時

専門
教育

専門
教育

生薬学実習

2年次
後期 必修 1単位

担当教員名 准教授 士反 伸和
講師 西山 由美

一般目標(GIO)

- ・薬として用いられる生薬の基本的性質を理解するための基本的技能を修得する。
- ・医薬品開発における天然物の重要性と多様性を理解するための基本的技能を修得する。
- ・現代医療で使用される生薬・漢方薬について理解するための基本的技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。
2. 植物の主な内部形態について説明できる。
3. 代表的な生薬を鑑別できる。
4. 代表的な生薬の確認試験を実施できる。
5. 代表的な生薬の純度試験を実施できる。
6. 天然生物活性物質の代表的な抽出法・分離精製法を列挙し、実施できる。

準備学習(予習・復習等)

実習書をあらかじめ読んで、予習しておくこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	士反 伸和 西山 由美	キナ皮からキニーネの抽出と精製1	キナ(植物)からアルカロイドを抽出する。	C5(2)-③-1
第2回	士反 伸和 西山 由美	キナ皮からキニーネの抽出と精製2	アルカロイド抽出物からキニーネの単離・精製を行う。	C5(2)-③-1
第3回	士反 伸和 西山 由美	局方生薬の確認試験 局方生薬の純度試験	重要な局方生薬の確認試験を行う。 重要な局方生薬の純度試験を行う。	C5(1)-④-1 C5(1)-④-2 C5(1)-④-4 C5(1)-④-5
第4回	士反 伸和 西山 由美	局方生薬の確認試験 局方生薬の純度試験	重要な局方生薬の確認試験を行う。 重要な局方生薬の純度試験を行う。	C5(1)-④-1 C5(1)-④-2 C5(1)-④-4 C5(1)-④-5
第5回	士反 伸和 西山 由美	代表的な生薬の形態観察と鑑別1 重要な漢方処方調製1	重要な局方生薬の形態観察と鑑別を行う。 重要な局方収載の漢方処方を調製し、構成生薬を確認する。	C5(1)-①-2 C5(1)-①-3 C5(1)-④-3 C7(1)-③-4 E2(10)-①-1 E2(10)-①-3
第6回	士反 伸和 西山 由美	代表的な生薬の形態観察と鑑別2 重要な漢方処方調製2	重要な局方生薬の形態観察と鑑別を行う。 重要な局方収載の漢方処方を調製し、構成生薬を確認する。	C5(1)-①-2 C5(1)-①-3 C5(1)-④-3 C7(1)-③-4 E2(10)-①-1 E2(10)-①-3

成績評価方法

- ・平常点(60点) 配点内訳:出席と実習態度で評価する。
- ・小テスト・レポート(40点) *レポート未提出の場合は、平常点からも減点する。

教科書

生薬学実習書(生薬化学研究室編)

指定参考書

パートナー生薬学 改訂第2版(南江堂)、パートナー天然物化学 改訂第2版(南江堂)、
第十六改正日本薬局方解説書(廣川書店)、カラーグラフィックス 薬用植物 第4版(廣川書店)、
生薬単(NTS)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

微生物学実習

2 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授 小西 守周
講師 中山 喜明
助教 増田 有紀

一般目標 (GIO)

微生物の取扱い、検出、同定についての基本的技能などを修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 主な滅菌法を実施できる。
2. グラム染色を実施できる。
3. 無菌操作を実施できる。
4. 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。
5. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。

準備学習 (予習・復習等)

病原微生物を取り扱うので、感染とバイオハザードの危険性を念頭において、注意深く実習を行うこと。安全でかつ効率的な実習を行うために、実習前に配布した実習書を必ず一度読んでから実際の実習に臨むように。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索 (1)	マウス腸内細菌の採取と選択培地による培養	C8-(3)-⑤-1,2 C8-(3)-⑥-2,3
第2回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索 (2)	器具類の滅菌操作と腸内細菌の単離培養	C8-(3)-⑤-1,2 C8-(3)-⑥-2,3
第3回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索 (3) 薬剤中の混入微生物の検出 (1)	TSI 寒天培地による腸内細菌の生化学的性状の確認と薬剤中に混入した細菌の検出および定量	C8-(3)-⑤-1,2 C8-(3)-⑥-2,3
第4回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索 (4) 薬剤中の混入微生物の検出 (2)	グラム染色による腸内細菌の種類の確認と薬剤中に混入した細菌の培養	C8-(3)-⑤-1,2 C8-(3)-⑥-1,2,3
第5回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索 (5)	INVIC システムや感受性ディスク法などを用いた腸内細菌の性質の検討	C8-(3)-⑤-1,2 C8-(3)-⑥-2,3
第6回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索 (6)	昨日の結果の解析	C8-(3)-⑤-1,2 C8-(3)-⑥-2,3

成績評価方法

レポート (40 点)
平常点 (60 点) 内訳: 出席と実習態度で評価する。

教科書

実習前に配布する実習書

指定参考書

薬学領域の微生物学・免疫学第2版 (廣川書店)

オフィスアワー

開講しない。質問は2号館3階微生物化学研究室にて対応する。

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

三年次生

薬学英語入門Ⅰ	225
薬学英語入門Ⅱ	227
生命倫理学	229
医療倫理学	230
物理化学Ⅳ	231
医薬品化学	232
分子生物学Ⅱ	233
免疫学	234
衛生薬学Ⅱ	235
衛生薬学Ⅲ	237
薬理学Ⅱ	238
薬理学Ⅲ	239
医薬品毒性学	240
薬物動態学Ⅰ	241
薬物動態学Ⅱ	242
臨床検査学Ⅰ	243
臨床検査学Ⅱ	245
内分泌学	246
感染制御学	247

薬物治療学Ⅰ	248
薬物治療学Ⅱ	249
薬物治療学Ⅲ	250
調剤学Ⅰ	251
調剤学Ⅱ	253
薬剤設計学Ⅰ	255
医療統計学Ⅰ	256
放射線管理学	257
医療統計学ⅡA	258
医療統計学ⅡB	260
有機化学系Ⅲ実習	261
生物学系Ⅰ実習	262
生物学系Ⅱ実習	263
衛生薬学系実習	264
薬理学実習	265
臨床検査実習	266
薬剤学・製剤学実習	267
語学検定	268

一年次生

二年次生

三年次生

四年次生

五年次生

六年次生

薬学英语入門 I

3 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 准教授 竹内 敦子
講師 児玉 典子
講師 田中 将史
助教 細川 美香

一般目標(GIO)

英語を学習手段として、医療や薬学などを中心とする自然科学の分野で必要とされる基礎的な知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 英語で書かれた医療や薬学などに関連する文章を読んで、その大意や内容を説明できる。
2. 医療や薬学などに関連する日本語を文法にかなった英文に訳し、朗読できる。
3. 医療や薬学などに関連する専門用語（人体部位名、病名、医薬品名など）を英語で書き、発音できる。
4. 医療や薬学などに関連する実験に基づく図表等の英語表現を正しく解釈して説明したり、書くことができる。
5. 英語で書かれた分野横断的な内容の文章を読んで、各分野を関連づけ・統合することができる。
6. 英語で書かれた専門的な内容から命題を引き出し、その思考過程を説明したり、問題点を提起できる。

準備学習(予習・復習等)

オリエンテーションで説明を受けた方法で予習・復習し、講義に出席すること。
授業の内容を既習科目と関連づけて予習・復習をする。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	オリエンテーション Part 1 Origin and Evolution of Human Life	授業内容と進め方などの説明 グループ編成	F(2)
第2回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	Part 1 Origin and Evolution of Human Life	Unit 1～4 から選択	F(2)
第3回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	Part 1 Origin and Evolution of Human Life	Unit 1～4 から選択	F(2)
第4回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	まとめ(1)	Unit 1～4 から選択 フィードバックと協調学習(1)	F(2)
第5回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	Part 2 Evolution of Civilized Society	Unit 5～13 から選択	F(2)
第6回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	Part 2 Evolution of Civilized Society	Unit 5～13 から選択	F(2)
第7回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	まとめ(2)	Unit 5～13 から選択 フィードバックと協調学習(2)	F(2)
第8回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	Part 3 Evolution of Technical Civilization Part 4 High-Tech Civilization	Unit 14～25 から選択	F(2)
第9回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	Part 3 Evolution of Technical Civilization Part 4 High-Tech Civilization	Unit 14～25 から選択	F(2)
第10回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	まとめ(3)	Unit 14～25 から選択 フィードバックと協調学習(3)	F(2)
第11回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	まとめ(4)	前期の復習と協調学習(4)	F(2)

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

第12回	竹内 敦子 児玉 典子 田中 将史 細川 美香	まとめ(4)	前期の復習と協調学習(4)	F(2)
------	----------------------------------	--------	---------------	------

成績評価方法

定期試験(85%)および平常点(15%:出席、レポートと能動的受講態度)で評価する。
 追再試験受験者は、追再試験のみで評価する。

教科書

HUMAN READER 生命科学英語 -life and disease- (京都廣川書店)
 配布プリント

指定参考書

スクエア最新図説生物 吉里勝利監修(第一学習社)
 illustrated 基礎生命科学(京都廣川書店)

オフィスアワー

質問は都合がつく限り受け付ける。

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

薬学英语入門Ⅱ

3 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 准教授 竹内 敦子
講師 児玉 典子
講師 藤波 綾
助教 細川 美香

一般目標(GIO)

英語を学習手段として、医療や薬学などを中心とする自然科学の分野で必要とされる基礎的な知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 英語で書かれた医療や薬学などに関連する文章を読んで、その大意や内容を説明できる。
2. 医療や薬学などに関連する日本語を文法にかなった英文に訳し、朗読できる。
3. 医療や薬学などに関連する専門用語（人体部位名、病名、医薬品名など）を英語で書き、発音できる。
4. 医療や薬学などに関連する実験に基づく図表等の英語表現を正しく解釈して説明したり、書くことができる。
5. 英語で書かれた分野横断的な内容の文章を読んで、各分野を関連づけ・統合することができる。
6. 英語で書かれた専門的な内容から命題を引き出し、その思考過程を説明したり、問題点を提起できる。

準備学習(予習・復習等)

オリエンテーションで説明を受けた方法で予習・復習し、講義に出席すること。
授業の内容を既習科目と関連づけて予習・復習をする。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	オリエンテーション Part 1 Origin and Evolution of Human Life	授業内容と進め方などの説明 グループ編成	F(2)
第2回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	Part 1 Origin and Evolution of Human Life	Unit 1～4 から選択	F(2)
第3回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	Part 1 Origin and Evolution of Human Life	Unit 1～4 から選択	F(2)
第4回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	まとめ(1)	Unit 1～4 から選択 フィードバックと協調学習(1)	F(2)
第5回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	Part 2 Evolution of Civilized Society	Unit 5～13 から選択	F(2)
第6回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	Part 2 Evolution of Civilized Society	Unit 5～13 から選択	F(2)
第7回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	まとめ(2)	Unit 5～13 から選択 フィードバックと協調学習(2)	F(2)
第8回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	Part 3 Evolution of Technical Civilization Part 4 High-Tech Civilization	Unit 14～25 から選択	F(2)
第9回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	Part 3 Evolution of Technical Civilization Part 4 High-Tech Civilization	Unit 14～25 から選択	F(2)
第10回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	まとめ(3)	Unit 14～25 から選択 フィードバックと協調学習(3)	F(2)
第11回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	まとめ(4)	後期の復習と協調学習(4)	F(2)

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

第12回	竹内 敦子 児玉 典子 藤波 綾 細川 美香	まとめ(4)	後期の復習と協調学習(4)	F(2)
------	---------------------------------	--------	---------------	------

成績評価方法

定期試験(85%)および平常点(15%:出席、レポートと能動的受講態度)で評価する。
 追再試験受験者は、追再試験のみで評価する。

教科書

HUMAN READER 生命科学英語 -life and disease- (京都廣川書店)
 配布プリント

指定参考書

スクエア最新図説生物 吉里勝利監修(第一学習社)
 illustrated 基礎生命科学(京都廣川書店)

オフィスアワー

質問は都合がつく限り受け付ける。

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

生命倫理学

3 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 准教授

松家 次朗

一般目標 (GIO)

生命倫理学の基本的な考え方を理論と具体的問題を通して学ぶ。

到達目標 (SBOs)

1. 生命倫理学の一般的理論を理解する。
2. 従来一般的な倫理学と生命倫理学の関係について理解する。
3. 生命 (医療) 倫理学の 4 原則について理解する。
4. 具体的な事例を通して、理論と実践との関係を理解する。
5. 生命倫理学の問題を解決するうえでの医療専門職の役割について理解する。
6. 患者と医療専門職との関係の在り方について考える。
7. インフォームド・コンセントの成り立ちの背景とその医療における意味について理解する。

準備学習 (予習・復習等)

医療における倫理的問題を理解し、それにより適切に対応するには、合理的判断と同時に道徳的な感覚も必要です。そのバランスを整理する手段の基礎は言葉です。その訓練の最適な機会だと思って、生命倫理学のキーワードおよび問題を自分の言葉で説明できるように努力してほしい。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	松家 次朗	1. 生命倫理学入門 その1	現代の医療における倫理的問題の特質を実例を用いて概説する。	A(2)-2-2
第2回	松家 次朗	2. 生命倫理学入門 その2	生命倫理学における代表的な倫理学理論について概説する。	A(2)-2-2
第3回	松家 次朗	3. 生命倫理学入門 その3	生命 (医療) 倫理の 4 原則について概説する。	A(1)-1-3
第4回	松家 次朗	4. 生命倫理学入門 その4	生命 (医療) 倫理の 4 原則について概説する。	A(1)-1-3
第5回	松家 次朗	5. 生命倫理学入門 その5	生命 (医療) 倫理の 4 原則の相互関係について概説する。	A(1)-1-3
第6回	松家 次朗	6. 生命倫理学入門 その6	実際の医療における 4 原則の関係について概説する。	A(1)-1-3
第7回	松家 次朗	7. 生命倫理と法律との関係について	生命倫理と法律との関わりを概説する。	A(1)-1-3
第8回	松家 次朗	8. 患者の権利について	患者の権利確立の歴史的背景とその内容について概説する。	A(1)-1-3
第9回	松家 次朗	9. 医療専門職と患者の関係について	医療専門職の社会的役割と患者との関係の在り方について概説する。	A(1)-1-3
第10回	松家 次朗	10. インフォームド・コンセント その1	インフォームド・コンセントの成立の背景とその医療における意味について概説する。	A(1)-1-3
第11回	松家 次朗	11. インフォームド・コンセント その2	インフォームド・コンセントの成立要件と問題点について事例を用いて概説する。	A(1)-1-3
第12回	松家 次朗	12. 生命倫理と守秘義務	現代医療における守秘義務の位置づけについて概説する。	A(2)-2-3

成績評価方法

定期試験とする。

教科書

『入門・医療倫理 I』(赤林 朗編、勁草書房)

指定参考書

特になし。

オフィスアワー

必要に応じて対応する。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

医療倫理学

3年次
後期 必修 1単位

担当教員名 准教授 松家 次朗

一般目標(GIO)

現代医療のさまざまな分野における倫理的問題の基本を理解する。

到達目標(SBOs)

1. 生殖医療の倫理的問題を理解する。
2. 新遺伝学と再生医学の倫理的問題について理解する。
3. 終末期医療の倫理的問題について理解する。
4. 脳死と臓器移植の倫理的問題について理解する。
5. 医療資源の配分に関連する倫理的問題について理解する。
6. 医療事故の倫理的側面について理解する。
7. 研究倫理について理解する。

準備学習(予習・復習等)

学ぶべきことが非常に多く、また複雑なので、授業の都度内容を整理して理解しておくことが望ましい。その上で、わからないところや曖昧なところは講義担当者に確認してほしい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	松家 次朗	1. 生殖医療 その1	人工妊娠中絶をめぐる法的・倫理的問題を説明する。	A(1)-1-3
第2回	松家 次朗	2. 生殖医療 その2	生殖補助医療をめぐる倫理的問題を説明する。	A(1)-1-2
第3回	松家 次朗	3. 新遺伝学・クローニング	遺伝子診断、遺伝子治療、遺伝子情報の取り扱いに関する倫理的問題と再生医学に関する倫理的問題を説明する。	A(1)-1-2
第4回	松家 次朗	4. 終末期医療 その1	安楽死・尊厳死をめぐる法的・倫理的問題を説明する。	A(1)-3-1
第5回	松家 次朗	5. 終末期医療 その2	終末期の医療と緩和医療に関する倫理的問題を説明する。	A(1)-3-1
第6回	松家 次朗	6. 脳死と臓器移植	脳死からの臓器移植に関する倫理的、制度的問題を説明する。	A(1)-3-1
第7回	松家 次朗	7. 医療資源の配分 その1	医療サービスと医療費の関係を論じ、実際にどのような問題が生じているのか、また生じる可能性が大きいのかについて説明する。	A(1)-1-4
第8回	松家 次朗	8. 医療資源の配分 その2	医療資源の配分ではどのような手段が考えられているのか、またその手段の倫理的問題点について説明する。	A(1)-1-4
第9回	松家 次朗	9. 医療事故と法 その1	医療事故と医療過誤の違い、民事責任の成立要件等について概説する。	A(1)-1-4
第10回	松家 次朗	10. 医療事故と法 その2	WHOの患者安全運動の背景と内容について説明する。	A(1)-1-4
第11回	松家 次朗	11. 研究倫理 その1	研究倫理の概要と歴史的な背景などについて説明する。	A(1)-1-4
第12回	松家 次朗	12. 研究倫理 その2	一般的な診療行為における患者安全の倫理と医学研究における倫理との違いと生命(医療)倫理学の4原則の関係について説明する。	A(1)-1-3

成績評価方法

定期試験による。

教科書

『入門・医療倫理 I』(赤林 朗編、勁草書房)

指定参考書

特になし。

オフィスアワー

必要に応じて対応する。

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

物理化学Ⅳ

3年次

前期 必修 1単位

担当教員名 講師

田中 将史

一般目標(GIO)

生体分子の機能および医薬品の働きを立体的、動的にとらえるために、タンパク質、核酸および脂質などの立体構造やそれらの相互作用に関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 生体分子(タンパク質、核酸、生体膜など)の立体構造を概説できる。
2. 生体分子(タンパク質、核酸、生体膜など)の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。
3. 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。
4. 脂質の水における分子集合構造(膜、ミセル、膜タンパク質など)について説明できる。
5. 生体内界面活性物質などの吸着平衡について説明できる。
6. 生体分子間相互作用、あるいは生体分子と医薬品との相互作用について、具体例を挙げて説明できる。

準備学習(予習・復習等)

生体分子に関する基礎的知識をある程度持っていることを前提に講義を行いますので関連科目の復習をしてください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田中 将史	物理平衡	表面張力と界面活性剤	C1(3)-1-6 C1(3)-1-7 C1(3)-1-8
第2回	田中 将史	物理平衡	吸着等温式 コロイド粒子	C1(3)-1-6 C1(3)-1-7 C1(3)-1-8
第3回	田中 将史	生体膜の立体構造	脂質の水における分子集合構造	C3(2)-2-3
第4回	田中 将史	生体膜の立体構造	生体膜の非対称構造・動的構造	C3(2)-1-1
第5回	田中 将史	生体膜の立体構造	膜タンパク質・脂質ラフト	C3(2)-1-6
第6回	田中 将史	タンパク質の立体構造	基本構造	C3(2)-1-1
第7回	田中 将史	タンパク質の立体構造	立体構造の自由度 タンパク質の折りたたみ	C3(2)-1-2 C3(2)-1-4
第8回	田中 将史	タンパク質の立体構造	立体構造を規定する相互作用	C3(2)-1-3
第9回	田中 将史	核酸の立体構造	立体構造を規定する相互作用	C3(2)-1-5
第10回	田中 将史	核酸の立体構造	核酸の分光学的性質と構造変化	C3(2)-1-5
第11回	田中 将史	生体分子間相互作用	鍵と鍵穴モデルと誘導適合モデル アロステリック相互作用	C3(2)-2-1 C3(2)-2-2
第12回	田中 将史	生体分子と医薬品との相互作用		C3(2)-2-4

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

プリント冊子

スタンダード薬学シリーズ(日本薬学会 編)「物理系薬学 I 物質の物理的性質」(東京化学同人)

指定参考書

薬学生のための生物物理化学入門(廣川書店)

スタンダード薬学シリーズ(日本薬学会 編)「物理系薬学 III 生体分子・化学物質の構造決定」(東京化学同人)

生命薬学テキストシリーズ 物理化学 下(共立出版)

オフィスアワー

質問には随時対応する。ただし、自分自身でしっかり考え、どこまで理解できているかを説明できるようにしておくこと。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

医薬品化学

3 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 准教授 上田 昌史

一般目標 (GIO)

医薬品の作用を化学構造と関連づけて理解するために、医薬品に含まれる代表的な構造とその性質に関する知識を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。
2. 医薬品に含まれる代表的な官能基の性質を医薬品の効果と結びつけて説明できる。
3. 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物の性質を医薬品の効果と結びつけて説明できる。
4. 神経伝達物質アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。
5. ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。
6. 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。
7. ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。
8. DNA とアルキル化剤の反応及びインターカレーター的作用機序を説明できる。

準備学習 (予習・復習等)

医薬品を化学物質として眺めるため、有機化学の知識が必要である。
従って有機化学もその都度復習しながら講義を聴くと理解しやすい。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	上田 昌史	医薬品と生体との関わり	医薬品のファーマコフォアと相互作用	C6(2)-1-1
第2回	上田 昌史	ベンゼン置換医薬品	フェノールおよびアニリン類の化学的性質と作用	C6(2)-1-2
第3回	上田 昌史	核酸塩基類似医薬品	ピリミジン、プリン類および抗がん薬の化学的性質と作用	C6(2)-4-4
第4回	上田 昌史	アシル尿素類似医薬品	アシル尿素類の化学的性質の共通点と作用	C6(2)-2-2
第5回	上田 昌史	ベンゾジアゼピン系医薬品	ベンゾジアゼピン類の化学的性質と作用	C6(2)-2-2
第6回	上田 昌史	ピリジンおよびアゾール関連医薬品	ピリジン類およびアゾール類の化学的性質と作用	C6(2)-2-3
第7回	上田 昌史	インドール関連医薬品、含酸素複素環医薬品	インドール類の化学的性質と作用、含酸素複素環化合物の特徴と作用	C6(2)-2-3
第8回	上田 昌史	アセチルコリン類似医薬品	アンモニウム塩構造を有する医薬品の化学的性質と作用	C6(2)-4-2
第9回	上田 昌史	生体アミン関連医薬品	フェニルエチルアミン系の化学的性質と作用、オピオイド系の化学的性質と作用	C6(2)-4-1
第10回	上田 昌史	ステロイド医薬品	ステロイド系医薬品の化学的性質と作用	C6(2)-4-3
第11回	上田 昌史	アミノ酸とペプチド関連医薬品	アミノ酸及びβラクタム抗生物質を含むペプチド類の化学的性質と作用	C6(2)-4-5 C6(2)-5-3
第12回	上田 昌史	脂肪酸関連医薬品	脂肪酸類およびプロスタグランジン類の化学的性質と作用	C6(2)-5

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

化学構造と薬理作用—医薬品を化学的に読む— (編集西出喜代治、佐々木茂貴、栄田敏之) 廣川書店

指定参考書

パートナー医薬品化学 (佐野、内藤、堀口編著) 南江堂
化学系薬学Ⅱ (スタンダード薬学シリーズⅡ - 3) (日本薬学会編)
ベーシック薬学教科書シリーズ6 『創薬科学・医薬化学』化学同人
第15改正日本薬局方解説書 廣川書店

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。

分子生物学Ⅱ

3 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 講師

灘中 里美

一般目標(GIO)

バイオテクノロジーを薬学領域で応用できるようになるために、遺伝子操作に関する基礎知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 組換え DNA 技術や遺伝子クローニング法の概要を説明できる。
2. cDNA とゲノミック DNA の違いについて説明できる。
3. 遺伝子ライブラリーや PCR 法による遺伝子増幅の原理を説明できる。
4. RNA の逆転写と逆転写酵素について説明できる。
5. DNA 塩基配列の決定法を説明できる。
6. 細胞（組織）における特定の DNA および RNA を検出する方法を説明できる。
7. 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。
8. 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。
9. 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。
10. 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。
11. 組換え体医薬品の安全性について概説できる。

準備学習(予習・復習等)

授業中に重要と言った部分に線を引き、その部分を必ず復習すること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	灘中 里美	組換え DNA 技術	組換え DNA 技術に必要な酵素類 (1)	C9(6)-1-1
第2回	灘中 里美	組換え DNA 技術	組換え DNA 技術に必要な酵素類 (2)	C9(6)-1-1
第3回	灘中 里美	組換え DNA 技術	宿主とベクター	C9(6)-1-1 C9(6)-2-1,2
第4回	灘中 里美	遺伝子クローニング	遺伝子ライブラリー	C9(6)-2-2,3,5
第5回	灘中 里美	遺伝子クローニング	PCR 法を用いたクローニング	C9(6)-2-4
第6回	灘中 里美	遺伝子の機能解析	電気泳動法とプロット法	C9(6)-3-1
第7回	灘中 里美	遺伝子の機能解析	DNA 塩基配列決定法	C9(6)-2-6
第8回	灘中 里美	遺伝子の機能解析	遺伝子の発現と RNA 干渉、遺伝子組換え動物	C9(6)-3-2 C9(6)-3-3
第9回	灘中 里美	医学・薬学への応用	組換え医薬品、遺伝子変異と診断	C9(6)-3-4 C17(3)-1-1,2,3
第10回	灘中 里美	医学・薬学への応用	テーラーメイド医療、遺伝子治療	C9(6)-3-4 C17(3)-2-1
第11回	灘中 里美	病気の分子生物学	ガン遺伝子とガン抑制遺伝子	C9(6)-3-4 C17(3)-5-1,2
第12回	灘中 里美	病気の分子生物学	分子標的医薬品、ゲノム創薬	C9(6)-3-4 C17(3)-4-1 ~ 4

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

NEW 生化学 第2版 (廣川書店)

指定参考書

スタンダード薬学シリーズ 4 生物系薬学Ⅱ (東京化学同人)
Essential 細胞生物学 (南江堂)
医薬分子生物学 (南江堂)

オフィスアワー

質問は随時受け付けます。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育
専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

免疫学

3 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 教授

小西 守周

一般目標(GIO)

感染性の疾病などの予防および治癒に関しては、免疫による生体防御機構が重要な役割を果たす。さらには、免疫異常による疾患の理解や、生体移植といった治療法にも、免疫の基礎が必須となる。そこで、免疫学では、免疫に関する基礎的な知識の習得を目標とする。また、この免疫のシステムが破綻したときに起こる病態について理解することを目標とする。

到達目標(SBOs)

1. 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーと自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。
2. 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。
3. 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。
4. 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。
5. 抗体分子の種類、構造、役割、その多様性を生み出す機構を説明できる。
6. 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。
7. 免疫反応におけるおもな細胞間ネットワークとその情報伝達のメカニズムについて説明できる。
8. アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。
9. 代表的な自己免疫疾患と免疫不全症候群の特徴と成因について説明できる。
10. 炎症の一般的性状、担当細胞および反応機構について説明できる。
11. 臓器移植と免疫反応のかかわり（拒絶反応、免疫抑制薬など）、感染症における免疫応答について説明できる。
12. 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

近年医学薬学領域において、免疫学の重要性が高まってきている。この免疫学を理解するためには、生物学、生化学、分子生物学、微生物学の知識が必要である。したがって、以上の講義内容について充分理解してから免疫学の講義に臨むこと。毎回の免疫学の講義では、個体で起こる免疫反応の一部分を説明することになる。新しく習得した知識と、それまでに習っていた知識との繋がりを意識しながら復習すると理解がしやすくなると思われる。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小西 守周	免疫学の概論	異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーと自然免疫と獲得免疫の特徴とその違い	C10-(1)-1-1,2,4
第2回	小西 守周	免疫担当細胞と組織について	免疫に関与する組織と細胞	C10-(1)-2-1,2 C10-(1)-3-3
第3回	小西 守周	免疫のしくみ その1	体液性免疫と細胞性免疫の比較	C10-(1)-1-6 C10-(1)-2-4
第4回	小西 守周	免疫のしくみ その2	食細胞が免疫機構で果たす役割	C10-(1)-2-3,4
第5回	小西 守周	免疫のしくみ その3	抗体分子の種類、構造、役割、その多様性を生み出す機構やT細胞受容体の多様性について	C10-(1)-1-5 C10-(1)-3-1,4
第6回	小西 守周	免疫のしくみ その4	補体について、その活性化経路と機能	C10-(1)-1-3
第7回	小西 守周	免疫における細胞間の相互作用	免疫反応におけるおもな細胞間ネットワークとその情報伝達のメカニズムについて	C10-(1)-2-4 C10-(1)-3-2,3,5
第8回	小西 守周	アレルギー	アレルギーにおける担当細胞および反応機構	C10-(2)-1-1
第9回	小西 守周	自己免疫疾患と免疫不全症候群	代表的な自己免疫疾患と免疫不全症候群の特徴と成因について	C10-(2)-1-3,4
第10回	小西 守周	炎症	炎症の一般的性状、担当細胞および反応機構について	C10-(2)-1-2
第11回	小西 守周	移植、感染と免疫	臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制薬など）、あるいは感染症と免疫の関わり	C10-(2)-2-1,2
第12回	小西 守周	腫瘍と免疫	腫瘍排除に関与する免疫反応	C10-(2)-2-3,4

成績評価方法

定期試験（100点）

教科書

講義にはプリントを使用。

指定参考書

日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズ 生物系薬学 Ⅲ・生体防御（東京化学同人）
薬学領域の微生物学・免疫学（廣川書店）

オフィスアワー

必要に応じて開催する可能性がある。質問は2号館3階微生物化学研究室にて対応する。

衛生薬学Ⅱ

3年次
前期 必修 1単位

担当教員名 教授 長谷川 潤
准教授 中川 公恵

一般目標(GIO)

社会における集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的知識、技能、態度を修得する。
公衆衛生の向上に貢献するために、感染症、生活習慣病、職業病についての現状とその予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs)

<社会・集団と健康>

1. 集団の健康と疾病の現状を把握するうえでの保健統計の意義を概説できる。
2. 人口静態と人口動態および国勢調査の目的と意義について説明できる。
3. 死亡に関する様々な指標や死因別死亡率の変遷について説明できる。
4. 日本における人口の推移、人口の将来予測、高齢化と少子化によりもたらされる問題点について説明できる。
5. 疾病予防における疫学の役割や疫学の三要因・種類を説明できる。
6. 患者・対照研究と要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、各々の評価指標が計算できる。
7. 医薬品の作用・副作用調査における疫学的手法の有用性を概説できる。

<疾病の予防>

1. 健康と疾病の概念の変遷とその理由を説明し、世界保健機関(WHO)の役割について概説できる。また、疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。
2. 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。また、新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。
3. 現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴、新興感染症および再興感染症について説明できる。
4. 一、二、三類感染症および代表的な四、五類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。また、母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。
5. 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。また、予防接種法に定める定期予防接種の種類をあげ、接種時期などを説明できる。
6. 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。
7. 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

統計的手法や疫学的手法を用いることにより、集団のいわば「顔」がより鮮明に見えてきます。グラフや表の内容につき「興味をもつ」ことから「理解」が深まります。また、感染症や生活習慣病の要因・予防・治療は、薬剤師として公衆衛生向上に貢献するために重要な知識です。身近な問題としてとらえながら修得していきましょう。講義前には教科書の講義予定範囲を一読し、講義後は講義ノートをごまめにまとめましょう(復習時間30分~1時間)。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	長谷川 潤	保健統計 人口静態 人口動態	集団の健康と疾病の現状把握における保健統計の意義 国勢調査と人口構成 出生統計と死亡統計	C11-(2)-1-1,2,3,4,5
第2回	長谷川 潤	死因別死亡率の変遷 生命表 人口問題高齢化と少子化	死亡・疾病・傷病発生状況 生命表と平均余命・平均寿命 人口の推移と将来予測 高齢化と少子化の現状と問題点	C11-(2)-2-1,2,3
第3回	長谷川 潤	疫学とは 疫学の要因と種類 患者・対照研究	疾病予防における疫学の役割 疫学における三要因 記述疫学と分析疫学 患者・対照研究とオッズ比の計算	C11-(2)-3-1,2,3,4
第4回	長谷川 潤	要因・対照研究	要因・対照研究(コホート研究)と相対危険度、寄与危険度の計算	C11-(2)-3-5
第5回	長谷川 潤	疫学データ 医薬品の評価	医薬品の作用・副作用の評価における有用性 疫学データを解釈する上での注意点	C11-(2)-3-6,7
第6回	長谷川 潤	生活習慣病とその要因 職業病とその予防 衛生行政と関係法規 保健対策	生活習慣病の種類と動向、リスク要因、食生活と喫煙など生活習慣と疾病の関わり 主な職業病とその原因・症状 地域保健法、学校保健安全法、衛生関係法規 母子保健、高齢者保健、学校保健	C11(3)-4-1,2,3 C11(3)-5-1 C18(3)-1-3
第7回	中川 公恵	健康とは 疾病の予防とは	健康と疾病の概念の変遷および世界保健機構(WHO)の役割 一次、二次、三次予防と予防接種の意義	C11(3)-1-1,2 C11(3)-2-1,2
第8回	中川 公恵	新生児マスキング 薬剤師の役割	新生児マスキングの意義 疾病の予防における薬剤師の役割	C11(3)-2-3,4

基礎
教育

教育
養

教専
門

基礎
教育

教育
養

教専
門

基礎
教育

専
門

教育

専
門

教育

専
門

教育

第9回	中川 公恵	現代における感染症 代表的感染症	日和見感染、院内感染、国際感染症の特徴 新興感染症と再興感染症	C11(3)-3-1,2
第10回	中川 公恵	感染症の分類	一、二、三類感染症および代表的な四、五類感染症	C11(3)-3-3
第11回	中川 公恵	母子感染症	母子感染する疾患とその予防対策	C11(3)-3-4
第12回	中川 公恵	性行為感染症 予防接種	性行為感染症の予防対策と治療 予防接種法に定める定期予防接種の種類と接種時期	C11(3)-3-5,6

成績評価方法

定期試験 (100点)

教科書

New 衛生薬学 (岡野登志夫他、廣川書店)、衛生薬学サブノート (岡野登志夫他、廣川書店)

指定参考書

スタンダード薬学シリーズ (日本薬学会編) 第5巻『健康と環境』東京化学同人
国民衛生の動向 2015/2016 (厚生統計協会)
公衆衛生マニュアル 2015 (南山堂)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育
専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

衛生薬学Ⅲ

3 年次

後期 必修 1 単位

担当教員名 准教授

中川 公恵

一般目標(GIO)

有害化学物質に対する生体防御を目的として、化学物質の毒性などに関する基本的知識を修得し、これに関連する基本的技能と態度を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。
2. 第一相反応および第二相反応が関わる代謝および代謝的活性化について概説できる。
3. 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。また、発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。
4. 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。
5. 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。
6. 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。
7. 毒性試験の結果を評価するのに必要な量・反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL)、化学物質の安全摂取量 (1 日許容摂取量など) などについて説明できる。
8. 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。
9. 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。
10. 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。
11. 化学物質 (重金属、残留農薬など) による食品汚染の具体例を概説できる。
12. 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。また、食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

この講義で勉強する「化学物質の生体への影響」は、国家試験問題で頻出される分野のひとつです。私たちの身近に存在する化学物質について、しっかり理解しましょう。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	中川 公恵	化学物質の体内動態 第一相反応	代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的プロセス 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化	C12(1)-1-1,2
第2回	中川 公恵	第二相反応	第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化	C12(1)-1-3
第3回	中川 公恵	化学物質の毒性の組織特異性	肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質の特徴	C12(1)-3-2
第4回	中川 公恵	化学物質の急性・慢性毒性	代表的な有害化学物質 (重金属、農薬、ダイオキシン類など) の急性・慢性毒性の特徴	C12(1)-3-3
第5回	中川 公恵	内分泌攪乱化学物質 食品添加物	内分泌攪乱化学物質の特徴 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。	C12(1)-3-8 C11(1)-2-6,7
第6回	中川 公恵	生体防御因子	重金属や活性酸素種による障害を防ぐための生体防御因子	C12(1)-3-4
第7回	中川 公恵	化学物質による発がん 変異原性試験	発がん性物質などの代謝的活性化の機構 変異原性試験 (Ames 試験など) の原理と実施法	C11(1)-2-5 C12(1)-2-1,2
第8回	中川 公恵	発がん機構 がん遺伝子・がん抑制遺伝子	発がんのイニシエーションとプロモーション 代表的ながん遺伝子、がん抑制遺伝子、その異常とがん化	C12(1)-2-3,4
第9回	中川 公恵	化学物質の毒性	化学物質の毒性を評価する主な試験法	C12(1)-3-1
第10回	中川 公恵	毒性評価指標、安全摂取量	毒性評価に必要な指標 (量・反応関係、閾値、NOAEL など) 及び化学物質の安全摂取量 (1 日許容摂取量及び耐容 1 日摂取量など)	C12(1)-3-5,6
第11回	中川 公恵	有害化学物質の法的規制	有害化学物質の人への影響を防ぐための法的規制	C12(1)-3-7
第12回	中川 公恵	化学物質による中毒と処置	代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) の中毒症状、作用器官、解毒処置法、分析法	C12(1)-4-1,2

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

New 衛生薬学 (岡野登志夫他、廣川書店)、衛生薬学サブノート (岡野登志夫他、廣川書店)

指定参考書

第 8 版食品添加物公定書解説書 (廣川書店)
国民衛生の動向 2015/2016 (厚生統計協会)
公衆衛生マニュアル 2015
スタンダード薬学シリーズ (日本薬学会編) 第 5 巻『健康と環境』東京化学同人

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

薬理学Ⅱ

3年次

前期 必修 1単位

担当教員名 准教授

水谷 暢明

一般目標(GIO)

中枢神経系、循環器系、泌尿器・生殖器系に作用する薬物に関する基本的知識を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 中枢神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。
2. 循環器系疾患に用いる代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。
3. 泌尿器系疾患に用いる代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。
4. 産婦人科領域に用いる代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

シラバスを読み、予め講義の内容を教科書や配布プリントなどで確認しておくこと。復習は、正誤問題および記述問題をやって理解を深めておくこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	水谷 暢明	精神病に用いる薬物	抗精神病薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-1-5
第2回	水谷 暢明	うつ病に用いる薬物	抗うつ薬・気分安定薬・精神刺激薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-1-5
第3回	水谷 暢明	てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病に用いる薬物	抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、抗アルツハイマー病薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-1-4
第4回	水谷 暢明	催眠・麻酔に用いる薬物	催眠薬・全身麻酔薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-1-1,2
第5回	水谷 暢明	疼痛に用いる薬物	麻薬性鎮痛薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-1-3
第6回	水谷 暢明	不整脈に用いる薬物	抗不整脈薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-4-1
第7回	水谷 暢明	心不全に用いる薬物	心不全治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-4-2
第8回	水谷 暢明	虚血性心疾患に用いる薬物	狭心症治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-4-3
第9回	水谷 暢明	高血圧症に用いる薬物	高血圧症治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-4-4
第10回	水谷 暢明	血栓症に用いる薬物	血栓症治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-4-1,2
第11回	水谷 暢明	貧血に用いる薬物	貧血治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-4-3
第12回	水谷 暢明	泌尿器系、生殖器系に作用する薬物	利尿薬、子宮筋に作用する薬物の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-3-1

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

最新薬理学 廣川書店

指定参考書

グッドマン・ギルマン薬理学、高折、福田、藤原、大森、高木、上條 監訳、廣川書店

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

薬理学Ⅲ

3年次
後期 必修 1単位

担当教員名 教授 吉野 伸

一般目標(GIO)

呼吸器系、消化器系、免疫・炎症、内分泌系、感覚器系、悪性腫瘍に作用する薬物に関する基本的知識を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 呼吸器系疾患に用いる代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。
2. 消化器系疾患に用いる代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。
3. 免疫・炎症疾患に用いる代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。
4. 内分泌・代謝性疾患に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。
5. 感覚器系疾患に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。
6. 悪性腫瘍に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

講義前にシラバスおよびテキストを読んで予習をする。講義後は配布されたプリントにある確認テスト問題および記述問題に解答し復習する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	吉野 伸	呼吸興奮、鎮咳、去痰に用いる薬物	呼吸興奮薬、鎮咳薬、去痰薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-5-1,2
第2回	吉野 伸	気管支喘息に用いる薬物	気管支喘息治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(2)-5-3
第3回	吉野 伸	消化性潰瘍に用いる薬物	消化性潰瘍治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-2-1
第4回	吉野 伸	慢性胃炎、嘔吐、下痢に用いる薬物	健胃薬、制吐薬、止瀉薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-2-2,3
第5回	吉野 伸	便秘、膵炎、胆道疾患に用いる薬物	下瀉薬、膵炎治療薬、催胆薬、排胆薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-2-2,4,5
第6回	吉野 伸	免疫系に作用する薬物	免疫抑制薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-6-2,3
第7回	吉野 伸	アレルギー疾患に用いる薬物	アレルギー疾患治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-6-3
第8回	吉野 伸	炎症疾患、関節リウマチに用いる薬物	ステロイド性・非ステロイド性抗炎症薬、抗リウマチ薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-6-1,2
第9回	吉野 伸	糖尿病に用いる薬物	糖尿病治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-5-1
第10回	吉野 伸	脂質異常症に用いる薬物	脂質異常症治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-5-2
第11回	吉野 伸	骨粗鬆症、痛風、感覚器系疾患に用いる薬物	骨粗鬆症・痛風治療薬、緑内障・白内障治療薬の薬理作用、機序、副作用	C13(3)-5-3,4 C14(4)-4-1～3
第12回	吉野 伸	悪性腫瘍に用いる薬物	抗悪性腫瘍薬の薬理作用、機序、副作用	C14(5)-8-1～7

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

最新薬理学 廣川書店

指定参考書

グッドマン・ギルマン薬理学、高折、福田、藤原、大森、高木、上條 監訳、廣川書店

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

医薬品毒性学

3年次
前期 必修 1単位

担当教員名 教授 吉野 伸
准教授 水谷 暢明
講師 八巻 耕也

一般目標(GIO)

医薬品毒性とその発現機序に関する基本的知識を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 医薬品毒性発現機序の基本について説明できる。
2. 医薬品毒性発現の変動要因について説明できる。
3. 医薬品による病態発現とその機序について説明できる。
4. 医薬品による器官毒性とその発現機序について説明できる。
5. 医薬品の相互作用とその対応について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

講義前にシラバスおよびテキストを読んで予習をする。講義後は配布されたプリントにある確認テスト問題および記述問題に解答し復習する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	吉野 伸	医薬品の安全性と医療倫理	医薬品トキシコロジー、薬害、医薬品開発、インフォームドコンセント	C13(1)-3-1,2
第2回	吉野 伸	薬物の作用	毒性発現機序の基本、予想される作用、予想されない作用	C13(1)-3-1,2
第3回	吉野 伸	副作用の変動要因(1)	薬物代謝酵素の遺伝子多形、標的組織の感受性(受容体)	C13(1)-3-1,2
第4回	吉野 伸	副作用の変動要因(2)	後天性の要因、薬物依存性、薬物耐性	C13(1)-3-1,2
第5回	吉野 伸	病態発現と副作用(1)	感染、免疫異常	C13(1)-3-1,2
第6回	吉野 伸	病態発現と副作用(2)	アレルギー、炎症、腫瘍、先天異常、発生・遺伝毒性	C13(1)-3-1,2
第7回	八巻 耕也	器官毒性(1)	循環器系、呼吸器系	C13(1)-3-1,2
第8回	八巻 耕也	器官毒性(2)	消化器系、泌尿器系	C13(1)-3-1,2
第9回	八巻 耕也	器官毒性(3)	生殖器系、血液・造血器系、内分泌・代謝系	C13(1)-3-1,2
第10回	水谷 暢明	器官毒性(4)	皮膚・粘膜系、骨・筋系	C13(1)-3-1,2
第11回	水谷 暢明	器官毒性(5)	感覚器系、神経系	C13(1)-3-1,2
第12回	水谷 暢明	臨床トキシコロジー	トキシコキネティクス、医薬品の相互作用とその対応	C13(1)-3-1,2

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

医薬品トキシコロジー(南江堂)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育
専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

薬物動態学 I

3 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 教授

岩川 精吾

一般目標(GIO)

薬物の生体内運命を理解するために、吸収、分布、代謝、排泄の過程に関する基礎的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 薬物の生体膜輸送機構を分類し、その特徴を説明できる。
2. 経口投与後や非経口投与後の薬物吸収の特徴を説明できる。
3. 薬物の吸収に影響する因子を列挙し、説明できる。
4. 薬物の各種臓器、組織への移行の特徴について、説明できる。
5. 薬物代謝の様式を列挙し、説明できる。
6. 薬物の尿中排泄や胆汁中排泄について説明できる。
7. 薬物相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

教科書各章の最後には練習問題があるので、解答してみることを。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	岩川 精吾	薬物の吸収、分布、代謝、排泄過程の概要	薬物の吸収、分布、代謝、排泄過程の概要を紹介する	C13(4)
第2回	岩川 精吾	生体膜の構造と薬物の生体膜輸送機構	生体膜の構造と薬物の生体膜輸送機構を講義する	C13(4)-1-3,4
第3回	岩川 精吾	消化管からの薬物吸収	消化管からの薬物吸収を講義する	C13(4)-1-1,2
第4回	岩川 精吾	消化管からの薬物吸収	消化管からの薬物吸収を講義する	C13(4)-1-1,2
第5回	岩川 精吾	薬物の消化管以外からの吸収	薬物の消化管以外からの吸収を講義する	C13(4)-1-5,6
第6回	岩川 精吾	薬物の体内分布	薬物の体内分布を講義する	C13(4)-2-1,2,3,5,6
第7回	岩川 精吾	薬物のタンパク結合	薬物のタンパク結合を講義する	C13(4)-2-4,7,8
第8回	岩川 精吾	薬物の代謝	薬物の代謝を講義する	C13(4)-3-1~8
第9回	岩川 精吾	薬物の腎排泄	薬物の腎排泄を講義する	C13(4)-4-1,2,3,7
第10回	岩川 精吾	薬物の腎以外からの排泄	薬物の腎以外からの排泄を講義する	C13(4)-4-4,5,6
第11回	岩川 精吾	薬物相互作用と薬効	薬物相互作用を講義する	C13(4)-5-1,2
第12回	岩川 精吾	薬物動態学的薬物相互作用と薬力学的薬物相互作用	薬物動態学的薬物相互作用と薬力学的薬物相互作用を講義する	C13(4)-5-1,2

成績評価方法

出席状況と定期試験から総合的に評価する。

教科書

わかりやすい生物薬剤学第5版(廣川書店)

指定参考書

生物薬剤学改訂第2版(南江堂)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

薬物動態学Ⅱ

3年次

後期 必修 1単位

担当教員名 講師

上田 久美子

一般目標(GIO)

患者個々の薬物投与設計ができるようになるために、薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的知識と技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。
2. 線形コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。
3. 生物学的半減期、全身クリアランス、肝・腎クリアランスについて説明し、計算できる。
4. 経口投与、点滴静注ならびに連続投与における血中濃度計算ができる。
5. 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明でき、非線形性の薬物動態について具体例を挙げ説明できる。
6. 生理学的モデルならびにモデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。
7. 薬力学、薬動力学について概説できる。
8. 治療的薬物モニタリングについて概説できる。
9. 血圧降下薬の体内動態について、薬物速度論の考え方をを用いた説明ができる。

準備学習(予習・復習等)

薬剤師として薬物の投与量、投与間隔などを考える上で非常に重要です。数式を取り扱うため、慣れるのに時間を要しますが、問題を繰り返し解いて理解してください。

数学Ⅰ・Ⅱ、物理化学Ⅰ、薬物動態学Ⅰで学習した内容を用います。しっかり復習しておいてください。

毎回の講義時に、ミニッツペーパーを解いて提出してもらいます。ミニッツペーパーにしっかりと解答できるように、必ず予習してから講義に臨んでください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	上田 久美子	薬物速度論入門	薬物速度論が役立つ場面、薬物動態に関わる代表的なパラメーター	C13(5)-1-1
第2回	上田 久美子	コンパートメントモデル1	線形1-コンパートメントモデル(静脈内投与1)	C13(5)-1-3,6
第3回	上田 久美子	コンパートメントモデル2	線形1-コンパートメントモデル(点滴静注)	C13(5)-1-11
第4回	上田 久美子	コンパートメントモデル3	線形1-コンパートメントモデル(経口投与)	C13(5)-1-3
第5回	上田 久美子	コンパートメントモデル4	線形1-コンパートメントモデル(連続投与)	C13(5)-1-12
第6回	上田 久美子	コンパートメントモデル5	線形2-コンパートメントモデル	C13(5)-1-4
第7回	上田 久美子	非線形薬物速度論	非線形コンパートメントモデル	C13(5)-1-5,8
第8回	上田 久美子	クリアランス1	組織クリアランス、全身クリアランス、肝固有クリアランス	C13(5)-1-7,10
第9回	上田 久美子	クリアランス2 その他の解析法	肝初回通過効果、バイオアベイラビリティ、体内動態に及ぼす種々の要因の変動の影響 生理学的モデル、モデルによらない解析法	C13(5)-1-2,9,10
第10回	上田 久美子	薬力学、薬動力学概論	薬力学、薬動力学	
第11回	上田 久美子	治療的薬物モニタリング入門	治療的薬物モニタリング(TDM)の意義、投与計画	C13(5)-2-1,2,4,5
第12回	上田 久美子	臨床薬理学各論入門(血圧降下薬)	血圧降下薬の体内動態	C14(2)-1-2,2-4

成績評価方法

- ・定期試験(90点)
- ・平常点(10点) 配点内訳:ミニッツペーパーの得点(10点x12回/12)(毎回講義時に配布、回収)

教科書

わかりやすい生物薬剤学 第5版 廣川書店
プリント冊子

指定参考書

ベーシック薬学教科書シリーズ18 薬物動態学 橋田充編 化学同人
徹底解説 薬物動態の数学 第2版 九川文彦編 廣川書店
エピソード薬物動態学—薬物動態学の解明— 辻彰総監修 京都廣川書店
Applied 臨床薬物動態学 岩城正宏他編 京都廣川書店
臨床薬物動態学 実解 芝田信人・杉岡信幸編 京都廣川書店

オフィスアワー

毎講義時のミニッツペーパーは、採点して返却予定。
空きコマにオフィスアワーを設定予定(1回程度)。

臨床検査学 I

3 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 講師

多河 典子

一般目標(GIO)

身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 臨床検査の基準範囲の意味と測定値の評価について説明できる。
2. 腎臓機能、肝臓機能、感染・炎症関係について、代表的な機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。
3. 悪性腫瘍に関する代表的な検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。
4. 尿および糞便を用いた代表的な検査を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。
5. 心臓機能、呼吸機能、動脈血ガス分析、電解質の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

授業時間を厳守し、私語を慎むこと。

復習を必ず行うこと。

復習には自分のノートを作成し、十分に活用すること。

講義は連続性があるため、毎回出席すること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	多河 典子	臨床検査の基礎 肝臓・腎臓関連	基準範囲の意味 血清タンパク質、肝硬変、ネフローゼ症候群、多発性骨髄腫	C14-(1)-2-1,2
第2回	多河 典子	感染・炎症関連 血清異常タンパク質	炎症マーカー、C反応性タンパク質(CRP)、赤血球沈降速度、末梢白血球数、抗streptolysin O抗体力価(ASLO)、 α -フェトプロテイン、癌胎児性抗原	C14-(1)-2-7,8
第3回	多河 典子	腎臓関連	尿素、クレアチン、クレアチニン、シスタチンC、糸球体濾過値(クレアチニンクリアランス、eGFR)、腎不全、尿路結石、糸球体腎炎、尿中 β 2-ミクログロブリン、尿中微量アルブミン、糖尿病性腎症、近位尿細管障害	C14(1)-2-2 C14(1)-2-2
第4回	多河 典子	尿酸代謝 肝臓・胆臓関連	尿酸、高尿酸血症、痛風 生体色素(ビリルビン、ヘモグロビン)、閉塞性黄疸、胆石、胆肝癌	C14-(1)-2-2,6,9 C14-(1)-2-1
第5回	多河 典子	肝臓関連	トランスアミナーゼ(AST、ALT)、乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)、細胞障害型肝障害(急性・慢性肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害、脂肪肝)	C14-(1)-2-1
第6回	多河 典子	心臓機能関連	クレアチンキナーゼ(CK)、心筋トロポニンT、心筋梗塞、進行性筋ジストロフィー	C14(1)-2-4
第7回	多河 典子	肝臓・胆臓関連 膵臓関連	コリンエステラーゼ(ChE)、アルカリホスファターゼ(ALP)、酸ホスファターゼ(AcP)、 γ -グルタミルトランスペプチダーゼ(γ -GT)、ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)、胆汁うっ滞型肝障害(胆道閉塞) アミラーゼ、急性膵炎	C14-(1)-2-1 C14-(1)-1-1
第8回	多河 典子	電解質	血清ナトリウムイオン、カリウムイオン、副腎皮質機能亢進症、副腎皮質機能低下症	C14-(1)-2-6
第9回	多河 典子	無機質	血清塩素イオン、重炭酸イオン、pH、代謝性・呼吸性アシドーシス/アルカローシス	C14-(1)-2-10
第10回	多河 典子	無機質	カルシウム、リン、マグネシウム、鉄、銅、副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症	C14-(1)-2-6
第11回	多河 典子	尿・便検査、主な悪性腫瘍マーカー	尿(タンパク、糖、潜血、ケトン体、ウロビリノーゲン、比重、pH、亜硝酸塩、混濁、沈渣) 便潜血 腫瘍マーカー(AFP、PIVKA-II、CEA、CA19-9、CYFRA21、SCC、CA15-3、BCA225、CA125、CA19-9、PSA、PAP、 γ -Sm)	C14-(1)-2-8,9
第12回	多河 典子	心臓機能検査 呼吸機能検査 動脈血ガス分析	心電図 ガス代謝(スパイロメトリー) 酸素分圧、炭酸ガス分圧	C14-(1)-2-3,4,10

成績評価方法

定期試験(100点)

基礎
教育

教育
養

教
専
門

教科書

薬学生のための病態検査学 南江堂

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育
専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

臨床検査学Ⅱ

3 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 加藤 郁夫
講師 藤波 綾

一般目標(GIO)

・身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
2. 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。
ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、たんぱく尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害
3. 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
4. 免疫化学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
5. 血液検査、血液凝固機能検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

病態を正しく捉えるためには臨床検査値を理解しておくことが大切です。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	加藤 郁夫	臨床検査概要とフィジカルアセスメント	代表的なバイタルサインを列挙し、目的と異常所見を説明できる。	C14(1)-2-11
第2回	加藤 郁夫	症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる(1)	ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向	C14(1)-1-1
第3回	加藤 郁夫	症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる(2)	リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、	C14(1)-1-1
第4回	加藤 郁夫	症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる(3)	下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、たんぱく尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常・神経痛、視力障害、聴力障害	C14(1)-1-1
第5回	加藤 郁夫	代謝系検査(1)	糖質検査	C14(1)-2-6
第6回	加藤 郁夫	代謝系検査(2)	脂質・尿酸検査	C14(1)-2-6
第7回	加藤 郁夫	内分泌検査(1)	副腎皮質刺激ホルモン・副腎皮質ホルモン、レニン・アンジオテンシン系、甲状腺刺激ホルモン・甲状腺ホルモン	C14(1)-2-6
第8回	加藤 郁夫	内分泌検査(2)	副甲状腺ホルモン・カルシトニン、成長ホルモン、抗利尿ホルモン、プロラクチン、インスリン・C-ペプチド、ナトリウム利尿ペプチド	C14(1)-2-6
第9回	加藤 郁夫	内分泌検査(3)	性腺刺激ホルモン放出ホルモン・性腺刺激ホルモン、ヒト絨毛性ゴナドトロピン、男性ホルモン・女性ホルモン	C14(1)-2-6
第10回	藤波 綾	血液検査(1)	赤血球、白血球、血小板	C14(1)-2-5
第11回	藤波 綾	血液検査(2)	出血・凝固検査、凝固因子、線溶系	C14(1)-2-5
第12回	藤波 綾	血液検査(3)	貧血、白血病、血友病、播種性血管内凝固症候群(DIC)	C14(1)-2-5

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

薬学生のための病態検査学(南江堂)、プリント

指定参考書

特になし。

オフィスアワー

質問は随時受け付けます。

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

専門教育

専門教育

専門教育

内分泌学

3 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授
講師

加藤 郁夫
多河 典子

一般目標(GIO)

代表的な内分泌・代謝（糖尿病）疾患の病態とその治療薬の作用機序や副作用を理解するために必要な基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. ホルモンの作用機序（細胞内情報伝達）を説明できる。
2. ホルモンの種類と作用を臓器別に説明できる。
3. ホルモンの分泌調節機序を説明できる。
4. 代表的な内分泌疾患を挙げ、その病態と発症機序を説明できる。
5. 代表的な内分泌疾患の治療法を説明できる。
6. 生殖器疾患の病態、治療薬およびその使用上の注意について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

配布するプリントと教科書を有効に活用し必ず復習をすること。
質問は随時研究室に尋ねて来てください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	加藤 郁夫	ホルモンの概要と作用機序（細胞内情報伝達）、細胞膜受容体・核内（細胞内）受容体	内分泌系、細胞間情報伝達様式、ホルモンの構造・種類、Gタンパク質共役型受容体、チロシンキナーゼ関連受容体	C8(3)-2-1 C9(5)5-1,2,3,4
第2回	加藤 郁夫	ホルモンの生理作用と分泌調節機序1、	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモン、視床下部 - 下垂体 - 甲状腺系、視床下部 - 下垂体 - 副腎系、視床下部 - 下垂体 - 性腺系	C9(5)-1,2,3,4
第3回	加藤 郁夫	ホルモンの生理作用と分泌調節機序2、	下垂体後葉ホルモン、膵臓ホルモン	C8(3)-2-2 C9(5)-1
第4回	加藤 郁夫	ホルモンの生理作用と分泌調節機序3、	カルシウム代謝ホルモン	C9(5)5-1,3
第5回	加藤 郁夫	ホルモンの生理作用と分泌調節機序4、	消化管ホルモン、甲状腺ホルモン	C9(5)5-1,2
第6回	加藤 郁夫	ホルモンの生理作用と分泌調節機序5、	副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモン	C9(5)5-2,3
第7回	加藤 郁夫	ホルモンの生理作用と分泌調節機序6、	男性ホルモン、タンパク同化ステロイド、女性ホルモン、ビル	C9(5)5-3
第8回	加藤 郁夫	オータコイドの生理作用と分泌調節	レニン - アンジオテンシン系、ブラジキニン、心房性ナトリウム利尿ペプチド、エンドセリン、一酸化窒素	C9(5)-2-1,4,5,6
第9回	加藤 郁夫	代表的な内分泌疾患の病態、発症機序、治療薬、副作用、検査法1、	下垂体前葉機能低下症、高プロラクチン血症、成長ホルモン分泌不全症、先端巨大症・巨人症、甲状腺機能亢進症（バセドウ病）、甲状腺機能低下症（クレチン病、橋本病）	C13(3)-1-1 C14(1)-2-6 C14(3)-4-1,2,3,4,5
第10回	加藤 郁夫	代表的な内分泌疾患の病態、発症機序、治療薬、副作用、検査法2、	クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、尿崩症	C13(3)-1-1 C14(1)-2-6 C14(3)-4-1,2,3,4,5
第11回	多河 典子	生殖器疾患の病態、発症機序、治療薬とその使用上の注意	子宮内膜症、乳癌、子宮癌の治療薬、前立腺肥大症の病態生理、治療薬およびその使用上の注意、前立腺癌、子宮癌、子宮内膜症の概説	C13(3)-1-1,3 C14(3)2-1,2,3
第12回	多河 典子	生殖器疾患の病態、発症機序、治療薬とその使用上の注意	子宮内膜症、乳癌、子宮癌の治療薬、前立腺肥大症の病態生理、治療薬およびその使用上の注意、前立腺癌、子宮癌、子宮内膜症の概説	C13(3)-1-1,3 C14(3)2-1,2,3

成績評価方法

定期試験（100点）

教科書

基礎から学ぶ内分泌学（厚味巖一編）エルゼビア・ジャパン、プリント

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

感染制御学

3年次

後期 必修 1単位

担当教員名 講師

児玉 典子

基礎
教育

教育
養

教
育
専
門

一般目標(GIO)

生体内で異常に増殖あるいは複製することにより人体に疾患を生じる細菌、ウイルス、真菌、原虫・寄生虫などに対する薬物の作用機序を理解し、薬物治療へ応用できるようになるために、抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗寄生虫薬に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 病原微生物に対する化学療法の基本概念について説明できる。
2. 代表的な抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床応用を説明できる。
3. 主な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。
4. 代表的な細菌感染症の治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
5. 代表的なウイルス感染症の治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
6. 代表的な真菌感染症の治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
7. 代表的な原虫・寄生虫感染症の治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

- ・予習(授業を受ける前に教科書や配布資料を読んで、わからないところや重要箇所を抜き出しておくこと。既修得科目である微生物学の内容を復習しておくこと。)
- ・復習(教科書や配布プリントの内容を理解し、表や図を含む自分のノートを作成しておくこと。)
- ・自主学習(基本的な重要単語及びその内容について、教科書及び配布資料などを読んで理解しておくこと。)

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	児玉 典子	感染制御学概論・感染症診断の基本	感染経路・感染部位、原因微生物、感染症治療薬の選択・治療・副作用	C14(5)
第2回	児玉 典子	原因微生物の基本	細菌、真菌、ウイルス、原虫・寄生虫	C14(5)-1
第3回	児玉 典子	グラム陽性菌感染症に関する病態・治療	ブドウ球菌、肺炎球菌、腸球菌など	C14(5)-2
第4回	児玉 典子	グラム陽性菌感染症に関する病態・治療	クロストリジウム属菌、リステリア、セレウス菌、炭疽菌など	C14(5)-2
第5回	児玉 典子	グラム陰性菌感染症に関する病態・治療	腸内細菌群、インフルエンザ菌、百日咳菌など	C14(5)-2
第6回	児玉 典子	グラム陰性菌感染症に関する病態・治療	淋菌、髄膜炎菌、ピロリ菌など	C14(5)-2
第7回	児玉 典子	その他の細菌感染症に関する病態・治療	結核菌、らい菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、レジオネラ、スピロヘータ、梅毒など	C14(5)-2
第8回	児玉 典子	ウイルス感染症に関する病態・治療	単純ヘルペスウイルス、EBウイルス、サイトメガロウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、ライノウイルス、SARS コロナウイルス、アデノウイルスなど	C14(5)-5
第9回	児玉 典子	ウイルス感染症に関する病態・治療	ウイルス性肝炎ウイルス(HAV、HBV、HCV)、エイズウイルス(HIV)	C14(5)-5
第10回	児玉 典子	真菌感染症に関する病態・治療	白癬菌、カンジダ、クリプトコッカス、ニューモシスチス、アスペルギルスなど	C14(5)-4
第11回	児玉 典子	感染症治療薬のまとめ	抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗寄生虫薬の薬理(薬理作用・機序・主な副作用)	C14(5)
第12回	児玉 典子	薬剤耐性菌による院内感染	MRSA、VRE、セラチア、多剤耐性緑膿菌などの薬剤耐性菌の耐性獲得機構及び院内感染の感染経路・予防方法・病態・薬物治療	C14(5)-6

成績評価方法

定期試験(100%)

教科書

- ・感染制御学授業テキスト(京都廣川書店)
- ・必要に応じてプリントの配布、スライドを用いた講義を行う。

指定参考書

- ・化学療法学、医療のあるべき姿を見据えて、一抗生物質最前線― 山口 明人著(京都廣川書店)
- ・スタンダード薬学シリーズ6 薬と疾病 III. 薬物治療(2)および薬物治療に役立つ情報(東京化学同人)

オフィスアワー

オフィスアワーは必要に応じて行う。

薬物治療学 I

3 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授 加藤 郁夫

一般目標(GIO)

将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、脳血管系疾患、神経・筋の疾患、代謝性疾患、血液・造血器の疾患についての病態生理、およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
2. てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
3. パーキンソン病、アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
4. 神経・筋に関する代表的な疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
5. 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
6. 脂質異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
7. 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
8. 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
9. 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
10. 播種性血管内凝固症候群(DIC)、血友病、紫斑病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

配布するプリントを十分に活用し、必ず復習する事。
質問は随時研究室に尋ねて来てください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	加藤 郁夫	脳血管系疾患	脳出血、くも膜下出血、脳梗塞(アテローム血栓症、心原性、ラクナ)、TIA	C14(3)-6-2
第2回	加藤 郁夫	てんかん	強直間代発作、精神運動発作、小発作	C14(3)-6-3
第3回	加藤 郁夫	神経変性疾患	パーキンソン病、アルツハイマー病	C14(3)-6-4,5
第4回	加藤 郁夫	神経・筋疾患	重症筋無力症、脳炎、髄膜炎、脳腫瘍、多発性硬化症、GBS、ALS	C14(3)-6-1
第5回	加藤 郁夫	血液・造血器疾患	貧血、白血病、DIC、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血友病、紫斑病、vWD	C14(2)-3-1~5
第6回	加藤 郁夫	血液・造血器疾患	貧血、白血病、DIC、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血友病、紫斑病、vWD	C14(2)-3-1~5
第7回	加藤 郁夫	血液・造血器疾患	貧血、白血病、DIC、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血友病、紫斑病、vWD	C14(2)-3-1~5
第8回	加藤 郁夫	代謝性疾患	糖尿病(1型、2型)	C14(3)-5-1
第9回	加藤 郁夫	代謝性疾患	糖尿病(1型、2型)	C14(3)-5-1
第10回	加藤 郁夫	代謝性疾患	脂質異常症	C14(3)-5-2
第11回	加藤 郁夫	代謝性疾患	脂質異常症	C14(3)-5-2
第12回	加藤 郁夫	代謝性疾患	高尿酸血症・痛風	C14(3)-5-3

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

プリント

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

薬物治療学Ⅱ

3年次

後期 必修 1単位

担当教員名 教授

力武 良行

一般目標(GIO)

将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、悪性腫瘍の疫学と検査法、薬物治療の位置づけを修得する。また、消化器系疾患の病態、診断に利用される代表的な検査法と、治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 腫瘍の定義、悪性腫瘍の疫学とリスク因子、検査法、薬物治療の位置づけについて説明できる。
2. 腹部疾患の代表的な画像検査法について説明できる。
3. 消化管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
4. 肝胆膵疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

準備学習としては、関連分野の生理学、薬理学の知識の整理が必要です。

授業後は必ず資料を見直し、分からないことがあれば自己学習や質問で解決してください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	力武 良行	腫瘍学総論	腫瘍の定義、疫学、検査法	C12(5)-7-1
第2回	力武 良行	腹部画像診断	腹部超音波検査、内視鏡検査、CT検査、MRI検査	C2(3)-2-7
第3回	力武 良行	消化管疾患①	胃食道逆流症、消化性潰瘍、胃炎	C12(2)-4-1,2,6
第4回	力武 良行	消化管疾患②	炎症性腸疾患	C12(2)-4-1,3,6
第5回	力武 良行	消化管疾患③	消化管感染症、機能的消化管障害	C12(2)-4-1,3,6
第6回	力武 良行	消化管疾患④	薬剤性消化管障害、消化器症状	C12(2)-4-1,6
第7回	力武 良行	消化管疾患⑤	消化管悪性腫瘍	C12(2)-4-6
第8回	力武 良行	消化管疾患⑥	消化管悪性腫瘍	C12(2)-4-6
第9回	力武 良行	肝胆膵疾患①	ウイルス性肝炎	C12(2)-4-4
第10回	力武 良行	肝胆膵疾患②	非アルコール性脂肪性肝疾患、肝硬変	C12(2)-4-4,6
第11回	力武 良行	肝胆膵疾患③	胆石症、胆道感染症、膵炎	C12(2)-4-5,6
第12回	力武 良行	肝胆膵疾患④	肝胆膵悪性腫瘍	C12(2)-4-6

成績評価方法

定期試験(80%)、受講態度(20%)

教科書

資料を配布します

指定参考書

病気がみえる vol.1 消化器(メディックメディア)

オフィスアワー

質問がある時は随時受け付けます(5号館2階 医療薬学研究室)

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

薬物治療学Ⅲ

3年次
後期 必修 1単位

担当教員名 教授 江本 憲昭
准教授 池田 宏二
講師 八木 敬子

一般目標(GIO)

将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、心臓と血管系疾患、呼吸器・胸部疾患およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的技能を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができ、不整脈、心不全、高血圧、虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
2. 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができ、閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

薬物治療に関する基本的知識と技能を修得するためには、疾患の病態生理および薬理学を含めた広範な知識とその応用が必要です。これまで学んだことをよく復習して講義に臨んでください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	江本 憲昭	心臓・血管系の疾患(1)	循環器疾患総論	C14(1)-1-1 C14(1)-2-4 C14(2)-2-1
第2回	江本 憲昭	心臓・血管系の疾患(2)	心不全①	C14(2)-2-3
第3回	江本 憲昭	心臓・血管系の疾患(3)	心不全②	C14(2)-2-3
第4回	江本 憲昭	心臓・血管系の疾患(4)	虚血性心疾患①	C14(2)-2-5
第5回	江本 憲昭	心臓・血管系の疾患(5)	虚血性心疾患②	C14(2)-2-5
第6回	江本 憲昭	心臓・血管系の疾患(6)	不整脈①	C14(2)-2-2
第7回	江本 憲昭	心臓・血管系の疾患(7)	不整脈②	C14(2)-2-2
第8回	江本 憲昭	心臓・血管系の疾患(8)	高血圧①	C14(2)-2-4
第9回	江本 憲昭	心臓・血管系の疾患(9)	高血圧② 血管疾患、心原性ショック	C14(2)-2-4 C14(2)-2-6
第10回	八木 敬子	呼吸器・胸部の疾患(1)	呼吸器・胸部の疾患総論	C14(1)-1-1 C14(1)-2-3 C14(3)-3-1
第11回	八木 敬子	呼吸器・胸部の疾患(2)	閉塞性気道疾患	C14(3)-3-2
第12回	八木 敬子	呼吸器・胸部の疾患(3)	上気道炎、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳がん、胸郭疾患	C14(3)-3-3

成績評価方法

定期試験(100%)

教科書

プリント

指定参考書

病態生理ビジュアルマップ I 呼吸器疾患/循環器疾患(医学書院)
病気が見える vol.2 循環器(MEDIC MEDIA)
病気が見える vol.4 呼吸器(MEDIC MEDIA)

オフィスアワー

随時

調剤学 I

3 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 杉山 正敏
教授 田内 義彦
講師 辰見 明俊
講師 猪野 彩
講師 河内 正二

一般目標(GIO)

病院および薬局における薬剤師の基本的な業務は、調剤である。調剤とは、処方せんに記載されているとおりに、間違いなく取り揃えるだけの行為ではなく、患者が安心して、安全に薬物治療を継続するためには、処方せんの鑑査、疑義照会、調剤後鑑査、服薬指導、薬剤服用歴への記録など、薬剤師としての多くのスキルを要する。調剤学 I では、薬剤師の使命、保険調剤、処方せんなどの法的な部分を含む調剤の基本的な知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。
3. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。
6. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。
7. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。
8. 処方オーダリングシステムを概説できる。
9. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。
10. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。
11. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。
12. 患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。
13. 患者の特性に適した用量を計算できる。
14. 病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。
15. 院内感染の回避方法について説明できる。
16. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。
17. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。
18. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。

準備学習(予習・復習等)

講義内容については、4年次の実務実習事前教育および5年次の実務実習だけでなく、薬剤師としても必要な知識である。講義内容を復習して、しっかりと理解しておくこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田内 義彦	医療における薬剤師の使命 薬剤師の位置づけと役割 保険調剤と医薬分業の仕組み	医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。 医薬分業の仕組みと意義を概説できる	D1
第2回	田内 義彦	疑義照会の意義 医療チームの構成や各構成員の役割 チーム医療における薬剤師の役割	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる チーム医療における薬剤師の役割を説明できる	D1
第3回	猪野 彩	処方せんの法的位置づけと機能 処方オーダリングシステム	処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。 処方オーダリングシステムを概説できる。 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。 不適切な処方せんの処置について説明できる。	D1
第4回	猪野 彩	服薬指導の意義 患者の基本的権利	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	D1
第5回	辰見 明俊	代表的な医薬品の用法・用量 その1	代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。 その1	D1
第6回	辰見 明俊	代表的な医薬品の用法・用量 その2	代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。 その2	D1
第7回	杉山 正敏	患者の特性に適した用法・用量	患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。 患者の特性に適した用量を計算できる。	D1
第8回	杉山 正敏	病態に適した用量設定 その1	病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。 その1	D1
第9回	杉山 正敏	病態に適した用量設定 その2	病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。 その2	D1

教基
育礎

教教
育養

教專
門

教基
育礎

教教
育養

教專
門

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

第10回	河内 正二	院内感染の回避方法	院内感染の回避方法について説明できる。	D1
第11回	河内 正二	代表的な消毒薬	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。 消毒薬調製時の注意点を説明できる。	D1
第12回	辰見 明俊	院内製剤の意義と品質管理	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。 無菌操作の原理を説明できる。	D1

成績評価方法

定期試験のみで評価を行う。

教科書

スタンダード薬学シリーズ（日本薬学会 編）第 10 巻「実務実習事前学習 病院・薬局実習に行く前に」東京化学同人

指定参考書

調剤指針〈第 13 改訂〉・日本薬剤師会編・薬事日報社

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育
専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

調剤学Ⅱ

3 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授 濱口 常男
教授 沼田 千賀子
准教授 波多江 崇
講師 竹下 治範

一般目標(GIO)

病院および薬局における薬剤師の基本的な業務は、調剤である。調剤とは、処方せんに記載されているとおりに、間違いなく取り揃えるだけの行為ではなく、患者が安心して、安全に薬物治療を継続するためには、処方せんの鑑査、疑義照会、調剤後鑑査、服薬指導、薬剤服用歴への記録など、薬剤師としての多くのスキルを要する。調剤学Ⅱでは、医薬品管理および服薬指導を中心に薬剤師として必要な知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 医薬品管理の意義と重要性について説明できる。
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。
3. 毒薬・劇薬の管理及び取り扱いについて説明ができる。
4. 麻薬、向精神薬などの管理取り扱いについて説明できる。
5. 血漿分画製剤の管理及び取り扱いについて説明ができる。
6. 輸血用血液製剤の管理及び取り扱いについて説明できる。
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。
8. 生物製剤の管理と取り扱いについて説明できる。
9. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。
10. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。
11. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。
12. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。
13. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

講義内容については、4年次の実務実習事前教育および5年次の実務実習だけでなく、薬剤師としても必要な知識である。講義内容を復習して、しっかりと理解していくこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	濱口 常男	計数・計量調剤のシミュレート(1)	処方せん例に従って、実際の計数・計量調剤の要点解説	D1
第2回	濱口 常男	計数・計量調剤のシミュレート(2)および医薬品製剤の管理	実際の計数・計量調剤の演習および医薬品製剤の購入、在庫、供給、使用及び経済の管理について	D1
第3回	濱口 常男	医薬品製剤の安定性・保存性	代表的な剤形の安定性と保存性について	D1
第4回	竹下 治範	毒薬・劇薬、麻薬・向精神薬、血漿分画製剤および輸血製剤	毒薬・劇薬および麻薬・向精神薬、血漿分画製剤および輸血製剤の管理と取り扱い	D1
第5回	竹下 治範	生物製剤	生物製剤の管理および取り扱い(投薬、廃棄など)	D1
第6回	沼田 千賀子	患者接遇	患者接遇に必要な基本的なコミュニケーションスキルについて	D1
第7回	沼田 千賀子	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点 代表的な疾患の注意すべき生活指導項目	病院(病棟)薬剤師の業務に関連したものを中心に扱う	D1
第8回	沼田 千賀子	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点 代表的な疾患の注意すべき生活指導項目	病院(病棟)薬剤師の業務に関連したものを中心に扱う	D1
第9回	波多江 崇	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点 代表的な疾患の注意すべき生活指導項目	薬局薬剤師の業務に関連したものを中心に扱う	D1
第10回	波多江 崇	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点 代表的な疾患の注意すべき生活指導項目	薬局薬剤師の業務に関連したものを中心に扱う	D1
第11回	沼田 千賀子	服薬指導に必要な患者情報 医師、看護師などとの情報の共有化	問題志向型システム(POS)に基づくSOAP方式による服薬指導の記録	D1
第12回	波多江 崇	服薬指導に必要な患者情報 医師、看護師などとの情報の共有化	薬局薬剤師の業務に関連したものを中心に扱う	D1

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

成績評価方法

定期試験のみで評価を行う。

教科書

配布プリント

指定参考書

スタンダード薬学シリーズ9 薬学と社会（第3版） 日本薬学会編（東京化学同人）
薬学生のための計算実践トレーニング帳（前田初男編） 化学同人

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専
育門

基礎
教育

教育
養

専
育門

基礎
教育

専
門教育

専
門教育

専
門教育

専
門教育

薬剤設計学 I

3 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 准教授

寺岡 麗子

一般目標 (GIO)

医薬品の用途に応じた適切な剤形を調製するために、製剤の種類、有効性、安全性、品質などに関する基本的知識を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。
2. 経口投与する製剤の種類と性質について説明できる。
3. 皮膚などに適用する製剤の種類と性質について説明できる。
4. 直腸、腔に適用する製剤の種類と性質について説明できる。
5. 気管支・肺に適用する製剤の種類と性質について説明できる。
6. 注射により投与する製剤の種類と性質について説明できる。
7. 目、耳、鼻に投与する製剤の種類と性質について説明できる。
8. 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。
9. 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。
10. 製剤化の単位操作及び汎用される製剤機械について説明できる。
11. 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。
12. 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。

準備学習 (予習・復習等)

特になし

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	寺岡 麗子	代表的な剤形の種類	日本薬局方製剤総則における剤形分類について	C16(2)-1-1
第2回	寺岡 麗子	経口投与する製剤 口腔内に適用する製剤	錠剤、カプセル剤、顆粒剤について 散剤、経口服液剤、シロップ剤、経口ゼリー剤について 口腔用錠剤、口腔用スプレー剤、口腔用半固形剤、口腔用液剤について	C16(2)-1-2 C16(2)-1-2.4
第3回	寺岡 麗子	注射により投与する製剤	注射剤について	C16(2)-1-5
第4回	寺岡 麗子	粘膜に適用する製剤 (点眼剤、 吸入剤など)	点眼剤、眼軟膏剤、点耳剤、点鼻剤、吸入剤について	C16(2)-1-4,5
第5回	寺岡 麗子	直腸・腔に適用する製剤	坐剤、直腸用半固形剤、注腸剤、腔錠、腔用坐剤について	C16(2)-1-3
第6回	寺岡 麗子	皮膚に適用する製剤	外用固形剤、外用液剤、スプレー剤、軟膏剤、クリーム剤、ゲル剤、貼付剤について	C16(2)-1-3,4,6
第7回	寺岡 麗子	その他の製剤	生薬関連製剤、透析に用いる製剤について	C16(2)-1-1
第8回	寺岡 麗子	代表的な製剤添加剤 製剤の有効性と安全性評価法	固形剤、半固形剤、液状製剤に用いられる添加剤の種類と代表的な添加剤について 製剤の有効性と安全性の評価について 製剤の安定性評価法について	C16(2)-1-7 C16(2)-1-8
第9回	寺岡 麗子	製剤の単位操作	製剤化の単位操作と使用される製剤機械	C16(2)-2-1
第10回	寺岡 麗子	製剤の製造 製剤の容器・包装	錠剤、注射剤の製造について 固形剤、半固形剤、注射剤に用いられる容器と包装	C16(2)-2-1,3
第11回	寺岡 麗子	製剤に関連する代表的な試験法	化学的試験法、物理的試験法、粉体物性測定、生物学的試験法などについて 製剤試験法について 参考情報について	C16(2)-3-1
第12回	寺岡 麗子	医薬品企業での製剤開発研究	製薬企業での製剤開発の実際について	C16(2)-2-1,3

成績評価方法

定期試験 (90 点)、平常点 (受講態度、レポート、小テスト) (10 点)

教科書

ベーシック薬学教科書シリーズ 20 薬剤学第 2 版 (北河修治 編、化学同人)

指定参考書

基礎から学ぶ製剤化のサイエンス (増補版) (山本恵司監修 高山幸三、寺田勝英、宮嶋勝春編、エルゼビア・ジャパン)
最新製剤学第 4 版 (上釜兼人、川島嘉明、松田芳久編、廣川書店)
NEW パワーブック物理薬剤学・製剤学 第 2 版 (金尾義治、北河修治編集、廣川書店)
第十七改正日本薬局方解説書 (廣川書店)
必携 日本薬局方試験法ガイド日局 16 対応 (社) 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団編

オフィスアワー

質問は随時。病院で処方された医薬品の添付文書をインターネット等で調べ、用いられている添加剤を確認してみてください。また、それぞれの添加剤がどのような目的で添加されているのか考えてみてください。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

医療統計学 I

3 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 講師

森脇 健介

一般目標(GIO)

医薬品開発、治験業務、薬剤疫学、薬剤経済学などの領域におけるプロトコル作成、データ解析および評価に必要な統計学の基本的知識と技能を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 統計学的推定および仮説検定の考え方を理解できる。
2. 根拠に基づく医療 (EBM: Evidence-Based Medicine) の考え方と実践のプロセスを概説できる。
3. 臨床研究でよく用いられるデザインの特徴やバイアスの回避法、評価指標について概説できる。
4. 各種検定の特徴を理解し、データに応じた適切な解析方法を選択できる。
5. 線形回帰分析の理論と医療分野での応用について概説できる。
6. 多重比較の考え方と代表的な方法について説明できる。
7. ロジスティック回帰や生存時間分析、メタアナリシスなど医療分野での統計解析手法について理解できる。

準備学習(予習・復習等)

教科書をベースに適宜、板書・視覚教材を援用しながら講義を行う。講義外の自主的な学習を推奨する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	森脇 健介	医療統計学入門	なぜ医療統計学は必要か?	C15(1)-5 C17(5)-1,2
第2回	森脇 健介	医療データの取り扱い	データの要約、確率分布、標本抽出と推定、仮説検定	//
第3回	森脇 健介	研究デザイン	ランダム根拠に基づく医療 (EBM)、研究デザインの種類と主要な要素	//
第4回	森脇 健介	ランダム化比較試験	ランダム化、交絡とは、盲検化、エンドポイント	//
第5回	森脇 健介	2群比較検定の使い分け	量的データの対応のある2群の比較、量的データの独立2群の比較、質的データの独立2群の比較	//
第6回	森脇 健介	コホート研究	デザインの特徴、相対リスク比	//
第7回	森脇 健介	症例対照研究	デザインの特徴、オッズ比	//
第8回	森脇 健介	3群以上の比較	分散分析、多重比較検定	//
第9回	森脇 健介	線形回帰分析	相関と回帰、線形回帰の理論、重回帰分析	//
第10回	森脇 健介	ロジスティック回帰分析	ロジスティック回帰	//
第11回	森脇 健介	生存時間分析	カプランマイヤー法、ログランク検定、Cox 比例ハザードモデル	//
第12回	森脇 健介	メタアナリシス	メタアナリシス、固定効果と変量効果	//

成績評価方法

提出課題 (20%)、定期試験 (80%) により評価する。

教科書

1. ゼロから学ぶ医療統計教室 (佐藤泰憲、五所正彦 著) メジカルレビュー社

指定参考書

1. 医学への統計学 第3版 (古川俊之 監修/丹後俊郎 著) 朝倉書店
2. これからの臨床試験—医薬品の科学的評価—原理と方法— (椿広計、藤田利治、佐藤俊哉 編) 朝倉書店
3. わかってきたかも!? 「医療統計」 (五十嵐中、佐條麻里、高瀬義昌 著) 東京図書
4. 「医療統計」わかりません!! (五十嵐中、佐條麻里 著) 東京図書

オフィスアワー

質問等があれば研究室に来て下さい。

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

放射線管理学

3 年次

前期 選択 1 単位

担当教員名 講師

安岡 由美

一般目標 (GIO)

核医学診断法は最先端医療に不可欠なものとなっている。そのため、放射性物質を安全かつ有効に取り扱えるように、放射線の性質や人体に及ぼす影響に関する基礎知識を修得する。そして、薬剤師として必要な放射性医薬品をはじめとした放射線を用いた診断・治療について理解する。

到達目標 (SBOs)

1. 放射線の生体への影響が説明できる。
2. 代表的な画像診断技術について概説できる。
3. 放射性医薬品の特徴について説明できる。
4. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。
5. 放射性医薬品の品質管理に関する試験法を説明できる。

準備学習 (予習・復習等)

復習：練習問題を解くこと (1 時間)。放射線取扱主任者 (国家資格) の資格を取ることができれば、仕事の選択の幅も広がります。放射線取扱主任者 (国家資格) に関する質問には、随時対応します (5 号館 2 階 放射線管理室)。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第 1 回	安岡 由美	放射と放射能 1	電離放射線の種類と性質	C1(1)-4-1,2
第 2 回	安岡 由美	放射と放射能 2	核反応、放射平衡、	C1(1)-4-3,4 C12(2)-1-7
第 3 回	安岡 由美	放射と放射能 3	放射線測定 1	C1(1)-4-5
第 4 回	安岡 由美	放射と放射能 4	放射線測定 2	C1(1)-4-5
第 5 回	安岡 由美	人体への影響 1	体外被ばくと体内被ばく 生体組織の放射線感受性	C12(1)-5-1,2
第 6 回	安岡 由美	人体への影響 2	電離放射線の防御	C12(1)-5-3,4,5
第 7 回	安岡 由美	画像診断技術 1	画像診断技術 (X 線診断、CT スキャン、MRI)	C2(3)-2-7 C12(1)-5-6
第 8 回	安岡 由美	画像診断技術 2 画像診断薬	画像診断技術 (超音波) 造影剤について	C2(3)-2-7,8 C12(1)-5-6
第 9 回	安岡 由美	放射性医薬品 1	SPECT 検査・PET 検査	C2(3)-2-8 C12(1)-5-6
第 10 回	安岡 由美	放射性医薬品 2	ガンの放射線治療	C2(3)-2-8 C12(1)-5-6
第 11 回	安岡 由美	安全管理 1	放射性医薬品の管理	C18(1)-4-1,2
第 12 回	安岡 由美	安全管理 2	事故例と対策	C18(1)-4-1,2

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

「New 放射化学・放射薬品学 (第 2 版)」 廣川書店
スタンダード薬学シリーズ (日本薬学会編) 第 2 巻 「物理系薬学 I. 物質の物理的性質」 東京化学同人

指定参考書

放射線取扱の基礎—第 1 種放射線取扱主任者試験の要点— (第 7 版) 日本アイソトープ協会編、丸善
放射線概論—第 1 種放射線試験受験用テキスト (第 8 版)、柴田徳思 (編) 通商産業社
第 1 種放射線取扱主任者試験 マスター・ノート (第 2 版)、福士政広 (編) メジカルビュー社

オフィスアワー

授業に関する質問には、随時対応します (5 号館 2 階 放射線管理室)。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

医療統計学ⅡA

3年次
後期 選択 1単位

担当教員名 准教授 波多江 崇

一般目標(GIO)

薬剤師および薬学生にとって必要な統計とは、研究データを集計・解析したり、添付文書やインタビューフォーム、治療ガイドラインに掲載されているデータを理解できることである。そこで、本科目では、エクセルを使用して、実際にデータの集計・解析の経験を通して、医療統計に関する基本的な知識と技能を修得する。
医療統計学ⅡAは、統計を苦手とする学生を対象に、基本的な内容を実際の計算などを通して理解を深め、CBTおよび薬剤師国家試験の問題に対応できるようにする。

到達目標(SBOs)

- EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。
- 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。
- 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。
- メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。
- 基本的な統計量(平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など)を説明できる。
- 臨床研究(治験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を列挙し、それらの特徴を概説できる。
- 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。
- 観察研究での主な疫学研究デザイン(症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ケースコホート研究など)について概説できる。
- 介入研究の効果指標(真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント)の違いを、例を挙げて説明できる。
- 臨床研究の結果(有効性、安全性)の主なパラメータ(相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合)を説明し、計算できる。

準備学習(予習・復習等)

データの意味を理解し、加工できることは、卒業研究や実務実習、将来の薬剤師業務にとって重要なスキルである。その場限りの技能にせず、いつでも使えるように、復習しておくこと。
教科書の内容に沿って授業と演習を行うため、テキストを必ず読み返すこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	波多江 崇	リスク因子の評価(症例対照研究・コホート研究)	臨床研究の手法の特徴	C15(1)-5-1 C15(1)-5-2 C15(1)-5-3 C15(1)-5-4 C15(1)-5-5 C15(1)-5-6
第2回	波多江 崇	リスク因子の評価(症例対照研究・コホート研究)	データ表の作成	C15(1)-5-1 C15(1)-5-2 C15(1)-5-3 C15(1)-5-4 C15(1)-5-5 C15(1)-5-6
第3回	波多江 崇	リスク因子の評価(症例対照研究・コホート研究)	クロス集計表の見方	C15(1)-5-1 C15(1)-5-2 C15(1)-5-3 C15(1)-5-4 C15(1)-5-5 C15(1)-5-6
第4回	波多江 崇	リスク因子の評価(症例対照研究・コホート研究)	クロス集計表の作成	C15(1)-5-1 C15(1)-5-2 C15(1)-5-3 C15(1)-5-4 C15(1)-5-5 C15(1)-5-6
第5回	波多江 崇	リスク因子の評価(症例対照研究・コホート研究)	相対リスク減少率、絶対リスク減少率、治療必要数の意味	C15(1)-5-1 C15(1)-5-2 C15(1)-5-3 C15(1)-5-4 C15(1)-5-5 C15(1)-5-6

第6回	波多江 崇	リスク因子の評価 (症例対照研究・コホート研究)	相対リスク減少率、絶対リスク減少率、治療必要数の計算	C15(1)-5-1 C15(1)-5-2 C15(1)-5-3 C15(1)-5-4 C15(1)-5-5 C15(1)-5-6
第7回	波多江 崇	リスク因子の評価 (症例対照研究・コホート研究)	オッズ比の意味	C15(1)-5-1 C15(1)-5-2 C15(1)-5-3 C15(1)-5-4 C15(1)-5-5 C15(1)-5-6
第8回	波多江 崇	リスク因子の評価 (症例対照研究・コホート研究)	オッズ比の計算	C15(1)-5-1 C15(1)-5-2 C15(1)-5-3 C15(1)-5-4 C15(1)-5-5 C15(1)-5-6
第9回	波多江 崇	リスク因子の評価 (症例対照研究・コホート研究)	医療用医薬品の添付文書、インタビューフォームから評価の実践	C17(5)-2-1 C17(5)-2-2 C17(5)-2-3 C17(5)-2-4 C17(5)-2-5
第10回	波多江 崇	リスク因子の評価 (症例対照研究・コホート研究)	医療用医薬品の添付文書、インタビューフォームから評価の実践	C17(5)-2-1 C17(5)-2-2 C17(5)-2-3 C17(5)-2-4 C17(5)-2-5
第11回	波多江 崇	リスク因子の評価 (メタアナリシス)	医療用医薬品の添付文書、インタビューフォームから評価の実践	C17(5)-2-1 C17(5)-2-2 C17(5)-2-3 C17(5)-2-4 C17(5)-2-5
第12回	波多江 崇	リスク因子の評価 (メタアナリシス)	医療用医薬品の添付文書、インタビューフォームから評価の実践	C17(5)-2-1 C17(5)-2-2 C17(5)-2-3 C17(5)-2-4 C17(5)-2-5

成績評価方法

2 コマ連続の演習形式で開講するため、定期試験および追再試験は実施しない。
 平常点 (50 点) 出席と受講態度で評価する。
 (出席重視：欠席、遅刻は厳禁)
 無断欠席 (医療機関を受診せず、自宅療養を含む) 1 回で単位を与えない。
 病欠 (医療機関への受診)・忌引き等については、別途課題提出により出席扱いとする。
 レポート (課題提出) (50 点)

教科書

「薬事統計の実践 ー理論と事例、たくさんの演習ー」(出版社：京都廣川書店)

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基
育
礎

教
育
養

教
育
専
門

基
育
礎

教
育
養

教
育
専
門

基
礎
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

医療統計学 II B

3 年次
後期 選択 1 単位

担当教員名 講師 森脇 健介

一般目標(GIO)

医薬品開発、治験業務、薬剤疫学、薬剤経済学などの領域における統計解析の理論を理解し結果を正しく解釈するための知識、また統計解析ソフト等を利用し目的に応じた適切なデータ解析を行うための実践的技能的習得を目指す。統計解析ソフトには、Stata を使用する。

到達目標(SBOs)

統計解析ソフト等を利用し以下を実践できる；

1. データの扱い方を理解し、図表・基本統計量による要約を行うことができる。
2. 量的・質的データにおける各種検定の特徴を理解し、データに応じた適切な解析を実践できる。
3. 線形回帰分析の理論を理解し重回帰分析を実践できる。
4. 多重比較の考え方を理解し適切な解析を実践できる。
5. ロジスティック回帰の理論を理解し実践できる。
6. 生存時間分析の理論を理解し実践できる。
7. メタアナリシスの理論を理解し実践できる。

準備学習(予習・復習等)

統計解析ソフト (Stata) を使用した演習形式でデータ解析を実践してもらおう。必要に応じて教科書をベースに適宜、板書・視覚教材を援用しながら講義を行う。講義外の自主的な学習を推奨する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	森脇 健介	オリエンテーション	解析ソフトの基本操作	C15(1)-5 C17(5)-1,2
第2回	森脇 健介	重回帰分析	相関・回帰分析の理論と実践、題材「乳幼児死亡率の格差を生む因子は？」	//
第3回	森脇 健介	ロジスティック回帰分析1	ロジスティック回帰の理論	//
第4回	森脇 健介	ロジスティック回帰分析2	ロジスティック回帰の実践、題材「脳動脈瘤破裂の危険因子を同定する」	//
第5回	森脇 健介	生存時間分析1	Kaplan-Meier 曲線、ログランク検定、Cox 比例ハザードモデルによる分析の理論	//
第6回	森脇 健介	生存時間分析2	Kaplan-Meier 曲線、ログランク検定、Cox 比例ハザードモデルによる分析の実践、題材「分子マーカーでがんの再発を予測できるか」	//
第7回	森脇 健介	メタアナリシス1	メタアナリシスの理論	//
第8回	森脇 健介	メタアナリシス2	メタアナリシスの実践、題材「COX2 阻害薬の市場撤回の検証」	//
第9回	森脇 健介	ケースコントロール研究	ケースコントロール研究の理論と実践、題材「食中毒の原因食材の同定」	//
第10回	森脇 健介	コホート研究	コホート研究の理論と実践、題材「食中毒の原因食材の同定」	//
第11回	森脇 健介	基本的な検定1	2 群比較、多重比較、サンプルサイズ計算、検出力計算の理論	//
第12回	森脇 健介	基本的な検定2	2 群比較、多重比較、サンプルサイズ計算、検出力計算の実践	//

成績評価方法

出席 (50%) および提出課題 (50%) により評価する。

教科書

1. 医学への統計学 第3版 (古川俊之 監修/丹後俊郎 著) 朝倉書店
2. 臨床研究のための Stata マニュアル 第3版 (東 尚弘、林野 泰明、杉岡 隆、山本 洋介 著) 認定 NPO 法人健康医療評価研究機構 (iHope)
3. 講義スライド資料

指定参考書

1. 入門 医療統計学—Evidence を見出すために (森實敏夫 著) 東京図書
2. これからの臨床試験—医薬品の科学的評価—原理と方法— (椿広計、藤田利治、佐藤俊哉 編) 朝倉書店
3. わかってきたかも!? 「医療統計」 (五十嵐中、佐條麻里、高瀬義昌 著) 東京図書
4. 「医療統計」わかりません!! (五十嵐中、佐條麻里 著) 東京図書

オフィスアワー

質問等があれば研究室に来て下さい。

有機化学系Ⅲ実習

3年次
前期 必修 1単位

担当教員名 教授 和田 昭盛
准教授 山野 由美子
講師 沖津 貴志

一般目標(GIO)

基本的な化学物質の構造決定ができるようになるために、代表的な機器分析法の基礎的知識と、データ解析のための基礎的技能を修得する。
分離分析法の基礎的知識と技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明し、測定操作ができる。
2. NMR スペクトルの概要と測定法を説明し、基本的な化合物の $^1\text{H-NMR}$ スペクトルを解析できる。
3. マススペクトルの概要と測定法を説明し、基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。
4. IR スペクトル測定法を修得し、IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。
5. 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。
6. クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

手際よく実験が行えるよう、操作説明をよく聞き、メモを取る。実習は手足を動かすのみではなく、目的、操作の原理などについて考えながら実習を行うこと。予習をしてこよう。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	和田 昭盛 山野 由美子 沖津 貴志	紫外可視吸収スペクトル	共役系の異なる化合物の紫外可視吸収スペクトル測定	C3(1)-1-1
			助色団の異なる化合物の紫外可視吸収スペクトル測定	C4(1)-1-3
			モル吸光係数の算出	C4(4)-5-1
第2回	和田 昭盛 山野 由美子 沖津 貴志	$^1\text{H-NMR}$ スペクトル	$^1\text{H-NMR}$ スペクトル測定法の見学	C3(1)-2-1
			5-methyl-2,4-hexadienal の $^1\text{H-NMR}$ スペクトルによる立体構造決定	C4(4)-2
第3回	和田 昭盛 山野 由美子 沖津 貴志	マススペクトル IR スペクトル	マススペクトル測定法の見学	C3(1)-1-3
			種々の官能基をもつ化合物の IR スペクトル測定と特性吸収帯の帰属	C3(1)-3 C4(4)-4.6
第4回	和田 昭盛 山野 由美子 沖津 貴志	薄層クロマトグラフィー 液体クロマトグラフィー	極性官能基の異なる化合物のシリカゲルを用いた分離分析	C2(2)-5
			アルキルベンゼン誘導体の ODS カラムを用いた分離分析	C4(3)-1-5
第5回	和田 昭盛 山野 由美子 沖津 貴志	ガスクロマトグラフィー	低級アルコールの分離と同定	C2(2)-5
			クロマトグラムからの分離度と理論段数の算出	C4(3)-1-5
第6回	和田 昭盛 山野 由美子 沖津 貴志	未知化合物の構造決定	各種スペクトルデータによる未知化合物の構造決定	C3(1)-1.2,3 C4(4)-1-1 C4(4)-8-1

成績評価方法

- ・レポート (40点)
- ・平常点 (60点) 配点内訳：出席と実習態度で評価する。

教科書

有機化学系Ⅲ実習書
NEW 薬学機器分析 (第2版) (廣川書店)
第15改正日本薬局方解説書 (廣川書店)
プリント冊子

指定参考書

機器分析入門 (日本分析化学会 九州支部編、改訂第3版) (南江堂)
有機化合物のスペクトルによる同定法 (第7版) (荒木ら訳) (東京化学同人)
機器分析のてびき 1～3 (第2版) (化学同人)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教専
門

基礎
教育

教育
養

教専
門

基礎
教育

基礎
教育

専
門

専
門

専
門

専
門

専
門

専
門

専
門

専
門

専
門

専
門

生物学系 I 実習

3 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 北川 裕之
講師 三上 雅久
講師 灘中 里美

一般目標(GIO)

1. 細胞の機能や生命活動を支える生体分子の役割についての基本的知識を修得し、併せてそれらの生体分子を取り扱うための基本的技能を身につける。
2. バイオテクノロジーを薬学領域で応用できるようになるために、遺伝子操作に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 糖質の定量法を実施できる。
2. 代表的な酵素活性を測定できる。
3. 細胞から DNA を抽出できる。
4. DNA を制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。
5. PCR 法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。
6. 遺伝子の取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。

準備学習(予習・復習等)

必ず予習をして、それぞれの実験の目的や操作の原理を十分に理解した上で実習に臨むこと。
レポート等の提出期限は厳守すること。無断欠席は一切認めない。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	北川 裕之 三上 雅久 灘中 里美	グリコーゲンの単離	ラット肝臓からのグリコーゲンの精製	C9(1)-2-4
第2回	北川 裕之 三上 雅久 灘中 里美	グリコーゲンの定量	グリコーゲンの酸加水分解と定量	C9(1)-2-4 C9(3)-2-6
第3回	北川 裕之 三上 雅久 灘中 里美	α -グルコシダーゼを用いた酵素反応(1)	酵素の pH 依存性、基質特異性	C9(3)-2-6
第4回	北川 裕之 三上 雅久 灘中 里美	α -グルコシダーゼを用いた酵素反応(2)	酵素反応の速度論パラメーターの解析	C9(3)-2-6
第5回	北川 裕之 三上 雅久 灘中 里美	DNA の単離	ラット精巣からの DNA の分離精製	C9(6)-1-2 C9(6)-2-4
第6回	北川 裕之 三上 雅久 灘中 里美	PCR とアガロースゲル電気泳動	アルデヒドデヒドロゲナーゼの多型解析	C9(6)-1-3,4,5

成績評価方法

レポート(40点)
平常点(60点) 配点内訳: 出席、実習態度、口頭試問等で評価する。

教科書

生物学系 I 実習(生化学実習) テキスト

指定参考書

NEW 生化学 第2版(廣川書店)
スタンダード薬学教育シリーズ4 生物系薬学 II(東京化学同人)
細胞の分子生物学 第3版(中村桂子 他訳)(ニュートンプレス)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

生物学系Ⅱ実習

3年次
後期 必修 1単位

担当教員名 教授 小西 守周
講師 中山 喜明
助教 増田 有紀

一般目標(GIO)

微生物の取扱い、検出、同定についての基本的技能などを修得する。

到達目標(SBOs)

1. 主な滅菌法を実施できる。
2. グラム染色を実施できる。
3. 無菌操作を実施できる。
4. 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。
5. 細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験）について説明できる。
6. 代表的な細菌を同定できる。

準備学習(予習・復習等)

病原微生物を取り扱うので、感染とバイオハザードの危険性を念頭において、注意深く実習を行うこと。安全でかつ効率的な実習を行うために、実習前に配布した実習書を必ず一度読んでから実際の実習に臨むように。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索(1)	マウス腸内細菌の採取と選択培地による培養	C8(4)-7-2,3
第2回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索(2)	器具類の滅菌操作と腸内細菌の単離培養	C8(4)-7-2,3 C8(4)-6-3
第3回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索(3) 薬剤中の混入微生物の検出(1)	TSI 寒天培地による腸内細菌の生化学的性状の確認と薬剤中に混入した細菌の検出および定量	C8(4)-7-2,3,4
第4回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索(4) 薬剤中の混入微生物の検出(2)	グラム染色による腸内細菌の種類の確認と薬剤中に混入した細菌の培養	C8(4)-7-1,2,3
第5回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索(5)	INVIC システムや感受性ディスク法などを用いた腸内細菌の性質の検討	C8(4)-7-2,4,5
第6回	小西 守周 中山 喜明 増田 有紀	マウス腸内細菌の検索(6)	昨日の結果の解析	C8(4)-7-2

成績評価方法

レポート(40点)
平常点(60点) 内訳：出席と実習態度で評価する。

教科書

実習前に配布する実習書

指定参考書

薬学領域の微生物学・免疫学 (廣川書店)

オフィスアワー

開講しない。質問は2号館3階微生物化学研究室にて対応する。

基礎
教育
基礎

教育
教育
基礎

基礎
教育
基礎

衛生薬学系実習

3年次
前期 必修 1単位

担当教員名 教授 長谷川 潤
准教授 中川 公恵

一般目標(GIO)

食品衛生および環境衛生の維持、向上に貢献できるようになるために、代表的な衛生試験法に関する基礎的知識と技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。
2. 主な食品添加物の試験法を実施できる。
3. 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。
4. 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。
5. 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。
6. 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。

準備学習(予習・復習等)

予習用プリント(第1回実習日に配布する)の該当部分に必要な事項を記入し、各実験項目の手順および原理を理解しておくこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	長谷川 潤 中川 公恵	注意事項の説明 試薬調製 水道水の水質試験	実習に関する注意事項の説明、実習で使用する試薬の調製 水道水の残留塩素および硬度の測定	C12(2)-2-4
第2回	長谷川 潤 中川 公恵	油脂の変質試験	脂肪油の過酸化価、酸価、ヨウ素価の測定	C11(1)-2-2
第3回	長谷川 潤 中川 公恵	食品添加物試験(着色料の定性試験)	薄層クロマトグラフィー法による着色料の定性試験	C11(1)-2-8
第4回	長谷川 潤 中川 公恵	大気汚染物質の測定	大気中イオウ酸化物、窒素酸化物の測定	C12(2)-3-3
第5回	長谷川 潤 中川 公恵	室内空気試験 河川水の水質試験(重金属の測定)	実習室・講義室内の感覚温度、炭酸ガス、一酸化炭素、じんあい、 照度および騒音の測定 河川水を対象とした原子吸光光度法によるカドミウムの定量	C12(2)-4-1 C12(2)-2-6
第6回	長谷川 潤 中川 公恵	湖沼水の水質試験(生活環境項目 の測定) 排水処理施設の見学 小テスト	湖沼水を対象とした pH、DO、COD の測定	C12(2)-2-5.7

成績評価方法

レポート(50点)
平常点(50点) 配点内訳:出席、実習・演習態度、小テスト

教科書

衛生薬学系実習書
New 衛生薬学(岡野登志夫、山崎裕康編、廣川書店)

指定参考書

衛生試験法・注解 2015年版(金原出版)
衛生試験法・要説 2005年版(金原出版)
国民衛生の動向 2015 / 2016(厚生労働統計協会)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

薬理学実習

3 年次
後期 必修 1 単位

担当教員名 教授 吉野 伸
准教授 水谷 暢明
講師 八巻 耕也

一般目標(GIO)

薬物が生体にどのような影響を及ぼすか明らかにできるようにするために、薬物の生体への投与や投与薬物によりおこる生体反応の解釈に必要な知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 動物実験における倫理について配慮できる。
2. 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。
3. 実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。
4. 中枢神経系に作用する代表的な薬物の効果を評価できる。
5. 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を評価できる。
6. 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を評価できる。
7. 代表的な抗アレルギー薬の効果を評価できる。

準備学習(予習・復習等)

薬理学実習では、生体反応を観察する。生体反応は開始すれば止まることなく進み続けるため、集中して観察、測定を行うこと。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	吉野 伸 水谷 暢明 八巻 耕也	動物実験における倫理・薬物投与法	動物実験の倫理的配慮、腹腔内投与、経口投与、皮下投与の実施	C13(1)-4-1,2,3
第2回	吉野 伸 水谷 暢明 八巻 耕也	中枢神経系に作用する薬物の効果の評価Ⅰ	全身麻酔薬による麻酔作用の観察	C13(2)-1-6
第3回	吉野 伸 水谷 暢明 八巻 耕也	中枢神経系に作用する薬物の効果の評価Ⅱ	中枢興奮薬、およびそれらに対する筋弛緩薬、抗てんかん薬の作用の観察	C13(2)-1-6
第4回	吉野 伸 水谷 暢明 八巻 耕也	知覚神経に作用する薬物の効果の評価	酢酸ライジング反応に対する鎮痛薬の作用の測定	C13(2)-3-3
第5回	吉野 伸 水谷 暢明 八巻 耕也	自律神経系に作用する薬物の効果の評価	自律神経遮断薬の消化管運動に対する作用の測定	C13(2)-2-4
第6回	吉野 伸 水谷 暢明 八巻 耕也	抗アレルギー作用を持つ薬物の効果の評価	アレルギー性刺激による血管透過性亢進に対する抗アレルギー薬の抑制作用の測定	

成績評価方法

レポート(50点)、平常点(50点:出席および実習態度)

教科書

配付プリント

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

臨床検査実習

3年次
後期 必修 1単位

担当教員名 教授 加藤 郁夫
講師 多河 典子
講師 藤波 綾

一般目標(GIO)

臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。
身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・
臨床検査に関する基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。
2. 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。
3. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。
4. 免疫化学的測定法の原理を説明できる。
5. 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。
6. 代表的なドライケミストリーについて概説できる。
7. 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。
8. 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。
9. 尿検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
10. 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
11. 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
12. 代表的な生理機能検査(心機能、呼吸機能等)の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

必ず予習をして、それぞれの実験日の目的や操作の原理を十分に理解した上で実習に臨むこと。検査値と疾病を関連付け、その発症原因と治療薬も考えてみる。レポート等は決められた日に提出すること。各自が積極的に実験・討論に参加すること。無断欠席は一切認めない。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	加藤 郁夫 多河 典子 藤波 綾	実習講義	各項目の説明と実習を行うための諸注意	C2-(3)-1-1,2 C2-(3)-2-1 ~ 3 C3-(1)-1-1
第2回	加藤 郁夫 多河 典子 藤波 綾	総ビリルビン、血糖、尿酸、 共存する薬物の影響肝機能、代謝 性疾患関連	総ビリルビン(直接型及び間接型)、血糖、尿酸、共存する薬物の影響	C2-(3)-2-1,3 C14-(1)-1-1 C14-(1)-2-1,6
第3回	加藤 郁夫 多河 典子 藤波 綾	血清酵素、血清無機質・電解質関 連	アルカリホスファターゼ、乳酸脱水素酵素、 トランスアミナーゼ(AST/ALT) 血清鉄	C2-(3)-2-1,3 C14-(1)-1-1 C14-(1)-2- 1,4,5,7,8,10
第4回	加藤 郁夫 多河 典子 藤波 綾	血清タンパク質関連	総タンパク質、アルブミン、グロブリン 電気泳動法による血清タンパク質分画	C2(3)-2-4 C14(1)-1-1 C14(1)-2-1,2,6,7
第5回	加藤 郁夫 多河 典子 藤波 綾	血清脂質関連 分析技術の臨床応用	総コレステロール、HDL-コレステロール、リポタンパク質分 画、 トリグリセライド ドライケミストリー	C2-(3)-2-1,3 C14-(1)-1-1 C14-(1)-2-4,6 C2-(3)-2-2,6
第6回	加藤 郁夫 多河 典子 藤波 綾	腎機能関連 生理機能検査 分析技術の臨床応用	クレアチニン、尿検査 心電図、スパイロメトリー 妊娠診断補助検査	C14-(1)-1-1 C14-(1)-2-1 ~ 6,9,11 C2-(3)-2-1 ~ 3

成績評価方法

平常点(100点) 配点内訳:出席点(50点)、レポート(予習、結果、考察)、ディスカッション内容、実習態度、手技の習得、
口頭試問等で総合的に評価する。

教科書

実習プリント、実習解説書
薬学生のための病態検査学 南江堂

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

薬剤学・製剤学実習

3年次
後期 必修 1単位

担当教員名 教授 岩川 精吾 講師 上田 久美子
教授 坂根 稔康 助教 細川 美香
准教授 寺岡 麗子 助教 湯谷 玲子

一般目標(GIO)

薬剤学実習では薬物の体内動態解析や薬物血中濃度モニタリングによる薬物投与設計の基礎並びに薬物のタンパク結合解析法を修得する。

製剤学実習では、製剤化の方法と意義を理解するために、薬物と製剤材料の物性、医薬品への加工に関する基本的事項を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。
2. 患者固有の薬物動態学的パラメーターを用いた至適血中濃度を維持するための投与設計を説明できる。
3. 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。
4. 粉体の性質について説明できる。
5. 製剤材料の物性を測定できる。
6. 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。
7. 日本薬局方の製剤に関する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。

準備学習(予習・復習等)

実習書に綴じこまれてあるページを利用してレポートを作成すること。(薬剤学実習)

実習書をあらかじめよく読んで実習にのぞむとともに、実験の各操作を考えながら行うこと。(製剤学実習)

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回		1-コンパートメントモデルのシミュレーション実験	1-コンパートメントモデルを用いた薬物の分布容積、クリアランス、吸収速度定数等の薬物動態パラメーターの計算と評価	C13(5)-1-3,6,7
第2回		薬物血中濃度測定に基づく投与設計(TDM)	模擬血清試料を用いた薬物の血中濃度測定と投与設計	C13(5)-2-3,4,5
第3回		薬物のタンパク結合の解析	モデル薬物を用いた薬物のアルブミンへの結合性の評価	C13(4)-2-7
第4回		製剤の製造 粉体物性の測定	顆粒の製造 粉体の流動性の評価	C16(2)-1-2 C16(2)-2-1,2 C16(2)-3-1,2 C16(1)-3-4,8 C16(2)-3-1
第5回		製剤試験	製剤均一性試験法、溶出試験法、崩壊試験法、硬度測定	C16(2)-3-1,2
第6回		半固形製剤の調製とレオロジー測定	親水クリーム調製の調製 展延性、粘度測定	C16(1)-2-1,2,3 C16(1)-3-1,8 C16(2)-1-3

成績評価方法

出席、受講態度、レポートなどによって総合的に評価する。

教科書

薬剤学製剤学実習テキスト

ベーシック薬学教科書シリーズ 薬剤学、北河修治編(化学同人)

指定参考書

第十七改正日本薬局方

オフィスアワー

随時

基礎
教育
基礎

教育
教育
基礎

基礎
教育
基礎

語学検定

3～5年次
通年 選択 1単位

担当教員名 准教授 赤井 朋子
准教授 玉巻 欣子

一般目標(GIO)

語学試験 (TOEIC) の自発的な受験を通して、製薬企業をはじめグローバル化著しい昨今の社会から求められる総合的な英語運用能力の向上を目指す。
3年次から6年次までの間に何度でもカレッジ TOEIC 受験を可能とするので、高得点取得を目指し継続的に英語自己学習を行う自立的学習態度を養う。

到達目標(SBOs)

TOEIC600点以上 (スコアの上限はない) を取得できるだけの、語彙力、文法力、読解力、そしてリスニング力を有する。

準備学習(予習・復習等)

1. 本学全学生が学内外でアクセス可能な英語 e ラーニング学習システム ALC NetAcademy2 「スーパースタandard」 コース
2. TOEIC 対策用問題集など (特に文法問題集)
これらの教材を利用して各自で学習を進めて下さい。

成績評価方法

- ① スコアの基準
TOEIC またはカレッジ TOEIC の成績を認定基準として用いる。その他の語学試験結果は認めない。
- ② 成績結果評価の有効期限
本学入学以降から卒業時まで受験した TOEIC の成績を有効とする。この期間中に取得した成績のうち、最もよい成績を教務課に提出する。成績提出は 1 回のみ認める。
- ③ 単位認定の「成績評価」の仕方
TOEIC またはカレッジ TOEIC の成績を以下の基準に従って成績評価する。

750 点以上	・・・秀
700 点以上 750 点未満	・・・優
650 点以上 700 点未満	・・・良
600 点以上 650 点未満	・・・可
- ④ カレッジ TOEIC 試験実施方法について
・ 1 年次後期から 5 年次後期までの期間、任意受験とし、その受験料を無償化する。
複数回の受験でも受験料は無償とする。無償化は、学内で実施されるカレッジ TOEIC に限る。
- ⑤ 単位認定方法
3～6 年次に単位認定します。3 年次以降の後期定期試験期間を申請期間とし、公開テストの場合は「公式認定証」を、カレッジ TOEIC の場合は「スコアレポート」を申請用紙に添付して教務課へ提出。
後期定期試験結果発表で成績を通知します。

教科書

英語 e ラーニング学習システム ALC NetAcademy2 「スーパースタandard」 コース

指定参考書

TOEIC テスト新公式問題集 Vol.1～Vol.6 (国際ビジネスコミュニケーション協会)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専
育門

基礎
教育

教育
養

専
育門

基礎
教育

専
育門

四年次生

臨床心理学……………	271	実用薬学英语……………	286
精密有機合成化学……………	272	実用医療英語……………	288
漢方医学……………	273	臨床栄養学……………	290
臨床薬物動態学……………	274	化粧品学……………	291
薬物治療学Ⅳ……………	275	キャリアデザイン講座……………	292
薬物治療学Ⅴ……………	276	実務実習事前教育（前期）……………	293
医薬品情報学……………	277	実務実習事前教育（後期）……………	295
安全管理医療……………	278	基礎薬学演習……………	297
薬剤設計学Ⅱ……………	279	卒業研究Ⅰ……………	298
医薬品開発Ⅰ……………	280	海外薬学研修……………	301
医薬品開発Ⅱ……………	281	インターンシップ……………	302
薬事関係法規・薬事制度……………	282	語学検定……………	268
社会保障制度と薬剤経済……………	283	健康食品……………	303
OTCヘルスケア論……………	284	実践薬学……………	304

一年次生

二年次生

三年次生

四年次生

五年次生

六年次生

臨床心理学

4 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 講師

中島 園美

一般目標(GIO)

将来の医療従事者として、患者やその家族との信頼関係を形成し援助的な関わりができるように、医療現場における臨床心理学的視点を習得することを目標とする。さらに、地域社会、そしてチーム医療において他のメンバーとの協働関係を築けるようにコミュニケーションスキルを学習する。

到達目標(SBOs)

1. 医療現場における良好なコミュニケーションについて理解する。
2. 患者の心理的特徴を理解する。
4. チーム医療に必要な態度を獲得する。
5. 他者援助の方法を知る
6. 在宅医療での患者や家族へのサポートに必要な態度を獲得する。

準備学習(予習・復習等)

医療従事者が直面する問題に対応できるように医療現場に関する臨床心理学を中心に講義を行っていきます。日頃から新聞や映画などで疾患を抱えた方たちがどんなふうに考えているか、どのような体験をしているか等関心をもって知ることが将来の医療従事者の態度形成に役に立つと思います。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	中島 園美	患者の心理的特徴	疾患に関する患者の反応(不安・ストレス)と家族の反応	A(3)
第2回	中島 園美	小児患者の心理的問題	入院児の心理的特徴、母子関係のアセスメント	A(3)
第3回	中島 園美	子どもへの虐待	虐待に関する知識と医療者として留意する点	A(3)
第4回	中島 園美	発達障害	心理行動的特徴と関わり方	A(3)
第5回	中島 園美	高齢者の心理的問題	在宅ケアに必要な高齢者の心理的特徴、認知症患者への関わり方	A(3)
第6回	中島 園美	疾患別心理的問題(1)	がん患者と家族への関わり方	A(3)
第7回	中島 園美	疾患別心理的問題(2)	精神科領域の患者と家族への関わり方	A(3)
第8回	中島 園美	疾患別心理的問題(3)	うつ病について	A(3)
第9回	中島 園美	疾患別心理的問題(4)	妊産婦や不妊治療患者への関わり方	A(3)
第10回	中島 園美	心理療法の活用	行動療法・認知行動療法	A(3)
第11回	中島 園美	医療コミュニケーションスキル	チーム医療・在宅医療において必要な態度・情報収集力について	A(3)
第12回	中島 園美	まとめ	まとめ	A(3)

成績評価方法

定期試験(80%)

平常点(20%) 配点内訳:出席、受講態度、小レポートなど

教科書

特になし

適宜、資料を配布します。

指定参考書

特になし。

オフィスアワー

講義終了後に個別質問を受け付けます。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

精密有機合成化学

4 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 和田 昭盛
特別教授 宮田 興子
准教授 山野 由美子
講師 西村 克己

一般目標(GIO)

化学物質（医薬品および生物物質を含む）の基本的な反応性を理解するために、代表的な反応、分離法、構造決定法などについての基本的知識を修得する。

入手容易な化合物を出発物質として、医薬品を含む目的化合物へ化学変換するために、有機合成法の基本的知識を修得する。生体分子の機能と医薬品の作用を化学構造と関連づけて理解するために、それらに関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。
2. 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。
3. キラリティーと光学活性を概説できる。
4. 光学活性化合物を得るための代表的な手法（光学分割、不斉合成など）を説明できる。
5. 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。
6. 代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。
7. 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。

準備学習(予習・復習等)

この講義では、医薬品を含む有機化合物を題材として、有機化学 I から VI で学んだ事柄を一括して総合的に取り扱う。これまでの学習内容の復習と応用を心がけてほしい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	和田 昭盛	逆合成の基礎 簡単な化合物の逆合成	逆合成と Umpolung 2-ヘキサノンの合成	C5(5)-1 C5(1)-7
第2回	和田 昭盛	化合物の合成経路の立案	抗肥満薬や鎮静薬の逆合成と実際の合成経路	C5(2)
第3回	和田 昭盛	医薬品の合成経路	バルビツール類や複雑な化合物の合成	C5(2)
第4回	西村 克己	d-クロルフェニラミン マレイン酸塩 の合成法とスペクトル	Mannich 反応、アルコールの脱水反応、光学分割、NMR および IR スペクトルなど	C4(4)-2,4 C5(2)-1-4 C5(2)-4-1
第5回	西村 克己	インドメタシンの合成法とスペクトル	Fischer のインドール合成、官能基の保護、NMR および IR スペク トルなど	C4(4)-2,4 C5(2)-1-4 C5(2)-3-1
第6回	西村 克己	アドレナリンの合成法とスペクトル	Friedel-Crafts アシル化、Henry 反応、還元 N-メチル化、光学 分割、NMR および IR スペクトルなど	C4(4)-2,4 C5(2)-1-4 C5(2)-4-1
第7回	山野 由美子	イブプロフェンとケトプロフェンの製 法とスペクトル	IR, NMR および吸光度測定法 炭素-炭素結合反応、求核置換反応、加水分解反応、酸化反応、ラ ジカル反応など	C4(4)-2-2,3 C4(4)-4-1,2 C4(3)-2-2 C4(3)-4-2 C4(3)-5-1,3 C5(2)-1-4
第8回	山野 由美子	ケトプロフェンの逆合成解析	グリニャール反応、Friedel-Crafts アシル化反応など	C4(2)-3-3,4 C5(2)-1-4
第9回	山野 由美子	アクリノールの製法	芳香環の反応性 芳香族求電子置換反応、芳香族求核置換反応など	C4(2)-3-3,4,5
第10回	宮田 興子	医薬品の官能基の性質と反応性	具体的にインフルエンザ治療薬の官能基の性質と反応	C5(1)
第11回	宮田 興子	医薬品の官能基と酵素の相互作用	具体的にノイラミナーゼ阻害薬とノイラミナーゼとの相互作用	C6(2)
第12回	宮田 興子	医薬品の合成経路の立案 医薬品の合成経路	オセルタミビルの逆合成解析 既知のオセルタミビルの合成法	C17(2) C5(2), C17(2)

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

プリント冊子

指定参考書

ブルース 有機化学 (第4版) 上・下 (大船泰史ら監訳) 化学同人
スタンダード薬学シリーズ (日本薬学会編) 第3巻 『化学系薬学 I, II, IV』 東京化学同人

オフィスアワー

質問は各担当者が随時受け付ける。

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

漢方医学

4 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 田内 義彦
臨床特命教授 奥川 斉
准教授 土反 伸和
講師 西山 由美

一般目標(GIO)

現代医療で使用される生薬・漢方薬について理解するために、漢方医学の考え方、代表的な漢方処方箋の適用、薬効評価法についての基本的知識を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 漢方医学の特徴について概説出来る。
2. 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明出来る。
3. 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説出来る。
4. 漢方処方と「証」との関係について概説出来る。
5. 代表的な漢方処方箋の適応症と配合生薬を説明出来る。
6. 漢方処方箋に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明出来る。
7. 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙出来る。
8. 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方箋の応用、使用上の注意について概説出来る。
9. 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明出来る。

準備学習(予習・復習等)

東洋医学(漢方)の基本理念を理解し、主要な処方について復習し、使用法などをよく理解すること。薬剤師としての職能が発揮できる分野なので臨床応用を意識して講義に臨んでもらいたい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	土反 伸和	漢方医学の成立と展開	漢方医学の起源と変遷について 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について 漢方薬と西洋薬の利用法の相違について 漢方薬の剤形について	C7(3)-1-2,3,7
第2回	土反 伸和	漢方の基本概念 ①	漢方薬と証について 証の診断方法である四診について 証の判断基準としての八綱弁証、六病位について	C7(3)-1-1,4
第3回	土反 伸和	漢方の基本概念 ②	証の判断基準としての気血水、臟腑弁証について 漢方の治療法と治療法則について	C7(3)-1-1,4,5,6
第4回	西山 由美	漢方薬を用いた治療と構成生薬 ①	漢方薬での治療について 桂麻剤(桂枝麻黄剤)について	C7(3)-1-5,6
第5回	西山 由美	漢方薬を用いた治療と構成生薬 ②	柴胡剤について、苓蓮剤について、 竜骨牡蠣剤について、大黄剤について、石膏剤について	C7(3)-1-5,6
第6回	西山 由美	漢方薬を用いた治療と構成生薬 ③	理気剤について、人參剤(補気剤)について、附子剤について、 苓朮剤について、半夏剤について	C7(3)-1-5,6
第7回	西山 由美	漢方薬を用いた治療と構成生薬 ④	補血剤について、駆瘀血剤について、滋陰剤について、 地黄丸類について、乾姜剤について、その他	C7(3)-1-5,6
第8回	奥川 斉	医療に於ける漢方治療の実践 ①	漢方薬の高齢者治療について	C7(3)-2-1,2
第9回	奥川 斉	医療に於ける漢方治療の実践 ②	漢方薬の抗がん治療について	C7(3)-2-1,2
第10回	田内 義彦	漢方処方箋の実践 ①	漢方処方箋の調剤について 調剤における注意事項について 煎剤の調整について	C7(3)-2-1,2
第11回	田内 義彦	漢方処方箋の実践 ②	漢方処方箋の服用上の注意事項について 漢方処方箋及び構成生薬の副作用について	C7(3)-2-1,2
第12回	田内 義彦	漢方処方箋の実践 ③	漢方処方箋の服薬指導について 漢方処方箋の服用上の留意点について	C7(3)-2-1,2

成績評価方法

定期試験(90点)、レポート2回(10点)

教科書

病態から見た漢方薬物ガイドライン(岡村 信幸、京都廣川書店)

指定参考書

第16改正日本薬局方解説書医薬品各条生薬等(廣川書店)
学生のための漢方医学テキスト(日本東洋医学会学術教育委員会)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

臨床薬物動態学

4 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 教授

岩川 精吾

一般目標(GIO)

治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明でき、個々の患者に応じた投与設計を立案できるようになるために、薬物治療の個別化 (テーラーメイド薬物治療) に関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. TDM が必要とされる代表的な薬物を列挙でき、その薬物の体内動態の特徴を説明できる。
2. 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動的パラメーターを用いて説明できる。
3. 薬物動態に影響する遺伝的素因を列挙し、説明できる。
4. 新生児、乳児、幼児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。
5. 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。
6. 妊婦、授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。
7. 腎疾患、肝疾患、心疾患を伴った患者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。

準備学習(予習・復習等)

関連する薬物動態学 I と薬物動態学 II を理解し、予習、復習を怠らないようにすること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	岩川 精吾	TDM の概要と薬物動態	TDM の概要と薬物動態を講義する	C13(5)-2-1
第2回	岩川 精吾	TDM が必要とされる代表的な薬物	TDM が必要とされる代表的な薬物を講義する	C13(5)-2-2
第3回	岩川 精吾	患者の薬動的パラメーターを用いた投与設計のシミュレート	患者の薬動的パラメーターを用いた投与設計のシミュレートを講義する	C13(5)-2-5 C15(3)-5-3,4
第4回	岩川 精吾	遺伝的素因による薬物動態の変動	遺伝的素因による薬物動態の変動を講義する	C15(3)-1-1,2,3
第5回	岩川 精吾	年齢による薬物動態、薬効の変動	小児、高齢者での体内動態について講義する	C15(3)-2-1,2,3
第6回	岩川 精吾	生理的要因による薬物動態、薬効の変動	妊婦、授乳婦、肥満での薬物動態について講義する	C15(3)-3-1,2,3
第7回	岩川 精吾	合併症での薬物動態	腎疾患、肝疾患、心疾患を伴った患者での薬物動態について講義する	C15(3)-4-1,2,3
第8回	岩川 精吾	ポピュレーションファーマコキネティックスの概念と応用	ポピュレーションファーマコキネティックスの概念と応用を講義する	C13(5)-2-4 C15(3)-5-1,2
第9回	岩川 精吾	至適血中濃度を維持するための投与計画	至適血中濃度を維持するための投与計画を講義する	C13(5)-2-5
第10回	岩川 精吾	腎疾患、肝疾患、心疾患を伴った患者での循環器用薬などの薬物投与設計(1)	循環器用薬などで TDM が必要とされる代表的な薬物での腎疾患、肝疾患、心疾患を伴った患者での薬物投与設計について講義する	C15(5)-5-3,4
第11回	岩川 精吾	腎疾患、肝疾患、心疾患を伴った患者での抗けいれん薬などの薬物投与設計(2)	抗けいれん薬などで TDM が必要とされる代表的な薬物での腎疾患、肝疾患、心疾患を伴った患者での薬物投与設計について講義する	C15(5)-5-3,4
第12回	岩川 精吾	腎疾患、肝疾患、心疾患を伴った患者での抗菌薬などの薬物投与設計(3)	抗菌薬などで TDM が必要とされる代表的な薬物での腎疾患、肝疾患、心疾患を伴った患者での薬物投与設計について講義する	C15(5)-5-3,4

成績評価方法

出席状況と定期試験から総合的に評価する。

教科書

臨床への薬物動態学 岩川精吾、菅原和信、灘井雅行、渡辺善照編 (廣川書店)

指定参考書

臨床薬物動態学改訂第4版 (南江堂)

オフィスアワー

随時

薬物治療学Ⅳ

4 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 教授

力武 良行

一般目標(GIO)

将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、精神疾患、アレルギー・免疫疾患、骨・関節疾患、がん性疼痛、およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 精神疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
2. アレルギー・免疫疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
3. 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
4. 骨・関節疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
5. がん性疼痛の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

準備学習としては、関連分野の生理学、薬理学の知識の整理が必要です。

授業後は必ず資料を見直し、分からないことがあれば自己学習や質問で解決してください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	力武 良行	精神疾患①	依存症候群 統合失調症①	C14(4)-1-1,2,3,4
第2回	力武 良行	精神疾患②	統合失調症②	C14(4)-1-1,2,3,4
第3回	力武 良行	精神疾患③	気分障害	C14(4)-1-1,2,3,4
第4回	力武 良行	精神疾患④	不安障害 睡眠障害 その他	C14(4)-1-1,2,3,4
第5回	力武 良行	免疫疾患①	アナフィラキシー	C14(4)-6-1,2,3
第6回	力武 良行	免疫疾患②	関節リウマチ	C14(4)-6-1,2,3
第7回	力武 良行	免疫疾患③	自己免疫疾患	C14(4)-6-1,2,3
第8回	力武 良行	免疫疾患④	後天性免疫不全症候群 移植免疫	C14(4)-6-4 C14(4)-7-1
第9回	力武 良行	骨関節疾患①	骨粗鬆症	C14(4)-5-1,2,3,4
第10回	力武 良行	骨関節疾患②	変形性関節症 その他	C14(4)-5-1,2,3,4
第11回	力武 良行	緩和医療①	がん性疼痛の治療	C14(4)-8-1,2
第12回	力武 良行	緩和医療②	抗がん剤の副作用と支持療法	C14(5)-9-1,2,3

成績評価方法

定期試験 (80%)、受講態度 (20%)

教科書

資料を配布します

指定参考書

病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 (メディックメディア)

病気がみえる vol.7 脳・神経 (メディックメディア)

オフィスアワー

質問がある時は随時受け付けます (5号館2階 医療薬学研究室)

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

薬物治療学V

4年次
前期 必修 1単位

担当教員名 教授 江本 憲昭
准教授 池田 宏二
講師 八木 敬子

一般目標(GIO)

将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、心臓と血管系疾患、腎臓と尿路の疾患、呼吸器・胸部疾患、耳鼻咽喉の疾患、皮膚の疾患、眼疾患およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的技能を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げる事ができ、不整脈、心不全、高血圧、虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
2. 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げる事ができ、腎不全、ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
3. 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げる事ができ、閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
4. 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げる事ができ、めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
5. 皮膚に関する代表的な疾患を挙げる事ができ、アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
6. 眼に関する代表的な疾患を挙げる事ができ、緑内障、白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

薬物治療に関する基本的知識と技能を修得するためには、疾患の病態生理および薬理学を含めた広範な知識とその応用が必要です。薬物治療学Ⅲを含め、これまで学んだことをよく復習して講義に臨んでください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	江本 憲昭	薬物治療学V総論	薬物治療学の考え方に関する概説	
第2回	池田 宏二	腎臓・尿路の疾患(1)	腎臓・尿路の疾患総論	C14(1)-1-1 C14(1)-2-2 C14(3)-1-1
第3回	池田 宏二	腎臓・尿路の疾患(2)	腎不全、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、糖尿病性腎症、慢性腎疾患	C14(3)-1-2～4
第4回	池田 宏二	腎臓・尿路の疾患(3)	尿路感染症、薬剤性腎炎、尿路結石、前立腺肥大、前立腺癌	C14(3)-2-2
第5回	八木 敬子	眼疾患	緑内障、白内障、結膜炎、網膜症	C14(1)-1-1 C14(4)-3-1～4
第6回	八木 敬子	皮膚疾患	アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、蕁麻疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症	C14(1)-1-1 C14(4)-4-1～4
第7回	八木 敬子	耳鼻咽喉の疾患	めまい、メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、慢性副鼻腔炎、中耳炎	C14(1)-1-1 C14(4)-2-1～3
第8回	江本 憲昭	総合学習(1)	代表的な疾患に対する適切な薬物治療について症例ベースで学習する。	C14(2)-5-1 C14(3)-7-1
第9回	江本 憲昭	総合学習(2)	代表的な疾患に対する適切な薬物治療について症例ベースで学習する。	
第10回	江本 憲昭	総合学習(3)	代表的な疾患に対する適切な薬物治療について症例ベースで学習する。	
第11回	八木 敬子	総合学習(4)	代表的な疾患に対する適切な薬物治療について症例ベースで学習する。	
第12回	池田 宏二	総合学習(5)	代表的な疾患に対する適切な薬物治療について症例ベースで学習する。	

成績評価方法

定期試験(100%)

教科書

プリント

指定参考書

病態生理ビジュアルマップ I 呼吸器疾患/循環器疾患(医学書院)
病態生理ビジュアルマップ III 代謝疾患、内分泌疾患、血液・造血器疾患、腎・泌尿器疾患(医学書院)
病態生理ビジュアルマップ V 運動器疾患、皮膚疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患(医学書院)
病気が見える vol.2 循環器(MEDIC MEDIA)
病気が見える vol.4 呼吸器(MEDIC MEDIA)
病気が見える vol.8 腎・泌尿器(MEDIC MEDIA)

オフィスアワー

随時

医薬品情報学

4 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名 講師

土生 康司

一般目標(GIO)

薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供するために、医薬品情報ならびに患者から得られる情報の収集、評価、加工などに関する基本的知識を習得し、それらを活用するための基本的技能と態度を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 医薬品として必須の情報を列挙できる。
2. 医薬品添付文書、インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。
3. 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。
4. 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。
5. 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。
6. 問題志向型システム (POS) を説明できる。
7. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。

準備学習(予習・復習等)

患者さんから質問を受けた時、その答えが Google や Yahoo 等での検索結果で良いでしょうか??? 医薬品情報の活用に必要な知識は、患者や医療従事者が欲しい情報を適切かつ迅速に伝えるため不可欠なものです。実務実習の前に十分に習得できるよう意欲的に学んでください。講義の前後に教科書や種々情報源、インターネット上の医療系サイト等を見て、医薬品情報の収集・活用の理解を深めましょう。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	土生 康司	医薬品情報と薬剤師の役割	病院、薬局等で薬剤師に求められる役割と医薬品情報の活用	C15(1)(2)(3)
第2回	土生 康司	市販後調査	市販後調査の目的、市販後調査制度	C15(1)
第3回	土生 康司	PMDA から得られる情報	承認審査、健康被害救済にかかる情報	C15(1)
第4回	土生 康司	PMDA から得られる情報	安全対策にかかる情報	C15(1)
第5回	土生 康司	医療用医薬品添付文書の活用	添付文書の記載要領と活用	C15(1)
第6回	土生 康司	一般用医薬品等の情報源	添付文書の記載要領と活用	C15(1)
第7回	土生 康司	製薬企業から提供される情報	インタビューフォームや安全性情報の活用方法	C15(1)
第8回	土生 康司	調剤と医薬品情報	調剤の流れと医薬品情報の活用	C15(1)(3)
第9回	土生 康司	医薬品に関わるデータベース	医薬品情報データベース、インターネット上の医薬品情報と情報検索	C15(1)
第10回	土生 康司	医療の電子化	医療情報システムの利用形態と機能	C15(1)
第11回	土生 康司	患者に関する情報、POS (問題志向型システム)	患者情報の収集・評価・管理、POS の構成、SOAP による経過記録	C15(2)
第12回	土生 康司	医薬品情報の評価・活用	患者との面談、医療従事者との質疑応答	C15(2)

成績評価方法

定期試験 (88 点) と平常点 (出席と態度: 12 点) で評価する。

教科書

医薬品情報学 (廣川書店)

指定参考書

みてわかる薬学 図解 医薬品情報学 改訂第3版 (南山堂)

オフィスアワー

質問は随時、情報支援室へ尋ねに来てほしい。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

安全管理医療

4 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 濱口 常男
講師 河内 正二

一般目標 (GIO)

薬剤師業務が人命にかかわる仕事であることを認識し、患者が被る危険を回避できるようになるために、医薬品の副作用、調剤上の危険因子とその対策、院内感染などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。
3. 院内感染の回避方法について説明できる。
4. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。
5. リスクを回避するための具体策を提案する。

準備学習 (予習・復習等)

医療の安全確保は医療人である薬剤師の重要な役割です。この授業をととして薬剤師業務における安全管理の考え方を学んで下さい。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	濱口 常男	医療法と医療安全	医療機関における医療事故防止対策の法的整備の変遷	C18(1)
第2回	濱口 常男	注射薬調剤の安全管理	注射薬調剤の要点および注射薬調剤事故の防止対策	C18(1)
第3回	濱口 常男	医薬品、医療機器等法と医療安全	薬局における医療事故防止対策の法的整備	C18(1)
第4回	濱口 常男	安全な医療システムの考え方	リスクマネジメントの基本概念と現状	C18(1)
第5回	濱口 常男	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例とその原因	内服薬の調剤事故防止対策	C18(1)
第6回	濱口 常男	誤りを生じやすい薬剤に関する医療事故事例とその対策	「してはいけないこと」と「間違えてはいけない薬剤」	C18(1)
第7回	濱口 常男	リスクを回避するための具体策	調剤過誤におけるヒューマンエラーの要因解析	C18(1)
第8回	濱口 常男	インシデントレポートの分析法	インシデントレポートの分析手法と特徴	C18(1)
第9回	河内 正二	病棟の療養環境における医療安全	転倒転落による事故事例とその原因	C18(1)
第10回	河内 正二	医療法における院内感染防止対策	院内感染の回避方法	D1
第11回	濱口 常男	輸血製剤の医療安全	輸血療法の中で起こりやすい事故事例とその原因	C18(1)
第12回	濱口 常男	医療機器、医療用具の医療安全	医療機器等による事故事例とその原因	C18(1)

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

配布プリント

指定参考書

薬学生のための医薬品安全管理入門 (医学書院)
新人薬剤師・薬学生のための医療安全学入門—調剤過誤防止から副作用の早期回避まで— (薬ゼミファーマブック)

オフィスアワー

わからない点は質問してください。(11号館1階)

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

薬剤設計学Ⅱ

4 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 坂根 稔康
講師 土生 康司
非常勤講師 柴田 隆司
非常勤講師 谷口 和也

一般目標(GIO)

薬物治療の有効性、安全性、信頼性を高めるために、薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム) に関する基本的知識を修得する。また、医薬品創製と製造のプロセスに関する基本的知識を身につける。

到達目標(SBOs)

1. DDS の概念と従来の医薬品製剤と比較した場合の有用性について説明できる。
2. 放出制御型製剤 (徐放性製剤を含む) の利点について説明でき、代表例を列挙できる。
3. 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段、用いられる製剤材料について説明できる。
4. 経皮投与製剤、腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。
5. ターゲティングの概要と意義、代表的なドラッグキャリアーについて説明できる。
6. 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。
7. 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。
8. ジェネリック医薬品の役割と開発の重要性について概説できる。
9. 医薬品の製造工程の特色と品質管理の意義について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

関連する薬物動態学等の科目及び講義中に出てくる医薬品について予習、復習をしながら理解を図ること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	坂根 稔康	DDS の必要性、放出制御型製剤	DDS の概念と有用性、放出制御型製剤の利点、放出制御の基礎理論	C16(3)-1-1,2
第2回	坂根 稔康	放出制御型製剤	徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質、放出制御型注射剤、放出制御型経口製剤、放出制御型経粘膜製剤	C16(3)-2-2,4,6
第3回	坂根 稔康	放出制御型製剤	放出制御型経皮適用製剤	C16(3)-2-5
第4回	坂根 稔康	ターゲティング	ターゲティングの目的と方法、運搬体を利用したターゲティング	C16(3)-3-1,2
第5回	坂根 稔康	プロドラッグ	薬物動態とプロドラッグ	C16(3)-4-1
第6回	坂根 稔康	プロドラッグ	目的と代表的なプロドラッグ	C16(3)-4-1
第7回	土生 康司	ターゲティング	分子標的薬	C16(3)-3
第8回	土生 康司	その他の DDS	遺伝子治療における DDS	C16(3)-3
第9回	柴田 隆司	特許	医薬品の創製における知的財産権Ⅰ	C17(1)-7-1
第10回	柴田 隆司	特許	医薬品の創製における知的財産権Ⅱ	C17(1)-7-1
第11回	谷口 和也	医薬品市場と開発すべき医薬品、 医薬品の製造と品質管理	ジェネリック医薬品、医薬品の製造工程と品質管理	C17(1)-2-3 C17(1)-5-1,2,3
第12回	坂根 稔康	DDS まとめ	DDS 製剤のまとめ、開発中及び今後開発が期待される DDS 製剤	C16(3)

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

ベーシック薬学教科書シリーズ 20 薬剤学第2版 (北河修治 編) 化学同人

指定参考書

NEW パワーブック物理薬剤学・製剤学第2版 (金尾義治、北河修治 編) 廣川書店
スタンダード薬学シリーズ8 「医薬品の開発と生産」(日本薬学会編) 東京化学同人

オフィスアワー

質問は講義日のお昼休みと放課後、10 号館 1 階製剤学研究室あるいは 1 1 号館 2 階薬情報支援室にて対応します。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

医薬品開発 I

4 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 沼田 千賀子
特任教授 中江 裕子
非常勤講師 楠 康代

一般目標 (GIO)

医薬品開発と製造販売後の実際を理解するために、各プロセスに関する基本的知識を修得し、社会的重要性に目を向ける態度を身につける。

到達目標 (SBOs)

1. 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。
2. 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。
3. 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。
4. 医薬品創製における治験の役割を説明できる。
5. 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。
6. 治験 (第 I、II および III 相) の内容を説明できる。
7. 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。
8. 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。
9. 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。
10. 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。
11. 市販後調査の制度とその意義について説明できる。
12. 代表的な薬害の例について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。

準備学習 (予習・復習等)

質問は各講義終了後に行ってください。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	中江 裕子	医薬品開発概要	医薬品開発プロセスの概要	C17(1)-1-1 C17(1)-4-4
第2回	中江 裕子	非臨床試験	非臨床試験の目的と実施概要	C17(1)-3-1
第3回	中江 裕子	治験	治験の定義、意義	C17(1)-4-1 C17(4)-1-2
第4回	中江 裕子	治験	治験の倫理、規制	C17(4)-1-1 C17(4)-1-4
第5回	中江 裕子	治験	治験の組織とその役割	C17(4)-1-6
第6回	中江 裕子	臨床試験	臨床試験の科学	C17(4)-1-3
第7回	楠 康代	臨床試験	臨床試験の実施体制と支援業務	C17(4)-2-1
第8回	中江 裕子	臨床試験	臨床試験の評価	C17(4)-1-3
第9回	中江 裕子	医薬品の承認	医薬品の承認申請、審査、承認のプロセス	C17(1)-4-2
第10回	中江 裕子	市販後の制度	医薬品の市販後の安全対策等	C17(1)-4-3
第11回	沼田 千賀子	薬害	薬害被害者との対話	C17(1)-8-1
第12回	沼田 千賀子	薬害	代表的な薬害の原因と社会的背景	C17(1)-8-1

成績評価方法

定期試験 (90 点) 、平常点 (10 点) 配点内訳 : 出席で評価する。

教科書

医薬品開発入門 (じほう)

指定参考書

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

医薬品開発Ⅱ

4 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 和田 昭盛
特別教授 宮田 興子
非常勤講師 瀧池 敏郎
非常勤講師 榊 秀之

一般目標(GIO)

ドラッグデザインの科学的な考え方を理解するために、標的生体分子との相互作用および基盤となるサイエンスと技術に関する基本的知識と技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。
2. 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。
3. 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。
4. 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。
5. 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。
6. 生物学的等価性の意義について概説できる。
7. 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。

準備学習(予習・復習等)

基礎となる有機化学と生物化学が密接に関連していることを理解し、総合的な薬学的思考を訓練していくことが重要です。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	和田 昭盛 宮田 興子	メディシナルケミストリー	創薬のプロセス	C17(2)-1-1
第2回	和田 昭盛 宮田 興子	標的・リード化合物の発見法	薬のもととなる化合物	C17(2)-2
第3回	和田 昭盛 宮田 興子	スクリーニング法1	ハイスループット合成	C17(2)-3-1
第4回	和田 昭盛 宮田 興子	スクリーニング法2	コンピューターの利用	C17(2)-3-2
第5回	和田 昭盛 宮田 興子	構造活性相関1	各種パラメーター	C17(2)-4-1
第6回	和田 昭盛	構造活性相関2	化学的等価性と生物学的等価性	C17(2)-4-2
第7回	宮田 興子 和田 昭盛	薬物の作用の立体化学1	立体配座の固定	C17(2)-2-2,3
第8回	宮田 興子 和田 昭盛	薬物の作用の立体化学2	薬物・受容体相互作用	C17(2)-2-2
第9回	宮田 興子 和田 昭盛	構造の最適化1	置換機効果	C17(2)-4-3
第10回	宮田 興子 和田 昭盛	構造の最適化2	光学異性	C17(2)-4-3
第11回	榊 秀之	医薬品開発の実際1		C17(2)
第12回	瀧池 敏郎	医薬品開発の実際2		C17(2)

成績評価方法

定期試験 100 点

教科書

プリント

指定参考書

創薬化学—有機化学からのアプローチ (北泰行、平岡哲夫編) 東京化学同人

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

薬事関係法規・薬事制度

4 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 濱口 常男
講師 猪野 彩

一般目標(GIO)

患者の権利を考慮し、責任を持って医療に参画できるようになるために、医薬品、医療機器等法、薬剤師法などの医療および薬事関係法規、制度の精神とその施行に関する基本的知識を修得し、それらを遵守する態度を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚し、医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たし、また、製造物責任法を概説することができる。
2. 薬剤師に関連する法令の構成、薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。
3. 医薬品、医療機器等法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。
4. 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。
5. 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。
6. 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。
7. 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。
8. 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。
9. 大麻取締法およびあへん法を概説できる。
10. 毒物および劇物取締法を概説できる。
11. 医療保険制度のしくみおよび医療保険法について説明できる。
12. 介護保険制度のしくみおよび介護保険法について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

法律文は一般分と比較すると明らかに特殊であるため、一読しただけで理解することは難しい。薬事関係法規や制度は文章を読むだけでなく、理解するためには対象、目的、定義によって分類整理し、系統づけることが重要である。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	濱口 常男	法、倫理、責任	薬剤師の倫理と責任、製造物責任法について	C18(1)-1-1 C18(1)-2-1,7
第2回	濱口 常男	薬剤師法および医薬品、医療機器等法 (1)	薬剤師の資格・任務・業務および薬事法での規制対象の定義について	C18(1)-2-1,3
第3回	濱口 常男	医薬品、医療機器等法 (2)	薬局、医薬品の販売業および医療機器の販売業・賃貸業・修理業について	C18(1)-2-2
第4回	濱口 常男	医薬品、医療機器等法 (3)	医薬品の製造販売業・製造業、医薬品の基準及び検定について	C18(1)-2-2
第5回	濱口 常男	医薬品、医療機器等法 (4)	医薬品製造後の安全対策、流通、生物由来製品、監督、指定薬物の取り扱いについて	C18(1)-2-2
第6回	濱口 常男	機構法	副作用の定義と救済制度について	C18(1)-2-6
第7回	濱口 常男	麻薬及び向精神薬取締法、大麻取締法及びあへん法	麻薬、向精神薬の取り扱い及び大麻、あへんの定義と取り扱いについて	C18(1)-3-1
第8回	濱口 常男	覚せい剤取締法	覚せい剤、覚せい剤原料及び取り扱いの定義について	C18(1)-3-2
第9回	濱口 常男	医療法、医師法、歯科医師法等	医療施設・医療提供体制の規定並びに医師等の任務について	C18(1)-2-5
第10回	猪野 彩	毒物、劇物取締法	毒物、劇物及び取り扱いの定義について	C18(1)-3-4
第11回	猪野 彩	医療保険制度	保険医療の実施、保険給付のしくみ、診療報酬について	C18(2)-2-2,3
第12回	猪野 彩	介護保険法	介護保険制度のしくみについて	C18(2)-1-3

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

わかりやすい薬事関係法規・制度 (廣川書店)

指定参考書

今日の薬事法規・制度 (京都廣川書店)
薬事衛生六法 (薬事日報社)

オフィスアワー

わからない点について質問してください。(1 1 号館 1 階)

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

社会保障制度と薬剤経済

4 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 杉山 正敏
准教授 波多江 崇
講師 辰見 明俊
講師 森脇 健介

一般目標(GIO)

公平で質の高い医療を受ける患者の権利を保障するしくみを理解するために、社会保障制度と薬剤経済の基本的知識と技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。
2. 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。
3. 介護保険制度のしくみを説明できる。
4. 高齢者医療保険制度のしくみを説明できる。
5. 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。
6. 医療保険のしくみを説明できる。
7. 医療保険の種類を列挙できる。
8. 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。
9. 国民医療費の動向を概説できる。
10. 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。
11. 診療報酬と薬価基準について説明できる。
12. 医療費の内訳を概説できる。
13. 薬物治療の経済評価手法を概説できる。
14. 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。

準備学習(予習・復習等)

近年の日本における社会保障制度は変革期にあることから、日頃から新聞、テレビおよびインターネットなどでの関連情報にも目を向けて受講してください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	杉山 正敏	社会保障制度	社会保障制度のしくみ	C18(2)-1-1
第2回	辰見 明俊	医療保険制度	医療保険制度の役割	C18(2)-1-2
第3回	辰見 明俊	医療保険	医療保険の成り立ちと現状 医療保険のしくみ 医療保険の種類 医療保険の貢献と問題点	C18(2)-2-1 C18(2)-2-2 C18(2)-2-3 C18(2)-2-4
第4回	辰見 明俊	高齢者医療保険制度	高齢者医療保険制度のしくみ	C18(2)-1-4
第5回	波多江 崇	介護保険制度	介護保険制度のしくみ(1)	C18(2)-1-3
第6回	波多江 崇	介護保険制度	介護保険制度のしくみ(2)	C18(2)-1-3
第7回	森脇 健介	薬剤経済	国民医療費の動向	C18(2)-3-1
第8回	森脇 健介	薬剤経済	保険医療と薬価制度の関係	C18(2)-3-2
第9回	森脇 健介	薬剤経済	診療報酬と薬価基準	C18(2)-3-3
第10回	森脇 健介	薬剤経済	医療費の内訳	C18(2)-3-4
第11回	森脇 健介	薬剤経済	薬物治療の経済評価手法	C18(2)-3-5
第12回	森脇 健介	薬剤経済	薬物治療の経済的観点からの解析	C18(2)-3-6

成績評価方法

定期試験(80点)、小テスト(20点)

教科書

スタンダード薬学シリーズ9 薬学と社会(第3版) 日本薬学会編(東京化学同人)

指定参考書

オフィスアワー

質問や相談は適時受け付けます。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

OTCヘルスケア論

4年次
前期 必修 1単位

担当教員名 教授 田内 義彦
准教授 波多江 崇

一般目標(GIO)

本邦では、世界的に例を見ないほど、急速に、少子高齢化が進行している。また、医療技術の進歩により、疾病罹患後の延命効果も向上している。そのため、医療費が国の財政を圧迫している。薬剤師の業務が、他の医療職種と異なる点は、何らかの疾病を抱える患者だけでなく、薬局およびドラッグストアで健康人へのカウンセリングやOTC医薬品・サプリメントなどの販売等を通して、健康寿命の延長の貢献ができることにある。そこで、本科目では、OTC医薬品を中心に、その適正使用や受診勧奨の必要性などのトリアージを行う際のポイントについて、症例を用いて理解することを目的としている。

到達目標(SBOs)

1. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。
2. 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。
3. 一般用医薬品のリスクの程度に応じた分類（第一類、第二類、第三類）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。
4. 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。
5. 一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。
6. 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。（発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等）
7. 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。
8. 一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。
9. 一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。

準備学習(予習・復習等)

日常生活において、マスメディアによる医薬品や健康食品等の報道等に留意し、その正確性を吟味する習慣を身に付けるとともに、日頃の買い物等で、医薬品については薬局・ドラッグストア、医薬部外品、化粧品、サプリメント等については薬局・ドラッグストアだけでなく、スーパー・コンビニ等での陳列、説明用ポップ等を観察し、どのような表現になっているのかチェックすること。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田内 義彦	セルフメディケーション概論	セルフメディケーションにおける薬局の役割	B4-1-3
第2回	田内 義彦	地域と薬剤師	地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割	E9-1
第3回	田内 義彦	一般用医薬品の法的分類	一般用医薬品のリスクの程度に応じた分類と代表的な製剤	E9-2
第4回	波多江 崇	主な養生法	主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義	E9-6
第5回	波多江 崇	一般用医薬品等の具体例①	セルフメディケーションに用いる一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用①	E9-5
第6回	波多江 崇	一般用医薬品等の具体例②	セルフメディケーションに用いる一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用②	E9-5
第7回	波多江 崇	代表的な相互作用	一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用	E9-7
第8回	波多江 崇	代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患① 一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否の判断① 一般用医薬品等による治療効果と副作用の判定①	解熱鎮痛薬 外用消炎鎮痛薬 総合感冒薬 鎮咳去痰薬 鼻炎用薬	E9-3 E9-4 E9-8
第9回	田内 義彦	代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患② 一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否の判断② 一般用医薬品等による治療効果と副作用の判定②	漢方薬	E9-3 E9-4 E9-8
第10回	波多江 崇	代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患③ 一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否の判断③ 一般用医薬品等による治療効果と副作用の判定③	便秘薬 痔用薬 泌尿器用薬 乗り物酔い予防薬 睡眠改善薬	E9-3 E9-4 E9-8

第11回	波多江 崇	代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患④ 一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否の判断④ 一般用医薬品等による治療効果と副作用の判定④	点眼薬 皮膚病薬 口内炎治療薬	E9-3 E9-4 E9-8
第12回	波多江 崇	代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患⑤ 一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否の判断⑤ 一般用医薬品等による治療効果と副作用の判定⑤	ニコチン薬 ビタミン・ミネラル・滋養強壮薬 発毛薬	E9-3 E9-4 E9-8

成績評価方法

出席点：20点、定期試験：80点による100点満点で評価を行う。

教科書

薬の選び方を学び実践する OTC 薬入門 [改訂版]、薬ゼミ情報教育センター；改訂版

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

実用薬学英語

4 年次

通年 選択 2 単位

担当教員名 非常勤講師 西野 かおる

一般目標 (GIO)

急速な国際化が進む昨今、外国人の姿を見ない日はなくなってきた。在住外国人や旅行で薬局を訪れる外国人に、英語で問診や服薬指導できるための基礎知識を学ぶ。

到達目標 (SBOs)

英語で

1. 患者の症状を聞くことができる。
2. 患者の history taking ができる。
3. 用法・用量の指導ができる。
4. 効能・副作用についての説明ができる。
5. 英文の患者向け薬剤説明書を理解できる。

ネイティブスピーカーでなくても、英語を共通語として会話する人は世界中に 10 億人以上いるといわれている。日本人の患者に日本語で服薬指導するのと同じように、英語で服薬指導ができれば、それだけでも患者さんは安心されるでしょう。

準備学習 (予習・復習等)

英会話は一度に上達するというものではなく、日々の繰り返しによって身につけていきます。

授業で学習した会話は、復習して覚えましょう。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	西野 かおる	リスニング1 臓器の名前 薬の効能・効果	薬の効能の説明や簡単な薬理を英語で表現する。	G(1)
第2回	西野 かおる	リスニング2 服薬指導の基本的表現	服薬指導時によく使うフレーズを英語で言えるように練習する。	G(1)
第3回	西野 かおる	リスニング3 ショートロールプレイ (かぜ薬)	基本となる会話を「風邪薬の投薬」の場面を想定して練習する。	G(1)
第4回	西野 かおる	リスニング4 問診票	初めて薬局に来た患者さんへの問診の取り方を練習する。	G(1)
第5回	西野 かおる	ショートロールプレイ (ドライシロップ) ショートロールプレイ (坐薬)	小児に処方されたドライシロップの飲ませ方の説明を練習する。 坐薬が処方された時の使用方法の説明を練習する。	G(1)
第6回	西野 かおる	リスニング5 ショートロールプレイ (2種類の点眼薬)	2種類の点眼薬が処方された時の使用方法の説明を練習する。	G(1)
第7回	西野 かおる	ショートロールプレイ (低血糖の説明)	最も危険な副作用の1つである低血糖についての説明を自分で作成して伝える練習をする。	G(1)
第8回	西野 かおる	リスニング6 ショートロールプレイ (抗生物質と制酸剤)	制酸剤を服用中の患者に、抗生物質を併用する際の注意事項を説明する練習をする。	G(1)
第9回	西野 かおる	リスニング7 ショートロールプレイ (ニトロペン)	ニトロペンの使い方についての説明を練習する。	G(1)
第10回	西野 かおる	リスニング8 ショートロールプレイ (解熱剤)	解熱剤の使用法についての説明を練習する。	G(1)
第11回	西野 かおる	到達度チェック	前期に学習したロールプレイの到達度チェックとミニテスト	G(1)
第12回	西野 かおる	到達度チェック	前期に学習したロールプレイの到達度チェックとミニテスト	G(1)
第13回	西野 かおる	服薬指導基本フレーズ (前期の復習) ショートロールプレイ (抗凝固薬)	前期に学習した服薬指導の基本フレーズを確認する。 抗凝固薬が処方された際の注意事項の説明について練習する。	G(1)
第14回	西野 かおる	スカイプ会話作成	スカイプクラスで使用する会話を作成する。	G(1)
第15回	西野 かおる	スカイプクラス	ネイティブスピーカーとスカイプを使って会話する。 (ただし、時差などの事情により変更あり)	G(1)
第16回	西野 かおる	OTCの下剤	市販の薬局に来た外国人患者に、下剤を選択し販売する会話を作成する。	G(1)
第17回	西野 かおる	ロールプレイ (ARBとACE阻害薬)	ACE阻害薬を処方されていた患者の処方がARBに変更されたときに説明する会話を練習する。	G(1)
第18回	西野 かおる	薬局での会話制作 (抗生物質とキレート結合)	市販のキャベジンと医療用のキャベジンの違いや、抗生物質との併用についての患者への説明を練習する。	G(1)
第19回	西野 かおる	ロールプレイ (ARBとACE阻害薬) 1	ACE阻害薬で副作用が出て、処方がARBに変わった患者への説明を練習する。	G(1)

第20回	西野 かおる	ネイティブスピーカーの会話を聴く (小児への投薬のコツ)	録音されたネイティブスピーカー2人の会話を聴きとり、確認する。	G(1)
第21回	西野 かおる	ジェネリック医薬品の説明	最近、処方されることが増えてきたジェネリック医薬品についての説明を練習する。	G(1)
第22回	西野 かおる	グループワーク	通年で学習したことを使って、処方箋を見て、あるいは薬局での場面を想定して会話を作る。	G(1)
第23回	西野 かおる	プレゼンテーション	制作した会話を発表する。	G(1)
第24回	西野 かおる	プレゼンテーション	制作した会話を発表する。	G(1)

成績評価方法

前期・後期を通しての出席日数および受講態度 (20点)
 前期のロールプレイ到達度とミニテストの成績 (40点)
 後期の会話制作とプレゼンテーション (40点)

教科書

講師が資料を用意

指定参考書

東京化学同人「薬学生・薬剤師のための英会話ハンドブック」

オフィスアワー

随時

教基
育礎

教育
育養

教専
育門

教基
育礎

教育
育養

教専
育門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

実用医療英語

4 年次

通年 選択 2 単位

担当教員名 准教授

玉巻 欣子

一般目標 (GIO)

薬剤師として外国人患者さんに対応する際に必要な実践的英語力を養う。

到達目標 (SBOs)

1. 基本的な医学英語語彙・表現の意味や語源を理解し発音できる。
2. 英語で問診・服薬指導を行うことができる。
3. 薬学・医療系英文資料の大意を把握し説明できる。
4. 患者—薬剤師間の英語でのやり取りを聞き取ることができる。

準備学習 (予習・復習等)

本授業では英語での問診や服薬指導に必要な表現を OSCE のスタイルで練習します。薬剤師として知っておきたい医学英語の基本語彙の意味や語源も学びます。外国人患者さんからの質問を予想し、英語でどう答えたらよいかについても考えます。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	玉巻 欣子	講義概要	講義概要 授業の目標と進め方について	G(1)
第2回	玉巻 欣子	症状に関する表現(1) Fever, Cough	英文家庭用医学書のフローチャートを使って症状に関する英語表現を学び、会話練習する。	G(1)
第3回	玉巻 欣子	症状に関する表現(2) Abdominal pain, Nausea	英文家庭用医学書のフローチャートを使って症状に関する英語表現を学び、会話練習する。	G(1)
第4回	玉巻 欣子	症状に関する表現(3) Diarrhea, Constipation	英文家庭用医学書のフローチャートを使って症状に関する英語表現を学び、会話練習する。	G(1)
第5回	玉巻 欣子	薬局での会話(1) 風邪薬	OTC 風邪薬を買いに来た外国人患者さんへの英語での対応を練習する。	G(1)
第6回	玉巻 欣子	薬局での会話(2) 消化器系薬 (胃薬)	OTC 消化器系薬 (胃薬) を買いに来た外国人患者さんへの英語での対応を練習する。	G(1)
第7回	玉巻 欣子	薬に関する英文読解(1) Medicines for digestive problem	英文家庭用医学書をスモールグループで読む。	G(1)
第8回	玉巻 欣子	薬局での会話(3) 消化器系薬 (下剤, 下痢止め)	OTC 消化器系薬 (下剤, 下痢止め) を買いに来た外国人患者さんへの英語での対応を練習する。	G(1)
第9回	玉巻 欣子	薬局での会話(4) 点眼薬	OTC 点眼薬を買いに来た外国人患者さんへの英語での対応を練習する。	G(1)
第10回	玉巻 欣子	薬に関する英文読解(2) Allergies	英文家庭用医学書をスモールグループで読む。	G(1)
第11回	玉巻 欣子	前期のまとめ	前期の総復習 (薬剤師—患者ロールプレイ)	G(1)
第12回	玉巻 欣子	前期のまとめ	前期の総復習 (教員とのロールプレイ)	G(1)
第13回	玉巻 欣子	後期の講義概要	後期の授業の概要について	G(1)
第14回	玉巻 欣子	薬局での患者対応 患者インタビュー(1)	英語での OSCE 練習 (動画) リスニング 患者さんの初回インタビューに必要な英語表現を確認し、会話練習を行う。	G(1)
第15回	玉巻 欣子	薬局での患者対応 患者インタビュー(2)	患者さんの初回インタビューに必要な英語表現を確認し、会話練習を行う。	G(1)
第16回	玉巻 欣子	薬局での薬剤交付 服薬指導(1) (経口薬)	英語での OSCE 練習 (動画) リスニング 薬効・薬の使用法・副作用の説明に必要な英語表現を確認し、会話練習を行う。	G(1)
第17回	玉巻 欣子	薬局での薬剤交付 服薬指導(2) (経口薬)	薬効・薬の使用法・副作用の説明に必要な英語表現を確認し、会話練習を行う。	G(1)
第18回	玉巻 欣子	薬局での薬剤交付 服薬指導(3) (色々なタイプの薬)	薬効・薬の使用法・副作用の説明に必要な英語表現を確認し、会話練習を行う。	G(1)
第19回	玉巻 欣子	薬局での薬剤交付 服薬指導(4) (患者からの質問)	薬の飲み忘れ、食物との飲み合わせ等についての説明に必要な英語表現を確認し、会話練習を行う。	G(1)
第20回	玉巻 欣子	病棟での初回面談	初回面談に必要な英語表現を再確認し、会話練習を行う。	G(1)
第21回	玉巻 欣子	病棟での服薬指導(1)	服薬指導に必要な英語表現を再確認し、会話練習を行う。	G(1)
第22回	玉巻 欣子	病棟での服薬指導(2)	服薬指導に必要な英語表現を再確認し、会話練習を行う。	G(1)
第23回	玉巻 欣子	プレゼンテーション準備	後期の総復習 プレゼンテーション (スモールグループロールプレイ) のシナリオ作成・練習を行う。	G(1)
第24回	玉巻 欣子	プレゼンテーション 総括	プレゼンテーション 1年間の総括	G(1)

成績評価方法

1. 出席 (10 点)、2. 筆記試験 (前期・後期) (50 点)、3. スピーキングテスト・プレゼンテーション・レポート (40 点) 出席重視

教科書

メジカルビュー社『第3版 これだけは知っておきたい医学英語の基本用語と表現』

指定参考書

特になし

オフィスアワー

在室中はいつでも質問OKです。

4号館2階 2-206

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

臨床栄養学

4 年次
前期 選択 1 単位

担当教員名 特別教授 岡野 登志夫
非常勤講師 田中 清

一般目標(GIO)

薬の専門家である薬剤師が、患者の栄養状態を正確に把握したうえで、適切な薬物治療を行うことができるようになるために、臨床栄養に関する基本的知識・技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 臨床栄養の基礎理論および活用理論について概説できる。
2. 栄養アセスメントの意義と実施方法について説明できる。
3. 臨床検査値に基づく栄養必要量の算出法について説明できる。
4. 栄養療法の意義と栄養補給法の選択基準について説明できる。
5. ライフステージ別の栄養補給の特徴と問題点について説明できる。
6. 主な疾患（代謝系、消化器系、循環器系、運動器系、神経系など）における栄養アセスメントおよび栄養管理について説明できる。
7. ストレス時・周術期の栄養アセスメントおよび栄養管理について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

病気の治療には薬物療法とともに患者自身の栄養・代謝改善、体力と免疫力の回復が大切である。臨床栄養を理解するには、これまでに学んできた病態生理と栄養・生化学的知識が不可欠である。講義予定範囲の項目と内容について予習(30分程度)し、講義に臨むことを推奨する。講義終了後は配布プリントを活用し、講義内容を体系的に纏めながら復習(30分程度)することを希望する。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	岡野 登志夫	臨床栄養の基礎理論および活用理論	健常者と患者に対する栄養生理の考え方、食事療法の基本的な考え方、一般食と治療食	D1-(3)-①-1~8
第2回	岡野 登志夫	栄養アセスメントの意義と実施方法	栄養スクリーニング、主観的包括的評価、客観的栄養評価、栄養不良の分類と診断(マラスムスとクワシオコール、マラスムス性クワシオコールなど)、栄養危険指数と予後判定栄養指数	D1-(3)-①-7,8
第3回	岡野 登志夫	臨床検査値に基づく栄養必要量の算出法	患者におけるエネルギー、炭水化物、たんぱく質、脂質、食物繊維、水分、電解質、ビタミン・ミネラル必要量の算出法、身体計測評価法	D1-(3)-①-5 F-(3)-③-6
第4回	岡野 登志夫	栄養療法の意義と栄養補給法の選択基準	消化管機能と栄養補給法、経腸栄養法と経静脈栄養法、選択基準、経腸・経静脈栄養剤の特徴、合併症	E3-(3)-④-3 F-④-1(薬学アドバンス教育ガイドライン)(例示)
第5回	岡野 登志夫	ライフステージ別の栄養補給の特徴と問題点	小児・高齢者の栄養病態の特徴と栄養管理、栄養素・薬物相互作用、NSTの現状と問題点	F-(4)-①-9
第6回	岡野 登志夫	代謝系疾患における栄養アセスメントおよび栄養管理	肥満、糖尿病、メタボリックシンドローム、痛風における栄養病態と栄養管理	E2-(5)-①-1~3
第7回	田中 清	消化器系疾患における栄養アセスメントおよび栄養管理	胃腸疾患、慢性肝疾患(特に肝硬変)、胆・膵疾患における栄養病態と栄養管理	E2-(4)-②-1~6
第8回	田中 清	循環器系疾患における栄養アセスメントおよび栄養管理	虚血性心疾患、脳出血、脳梗塞、動脈硬化症における栄養病態と栄養管理	E2-(3)-①-1~5
第9回	田中 清	運動器系疾患における栄養アセスメントおよび栄養管理	慢性関節リウマチ、変形性関節症、骨粗鬆症における栄養病態と栄養管理	E2-(2)-③-1~4
第10回	田中 清	神経・精神疾患における栄養アセスメントおよび栄養管理	認知症(特に老人性およびアルツハイマー型認知症)における栄養病態と栄養管理	E2-(1)-③-10
第11回	田中 清	呼吸器系疾患における栄養アセスメントおよび栄養管理	肺炎、喘息、インフルエンザ、COPDにおける栄養病態と栄養管理	E2-(4)-①-1~3
第12回	田中 清	悪性腫瘍、ストレス時・周術期の栄養アセスメントおよび栄養管理	胃がん、肝がん、乳がん、大腸がん、周術期における栄養病態と栄養管理	E2-(7)-⑦-1,2

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

病態栄養ガイドブック(日本病態栄養学会編、メディカルレビュー社)

指定参考書

臨床栄養治療の実践・病態別編(岡田 正監修、金原出版)
最新栄養学第9版(木村修一、小林修平監修、建帛社)

オフィスアワー

質問は随時受け付けます。

化粧品学

4年次・6年次
前期 選択 1単位

担当教員名 教授 北河 修治
非常勤講師 吉井 隆
非常勤講師 吉岡 隆嗣
非常勤講師 岡野 由利

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

一般目標(GIO)

化粧品の有用性、機能性、安全性を理解し、適用される皮膚、毛髪の構造と機能、関連する法規、化粧品の原料、製剤についての基本的知識を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 化粧品の種類を列挙し、関連する法規について説明できる。
2. 皮膚の構造や機能について説明できる。
3. 物質の皮膚吸収の特徴について説明できる。
4. 代表的な化粧品を列挙し、その有用性について説明できる。
5. 化粧品の安全性と評価、試験法について説明できる。
6. 代表的な化粧品原料について説明できる。
7. 化粧品の剤形と製剤、物性評価、品質保証について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

質問は各講義終了後に行ってください。皮膚の構造と機能、またそれらをできるだけ維持する方法を理解しておくことは薬学生にとって大切です。講義内容を毎回復習しておくこと。関心のある学生は是非受講してください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	北河 修治	化粧品学講義概要	化粧品学とは、講義スケジュール、経皮吸収	
第2回	吉井 隆	化粧品の概念	化粧品の種類及び分類、法規	
第3回	岡野 由利	皮膚の構造と機能	皮膚の基本構造、生理作用	
第4回	吉井 隆	皮膚用化粧品	美白化粧品、紫外線防御化粧品	
第5回	吉井 隆	皮膚用化粧品	メイクアップ化粧品	
第6回	岡野 由利	皮膚用化粧品	シミ、シワと化粧品	
第7回	吉井 隆	その他の化粧品	毛髪、爪と化粧品、フレグランス化粧品	
第8回	岡野 由利	化粧品の安全性	化粧品の安全性と評価、試験法	
第9回	吉岡 隆嗣	化粧品原料	化粧品の基本的原料	
第10回	吉岡 隆嗣	化粧品製剤	化粧品の製剤	
第11回	吉岡 隆嗣	化粧品製剤	化粧品容器、製剤技術	
第12回	吉岡 隆嗣	化粧品の物性評価	化粧品の物性評価、品質保証	

成績評価方法

定期試験(80点)、平常点(20点) 配点内訳:出席で評価する。

教科書

特になし(プリント)

指定参考書

化粧品科学ガイド第2版 田上八朗他監修 フレグランスジャーナル社

オフィスアワー

講義終了直後

キャリアデザイン講座

4 年次
前期 選択 1 単位

担当教員名 教授 北川 裕之 准教授 中川 公恵
教授 濱口 常男 准教授 上田 昌史
教授 小西 守周 准教授 水谷 暢明
准教授 竹内 敦子 非常勤講師 松田 剛典

一般目標(GIO)

「卒業後の進路について選択肢を広げる」

「自分の適性を知り、社会で必要になるスキルを磨く」

あなたが学んだ薬学の知識や大学で得たスキルは社会のどこで活かす事ができるのでしょうか？この講義では多くの社会人ゲストの講話を通して、将来のキャリアに関する具体的な展望が持てるようになり、進路の選択肢を広げる事を目標としています。一方で、課題発見力、発信力、傾聴力といった、希望進路に進むために必要な基礎力があります。講座内では自己の価値観や適性を把握し、基礎力を向上させることを第二の目標としています。

到達目標(SBOs)

1. 企業や職業についての理解を深め具体的なキャリアデザインが出来る。
2. 自己の適性を把握し、必要とされる力が分かる。
3. 実社会に触れることにより、社会への関心を向上させる。
4. コミュニケーション能力を学び、社会人や学生同士で交流できる。
5. 自ら課題発見し、行動計画や振り返りを行う事が出来る。

準備学習(予習・復習等)

グループワークやミニレポートなど実践的な内容が多くあります。積極的な姿勢で受講してください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	松田 剛典	第1回 キャリアデザインについて	社会で求められるスキル(社会人基礎力)と選択肢(キャリアデザインの基本的な考え方)について	
第2回	松田 剛典	第2回 コミュニケーション能力について	傾聴力の基礎、発信力の基礎およびグループディスカッションの基礎	
第3回	松田 剛典	第3回 社会理解・仕事理解	売り上げと利益/新人の仕事・3年後の仕事/薬学生の可能性	
第4回	松田 剛典	第4回 自己理解	自分が大切にしている価値観とは?ライフラインチャートを使った過去の振り返り	
第5回	松田 剛典	第5回 社会研究・仕事研究の方法	現実的な仕事についての概要とそれぞれの特徴を学ぶ/情報の集め方やヒアリングのポイント	
第6回	松田 剛典	第6回 仕事について話を聞く	企業や病院などで働く方をゲストから仕事内容や業界についての話を聞く/質疑応答	
第7回	松田 剛典	第7回 仕事について話を聞く	企業や病院などで働く方をゲストから仕事内容や業界についての話を聞く/質疑応答	
第8回	松田 剛典	第8回 仕事について話を聞く	企業や病院などで働く方をゲストから仕事内容や業界についての話を聞く/質疑応答	
第9回	松田 剛典	第9回 仕事について話を聞く	企業や病院などで働く方をゲストから仕事内容や業界についての話を聞く/質疑応答	
第10回	松田 剛典	第10回 仕事について話を聞く	企業や病院などで働く方をゲストから仕事内容や業界についての話を聞く/質疑応答	
第11回	松田 剛典	第11回 キャリアデザインマップを作成する	ゲスト講話の振り返り/キャリアデザインマップの作成	
第12回	松田 剛典	第12回 キャリアデザインマップを作成する	キャリアデザインマップの作成/発表	

成績評価方法

平常点 50% (小レポート)
中間・期末レポート 40%
授業内での発表・態度 10%

教科書

特になし

指定参考書

オフィスアワー

授業時間外は社内です。
何かあれば、matsugoten@kokoswitch.com までご連絡ください。

実務実習事前教育

(前期分)

4年次

通年 必修 4単位

担当教員名	教授	杉山 正敏	臨床特命教授	渡 雅克	講師	辰見 明俊
	教授	江本 憲昭	臨床特命教授	奥川 齊	講師	猪野 彩
	教授	濱口 常男	臨床特命教授	河本 由紀子	講師	土生 康司
	教授	沼田 千賀子	准教授	波多江 崇	講師	河内 正二
	教授	田内 義彦	准教授	池田 宏二	講師	竹下 治範
	教授	力武 良行	講師	八木 敬子	助教	堀部 紗世
	特任教授	韓 秀妃	講師	安岡 由美		

一般目標(GIO)

卒業後、医療に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。

(1) 事前学習を始めるにあたって

一般目標(GIO)

事前学習に積極的に取り組むために、病院と薬局での薬剤師業務の概要と社会的使命を理解する。

到達目標(SBOs)

《薬剤師業務に注目する》

1. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)

《チーム医療に注目する》

2. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)

(2) 処方せんと調剤

一般目標(GIO)

医療チームの一員として調剤を正確に実施できるようになるために、処方せん授受から服薬指導までの流れに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs)

《処方せんの基礎》

1. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。
2. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。
3. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)
4. 不適切な処方せんの処置について説明できる。

《医薬品の用法・用量》

5. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)
6. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)

《調剤室業務入門》

7. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)

(3) 医薬品の管理と供給

一般目標(GIO)

病院・薬局における医薬品の管理と供給を正しく行うために、内服薬、注射薬などの取扱い、および院内製剤・薬局製剤に関する基本的知識と技能を修得する。

到達目標(SBOs)

《特別な配慮を要する医薬品》

1. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)
2. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。
3. 放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。

《製剤化の基礎》

4. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。
5. 代表的な院内製剤を調製できる。(技能)

《消毒薬》

6. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。

(4) リスクマネジメント

一般目標(GIO)

薬剤師業務が人命にかかわる仕事であることを認識し、患者が被る危険を回避できるようになるために、医薬品の副作用、調剤上の危険因子とその対策、院内感染などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs)

《副作用に注目する》

1. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。

《リスクマネジメント入門》

2. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。
3. リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)
4. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

専門教育

専門教育

専門教育

準備学習(予習・復習等)

本実習は多岐にわたる項目を多数の教員が分担するので、各担当教員の指示に基づき、教科書、実習テキスト等で実習内容を把握した上で実習に臨むこと。また、実習内容は5年次の実務実習を行う上で必要なスキルなので、復習を充分に行い修得すること。

授業内容(項目・内容)

上記(1)～(4)の各教育目標を達成するための講義、演習(スモールグループディスカッションを含む)、実習

成績評価方法

出席、観察記録、レポート等によって総合的に評価する(50点)。詳細については「実務実習事前教育の受講に関する手引き」に提示する。

教科書

スタンダード薬学シリーズ(日本薬学会編)第10巻「実務実習事前学習 病院・薬局実習に行く前に」
東京化学同人
実務実習事前教育テキスト(前期用)
治療薬マニュアル2016(高久 監修、医学書院)

指定参考書

今日の治療薬2016(水島 編、南江堂)
グラフィックガイド薬剤師の技能(京都廣川書店)
治療薬ハンドブック2016(じほう)

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

実務実習事前教育

(後期分)

4年次

通年 必修 4単位

担当教員名	教授	杉山 正敏	特任教授	韓 秀妃	講師	八木 敬子
	教授	江本 憲昭	臨床特命教授	渡 雅克	講師	辰見 明俊
	教授	濱口 常男	臨床特命教授	奥川 斉	講師	猪野 彩
	教授	沼田 千賀子	臨床特命教授	河本 由紀子	講師	河内 正二
	教授	田内 義彦	准教授	波多江 崇	講師	竹下 治範
	教授	力武 良行	准教授	池田 宏二	助教	堀部 紗世

一般目標(GIO)

卒業後、医療に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。

(1) 処方せんと調剤

一般目標(GIO)

医療チームの一員として調剤を正確に実施できるようになるために、処方せん授受から服薬指導までの流れに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs)

《調剤室業務入門》

1. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)
2. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)
3. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)
4. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)

(2) 疑義照会

一般目標(GIO)

処方せん上の問題点が指摘できるようになるために、用法・用量、禁忌、相互作用などを含む調剤上注意すべき事項に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs)

《疑義照会の意義と根拠》

1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。

《疑義照会入門》

5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。
9. 疑義照会の流れを説明できる。
10. 疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)

(3) 医薬品の管理と供給

一般目標(GIO)

病院・薬局における医薬品の管理と供給を正しく行うために、内服薬、注射薬などの取扱い、および院内製剤・薬局製剤に関する基本的知識と技能を修得する。

到達目標(SBOs)

《製剤化の基礎》

1. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)
2. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)

《注射剤と輸液》

3. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。
4. 代表的な配合変化を検出できる。(技能)
5. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。
6. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)

(4) 服薬指導と患者情報

一般目標(GIO)

患者の安全確保と QOL 向上に貢献できるようになるために、服薬指導などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。

到達目標(SBOs)

《服薬指導に必要な技能と態度》

1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)

教基
育礎

教育
育養

教専
育門

教基
育礎

教育
育養

教専
育門

基
礎
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

- 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)
- 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)
- 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。

《患者情報の重要性に注目する》

- 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。
- 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。(技能)
- 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。

《服薬指導入門》

- 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能)
- 共感的態度で患者インタビューを行う。(技能・態度)
- 患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)
- 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能)

(5) 事前学習のまとめ

一般目標(GIO)

病院実務実習・薬局実務実習に先立って大学内で行った事前学習の効果を高めるために、調剤および服薬指導などの薬剤師職務を総合的に実習する。

準備学習(予習・復習等)

本実習は多岐にわたる項目を多数の教員が分担するので、各担当教員の指示に基づき、教科書、実習テキスト等で実習内容を把握した上で実習に臨むこと。また、実習内容は5年次の実務実習を行う上で必要なスキルなので、復習を充分に行い修得すること。

授業内容(項目・内容)

上記(1)～(5)の各教育目標を達成するための講義、演習(スモールグループディスカッションを含む)、実習

成績評価方法

出席、観察記録、レポート、評価表による評価等によって総合的に評価する(50点)。詳細については「実務実習事前教育の受講に関する手引き」に提示する。

教科書

スタンダード薬学シリーズ(日本薬学会編)第10巻「実務実習事前学習 病院・薬局実習に行く前に」
東京化学同人
実務実習事前教育テキスト(後期用)
治療薬マニュアル2016(高久 監修、医学書院)

指定参考書

今日の治療薬2016(水島 編、南江堂)
薬学生のための計算実践トレーニング帳(前田初男編)化学同人
グラフィックガイド 薬剤師の技能(京都廣川書店)
治療薬ハンドブック2016(じほう)

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

基礎薬学演習

4 年次

後期 必修 3 単位

担当教員名 教授

和田 昭盛 他

一般目標 (GIO)

「薬学モデル・コアカリキュラム」のうち「A. 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ」、「B. イントロダクション」、「C. 薬学専門教育：物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、健康と環境、薬と疾病、医薬品をつくる、薬学と社会」、および「実務実習モデル・コアカリキュラム」のうち「実務実習事前学習」に関する基本的知識を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. ヒューマニズム
2. イントロダクション
3. 物理系薬学
4. 化学系薬学
5. 生物系薬学
6. 健康と環境
7. 薬と疾病
8. 医薬品をつくる
9. 薬学と社会
10. 実務実習事前学習

準備学習 (予習・復習等)

予習・復習をすること。

授業には積極的に出席すること。

試験は毎回必ず受けること。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第 1 回		講義	ヒューマニズム イントロダクション 物理系薬学 化学系薬学 生物系薬学 健康と環境 薬と疾病 医薬品をつくる 薬学と社会 実務実習事前学習	
第 2 回		コンピュータ演習	ヒューマニズム イントロダクション 物理系薬学 化学系薬学 生物系薬学 健康と環境 薬と疾病 医薬品をつくる 薬学と社会 実務実習事前学習	

成績評価方法

出席および試験によって総合的に評価する。

教科書

担当教員指定テキスト

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

卒業研究 I

4 年次

後期 必修 6 単位

担当教員名 (299・300 ページ参照)

基礎
教育

教育
養

専
門
育

基礎
教育

教育
養

専
門
育

基礎
教育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

専
門
育

一般目標 (GIO)

研究室に配属して、研究課題に基づき研究室の教員による研究指導を受けて、研究活動に必要な研究論文などからの知識の習得方法や研究課題の具体的な実施方法を学ぶ。そして研究成果を積み重ねて行くことで、研究分野における研究論文の理解や研究技能・態度の向上を図る。これらの一連の過程を指導教員によるマンツーマンの直接指導や研究室でのディスカッション等を通して推進することにより、問題発見・解決能力の基盤を構築するとともに、その研究の今後の展開方策を探る能力を磨く。

到達目標 (SBOs)

1. 研究課題を理解し、その課題について積極的に取り組むことができる。
2. 研究課題に取り組むために関連論文を読み、論理的思考に基づいた具体的な研究方法を検討できる。
3. 研究課題に取り組むための問題点を把握して、教員や学生との討論にも積極的に参加できる。
4. 研究活動に関わる諸規則を守り、倫理にも配慮して研究に取り組むことができる。
5. 研究課題について指導教員とともに研究計画を作成して、その研究を計画的に推進できる。
6. 研究成果をまとめて、それを考察することができ、そしてその成果を発表し、質疑応答ができる。

授業内容 (項目・内容)

研究室ごとのテーマ

成績評価方法

研究への積極的な取り組み、研究成果のまとめ、質疑応答や報告などを総合的に評価する。

教科書

特になし

指定参考書

特になし

研究室名	担当教員名	題目
機能性分子化学	教授 中山 尋量	・新しい薬物 carrier を目指した機能性材料の開発
	講師 前田 秀子	
	助教 林 亜紀	
薬化学	教授 奥田 健介	・病態・生命機能解明および創薬を志向する機能性分子の創製 ・生物活性を持つ天然物有機化合物の構造、合成および生合成に関する研究
	准教授 竹仲 由希子	
	講師 西村 克己	
薬品化学	准教授 上田 昌史	・地球環境にやさしい環境調和適応型合成反応の開発 ・連続したヘテロ原子によって創り出される新反応の開発 ・新規生物活性物質の合成研究
	講師 武田 紀彦	
生命分析化学	教授 小林 典裕	・抗体のバイオテクノロジーと分析化学への応用
	助教 大山 浩之	
生薬化学	准教授 土反 伸和	・薬用植物における二次代謝産物の生合成と輸送機構に関する研究 ・生薬、漢方薬および植物含有成分の構造解析と生物活性に関する研究
	講師 西山 由美	
薬品物理化学	教授 向 高弘	・生命・自然現象の解明と疾患の診断や治療を目指した物理化学的研究
	講師 田中 将史	
生命有機化学	教授 和田 昭盛	・生物機能解明を指向した鍵化合物の合成 ・新規な有機化学反応や合成法の開発 ・新規な有機化学反応や化合物合成法に関する調査研究
	准教授 山野 由美子	
	講師 沖津 貴志	
薬剤学	教授 岩川 精吾	・トランスポーターやレセプターを利用した新規薬物療法の開発ならびに薬物の体内動態制御 ・医薬品開発、医薬品適正使用に関連する臨床研究情報解析
	講師 上田 久美子	
	助教 細川 美香	
製剤学	教授 坂根 稔康	・難水溶性薬物の分散・溶解と生体膜透過性 ・医薬品の安定性評価とフェンタニル貼布剤および抗 HIV 薬の適正使用に関する研究 ・ポリフェノールの経皮吸収製剤の開発研究および軟膏剤の混合性評価に関する研究
	准教授 寺岡 麗子	
	助教 湯谷 玲子	
微生物化学	教授 小西 守周	・免疫、炎症などにおける細胞外分泌因子のシグナルの解明 ・真菌由来多糖体の生理活性とそのメカニズムの解明
	講師 中山 喜明	
	助教 増田 有紀	
薬理学	教授 吉野 伸	・アレルギーおよび自己免疫疾患の発症機序の解明と免疫薬理学的制御
	准教授 水谷 暢明	
	講師 八巻 耕也	
生化学	教授 北川 裕之	・糖鎖の機能解析とそれに基づく創薬と医療応用
	講師 三上 雅久	
	講師 灘中 里美	
病態生化学	教授 加藤 郁夫	・摂食関連疾患の病態解析および治療薬の開発 ・内分泌・代謝系に関わる生理活性物質の基礎的、臨床的研究 ・健康食品や天然物の効能評価
	講師 多河 典子	
	講師 藤波 綾	

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

基礎教育

専門教育

研究室名	担当教員名	題目
衛生化学	教授 長谷川 潤	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系の障害と修復を制御する情報伝達メカニズムの研究 ・脂溶性ビタミンの機能解析と疾患予防を目指した応用研究
	准教授 中川 公恵	
臨床薬学	教授 江本 憲昭	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患の病態解明と治療法開発のための基礎臨床研究
	准教授 池田 宏二	
	講師 八木 敬子	
医療薬学	教授 力武 良行	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症、消化器疾患およびがんの病態解明と治療法開発
	助教 堀部 紗世	
薬学臨床教育センター	教授 瀧口 常男	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究コース：病院、薬局に出向き、指導薬剤師のもと臨床課題を抽出し、その課題解決のための研究を行う。 ・調査研究コース：医療チームの一員として医薬品の適正使用の推進に貢献する病院・薬局の薬剤業務に関する調査研究を行う。 ・神戸大学コース：神戸大学医学部附属病院薬剤部における臨床研究を行う。
	教授 杉山 正敏	
	教授 沼田 千賀子	
	教授 田内 義彦	
	准教授 波多江 崇	
	講師 辰見 明俊	
	講師 猪野 彩	
	講師 河内 正二	
講師 竹下 治範		
中央分析	准教授 竹内 敦子	<ul style="list-style-type: none"> ・質量分析による生理活性物質の分析 ・NMRの新しい利用方法の開発
	講師 都出 千里	
放射線管理室	教授 向 高弘(兼任)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境放射線に関する研究
	講師 安岡 由美	
社会科学研究室	准教授 松家 次朗	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理、臨床倫理、研究倫理、専門職倫理、プロフェッショナリズム関係の研究を行う。
医療統計学研究室	講師 森脇 健介	<ul style="list-style-type: none"> ・医療技術の費用対効果評価に関する研究
臨床心理学研究室	講師 中島 園美	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患患者への服薬支援・薬剤師のコミュニケーショントレーニング教育プログラム開発
情報支援室	講師 土生 康司	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物治療管理最適化のための情報分析

基礎教育

教育養

専門教育

基礎教育

教育養

専門教育

基礎教育

専門教育

海外薬学研修

4～5年次
前期 選択 1単位

担当教員名 教授 北河 修治
教授 田内 義彦
准教授 玉巻 欣子
講師 辰見 明俊
講師 河内 正二

一般目標(GIO)

薬剤師業務の先進国であるアメリカにおける薬剤師の職能や役割を見学・研修し、国際感覚を身に付けると共に、今後の進路の参考となり得るよう、国内外の薬剤師業務を深く理解する。

到達目標(SBOs)

1. 日米の医療保険制度の違い(特徴と問題点)を概説できる。
2. 日米の病院薬剤師の業務内容について比較検討ができる。
3. 日米の保険薬局の薬剤師業務について比較検討ができる。
4. 日米の薬剤師業務の違いとテクニシャン制度について概説できる。
5. 薬学教育について、日米で比較検討できる。
6. 特定の課題に関し英語で質問でき、相手の答えを聞き取ることができる。

準備学習(予習・復習等)

今後薬剤師として活躍するためのモチベーション及びアイデンティティの確保に寄与できる様、事前講義・海外研修を通して、日米の薬剤師の職能について理解してください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	辰見 明俊	海外薬学研修事前講義①	日本における病院薬剤師の業務について①	G(2)
第2回	河内 正二	海外薬学研修事前講義②	日本における病院薬剤師の業務について②	G(2)
第3回	田内 義彦	海外薬学研修事前講義③	日本における保険薬局薬剤師の業務について	G(2)
第4回	田内 義彦	海外薬学研修事前講義④	日米の医療保険制度について	G(2)
第5回	田内 義彦	海外薬学研修事前講義⑤	日米の薬学教育について	G(2)
第6回	玉巻 欣子	海外薬学研修事前講義⑥	研修に活用できる英会話トレーニング	G(2)
第7回	田内 義彦	海外薬学研修(2週間)	1日目 Opening Ceremony, Academic Orientation Student Service Orientation 2日目 語学研修(米国の文化と実践英語①) 講義(米国の保険医療制度について) 3日目 語学研修(薬学、薬局に関して) 社会福祉施設訪問 4日目 Research Laboratory 見学 語学研修(実践英語②) 5日目 薬科大学見学(事前教育実習見学) 製薬企業、研究室見学 6日目 病院見学(薬剤師業務の講義、臨床研究) 病院見学(講義、実習生との質疑応答) 7日目 講義(地域薬局の役割、業務内容) 地域保険薬局見学 8日目 まとめの講義、ディスカッション Closing Ceremony	G(2)
第8回	田内 義彦	海外薬学研修報告会	レポートに基づいた研修内容の発表(ポスター形式)	G(2)

成績評価方法

事前講義及び海外研修受講時の態度、レポート、報告発表のすべてを総合的に評価する。

教科書

特になし

指定参考書

PHARMACY: what it is and how it works (CRC Press)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

教育
専門

教育
専門

インターンシップ

4～5年次
通年 選択 1単位

担当教員名 教授 北川 裕之 准教授 中川 公恵
教授 濱口 常男 准教授 上田 昌史
教授 小西 守周 准教授 水谷 暢明
准教授 竹内 敦子

一般目標(GIO)

将来のキャリアに関連する企業や団体において実習、研修的な就業体験を行うことで、自己の適性を把握し、就業意識を向上させる。

到達目標(SBOs)

1. 就業体験により職業意識やキャリア意識を喚起し、自己の適性を把握する。
2. 実社会に触れることにより学習意識を向上させる。
3. 受入先の企業や団体の方々や参加した他大学の学生との交流を図る。

準備学習(予習・復習等)

自分の将来を見据えて、積極的な姿勢で受講してください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回		※「インターンシップガイダンス」へ出席する。	4年次 4月6日(水) 講義終了後 5年次 4月5日(火) オリエンテーション終了後 ※単位修得要件	G(7)
第2回		「公募制インターンシップガイダンス」	5月15日(日) 9:30～	G(7)
第3回		※「ビジネス・マナー講座」に出席する	5月15日(日) 12:30～ ※単位修得要件	G(7)
第4回		「インターンシップ」エントリーシートの書き方ガイダンス	5月15日(日) 15:00～	G(7)
第5回		「公募制インターンシップ」への希望者は各自で企業等へ応募し、選考を受ける。	6月～	G(7)
第6回		「単位制インターンシップ」の受入先を大学が公表する。	6月上旬～	G(7)
第7回		「単位制インターンシップ」は、希望する受入先へ志望書を提出し、面接等による選考を受ける。	6月18日(土) 企業による面接日 6月25日(土) 大学による面接日	G(7)
第8回		※「事前説明会・報告会うちあわせ会」へ出席する。	7月2日(土) 10:00～ ※単位修得要件	G(7)
第9回		インターンシップの実施	インターンシップ実施(学生夏季休暇中の3日間以上)	G(7)
第10回		「日報」「報告書」の提出	9月21日(水) 17:00 提出期限	G(7)
第11回		※報告会で発表し、情報交換会へ出席する。	10月22日(土) 13:00～(予定) ※単位修得要件	G(7)

成績評価方法

受入先からの「評価表」と「報告会発表」の結果を総合的に評価する。

「単位制インターンシップ」の「受講届」は、受講決定後に自動登録されます。受講許可者は志望書と面接による選考によって決定します。ただし、5年次生の実務実習が、8月中の「4期制2期」の場合は応募できません。

教科書

特になし

指定参考書

特になし

オフィスアワー

特になし

健康食品

4～5年次
通年 選択 1単位

担当教員名 教授 北河 修治

一般目標(GIO)

薬学・医学・栄養学・食品学の科学的知識をもとに、健康食品の一次機能（栄養）、二次機能（嗜好）、三次機能（種々の体調調節機能による健康の維持、疾病の予防、体調リズムの調節、老化制御など）に関する知識を習得するとともに、これらの食品の利用法を適切に判断できる能力を養う。

到達目標(SBOs)

1. 健康食品の関連法規を理解する。
2. 健康食品に関する栄養学を基盤とする基礎知識を理解する。
3. 健康食品に関する食品学を基盤とする基礎知識を理解する。
4. 健康食品に関する薬学を基盤とする基礎知識を理解する。
5. 健康食品に関する医学を基盤とする基礎知識を理解する。

準備学習(予習・復習等)

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.

成績評価方法

【出席・レポート提出】

①レポートの提出について

- ・提出期限：受講から1週間以内（講義当日、記入用紙配付）
- ・提出場所：1号館2階 エクステンションセンター

※受講講座申出方法

- ・申出期間：平成28年4月4日（月）～平成28年4月12日（火）
（各日10時～15時まで）

- ・申出場所：1号館2階 エクステンションセンター

*注意 受講予定講座を止むを得ず欠席する場合は、該当日前日までにエクステンションセンターまで必ず連絡すること。

教科書

指定参考書

オフィスアワー

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

実践薬学

4～6年次
通年 選択 1単位

担当教員名 教授 北河 修治

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

医療の高度化、急速な高齢化の進展と経済基調の変化のなかで医療環境は大きく変化してきており、医療の担い手としての薬剤師に大きな期待が寄せられている。実践薬学では、様々な分野で活躍する薬剤師を支援するプログラムを実施しており、将来薬剤師として活躍するために必要な知識や技能・態度を修得すると共に、薬剤師の職能の意義を理解する。

到達目標(SBOs)

1. チーム医療の一員としてファーマシューティカルケアを実践するために必要な知識・技能・態度等の資質向上を図る。
2. 薬剤師の職能を理解する。

準備学習(予習・復習等)

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
		卒後研修講座	最新の医療や薬学について	
		リカレントセミナー	職域別に、より専門的で高度な内容のテーマについて総論的な内容と実務に即した内容を組み合わせたセミナー形式の講義	
		薬剤師実践塾	在宅医療におけるチーム医療(多職種連携)での実践力を身につけるために、実践的かつワークショップ形式を取り入れたより少人数の参加型セミナー	
		シンポジウム	医療の現場で薬剤師に求められているもの、また薬剤師は何をすべきか等社会のニーズを的確に捉えて、様々な角度から意見交換を行う	

成績評価方法

【出席・レポート提出】

①レポートの提出について

- ・提出期限：受講から1週間以内(講義当日、記入用紙配付)
- ・提出場所：1号館2階 エクステンションセンター

※受講講座申出方法

- ・申出期間：平成28年4月4日(月)～平成28年4月12日(火)
(各日10時～15時まで)
- ・申出場所：1号館2階 エクステンションセンター

- *注意 受講制限を設けている講座については先着順とする。

受講予定講座を止むを得ず欠席する場合は、該当日の前日までにエクステンションセンターまで必ず連絡すること。

教科書

指定参考書

オフィスアワー

五年次生

卒業研究Ⅱ	307	IPW演習	316
病院実習	310	語学検定	268
薬局実習	313	健康食品	303
海外薬学研修	301	実践薬学	304
インターンシップ	302	Student CASPワークショップ	317

一年次生

二年次生

三年次生

四年次生

五年次生

六年次生

卒業研究Ⅱ

5年次

通年 必修 12単位

担当教員名 (308・309 ページ参照)

一般目標(GIO)

研究室に配属して、研究課題に基づき研究室の教員による研究指導を受けて、研究活動に必要な研究論文などからの知識の習得方法や研究課題の具体的な実施方法を学ぶ。そして研究成果を積み重ねて行くことで、研究分野における研究論文の理解や研究技能・態度の向上を図る。これらの一連の過程を指導教員によるマンツーマンの直接指導や研究室内でのディスカッション等を通して推進することにより、問題発見・解決能力の基盤を構築するとともに、その研究の今後の展開方策を探る能力を磨く。

到達目標(SBOs)

1. 研究課題を理解し、その課題について積極的に取り組むことができる。
2. 研究課題に取り組むために関連論文を読み、論理的思考に基づいた具体的な研究方法を検討できる。
3. 研究課題に取り組むための問題点を把握して、教員や学生との討論にも積極的に参加できる。
4. 研究活動に関わる諸規則を守り、倫理にも配慮して研究に取り組むことができる。
5. 研究課題について指導教員とともに研究計画を作成して、その研究を計画的に推進できる。
6. 研究成果をまとめて、それを考察することができ、そしてその成果を発表し、質疑応答ができる。

授業内容(項目・内容)

研究室ごとのテーマ

成績評価方法

研究への積極的な取り組み、研究成果のまとめ、質疑応答や報告などを総合的に評価する。

教科書

特になし

指定参考書

特になし

教基
育礎

教教
育養

教専
育門

教基
育礎

教教
育養

教専
育門

基
礎
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

基礎教育
 教育養
 専門教育
 基礎教育
 教育養
 専門教育
 基礎教育
 専門教育
 専門教育
 専門教育

研究室名	担当教員名	題目
機能性分子化学	教授 中山 尋量	・新しい薬物 carrier を目指した機能性材料の開発
	講師 前田 秀子	
	助教 林 亜紀	
薬化学	教授 奥田 健介	・病態・生命機能解明および創薬を志向する機能性分子の創製 ・生物活性を持つ天然物有機化合物の構造、合成および生合成に関する研究
	准教授 竹仲 由希子	
	講師 西村 克己	
薬品化学	准教授 上田 昌史	・地球環境にやさしい環境調和適応型合成反応の開発 ・連続したヘテロ原子によって創り出される新反応の開発 ・新規生物活性物質の合成研究
	講師 武田 紀彦	
生命分析化学	教授 小林 典裕	・抗体のバイオテクノロジーと分析化学への応用
	助教 大山 浩之	
生薬化学	准教授 土反 伸和	・薬用植物における二次代謝産物の生合成と輸送機構に関する研究 ・生薬、漢方薬および植物含有成分の構造解析と生物活性に関する研究
	講師 西山 由美	
薬品物理化学	教授 向 高弘	・生命・自然現象の解明と疾患の診断や治療を目指した物理化学的研究
	講師 田中 将史	
生命有機化学	教授 和田 昭盛	・生物機能解明を指向した鍵化合物の合成 ・新規な有機化学反応や合成法の開発 ・新規な有機化学反応や化合物合成法に関する調査研究
	准教授 山野 由美子	
	講師 沖津 貴志	
薬剤学	教授 岩川 精吾	・トランスポーターやレセプターを利用した新規薬物療法の開発ならびに薬物の体内動態制御 ・医薬品開発、医薬品適正使用に関連する臨床研究情報解析
	講師 上田 久美子	
	助教 細川 美香	
製剤学	教授 坂根 稔康	・難水溶性薬物の分散・溶解と生体膜透過性 ・ポリフェノールの経皮吸収製剤の開発研究および軟膏剤の混合性評価に関する研究 ・医薬品の安定性評価とフェンタニル貼布剤および抗 HIV 薬の適正使用に関する研究
	准教授 寺岡 麗子	
	助教 湯谷 玲子	
微生物化学	教授 小西 守周	・免疫、炎症などにおける細胞外分泌因子のシグナルの解明 ・真菌由来多糖体の生理活性とそのメカニズムの解明
	講師 中山 喜明	
	助教 増田 有紀	
薬理学	教授 吉野 伸	・アレルギーおよび自己免疫疾患の発症機序の解明と免疫薬理学的制御
	准教授 水谷 暢明	
	講師 八巻 耕也	
生化学	教授 北川 裕之	・糖鎖の機能解析とそれに基づく創薬と医療応用
	講師 三上 雅久	
	講師 灘中 里美	
病態生化学	教授 加藤 郁夫	・摂食関連疾患の病態解析および治療薬の開発 ・内分泌・代謝系に関わる生理活性物質の基礎的、臨床的研究 ・健康食品や天然物の効能評価
	講師 多河 典子	
	講師 藤波 綾	

研究室名	担当教員名	題目
衛生化学	教授 長谷川 潤	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系の障害と修復を制御する情報伝達メカニズムの研究 ・脂溶性ビタミンの機能解析と疾患予防を目指した応用研究
	准教授 中川 公恵	
臨床薬学	教授 江本 憲昭	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患の病態解明と治療法開発のための基礎臨床研究
	准教授 池田 宏二	
	講師 八木 敬子	
医療薬学	教授 力武 良行	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症、消化器疾患およびがんの病態解明と治療法開発
	助教 堀部 紗世	
薬学臨床教育センター	教授 瀧口 常男	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究コース：病院、薬局に出向き、指導薬剤師のもと臨床課題を抽出し、その課題解決のための研究を行う。 ・調査研究コース：医療チームの一員として医薬品の適正使用の推進に貢献する病院・薬局の薬剤業務に関する調査研究を行う。 ・神戸大学コース：神戸大学医学部附属病院薬剤部における臨床研究を行う。
	教授 杉山 正敏	
	教授 沼田 千賀子	
	教授 田内 義彦	
	准教授 波多江 崇	
	講師 辰見 明俊	
	講師 猪野 彩	
	講師 河内 正二	
講師 竹下 治範		
中央分析	准教授 竹内 敦子	<ul style="list-style-type: none"> ・質量分析による生理活性物質の分析 ・NMRの新しい利用方法の開発
	講師 都出 千里	

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

病院実習

5年次

通年 必修 10単位

担当教員名 教授

濱口 常男 他

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

(1) 病院調剤を実践する

病院において調剤を通して患者に最善の医療を提供するために、調剤、医薬品の適正な使用ならびにリスクマネージメントに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。

(2) 医薬品を動かす・確保する

医薬品を正確かつ円滑に供給し、その品質を確保するために、医薬品の管理、供給、保存に必要な基本的知識、技能、態度を修得する

(3) 情報を正しく使う

医薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、薬剤部門における医薬品情報管理(DI)業務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。

(4) ベッドサイドで学ぶ

入院患者に有効性と安全性の高い薬物治療を提供するために、薬剤師病棟業務の基本的知識、技能、態度を修得する。

(5) 薬剤を造る・調べる

患者個々の状況に応じた適切な剤形の医薬品を提供するため、院内製剤の必要性を認識し、院内製剤の調製ならびにそれらの試験に必要とされる基本的知識、技能、態度を修得する

(6) 医療人としての薬剤師

常に患者の存在を念頭におき、倫理観を持ち、かつ責任感のある薬剤師となるために、医療の担い手としてふさわしい態度を修得する。

到達目標(SBOs)

《病院調剤業務の全体の流れ》

1. 患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。
2. 病院内での患者情報の流れを図式化できる。
3. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。
4. 薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。
5. 処方せん(外来、入院患者を含む)の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。
6. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。

《計数・計量調剤》

7. 処方せん(麻薬、注射剤を含む)の形式、種類および記載事項について説明できる。
8. 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる。
9. 代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。
10. 薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。
11. 適切な疑義照会の実務を体験する。
12. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。
13. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能)
14. 錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。(技能)
15. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。
16. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。(技能)
17. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。
18. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。
19. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。
20. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。(技能)
21. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)
22. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能)
23. 調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的な取扱いができる。(技能)
24. 細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。
25. 特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)
26. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)
27. 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)

《服薬指導》

28. 患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる。(知識・技能)
29. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。
30. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。
31. お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる。
32. 期待する効果が十分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について提案する。(知識・態度)

《注射剤調剤》

33. 注射剤調剤の流れを概説できる。

34. 注射処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。（技能）
35. 代表的な注射処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。（技能）
36. 処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる。（知識・技能）
37. 注射剤（高カロリー輸液など）の混合操作を実施できる。（技能）
38. 注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
39. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる。（技能）
40. 細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。
41. 特別な注意を要する注射剤（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）
42. 調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する。（技能）
- 《安全対策》
43. リスクマネージメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる。
44. 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。
45. 商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。
46. 医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する。（態度）
47. インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネージメントについて討議する。（態度）
48. 職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる。（態度）
49. 実習中に生じた諸問題（調剤ミス、過誤、事故、クレームなど）を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる。（技能）
- 《医薬品の管理・供給・保存》
1. 医薬品管理の流れを概説できる。
2. 医薬品の適正在庫の意義を説明できる。
3. 納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。
4. 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。
5. 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる。
6. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。
7. 院内における医薬品の供給方法について説明できる。
8. 請求のあった医薬品を取り揃えることができる。（技能）
- 《特別な配慮を要する医薬品》
9. 麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する。（技能）
10. 毒薬、劇薬を適切に取り扱うことができる。（技能）
11. 血漿分画製剤の取扱いを体験する。（技能）
12. 法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度）
- 《医薬品の採用・使用中止》
13. 医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる。
14. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。
- 《病院での医薬品情報》
1. 医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる。
2. 院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる。
3. 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる。
4. 患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる。
5. 医薬品の基本的な情報を、文献、MR（医薬情報担当者）などの様々な情報源から収集できる。（技能）
6. DI ニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する。（技能）
7. 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）
- 《情報提供》
8. 医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する。（知識・技能）
9. 医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する。（技能・態度）
10. 患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する。（技能・態度）
11. 情報提供内容が適切か否かを追跡できる。（技能）
- 《病棟業務の概説》
1. 病棟業務における薬剤師の業務（薬剤管理、与薬、リスクマネージメント、供給管理など）を概説できる。
2. 薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明できる。
3. 病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する。（知識・技能・態度）
- 《医療チームへの参加》
4. 医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。（技能）
5. 病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。（技能・態度）
- 《薬剤管理指導業務》
6. 診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。（技能）
7. 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した情報を正確に記載できる（薬歴、服薬指導歴など）。（技能）
8. 収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。（技能）
9. 患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。（技能）
10. 使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。
11. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。
12. 医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。（技能・態度）
13. 患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。（技能・態度）
14. 薬に関する患者の質問に分かり易く答える。（技能・態度）
15. 患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。（知識・技能）
16. 代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。（知識・技能）
17. 代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる。（知識・技能）
18. 患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。（技能・態度）

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

専門教育

専門教育

専門教育

19. 患者に共感的態度で接する。(態度)
 20. 患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。(技能)
 21. 期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。(知識・技能)
 22. 副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。(知識・態度)
- 《処方支援への関与》
23. 治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。(態度)
 24. 適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。(態度)
- 《院内で調製する製剤》
1. 院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(軟膏、坐剤、散剤、液状製剤(消毒薬を含む)など)(技能)
 2. 無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(点眼液、注射液など)(技能)
- 《薬物モニタリング》
3. 実際の患者例に基づきTDMのデータを解析し、薬物治療の適正化について討議する。(技能・態度)
- 《中毒医療への貢献》
4. 薬物中毒患者の中毒原因物質の検出方法と解毒方法について討議する。(知識・態度)
- 《医療人としての薬剤師》
1. 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。(態度)
 2. 患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感じとる。(態度)
 3. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)
 4. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度)
 5. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度)
 6. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)

準備学習(予習・復習等)

患者の視点に立ち、医療人としての姿勢を学ぶとともに、病院薬剤師の業務と責任を理解し、薬剤師として必要な基本的な知識、技能、態度を修得して来て下さい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.

成績評価方法

実習出席日数及び実習態度、実習施設指導薬剤師の総括的評価資料、実習記録、実習報告会への出席と発表、実習レポート等により総合的に評価する。

教科書

薬学生のための病院・薬局実習テキスト 2016年版(病院・薬局実務実習近畿地区調整機構監修)
治療薬マニュアル 2015(高久監修、医学書院)

指定参考書

今日の治療薬 2016(水島編、南江堂)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
教育

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

教育
専門

専門
教育

薬局実習

5年次

通年 必修 10単位

担当教員名 教授

濱口 常男 他

一般目標(GIO)

薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画できるようになるために、保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域との関わりについての基本的な知識、技能、態度を修得する。

- (1) 薬局アイテムと管理
薬局で取り扱うアイテム(品目)の医療、保健・衛生における役割を理解し、それらの管理と保存に関する基本的知識と技能を修得する。
- (2) 情報のアクセスと活用
医薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、薬局における医薬品情報管理業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。
- (3) 薬局調剤を実践する
薬局調剤を適切に行うために、調剤、医薬品の適正な使用、リスクマネジメントに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。
- (4) 薬局カウンターで学ぶ
地域社会での健康管理における薬局と薬剤師の役割を理解するために、薬局カウンターでの患者、顧客の接遇に関する基本的知識、技能、態度を修得する。
- (5) 地域で活躍する薬剤師
地域に密着した薬剤師として活躍できるようになるために、在宅医療、地域医療、地域福祉、災害時医療、地域保健などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。
- (6) 薬局業務を総合的に学ぶ
調剤、服薬指導、患者・顧客接遇などの薬局薬剤師の職務を総合的に実習する。

到達目標(SBOs)

《薬局アイテムの流れ》

1. 薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。
2. 薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる。
3. 薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。

《薬局製剤》

4. 代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。
5. 代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。

《薬局アイテムの管理と保存》

6. 医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。
7. 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目(使用期限、ロットなど)を列挙できる。
8. 薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。(知識・技能)

《特別な配慮を要する医薬品》

9. 麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。
10. 毒物、劇物の取扱いについて説明できる。
11. 法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。(態度)

《薬剤師の心構え》

1. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度)
2. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)

《情報の入手と加工》

3. 医薬品の基本的な情報源(厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸など)の種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる。(知識・技能)
4. 基本的な医薬品情報(警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など)を収集できる。(技能)
5. 処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)
6. 薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。(技能)
7. 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。
8. 問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。(知識・技能)
9. 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる。(知識・技能)

《情報の提供》

10. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)
11. 入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。(技能・態度)
12. 入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。(技能・態度)

《保険調剤業務の全体の流れ》

1. 保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。
2. 保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。

《処方せんの受付》

3. 処方せん(麻薬を含む)の形式および記載事項について説明できる。
4. 処方せん受付時の対応および注意事項(患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など)について説明できる。

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

5. 初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。
 6. 初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。
 7. 処方せん受付時の対応ができる。(技能・態度)
 8. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度)
 9. 患者が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度)
 10. 患者との会話などを通じて、服薬上の問題点(服薬状況、副作用の発現など)を把握できる。(技能)
- 《処方せんの鑑査と疑義照会》
11. 処方せんが正しく記載されていることを確認できる。(技能)
 12. 処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。(知識・技能)
 13. 薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。(知識・技能)
 14. 疑義照会の行い方を身につける。(知識・態度)
 15. 疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。(技能・態度)
- 《計数・計量調剤》
16. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる。
 17. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能)
 18. 錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。(技能)
 19. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。
 20. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。
 21. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。
 22. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。
 23. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。
 24. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。
 25. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。(技能)
 26. 一回量(一包化)調剤を必要とするケースについて説明できる。
 27. 一回量(一包化)調剤を実施できる。(技能)
 28. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)
 29. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能)
 30. 調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的取扱いができる。(技能)
 31. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。(技能)
 32. 特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)
- 《計数・計量調剤の鑑査》
33. 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)
- 《服薬指導の基礎》
34. 適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。(知識・技能)
 35. 薬歴管理の意義と重要性を説明できる。
 36. 薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。(知識・技能)
 37. 薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。
 38. 妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。
 39. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。(技能)
 40. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。
- 《服薬指導入門実習》
41. 指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。(技能)
 42. 薬歴簿を活用した服薬指導ができる。(技能)
 43. 患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。(技能)
 44. お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。(技能)
- 《服薬指導実践実習》
45. 患者に共感的態度で接する。(態度)
 46. 患者との会話を通じて病態、服薬状況(コンプライアンス)、服薬上の問題点などを把握できる。(技能)
 47. 患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。(技能・態度)
 48. 患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。(技能・態度)
 49. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)
- 《調剤録と処方せんの保管・管理》
50. 調剤録の法的規制について説明できる。
 51. 調剤録への記入事項について説明できる。
 52. 調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。
 53. 調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。
 54. 処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。
- 《調剤報酬》
55. 調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書(レセプト)を作成できる。(技能)
 56. 薬剤師の技術評価の対象について説明できる。
- 《安全対策》
57. 代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。(知識・態度)
 58. 名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。
 59. 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など)を列挙できる。
 60. 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。
 61. 調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。(態度)
 62. 過誤が生じたときの対応策を討議する。(態度)
 63. インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。

《患者・顧客との接遇》

1. かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。(態度)
2. 患者、顧客に対して適切な態度で接する。(態度)
3. 疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度)
4. 医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)

《一般用医薬品・医療用具・健康食品》

5. セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。(技能)
6. 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。

《カウンター実習》

7. 顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度)
8. 顧客が必要とする情報を的確に把握する。(技能・態度)
9. 顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。(技能・態度)
10. 入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)

《在宅医療》

1. 訪問薬剤管理指導業務について説明できる。
2. 在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。
3. 薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。(態度)

《地域医療・地域福祉》

4. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。
5. 当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。
6. 当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。(知識・技能)

《災害時医療と薬剤師》

7. 緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。

《地域保健》

8. 学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる。
9. 地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明できる。
10. 麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割について説明できる。
11. 日用品に係る薬剤師の役割について説明できる。
12. 日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。
13. 誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスできる。(知識・技能)
14. 生活環境における消毒の概念について説明できる。
15. 話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。

《総合実習》

1. 薬局業務を総合的に実践する。
2. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる。(態度)
3. 薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の予後とQOLの改善に貢献していることを感じとる。(態度)

準備学習(予習・復習等)

患者の視点に立ち、医療人としての姿勢を学ぶとともに、薬局の社会的役割と責任を理解し、薬剤師として必要な基本的な知識、技能、態度を修得して来て下さい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.

成績評価方法

実習出席日数及び実習態度、実習施設指導薬剤師の総括的評価資料、実習記録、実習報告会への出席と発表、実習レポート等により総合的に評価する。

教科書

薬学生のための病院・薬局実習テキスト 2016年版(病院・薬局実務実習近畿地区調整機構監修)
治療薬マニュアル 2015(高久監修、医学書院)

指定参考書

今日の治療薬 2016(水島編、南江堂)

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

IPW演習

5 年次
後期 選択 1 単位

担当教員名	教授	中山 尋量	教授	加藤 郁夫
	教授	岩川 精吾	教授	力武 良行
	教授	江本 憲昭	臨床特命教授	韓 秀妃
	教授	田内 義彦	臨床特命教授	渡 雅克

一般目標(GIO)

薬学部や医学部で学ぶ学生は、将来それぞれが専門性を発揮して、専門職としての役割を果たし、医療チームの一員として、疾病や障がいがある人（患者・当事者）とその家族に対して、安全で安心かつ質の高い医療・ケアを行う必要があります。IPW（Interprofessional Work：多職種協働）演習では、専門領域の異なる学生メンバー間で目標を共有し、ディスカッションを行い問題解決の過程を体験的に学習することを通して、自己・他者の専門性を尊重し、相互理解を深め、チームで協働することの意義を理解することを目指します。

到達目標(SBOs)

1. チーム内で情報を共有できる。
2. 関連する他の保健医療職の視点、専門性や役割を理解することができる。
3. 問題・課題に関連した臨床的知識を理解することができる。
4. 患者ケアについて医学的視点にとどまらず全人的視点で考えることができる。
5. リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、チームとして建設的な討論を進めることができる。
6. 他の職種と連携・協働してチーム医療を行うことの重要性を理解することができる。
7. 学習経験を振り返り（リフレクション）次の行動（アクション）の準備ができる。

準備学習(予習・復習等)

受講可能人数は 39 名で、本科目は、複数の専攻学生とともに、シナリオの当事者の視点から問題解決をしていく学習である。重要なのは、自己に気付き、他者を尊重し理解しようとする関心である。グループメンバー間の積極的なかわりをとおして学びを深めて、インタープロフェッショナルな専門職へ成長する基盤にしてほしい。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第 1 回			神戸大学医学部医学科、保健学科の学生と共に異なる専攻からなる学生グループで、提示されたシナリオを基にチュートリアルに取り組む。 本科目の実施前に 2 日間、オリエンテーションを行うので必ず出席すること。 本科目は次の期間に集中して行う：平成 28 年 12 月 5 日(月)～9 日(金) (予定) チュートリアル 2 回とグループ学習、自己学習をとおして学習を深め、グループ発表会で学習を共有する。 学生は 39 グループに分かれ、13 グループずつの 3 組 (A、B、C 組) に分けて、組毎に時間差で神戸大学医学部の教室を利用し学習を進める。	

成績評価方法

各学生グループ担当教員による評価を参考に神戸薬科大学と神戸大学医学部医学科、保健学科それぞれの担当教員が最終評価を行う。評価は、出席度、グループ学習への参加度、課題に対する学習の準備度、グループ発表などから総合的に評価する。

教科書

特になし

指定参考書

医学教育 ABC 学び方、教え方 P.Cantilon 他編集、吉田一郎監訳（篠原出版新社）

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

Student CASP ワークショップ

担当教員名 教授 田内 義彦
非常勤講師 高垣 伸匡
非常勤講師 竹内 雅代
非常勤講師 水野 成人

5～6年次
通年 選択 1単位

一般目標(GIO)

将来、薬物治療の専門家として処方設計に参加できるようになるために、また地域の医療者として疾患の予防・治療や健康管理に正しい助言を行えるようになるために、根拠に基づく医療 (evidence-based medicine : EBM) を実践する能力を修得する。

到達目標(SBOs)

1. EBMの5つのステップについて説明できる。
2. 臨床的な問題を定式化し、解決のために必要な資料を検索できる。
3. ランダム化比較試験やシステマティック・レビューなどの論文を批判的に吟味できる。
4. エビデンスを臨床に応用し、その結果を評価できる。
5. スモール・グループ・ディスカッション (SGD) の参加者として適切に行動できる。
6. チューター (補助チューター) として SGD をファシリテートできる。

準備学習(予習・復習等)

ワークショップでは、CASP 資料集、英語論文、効率よく吟味するためのチェックシートが前もって配布されます。チューター (補助チューター) として SGD に参加するためには、事前準備をしっかりと行ってください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	田内 義彦 高垣 伸匡 竹内 雅代 水野 成人	Student CASP ワークショップ	本学の Student CASP ワークショップは、通常年2回 (6月、11月の日曜日) 開催される。 多職種連携によるスモール・グループ・ディスカッション (SGD) 形式で、与えられたシナリオの臨床的な問題を定式化し、その解決に向けてランダム化比較試験 (RCT) やシステマティック・レビューなどの英語論文をチェックシートに従って読み進める。さらに、そのエビデンスがシナリオに適切であるかを検討する。	C15(1)-5-1,2,3,4,5,6

成績評価方法

1. 神戸薬科大学の Student CASP ワークショップに2回以上参加し、チュータートレーニングを修了していることが前提条件となる。なお、ワークショップへの参加は1年次から可能とする。
2. 上記の条件を満たした学生が5、6年次の2年間に神戸薬科大学の Student CASP ワークショップにチューター (補助チューターも含む) として2回以上参加した場合に単位として認定する。
3. 他大学で実施した Student CASP ワークショップにチューター (補助チューター) として参加した場合にも、その内容・時間数が本学の Student CASP ワークショップと同等であれば単位の条件として考慮する。

教科書

特になし

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問がある時は随時受け付けます (11号館1階 薬学臨床教育センター)

基礎
教育
基礎

教育
教育
基礎

六年次生

医薬品開発Ⅰ	321
医薬品開発Ⅱ	322
医薬品開発Ⅲ	323
精密有機合成化学	324
化粧品学	291
処方解析学	325
処方解析演習	327

総合薬学講座	329
卒業研究Ⅱ A	330
卒業研究Ⅱ B	333
薬学演習	334
実践薬学	304
Student CASP ワークショップ	317

一年次生

二年次生

三年次生

四年次生

五年次生

六年次生

医薬品開発 I

6 年次
前期 必修 1 単位

担当教員名 教授 沼田 千賀子 准教授 波多江 崇
特任教授 中江 裕子 非常勤講師 柴田 隆司
准教授 寺岡 麗子 非常勤講師 谷口 和也

一般目標(GIO)

医薬品開発と生産の実際を理解するために、医薬品創製と製造の各プロセスに関する基本的知識を修得し、社会的重要性に目を向ける態度を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。
2. 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。
3. 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。
4. 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。
5. ジェネリック医薬品の役割について概説できる。
6. ジェネリック医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。
7. 非臨床試験、臨床試験の目的と実施概要を説明できる。
8. 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。
9. 市販後調査の制度とその意義について説明できる。
10. 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション（ICH）について概説できる。
11. 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。
12. 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。
13. 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。
14. GLP、GMP、GCP、GPMSP の概略と意義について説明できる。
15. 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。
16. 代表的な薬害の例について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。

準備学習(予習・復習等)

質問は各講義終了後に行ってください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	波多江 崇	医薬品開発のコンセプト	講義概要 日本の疾病の特徴 医薬品研究開発と考慮すべき因子	C17(1)-1-1
第2回	波多江 崇	医薬品開発のコンセプト	代表的医薬品	C17(1)-2-1
第3回	寺岡 麗子	医薬品市場と開発すべき医薬品	医薬品の価格を決定する要因 オーファンドラッグ	C17(1)-2-2 C17(1)-2-4
第4回	谷口 和也	医薬品市場と開発すべき医薬品	ジェネリック医薬品 医薬品の製造工程、医薬品の品質管理	C17(1)-2-3 C17(1)-5-1 C17(1)-5-2 C17(1)-5-3 C17(1)-6-1
第5回	沼田 千賀子	薬害	薬害被害者との対話	C17(1)-8-1
第6回	沼田 千賀子	薬害	代表的な薬害の原因と社会的背景	C17(1)-8-1
第7回	中江 裕子	非臨床試験	非臨床試験の目的と実施概要	C17(1)-3-1
第8回	中江 裕子	臨床試験	臨床試験	C17(1)-4-1
第9回	中江 裕子	医薬品販売承認申請	医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセス	C17(1)-4-2
第10回	中江 裕子	医薬品の承認 市販後調査	市販後調査、国際的ハーモナイゼーション	C17(1)-4-3 C17(1)-4-4
第11回	柴田 隆司	特許	医薬品の創製における知的財産権 1	C17(1)-7-1
第12回	柴田 隆司	特許	医薬品の創製における知的財産権 2	C17(1)-7-1

成績評価方法

定期試験 (100 点)

教科書

プリント

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

基礎
教育

専門
教育

基礎
教育

医薬品開発Ⅱ

6年次
前期 必修 1単位

担当教員名 教授 和田 昭盛
特別教授 宮田 興子
非常勤講師 瀧池 敏郎
非常勤講師 榊 秀之

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

ドラッグデザインの科学的な考え方を理解するために、標的生体分子との相互作用および基盤となるサイエンスと技術に関する基本的知識と技能を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。
2. 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。
3. 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。
4. 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。
5. 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。
6. 生物学的等価性の意義について概説できる。
7. 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。

準備学習(予習・復習等)

基礎となる有機化学と生物化学が密接に関連していることを理解し、総合的な薬学的思考を訓練していくことが重要です。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	和田 昭盛 宮田 興子	メディシナルケミストリー	創薬のプロセス	C17(2)-1-1
第2回	和田 昭盛 宮田 興子	標的・リード化合物の発見法	薬のもととなる化合物	C17(2)-2
第3回	和田 昭盛 宮田 興子	スクリーニング法1	ハイスループット合成	C17(2)-3-1
第4回	和田 昭盛 宮田 興子	スクリーニング法2	コンピューターの利用	C17(2)-3-2
第5回	和田 昭盛 宮田 興子	構造活性相関1	各種パラメーター	C17(2)-4-1
第6回	和田 昭盛	構造活性相関2	化学的等価性と生物学的等価性	C17(2)-4-2
第7回	宮田 興子 和田 昭盛	薬物の作用の立体化学1	立体配座の固定	C17(2)-2-2,3
第8回	宮田 興子 和田 昭盛	薬物の作用の立体化学2	薬物・受容体相互作用	C17(2)-2-2
第9回	宮田 興子 和田 昭盛	構造の最適化1	置換機効果	C17(2)-4-3
第10回	宮田 興子 和田 昭盛	構造の最適化2	光学異性	C17(2)-4-3
第11回	榊 秀之	医薬品開発の実際1		C17(2)
第12回	瀧池 敏郎	医薬品開発の実際2		C17(2)

成績評価方法

定期試験 100点

教科書

プリント

指定参考書

創薬化学ー有機化学からのアプローチ (北泰行、平岡哲夫編) 東京化学同人

オフィスアワー

質問は随時受け付ける。

医薬品開発Ⅲ

6年次

前期 必修 1単位

担当教員名	教授 力武 良行	非常勤講師 森田 圭紀	非常勤講師 石川 剛
	非常勤講師 南 博信	非常勤講師 室井 延之	非常勤講師 楠 信也
	非常勤講師 横井 英人	非常勤講師 上田 宏	非常勤講師 後藤 章暢
	非常勤講師 佐々木 良平	非常勤講師 矢倉 裕輝	
	非常勤講師 黒田 良祐	非常勤講師 三宅 圭一	

一般目標(GIO)

現在もなお根治が難しい疾患に対して、先端技術を応用した新しい治療法が開発されつつある。また、先進的なチームアプローチによる疾患治療に、専門知識を持った薬剤師が活躍の場を広げている。先端医療の現状や課題を学ぶことにより、医薬品開発に関わるシーズおよびニーズを理解する。

到達目標(SBOs)

1. 代表的な先端医療に関して、概要、対象疾患、基盤となる技術、臨床応用の現状を説明できる。
2. 先端医療に関わる技術的、社会的、倫理的、経済的な課題を説明できる。
3. 先進的な医療の取り組みにおける薬剤師の関わりを説明できる。

準備学習(予習・復習等)

授業ごとに講師が変わります。できるだけ、授業中に質問をするようにしてください。授業後は配布資料等を使って復習を行い、わからないところは自己学習や質問で解決してください。授業後の質問は医療薬学研究室の力武が受け付けます。シラバスの授業内容(回数)と授業予定は異なります。授業予定は開講前に配布します。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	黒田 良祐	再生医療		C17(3)-3-1
第2回	南 博信	分子標的治療		C14(5)-7-1
第3回	佐々木 良平	放射線治療		C14(5)-7-1
第4回	石川 剛	がん免疫療法		C14(5)-7-1
第5回	森田 圭紀	内視鏡医療		C14(5)-7-1
第6回	横井 英人	医療情報		C15(2)-1-1
第7回	上田 宏	がん専門薬剤師		C14(5)-7-1
第8回	三宅 圭一	在宅医療		C18(3)-1-2
第9回	室井 延之	NST(栄養サポートチーム)		C11(1)-1-7
第10回	矢倉 裕輝	HIV感染専門薬剤師		C14(4)-6-4
第11回	後藤 章暢	遺伝子医療		C17(3)-4-3
第12回	楠 信也	移植医療		C14(4)-7-1

成績評価方法

定期試験(100%)

教科書

特に指定しない

指定参考書

特になし

オフィスアワー

随時

基
育
礎

教
育
養

教
専
門

教
基
育
礎

教
育
養

教
専
門

基
礎
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

専
門
教
育

精密有機合成化学

6年次

前期 選択 1単位

担当教員名 教授

和田 昭盛

特別教授

宮田 興子

一般目標(GIO)

医薬品を含む目的物を合成するために、代表的な炭素骨格の構築法などに関する基本的知識を修得する。
入手容易な化合物を出発物質として、医薬品を含む目的化合物へ化学変換するために有機合成法の基本的知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 光学活性化合物を合成するための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。
2. 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。
3. 代表的な炭素-炭素結合生成反応について説明できる。
4. 代表的な位置選択的な反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。
5. 代表的な立体選択的な反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。
6. 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。

準備学習(予習・復習等)

基礎となる有機化学反応とそれぞれの反応における立体化学を理解していることが重要です。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	和田 昭盛 宮田 興子	立体化学 1		C5(2)-2-2
第2回	和田 昭盛 宮田 興子	立体化学 2		C5(2)-2-2
第3回	和田 昭盛 宮田 興子	不斉合成 1		C5(2)-4
第4回	和田 昭盛 宮田 興子	不斉合成 2		C5(2)-4
第5回	和田 昭盛 宮田 興子	複雑な有機化合物の合成 1		C5(2)
第6回	和田 昭盛 宮田 興子	複雑な有機化合物の合成 2		C5(2)
第7回	和田 昭盛 宮田 興子	複雑な有機化合物の合成 3		C5(2)
第8回	和田 昭盛 宮田 興子	複雑な有機化合物の合成 4		C5(2)
第9回	和田 昭盛 宮田 興子	具体的な医薬品合成 1		C5(2)
第10回	和田 昭盛 宮田 興子	具体的な医薬品合成 2		C5(2)
第11回	和田 昭盛 宮田 興子	具体的な医薬品合成 3		C5(2)
第12回	和田 昭盛 宮田 興子	具体的な医薬品合成 4		C5(2)

成績評価方法

レポート

教科書

プリント

指定参考書

特になし

オフィスアワー

質問があれば、随時受け付けます。

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

教育
教育

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

処方解析学

6 年次

前期 必修 1 単位

担当教員名	教授 岩川 精吾	教授 力武 良行	講師 猪野 彩
	教授 杉山 正敏	臨床特命教授 渡 雅克	講師 河内 正二
	教授 江本 憲昭	准教授 波多江 崇	講師 竹下 治範
	教授 瀧口 常男	准教授 池田 宏二	助教 堀部 紗世
	教授 沼田 千賀子	講師 八木 敬子	
	教授 田内 義彦	講師 辰見 明俊	

一般目標 (GIO)

1. 代表的な疾患や薬学的事例をもとに、薬物の特徴とその最適な使用法を総合的に理解する。
2. 代表的な疾患や薬学的事例をもとに、薬物の適正使用に必要な提案について習得する。

到達目標 (SBOs)

- ① 代表的な疾患の病態、経過、治療法について説明できる。
- ② 薬物の適切な使用方法を説明し、提案できる。
- ③ 薬物治療に必要な薬物の構造活性相関、薬理作用、分析方法について説明できる。

準備学習 (予習・復習等)

授業は処方解析演習と組み合わせて進行します (両方で 1 ユニット)。

授業前には、薬理学、薬物治療学、実務実習で学んだ内容を再確認しておいてください。総合薬学講座や将来の薬剤師業務に発展させるためにも、しっかり復習を行い、疑問点は自己学習や質問で解決するようにしてください。

授業には「治療薬マニュアル」を必ず持ってきてください。

☆ シラバスの授業内容 (回数) と授業予定は異なります。授業予定は開講前に配布します。

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第 1 回	岩川 精吾	脳疾患	認知症の病態と薬物治療	E2
第 2 回	岩川 精吾	腎疾患	腎疾患の病態と薬物治療	E2
第 3 回	杉山 正敏	皮膚疾患	アトピー性皮膚炎の病態と治療	E2
第 4 回	杉山 正敏	感染症	MRSA 感染症の病態と治療	E2
第 5 回	江本 憲昭	循環器疾患	虚血性心疾患の病態、診断および治療	E2
第 6 回	江本 憲昭	循環器疾患	心不全、心房細動、高血圧の病態、診断および治療	E2
第 7 回	江本 憲昭	循環器疾患	閉塞性動脈硬化症の病態、診断および治療	E2
第 8 回	瀧口 常男	血液疾患	鉄欠乏性貧血および巨赤芽球性貧血の病態と治療	E2
第 9 回	瀧口 常男	中枢神経疾患	てんかんの病態と治療	E2
第 10 回	沼田 千賀子	悪性腫瘍	乳がんの病態と治療	E2
第 11 回	沼田 千賀子	がん化学療法	がん化学療法における支持療法	E2
第 12 回	沼田 千賀子	緩和医療	オピオイドの使用法および補助療法	E2
第 13 回	田内 義彦	薬局業務 I	処方の変更・追加	E2
第 14 回	田内 義彦	薬局業務 II	副作用による処方変更	E2
第 15 回	田内 義彦	薬局業務 III	禁煙治療	E2
第 16 回	力武 良行	消化器疾患	ウイルス性肝炎の病態と治療	E2
第 17 回	力武 良行	血液疾患	白血病の病態と治療	E2
第 18 回	力武 良行	がん化学療法	消化器がんに対するがん薬物療法	E2
第 19 回	渡 雅克	感染症	インフルエンザの病態と治療	E2
第 20 回	波多江 崇	医療統計学	統計の基礎	E2
第 21 回	波多江 崇	医療統計学	有意差の検定	E2
第 22 回	波多江 崇	医療統計学	研究デザインとエビデンス	E2
第 23 回	波多江 崇	医療統計学	添付文書等のデータの理解	E2
第 24 回	池田 宏二	糖尿病・代謝疾患	糖尿病の病態・検査・治療	E2
第 25 回	池田 宏二	内分泌疾患	内分泌疾患の病態・検査・治療	E2
第 26 回	八木 敬子	呼吸器系疾患	呼吸器系疾患の病態、診断および治療	E2
第 27 回	八木 敬子	呼吸器系疾患	呼吸器系疾患の病態、診断および治療	E2
第 28 回	辰見 明俊	精神疾患	統合失調症の病態と治療	E2
第 29 回	辰見 明俊	精神疾患	気分障害の病態と治療	E2
第 30 回	猪野 彩	眼疾患	主な眼疾患の病態と治療	E2
第 31 回	猪野 彩	泌尿器系疾患	前立腺関連疾患の病態と治療	E2
第 32 回	河内 正二	脳血管障害	出血性疾患 (脳出血、クモ膜下出血) の病態と治療	E2
第 33 回	河内 正二	脳血管障害	脳梗塞の病態と治療	E2
第 34 回	竹下 治範	消化器疾患	酸関連疾患の病態と治療	E2
第 35 回	竹下 治範	免疫疾患	関節リウマチおよび膠原病の病態と薬物治療	E2
第 36 回	堀部 紗世	消化器疾患	便通異常の病態と治療	E2

成績評価方法

定期試験 (100%) : 処方解析演習の範囲からも出題されます

教科書

特に指定しない

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
専門

基礎
教育

指定参考書

総合薬学講座の教科書、治療薬マニュアル

オフィスアワー

質問は各担当者が随時対応します

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

処方解析演習

6年次

前期 必修 5単位

担当教員名	教授 岩川 精吾	教授 力武 良行	講師 猪野 彩
	教授 杉山 正敏	臨床特命教授 渡 雅克	講師 河内 正二
	教授 江本 憲昭	准教授 波多江 崇	講師 竹下 治範
	教授 濱口 常男	准教授 池田 宏二	助教 堀部 紗世
	教授 沼田 千賀子	講師 八木 敬子	
	教授 田内 義彦	講師 辰見 明俊	

一般目標(GIO)

1. 代表的な疾患や薬学的事例をもとに、薬物の特徴とその最適な使用法を総合的に理解する。
2. 代表的な疾患や薬学的事例をもとに、薬物の適正使用に必要な提案について習得する。

到達目標(SBOs)

- ① 代表的な疾患の病態、経過、治療法について説明できる。
- ② 薬物の適切な使用方法を説明し、提案できる。
- ③ 薬物治療に必要な薬物の構造活性相関、薬理作用、分析方法について説明できる。

準備学習(予習・復習等)

授業は処方解析学と組み合わせて進行します(両方で1ユニット)。

授業前には、薬理学、薬物治療学、実務実習で学んだ内容を再確認しておいてください。総合薬学講座や将来の薬剤師業務に発展させるためにも、しっかり復習を行い、疑問点は自己学習や質問で解決するようにしてください。

授業には「治療薬マニュアル」を必ず持ってきてください。

☆ シラバスの授業内容(回数)と授業予定は異なります。授業予定は開講前に配布します。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回	岩川 精吾	脳疾患	認知症の病態と薬物治療	E2
第2回	岩川 精吾	腎疾患	腎疾患の病態と薬物治療	E2
第3回	杉山 正敏	皮膚炎疾患	アトピー性皮膚炎の病態と治療	E2
第4回	杉山 正敏	感染症	MRSA 感染症の病態と治療	E2
第5回	江本 憲昭	循環器疾患	虚血性心疾患の病態、診断および治療	E2
第6回	江本 憲昭	循環器疾患	心不全、心房細動、高血圧の病態、診断および治療	E2
第7回	江本 憲昭	循環器疾患	閉塞性動脈硬化症の病態、診断および治療	E2
第8回	濱口 常男	血液疾患	鉄欠乏性貧血および巨赤芽球性貧血の病態と治療	E2
第9回	濱口 常男	中枢神経疾患	てんかんの病態と治療	E2
第10回	沼田 千賀子	悪性腫瘍	乳がんの病態と治療	E2
第11回	沼田 千賀子	がん化学療法	がん化学療法における支持療法	E2
第12回	沼田 千賀子	緩和医療	オピオイドの使用法および補助療法	E2
第13回	田内 義彦	薬局業務Ⅰ	処方の変更・追加	E2
第14回	田内 義彦	薬局業務Ⅱ	副作用による処方変更	E2
第15回	田内 義彦	薬局業務Ⅲ	禁煙治療	E2
第16回	力武 良行	消化器疾患	ウイルス性肝炎の病態と治療	E2
第17回	力武 良行	血液疾患	白血病の病態と治療	E2
第18回	力武 良行	がん化学療法	消化器がんに対するがん薬物療法	E2
第19回	渡 雅克	感染症	インフルエンザの病態と治療	E2
第20回	波多江 崇	医療統計学	統計の基礎	E2
第21回	波多江 崇	医療統計学	有意差の検定	E2
第22回	波多江 崇	医療統計学	研究デザインとエビデンス	E2
第23回	波多江 崇	医療統計学	添付文書等のデータの理解	E2
第24回	池田 宏二	糖尿病・代謝疾患	糖尿病の病態・検査・治療	E2
第25回	池田 宏二	内分泌疾患	内分泌疾患の病態・検査・治療	E2
第26回	八木 敬子	呼吸器系疾患	呼吸器系疾患の病態、診断および治療	E2
第27回	八木 敬子	呼吸器系疾患	呼吸器系疾患の病態、診断および治療	E2
第28回	辰見 明俊	精神疾患	統合失調症の病態と治療	E2
第29回	辰見 明俊	精神疾患	気分障害の病態と治療	E2
第30回	猪野 彩	眼疾患	主な眼疾患の病態と治療	E2
第31回	猪野 彩	泌尿器系疾患	前立腺関連疾患の病態と治療	E2
第32回	河内 正二	脳血管障害	出血性疾患(脳出血、クモ膜下出血)の病態と治療	E2
第33回	河内 正二	脳血管障害	脳梗塞の病態と治療	E2
第34回	竹下 治範	消化器疾患	酸関連疾患の病態と治療	E2
第35回	竹下 治範	免疫疾患	関節リウマチおよび膠原病の病態と薬物治療	E2
第36回	堀部 紗世	消化器疾患	便通異常の病態と治療	E2

成績評価方法

出席確認を兼ねた小テストを行い、その結果を重視します。ガイダンスで指定した回数以上に欠席した場合には、単位を認定しません。

基礎教育

教育養

教育専門

基礎教育

教育養

教育専門

基礎教育

教育専門

教科書

特に指定しない

指定参考書

総合薬学講座の教科書、治療薬マニュアル

オフィスアワー

質問は各担当者が随時対応します

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

教育
養

教育
専門

基礎
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

専門
教育

総合薬学講座

6年次

後期 必修 10単位

担当教員名 教授

北河 修治 他

一般目標(GIO)

卒業後、薬剤師として活躍するために1～6年次に学んだ教科から薬剤師国家試験に関連する主要領域のまとめと領域間を関連づけた学習をすることで、実践的な問題解決能力を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 物理・化学・生物
 - ・物理は医薬品・生体分子を理解する上で必要な物理化学的・分析化学的な考え方を身につけ、説明できる。
 - ・化学は「医薬品の性質を理解する」ことを主題とし、有機化合物としての医薬品の物性、反応性及び分子レベルでの医薬品の作用機序等について理解し、説明できる。
 - ・生物は生体の構造、機能及び生体成分の代謝、感染症の病原体、免疫のしくみなどについて理解し、説明できる。
2. 衛生
 - ・衛生化学、公衆衛生学を中心として、栄養化学、環境科学、毒性学、環境微生物学、疫学及び生態学について理解し、説明できる。衛生関係法規を概説できる。
3. 薬理
 - ・薬物の薬理作用や作用機序を理解し、説明できる。
4. 薬剤
 - ・薬物の体内動態及び製剤について理解し、説明できる。
5. 病態・薬物治療
 - ・患者の病態生理を理解し、適正かつ安全な薬物療法遂行等のために必要な事項について説明できる。
6. 法規・制度・倫理
 - ・薬剤師としての業務を遂行するの際に必要となる法的知識及びこれらに関連する各種の制度並びに医療の担い手としての任務を遂行するために保持すべき倫理規範などを理解し、説明できる。
7. 実務
 - ・医療や公衆衛生等に携わる薬剤師の業務を理解し、説明できる。

準備学習(予習・復習等)

薬剤師国家試験は345問出題され、必須問題、一般問題(理論問題、薬学実践問題)に区分されています。薬学実践問題では実務に関する問題1問とそれ以外の領域に関する問題1問を合わせた複合問題が65(130問)出題されます。国家試験に向けた対応を各自計画的に進めてください。質問がある場合は講義担当者に質問をしてください。

授業内容(項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回		物理・化学・生物	物質の物理学的性質、化学物質の分析、生体分子の構造、化学物質の性質と反応、ターゲット分子の合成、生体分子・医薬品の化学、天然物由来薬物、医薬品の開発と生産、生命体の成り立ち、分子レベルの生命理解、感染症と生体制御	
第2回		衛生	健康、環境	
第3回		薬理	薬物の効き方	
第4回		薬剤	薬物の体内動態、製剤	
第5回		病態・薬物治療	薬物治療、薬物治療に役立つ情報	
第6回		法規・制度・倫理	薬学と社会、医薬品の開発と生産、ヒューマニズム	
第7回		実務	薬剤師業務、病院業務、薬局業務	

成績評価方法

出席、定期試験などによって総合的に評価する。

教科書

開講時に案内する。

指定参考書

開講時に案内する。

オフィスアワー

随時

教育基礎

教育養

教育専門

教育基礎

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

卒業研究ⅡA

6年次

前期 選択必修 10単位

担当教員名 (331・332 ページ参照)

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

教育
養

専門
教育

基礎
教育

専門
教育

一般目標(GIO)

研究室に所属して、研究課題に基づき研究室の教員による研究指導を受けて、研究活動に必要な研究論文などからの知識の習得方法や研究課題の具体的な実施方法を学ぶ。そして研究成果を積み重ねて行くことで、研究分野における研究論文の理解や研究技能・態度の向上を図る。これら一連の課程を指導教員によるマンツーマン的な直接指導や研究室内のディスカッション等を通して推進することにより、問題発見・解決能力の基盤を構築するとともに、その研究の今後の展開方策を探る能力を磨く。

到達目標(SBOs)

1. 研究課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価することができる。
2. 研究課題に関連するこれまでの発表論文を読解することができる。
3. 研究課題達成のために解決すべき問題点を抽出することができる。
4. 実験計画を立案することができる。
5. 実験系を組み、実験を実施することができる。
6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理することができる。
7. 研究課題活動中に生じたトラブルを指導者に報告することができる。
8. 研究課題の各プロセスを正確に記録することができる。
9. 研究課題の結果をまとめることができる。
10. 研究課題の結果を考察し、評価することができる。
11. 研究課題の成果を発表し、適切に質疑応答することができる。
12. 研究課題の成果を報告書や論文としてまとめることができる。
13. 自らの研究課題成果に基づいて、次の研究課題を提案することができる。

授業内容(項目・内容)

研究室ごとのテーマ参照

成績評価方法

研究への積極的な取り組み、研究成果のまとめ、質疑応答や報告などを総合的に評価する。

教科書

特になし

指定参考書

特になし

研究室名	担当教員名	題目
機能性分子化学	教授 中山 尋量	・新しい薬物 carrier を目指した機能性材料の開発
	講師 前田 秀子	
	助教 林 亜紀	
薬化学	教授 奥田 健介	・生物活性を持つ天然物有機化合物の構造、合成および生合成に関する研究
	准教授 竹仲 由希子	
	講師 西村 克己	
薬品化学	准教授 上田 昌史	・地球環境にやさしい環境調和適応型合成反応の開発 ・連続したヘテロ原子によって創り出される新反応の開発 ・新規生物活性物質の合成研究
	講師 武田 紀彦	
生命分析化学	教授 小林 典裕	・抗体のバイオテクノロジーと分析化学への応用
	助教 大山 浩之	
生薬化学	准教授 土反 伸和	・薬用植物における二次代謝産物の生合成と輸送機構に関する研究 ・生薬、漢方薬および植物含有成分の構造解析と生物活性に関する研究
	講師 西山 由美	
薬品物理化学	教授 向 高弘	・生命・自然現象の解明と疾患の診断や治療を目指した物理化学的研究
	講師 田中 将史	
生命有機化学	教授 和田 昭盛	・生物機能解明を指向した鍵化合物の合成 ・新規な有機化学反応や合成法の開発 ・新規な有機化学反応や化合物合成法に関する調査研究
	准教授 山野 由美子	
	講師 沖津 貴志	
薬剤学	教授 岩川 精吾	・トランスポーターやレセプターを利用した新規薬物療法の開発ならびに薬物の体内動態制御 ・医薬品開発、医薬品適正使用に関連する臨床研究情報解析
	講師 上田 久美子	
	助教 細川 美香	
製剤学	教授 坂根 稔康	・難水溶性薬物の分散・溶解と生体膜透過性 ・医薬品の安定性評価とフェンタニル貼布剤および抗 HIV 薬の適正使用に関する研究 ・ポリフェノールの経皮吸収製剤の開発研究および軟膏剤の混合性評価に関する研究
	准教授 寺岡 麗子	
	助教 湯谷 玲子	
微生物化学	教授 小西 守周	・免疫、炎症などにおける細胞外分泌因子のシグナルの解明 ・真菌由来多糖体の生理活性とそのメカニズムの解明
	講師 中山 喜明	
	助教 増田 有紀	
薬理学	教授 吉野 伸	・アレルギーおよび自己免疫疾患の発症機序の解明と免疫薬理学的制御
	准教授 水谷 暢明	
	講師 八巻 耕也	
生化学	教授 北川 裕之	・糖鎖の機能解析とそれに基づく創薬と医療応用
	講師 三上 雅久	
	講師 灘中 里美	
病態生化学	教授 加藤 郁夫	・摂食関連疾患の病態解析および治療薬の開発 ・内分泌・代謝系に関わる生理活性物質の基礎的、臨床的研究 ・健康食品や天然物の効能評価
	講師 多河 典子	
	講師 藤波 綾	

基礎教育

教育養

教育専門

基礎教育

教育養

教育専門

基礎教育

専門教育

基礎教育

専門教育

基礎教育

専門教育

基礎教育

専門教育

基礎教育

専門教育

基礎教育

専門教育

研究室名	担当教員名	題目
衛生化学	教授 長谷川 潤	・脂溶性ビタミンの機能解析と疾患予防を目指した応用研究
	准教授 中川 公恵	
臨床薬学	教授 江本 憲昭	・循環器疾患の病態解明と治療法開発のための基礎臨床研究
	准教授 池田 宏二	
	講師 八木 敬子	
医療薬学	教授 力武 良行	・認知症、消化器疾患およびがんの病態解明と治療法開発
	助教 堀部 紗世	
薬学臨床教育センター	教授 瀧口 常男	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究コース：病院、薬局に出向き、指導薬剤師のもと臨床課題を抽出し、その課題解決のための研究を行う。 調査研究コース：医療チームの一員として医薬品の適正使用の推進に貢献する病院・薬局の薬剤業務に関する調査研究を行う。 神戸大学コース：神戸大学医学部附属病院薬剤部における臨床研究を行う。
	教授 杉山 正敏	
	教授 沼田 千賀子	
	教授 田内 義彦	
	准教授 波多江 崇	
	講師 辰見 明俊	
	講師 猪野 彩	
	講師 河内 正二	
講師 竹下 治範		
中央分析	准教授 竹内 敦子	・質量分析による生理活性物質の分析
	講師 都出 千里	・NMRの新しい利用方法の開発

基礎教育

教育

専門

基礎教育

教育

専門

基礎教育

専門教育

専門教育

専門教育

専門教育

卒業研究ⅡB

6年次

前期 選択必修 4単位

担当教員名 (331・332 ページ参照)

一般目標(GIO)

研究室に所属して、研究課題に基づき研究室の教員による研究指導を受けて、研究活動に必要となる研究論文などからの知識の習得方法や研究課題の具体的な実施方法を学ぶ。そして研究成果を積み重ねて行くことで、研究分野における研究論文の理解や研究技能・態度の向上を図る。これら一連の課程を指導教員によるマンツーマン的な直接指導や研究室内でのディスカッション等を通して推進することにより、問題発見・解決能力の基盤を構築するとともに、その研究の今後の展開方策を探る能力を磨く。

到達目標(SBOs)

1. 研究課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価することができる。
2. 研究課題に関連するこれまでの発表論文を読解することができる。
3. 研究課題達成のために解決すべき問題点を抽出することができる。
4. 実験計画を立案することができる。
5. 実験系を組み、実験を実施することができる。
6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理することができる。
7. 研究課題活動中に生じたトラブルを指導者に報告することができる。
8. 研究課題の各プロセスを正確に記録することができる。
9. 研究課題の結果をまとめることができる。
10. 研究課題の結果を考察し、評価することができる。
11. 研究課題の成果を発表し、適切に質疑応答することができる。
12. 研究課題の成果を報告書や論文としてまとめることができる。
13. 自らの研究課題成果に基づいて、次の研究課題を提案することができる。

授業内容(項目・内容)

研究室ごとのテーマ参照

成績評価方法

研究への積極的な取り組み、研究成果のまとめ、質疑応答や報告などを総合的に評価する。

教科書

特になし

指定参考書

特になし

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

教基
育礎

教教
育養

教專
育門

基
礎
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

專
門
教
育

薬学演習

6年次

前期 選択必修 6単位

担当教員名 教授

中山 尋量 他

基礎
教育

一般目標 (GIO)

5年次までに学んだ知識を総合的に整理し、理解を一層深めることを目標とする。

教育
教育

到達目標 (SBOs)

必須問題レベルの内容を理解する。
予習と復習を習慣付けることで、確かな知識の定着を図る。

専
門
教育

準備学習 (予習・復習等)

講義内容を復習し、学んだ知識を整理しておくこと。

基礎
教育

授業内容 (項目・内容)

回	担当教員	項目	内容	コアカリNo.
第1回		物理・化学・生物		
第2回		衛生		
第3回		薬理		
第4回		薬剤		
第5回		病態・薬物治療		
第6回		法規・制度・倫理		
第7回		実務		

教育
教育

専
門
教育

基礎
教育

成績評価方法

出席、小テスト、最終試験を総合的に判断し評価する。

専
門
教育

教科書

開講時に指示する

専
門
教育

指定参考書

特になし

専
門
教育

オフィスアワー

随時

専
門
教育

専
門
教育

専
門
教育

モデル・コアカリキュラム

「本シラバスに掲載の『モデル・コアカリキュラム』は、2015年度入学生から適用されます。
2014年度以前の入学生適用『モデル・コアカリキュラム』については、本学2014シラバス、あるいは日本薬学会ホームページに掲載されていますのでご参照ください。
(2014シラバスは、本学のホームページにも掲載しています。)

薬学教育モデル・コアカリキュラム

平成 25 年度改訂版

平成 25 年 12 月 25 日

薬学系人材養成の在り方に関する検討会

目次

○ 薬学教育モデル・コアカリキュラムの基本理念と利用上の留意点について	1
○ 平成 25 年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂概要	8
○ 薬剤師として求められる基本的な資質	16
A 基本事項	19
(1) 薬剤師の使命	19
(2) 薬剤師に求められる倫理観	20
(3) 信頼関係の構築	20
(4) 多職種連携協働とチーム医療	21
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成	21
B 薬学と社会	23
(1) 人と社会に関わる薬剤師	23
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範	23
(3) 社会保障制度と医療経済	24
(4) 地域における薬局と薬剤師	24
C 薬学基礎	26
C1 物質の物理的性質	26
(1) 物質の構造	26
(2) 物質のエネルギーと平衡	27
(3) 物質の変化	28
C2 化学物質の分析	29
(1) 分析の基礎	29
(2) 溶液中の化学平衡	29
(3) 化学物質の定性分析・定量分析	29
(4) 機器を用いる分析法	30
(5) 分離分析法	30
(6) 臨床現場で用いる分析技術	31
C3 化学物質の性質と反応	32
(1) 化学物質の基本的性質	32
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応	32
(3) 官能基の性質と反応	33

(4) 化学物質の構造決定	34
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質	34
C4 生体分子・医薬品を化学による理解	36
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質	36
(2) 生体反応の化学による理解	36
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用	37
C5 自然が生み出す薬物	39
(1) 薬になる動植物	39
(2) 薬の宝庫としての天然物	39
C6 生命現象の基礎	41
(1) 細胞の構造と機能	41
(2) 生命現象を担う分子	41
(3) 生命活動を担うタンパク質	42
(4) 生命情報を担う遺伝子	42
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	43
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達	44
(7) 細胞の分裂と死	44
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節	46
(1) 人体の成り立ち	46
(2) 生体機能の調節	47
C8 生体防御と微生物	49
(1) 身体をまもる	49
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用	49
(3) 微生物の基本	50
(4) 病原体としての微生物	51
D 衛生薬学	52
D1 健康	52
(1) 社会・集団と健康	52
(2) 疾病の予防	52
(3) 栄養と健康	53
D2 環境	55
(1) 化学物質・放射線の生体への影響	55
(2) 生活環境と健康	56

E 医療薬学	57
E1 薬の作用と体の変化	57
(1) 薬の作用	57
(2) 身体の病的変化を知る	57
(3) 薬物治療の位置づけ	58
(4) 医薬品の安全性	58
E2 薬理・病態・薬物治療	60
(1) 神経系の疾患と薬	60
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬	61
(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬	62
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬	64
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬	65
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬	66
(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬	67
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報	70
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション	71
(10) 医療の中の漢方薬	71
(11) 薬物治療の最適化	72
E3 薬物治療に役立つ情報	73
(1) 医薬品情報	73
(2) 患者情報	75
(3) 個別化医療	75
E4 薬の生体内運命	77
(1) 薬物の体内動態	77
(2) 薬物動態の解析	78
E5 製剤化のサイエンス	79
(1) 製剤の性質	79
(2) 製剤設計	79
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)	80
F 薬学臨床	82
(1) 薬学臨床の基礎	82
(2) 処方せんに基づく調剤	83
(3) 薬物療法の実践	86
(4) チーム医療への参画	87
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画	88

G 薬学研究	90
(1) 薬学における研究の位置づけ	90
(2) 研究に必要な法規範と倫理	90
(3) 研究の実践	90
○ 薬学準備教育ガイドライン(例示)	91
(1) 人と文化	91
(2) 人の行動と心理	91
(3) 薬学の基礎としての英語	92
(4) 薬学の基礎としての物理	93
(5) 薬学の基礎としての化学	94
(6) 薬学の基礎としての生物	94
(7) 薬学の基礎としての数学・統計学	96
(8) 情報リテラシー	97
(9) プレゼンテーション	98
○ 薬学アドバンスト教育ガイドライン(例示)	99
A 基本事項	99
B 薬学と社会	99
C 薬学基礎	100
D 衛生薬学	108
E 医療薬学	109
F 薬学臨床	110
○ 委員会名簿等	113

薬学教育モデル・コアカリキュラムの基本理念と利用上の留意点について

1. モデル・コアカリキュラムの基本理念と位置付け

【基本理念】

大学における各分野の社会的要請に応えた人材養成のためのカリキュラム構築は、本来、各大学が独自の理念や特色に基づいて設定すべきものである。しかし、修業年限6年の薬学教育プログラムを実施する学部又は学科（以下、「6年制学部・学科」という。）の場合は、学生に大学卒業時に薬剤師としてふさわしい基本的な資質や能力を身に付けさせる教育が行われることが求められる。一方、薬学や医学、生命科学等に関わる科学技術の進歩は著しく、科学を基盤として医療に貢献する薬剤師の職責に求められる薬学の知識や技能は増え、専門分化されると同時に高度化しており、限られた大学教育の中で、これらの膨大な知識や技能等を網羅して修得することは困難である。そこで、学生は6年制学部・学科の学士課程教育の段階では、将来どのような分野に進んだ場合にも共通に必要な薬剤師の基本的な資質と能力を修得し、その上で、生涯にわたって常に研鑽^{さん}し、社会に貢献することが求められる。薬学教育モデル・コアカリキュラムは、このような状況を踏まえ、6年制学部・学科としての教育内容を精選し、卒業時まで学生が身に付けておくべき必須の能力（知識・技能・態度）の到達目標を分かりやすく提示したものである。

【位置付け】

薬学教育モデル・コアカリキュラムは、6年制学部・学科におけるカリキュラム作成の参考となる教育内容ガイドラインとして提示したものである。項目立てや記載内容は、各大学における授業科目名を意味するものではなく、また、履修の順序を示すものではないことに留意すべきであり、具体的な授業科目等の設定や教育手法等は各大学の裁量に委ねられている。

また、モデル・コアカリキュラムに示された教育内容だけで薬学の学士課程教育が完成するものではなく、6年制学部・学科の教育課程の全てを画一化したモデル・コアカリキュラムの履修にあてることが正しくない。6年制学部・学科のカリキュラムは大別すると、教養教育を含む薬学準備教育、モデル・コアカリキュラムに準拠した教育、各大学独自の薬学専門教育から構成されるが、これらの履修時期、時間は教育研究上の目的に沿って学習成果を評価しながら、バランスよく配当される必要がある。改訂後の薬学教育モデル・コアカリキュラムは到達目標数の上で、従前のものに比してスリム化されていることもあり、およそ教育課程の時間数の7割を、モデル・コアカリキュラムに示された内容の履修に充てることが妥当と考えられる。

各大学においては、それぞれの教育理念等に基づいて、薬学アドバンスト教育ガイドラインを含む特色ある大学独自のカリキュラムを設定することが必須であり、学生のニーズや将来の進路に合わせて自由に選択できる多様なカリキュラムを提供することが重要である。このモデル・コアカリキュラムに示された内容を確実に修得した上で、残りの3割程度の時間数で個性ある各大学独自のカリキュラムを準備することが必要である。(7ページ【選択的な大学独自のカリキュラムの設定】を参照。)

今回の改訂は、大学が主体的で実効性のある充実した薬学教育を展開することにより、6年制薬学教育の質の向上を目指すために行うものであり、各大学の教育カリキュラムが薬学共用試験や薬剤師国家試験に合格することのみを目標とする教育に偏ることのないよう留意すべきである。

2. 表示の方法と利用上の留意点等

【基本的資質】

薬学教育モデル・コアカリキュラムの基本理念や医療全体を取り巻く情勢の変化等を踏まえ、「薬剤師として求められる基本的な資質」を、①薬剤師として

の心構え、②患者・生活者本位の視点、③コミュニケーション能力、④チーム医療への参画、⑤基礎的な科学力、⑥薬物療法における実践的能力、⑦地域の保健・医療における実践的能力、⑧研究能力、⑨自己研鑽、⑩教育能力の10の視点より明確にした。

【一般目標と到達目標】

薬学教育モデル・コアカリキュラムでは、卒業時までには修得されるべき「薬剤師として求められる基本的な資質」を前提とした学習成果基盤型教育（outcome-based education）に力点を置いている。すなわち、最終的に「基本的な資質」を身に付けるための一般目標（GIO※1）（学生が学修することによって得る成果）を設定し、GIOを達成するための到達目標（SBO※2）（学生がGIOに到達するために、身に付けておくべき個々の実践的能力）を明示した。SBOの総数は1,073項目であり、これらは客観的に評価できるよう、可能な限り明確な表現とした。

※1 general instructional objective

※2 specific behavioral objective

【A～Gの項目立て】

項目A～Gは、各大学におけるカリキュラム作成の参考として利用しやすくし、学修者に学習内容の全体像を把握しやすいよう構成した。

薬学生が薬剤師として身につけるべき生命・医療の倫理、チーム医療とコミュニケーション、患者中心の医療、医療安全、薬学の歴史および生涯学習などを学ぶ【A基本事項】、人、社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制、および薬剤師と医薬品等に関わる法規制、地域における保健、医療、福祉などを学ぶ【B薬学と社会】は、入学後早期から卒業までに継続して修得していくべき内容である。

また、薬学生がいずれの分野に進むにせよ必要である薬や化学物質と生命に

関わる物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学の知識と技能を学ぶ【C薬学基礎】、人々の健康・公衆衛生、生活環境・環境保全を学ぶ【D衛生薬学】、薬の作用・体内動態・疾病治療、製剤化を学ぶ【E医療薬学】では、それぞれの項目の知識・技能のみにとらわれることなく、薬剤師に必要な人の命と健康を守る使命感、責任感及び倫理観を養えるよう十分な教育上の工夫が必要である。

【F薬学臨床】は、薬学実務実習前に、大学において調剤、製剤、服薬指導など薬剤師としての職務に必要な基本的知識、技能、態度を学んでおくSB0（事前学習）と、病院及び薬局で行う参加型の薬学実務実習のSB0（薬学実務実習）からなっている。薬学実務実習のSB0は、病院又は薬局に勤務する場合に必要な内容について効果的に履修できるよう、これまで重複して履修していたものを整理している。ただし、すべての内容を適切な医療提供施設的环境と実習先の指導薬剤師及び大学教員のもとで効果的に実施するためには、別途方略を設定することが必要である。

さらに、AからFまでの履修を基盤にして【G薬学研究】を学ぶことにより、研究課題を通して科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力及び研究倫理を修得し、それを生涯にわたって高め続ける知識、技能、態度を養うことも必要である。

【「知識」、「技能」、「態度」の記述についての基本的な考え方】

各SB0の後の「(知識・技能)、(態度)」等の記述については、基本的に以下の考え方により付している。

- 1) 括弧書きが付されていない場合：「○○について説明できる。」等の知識を主とするSB0を示す。この場合、「説明する」ための勉学態度等も当然含まれるが、評価の対象が主に知識となることを意味する。
- 2) (技能)が付されている場合：技能を行う上での知識や態度は当然含まれるが、技能が主に評価の対象となるSB0を示す。

例：代表的な化合物の部分構造を ^1H NMR から決定できる。(技能)

代表的な生薬を鑑別できる。(技能)

- 3) (態度) が付されている場合：知識や技能を有したうえでの態度が主に評価対象となる SBO を示す。

例：患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)

- 4) (技能・態度) が付されている場合：知識を前提とするが主に技能と態度が評価の対象となる SBO を示す。

例：前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)

- 5) 上記に関わらず、技能、態度、あるいは両方を評価の対象とするが、知識も評価の対象となる場合には「知識」をともに付す。

例：油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)

天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。
(知識・技能)

インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

【薬学アドバンスト教育ガイドライン】

コアカリキュラムとは別に、薬学アドバンスト教育ガイドラインを提示した。薬学アドバンスト教育ガイドラインの SBO は、すべての学生に一律に履修を求めめるのではなく、大学の特色や学生の進路に応じて履修することが望まれる内容を示す。また、履修時期についても各大学のカリキュラム体系の中で、適当な時期を選ぶことが望まれる。

【薬学教育における実習】

薬学教育では、知識だけでなく、実習を通じて技能、態度を学修することが

重要である。したがって、薬学教育における実習を充実するとともに、その実習について適正な評価を行わなければならない。薬学教育モデル・コアカリキュラムの実習内容は、①【C薬学基礎】、【D衛生薬学】、【E医療薬学】、②【F薬学臨床】の「早期臨床体験」、「実務実習事前学習」、「病院・薬局における実務実習」、③【G薬学研究】において、SB0（技能）、SB0（技能・態度）として例示されている。これらの例示を基にして大学の特色ある実習カリキュラムを構築して、それを6年間の教育課程のなかで体系的に関連づけて実施することにより、効果的に技能・態度を蓄積していくことが必要である。また、その実施時期については、講義及び演習等の授業内容と緊密に連携させるように設定すべきである。

なお、実習においては、予測されるリスクを回避、低減させるためのマネジメントとともに、学生が常に安全を確認しながら学修を行う習慣が身につくように指導することが必要である。また、化学物質、実験動物、培養細胞や細菌などを用いた実習においては、それぞれの取扱いに関わる国内外の法令や国際条約の遵守とともに、生命倫理、生物多様性や自然環境保全を規範とする態度を学修することの重要性を指導する。

【薬学準備教育ガイドライン】

医療の担い手としての薬剤師を目指す6年制薬学教育の前提として身につけておくべき基本的事項を、コアカリキュラムとは別に、ガイドラインとして提示した。薬学準備教育では、人文科学、社会科学及び自然科学などを広く学び、知識を獲得し、様々な考え方、感じ方に触れ、物事を多角的に見る能力と医療社会のグローバル化に対応するための国際的感覚を養うことを目的とした専門性の高い語学能力を養う。そして、見識ある人間としての基礎を築くために、自分自身について洞察を深め、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につけておくべき基本的事項を〈1 人と文化〉、〈2 人の行動と心理〉、〈3 薬学の

基礎としての英語)、〈4 薬学の基礎としての物理〉、〈5 薬学の基礎としての化学〉、〈6 薬学の基礎としての生物〉、〈7 薬学の基礎としての数学・統計学〉、〈8 情報リテラシー〉、〈9 プレゼンテーション〉として整理し、提示した。薬学教育の準備という視点から提示されたものであるが、これらは薬剤師となる上で不可欠となる素養を培っていくものである。

【選択的な大学独自のカリキュラムの設定】

各大学は、それぞれの理念や教育研究上の目的に基づいて、学生の興味や将来の専門分野への志向に応じて、学生自身が自由に選択できる特色あるカリキュラムを準備し実践することや、学生段階からの研究志向を涵養^{かん}することが重要である。

カリキュラムとしては、薬剤師業務の医療現場でのニーズの変化や医療の国内外の動向に対応、あるいはそれらを取捨することも重要である。また、科学的・論理的思考の修得や、高度で応用的な基礎研究や臨床研究の実施、探求心旺盛な学生の将来の展望にも配慮した授業、病院及び薬局における薬学実務実習と経験した研究の取りまとめ、海外派遣研修等の多様な教育を行う必要がある。

これらの実施に当たっては、各大学の状況に合わせて、多様な授業形態を用意するとともに、成果の発表やその評価等の修了要件も明確にすることが必要である。

平成 25 年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂概要

今回の改訂は、「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」（以下、「検討会」という。）において、各大学の現状や寄せられた要望、大学団体及び職能団体等からの改訂に対する強い要望を踏まえて審議された結果、行うことと決定した。平成 23 年に恒常的なカリキュラムの検討を行う組織として設置された薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会（以下、「専門研究委員会」という。）において、① 6 年制学部・学科の学士課程教育に特化した内容とすること、② 現在の薬学教育モデル・コアカリキュラム及び実務実習モデル・コアカリキュラムの二つを関連づけて一つのコアカリキュラムとして作成すること、③ 薬剤師として求められる資質を明確にし、その資質を身につけるために学ぶという形で編成すること、という方針を決定し、検討会においてその方針が了承され作業が開始された。その後、専門研究委員会において「薬剤師として求められる基本的な資質」（案）が作成され、また、具体的な作業チームとして日本薬学会に薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会が設置され、大学へのニーズ調査や具体的な改訂作業が行われた。

以下、具体的な内容を概説する。

【A 基本事項】

「基本事項」には、薬学生が薬剤師として身につけるべき生命・医療の倫理、チーム医療とコミュニケーション、患者中心の安全な医療などを含めることとした。「基本事項」の内容（目標）は、複数の基本的資質と関連しており、6 年間かけて到達すべきもので、各学年における学修を積み重ね、年次進行にとまない、医療人である薬剤師として理解を深め、態度を醸成していくべきものである。SB0 の表現は、詳細すぎると各大学での実施を制限することが懸念される

ため、具体性を少しおさえて、各大学での考えを反映できるように配慮した。また、全学年を通して学修する内容であることから、6年間かけて到達するレベルを記載した。「基本事項」の内容は薬剤師になるために6年間かけて身につけるべきものであり、「B薬学と社会」や「F薬学臨床」と関連している内容も多い。

薬学教育モデル・コアカリキュラム（以下、「コアカリ」という。）の旧「Bイントロダクション（1）薬学への招待」の内容は、初年次だけでなく全学年を通して到達度を高めることが望ましい内容が含まれていることから「基本事項」に組み込み、旧「Bイントロダクション（2）早期体験学習」の臨床体験に関する内容は「F薬学臨床」に移動した。

【B薬学と社会】

旧コアカリの「Bイントロダクション」の内容を「A基本事項」および「F薬学臨床」に移動した後、Bには旧コアカリの「C18 薬学と社会」および「C17 医薬品の開発と生産」の一部（(1)、(4)）を統合した「薬学と社会」を置いた。「薬学と社会」は、薬剤師に関わる社会の仕組みを理解するための内容（目標）が主であり、「A基本事項」と同様に6年間かけて到達すべきものである。

旧C18の倫理と薬害に関する項目は「A基本事項」にまとめた。旧C18の(1)、(2)、(3)の中で重複している項目を整理・統合し、法律については、法律ごとに一つのSBOにまとめるのではなく、修得すべき内容から整理した。旧C17の(1)と(4)の内容は「(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範」に含め、そのうちの治療に関わる具体的内容は「E医療薬学」に含めた。「旧C18(3)コミュニティファーマシー」は、薬局に限定せず、地域の保健・医療と関わる内容を含めることとし、そのうちの「OTC薬・セルフメディケーション」は、薬物治療として重要であることから「E医療薬学」の薬物治療として項目を新設し、Bでは役割の記載にとどめた。また、薬学アドバンス教育ガイドライン（以下、「アドバン

スト」という。)に移行してよいもの(薬剤経済の一部など)を除外するとともに、旧コアカリにはない重要な項目(個人情報取扱い、血液供給体制、地域連携など)を追加した。

【C薬学基礎：全般】

「薬学基礎」に関しては「薬剤師として求められる基本的な資質」のすべてのアウトカムのベースとなる「基礎的な科学力」を醸成することを念頭に改訂を行った。SBOはコアカリとなる項目を厳選し、約3割減のスリム化を図った。技能(実習項目)は、すべての大学で実施可能な項目を選定することとした。また他分野との重複を避けるように調整を行った。

【C薬学基礎：物理】

「薬学基礎：物理」では、医薬品を含む化学物質を構成する原子、分子の性質や挙動を司る基本的な原理を主に取り扱うこととした。さらに、学生が修得する基本的な知識や技能が、将来、医療現場などのチームの中で応用されることを想定して、基礎から応用への橋渡しも考慮しながら、改訂作業を実施した。旧C1の【放射線と放射能】にある「放射線の測定原理」は「薬学基礎：物理」で、「放射線の生体への影響」は「D衛生薬学」で学ぶようにすみ分けた。また、旧C1の【物質の移動】の内容は「E医療薬学」へ、旧C2の【薬毒物の分析】の内容は「D衛生薬学」へ移行した。旧C3「生体分子の姿・かたちをとらえる」は、基本的な事項として必要なものはC1およびC2に取り込み、アドバンストとするものは移行し、全体としては、旧C3を削除した。さらに、機器分析のうち、構造解析のための分析法については、基本的な原理は「薬学基礎：物理」で、その応用は「薬学基礎：化学」で学ぶようにすみ分けた。

【C薬学基礎：化学】

旧コアカリ C4、C6、C7、C17(2)を、「薬剤師として求められる基本的な資質」の中で「基礎的な科学力」を主に取り扱うとの共通認識のもと、C3、C4、C5にまとめた。「薬剤師として求められる基本的な資質」の充実のため旧 C6 を拡充し、旧 C5 は基本的にアドバンストに移行した。ただし、医薬品合成としての旧 C5 の内容の一部 (C-C 結合生成など) は、生体反応の観点から「C4(2)生体反応の化学による理解【生体内で起こる有機反応】」に含めた。また、「基礎的な科学力」として必要なもののみをコアカリとし、学問上、対比して教育するのが望ましいものに関してはコアカリとはせず、各大学の判断で講義に組み込むこととした。(例；芳香族求電子置換反応はコアカリに含め、芳香族求核置換反応はアドバンストに掲載した。)

C3 は基本的 (代表的) 有機、無機化合物 (無機医薬品は含む)、C4 は生体分子、医薬品を取り扱うこととした。命名法は C3(1)にまとめ、無機化学関連を新規に C3(5)に集約、さらに複素環の性質等は旧 C6 から C3 に移し芳香族としてまとめた。C3(4)は基本的に構造解析のみとして物理系との重複をなくし、構造決定で用いられることが少ない項目は削除した (なお、講義は C2(4)と統合してもかまわない。)。C4 には医薬品の構造のもととなる酵素阻害剤や受容体アゴニスト、アンタゴニストの構造を理解する(2)を追加し、ここに生体内反応を理解するための有機化学も加えた。(3)は旧 C6(2)に対応しており、酵素、受容体に作用する医薬品は構造、化学的性質に特徴があるものを選択した。

C5 は、東洋医学的な概念での生薬、薬用植物を中心とした(1)と、西洋医学的な概念での薬：天然物由来の医薬品、農薬、化粧品などに用いられる天然活性物質、およびそのシズ化合物を中心とした(2)に再編した。日本薬局方に記載されている内容を最低限理解できるように考慮した。病院または薬局の薬剤師に必要性が低い項目を削除し、生合成経路は概説できるに変更した。旧 C7(3)漢方は「E2 薬理・病態・薬物治療」に移動した。

【C薬学基礎：生物】

生命体の理解 (C6-8) は、病態の理解や薬物治療の基盤として重要である。「薬剤師として求められる基本的な資質」のアウトカムを意識し、コアカリとなる項目を厳選した。また旧コアカリでは、教育課程のなかで内容的に前後する項目等を並べ替え、体系化した。すなわち旧コアカリ C9 と C8 を一部入れ替え、薬剤師として修得すべき「C6 生命現象の基礎」を生物の初めに移動した。生命の基本単位である細胞、その構成成分の構造と機能、タンパク質の働き、遺伝のプロセスから生体エネルギー、細胞間コミュニケーションへと展開される。生物化学の基礎を修得した後に、「C7 人体の成り立ちと生体機能の調節」を通してヒトの器官、組織について修得し、血圧や血糖の調節を含めた生体の機能調節を修得することとした。また C7 の初めに、「遺伝」と「発生」を修得することとした。旧 C10「生体防御」に旧 C8「小さな生き物たち」を統合し「C8 生体防御と微生物」とした。すなわち生体防御・免疫系に関する項目の次に「微生物の基本」を修得し、病原体としての微生物へと繋げることにより、微生物の基本から医療薬学で学ぶ感染症へのスムーズな理解を促進することとした。免疫系については、関連する疾患やその治療は「E 医療薬学」で修得するので、ここでは基礎的な機構・機能を扱うこととした。なお、旧 C8 の遺伝子操作技術（技能）はアドバンストに移行したが、今後、薬剤師にはバイオ医薬品や再生医療に関する知識等が欠かせなくなることを鑑み、C6 のなかで組換え DNA の概略を修得するように改めた。

【D衛生薬学】

「D 衛生薬学」は「D1 健康」および「D2 環境」で構成され、「薬剤師として求められる基本的な資質」の中で、主に「基礎的な科学力」と「地域の保健・医療における実践的能力」を取り扱うとの共通認識のもと、健康と環境に関する基本的事項を選定している。医療人養成教育において必要な健康に関する事項、環境に関する事項を取り入れることによって、将来、医療現場において役

に立つことを想定して構成している。健康に関する旧コアカリとは順番が異なっているが、学生が理解しやすいという観点から並べ替えている。具体的には(1)社会・集団と健康、(2)疾病の予防、(3)栄養と健康の順である。また、D2においては新たに「化学物質の安全性評価と適正使用」の項目を追加している。栄養の中のSB0として疾病治療との関連を追加している。

【E医療薬学】

Eは「薬剤師として求められる基本的な資質」の「6.薬物療法における実践的能力」「7.地域の保健・医療における実践的能力」の2項目に直結する「薬理、病態、薬物治療、医薬品情報、患者情報、薬物動態、製剤」について基本的な知識、技能、態度を修得するためのカリキュラムである。改訂の方針としてはコアカリとして必要なものに整理しつつも、医療の進歩を反映し重要なものは追加するという方針で作業した。

薬理、病態・薬物治療については、従来別々の項目として扱ってきたが、今回は学生の思考プロセスに沿う形で器官別にこれらの3項目をまとめた。また、薬理と薬物動態が同じ中項目に入っていたものを分離し、「E2薬理・病態・薬物治療」の後に配置し分かりやすくした。なお、薬物動態の変動については、「E3薬物治療に役立つ情報(3)個別化医療」に含めた。

製剤に関連する内容は物理系薬学から「E5製剤化のサイエンス」に移し、学生に関連が分かるようにした。製剤に関する技能(製剤を作ることや製剤試験を行うこと)は削除し、アドバンストへ移行する。また、「旧C17医薬品の開発と生産」の治験・バイオスタティスティクスのうち、法規・制度は「B薬学と社会」に移動し、開発から市販後に行われる各種調査・試験とそのために必要な知識である研究デザインおよび生物統計は医薬品情報に配置した。さらに、近年の薬剤師の役割の変化を反映させ、「旧C18薬学と社会(3)コミュニティファーマシー」の「OTC薬・セルフメディケーション」は薬理・病態・薬物治療に

移動し、内容を充実させ、症候に関する知識を解釈のレベル（患者情報をもとに疾患を推測できる）まで求めた。

全体を通じて「医薬品の安全性」に注目し、副作用とその対処法、安全性の研究で重要な観察研究の手法などについても新設し、また内容を充実させた。動物実験については必要最小限を残した。

漢方は化学系薬学領域に盛り込まれていたが、実務実習のコアカリでは「薬局実習」の薬局製剤として扱われ、国家試験では「実務」の領域から出題されていた。治療薬としての観点から、漢方を「E2 薬理・病態・薬物治療」のユニットとして記述することとした。

漢方独自の用語で説明される概念の理解が必要なので、漢方の基本用語を加え、局方に収載される24処方について適応となる証、症状や疾患を加えた。

【F 薬学臨床】

実務実習事前学習、病院実習、薬局実習と3領域に分かれていた目標を統一して、「薬剤師として求められる基本的な資質」を臨床の場で確実に身につけることを大前提とした目標の分類・提示を行った。目標修得の過程が分かりやすいように、病院・薬局での実務実習実施前に大学の授業で修得しておくべき目標については「前）」と表記した。「前）」が付されているSB0のうち技能・態度に係る授業は、各大学においてシミュレーション等の対応可能な方法により学修するものである。

薬剤師になるための準備として2年次修了までに学修しておくことが望ましい「早期臨床体験」の目標を、医療の担い手に必要な態度を身につける薬学臨床の基礎の目標として提示した。

本領域は6年制薬学教育の最終時点で修得すべき目標がほとんどで、AからE領域までの目標を修得した上で学修する目標が多い。そのため、特にその項目と関連の深い他領域の項目は参照として提示した。

薬剤師の貢献が特に期待されている目標については、より積極的に学修することを目指して目標を設定した。さらに、薬学臨床において幅広く薬物療法を学修するよう、学修すべき「代表的な疾患」を冒頭に提示し、実習施設で「代表的な疾患」を持つ患者に広く関わりそれらの薬物療法を実際に体験することを促している。また、大学・実習施設での学習方略の自由度を確保するため、目標は幅広い解釈が可能な表現を多く含んでいるが、最低限共通して確保したい学習内容について括弧内に例示している。大学や施設によっては「代表的な疾患」や例示以外にもさらに多くの目標の修得が可能と思われる。別記アドバンスの目標を参考にさらに進んだ学修も積極的に行っていくことが望ましい。

目標として掲げたものは全ての大学・実習施設で修得が必要な目標であるが、現状では全国共通に修得できるとは言えない目標もあると考えられる。それらは本コアカリで学修する学生達が卒業するまでに是非修得してほしい目標であり、今後の薬剤師業務の進歩を想定しての目標であって、単独施設での履修が難しい場合は、複数施設での学修も視野に入れてのものである。

【G薬学研究】

旧「卒業実習カリキュラム」の「E1 総合薬学研究」を参考に改訂・策定作業を行った。本項目の内容は、薬学における研究の位置づけを理解し、研究に必要な法規範と倫理を遵守して研究を実施し、問題解決能力を培うこととした。研究は“基礎と臨床”、“ウェット研究とドライ研究”など多種多様であることから、小項目、GIO、SBO は「薬学研究」に共通するコアな内容にしぼって作成した。対応する主な「薬剤師に求められる基本的な資質」は、「研究能力」、「薬剤師としての心構え」、「自己研鑽」などである。「(2) 研究に必要な法規範と倫理」の3は、「A基本事項 (2) 薬剤師に求められる倫理観 ④研究倫理」の3と同一であるが、その重要性を考慮して再掲した。

薬剤師として求められる基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

6年卒業時に必要とされている資質は以下のとおりである。

（薬剤師としての心構え）

医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。

（患者・生活者本位の視点）

患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

（コミュニケーション能力）

患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

（チーム医療への参画）

医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

（基礎的な科学力）

生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

(薬物療法における実践的能力)

薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

(地域の保健・医療における実践的能力)

地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

(研究能力)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

(自己研鑽)

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

(教育能力)

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

A 基本事項

(1) 薬剤師の使命

GIO 医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。

【①医療人として】

1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)
2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)
3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)
4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)
5. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)
6. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)
7. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)

【②薬剤師が果たすべき役割】

1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)
2. 薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。
3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。
4. 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。
5. 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。
6. 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。
7. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。
8. 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)

【③患者安全と薬害の防止】

1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)
2. WHOによる患者安全の考え方について概説できる。
3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。
4. 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列举し、その原因と防止策を説明できる。
5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)
6. 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。
7. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)

【④薬学の歴史と未来】

1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。
2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。
3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。
4. 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）

(2) 薬剤師に求められる倫理観

GIO 倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。

【①生命倫理】

1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）
2. 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。
3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）
4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。

【②医療倫理】

1. 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。
2. 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。
3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。

【③患者の権利】

1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）
2. 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。
3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。
4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度）

【④研究倫理】

1. 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。
2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）

(3) 信頼関係の構築

GIO 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。

【①コミュニケーション】

1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。

2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。
3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。
4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。
5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)

【②患者・生活者と薬剤師】

1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。
2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)

(4) 多職種連携協働とチーム医療

GIO 医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。

1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。
2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。
3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。
4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)
5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

GIO 生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)
2. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)
3. 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)
5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

【②薬学教育の概要】

1. 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。
2. 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)

【③生涯学習】

1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。
2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)

【④次世代を担う人材の育成】

1. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)
2. 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)

B 薬学と社会

GIO 人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。

(1) 人と社会に関わる薬剤師

GIO 人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。

1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。
2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)
3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)
4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)
5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)

(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範

GIO 調剤、医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。

【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】

1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。
2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。
3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。
4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。
5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。
6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。
7. 個人情報の取扱いについて概説できる。
8. 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。

【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】

1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。
2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。
3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。
4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。
5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。

6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。
7. 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。
8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。
9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。
10. 健康被害救済制度について説明できる。
11. レギュラトリーサイエンスの必要性和意義について説明できる。

【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】

1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。
2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。
3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。

(3) 社会保障制度と医療経済

GIO 社会保障制度のもとで提供される医療と福祉について、現状と課題を認識するとともに、薬剤師が担う役割とその意義を理解する。

【①医療、福祉、介護の制度】

1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。
2. 医療保険制度について説明できる。
3. 療養担当規則について説明できる。
4. 公費負担医療制度について概説できる。
5. 介護保険制度について概説できる。
6. 薬価基準制度について概説できる。
7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。

【②医薬品と医療の経済性】

1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。
2. 国民医療費の動向について概説できる。
3. 後発医薬品とその役割について説明できる。
4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。

(4) 地域における薬局と薬剤師

GIO 地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。

【①地域における薬局の役割】

1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。
2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。

3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。
4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。
5. 災害時の薬局の役割について説明できる。
6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。

【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】

1. 地域包括ケアの理念について説明できる。
2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。
3. 学校薬剤師の役割について説明できる。
4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。
5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)

C 薬学基礎

C1 物質の物理的性質

GIO 物質の物理的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などに関する基本的事項を身につける。

(1) 物質の構造

GIO 物質を構成する原子・分子の構造、および化学結合に関する基本的事項を修得する。

【①化学結合】

1. 化学結合の様式について説明できる。
2. 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。
3. 共役や共鳴の概念を説明できる。

【②分子間相互作用】

1. ファンデルワールス力について説明できる。
2. 静電相互作用について例を挙げて説明できる。
3. 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。
4. 分散力について例を挙げて説明できる。
5. 水素結合について例を挙げて説明できる。
6. 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。
7. 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。

【③原子・分子の挙動】

1. 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。
2. 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。
3. 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。
4. 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。
5. 光の散乱および干渉について説明できる。
6. 結晶構造と回折現象について概説できる。

【④放射線と放射能】

1. 原子の構造と放射壊変について説明できる。
2. 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。
3. 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。
4. 核反応および放射平衡について説明できる。
5. 放射線測定の原因と利用について概説できる。

(2) 物質のエネルギーと平衡

GIO 物質の状態を理解するために、熱力学に関する基本的事項を修得する。

【①気体の微視的状态と巨視的状态】

1. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。
2. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。
3. エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。

【②エネルギー】

1. 熱力学における系、外界、境界について説明できる。
2. 熱力学第一法則を説明できる。
3. 状態関数と経路関数の違いを説明できる。
4. 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。
5. 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。
6. エンタルピーについて説明できる。
7. 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。

【③自発的な変化】

1. エントロピーについて説明できる。
2. 熱力学第二法則について説明できる。
3. 熱力学第三法則について説明できる。
4. ギブズエネルギーについて説明できる。
5. 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。

【④化学平衡の原理】

1. ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。
2. ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。
3. 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。
4. 共役反応の原理について説明できる。

【⑤相平衡】

1. 相変化に伴う熱の移動について説明できる。
2. 相平衡と相律について説明できる。
3. 状態図について説明できる。

【⑥溶液の性質】

1. 希薄溶液の束一的性質について説明できる。
2. 活量と活量係数について説明できる。

3. 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。
4. イオン強度について説明できる。

【⑦電気化学】

1. 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。
2. 電極電位（酸化還元電位）について説明できる。

(3) 物質の変化

G10 物質の変換過程を理解するために、反応速度論に関する基本的事項を修得する。

【①反応速度】

1. 反応次数と速度定数について説明できる。
2. 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）
3. 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。
4. 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。（技能）
5. 代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。
6. 反応速度と温度との関係を説明できる。
7. 代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応など）について説明できる。

C2 化学物質の分析

GIO 化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、物質の定性、定量に関する基本的事項を修得する。

(1) 分析の基礎

GIO 化学物質の分析に用いる器具の使用法と得られる測定値の取り扱いに関する基本的事項を修得する。

【①分析の基本】

1. 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)
2. 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)
3. 分析法のバリデーションについて説明できる。

(2) 溶液中の化学平衡

GIO 溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得する。

【①酸・塩基平衡】

1. 酸・塩基平衡の概念について説明できる。
2. pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)
3. 溶液の pH を測定できる。(技能)
4. 緩衝作用や緩衝液について説明できる。

【②各種の化学平衡】

1. 錯体・キレート生成平衡について説明できる。
2. 沈殿平衡について説明できる。
3. 酸化還元平衡について説明できる。
4. 分配平衡について説明できる。

(3) 化学物質の定性分析・定量分析

GIO 化学物質の定性分析および定量分析に関する基本的事項を修得する。

【①定性分析】

1. 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。
2. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。

【②定量分析（容量分析・重量分析）】

1. 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。
2. キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。
3. 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。
4. 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。
5. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）
6. 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。
7. 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。

(4) 機器を用いる分析法

GIO 機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項を修得する。

【①分光分析法】

1. 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。
2. 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。
3. 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。
4. 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。
5. 旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。
6. 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）

【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】

1. 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。

【③質量分析法】

1. 質量分析法の原理および応用例を説明できる。

【④X線分析法】

1. X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。
2. 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。

【⑤熱分析】

1. 熱重量測定法の原理を説明できる。
2. 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。

(5) 分離分析法

GIO 分離分析法に関する基本的事項を修得する。

【①クロマトグラフィー】

1. クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。
2. 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。
3. 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。
4. ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。
5. クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)

【②電気泳動法】

1. 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。

(6) 臨床現場で用いる分析技術

GIO 臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。

【①分析の準備】

1. 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。
2. 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。

【②分析技術】

1. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。
2. 免疫化学的測定法の原理を説明できる。
3. 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。
4. 代表的なドライケミストリーについて概説できる。
5. 代表的な画像診断技術(X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など)について概説できる。

C3 化学物質の性質と反応

GIO 化学物質を理解できるようになるために、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、および無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。

(1) 化学物質の基本的性質

GIO 基本的な有機化合物の命名法、電子配置、反応、立体構造などに関する基本的事項を修得する。

【①基本事項】

1. 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。
2. 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。
3. 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。
4. 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。
5. ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。
6. 基本的な有機反応（置換、付加、脱離）の特徴を理解し、分類できる。
7. 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル）の構造と性質を説明できる。
8. 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。
9. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)

【②有機化合物の立体構造】

1. 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。
2. キラリティーと光学活性の関係を概説できる。
3. エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。
4. ラセミ体とメソ体について説明できる。
5. 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)
6. 炭素—炭素二重結合の立体異性 (*cis*, *trans* ならびに *E*, *Z* 異性) について説明できる。
7. フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)
8. エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。

(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応

GIO 有機化合物の基本骨格となる脂肪族および芳香族化合物の構造、性質、反応性などに関する基本的事項を修得する。

【①アルカン】

1. アルカンの基本的な性質について説明できる。

2. アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)
3. シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。
4. シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル)を図示できる。(技能)
5. 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。

【②アルケン・アルキン】

1. アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。
2. アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。
3. アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。

【③芳香族化合物】

1. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。
2. 芳香族性の概念を説明できる。
3. 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。
4. 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。
5. 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。

(3) 官能基の性質と反応

GIO 官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的事項を修得する。

【①概説】

1. 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。
2. 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)

【②有機ハロゲン化合物】

1. 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
2. 求核置換反応の特徴について説明できる。
3. 脱離反応の特徴について説明できる。

【③アルコール・フェノール・エーテル】

1. アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
2. エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。

【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】

1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
2. カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
3. カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。

【⑤アミン】

1. アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。

【⑥電子効果】

1. 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。

【⑦酸性度・塩基性度】

1. アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。
2. 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。

(4) 化学物質の構造決定

GIO 代表的な機器分析としての核磁気共鳴 (NMR)、赤外吸収 (IR)、質量分析による構造決定法の基本的事項を修得する。

【①核磁気共鳴 (NMR)】

1. ^1H および ^{13}C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。
2. 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。
3. ^1H NMR の積分値の意味を説明できる。
4. ^1H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。
5. 代表的な化合物の部分構造を ^1H NMR から決定できる。(技能)

【②赤外吸収 (IR)】

1. IR スペクトルより得られる情報を概説できる。
2. IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)

【③質量分析】

1. マスペクトルより得られる情報を概説できる。
2. 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)
3. ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。
4. 代表的な化合物のマスペクトルを解析できる。(技能)

【④総合演習】

1. 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)

(5) 無機化合物・錯体の構造と性質

GIO 代表的な無機化合物・錯体 (医薬品を含む) の構造、性質に関する基本的事項を修得する。

【①無機化合物・錯体】

1. 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。
2. 代表的な無機酸化物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。
3. 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。
4. 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。
5. 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。

C4 生体分子・医薬品の化学による理解

GIO 医薬品の生体内での作用を化学的に理解できるようになるために、医薬品標的および医薬品の構造と性質、生体反応の化学に関する基本的事項を修得する。

(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質

GIO 医薬品の標的となる生体分子の基本構造と、その化学的な性質に関する基本的事項を修得する。

【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】

1. 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。
2. 医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。

【②生体内で機能する小分子】

1. 細胞膜受容体および細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。
2. 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。
3. 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。
4. 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。

(2) 生体反応の化学による理解

GIO 医薬品の作用の基礎となる生体反応の化学的理解に関する基本的事項を修得する。

【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】

1. リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。
2. リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。

【②酵素阻害剤と作用様式】

1. 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。
2. 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。
3. 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。

【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】

1. 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。
2. 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。

【④生体内で起こる有機反応】

1. 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。
2. 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。

(3) 医薬品の化学構造と性質、作用

GIO 医薬品に含まれる代表的な構造およびその性質を医薬品の作用と関連づける基本的事項を修得する。

【①医薬品と生体分子の相互作用】

1. 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。

【②医薬品の化学構造に基づく性質】

1. 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。
2. プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。

【③医薬品のコンポーネント】

1. 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。
2. バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。
3. 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。

【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】

1. ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列举し、化学構造に基づく性質について説明できる。
2. フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列举し、化学構造に基づく性質について説明できる。
3. スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列举し、化学構造に基づく性質について説明できる。
4. キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列举し、化学構造に基づく性質について説明できる。
5. β -ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列举し、化学構造に基づく性質について説明できる。
6. ペプチドアナログの代表的医薬品を列举し、化学構造に基づく性質について説明できる。

【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】

1. カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列举し、化学構造に基づく性質について説明できる。
2. アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列举し、化学構造に基づく性質について説明できる。

3. ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。
4. ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。
5. オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。

【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】

1. DNA と結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。
2. DNA にインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。
3. DNA 鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。

【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】

1. イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。

C5 自然が生み出す薬物

GIO 自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用などに関する基本的事項を修得する。

(1) 薬になる動植物

GIO 基原、性状、含有成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。

【①薬用植物】

1. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。
2. 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)
3. 植物の主な内部形態について説明できる。
4. 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。

【②生薬の基原】

1. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。

【③生薬の用途】

1. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。
2. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。

【④生薬の同定と品質評価】

1. 生薬の同定と品質評価法について概説できる。
2. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。
3. 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)
4. 代表的な生薬の確認試験を説明できる。
5. 代表的な生薬の純度試験を説明できる。

(2) 薬の宝庫としての天然物

GIO 医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項を修得する。

【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】

1. 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。
2. 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。

3. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。
4. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。
5. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。

【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】

1. 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。
2. 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。

【③天然生物活性物質の取扱い】

1. 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)

【④天然生物活性物質の利用】

1. 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。
2. 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。
3. 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。

C6 生命現象の基礎

GIO 生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を修得する。

(1) 細胞の構造と機能

GIO 細胞膜、細胞小器官、細胞骨格などの構造と機能に関する基本的事項を修得する。

【①細胞膜】

1. 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。
2. エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。

【②細胞小器官】

1. 細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）やリボソームの構造と機能を説明できる。

【③細胞骨格】

1. 細胞骨格の構造と機能を説明できる。

(2) 生命現象を担う分子

GIO 生命現象を担う分子の構造、性質、役割に関する基本的事項を修得する。

【①脂質】

1. 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。

【②糖質】

1. 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。
2. 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。

【③アミノ酸】

1. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。

【④タンパク質】

1. タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。

【⑤ヌクレオチドと核酸】

1. ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。

【⑥ビタミン】

1. 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。

【⑦微量元素】

1. 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。

【⑧生体分子の定性、定量】

1. 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)

(3) 生命活動を担うタンパク質

GIO 生命活動を担うタンパク質の構造、性質、機能、代謝に関する基本的事項を修得する。

【①タンパク質の構造と機能】

1. 多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。

【②タンパク質の成熟と分解】

1. タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。
2. タンパク質の細胞内での分解について説明できる。

【③酵素】

1. 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。
2. 酵素反応における補酵素、微量元素の役割を説明できる。
3. 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。
4. 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)

【④酵素以外のタンパク質】

1. 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。
2. 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。

(4) 生命情報を担う遺伝子

GIO 生命情報を担う遺伝子の複製、発現と、それらの制御に関する基本的事項を修得する。

【①概論】

1. 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。
2. DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。

【②遺伝情報を担う分子】

1. 染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。
2. 遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。
3. RNAの種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。

【③遺伝子の複製】

1. DNAの複製の過程について説明できる。

【④転写・翻訳の過程と調節】

1. DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。
2. エピジェネティックな転写制御について説明できる。
3. 転写因子による転写制御について説明できる。
4. RNAのプロセッシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など）について説明できる。
5. RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。

【⑤遺伝子の変異・修復】

1. DNAの変異と修復について説明できる。

【⑥組換えDNA】

1. 遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など）を概説できる。
2. 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について概説できる。

(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系

GIO 生体エネルギーの産生、貯蔵、利用、およびこれらを担う糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝に関する基本的事項を修得する。
--

【①概論】

1. エネルギー代謝の概要を説明できる。

【②ATPの産生と糖質代謝】

1. 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。
2. クエン酸回路(TCAサイクル)について説明できる。
3. 電子伝達系（酸化的リン酸化）とATP合成酵素について説明できる。
4. グリコーゲンの代謝について説明できる。
5. 糖新生について説明できる。

【③脂質代謝】

1. 脂肪酸の生合成と β 酸化について説明できる。
2. コレステロールの生合成と代謝について説明できる。

【④飢餓状態と飽食状態】

1. 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。
2. 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。

【⑤その他の代謝系】

1. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝（尿素回路など）について説明できる。
2. ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。
3. ペントースリン酸回路について説明できる。

(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達

GIO 細胞間コミュニケーション及び細胞内情報伝達の方法と役割に関する基本的事項を修得する。

【①概論】

1. 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。

【②細胞内情報伝達】

1. 細胞膜チャンネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。
2. 細胞膜受容体からGタンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。
3. 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。
4. 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。
5. 細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。

【③細胞間コミュニケーション】

1. 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。
2. 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。

(7) 細胞の分裂と死

GIO 細胞周期と分裂、細胞死に関する基本的事項を修得する。

【①細胞分裂】

1. 細胞周期とその制御機構について説明できる。
2. 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。

【②細胞死】

1. 細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。

【③がん細胞】

1. 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。
2. がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。

C7 人体の成り立ちと生体機能の調節

GIO 人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項を修得する。

(1) 人体の成り立ち

GIO 遺伝、発生、および各器官の構造と機能に関する基本的事項を修得する。

【①遺伝】

1. 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。
2. 遺伝子多型について概説できる。
3. 代表的な遺伝疾患を概説できる。

【②発生】

1. 個体発生について概説できる。
2. 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。

【③器官系概論】

1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。
2. 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。
3. 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）
4. 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）

【④神経系】

1. 中枢神経系について概説できる。
2. 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。

【⑤骨格系・筋肉系】

1. 骨、筋肉について概説できる。
2. 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。

【⑥皮膚】

1. 皮膚について概説できる。

【⑦循環器系】

1. 心臓について概説できる。
2. 血管系について概説できる。
3. リンパ管系について概説できる。

【⑧呼吸器系】

1. 肺、気管支について概説できる。

【⑨消化器系】

1. 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。
2. 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。

【⑩泌尿器系】

1. 泌尿器系について概説できる。

【⑪生殖器系】

1. 生殖器系について概説できる。

【⑫内分泌系】

1. 内分泌系について概説できる。

【⑬感覚器系】

1. 感覚器系について概説できる。

【⑭血液・造血器系】

1. 血液・造血器系について概説できる。

(2) 生体機能の調節

GIO 生体の維持に関わる情報ネットワークを担う代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構に関する基本的事項を修得する。

【①神経による調節機構】

1. 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。
2. 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。
3. 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。
4. 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。

【②ホルモン・内分泌系による調節機構】

1. 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。

【③オータコイドによる調節機構】

1. 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。

【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】

1. 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。

【⑤血圧の調節機構】

1. 血圧の調節機構について概説できる。

【⑥血糖の調節機構】

1. 血糖の調節機構について概説できる。

【⑦体液の調節】

1. 体液の調節機構について概説できる。
2. 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。

【⑧体温の調節】

1. 体温の調節機構について概説できる。

【⑨血液凝固・線溶系】

1. 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。

【⑩性周期の調節】

1. 性周期の調節機構について概説できる。

C8 生体防御と微生物

GIO 生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化を理解できるようになるために、免疫反応による生体防御機構とその破綻、および代表的な病原微生物に関する基本的事項を修得する。

(1) 身体をまもる

GIO ヒトの主な生体防御反応としての免疫応答に関する基本的事項を修得する。

【①生体防御反応】

1. 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。
2. 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。
3. 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。
4. 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。

【②免疫を担当する組織・細胞】

1. 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。
2. 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。
3. 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。

【③分子レベルで見た免疫のしくみ】

1. 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。
2. MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。
3. T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。
4. 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。
5. 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。

(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用

GIO 免疫応答の制御とその破綻、および免疫反応の臨床応用に関する基本的事項を修得する。

【①免疫応答の制御と破綻】

1. 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。
2. アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。
3. 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。
4. 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。
5. 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。
6. 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。

【② 免疫反応の利用】

1. ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。
2. モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。
3. 血清療法と抗体医薬について概説できる。
4. 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）

(3) 微生物の基本

GIO 微生物の分類、構造、生活環などに関する基本的事項を修得する。

【① 総論】

1. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。

【② 細菌】

1. 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。
2. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。
3. 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。
4. 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。
5. 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。
6. 代表的な細菌毒素について説明できる。

【③ ウイルス】

1. ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。

【④ 真菌・原虫・蠕虫】

1. 真菌の性状を概説できる。
2. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。

【⑤ 消毒と滅菌】

1. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。
2. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。

【⑥ 検出方法】

1. グラム染色を実施できる。（技能）
2. 無菌操作を実施できる。（技能）
3. 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）

(4) 病原体としての微生物

GIO ヒトと微生物の関わりおよび病原微生物に関する基本的事項を修得する。

【①感染の成立と共生】

1. 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。
2. 日和見感染と院内感染について説明できる。

【②代表的な病原体】

1. DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど）について概説できる。
2. RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。
3. グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など）について概説できる。
4. グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。
5. グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ／コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。
6. 抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。
7. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。
8. 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。
9. 原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。

D 衛生薬学

D1 健康

GIO 人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、現代社会における疾病とその予防、栄養と健康に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

(1) 社会・集団と健康

GIO 人々（集団）の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的事項を修得する。

【①健康と疾病の概念】

1. 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。

【②保健統計】

1. 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。
2. 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。
3. 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。

【③疫学】

1. 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。
2. 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。
3. 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。
4. リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）

(2) 疾病の予防

GIO 健康を理解し疾病の予防に貢献できるようになるために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項を修得する。

【①疾病の予防とは】

1. 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。
2. 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。

【②感染症とその予防】

1. 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。
2. 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。

3. 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。
4. 予防接種の意義と方法について説明できる。

【③生活習慣病とその予防】

1. 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。
2. 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。
3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)

【④母子保健】

1. 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。
2. 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。

【⑤労働衛生】

1. 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。
2. 労働衛生管理について説明できる。

(3) 栄養と健康

GIO 食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得する。
--

【①栄養】

1. 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。
2. 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。
3. 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。
4. 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。
5. エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。
6. 日本人の食事摂取基準について説明できる。
7. 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。
8. 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。

【②食品機能と食品衛生】

1. 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。
2. 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)
3. 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。
4. 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。
5. 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。
6. 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。
7. 食品衛生に関する法的規制について説明できる。

【③食中毒と食品汚染】

1. 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。
2. 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。
3. 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。

D2 環境

GIO 人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、化学物質などのヒトへの影響、適正な使用、および地球生態系や生活環境と健康との関わりにおける基本的知識、技能、態度を修得する。

(1) 化学物質・放射線の生体への影響

GIO 化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるために、化学物質の毒性などに関する基本的事項を修得する。

【①化学物質の毒性】

1. 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。
2. 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。
3. 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。
4. 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。
5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)
6. 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。
7. 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。

【②化学物質の安全性評価と適正使用】

1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)
2. 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。
3. 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOAEL)などについて概説できる。
4. 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。
5. 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。

【③化学物質による発がん】

1. 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。
2. 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。
3. 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。

【④放射線の生体への影響】

1. 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。
2. 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。
3. 電離放射線を防御する方法について概説できる。
4. 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。

(2) 生活環境と健康

GIO 地球生態系や生活環境を保全、維持できるようになるために、環境汚染物質などの成因、測定法、生体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的事項を修得する。

【①地球環境と生態系】

1. 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。
2. 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。
3. 化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。
4. 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。
5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）

【②環境保全と法的規制】

1. 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。
2. 環境基本法の理念を説明できる。
3. 環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。

【③水環境】

1. 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。
2. 水の浄化法、塩素処理について説明できる。
3. 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）
4. 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。
5. 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）
6. 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。

【④大気環境】

1. 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。
2. 主な大気汚染物質を測定できる。（技能）
3. 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。

【⑤室内環境】

1. 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）
2. 室内環境と健康との関係について説明できる。

【⑥廃棄物】

1. 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。
2. 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。
3. マニフェスト制度について説明できる。

E 医療薬学

E1 薬の作用と体の変化

GIO 疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。

(1) 薬の作用

GIO 医薬品を薬効に基づいて適正に使用できるようになるために、薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する。

【①薬の作用】

1. 薬の用量と作用の関係を説明できる。
2. アゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）について説明できる。
3. 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。
4. 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。
5. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。（C6(6)【②細胞内情報伝達】1.～5.参照）
6. 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。
(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)
7. 薬物の選択（禁忌を含む）、用法、用量の変更が必要となる要因（年齢、疾病、妊娠等）について具体例を挙げて説明できる。
8. 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。
(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)
9. 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。

【②動物実験】

1. 動物実験における倫理について配慮できる。（態度）
2. 実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）
3. 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。（技能）

【③日本薬局方】

1. 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。

(2) 身体の病的変化を知る

GIO 身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。

【①症候】

1. 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。

ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害

【②病態・臨床検査】

1. 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
2. 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
3. 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
4. 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
5. 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
6. 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
7. 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
8. 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。

(3) 薬物治療の位置づけ

GIO 医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患における治療と薬物療法に関する基本的事項を修得する。

1. 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。
2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）

(4) 医薬品の安全性

GIO 医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象（副作用、相互作用）、薬害、薬物乱用に関する基本的事項を修得する。

1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。

2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。
3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。
血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害
4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）

E2 薬理・病態・薬物治療

GIO 患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。

(1) 神経系の疾患と薬

GIO 神経系・筋に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①自律神経系に作用する薬】

1. 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
3. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
4. 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)

【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】

1. 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
2. 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
3. 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)
4. 以下の疾患について説明できる。
進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barre´(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)

【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】

1. 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。
2. 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。
3. 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。
4. 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
5. うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
6. 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

7. てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
8. 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
9. Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
10. 認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
11. 片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。
12. 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）
13. 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。（態度）
14. 以下の疾患について説明できる。
脳炎・髄膜炎（重複）、多発性硬化症（重複）、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy（ナルコレプシー）、薬物依存症、アルコール依存症

【④化学構造と薬効】

1. 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬

GIO 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①抗炎症薬】

1. 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
2. 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。
3. 創傷治癒の過程について説明できる。

【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】

1. アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
2. 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
3. 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消

化管アレルギー、気管支喘息（重複）

- 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。
Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症症候群、薬疹
- アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ベーチェット病
- 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血（重複）、アジソン病、1型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）、シェーグレン症候群
- 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）
- 臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】

- 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- 変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
- カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

【④化学構造と薬効】

- 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬

GIO 循環器系・血液・造血器系・泌尿器系・生殖器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①循環器系疾患の薬、病態、治療】

1. 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC）、心室性期外収縮（PVC）、心房細動（Af）、発作性上室頻拍（PSVT）、WPW 症候群、心室頻拍（VT）、心室細動（Vf）、房室ブロック、QT 延長症候群
2. 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 以下の高血圧症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
本態性高血圧症、二次性高血圧症（腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む）
5. 以下の疾患について概説できる。
閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患
6. 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）

【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】

1. 止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
2. 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
3. 以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血（悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血
4. 播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
5. 以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病（重複）、悪性リンパ腫（重複）
(E2 (7) 【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】 参照)

【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】

1. 利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
2. 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病

態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

5. 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石

6. 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫

7. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

8. 以下の生殖器系疾患について説明できる。

異常妊娠、異常分娩、不妊症

【④化学構造と薬効】

1. 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬

GIO 呼吸器系・消化器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】

1. 気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
2. 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。

【②消化器系疾患の薬、病態、治療】

1. 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎
2. 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、

- 機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
4. 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
 5. 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
 6. 機能的消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
 7. 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
 8. 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
 9. 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

【③化学構造と薬効】

1. 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。

(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬

GIO 代謝系・内分泌系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①代謝系疾患の薬、病態、治療】

1. 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
2. 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
3. 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】

1. 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。
2. Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
3. 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
4. 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

5. 以下の疾患について説明できる。

先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群 (SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing (クッシング) 症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 (急性、慢性)、子宮内膜症 (重複)、アジソン病 (重複)

【③化学構造と薬効】

1. 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。

(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬

GIO 感覚器・皮膚の疾患と薬の薬理作用・機序および副作用に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①眼疾患の薬、病態、治療】

1. 緑内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。
2. 白内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。
3. 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。
4. 以下の疾患について概説できる。
結膜炎 (重複)、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症

【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】

1. めまい (動揺病、Meniere (メニエール) 病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。
2. 以下の疾患について概説できる。
アレルギー性鼻炎 (重複)、花粉症 (重複)、副鼻腔炎 (重複)、中耳炎 (重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎 (重複)、喉頭蓋炎

【③皮膚疾患の薬、病態、治療】

1. アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。(E2 (2) 【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)
2. 皮膚真菌症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。(E2 (7) 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)

3. 褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 以下の疾患について概説できる。
蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬（重複）、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）

【④化学構造と薬効】

1. 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬

GIO 病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、および悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①抗菌薬】

1. 以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。
 β -ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（ST合剤を含む）、その他の抗菌薬
2. 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。

【②抗菌薬の耐性】

1. 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。

【③細菌感染症の薬、病態、治療】

1. 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症）を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎
2. 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎
3. 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎
4. 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎

5. 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

梅毒、淋病、クラミジア症等

6. 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

7. 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病

8. 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

9. 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等

10. 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

ジフテリア、劇症型 A 群 β 溶血性連鎖球菌感染症、新生児 B 群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症

【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】

1. ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
2. サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）
5. 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
6. 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病

【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】

1. 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。

2. 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症

【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】

1. 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢
2. 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
回虫症、蟯虫症、アニサキス症

【⑦悪性腫瘍】

1. 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。
2. 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。
組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因
3. 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。

【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】

1. 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。
アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬
2. 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。
3. 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。
4. 代表的ながん化学療法のレジメン（FOLFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。
5. 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）
6. 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
7. 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
8. 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌
9. 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
10. 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選

択等)を説明できる。

脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍

11. 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

前立腺癌、子宮癌、卵巣癌

12. 腎・尿路系の悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

13. 乳癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

【⑨がん終末期医療と緩和ケア】

1. がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。
2. がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。

【⑩化学構造と薬効】

1. 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。

(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報

GIO 医薬品としてのタンパク質、遺伝子、細胞を適正に利用するために、それらを用いる治療に関する基本的知識を修得し、倫理的態度を身につける。併せて、ゲノム情報の利用に関する基本的事項を修得する。

【①組換え体医薬品】

1. 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。
2. 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。
3. 組換え体医薬品の安全性について概説できる。

【②遺伝子治療】

1. 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)

【③細胞、組織を利用した移植医療】

1. 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)
2. 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。
3. 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。
4. 胚性幹細胞(ES細胞)、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。

(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション

GIO 適切な薬物治療および地域の保健・医療に貢献できるようになるために、要指導医薬品・一般用医薬品およびセルフメディケーションに関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的事項を修得する。

1. 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。
2. 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。
3. 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。
4. 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）
5. 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。
発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等
6. 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。
7. 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。
8. 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）

(10) 医療の中の漢方薬

GIO 漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。

【①漢方薬の基礎】

1. 漢方の特徴について概説できる。
2. 以下の漢方の基本用語を説明できる。
陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証
3. 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。
4. 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。

【②漢方薬の応用】

1. 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。
2. 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。
3. 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。

【③漢方薬の注意点】

1. 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。

(11) 薬物治療の最適化

G10 最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①総合演習】

1. 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)
2. 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)
3. 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)

E3 薬物治療に役立つ情報

GIO 薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上的問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。

(1) 医薬品情報

GIO 医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBMの実践、生物統計ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本的事項を修得する。

【①情報】

1. 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる
2. 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。
3. 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。
4. 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。
5. 医薬品情報に関する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。

【②情報源】

1. 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。
2. 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。
3. 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。
4. 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。
5. 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。
6. 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。

【③収集・評価・加工・提供・管理】

1. 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）
2. MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）
3. 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。
4. 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）
5. 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。

【④EBM (Evidence-based Medicine)】

1. EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。
2. 代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。
3. 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。（E3（1）【③収集・評価・加工・提供・管理】参照）
4. メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。

【⑤生物統計】

1. 臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。
2. 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。
3. 代表的な分布（正規分布、 t 分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、 F 分布）について概説できる。
4. 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。
5. 二群間の差の検定（ t 検定、 χ^2 検定など）を実施できる。（技能）
6. 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。
7. 基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。

【⑥臨床研究デザインと解析】

1. 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。
2. 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。
3. 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。
4. 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。
5. 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。
6. 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。
7. 統計解析時の注意点について概説できる。
8. 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。
9. 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）

【⑦医薬品の比較・評価】

1. 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。

2. 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。（技能）
3. 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）

(2) 患者情報

GIO 患者からの情報の収集、評価に必要な基本的事項を修得する。

【①情報と情報源】

1. 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。
2. 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。

【②収集・評価・管理】

1. 問題志向型システム（POS）を説明できる。
2. SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。
3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。
4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。（A（2）【③患者の権利】参照）

(3) 個別化医療

GIO 薬物治療の個別化に関する基本的事項を修得する。

【①遺伝的素因】

1. 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。
2. 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる。
3. 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。

【②年齢的要因】

1. 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。
2. 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。

【③臓器機能低下】

1. 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。
2. 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。
3. 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。

る。

【④その他の要因】

1. 薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。
2. 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。
3. 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。

【⑤個別化医療の計画・立案】

1. 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）
2. コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。

E4 薬の生体内運命

GIO 薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらを応用する基本的技能を身につける。

(1) 薬物の体内動態

GIO 吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。

【①生体膜透過】

1. 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。
2. 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。

【②吸収】

1. 経口投与された薬物の吸収について説明できる。
2. 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。
3. 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。
4. 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。
5. 初回通過効果について説明できる。

【③分布】

1. 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。
2. 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。
3. 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。
4. 血液－組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。
5. 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。
6. 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。

【④代謝】

1. 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。
2. 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。
3. 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。
4. プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。
5. 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を

挙げ、説明できる。

【⑤排泄】

1. 薬物の尿中排泄機構について説明できる。
2. 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。
3. 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。
4. 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。
5. 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。

(2) 薬物動態の解析

GIO 薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。

【①薬物速度論】

1. 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。
2. 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注）。（知識、技能）
3. 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能）
4. モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。
5. 組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。
6. 薬物動態学-薬力学解析（PK-PD 解析）について概説できる。

【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】

1. 治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。
2. TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。
3. 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）
4. ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。

E5 製剤化のサイエンス

GIO 製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計、および薬物送達システムに関する基本的事項を修得する。

(1) 製剤の性質

GIO 薬物と製剤材料の物性に関する基本的事項を修得する。

【①固形材料】

1. 粉体の性質について説明できる。
2. 結晶（安定形および準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。
3. 固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡など）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。（C2 (2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び【②各種の化学平衡】2. 参照）
4. 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pH や温度など）について説明できる。
5. 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。

【②半固形・液状材料】

1. 流動と変形（レオロジー）について説明できる。
2. 高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度など）について説明できる。

【③分散系材料】

1. 界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着など）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。（C2 (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照）
2. 代表的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など）を列挙し、その性質について説明できる。
3. 分散した粒子の安定性と分離現象（沈降など）について説明できる。
4. 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。

【④薬物及び製剤材料の物性】

1. 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。
2. 薬物の安定性（反応速度、複合反応など）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度など）について説明できる。（C1 (3) 【①反応速度】1. ～7. 参照）
3. 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。

(2) 製剤設計

GIO 製剤の種類、製造、品質などに関する基本的事項を修得する。

【①代表的な製剤】

1. 製剤化の概要と意義について説明できる。
2. 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。
3. 粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤など）の種類とその特性について説明できる。
4. 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。
5. 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。
6. その他の製剤（生薬関連製剤、透析に用いる製剤など）の種類と特性について説明できる。

【②製剤化と製剤試験法】

1. 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。
2. 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。
3. 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。
4. 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。

【③生物学的同等性】

1. 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。

(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)

GIO 薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した DDS に関する基本的事項を修得する。

【①DDS の必要性】

1. DDS の概念と有用性について説明できる。
2. 代表的な DDS 技術を列挙し、説明できる。（プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4. も参照）

【②コントロールドリリース（放出制御）】

1. コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。
2. 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。
3. コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。

【③ターゲティング（標的指向化）】

1. ターゲティングの概要と意義について説明できる
2. 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。
3. ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。

【④吸収改善】

1. 吸収改善の概要と意義について説明できる。
2. 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。

3. 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。

F 薬学臨床

GIO 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

※F 薬学臨床における代表的な疾患は、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症とする。病院・薬局の実務実習においては、これら疾患を持つ患者の薬物治療に継続的に広く関わること。

前)：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項

(1) 薬学臨床の基礎

GIO 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項

1. 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)
2. 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)
3. 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)

【②臨床における心構え】〔A(1)、(2)参照〕

1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)
2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)
3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)
4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)
5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)
6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)
7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)

【③臨床実習の基礎】

1. 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。
2. 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。
3. 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。
4. 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。
5. 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。〔B(3)①参照〕
6. 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。
7. 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。

8. 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)
9. 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。
10. 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。
11. 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。
12. 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。
13. 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。
14. 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。
15. 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。
(知識・態度)

(2) 処方せんに基づく調剤

G10 処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

【①法令・規則等の理解と遵守】〔B(2)、(3)参照〕

1. 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。
2. 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)
3. 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)
4. 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。

【②処方せんと疑義照会】

1. 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。
2. 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。
3. 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。
4. 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。
5. 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。
6. 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)
7. 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)
8. 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)
9. 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)
10. 薬歴、診療録、患者の状態から処方that妥当であるか判断できる。(知識・技能)
11. 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)

【③処方せんに基づく医薬品の調製】

1. 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）
2. 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。
3. 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）
4. 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。
5. 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。
6. 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）
7. 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）
8. 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）
9. 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）
10. 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）
11. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）
12. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）
13. 一回量(一包化) 調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）
14. 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）
15. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
16. 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）
17. 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）
18. 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）
19. 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）

【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】

1. 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。（態度）
2. 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。
3. 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）
4. 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）
5. 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。
6. 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）
7. 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。
8. 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）
9. 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。（態度）
10. 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）
11. 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）
12. 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育

ができる。(知識・態度)

13. 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)
14. お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)
15. 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)

【⑤医薬品の供給と管理】

1. 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。
2. 前) 医薬品管理の流れを概説できる。
3. 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。
4. 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。
5. 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。
6. 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。
7. 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。
8. 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。
9. 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)
10. 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)
11. 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。
12. 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)
13. 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)

【⑥安全管理】

1. 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列举できる。
2. 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列举できる。
3. 前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)
4. 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。
5. 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)
6. 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。
7. 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。
8. 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)
9. 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。
10. 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)
11. 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)
12. 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)
13. 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)
14. 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)

(3) 薬物療法の実践

GIO 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

【①患者情報の把握】

1. 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。
2. 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）〔E 3（2）①参照〕
3. 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。
4. 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）
5. 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）
6. 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）
7. 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）

【②医薬品情報の収集と活用】〔E 3（1）参照〕

1. 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）
2. 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）
3. 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）
4. 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）
5. 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）
6. 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）

【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】

1. 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。
2. 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。
3. 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。
4. 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。
5. 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。
6. 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。
7. 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。
8. 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。
9. 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度）

10. 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)
11. 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)
12. アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)
13. 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。
14. 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)

【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】

1. 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。
2. 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)
3. 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)
4. 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)
5. 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定のプロセスを提案できる。(知識・態度)
6. 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)
7. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。
8. 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。
9. 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。
10. 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)
11. 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)
12. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)
13. 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)

(4) チーム医療への参画 [A(4)参照]

GIO 医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

【①医療機関におけるチーム医療】

1. 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。
2. 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。
3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。
4. 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)

5. 医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。（知識・態度）
6. 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）
7. 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）
8. 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）
9. 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）

【②地域におけるチーム医療】

1. 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。
2. 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）
3. 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）
4. 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B(4)参照]

GIO 地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

【①在宅（訪問）医療・介護への参画】

1. 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。
2. 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。
3. 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。
4. 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）
5. 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）
6. 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）

【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】

1. 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。
2. 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。
3. 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）

4. 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）

【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】〔E2（9）参照〕

1. 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）
2. 前) 代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）
3. 前) 代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）
4. 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）
5. 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）
6. 来局者から収集した情報や身体所見などにに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）
7. 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）
8. 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）
9. 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）

【④災害時医療と薬剤師】

1. 前) 災害時医療について概説できる。
2. 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。
3. 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）

G 薬学研究

GIO 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

(1) 薬学における研究の位置づけ

GIO 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。
2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。
3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)

(2) 研究に必要な法規範と倫理

GIO 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3 再掲

(3) 研究の実践

GIO 研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)

薬学準備教育ガイドライン（例示）

薬学準備教育ガイドライン（例示）

（1）人と文化

GIO 人文科学、社会科学および自然科学などを広く学び、物事を多角的にみる能力を養う。

下記の到達目標のうち複数のものをバランスよく達成する。

1. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例をあげて説明できる。
2. 言語、歴史、宗教などを学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。
3. 文化・芸術に幅広く興味を持ち、その価値について討議する。（態度）
4. 文化活動、芸術活動を通して、自らの社会生活を豊かにする。（態度）
5. 日本社会の成り立ちについて、政治、経済、法律、歴史、社会学などの観点から説明できる。
6. 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理、歴史などの観点から説明できる。
7. 宇宙・自然現象に幅広く興味を持ち、人との関わりについて説明できる。
8. 地球環境保護活動を通して、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する。（態度）

※到達目標達成のための学問領域の例示

宗教、倫理、哲学、文学、外国語、芸術、文化人類学、社会学、政治、法律、経済、地理、歴史、科学史、宇宙、環境

（2）人の行動と心理

GIO 人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を修得する。

【①人の行動とその成り立ち】

1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係について概説できる。
2. 行動と人の内的要因、社会・文化的環境との関係について概説できる。
3. 本能行動と学習行動について説明できる。
4. レスポンデント条件づけとオペラント条件づけについて説明できる。
5. 社会的学習（モデリング、観察学習、模倣学習）について概説できる。
6. 健康行動の理論（健康信念モデル、変化のステージモデルなど）について概説できる。

【②動機づけ】

1. 生理的動機、内発的動機、および社会的動機について概説できる。
2. 欲求とフラストレーション・葛藤との関連について概説できる。
3. 適応（防衛）機制について概説できる。

【③ストレス】

1. 主なストレス学説について概説できる。
2. 人生や日常生活におけるストレスナーについて例示できる。
3. ストレスコーピングについて概説できる。

【④生涯発達】

1. こころの発達の原理について概説できる。
2. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴および発達課題について概説できる。
3. こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因について概説できる。

【⑤パーソナリティー】

1. 性格の類型について概説できる。
2. 知能の発達と経年変化について概説できる。
3. 役割理論について概説できる。
4. ジェンダーの形成について概説できる。

【⑥人間関係】

1. 人間関係における欲求と行動の関係について概説できる。
2. 主な対人行動（援助、攻撃等）について概説できる。
3. 集団の中の人間関係（競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ）について概説できる。
4. 人間関係と健康心理との関係について概説できる。

(3) 薬学の基礎としての英語

GIO 薬学分野で必要とされる英語に関する基本的事項を修得する。

【①読む】

1. 科学、医療に関連する英語の代表的な用語を列挙し、その内容を説明できる。
2. 科学、医療に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。

【②書く】

1. 自己紹介文、手紙文などを英語で書くことができる。(知識・技能)
2. 自然科学各分野における基本的単位、数値、現象の英語表現を列記できる。
3. 科学、医療に関連する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。
4. 科学、医療に関連する簡単な文章を英語で書くことができる。(知識・技能)

【③聞く・話す】

1. 英語の基礎的音声を聞き分けることができる。(技能)
2. 英語の会話を聞いて内容を理解して要約できる。(技能)
3. 英語による簡単なコミュニケーションができる。(技能・態度)

4. 科学、医療に関連する代表的な用語を英語で発音できる。(技能)

(4) 薬学の基礎としての物理

GIO 薬学を学ぶ上で必要な物理学の基礎力を身につけるために、物質および物体間の相互作用などに関する基本的事項を修得する。

【①基本概念】

1. 物理量の基本単位の定義を説明できる。
2. SI 単位系について説明できる。
3. 基本単位を組み合わせた組立単位を説明できる。
4. 物理量にはスカラー量とベクトル量があることを説明できる。

【②運動の法則】

1. 運動の法則について理解し、力、質量、加速度、仕事などの相互関係を説明できる。
2. 直線運動、円運動、単振動などの運動を数式を用いて説明できる。
3. 慣性モーメントについて説明できる。

【③エネルギー】

1. エネルギーと仕事の関係について説明できる。
2. エネルギーの種々の形態（熱エネルギー、化学エネルギー、電気エネルギーなど）の相互変換について、例を挙げて説明できる。

【④波動】

1. 光、音、電磁波などが波であることを理解し、波の性質を表す物理量について説明できる。

【⑤レーザー】

1. レーザーの性質を概説し、代表的な応用例を列挙できる。

【⑥電荷と電流】

1. 電荷と電流、電圧、電力、オームの法則などを説明できる。
2. 抵抗とコンデンサーを含んだ回路の特性を説明できる。

【⑦電場と磁場】

1. 電場と磁場の相互関係を説明できる。
2. 電場、磁場の中における荷電粒子の運動を説明できる。

【⑧量子化学入門】

1. 原子のボーアモデルと電子雲モデルの違いについて概説できる。
2. 光の粒子性と波動性について概説できる。

3. 電子の粒子性と波動性について概説できる。

(5) 薬学の基礎としての化学

GIO 薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力を身につけるために、原子の構造から分子の成り立ちなどに関する基本的事項を修得する。

【①物質の基本概念】

1. 原子、分子、イオンの基本的構造について説明できる。
2. 原子量、分子量を説明できる。
3. 原子の電子配置について説明できる。
4. 周期表に基づいて原子の諸性質（イオン化エネルギー、電気陰性度など）を説明できる。
5. 同素体、同位体について、例を挙げて説明できる。

【②化学結合と分子】

1. イオン結合、共有結合、配位結合、金属結合の成り立ちと違いについて説明できる。
2. 分子の極性について概説できる。
3. 共有結合性の化合物とイオン結合性の化合物の性質（融点、沸点など）の違いを説明できる。
4. 代表的な結晶構造について説明できる。
5. 代表的な化合物の名称と構造を列挙できる。

【③化学反応を定量的に捉える】

1. 溶液の濃度計算と調製ができる。（技能）
2. 質量保存の法則について説明できる。
3. 代表的な化学変化を化学量論的に捉え、その量的関係を計算できる。（技能）
4. 酸と塩基の基本的な性質および強弱の指標を説明できる。
5. 酸化と還元について電子の授受を含めて説明できる。

【④化学反応の基本操作】

1. 化合物の秤量、溶解、抽出、乾燥、ろ過、濃縮を実施できる。（技能）

(6) 薬学の基礎としての生物

GIO 薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎力を身につけるために、細胞、組織、器官、個体、集団レベルでの生命現象と、誕生から死への過程に関する基本的事項を修得する。

【①生体の基本的な構造と機能】

1. 多細胞生物である高等動物の成り立ちを、生体高分子、細胞、組織、器官、個体に関係づけて概説できる。

2. 動物、植物、微生物の細胞について、それらの構造の違いを説明できる。
3. 細胞内器官の構造と働きについて概説できる。
4. 細胞膜の構造と性質について概説できる。
5. ウイルスとファージについて概説できる。

【② 生体の調節機構】

1. 生体の持つホメオスタシス（恒常性）について概説できる。
2. 生体の情報伝達系、防御機構（神経系、内分泌系、免疫系）について概説できる。

【③ エネルギー】

1. 運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー、熱エネルギー、化学エネルギーなどの相互変化について例をあげて説明できる。

【④ 代謝】

1. 代謝（異化、同化）について説明できる。
2. 独立栄養生物と従属栄養生物について説明できる。
3. 嫌気呼吸および酸素呼吸について概説できる。
4. 光合成について概説できる。

【⑤ 細胞分裂・遺伝・進化】

1. 細胞の増殖、死について概説できる。
2. 遺伝と DNA について概説できる。
3. 遺伝の基本法則（メンデルの法則など）を説明できる。
4. 遺伝子の組換え、連鎖を説明し、組換え価を求めることができる。
5. 染色体地図について説明できる。
6. 減数分裂について概説できる。
7. 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。
8. 進化の基本的な考え方を説明できる。

【⑥ 発生・分化】

1. 卵割について説明できる。
2. 個体と器官が形成される発生過程を概説できる。
3. 外胚葉、中胚葉、内胚葉から分化する組織を特定できる。
4. 細胞の分化の機構について概説できる。
5. 多細胞生物における、細胞の多様性と幹細胞の性質について概説できる。

【⑦ 誕生・成長・老化】

1. 生殖の過程（性周期、妊娠、出産など）を概説できる。
2. ヒトの成長、老化に関する基本的現象を説明できる。

3. 老化に関する学説を概説できる。

【⑧生態系】

1. 個体群の変動と環境変化との関係について例示できる。
2. 生態系の構成について概説できる。

【⑨総合演習】

1. 植物組織の切片を作製し、顕微鏡で観察しながら構造を説明できる。(技能)
2. 動物の組織標本を顕微鏡で観察し、構造を説明できる。(技能)
3. 倫理に配慮して実験動物を取扱う。(技能・態度)
4. 実験動物を解剖し、臓器の配置および形態を観察する。(技能)

(7) 薬学の基礎としての数学・統計学

GIO 薬学を学ぶ上で基礎となる数学・統計学に関する基本的知識を修得し、それらを薬学領域で応用するための基本的技能を身につける。

【①数値の扱い】

1. 大きな数や小さな数を SI 接頭語、べき、および対数を使い、的確に表すことができる。(知識・技能)
2. 有効数字の概念を説明し、有効数字を含む値の計算ができる。(知識・技能)

【②種々の関数】

1. 指数関数および対数関数を、式およびグラフを用いて説明できる。(知識・技能)
2. 三角関数を、式およびグラフを用いて説明できる。(知識・技能)

【③微分と積分】

1. 極限の基本概念を概説できる。
2. 導関数の基本概念を理解し、代表的な関数の微分ができる。(知識・技能)
3. 原始関数の基本概念を理解し、代表的な関数の不定積分および定積分ができる。(知識・技能)
4. 微分方程式の成り立ちを理解し、基本的な微分方程式(変数分離型)の一般解と特殊解を求めることができる。(知識・技能)
5. 偏微分について概説できる。

【④確率】

1. 場合の数、順列、組合せの基本概念を理解し、それを用いた計算ができる。(知識・技能)
2. 二項分布および正規分布について概説できる。
3. 確率の定義と性質を理解し、計算ができる。(知識・技能)

【⑤統計の基礎】

1. 測定尺度（間隔、比率尺度、順序尺度、名義尺度）について説明できる。
2. 大量のデータに対して、適切な尺度を選び、表やグラフを用いて的確に表すことができる。（技能）
3. 平均値、分散、標準誤差、標準偏差などの基本的な統計量について説明し、求めることができる。（知識・技能）
4. データの相関と、それに基づく基本的な回帰分析（直線〔線形〕回帰）ができる。（知識・技能）
5. 母集団と標本の関係について説明できる。
6. 検定の意義について説明できる。

(8) 情報リテラシー

GIO 情報伝達技術（ICT）の発展に合わせた効果的なコンピューターの利用法とセキュリティの知識を身につけ、必要な情報を活用する能力を修得する。

【①基本操作】

1. コンピューターを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。
2. スマートフォン、タブレット端末などのモバイル機器を安全かつ有効に利用できる。（知識・技能）
3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。（技能）
4. インターネットの仕組みを概説できる。
5. 無線 LAN を使用するための注意点について概説できる。
6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。（技能・態度）
7. インターネットに接続し、Web サイトを閲覧できる。（技能）
8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。（技能）

【②ソフトウェアの利用】

1. ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。（態度）
2. ワードプロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。（技能）
3. グラフィックソフト、化学構造式描画ソフトを用いることができる。（技能）
4. 画像ファイルの形式とその特徴に応じて、データを適切に取り扱うことができる。（技能）
5. データベースの特徴と活用について概説できる。

【③セキュリティと情報倫理】

1. ネットワークセキュリティについて概説できる。
2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。（技能・態度）
3. データやメディアを適切に管理できる。（態度）
4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。
5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。（態度）
6. ソーシャルネットワークサービス（SNS）の種類と特徴、留意すべき点について説明できる。
7. 情報倫理、セキュリティに関する情報を収集することができる。（技能）
8. コンピューターウイルスの侵入経路に応じて、適切な予防策を講じることができる。（技能・態度）

(9) プレゼンテーション

GIO 情報をまとめ、他者へわかりやすく伝達するための基本的事項を修得する。

【①プレゼンテーションの基本】

1. プレゼンテーションを行うために必要な要素を列举できる。
2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。(技能)
3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。(技能)

【②文書によるプレゼンテーション】

1. 定められた書式、正しい文法に則って文書を作成できる。(知識・技能)
2. 目的（レポート、論文、説明文書など）に応じて適切な文書を作成できる。(知識・技能)

【③口頭・ポスターによるプレゼンテーション】

1. 口頭発表とポスター発表の違いと特徴について説明できる。
2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。(技能)
3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。(技能・態度)
4. 質問に対して的確な応答ができる。(技能)
5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。(知識・態度)

薬学アドバンスト教育ガイドライン（例示）

薬学アドバンスト教育ガイドライン（例示）

※ 薬学教育モデル・コアカリキュラムに関連する項目がある場合には、「〔関連コアカリ〕」として、該当項目を記載している。

A 基本事項

【①患者安全と薬害の防止】 〔関連コアカリ：(1) ③〕

1. WHO の患者安全の考え方にに基づき、医療提供プロセスや患者環境における潜在的なリスクを見出し、対応策を提案できる。

【②コミュニケーション】 〔関連コアカリ：(3) ①〕

1. 心理療法の基礎理論（精神分析、認知行動療法、来談者中心療法など）とその活用法について説明できる。
2. 代表的な精神障害（統合失調症、うつ病など）・パーソナリティ障害（境界性パーソナリティ障害、自己愛性パーソナリティ障害など）・発達障害の症状およびコミュニケーションの特徴について概説できる。

B 薬学と社会

【①医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】 〔関連コアカリ：(2) ②〕

1. レギュラトリーサイエンスに基づく医薬品等の品質、有効性及び安全性の評価法について説明できる。
2. 医薬品等の開発と規制における国際調和の動向について説明できる。

【②医療、福祉、介護の制度】 〔関連コアカリ：(3) ①〕

1. 諸外国の医療、福祉、介護の制度について、日本と比較しながら説明できる。

【③医薬品と医療の経済性】 〔関連コアカリ：(3) ②〕

1. 医薬品等に係る知的財産権保護の仕組み（申請、承認など）について説明できる。
2. 日本と諸外国における知的財産権保護に対する考え方の違いについて説明できる。
3. 医薬品の創製に関わる仕組みについて、日本と諸外国でどのように異なるかを説明できる。
4. 国際的な医薬品市場の動向と企業展開について説明できる。
5. 希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の現状と問題点について説明できる。
6. 代表的な薬剤経済評価手法を用いて、薬物治療の効率性を評価できる。

【④地域における薬局の役割】 〔関連コアカリ：(4) ①〕

1. 諸外国における薬局の機能と業務について、日本と比較しながら説明できる。

【⑤地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】 〔関連コアカリ：(4) ②〕

1. 地域社会における保健、医療、福祉の現状と問題点を調査し、地域による違いについて討議する。
2. 諸外国における薬剤師の活動分野について、日本と比較しながら説明できる。

C 薬学基礎

C1 物質の物理的性質

【①エネルギー、自発的な変化】 〔関連コアカリ：(2) ②、③〕

1. 代表的な物理変化、化学変化に伴う熱力学量（エンタルピー変化、エントロピー変化、ギブズエネルギー変化など）を説明し、求めることができる。（技能）
2. 各種熱力学量の値から、物理変化、化学変化の過程を推測することができる。

【②物理平衡】 〔関連コアカリ：(2)〕

1. 物質の溶解平衡について説明できる。
2. 界面における平衡について説明できる。
3. 吸着平衡について説明できる。
4. 代表的な物理平衡の観測結果から平衡定数を求めることができる。（技能）

【③溶液の化学】 〔関連コアカリ：(2)〕

1. イオンの輸率と移動度について説明できる。
2. 電解質の活量係数の濃度依存性（Debye-Hückel の式）について説明できる。

【④電気化学】 〔関連コアカリ：(2) ⑦〕

1. Nernst の式が誘導できる。
2. 膜電位と能動輸送について説明できる。

【⑤相互作用の解析法】 〔関連コアカリ：(2)〕

1. 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。

【⑥立体構造】 〔関連コアカリ：(2)〕

1. タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。
2. タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。

【⑦相互作用】 〔関連コアカリ：(2)〕

1. 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。
2. 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。

C2 化学物質の分析

【①酸・塩基平衡】 〔関連コアカリ：(2) ①〕

1. 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。

【②定性分析】 〔関連コアカリ：(3) ①〕

1. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を実施できる。(技能)

【③定量分析 (容量分析・重量分析)】 〔関連コアカリ：(3) ②〕

1. 日本薬局方収載の重量分析法を実施できる。(技能)

【④分光分析法】 〔関連コアカリ：(4) ①〕

1. ラマンスペクトル法の原理および応用例を説明できる。
2. 化学発光・生物発光の原理およびそれを利用する測定法を説明できる。
3. 円偏光二色性測定法の原理および応用例を説明できる。
4. 電子スピン共鳴スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。
5. 代表的な分光分析法を用いて、代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の分析を実施できる。(技能)

【⑤核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】 〔関連コアカリ：(4) ②〕

1. 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の生体分子解析への応用例について説明できる。

【⑥質量分析法】 〔関連コアカリ：(4) ③〕

1. 質量分析法の生体分子解析への応用例について説明できる。
2. LC-MS や LC-MS/MS を用いて、医薬品や生体分子の分析を実施できる。(技能)

【⑦X線結晶解析】 〔関連コアカリ：(4) ④〕

1. X線結晶解析を用いた生体分子の構造決定法について説明できる。

【⑧クロマトグラフィー】 〔関連コアカリ：(5) ①〕

1. 超臨界流体クロマトグラフィーの特徴を説明できる。

【⑨電気泳動法】 〔関連コアカリ：(5) ②〕

1. 電気泳動法を用いて試料を分離分析できる。(技能)

【⑩分析の準備】 〔関連コアカリ：(6) ①〕

1. 分析目的に即した試料の前処理法を実践できる。(技能)

【⑪分析技術】 〔関連コアカリ：(6) ②〕

1. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を実践できる。(技能)

2. 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。
3. 薬学領域で繁用されるその他の分析技術（バイオイメーjing、マイクロチップなど）について概説できる。
4. 同位体を利用した分析法の原理を説明できる。

C3 化学物質の性質と反応

【①基本事項】 【関連コアカリ：(1) ①】

1. 反応中間体（カルベン）の構造と性質を説明できる。
2. 転位反応の特徴を述べることができる。
3. ハードソフト理論について説明できる。

【②有機化合物の立体構造】 【関連コアカリ：(1) ②】

1. 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。（知識・技能）

【③アルケン・アルキン】 【関連コアカリ：(2) ②】

1. 共役化合物の物性と反応性を説明できる。

【④芳香族化合物】 【関連コアカリ：(2) ③】

1. 芳香族化合物の求核置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。
2. 代表的芳香族複素環の求核置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。

【⑤概説】 【関連コアカリ：(3) ①】

1. 代表的な官能基の定性試験を実施できる（技能）

【⑥アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】 【関連コアカリ：(3) ④】

1. ニトリル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。

【⑦核磁気共鳴（NMR）】 【関連コアカリ：(4) ①】

1. 重水添加による重水素置換の意味を説明できる。
2. 有機化合物中の代表的カーボンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。
3. 代表的な化合物の部分構造を ^1H NMR と併せて ^{13}C NMR から決定できる。（技能）

【⑧質量分析】 【関連コアカリ：(4) ③】

1. 代表的なフラグメンテーションを説明できる。
2. 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。

【⑨旋光度】 【関連コアカリ：(4)】

1. 比旋光度測定による光学純度決定法を説明できる。
2. 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。

【⑩無機化合物・錯体】 [関連コアカリ：(5) ①]

1. 錯体の安定度定数について説明できる。
2. 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素（キレート効果）について説明できる。

[有機化合物の合成]

【⑪官能基の導入・変換】

1. アルケンの代表的な合成法について説明できる。
2. アルキンの代表的な合成法について説明できる。
3. 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。
4. アルコールの代表的な合成法について説明できる。
5. フェノールの代表的な合成法について説明できる。
6. エーテルの代表的な合成法について説明できる。
7. アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。
8. カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。
9. カルボン酸誘導体（エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物）の代表的な合成法について説明できる。
10. アミンの代表的な合成法について説明できる。
11. 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。
12. 化学反応によって官能基変換を実施できる。（技能）

【⑫炭素骨格構築反応】

1. Diels-Alder 反応について説明できる。
2. 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙し、説明できる。
3. 代表的な炭素-炭素結合生成反応（アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael 付加、Mannich 反応、Grignard 反応、Wittig 反応など）について説明できる。

【⑬精密有機合成】

1. 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。
2. 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。
3. 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。
4. 光学活性化化合物を得るための代表的な手法（光学分割、不斉合成など）を説明できる。
5. 固相合成法の特徴を説明できる。
6. グリーンケミストリーについて説明できる。

【⑭総合演習】

1. 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。（知識・技能）
2. 基本的な医薬品を合成できる。（技能）

3. 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)

【⑮プロセスケミストリー】

1. 医薬品製造に用いられる試薬、溶媒、反応装置が持つべき条件を列挙できる。
2. 工業的生産における精製法を列挙し、その特徴を説明できる。
3. 医薬品製造における原子経済（原子効率）について説明できる。
4. 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。

C4 生体分子・医薬品の化学による理解

【①生体内で機能する小分子】 〔関連コアカリ：(1) ②〕

1. 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。
2. 代表的な生体内アミンを列挙し、化学的性質を説明できる。

【②生体内で起こる有機反応】 〔関連コアカリ：(2) ④〕

1. 薬物代謝酵素の反応機構を説明できる。
2. 化学構造から代謝物を予測できる。

【創薬探索研究—医薬品リード化合物の探索と最適化—】

【③概説】

1. 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。

【④リード化合物の探索】

1. スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。
2. 代表的スクリーニング法を列挙し、説明できる。
3. コンビナトリアルケミストリーについて説明できる。

【⑤リード化合物の最適化】

1. 定量的構造活性相関のパラメータを列挙し、その薬理活性等に及ぼす効果について説明できる。
2. 体内動態・薬物代謝を考慮したドラッグデザインについて説明できる。
3. 副作用、毒性の軽減を目的としたドラッグデザインについて説明できる。
4. ドラッグデザインにおけるコンピューターの利用法を説明できる。

C5 自然が生み出す薬物

【①薬用植物】 〔関連コアカリ：(1) ①〕

1. 薬用植物の歴史について概説できる。
2. 代表的な有毒植物について説明できる。

【②生薬とは】 〔関連コアカリ：(1)〕

1. 生薬の歴史について説明できる。
2. 生薬の生産と流通について説明できる。

【③生薬の同定と品質評価】 〔関連コアカリ：(1) ④〕

1. 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)

【④生薬由来の生物活性物質の構造と作用】 〔関連コアカリ：(2) ①〕

1. 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質の構造を生合成経路に基づいて説明できる。
2. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質の構造を生合成経路に基づいて説明できる。
3. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質の構造を生合成経路に基づいて説明できる。
4. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質の構造を生合成経路に基づいて説明できる。

【⑤天然生物活性物質の利用】 〔関連コアカリ：(2) ④〕

1. 天然資源から医薬品の種（シーズ）の探索法について、具体的に説明できる。
2. シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して説明できる。
3. 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を挙げる。
4. サプリメントや健康食品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を挙げる。

【⑥海洋生物由来の生物活性物質の構造と作用】 〔関連コアカリ：(2)〕

1. 海洋生物由来の代表的な生理活性物質を挙げる。

C6 生命現象の基礎

【①細胞小器官】 〔関連コアカリ：(1) ②〕

1. オートファジーについて分子レベルで説明できる。
2. 細胞核を構成する核膜、核小体の構造と機能を分子レベルで説明できる。

【②ヌクレオチドと核酸】 〔関連コアカリ：(2) ⑤〕

1. DNA を抽出できる。(技能)

【③生体分子の定性、定量】 〔関連コアカリ：(2) ⑧〕

1. 脂質の定性および定量試験を実施できる。(技能)

2. 糖質の定性および定量試験を実施できる。(技能)
3. アミノ酸の定性および定量試験を実施できる。(技能)
4. タンパク質の定性および定量試験を実施できる。(技能)
5. 核酸の定性および定量試験を実施できる。(技能)

【④タンパク質の構造と機能】 〔関連コアカリ：(3) ①〕

1. タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)
2. タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。
3. タンパク質の代表的な二次構造（モチーフ）や機能領域（ドメイン）を説明できる。
4. タンパク質発現プロファイルを解析するための技術（2次元電気泳動法、ペプチド質量分析に基づくタンパク質の同定方法など）を説明できる。
5. タンパク質間相互作用の解析に用いられる主な方法（免疫沈降、two-hybrid 法など）について説明できる。
6. プロテオーム、メタボロームについて説明できる。

【⑤遺伝情報を担う分子】 〔関連コアカリ：(4) ②〕

1. 3種類のDNAにみられるB型以外の二重らせんの構造（A型、Z型）について説明できる。
2. バイオインフォマティクスについて説明できる。
3. トランスクリプトームについて説明できる。

【⑥転写・翻訳の過程と調節】 〔関連コアカリ：(4) ④〕

1. 低分子RNA(siRNA、miRNA)による遺伝子発現の調節機構について分子レベルで説明できる。

【⑦遺伝子の変異・修復】 〔関連コアカリ：(4) ⑤〕

1. 一塩基変異（SNPs）が機能におよぼす影響について説明できる。
2. 遺伝子多型（SNPs）の解析に用いられる方法（RFLP、SSCP法など）について説明できる。
3. 遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサザンブロット法など）について説明できる。

【⑧組換えDNA】 〔関連コアカリ：(4) ⑥〕

1. 遺伝子ライブラリーについて説明できる。
2. PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)
3. PCRを実施できる。(技能)
4. RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。
5. DNA塩基配列の決定法を説明できる。
6. コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)
7. 細胞（組織）における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。
8. 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。
9. 遺伝子発現を細胞中で人工的に抑制する方法を概説できる。
10. 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）の作製法について概説

できる。

11. 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）の利用法について概説できる。
12. ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。
13. ゲノムの生物種間多様性とその創薬での重要性を説明できる。

【⑨ATPの産生と糖質代謝】 〔関連コアカリ：(5) ②〕

1. ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。
2. アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。
3. ATP以外の高エネルギー化合物について、化学構造をもとに高エネルギーを説明できる。

【⑩脂質代謝】 〔関連コアカリ：(5) ③〕

1. リン脂質の生合成を説明できる。

【⑪飢餓状態と飽食状態】 〔関連コアカリ：(5) ④〕

1. ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸の種類やエネルギー変換経路について説明できる。

【⑫細胞間コミュニケーション】 〔関連コアカリ：(6) ③〕

1. 主な細胞外マトリックス分子の構造と機能を分子レベルで説明できる。

【⑬がん細胞】 〔関連コアカリ：(7) ③〕

1. がん幹細胞について分子レベルで説明できる。
2. がん細胞の浸潤、転移について分子レベルで概説できる。

C7 人体の成り立ちと生体機能の調節

【①ホルモン・内分泌系による調節機構】 〔関連コアカリ：(2) ②〕

1. 代表的なホルモンを挙げ、その生合成経路、および分泌調節機構を分子レベルで説明できる。

【②オータコイドによる調節機構】 〔関連コアカリ：(2) ③〕

1. 代表的なオータコイドの生合成経路、および分泌調節機構を分子レベルで説明できる。

【③神経伝達物質】 〔関連コアカリ：(2) 〕

1. 代表的な神経伝達物質の生合成経路、分泌調節機構、および分解経路を分子レベルで説明できる。

C8 生体防御と微生物

【①免疫応答の制御と破綻】〔関連コアカリ：(2) ①〕

1. 代表的な免疫賦活療法について分子レベルで説明できる。

【②免疫反応の利用】〔関連コアカリ：(2) ②〕

1. モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作成方法を説明できる。

【③ウイルス】〔関連コアカリ：(3) ③〕

1. 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。

【④消毒と滅菌】〔関連コアカリ：(3) ⑤〕

1. 主な滅菌法を実施できる。(技能)

【⑤検出方法】〔関連コアカリ：(3) ⑥〕

1. 細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。
2. 代表的な細菌を同定できる。(技能)

【⑥代表的な病原体】〔関連コアカリ：(4) ②〕

1. プリオンの構造と感染機構について分子レベルで説明できる。

D 衛生薬学

D1 健康

【①食品機能と食品衛生】〔関連コアカリ：(3) ②〕

1. 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。
2. 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)
3. 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)

D2 環境

【①化学物質の毒性】〔関連コアカリ：(1) ①〕

1. 環境ホルモン（内分泌攪乱化学物質）が人の健康に及ぼす影響を説明し、健康影響に対する予防策を提案する。(態度)

【②化学物質の安全性評価と適正使用】 〔関連コアカリ：(1) ②〕

1. 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)
2. 薬物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。
3. 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)

E 医療薬学

E2 薬理・病態・薬物治療

【①漢方薬の基礎】 〔関連コアカリ：(10) ①〕

1. 漢方の歴史について概説できる。
2. 漢方と中医学の特徴について説明できる。

【②漢方薬の応用】 〔関連コアカリ：(10) ②〕

1. 漢方薬の薬効を構成生薬の薬能（古典的薬効）で説明できる。
2. 日本薬局方に収載されていない頻用漢方処方（麻黄湯や五苓散など）の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。
3. 漢方薬の剤形と特徴について説明できる。

E3 薬物治療に役立つ情報

【①情報源】 〔関連コアカリ：(1) ②〕

1. 収集・評価した臨床研究論文を用いて、メタアナリシスを実施できる。(技能)

【②収集・評価・加工・提供・管理】 〔関連コアカリ：(1) ③〕

1. 臨床上的問題を定式化し、その解決のための情報を収集・評価し、それに基づいて解決法を提案できる。(技能)

【③生物統計、臨床研究デザインと解析】 〔関連コアカリ：(1) ⑤、⑥〕

1. 多群間の差の検定（分散分析、多重比較）を実施できる。(技能)
2. 主な多変量解析（ロジスティック回帰分析、重回帰分析など）の概要を説明し、実施できる。(知識・技能)
3. 点推定と区間推定を実施できる。(技能)
4. 研究計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）に配慮して、有効性や安全性を評価するための臨床研究を立案できる。(技能)
5. 観察研究における交絡を制御するための計画上の技法（マッチングなど）、統計解析上の技法（層化など）について説明できる。

【④特殊な患者】 〔関連コアカリ：(3)〕

1. 胃ろう造設者、人工肛門造設者、気管切開患者における薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。

E4 薬の生体内運命

【①TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】 〔関連コアカリ：(2) ②〕

1. 薬物のタンパク結合、代謝および生体膜輸送の測定・解析結果に基づいて、薬物動態学的特徴を説明できる。(知識・技能)
2. 2-コンパートメントモデルに基づいた薬物速度論解析ができる。(知識・技能)
3. 非線形最小二乗法を用いた速度論パラメータの算出ができる。(知識・技能)
4. ベイジアン法やポピュレーションファーマコキネティクスの理論に基づいた投与設計ができる。(知識・技能)
5. 生理学的薬物速度論モデルに基づく薬物濃度推移のシミュレーションができる。(知識・技能)

E5 製剤化のサイエンス

【①製剤化】 〔関連コアカリ：(2) ②〕

1. 代表的な製剤の処方設計できる。(知識・技能)
2. 単位操作を組み合わせる代表的な製剤を調製できる。(技能)
3. 製剤に関連する代表的な試験法を実施し、製剤の物性を測定できる。(技能)
4. 製剤の物性値から、製剤の品質を判定できる。(知識・技能)
5. 製剤の物性測定に使用される装置の原理について説明できる。

【②生物学的同等性】 〔関連コアカリ：(2) ③〕

1. 生物学的同等性のレギュレーションについて説明できる。
2. 異なる製剤処方間（先発品と後発品、開発途中の製剤処方変更など）の生物学的同等性を評価できる。(知識・技能)

F 薬学臨床

【①臨床実習の基礎】 〔関連コアカリ：(1) ③〕

1. 治験実施計画書の事前審査を体験する。(知識・技能・態度)
2. 治験薬の処方監査、調剤、服薬指導を体験する。(知識・態度)
3. 適正な治験の実施・管理を体験する。(知識・態度)

【②医薬品の供給と管理】 〔関連コアカリ：(2) ⑤〕

1. 院内製剤の調製を体験する。(技能・態度)
2. 薬局製剤、漢方製剤の製造・調製を体験する。(技能・態度)
3. 調製した製剤の品質試験を体験する。(技能、態度)

【③患者情報の把握】 〔関連コアカリ：(3) ①〕

1. フィジカルアセスメントを実施し、薬学的判断に活かすことができる。(技能・態度)

【④処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】 〔関連コアカリ：(3) ③〕

1. 患者の栄養状態や体液量、電解質などの評価を基に適切な栄養療法や輸液療法を提案できる。(知識・態度)

【⑤処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】〔関連コアカリ：(3) ④〕

1. 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を体験する。(技能)

【⑥移植医療における薬物療法】 〔関連コアカリ：(3)〕

1. 移植（心・肝・腎・肺・骨髄・皮膚など）患者への薬物療法の設計を体験する。(技能・態度)

【⑦専門領域で活動する薬剤師】 〔関連コアカリ：(3)〕

1. がん化学療法において専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。(技能・態度)
2. 精神科領域において専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。(技能・態度)
3. 感染制御領域（H I Vを含む）において専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。(技能・態度)
4. 妊婦・授乳婦に専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。(技能・態度)
5. 緩和ケア、終末期医療において専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。(技能・態度)
6. 施設において専門領域（救急医療、腎臓病薬物療法、褥瘡治療、医薬品情報等）で活動する薬剤師業務を体験する。(技能・態度)

【⑧在宅（訪問）医療・介護への参画】 〔関連コアカリ：(5) ①〕

1. 在宅患者の病態や生理的特性、療養環境等を考慮し、より適切な薬物療法を提案できる。(知識・態度)

【⑨地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】 〔関連コアカリ：(5) ②〕

1. 地域保健において専門的な領域で対応する薬剤師の活動（プライマリケア、サプリメントのアドバイス、糖尿病療養指導、漢方医療、アンチドーピング活動等）を体験する。(技能・態度)

【⑩プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 〔関連コアカリ：(5) ③〕

1. 対応した来局者の病状や健康状態に関して、継続的な観察や指導を体験する。(技能・態度)

薬学系人材養成の在り方に関する検討会 委員名簿

(◎座長、○副座長)

- | | | |
|---|--------|---------------------|
| ○ | 市川 厚 | 武庫川女子大学薬学部長 |
| | 稲垣 美智子 | 金沢大学大学院医療保健学総合研究科教授 |
| | 乾 賢一 | 京都薬科大学長 |
| ○ | 井上 圭三 | 帝京大学副学長 |
| | 生出 泉太郎 | 公益社団法人日本薬剤師会副会長 |
| | 太田 茂 | 広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授 |
| | 勝野 眞吾 | 岐阜薬科大学長 |
| | 北澤 京子 | 日経BP社 日経メディカル副編集長 |
| | 倉田 雅子 | 納得して医療を選ぶ会事務局長 |
| ◎ | 永井 良三 | 自治医科大学長 |
| | 野木森 雅郁 | アステラス製薬株式会社代表取締役会長 |
| | 橋田 充 | 京都大学大学院薬学研究科教授 |
| | 平井 みどり | 神戸大学医学部附属病院薬剤部長・教授 |
| | 松原 和夫 | 一般社団法人日本病院薬剤師会副会長 |
| | 村上 雅義 | 公益財団法人先端医療振興財団専務理事 |
| | 望月 正隆 | 東京理科大学薬学部教授 |
| | 望月 眞弓 | 慶応義塾大学薬学部長 |
| | 森山 芳則 | 岡山大学薬学部長 |

計 18名

※50音順・敬称略

平成25年12月25日現在

薬学教育モデル・コアカリキュラムに関する恒常的な組織の設置について

平成23年7月26日設置
高等教育局長

1. 目的

薬学系人材養成の在り方に関する検討会の審議を踏まえ、薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に関する恒常的な組織を設置する。

2. 役割

- (1) 薬剤師国家試験出題基準の改正や法制度・名称等の変更に対応した、モデル・コアカリキュラムの改訂
- (2) 学生への教育効果の検証等、モデル・コアカリキュラムの検証・評価
- (3) モデル・コアカリキュラムの改訂に必要な調査研究
- (4) モデル・コアカリキュラムの関係機関への周知徹底、各大学の取組状況の検証等、モデル・コアカリキュラムの活用に必要な事項
- (5) その他モデル・コアカリキュラムの改訂に必要な事項

3. 設置組織の構成等

- (1) 専門的な調査研究等を行い、モデル・コアカリキュラムの改訂の原案の作成等を行う組織（薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会）を設置し、文部科学省が主催する。
- (2) (1) の委員会の構成は別紙の通りとする。
- (3) 必要に応じ、調査研究等を分担させるため必要な組織を置くことができるものとする。
- (4) 必要に応じ、関係者からの意見等を聴くことができるものとする。

4. 委員

- (1) 委員については、薬学教育、薬剤師国家試験等について優れた識見を有する者、その他関係者のうちから委嘱する。
- (2) 委員の任期は、委嘱した日の属する会計年度の翌会計年度末までとする。
- (3) 必要に応じ委員を追加することができる。
- (4) 委員は再任されることができる。

5. その他

3の組織に関する庶務は、高等教育局医学教育課が処理する。

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会
メンバー

(◎座長、○副座長)

赤池	昭紀	名古屋大学大学院創薬科学研究科教授
井関	健	北海道大学病院薬剤部長・教授
◎市川	厚	武庫川女子大学薬学部長
伊藤	喬	昭和大学薬学部教授
井上	圭三	帝京大学副学長
入江	徹美	熊本大学薬学部教授
○太田	茂	広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授
奥	直人	静岡県立大学副学長
永田	泰造	公益社団法人日本薬剤師会常務理事
長野	哲雄	東京大学創薬オープンイノベーションセンター特任教授
中山	洋子	高知県立大学大学院看護学研究科教授
奈良	信雄	東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長
平井	みどり	神戸大学医学部附属病院薬剤部長・教授
○吉富	博則	福山大学薬学部長・教授
松原	和夫	一般社団法人日本病院薬剤師会副会長

計 15名

オブザーバー

花井	十伍	全国薬害被害者団体連絡協議会代表世話人
松木	則夫	公益社団法人日本薬学会薬学教育委員会委員長
望月	正隆	一般社団法人薬学教育協議会代表理事

計 3名

※50音順（敬称略）

平成25年12月25日現在

平成 25 年度
公益社団法人日本薬学会
薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび
実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会

委員長	松木 則夫	東京大学大学院薬学系研究科教授
委員	赤池 昭紀	名古屋大学大学院創薬科学研究科教授
	有賀 寛芳	北海道大学大学院薬学研究院教授
	入江 徹美	熊本大学薬学部教授
	太田 茂	広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授
	奥 直人	静岡県立大学副学長
	亀井 美和子	日本大学薬学部教授
	河野 武幸	摂南大学薬学部教授
	白幡 晶	城西大学薬学部教授
	鈴木 匡	名古屋市立大学薬学部教授
	須田 晃治	一般社団法人薬学教育協議会業務執行理事・事務局長
	高橋 寛	公益社団法人日本薬剤師会医療保険委員会委員、薬局薬剤師部会幹事
	永田 泰造	公益社団法人日本薬剤師会常務理事
	中村 明弘	昭和大学薬学部教授
	新田 淳美	富山大学薬学部教授
	平田 收正	大阪大学大学院薬学研究科教授
	本間 浩	北里大学薬学部教授
	政田 幹夫	一般社団法人日本病院薬剤師会常務理事
	増野 匡彦	慶應義塾大学常任理事
	松原 和夫	一般社団法人日本病院薬剤師会副会長
	望月 眞弓	慶應義塾大学薬学部長
	吉田 博明	日本製薬工業協会研究振興部長

計 22名

※50音順・敬称略

平成25年12月25日現在

日本薬学会
薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員

1 G (A基本事項、B薬学と社会、G薬学研究)			
	赤池 昭紀	名古屋大学	6 G 兼任
	石川 さと子	慶應義塾大学	
	大原 整	日本薬剤師会	
	小澤 孝一郎	広島大学	
	桂 正俊	日本薬剤師会	
	亀井 美和子	日本大学	5 G 兼任
	黒田 照夫	岡山大学	
	立石 正登	長崎国際大学	
	中川 左理	神戸学院大学	
	中嶋 弥穂子	崇城大学	
責任者	中村 明弘	昭和大学	
	中村 敏明	日本病院薬剤師会	
	野呂瀬 崇彦	北海道薬科大学	
	長谷川 洋一	名城大学	
	平井 みどり	日本病院薬剤師会	
	古澤 康秀	明治薬科大学	
	増田 和文	就実大学	
	松永 民秀	名古屋市立大学	
	吉田 博明	日本製薬工業協会	

2 G (C薬学基礎：化学)			
	石崎 幸	城西国際大学	
	内呂 拓実	東京理科大学	
	大坪 忠宗	広島国際大学	
	奥 直人	静岡県立大学	4 G 兼任
	金田一 成子	日本薬剤師会	
	周東 智	北海道大学	
	高須 清誠	京都大学	
	谷口 雅彦	大阪薬科大学	
	寺田 智祐	日本病院薬剤師会	
	西村 基弘	安田女子大学	
	本間 浩	北里大学	
責任者	増野 匡彦	慶應義塾大学	
	眞鍋 敬	静岡県立大学	
	松本 司	いわき明星大学	
	三浦 剛	東京薬科大学	
	山岸 丈洋	奥羽大学	

3 G (C薬学基礎：物理)		
----------------	--	--

責任者	荒井 健介	日本薬科大学
	入江 徹美	熊本大学
	上原 知也	千葉大学
	四宮 一総	日本大学
	白幡 晶	城西大学
	鈴木 巖	高崎健康福祉大学
	須田 晃治	薬学教育協議会
	高波 利克	明治薬科大学
	中山 尋量	神戸薬科大学
	古野 忠秀	愛知学院大学
	松野 純男	近畿大学
	眞野 成康	日本病院薬剤師会
	宮本 和英	姫路独協大学
	山田 純一	日本薬剤師会
	吉田 秀幸	福岡大学

4 G (C薬学基礎：生物)		
----------------	--	--

責任者	有賀 寛芳	北海道大学	
	伊藤 潔	九州保健福祉大学	
	大熊 芳明	富山大学	
	大橋 綾子	岩手医科大学	
	奥 直人	静岡県立大学	2 G 兼任
	川崎 清史	同志社女子大学	
	木立 由美	青森大学	
	高橋 悟	武庫川女子大学	
	築地 信	星薬科大学	
	富田 泰輔	東京大学	
	中森 慶滋	日本薬剤師会	
	橋本 均	大阪大学	
	平田 收正	大阪大学	5 G 兼任
	福原 正博	新潟薬科大学	
	前田 拓也	兵庫医療大学	
	山田 武宏	日本病院薬剤師会	

5 G (D 衛生薬学)		
--------------	--	--

責任者	足立 達美	千葉科学大学	
	小椋 康光	昭和薬科大学	
	太田 茂	広島大学	
	大谷 壽一	日本病院薬剤師会	
	上村 直樹	東京理科大学 / 日本薬剤師会	
	亀井 美和子	日本大学	1 G 兼任
	工藤 なをみ	城西大学	
	見坂 武彦	大阪大谷大学	
	榊原 明美	日本薬剤師会	
	角 大悟	徳島文理大学薬学部	
	戸田 晶久	第一薬科大学	
	野地 裕美	徳島文理大学香川薬学部	
	原田 均	鈴鹿医療大学	
	平田 收正	大阪大学	4 G 兼任
	平野 和也	東京薬科大学	
	矢ノ下 良平	帝京平成大学	

6 G (E 医療薬学)		
--------------	--	--

責任者	赤池 昭紀	名古屋大学	1 G 兼任
	家入 一郎	九州大学	
	出雲 信夫	横浜薬科大学	
	伊藤 清美	武蔵野大学	
	伊藤 智夫	北里大学	
	河野 武幸	摂南大学	
	小暮 健太郎	京都薬科大学	
	小林 道也	北海道医療大学	
	酒井 郁也	松山大学	
	佐久間 信至	摂南大学	
	高野 克彦	北陸大学	
	高山 朋子	日本薬剤師会	
	田中 芳夫	東邦大学	
	辻 稔	国際医療福祉大学	
	服部 尚樹	立命館大学	
	政田 幹夫	日本病院薬剤師会	7 G 兼任
	望月 眞弓	慶應義塾大学	

7 G (F 薬学臨床)		
--------------	--	--

責任者	尾鳥 勝也	北里大学	
	木内 祐二	昭和大学	
	幸田 幸直	筑波大学	
	佐藤 英治	福山大学	
	鈴木 匡	名古屋市立大学	
	高橋 寛	日本薬剤師会	
	滝口 祥令	徳島大学	
	中嶋 幹郎	長崎大学	
	永田 泰造	日本薬剤師会	
	中村 仁	東北薬科大学	
	新田 淳美	富山大学	
	野村 忠之	日本薬剤師会	
	前田 徹	金城学院大学	
	政田 幹夫	日本病院薬剤師会	6 G 兼任
	松下 良	金沢大学	
	松原 和夫	日本病院薬剤師会	
	村井 ユリ子	東北大学	
	矢野 育子	日本病院薬剤師会	
	山下 美妃	北海道薬科大学	
	山本 晃之	日本薬剤師会	
渡邊 博志	熊本大学		
渡邊 真知子	帝京大学		

※グループごと50音順・敬称略

平成25年12月25日現在

藥劑師國家試驗 出題基準

薬剤師国家試験出題基準

薬剤師国家試験出題基準（以下、「出題基準」という。）は、薬剤師国家試験委員が試験問題を作成するうえで「妥当な出題範囲」と「ほぼ一定の問題水準」を保つために策定される基準であり、その内容については、学術の進歩及び薬剤師業務の変化に伴い、おおむね4年を目途に見直しを行い、薬剤師国家試験の改善を図っていくこととされている。

平成16年3月に策定された出題基準は、4年制の薬学教育課程を前提としたものである。平成18年に薬学教育の修業年限が6年間となり、平成24年3月には、6年制課程を修了した薬学生が国家試験を受験することから、新たな出題基準を策定すべく、医道審議会薬剤師分科会（以下、「分科会」という。）の下に設置された薬剤師国家試験出題基準改定部会において検討を行った。

本出題基準は、分科会及び分科会の下に設置された薬剤師国家試験制度改善検討部会の議論を経て、平成21年12月にまとめられた「新薬剤師国家試験について」に基づき、6年制教育の基礎となった「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」（以下、「薬学教育モデル・コアカリキュラム等」という。）の内容を基本とし、医学・薬学の進歩と現状を踏まえて策定したものである。

（1）出題領域

出題領域については、薬剤師法施行規則（平成22年1月一部改正）の規定により、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」及び「実務」の7領域とした。

（2）出題項目

今回の出題基準見直しの基本的考え方は、薬学教育モデル・コアカリキュラム等を基本とし、医療や制度の現状を考慮し策定したものである。なお、各領域の出題項目は、現行の出題基準の体系を参考に、必要に応じて項目間の入れ替え等を適切に行った上で、「大項目」、「中項目」、「小項目」及び「小項目の例示」として整理したものであり、必ずしも薬学教育モデル・コアカリキュラム等の記載順等に対応するものではない。また、出題項目は、あくまでも出題に際し、準拠すべき基準であって、出題がすべてこの範囲に拘束されるものではない。

各領域の出題項目は、別表Ⅰ～Ⅶに示すとおりである。

(3) 留意事項

① 全般的な留意事項

- ・ 薬剤師として具備しなければならない基本的な知識、技能及び態度を評価する問題とする。
- ・ 高い倫理観、医療人としての教養及び医療現場で通用する実践力を確認することに配慮する。
- ・ 7領域の内容については、相互に関連していることから、具体的な問題の作成に当たっては、重複の無いよう領域間の調整には十分な配慮が必要である。
- ・ 資格試験として過度に難解な問題は避ける。
- ・ 問題の文章構成や条件設定に留意し、解答すべき選択肢の数が1つでない場合には、正解数を明記することを基本とする。
- ・ 分野ごとに問題の難易度が偏らないことを基本とする。
- ・ 可能な限り、正しいもの（又は正しいものの組合せ）を問う問題とする。
- ・ 画像や写真等を利用した問題の出題も検討する。
- ・ 各種基準などの数値は、記憶することが必須又は極めて有用な数値である場合を除いて、数値そのものを問う出題はしないこととする。
- ・ 各試験法を問う出題については、保健衛生上の意義が大きく、かつ、当該領域において汎用されているもの、又は原理的に重要なもののみを出題し、その意義、測定原理など、試験又は測定実施のために必要とされる基礎的事項を問うこととする。また、専門業務において習得すべき操作などの詳細は出題しないこととする。
- ・ 末梢的事項や、一部の例外的事項を取り上げるような問題の出題はできるだけ避ける。

② 必須問題及び一般問題における留意事項

【必須問題】

- ・ 必須問題は、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認するものであることにかんがみ、各領域における基礎的な内容を問うものとする。
- ・ 五肢択一形式で問うことを基本とする。なお、正しい設問肢の組合せを問う形式や、設問肢の正誤の組合せを問う形式はとらない。

【一般問題】

- ・ 一般問題は、薬剤師が直面する一般的課題を解釈・解決するための資質を確認するものであることにかんがみ、一般問題（薬学理論問題）は各領域における技能・態度を含む薬学の理論に基づいた問題となるよう

留意する。

- ・ 一般問題（薬学実践問題）は、医療や公衆衛生等の実務において直面する一般的課題を解決するための基礎力、実践力及び総合力を確認するため、症例、事例を挙げる等、実践に則した問題となるよう留意する。

③ 各領域における留意事項

【物理・化学・生物】

- ・ 「物理」は、医薬品・生体分子を理解する上で必要な物理化学的・分析化学的な考え方が身についているかどうかを問うことに重点を置いた問題を中心に出題する。
- ・ 「化学」は、「医薬品の性質を理解すること」を主題とし、有機化合物としての医薬品の物性、反応性及び分子レベルでの医薬品の作用機序等に関する基礎的理解と、基本的な知識を複数組み合わせ合わせた応用力を問う問題を中心に出題する。
- ・ 「生物」は、生体の構造、機能及び生体成分の代謝などに関する基礎的知識を問う問題を中心に出題する。また感染症の病原体、免疫のしくみなどに関する基礎的知識を問う問題を出題する。
- ・ また、物理、化学及び生物それぞれの問題数が偏らないように留意して出題する。

【衛生】

- ・ 「衛生」は、衛生化学・公衆衛生学を中心とし、栄養化学、環境科学、毒性学、環境微生物学、疫学及び生態学などの基礎的知識について出題する。
- ・ 衛生関係法規として、食品衛生法、感染症の予防及び感染症の患者に関する医療に関する法律、予防接種法、健康増進法、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律、有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律、環境基本法その他環境保全に係る法規、及び学校保健安全法については、「衛生」において出題する。
- ・ 医薬品の体内動態は原則として「薬剤」で出題されるが、薬毒物を含む代表的な有害化学物質の体内動態は「衛生」において出題する。また、栄養化学については、構造等の基本的知識は原則として「物理・化学・生物」において、その栄養学的内容は「衛生」において出題する。

【薬理】

- ・ 「薬理」は、薬理作用や作用機序に関する出題を中心として出題する。
- ・ 臨床適用時の副作用・相互作用や剤形が問題となる場合を除いて、薬物名は塩等を付さない薬物本体のみを表記することを基本とする。

【薬剤】

- ・ 「薬剤」は、薬物の体内動態及び製剤に関する基礎的知識を問う問題とする。また、これらの問題数が偏らないように留意して出題する。

【病態・薬物治療】

- ・ 「病態・薬物治療」は、患者の病態生理を理解し、適正かつ安全な薬物治療法の遂行等のために必要な知識を問うこととし、代表的な疾患の病態生理、適切な治療薬の選択、使用上の注意等について出題する。
- ・ また、臨床検査の基礎知識等を含めた問題も出題する。
- ・ 治療薬の薬理作用や作用機序に関しては「薬理」において出題することを基本とする。

【法規・制度・倫理】

- ・ 「法規・制度・倫理」は、薬剤師としての業務を遂行するに際して必要な法的知識及びこれらの関連する各種の制度並びに医療の担い手としての任務を遂行するために保持すべき倫理規範的知識や態度について問う問題を出題する。
- ・ 法律などに照らして薬剤師の行動等の適正性を問うような問題も出題する。
- ・ 法規制の原則又は例外に焦点を当てた問題を出題する場合には、場面設定を行うなど、原則を問う問題か、例外を問う問題かが明確になるよう配慮する。
- ・ 法令、制度の新設や改正内容に関する設問は、当該法令等の改正内容が周知されるまでの間は、原則として出題しないものとする。
- ・ 法律のうち、衛生領域で出題される法規は原則として出題しないものとする。

【実務】

- ・ 「実務」は、医療や公衆衛生等に携わる薬剤師の業務に関する基礎的及び実践的な知識、技能及び態度を問う問題を出題する。
- ・ 「実務」は、薬剤師が、医薬品を一商品としてではなく、生命と関連性が高いものであることを常に意識し、患者を支援し、副作用の早期発見・発生防止に努めることを含め、医薬品の安全性と有効性の確保のために薬の専門家として業務に携わるべきことを理解しているかを問うこととする。
- ・ また、患者の希望に沿った医療に貢献できるよう人間関係の必要性を理解し、薬物の適正使用のための情報提供ができるかなどを問う問題を

出題することとする。

- ・ 実践に即した問題抽出・解決能力を確認する観点から、実践の場で取り得る解答肢の中から最も適切なものを選択する問題も出題する。
- ・ 「実務」は、他領域すべてと関連することから、重複のないよう領域間の調整には十分な配慮が必要となる。

(4) 適用時期と次回改定

新出題基準については、平成24年に施行される薬剤師国家試験（第97回）から適用する。また、出題基準については、おおむね4年を目途に改定されるべきものとされているところであるが、薬学教育モデル・コアカリキュラム等薬学教育の見直しの動向を勘案しながら、改定作業を行う必要がある。

【別表 I 物理・化学・生物】

小項目の例示

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
物質の物理的性質	物質の構造	化学結合	化学結合の成り立ち 軌道の混成 分子軌道の基本概念 共役や共鳴の概念
		分子間相互作用	静電相互作用 ファンデルワールス力 双極子間相互作用 分散力 水素結合 電荷移動 疎水性相互作用
		原子・分子	電磁波の性質、物質との相互作用 分子の振動、回転、電子遷移 スピンとその磁気共鳴 分子の分極と双極子モーメント 偏光、旋光性 散乱、干渉 結晶構造と回折現象
		放射線と放射能	原子の構造と放射線変 電離放射線の種類、それらの物質との相互作用 代表的な放射性核種の物理的性質 核反応、放射平衡 放射線の測定原理
	物質の状態 I	総論	ファンデルワールスの状態方程式 気体の分子運動とエネルギーの関係 エネルギーの量子化とボルツマン分布
		エネルギー	系、外界、境界 状態関数の種類と特徴 仕事・熱の概念 定容熱容量、定圧熱容量 熱力学第一法則(式を用いた説明) 代表的な過程(変化)における熱と仕事

	<p>エンタルピー</p> <p>代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化</p> <p>標準生成エンタルピー</p> <p>エントロピー</p> <p>熱力学第二法則</p> <p>代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化</p> <p>熱力学第三法則</p> <p>自由エネルギー</p> <p>自発的な変化の方向</p> <p>自由エネルギーの圧力と温度による変化(式を用いた説明)</p> <p>自由エネルギーと平衡定数の温度依存性(van'tHoffの式)</p> <p>相変化に伴う熱の移動(Clausius-Clapeyronの式など)</p> <p>相平衡と相律</p> <p>代表的な状態図(一成分系、二成分系、三成分系相図)</p> <p>物質の溶解平衡</p> <p>溶液の束一的性質(浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など)</p> <p>界面における平衡</p> <p>吸着平衡</p> <p>分配平衡</p> <p>化学ポテンシヤル</p> <p>活量と活量係数</p> <p>平衡と化学ポテンシヤルの関係</p> <p>電解質のモル伝導度の濃度変化</p> <p>イオンの輸率と移動度</p> <p>イオン強度</p> <p>電解質の活量係数の濃度依存性(Debye-Huckelの式)</p> <p>代表的な化学電池の種類、その構成</p> <p>標準電極電位</p> <p>起電力と標準自由エネルギー変化の関係</p> <p>Nernstの式の誘導</p> <p>濃淡電池</p> <p>膜電位と能動輸送</p> <p>反応次数と速度定数(微分型速度式と積分型速度式)</p> <p>代表的な反応次数の決定法</p> <p>代表的な(擬)一次反応の速度定数</p> <p>代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴</p>
<p>自発的な変化</p>	
<p>物質の状態 II</p> <p>物理平衡</p>	
<p>溶液の化学</p>	
<p>電気化学</p>	
<p>反応速度</p>	

		<p>反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)</p> <p>衝突理論</p> <p>遷移状態理論</p> <p>代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)</p>
<p>物質の移動</p>		<p>拡散、溶解速度</p> <p>沈降現象</p> <p>流動現象、粘度</p> <p>水溶液中での酸・塩基平衡</p> <p>水素イオンの濃度</p> <p>pHの計算</p> <p>緩衝作用</p> <p>代表的な緩衝液の特徴とその調製法</p> <p>化合物のpHによる化学種とその濃度の変化</p>
<p>化学物質の分析</p>	<p>化学平衡</p>	<p>各種の化学平衡</p> <p>錯体・キレート生成平衡</p> <p>沈殿平衡(溶解度と溶解度積)</p> <p>酸化還元電位</p> <p>酸化還元平衡</p> <p>分配平衡</p> <p>イオン交換</p>
	<p>化学物質の定性と定量</p>	<p>定性試験</p> <p>日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験とその内容</p> <p>日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験とその内容</p>
		<p>実験値の統計処理</p> <p>医薬品分析法のバリデーション</p> <p>日本薬局方収載の重量分析法の原理、操作法</p> <p>日本薬局方収載の容量分析法</p> <p>日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴</p>
	<p>容量分析</p>	<p>中和滴定の原理、操作法、応用</p> <p>非水滴定の原理、操作法、応用</p> <p>キレート滴定の原理、操作法、応用</p> <p>沈殿滴定の原理、操作法、応用</p> <p>酸化還元滴定の原理、操作法、応用</p> <p>電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法、応用</p> <p>代表的な医薬品の容量分析</p>
	<p>金属元素の分析</p>	<p>原子吸光度法の原理、操作法、応用</p> <p>発光分析法</p>

	クロマトグラフィーの種類、それぞれの特徴と分離機構	
	クロマトグラフィーによる分離分析	
	光学異性体の分離分析法	
	薄層クロマトグラフィー	
	液体クロマトグラフィー	
	ガスクロマトグラフィー	
分析技術の臨床応用	生体試料の前処理	
	臨床分析における精度管理、標準物質	
分析技術	臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法	
	免疫応応を用いた分析法の原理、実施法、応用	
	酵素反応を利用した分析	
	電気泳動法	
	代表的なセンサー、原理、応用	
	代表的なドライケミストリー	
	代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)	
	画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)	
薬毒物の分析	薬学領域で繁用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)	
	薬物中毒における生体試料の取扱い	
	代表的な中毒原因物質(乱用薬物を除く)のスクリーニング法	
	中毒原因物質の分析	
生体分子の構造	紫外可視光度測定法の原理、応用	
	蛍光光度法の原理、応用	
生体分子の解析法	赤外・ラマン分光スペクトルの原理、応用	
	電子スピン共鳴(ESR)スペクトル測定法の原理、応用	
	旋光度測定法(旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理、応用	
	核磁気共鳴スペクトル測定法の原理、応用	
	質量分析計の種類、質量分析法	
	質量分析の応用	
	X線結晶解析の原理、応用	
生体分子の立体構造と相互作用	生体分子間相互作用の解析法	
	生体分子(タンパク質、核酸、脂質など)の立体構造	
	タンパク質の立体構造の自由度	
	タンパク質の立体構造を規定する因子(疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など)	
	タンパク質の折りたたみ過程	
	核酸の立体構造を規定する相互作用	
	生体膜の立体構造を規定する相互作用	

		<p>相互作用</p> <p>鍵と鍵穴モデル、誘導適合モデル</p> <p>転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用</p> <p>脂質の水中における分子集合構造(膜、ミセル、膜タンパク質など)</p> <p>生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性</p>
<p>化学物質の性質と反応</p>	<p>化学物質の基本的性質</p>	<p>化学物質の基本事項</p> <p>基本的な化合物の命名、ルイス構造式</p> <p>薬学領域で用いられる代表的化合物の慣用名・IUPAC命名法</p> <p>有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響</p> <p>有機反応における結合の開裂と生成の様式</p> <p>基本的な有機反応(置換、付加、脱離、転位)の特徴</p> <p>ルイス酸・塩基の定義</p> <p>炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン)の構造、性質</p> <p>反応の進行(エネルギー図)</p> <p>反応機構(電子の動き)</p> <p>構造異性体と立体異性体</p> <p>キラリティーと光学活性</p> <p>キラリティーと薬理活性</p> <p>エナンチオマーとジアステレオマー</p> <p>ラセミ体とメソ化合物</p> <p>立体配置の表示法</p> <p>Fischer投影式とNewman投影式を用いた有機化合物の構造</p> <p>エタン、ブタンの立体配座と安定性</p> <p>無機化合物</p> <p>代表的な典型元素、その特徴</p> <p>代表的な遷移元素、その特徴</p> <p>窒素酸化物の名称、構造、性質</p> <p>イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質</p> <p>代表的な無機医薬品</p> <p>錯体</p> <p>代表的な錯体の名称、構造、基本的性質</p> <p>配位結合</p> <p>代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬</p> <p>錯体の安定度定数</p> <p>錯体の安定性に与える配位子の構造的要素(キレート効果)</p> <p>錯体の反応性</p> <p>医薬品として用いられる代表的な錯体</p> <p>基本的な炭化水素・アルキル基のIUPACの規則に従った命名</p> <p>アルカンの基本的な物性</p> <p>アルカンの構造異性体の図示、数</p>
<p>有機化合物の骨格</p>	<p>アルカン</p>	

	シクロアルカンの環の歪みを決定する要因 シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座 シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因 アルケンへの代表的なシン型付加反応、反応機構 アルケンへの臭素の付加反応の機構、反応の立体特異性 アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性(Markovnikov 則) カルボカチオンの級数と安定性 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴 アルケンの酸化的開裂反応、構造解析への応用 アルキンの代表的な反応 代表的な芳香族化合物の物性と反応性 芳香族性(Hückel則) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性・配向性に及ぼす置換基の効果 芳香族化合物の代表的な求核置換反応 代表的な官能基、個々の官能基を有する化合物の命名 複数の官能基を有する化合物の命名 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割 代表的な官能基の定性試験 官能基の性質を利用した分離精製 日常生活で用いられる化学物質 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応 求核置換反応(SN1、SN2反応)の機構、立体化学 ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構、反応の位置選択性(Saytzeff則) アルコール・フェノール・チオール フェノール類の代表的な性質と反応 フェノール類、チオール類の抗酸化作用 エーテル類の代表的な性質と反応 オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性 アルデヒド類およびケトン類の性質と代表的な求核付加反応 カルボン酸の代表的な性質と反応 カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル)の代表的な性質と反応 アミン類の代表的な性質と反応 代表的な生体内アミン、構造式 アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度
官能基	アルケン・アルキンの反応性 芳香族化合物の反応性 官能基の基本事項 有機ハロゲン化合物 アルコール・フェノール・チオール エーテル アルデヒド・ケトン・カルボン酸 アミン 官能基の酸性度・塩基性度

		アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子 含窒素化合物の塩基性度
化学物質の構造決定	各機器分析法の特徴	化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴
	1H NMR	NMRスペクトルの概要と測定法 化学シフトに及ぼす構造的要因 有機化合物中の代表的水素原子の化学シフト値 重水添加による重水素置換 1HNMRの積分値 1HNMRシグナルの分裂様式 1HNMRのスピン結合定数から得られる情報 代表的化合物の部分構造の1HNMRによる決定 13CNMRの測定により得られる情報 代表的な構造中の炭素に関するおおよその化学シフト値 IRスペクトルの概要と測定法 IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収の帰属 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割 マススペクトルの概要と測定法 イオン化の方法 ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトル 代表的なフラグメンテーション 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法 基本的な化合物のマススペクトル解析 比旋光度測定法の概略 実測値を用いる比旋光度の計算 比旋光度と絶対配置の関係 旋光分散と円二色性の概略 代表的な機器分析法による基本的化合物の構造決定
	13C NMR	
	IR スペクトル	
	紫外可視吸収スペクトル マススペクトル	
	比旋光度	
	構造決定	
ターゲット分子の合成	官能基の導入・変換	アルケンの代表的な合成法 アルキンの代表的な合成法 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法 アルコールの代表的な合成法 フェノールの代表的な合成法 エーテルの代表的な合成法 アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法 カルボン酸の代表的な合成法

		<p>生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基</p> <p>物質の立体構造の表示</p> <p>代表的医薬品の構造と作用機序</p> <p>カテコールアミンアナログの医薬品</p> <p>アセチルコリンアナログの医薬品</p> <p>ステロイドアナログの医薬品</p> <p>核酸アナログの医薬品</p> <p>ペプチドアナログの医薬品</p> <p>アルキル化剤とDNA塩基の反応</p> <p>インターカレーター作用機序</p> <p>β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序</p> <p>代表的な生薬、その特徴</p> <p>生薬の歴史</p> <p>生薬の生産と流通</p> <p>代表的な薬用植物の形態</p> <p>代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効など</p> <p>代表的な生薬の産地と基原植物の関係</p> <p>代表的な薬用植物の形態の鑑別</p> <p>代表的な薬用植物に含有される薬効成分</p> <p>動物、鉱物由来の医薬品</p> <p>植物以外の医薬資源</p> <p>生薬成分の構造と生合成</p> <p>代表的なテルペノイドの構造と生合成経路、それらを含む生薬とその基原植物</p> <p>代表的な強心配糖体の構造と生合成経路、それらを含む生薬とその基原植物</p> <p>代表的なアルカロイドの構造と生合成経路、それらを含む生薬とその基原植物</p> <p>代表的なフラボノイドの構造と生合成経路、それらを含む生薬とその基原植物</p> <p>代表的なフェニルプロパノイドの構造と生合成経路、それらを含む生薬とその基原植物</p> <p>代表的なポリケチドの構造と生合成経路、それらを含む生薬とその基原植物</p> <p>天然物質の農薬、化粧品、保健機能食品などの原料としての有用性</p> <p>日本薬局方の生薬総則および生薬試験法</p> <p>代表的な生薬の鑑別</p> <p>代表的な生薬の確認試験</p> <p>代表的な生薬の純度試験</p> <p>生薬の同定と品質評価法</p>
天然物由来薬物	薬となる動植鉱物	<p>生薬とは何か</p> <p>薬用植物</p> <p>植物以外の医薬資源</p> <p>生薬成分の構造と生合成</p> <p>農薬、化粧品、保健機能食品</p> <p>生薬の同定と品質評価</p>
	薬の宝庫としての天然物	<p>医薬品シーズの探索</p> <p>医薬品として使われている天然有機化合物、その誘導体</p> <p>シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族薬物学</p> <p>医薬原料としての天然物質の資源確保に関する問題点</p>

	<p>天然物質の代表的な抽出法、分離精製法</p> <p>代表的な天然有機化合物の構造決定法</p> <p>抗生物質、化学構造に基づく分類</p> <p>微生物による抗生物質（ペニシリン、ストレプトマイシンなど）生産過程</p> <p>微生物の生産する代表的な糖質、酵素、利用法</p> <p>古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史</p> <p>医薬品開発の標的となる代表的な生体分子</p> <p>医薬品と標的生体分子の相互作用</p> <p>立体異性体と生物活性</p> <p>医薬品の構造とアゴニスト・アンタゴニスト活性</p> <p>スクリーニングの対象となる化合物の起源</p> <p>代表的なスクリーニング法</p> <p>定量的構造活性相関のパラメーター、その薬理活性に及ぼす効果</p> <p>生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義</p> <p>薬物動態を考慮したドラッグデザイン</p>	
<p>天然物質の取扱い</p> <p>微生物が生み出す医薬品</p> <p>発酵による医薬品の生産</p> <p>発酵による有用物質の生産</p> <p>医薬品創製の歴史</p> <p>標的生体分子との相互作用</p>	<p>リード化合物の最適化</p>	<p>リード化合物の創製と最適化</p>
<p>生命体の成り立ち</p>	<p>神経系</p> <p>骨格・筋肉系</p> <p>皮膚</p> <p>循環器系</p> <p>呼吸器系</p> <p>消化器系</p> <p>泌尿器系</p> <p>生殖器系</p> <p>内分泌系</p> <p>感覚器系</p> <p>血液・造血器系</p> <p>細胞と組織</p>	<p>器官の構造と機能</p> <p>細胞の構造と機能</p>

	細胞膜	細胞膜の構造と性質 細胞膜を構成する生体分子 膜電位、膜透過 物質・イオンの移動
	細胞小器官	核、ミトコンドリア、粗面小胞体、滑面小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソーム 細胞質、細胞骨格、細胞壁 膜動輸送、エンドサイトーシス、エキソサイトーシス 体細胞分裂の機構
	細胞の分裂と死	細胞周期 アポトーシスとネクローシス 正常細胞とがん細胞
	細胞間コミュニケーション	接着構造 細胞接着分子 細胞外マトリックス
生体の機能調節	神経・筋の調節機構	神経系の興奮と伝導 シナプス伝達 神経系、感覚器を介するホメオスタシス 神経系による筋収縮の調節
	ホルモンによる調節機構	分泌機構、作用機構、ホメオスタシスの調節
	循環・呼吸系の調節機構	血糖の調節機構 血圧の調節機構 肺・組織におけるガス交換 血液凝固・線溶系の機構
	体液の調節機構	体液の調節機構 尿の生成機構、尿量の調節機構
	消化・吸収の調節機構	神経の作用 ホルモンの作用
	体温の調節機構	体温の調節機構
生命体の誕生	個体発生と器官形成 遺伝と疾患	受精、発生過程、器官形成 遺伝の様式 遺伝子変異 染色体異常による疾患
	微生物の役割	生態系の中での微生物の役割 原核生物と真核生物
	細菌	構造と増殖機構 系統的分類

分子レベルの生命理解	細胞を構成する分子	グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌
		マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌
ウイルス	真菌・原虫・寄生虫	腸内細菌
		細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)
真菌・原虫・寄生虫	消毒と滅菌	細菌毒素
		構造と増殖過程
細菌の同定試験法	細菌の種類・構造と特性	ウイルスの種類
		真菌の性状
脂質の種類・構造と特性	脂質の種類・構造と特性	原虫、寄生虫の生活史
		滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念
脂質の生成・代謝経路	糖質の種類・構造と特性	染色、生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験、好気性・病原性の有無、PCRによる同定
		脂質(飽和・不飽和脂肪酸)
糖質の生成・代謝経路	核酸の種類・構造と特性	アシルグリセロール、ステロール類、ワックス
		リン脂質
糖質の種類・構造と特性	遺伝子	糖脂質
		脂肪酸の生成
アミノ酸の種類・構造と特性	遺伝情報を担う分子	コレステロールの生成・代謝
		グルコース
アミノ酸の生成・代謝経路	核酸の種類・構造と特性	グルコース以外の主な単糖
		二糖類
アミノ酸の種類・構造と特性	核酸の種類・構造と特性	多糖類
		複合多糖
アミノ酸の生成・代謝経路	核酸の種類・構造と特性	糖質の定性・定量試験法
		標準アミノ酸、必須アミノ酸
アミノ酸の種類・構造と特性	核酸の種類・構造と特性	アミノ酸代謝
		尿素サイクル
アミノ酸の生成・代謝経路	核酸の種類・構造と特性	ポリフィリン代謝
		アミノ酸の先天的代謝異常
アミノ酸の種類・構造と特性	核酸の種類・構造と特性	アミノ酸の定性・定量試験法
		水溶性ビタミン(ビタミンB1、ビタミンB2、ビタミンB6、ビタミンB12、ビタミンC、ナイアシン、葉酸、ピオチン、パントテン酸)
核酸の種類・構造と特性	核酸の種類・構造と特性	脂溶性ビタミン(ビタミンA、ビタミンD、ビタミンE、ビタミンK)
		核酸塩基、ヌクレオチド、ヌクレオチド
核酸の種類・構造と特性	核酸の種類・構造と特性	DNA
		RNA
核酸の種類・構造と特性	核酸の種類・構造と特性	ヌクレオチド(プリン・ピリミジン)の生成と分解
		遺伝情報の流れとセントラルドグマ、逆転写

	DNA鎖とRNA鎖
染色体と遺伝子の構造	染色体、ゲノム、遺伝子 染色体の構造 プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロン RNAの種類と働き
転写と翻訳のメカニズム	RNAへの転写と調節 転写の確認(ノーザンブロット、RT-PCR) RNAのプロセッシング タンパク質への翻訳と調節 リボソームの構造と機能
遺伝子の複製・変異・修復	DNAの複製 遺伝子の変異(突然変異) DNAの修復
遺伝子多型と生体への影響	遺伝子多型 一塩基多型(SNP)、その種類と意義
タンパク質	ペプチド、ペプチド結合 単純タンパク質 複合タンパク質 一次、二次、三次、四次構造 タンパク質の翻訳後修飾 反応特性と基質特異性 反応様式に基づく分類 補酵素、微量金属 反応速度論、阻害様式 活性調節機構(アロステリック調節) 受容体、イオンチャネル トランスポーター(輸送体) 血漿リポタンパク質と脂質輸送 細胞骨格タンパク質 収縮系タンパク質
酵素と酵素反応	タンパク質の構造と機能 酵素以外の機能タンパク質
タンパク質の取扱い	定性および定量試験法 分離、精製、同定法(SDS-PAGE、ゲルろ過・イオン交換クロマトグラフィ、ウエスタンブロット法)
生体エネルギー代謝	栄養素の利用 代謝経路とATPの産生 消化・吸収、体内運搬 ATPとその他の高エネルギー化合物 解糖系 クエン酸回路

	電子伝達系(酸化リン酸化) 脂肪酸のβ酸化 アセチルCoAの役割 ミトコンドリアの役割 ATP産生の阻害物質とその機構 ペントースリン酸回路 アルコール発酵、乳酸発酵 グリコーゲンの合成と分解 糖新生とその前駆体 ケトン体の利用 血糖変動と膵臓ホルモン 脂肪酸合成とその前駆体 ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸 ペプチド性ホルモン アミノ酸誘導体ホルモン ステロイドホルモン ホルモン異常と疾患・病態 プロスタグランジン ロイコトリエン セロトニン、ヒスタミン アンギオテンジン、ブラジキニン アセチルコリン、カテコールアミン類、アミノ酸・ペプチド類、一酸化窒素 増殖因子、インターロイキン、インターフェロン、ケモカイン、エリスロポエチン 細胞膜受容体 二次メッセンジャー、カルシウムイオン(カルモジュリン) Gタンパク質、受容体チロシンキナーゼ タンパク質リン酸化・脱リン酸化(キナーゼカスケード) 核内受容体・転写因子、遺伝子発現 組換えDNA技術の概要 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律、安全性と倫理 遺伝子クローニング法の概要 ベクター cDNAとゲノミックDNA 遺伝子ライブラリー PCR法
生理活性分子と代謝変動	飢餓・飽食状態と代謝変動 ホルモンの産生、作用、分泌調節 エイコサノイドの生合成と作用 生理活性アミンの生合成と作用 生理活性ペプチドの作用 神経伝達物質の生合成・分解経路と作用 サイトカイン類の特徴と作用 細胞内情報伝達
生理活性分子とシグナル分子	
遺伝子操作・遺伝子工学	遺伝子操作の基本 遺伝子のクローニング技術

		RNAの逆転写と逆転写酵素 DNA塩基配列の決定法 特定のDNAおよびRNA検出法 特定遺伝子の発現と抑制法 トランスジェニック動物、ノックアウト動物の作成法 ES細胞および体細胞クローン 遺伝子工学の応用(病気の診断・治療、遺伝子組換え医薬品・食品、再生医療) ヒトゲノムの構造と多様性 バイオインフォマティクス 遺伝子多型の解析法(ゲノミックサザンブロット法など) ゲノム創薬、創薬ターゲットの探索、分子標的薬 代表的な疾患(がん、糖尿病など)関連遺伝子 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用 再生医療の原理、方法、倫理的問題点 組換え医薬品の特色、有用性、安全性 遺伝子治療の原理、方法、倫理的問題点 自然免疫と獲得免疫 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー 補体の活性化経路と機能 自己と非自己、特異性、クローン、多様性、記憶 クローン選択説 体液性免疫と細胞性免疫 免疫に關与する組織と臓器 免疫担当細胞の種類と役割 細胞間ネットワーク 抗体分子の種類、構造、役割 MHC抗原の構造と機能 T細胞、NKT、NK細胞 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構 サイトカイン、ケモカインの働き
	遺伝子機能の解析技術	
	ゲノム情報と創薬	
	疾患関連遺伝子	
	細胞を利用した治療	
	組換え医薬品	
	遺伝子治療	
	生体防御反応	
免疫・生体防御		免疫系が關係する疾患 炎症の一般的症状、担当細胞、反応機構 自己免疫疾患の特徴と成因 免疫不全症候群 臓器移植と拒絶反応 感染症と免疫応答
感染症と生体防御		

	腫瘍排除に関与する免疫反応	
	代表的な免疫賦活療法	
予防接種	予防接種の原理とワクチン	
	ワクチンの種類と特徴(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン)	
免疫反応の利用	モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法	
	抗原抗体反応を利用した検査	
	抗原検出の原理 (ELISA法、ウエスタンブロットなど)	
感染症	ウイルスと疾患	
		DNAウイルス (サイトメガロウイルス、EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス)
		RNAウイルス (ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス)
		レトロウイルス (HIV、HTLV)
細菌感染症		グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌)と疾患
		グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌)と疾患
		グラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、ウエルシュ菌、腸炎ビブリオ菌)と疾患
		グラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、ペスト菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、ブルセラ菌、レジオネラ菌、インフルエンザ菌)と疾患
		グラム陰性スピリillum属病原菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)と疾患
		抗酸菌(結核菌、非定型抗酸菌)と疾患
		スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアと疾患
	真菌、原虫、その他の微生物	深在性真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル)、表在性真菌(白癬)と疾患
		原虫、寄生虫による疾患
		プリオン感染症

【別表Ⅱ 衛生】

小項目の例示

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
健康	栄養と健康	栄養素	<p>栄養素(三大栄養素、ビタミン、ミネラル)、それぞれの役割</p> <p>各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセス</p> <p>食品中のタンパク質の栄養的な価値(栄養価)</p> <p>エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量</p> <p>食事摂取基準</p> <p>日本における栄養摂取の現状と問題点</p> <p>栄養素の過不足による主な疾病</p>
		食品の品質と管理	<p>食品が腐敗する機構</p> <p>油脂が変敗する機構と変質試験</p> <p>食品の褐変現象(主な反応と機構)</p> <p>食品の変質を防ぐ方法(保存法)</p> <p>食品成分由来の発がん物質、その生成機構</p> <p>代表的な食品添加物、その働き</p> <p>食品添加物の法的規制と問題点</p> <p>主な食品添加物の試験法</p> <p>代表的な保健機能食品、その特徴</p> <p>アレルギー原因食品の法的規制</p> <p>遺伝子組換え食品の現状と問題点</p>
		食中毒	<p>食中毒の種類、発生状況</p> <p>代表的な細菌性・ウイルス性食中毒、原因微生物の性質、症状、原因食品、予防法</p> <p>自然毒による食中毒、原因物質、作用機構、症状</p> <p>代表的なマイコトキシン、それによる健康障害</p> <p>化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染と健康障害</p>
	社会・集団と健康	保健統計	<p>集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義</p> <p>人口動態と人口動態</p> <p>国勢調査の目的と意義</p> <p>死亡に関する指標の定義と意義</p> <p>人口の将来予測に必要な指標、その意義</p>
		健康と疾病をめぐる日本の現状	<p>死因別死亡率の変遷</p> <p>日本の人口推移と将来予測</p> <p>高齢化と少子化の問題点</p>
		疫学	<p>疾病予防における疫学の役割</p>

		<p>疾病の成因(宿主要因と環境要因)</p> <p>疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法</p> <p>患者・対照研究の方法の概要とオッズ比の計算</p> <p>要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要と相対危険度、奇与危険度の計算</p> <p>医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性</p> <p>疫学データを解釈する上での注意点</p>
<p>疾病の予防</p>	<p>健康とは</p> <p>疾病の予防とは</p> <p>感染症の現状とその予防</p>	<p>健康と疾病の概念の変遷とその理由</p> <p>世界保健機関(WHO)の役割</p> <p>疾病の一次、二次、三次予防</p> <p>疾病の予防における予防接種の意義</p> <p>新生児マススクリーニングの意義、代表的な検査項目</p> <p>疾病の予防における薬剤師の役割</p> <p>現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴</p> <p>新興感染症および再興感染症</p> <p>一、二、三類感染症および代表的な四、五類感染症、分類の根拠</p> <p>母子感染する疾患、その予防対策</p> <p>性行為感染症、その予防対策と治療</p> <p>予防接種法の定める定期予防接種の種類、接種時期</p> <p>生活習慣病の種類とその動向</p> <p>生活習慣病のリスク要因</p> <p>食生活や喫煙などの生活習慣と疾病</p> <p>主な職業病、その原因と症状</p> <p>代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的プロセス</p> <p>第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化</p> <p>第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化</p> <p>発がん性物質などの代謝的活性化の機構</p> <p>変異原性試験(Ames試験など)の原理と実施法</p> <p>発がんのイニシエーションとプロモーション</p> <p>代表的ながん遺伝子、がん抑制遺伝子、その異常とがん化</p> <p>化学物質の毒性を評価する主な試験法</p> <p>肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質</p> <p>代表的な有害化学物質(重金属、農薬、ダイオキシン類など)の急性・慢性毒性の特徴</p> <p>重金属や活性酸素種による障害を防ぐための生体防御因子</p> <p>毒性評価に必要な指標(量-反応関係、閾値、NOELなど)</p> <p>化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)</p> <p>有害化学物質の人への影響を防ぐための法的規制</p>
<p>環境</p>	<p>化学物質の生体への影響</p> <p>化学物質による発がん</p> <p>化学物質の毒性</p>	

	内分泌かく乱化学物質
化学物質(乱用薬物を含む)による中毒と処置	代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の中毒症状、作用器官、解毒処置法
電離放射線の生体への影響	代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の分析法 人に影響を与える電離放射線、主な放射性核種(天然・人工) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係(体外被曝・体内被曝) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織、その感受性の差異 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など) 電離放射線を防御する方法 電離放射線の医療への応用
	非電離放射線の生体への影響
	紫外線の種類、その特徴と生体への影響 赤外線の種類、その特徴と生体への影響
生活環境と健康	地球環境の成り立ち 生態系の構成員、その特徴と相互関係 生態系の一員である人の健康と環境 地球規模の環境問題の成因、人への影響 食物連鎖、生物濃縮 化学物質の環境内動態と人への影響
	水環境
	原水の種類、特徴 水の浄化法 水の塩素処理の原理と問題点 水道水の水質基準の主な項目と測定法 下水処理・排水処理の主な方法 水質汚濁の水域ごとの主な指標、その意味 DO, BOD, CODの測定法 富栄養化の原因、問題点、対策
	大気環境
	空気の成分 主な大気汚染物質、その推移と発生源 主な大気汚染物質の濃度の測定と健康影響 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など) 室内環境を評価するための代表的な指標とその測定
	室内環境
	室内環境と健康との関係 室内環境保全における注意点 シックハウス症候群
	廃棄物
	廃棄物の種類 廃棄物処理の問題点、その対策

		医療廃棄物の安全な廃棄と処理
		マニフェスト制度
		PRTR法
	環境保全と法的規制	典型七公害とその現状
		環境基本法の理念
		大気汚染防止のための法的規制
		水質汚濁防止のための法的規制

【別表Ⅲ 薬理】

小項目の例示

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
薬物の働き方	薬の作用機序	用量と作用の関係	用量・反応曲線、ED50 (EG50)、LD50 (LC50)
		標的分子	受容体、酵素、チャネル、トランスポーター
		受容体	刺激薬(アゴニスト)と遮断薬(アンタゴニスト)
		相互作用	刺激・遮断による生理反応
		相互作用と毒性	代表的な細胞内情報伝達系とその活性化による生理反応
		相互作用と毒性	代表的な薬物相互作用の機序
		相互作用と毒性	副作用と有害事象
		相互作用と毒性	薬物依存性
		自律神経系に作用する薬	交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物、薬理作用、機序、主な副作用
		自律神経系に作用する薬	副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物、薬理作用、機序、主な副作用
		自律神経系に作用する薬	自律神経節に作用する代表的な薬物、薬理作用、機序、主な副作用
		自律神経系に作用する薬	知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)、薬理作用、機序、主な副作用
		自律神経系に作用する薬	運動神経系及び骨格筋に作用する代表的な薬物、薬理作用、機序、主な副作用
		自律神経系に作用する薬	代表的な全身麻酔薬、薬理作用、機序、主な副作用
		自律神経系に作用する薬	代表的な催眠薬、薬理作用、機序、主な副作用
自律神経系に作用する薬	代表的な鎮痛薬、薬理作用、機序、主な副作用		
自律神経系に作用する薬	代表的な中枢神経疾患治療薬		
自律神経系に作用する薬	精神疾患治療薬		
自律神経系に作用する薬	心不全治療薬		
自律神経系に作用する薬	抗不整脈薬		
自律神経系に作用する薬	虚血性心疾患治療薬		
自律神経系に作用する薬	高血圧治療薬		
自律神経系に作用する薬	その他の循環器疾患治療薬		
自律神経系に作用する薬	利尿薬		
自律神経系に作用する薬	呼吸興奮薬		
自律神経系に作用する薬	鎮咳・去痰薬		
自律神経系に作用する薬	気管支喘息治療薬		
自律神経系に作用する薬	胃・十二指腸潰瘍治療薬		
自律神経系に作用する薬	その他の消化性疾患治療薬		
自律神経系に作用する薬	制吐薬		
自律神経系に作用する薬	肝臓疾患治療薬		

	臓臓疾患治療薬	代表的な臓臓疾患治療薬、薬理作用、機序、主な副作用
ホルモンと薬	ホルモン分泌異常症の治療薬	ホルモン分泌異常症の代表的な治療薬、薬理作用、機序、主な副作用
	糖質コルチコイド代用薬	代表的な糖質コルチコイド代用薬、薬理作用、機序、臨床応用、主な副作用
	性ホルモン代用薬および拮抗薬	代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬、薬理作用、機序、臨床応用、主な副作用
代謝系に作用する薬	糖尿病治療薬	代表的な糖尿病治療薬、機序、主な副作用
	脂質異常症治療薬	代表的な脂質異常症治療薬、機序、主な副作用
	高尿酸血症・痛風治療薬	代表的な高尿酸血症・痛風治療薬、機序、主な副作用
	カルシウム代謝調節・骨代謝に 関連する治療薬	カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬、薬理作用、機序、主な副作用
血液・造血系に作用する薬	止血薬	代表的な止血薬、機序、主な副作用
	抗血栓薬	代表的な抗血栓薬、機序、主な副作用
	造血薬	代表的な造血薬、機序、主な副作用
炎症・アレルギーと薬	抗炎症薬	代表的な炎症治療薬、機序、主な副作用
	関節リウマチ治療薬	代表的な関節リウマチの治療薬、機序、主な副作用
	アレルギーの治療薬	代表的なアレルギーの治療薬、機序、主な副作用
感染症と薬	抗菌薬	抗菌薬の作用点に基づく分類
	代表的な抗菌薬、機序、主な副作用	代表的な抗菌薬、機序、主な副作用
	代表的な生物学的製剤、機序、主な副作用	代表的な生物学的製剤、機序、主な副作用
	抗原虫・寄生虫薬	代表的な抗原虫・寄生虫薬、機序、主な副作用
	抗真菌薬	代表的な抗真菌薬、機序、主な副作用
	抗ウイルス薬	代表的な抗ウイルス薬、機序、副作用
悪性腫瘍と薬	抗悪性腫瘍薬	代表的な抗悪性腫瘍薬、機序、主な副作用
化学構造	構造活性相関	代表的な薬物の基本構造

【別表Ⅳ 薬剤】

小項目の例示

小項目

中項目

大項目

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
薬物の体内動態	薬の作用と生体内運命	体内動態の基礎	体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現 代表的な投与方法(剤形、投与経路)、その意義 経口投与された製剤からの薬物の吸収(崩壊、分散、溶解など) 生体内分布における循環系の重要性
		体内動態の変動要因	主な吸収部位 消化管の構造、機能と薬物吸収 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴 能動輸送の特徴 非経口投与後の部位別の薬物吸収 吸収に影響する因子 生体内に取り込まれた後に組織間で濃度差が生じる要因 脳への移行の機構と血液-脳関門の意義 胎児への移行の機構と胎盤関門の意義 体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)、組織への移行 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物 代表的な薬物のタンパク結合能の測定 薬物分子の体内での化学的变化とそれが起こる部位 薬物代謝が薬効に及ぼす影響 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素 シトクロムP-450の構造、性質、反応様式 酸化反応 還元・加水分解、抱合 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど) 初回通過効果 肝および固有クリアランス 生体内の薬物の主要な排泄経路 腎における排泄機構 腎クリアランス 糸球体ろ過速度 胆汁中排泄 腸肝循環、代表的な腸肝循環の薬物
		排泄	

		唾液・乳汁中への排泄
		尿中排泄率の高い代表的な薬物
	相互作用	薬物動態に起因する相互作用、回避方法 薬効に起因する相互作用、回避方法
	薬動学	薬物動態に関わる代表的なパラメーター 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法 線形1-コンパートメントモデル、これに基づいた計算 線形2-コンパートメントモデル、これに基づいた計算 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデル 生物学的半減期、計算 全身クリアランス、計算 非線形性の薬物動態 モデルによらない薬物動態の解析法 薬物の肝および腎クリアランスの計算 点滴静注の血中濃度計算 連続投与における血中濃度計算 治療薬物モニタリング(TDM)の意義 TDMが必要とされる代表的な薬物 薬物血中濃度の代表的な測定法 至適血中濃度を維持するための投与計画、薬動学的パラメーター 代表的な薬物についてモデルデータからの投与計画
	TDM (Therapeutic Drug Monitoring)	溶液の濃度と性質 物質の溶解とその速度 溶解した物質の膜透過速度 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割 界面の性質 代表的な界面活性剤の種類と性質 乳剤の型と性質 代表的な分散系とその性質 分散粒子の沈降現象
	物質の溶解	流動と変形(レオロジー)の概念、代表的なモデル 高分子の構造と高分子溶液の性質 製剤分野で汎用される高分子の物性 粉体の性質
	分散系	製剤材料としての分子集合体 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法
製剤	製剤材料の性質	

		粉末×繰回折測定法の原理と利用法	
		製剤材料の物性の測定	
製剤化	代表的な製剤	代表的な剤形の種類と特徴	
		代表的な固形製剤の種類と性質	
		代表的な半固形製剤の種類と性質	
		代表的な液状製剤の種類と性質	
		代表的な無菌製剤の種類と性質	
	製剤化の方法	エアゾール剤とその類似製剤	
		代表的な製剤添加物の種類と性質	
		代表的な製剤の有効性と安全性評価法	
		製剤化の単位操作および汎用される製剤機械	
		単位操作を組み合わせた代表的製剤の調製	
	製剤試験法	汎用される容器、包装の種類や特徴	
		日本薬局方の製剤に関連する試験法	
		品質管理への適用	
		従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点	
		DDSの概念と有用性	
	DDS(薬物送達システム)	放出制御型製剤	放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点
			代表的な放出制御型製剤
		ターゲットティング	代表的な徐放性製剤における徐放化の手段
			放出制御型製剤に用いられる製剤材料の種類と性質
		プロドラッグ	経皮投与製剤の特徴と利点
腸溶製剤の特徴と利点			
その他のDDS		ターゲットティングの概要と意義	
		代表的なドラッグキャリアー、そのメカニズム	
		代表的なプロドラッグ、そのメカニズムと有用性	
			代表的な生体膜透過促進法
		代表的な組織換え医薬品	

【別表 V 病態・薬物治療】

小項目の例示

小項目

中項目

大項目

薬物治療	体の変化	中項目	小項目	症候	小項目の例示
			臨床検査	臨床検査	肝臓機能検査 腎臓機能検査 呼吸機能検査 心臓機能検査 血液および血液凝固検査 内分泌・代謝疾患に関する検査 感染時および炎症時の臨床検査 悪性腫瘍に関する臨床検査 尿・便検査 血液ガス分析 バイタルサイン(血圧、心拍数、呼吸、体温、意識など) 不整脈 心不全 高血圧・低血圧 虚血性心疾患 その他の疾患: 閉塞性動脈硬化症、心原性ショック、弁膜症、心筋症
			血液系の疾患	血液系の疾患	貧血 白血病 播種性血管内凝固症候群(DIC) その他の疾患: 血友病、悪性リンパ腫、骨髄腫、紫斑病、白血球減少症、血栓症・塞栓症、赤血球增多症
			消化器系疾患	消化器系疾患	消化性潰瘍 感染性腸炎 肝炎・肝硬変 膵炎 その他の疾患: 消化器系がん(食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、すい臓がん)、胃炎、薬剤性肝障害、急性胆嚢炎、胆管炎、胆石症、虫垂炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群、痔疾患

<p>疾患と薬物治療(泌尿器系疾患、生殖器系疾患、呼吸器系疾患、内分泌系疾患、代謝性疾患、神経・骨格筋疾患)</p>	<p>腎臓・尿路の疾患</p>	<p>腎不全 慢性腎臓病(CKD) ネフローゼ症候群 その他の疾患：糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石、ループス腎炎 前立腺肥大症 その他の疾患：前立腺がん、勃起不全、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮がん、子宮内膜症 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎) その他の疾患：上気道炎(かぜ症候群)、気管支炎・肺炎(肺炎球菌を含む)、インフルエンザ、拘束性肺疾患(肺線維症、間質性肺炎)、肺結核(非定型(非結核性)抗酸菌感染を含む)、肺がん 甲状腺機能異常症 クッシング症候群 尿崩症 その他の疾患：副甲状腺機能異常症、副腎機能異常症(アルドステロン症、アジソン病)、褐色細胞腫、乳がん 糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症・痛風 その他の疾患：低血糖 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓)、くも膜下出血) てんかん パーキンソン病 アルツハイマー病 その他の疾患：重症筋無力症、筋ジストロフィー症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、脳血管性認知症、悪性高熱症、片頭痛</p>
<p>疾患と薬物治療(精神疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患、眼疾患、骨・関節疾患、アレルギー・免疫性疾患、移植医療、緩和ケア)</p>	<p>精神疾患 耳鼻咽喉の疾患 皮膚疾患 眼疾患</p>	<p>統合失調症 うつ病性障害、双極性障害 その他の疾患：神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症、不眠症 アレルギー性鼻炎 中耳炎 その他の疾患：メニエール病、副鼻腔炎、咽頭炎・扁桃腺炎 アトピー性皮膚炎 皮膚真菌症 その他の疾患：蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症、褥瘡 緑内障 白内障 その他の疾患：結膜炎、網膜症</p>

		関節リウマチ その他の疾患：変形性関節症、骨軟化症 アナフィラキシーショック 自己免疫疾患(全身性エリテマトーデス、ベーチェット病、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群) 後天性免疫不全症 臓器移植・造血幹細胞移植 その他の疾患：移植片対宿主病(GVHD) がん性疼痛 長期療養に付随する合併症 ウイルス感染症(インフルエンザ、ヘルペスウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、ウイルス性脳炎、髄膜炎、ウイルス肝炎、HIVなど) 細菌感染症(結核、溶血性レンサ球菌、ブドウ球菌、レジオネラ菌など) 真菌感染症(カンジダ症、白癬菌症、アスペルギルス症など) その他の感染症(リケッチア感染症、クラミジア感染症、寄生虫感染症など) 悪性腫瘍の薬物治療 代表的疾患：白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫、食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、すい臓がん、前立腺がん、子宮がん、肺がん、乳がん、褐色細胞腫、脳腫瘍
骨・関節の疾患		
アレルギー・免疫疾患		
移植医療		
緩和ケアと長期療養		
感染症		
悪性腫瘍の病態と治療		
病原微生物、悪性新生物		
薬物治療に役立つ情報	医薬品情報	医薬品情報 開発過程で得られる情報 市販後情報 法律と制度 一次資料、二次資料、三次資料 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料 医薬品添付文書 医薬品インタビューフォーム 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目 データベース 帰無仮説の概念 パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分け 主な多重比較検定法(分散分析、Dunnnett検定、Tukey検定など) 主な多変量解析の概要 EBM ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究 メタアナリシスの概念、結果の評価 エントポイント
	情報	
	情報源	
	収集・評価・加工・提供・管理 データベース 生物統計の基礎	
	EBM(Evidence-Based Medicine)	

患者情報	情報と情報源	オッズ比、必要治療数、相対危険度 薬物治療に必要な患者基本情報 患者情報源 問題志向型システム (POS) SOAP
テララメーイド薬物治療	薬効の個人差 遺伝的素因 年齢的素因 生理的素因 合併症 投与計画 治療	薬効の個人差の要因 遺伝的素因 新生児、乳児 幼児、小児 高齢者 妊娠時 授乳婦 栄養状態 腎臓疾患 肝臓疾患 心臓疾患 患者固有の投与計画 ポピュレーションファーマコネティクス 日内変動 疾患関連遺伝子と遺伝子治療 細胞を利用した治療

【別表VI 法規・制度・倫理】

大項目 中項目 小項目 小項目の例示

薬学と社会	薬剤師を取り巻く法律と制度	医療の担い手としての使命	倫理的責任 民事責任、刑事責任、行政責任 インフォームド・コンセントの定義、必要性 個人情報保護
		法令の構成 薬事法	薬剤師に関連する法令の構成 薬局 医薬品等の製造販売業及び製造業 登録証機関 医薬品の販売及び医療機器の販売業等 医薬品等の基準及び検定 医薬品等(毒薬および劇薬、医薬品、医療機器、化粧品、医薬部外品)の取扱い 医薬品等の広告 生物由来製剤の特例 監督 指定薬物の取扱い 希少疾病用医薬品及び希少疾病用医療機器の指定等 雑則 罰則
		薬剤師法	薬剤師の任務 薬剤師免許 薬剤師国家試験 業務 罰則
		医療法	医療法の目的 医療に関する選択の支援等 医療の安全の確保 病院、診療所及び助産所 医療提供体制の確保 罰則 医師・歯科医師の任務、保健師助産師看護師法の目的 業務 採血、献血、血液製剤

	管理薬に関する規制	<p>麻薬</p> <p>向精神薬</p> <p>覚せい剤</p> <p>覚せい剤原料</p> <p>大麻</p> <p>あへん</p> <p>毒物</p> <p>劇物</p>
	毒物および劇物に関する規制	
薬害と副作用被害	健康被害救済制度	<p>医薬品副作用救済制度</p> <p>生物由来製品感染等被害救済業務</p> <p>薬害(サリドマイド、スモン、血液製剤、ソリブジンなど)の原因と社会的背景</p> <p>薬害を防止するための手段</p>
	製造物責任	<p>薬剤師が関わる製造物責任の概要</p>
社会保障制度と薬剤経済	社会保障制度	<p>日本における社会保障制度のしくみ</p> <p>社会保障制度の中での医療保険制度の役割</p> <p>介護保険制度のしくみ</p> <p>高齢者医療制度のしくみ</p> <p>医療保険の成り立ちと現状</p> <p>医療保険のしくみ</p> <p>医療保険の種類</p> <p>国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点</p> <p>保険薬剤師療養担当規則、保険医療養担当規則</p> <p>調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)</p> <p>保険医療と薬価制度の関係</p> <p>新規医薬品の価格を決定する要因</p> <p>国民医療費の動向</p> <p>医療費の内訳</p> <p>後発医薬品(ジェネリック医薬品)の役割</p> <p>医薬品生産金額</p> <p>医療従事者数</p> <p>医療施設数、薬局数</p> <p>薬物治療の経済評価の意義、評価手法</p>
	医療保険制度	
	薬剤経済・医療統計	
地域薬局	地域薬局・薬剤師	<p>地域薬局の役割</p> <p>在宅医療および在宅介護における薬局と薬剤師の役割</p> <p>学校薬剤師の役割</p> <p>セルフメディケーションにおける薬剤師の役割</p>

		<p>一般用医薬品の役割と供給</p> <p>薬局業務運営ガイドライン</p> <p>医薬分業のしくみと意義</p> <p>医薬分業の現状</p> <p>かかりつけ薬局の意義</p> <p>医薬品の流通のしくみ</p> <p>医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子</p> <p>希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性</p> <p>医薬品の承認までのプロセス</p> <p>非臨床試験の目的と実施概要</p> <p>臨床試験の目的と実施概要</p> <p>後発医薬品(ジェネリック医薬品)</p> <p>再審査制度</p> <p>再評価制度</p> <p>副作用・感染症報告制度</p> <p>市販直後調査</p> <p>医薬品の品質管理の意義と薬剤師の役割</p> <p>医薬品製造における環境安全に配慮すべき点</p> <p>GLP(Good Laboratory Practice)</p> <p>GCP(Good Clinical Practice)</p> <p>GMP(Good Manufacturing Practice)</p> <p>GVP(Good Vigilance Practice)</p> <p>GQP(Good Quality Practice)</p> <p>GPSP(Good Post-Marketing Study Practice)</p>
	医薬分業	
	医薬品流通	
	医薬品開発のコンセプト	
	医薬品の承認	
	承認後の制度	
	医薬品の製造と品質管理	
	規範	
	治験	
	治験の意義と業務	
	治験における薬剤師の役割	
	生命の尊厳	
	生と死(生命倫理)	
ヒューマニズム		
	医療の目的	
	先進医療と生命倫理	
	社会の期待	
	医療の担い手としてのこのころ構え	

	医療の担い手としての社会のニーズに対応する方法
	医療の担い手にふさわしい態度
医療行為	ヘルシキ宣言
	医療の担い手が守るべき倫理規範
	インフォームド・コンセントの定義と必要性
	患者の基本的権利と自己決定権の尊重
	医療事故回避の重要性
研究活動	研究の必要性、独創性
	臨床研究に関する倫理指針、疫学研究に関する倫理指針、動物愛護と代替試験法
医薬品の創製と供給	医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響
	医薬品の使用に関わる事故回避の重要性
自己学習・生涯学習	課題抽出能力・解決能力
	医療の担い手としての生涯学習
対人業務	言語的・非言語的コミュニケーションの方法
	意思、情報の伝達に必要な要素
	相手の立場、文化、習慣などによるコミュニケーションのあり方の違い
	対人関係に影響を及ぼす心理的要因
相手への配慮	病気が患者に及ぼす心理的影響、患者心理の理解
チームワーク	チームワークの重要性

【別表Ⅶ 実務】

小項目の例示

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
薬剤師業務	薬剤師業務の基礎	薬剤師	薬剤師の使命、倫理
		チーム医療	薬剤師の役割 ファーマシューティカルケア 医療チームの構成、構成員、連携と責任体制 診療科横断的に行われるチーム医療(ICT、NST、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームなど)における薬剤師の役割 診療科ごとに行われるチーム医療(内科、外科、小児科、泌尿器科、耳鼻科など)における薬剤師の役割 地域におけるチーム医療 チーム医療での薬剤師の責任範囲、医療従事者との連携の重要性 医薬分業の仕組み
	処方せん	処方せんの基礎	処方せんの法的位置づけと機能 処方オオダリングシステム、電子カルテ 処方せんの種類、特徴と記載事項 調剤業務の法的根拠 処方せん鑑査時の留意点
		医薬品の用法・用量	医薬品の用法・用量および投与計画 剤形の特徴と臨床上の意義 新生児、小児、高齢者、妊婦等の用法・用量 新生児、小児、高齢者、妊婦に適した用量の計算(youngの式、von Harnackの表など) 腎、肝疾患時の用量設定
	疑義照会	疑義照会の意義と根拠	疑義照会の意義(法的根拠を含めて) 代表的な配合変化 不適切な処方せん事例とその理由 代表的な医薬品の効能・効果、用法・用量 代表的な医薬品の警告、禁忌、副作用 代表的な医薬品の相互作用
		疑義照会の方法	疑義照会の流れ 疑義照会の手順と注意事項
	調剤	調剤の基礎	処方せん受付、医薬品交付、服薬指導 処方せんおよび薬歴に基づく処方内容の適正性 薬袋、薬札に記載すべき事項
		計数・計量調剤	錠剤、カプセル剤の計数調剤 調剤過誤を防止するための工夫

	<p>代表的な医薬品の商品名と一般名</p> <p>同一有効成分の医薬品</p> <p>毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤</p> <p>一回量(一包七)調剤</p> <p>散剤、液剤などの計量調剤</p> <p>細胞毒性のある医薬品の調剤</p> <p>錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封等</p> <p>鑑査の手順と留意点</p>
	<p>注射剤調剤の流れ</p> <p>注射剤処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法、用量など)</p> <p>代表的な注射剤処方せんの適正性</p> <p>注射剤(高カロリー栄養輸液など)の適応、栄養成分、微量元素、電解質、カロリー計算、使用上の注意等</p> <p>細胞毒性のある注射剤の調剤時の留意点</p> <p>外来化学療法における抗悪性腫瘍薬のプロトコールの意義とその適正使用</p> <p>注射剤の鑑査の手順と留意点</p>
医薬品の管理と供給	<p>医薬品の管理</p> <p>医薬品管理の意義と必要性</p> <p>医薬品の適正在庫の意義</p> <p>代表的な剤形の安定性、保存性</p> <p>毒薬・劇薬の管理と取扱い</p> <p>麻薬、向精神薬の管理と取扱い</p> <p>覚せい剤原料の管理と取扱い</p> <p>血漿分画製剤の管理と取扱い</p> <p>輸血用血液製剤の管理と取扱い</p> <p>生物製剤の種類と適応</p> <p>生物製剤の管理と取扱い</p> <p>麻薬の取扱い時の手順と注意事項</p> <p>放射性医薬品の種類と用途</p> <p>放射性医薬品の管理と取扱い</p> <p>院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理、滅菌が必要な製剤</p> <p>薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理、滅菌が必要な製剤</p> <p>代表的な院内製剤</p> <p>代表的な薬局製剤</p> <p>無菌操作の原理と無菌操作の手順と注意事項</p> <p>抗悪性腫瘍薬などの取扱い時のケミカルハザード回避に必要な手技と注意事項</p> <p>注射剤の配合変化の原因、回避方法</p>
	<p>製剤化の基礎</p>
	<p>注射剤と輸液</p>

	高カロリー輸液と経管栄養剤の種類と適応 電解質輸液の種類と適応 体内電解質の過不足時の補正の計算、注射剤の投与経路と特徴 代表的な消毒薬の用途、使用濃度 消毒薬調製時の注意点
消毒薬	
安全管理	薬剤師業務の中での事故事例とその原因 誤りを生じやすい投薬例 院内感染の代表事例と回避方法 医薬品の重篤な副作用の初期症状と検査所見、対処方法 誤りを生じやすい調剤例と医薬品のリスク別分類 リスクの回避方法
リスクマネージメント	特にリスクの高い代表的な医薬品 インシデント、アクシデント、プレアポイド報告 薬物の過量投与時の対処 職務上の過失、過誤の予防 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務 服薬指導の意義(法的、倫理的、科学的根拠) 服薬指導内容 服薬指導上の注意点 代表的な疾患と注意すべき生活指導項目 医薬品への不安、抵抗感 患者接遇における注意点 効果が現れていない、副作用が疑われる場合の対処法 患者向け説明文書、作成上の留意点
服薬指導と患者情報	患者情報の重要性 服薬指導に必要な患者情報 患者情報の収集方法 薬歴、服薬指導歴などへの記載事項と留意点 POSに基づく薬剤管理指導記録 薬歴管理の意義と重要性 薬歴簿の保管、管理の方法、期間 医師、看護師などの情報共有の方策と重要性 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携 漢方薬の特徴 西洋薬との相違
現代医療の中の生薬・漢方薬	漢方薬の基礎 漢方処方への解析
	漢方処方に配合されている代表的な生薬、その有効成分

病院業務	病院における調剤	疾患別の漢方治療	代表的な漢方処方の特徴、煎液との比較	
		漢方処方の応用	漢方エキス製剤の特徴、煎液との比較 医療用と一般用漢方処方(漢方処方の製剤化)	
病院業務	病院における調剤	病院調剤業務の流れ	病院における診療の流れ 病院内での患者情報の流れ 病院内に所属する医療スタッフの職種名とその業務内容 医療の担い手が守るべき倫理規範 職務上知り得た情報と守秘義務 薬剤部門を構成する各セクションの業務内容と相互の関連	
		医薬品の管理・供給・保存	医薬品管理の流れ 医薬品の納品から使用までに係わる職種と薬剤師業務 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件 納入医薬品の検収時の注意点 同一商品名の医薬品における異なった規格の具体例 院内における医薬品の供給方法 医薬品の請求方法の種類	
		医薬品の採用・使用中	医薬品の採用の考え方と手続き 医薬品の採用中止の考え方と手続き 医薬品の基本的情報の情報源、収集手段 院内での緊急情報(緊急安全性情報、不良品回収、製造中止など)の取扱い方法 患者のニーズに合った情報の収集、加工 医療スタッフのニーズに合った情報の収集、加工	
		情報の取扱い	患者、医療スタッフへの情報提供 医薬品・医療機器等安全性情報報告の記載時の注意点 患者のニーズに合った情報の提供方法 医療スタッフのニーズに合った情報の提供方法 後発医薬品(ジェネリック医薬品)の適正使用のために必要な医薬品情報 病棟業務における薬剤師の業務(薬剤管理指導、バイタルサインの確認、クリニカルパスの作成、与薬、リスクマネージメント、供給管理など) 正確な記録と報告 病棟における薬剤の管理と取扱い	
		病棟業務	病棟業務の概説 正確な記録と報告 病棟における薬剤の管理と取扱い 医療スタッフが日常使っている代表的な専門用語 病棟における医療スタッフとの連携 情報源の種類と特徴(診療録、看護記録、重要な検査所見など) 診断名、病態と薬物治療方針	
		病棟業務	医療チームへの参加	病棟における医療スタッフとの連携 情報源の種類と特徴(診療録、看護記録、重要な検査所見など) 診断名、病態と薬物治療方針
		病棟業務	薬剤管理指導業務	病棟業務の概説 正確な記録と報告 病棟における薬剤の管理と取扱い 医療スタッフが日常使っている代表的な専門用語 病棟における医療スタッフとの連携 情報源の種類と特徴(診療録、看護記録、重要な検査所見など) 診断名、病態と薬物治療方針
		病棟業務	病棟業務	病棟業務の概説 正確な記録と報告 病棟における薬剤の管理と取扱い 医療スタッフが日常使っている代表的な専門用語 病棟における医療スタッフとの連携 情報源の種類と特徴(診療録、看護記録、重要な検査所見など) 診断名、病態と薬物治療方針
		病棟業務	病棟業務	病棟業務の概説 正確な記録と報告 病棟における薬剤の管理と取扱い 医療スタッフが日常使っている代表的な専門用語 病棟における医療スタッフとの連携 情報源の種類と特徴(診療録、看護記録、重要な検査所見など) 診断名、病態と薬物治療方針
		病棟業務	病棟業務	病棟業務の概説 正確な記録と報告 病棟における薬剤の管理と取扱い 医療スタッフが日常使っている代表的な専門用語 病棟における医療スタッフとの連携 情報源の種類と特徴(診療録、看護記録、重要な検査所見など) 診断名、病態と薬物治療方針

		使用医薬品の薬効、使用上の注意、副作用 臨床検査値に影響を与える医薬品 開放型質問の方法 患者とのコミュニケーション時の留意点 薬物治療上の問題点 副作用が疑われる場合の適切な対処法、支持療法 薬物血中濃度のデータと患者情報に基づく薬物療法における問題点とその対策 薬物中毒患者の中毒原因物質の検出方法と解毒方法、解毒薬の名称と原理 薬局で取扱う医薬品等が医療の中で果たす役割 薬局で取扱う医薬品等の流通機構 納入医薬品の検収時の留意点 薬局における医薬品等の管理、配列方法の概要 保険調剤業務、調剤報酬請求 保険薬局の認定条件と薬局の構造設備 初来局患者への対応と初回質問表の利用 初来局・再来局患者からの情報収集 調剤録の法的規制 調剤録への記入事項 調剤録の保管、管理 調剤後の処方せんへの記入事項 処方せんの保管、管理 調剤報酬の算定、調剤報酬明細書(レセプト)の作成の流れと留意点 薬剤師の技術評価の対象 かかりつけ薬局・薬剤師の役割 患者、顧客に対する適切な態度 疾病の予防・健康管理に関するアドバイス 受診勧奨 地域住民のセルフマネジメントにおける薬剤師の役割 一般用医薬品(OTC薬)、使用目的、一般用医薬品のリスク区分 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、健康食品 保健機能食品 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策 在宅患者訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務 他職種連携、地域(医薬)連携チーム医療、地域連携クリニカルパス作成への参加 在宅医療における医療廃棄物の取扱い
薬局業務	薬局で取扱う医薬品等と管理 TDM(Therapeutic Drug Monitoring) 中毒医療への貢献 薬局で取扱う医薬品等 管理と保存 保険調剤業務の流れ 調剤録と処方せん 調剤報酬 患者・顧客との接遇 一般用医薬品・医療機器・健康食品 薬局対面業務 患者・顧客との接遇 一般用医薬品・医療機器・健康食品 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、健康食品 保健機能食品 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策 在宅患者訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務 他職種連携、地域(医薬)連携チーム医療、地域連携クリニカルパス作成への参加 在宅医療における医療廃棄物の取扱い	
	薬局における業務	

	地域医療	<p>休日、夜間診療と薬剤師の役割</p> <p>緊急災害時における、薬局・薬剤師の役割</p> <p>学校薬剤師の職務とその役割</p> <p>医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割</p> <p>麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動、ドーピング防止における薬剤師の役割</p> <p>日用品に係る薬剤師の役割</p> <p>日用品に含まれる化学物質</p> <p>誤飲、誤食による中毒・食中毒に対するアドバイス</p> <p>生活環境における消毒の概念</p> <p>話題性のある薬物・健康問題</p>
--	------	---

シラバス 一履修の手引

2016(平成28年度)

発行日 平成 28 年 4 月 1 日
発 行 神戸薬科大学 教務部 教務課
〒658-8558 神戸市東灘区本山北町 4-19-1
TEL.(078)441-7509

